

# MITSUBISHI

## 三菱電機 設備用インバータエアコン 2003年度版 スプリット型新冷媒シリーズ PFHVシリーズ PFHV-F (オールフレッシュタイプ) シリーズ

## 設計・工事マニュアル

## R407C対応


**三菱電機株式会社** 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66 冷熱システム製作所 (073)436-9807  
 お問い合わせは下記へどうぞ

冷熱システム事業部		
首都圏冷熱営業部	〒108-0074 東京都港区高輪3-26-23 (秀和品川ビル)	(03)5798-2161
北関東グループ	〒331-0043 さいたま市大成町4-298 (三菱電機大宮ビル)	(048)662-3882
東関東グループ	〒260-0021 千葉市中央区新宿2-5-3 (千葉大同生命ビル3F)	(043)204-6401
神奈川グループ	〒231-0032 横浜市中区不老町3-12-5 (下山関内ビル)	(045)222-7721
新潟グループ	〒950-2023 新潟市小新字大通3699-1 (菱電社ビル)	(025)241-7224
関西冷熱営業部	〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18 (新朝日ビル)	(06)6221-5702
【販売会社】		
(株)三菱電機ライフファシリテーズ北海道	〒004-8610 札幌市厚別区大谷地東2-1-11	(011)893-1342
(株)三菱電機ライフファシリテーズ東北	〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町2-2-33	(022)231-2785
(株)三菱電機ライフファシリテーズ関東	〒331-8522 さいたま市大成町4-298 (三菱電機大宮ビル)	(048)651-3215
(株)三菱電機ライフファシリテーズ東京	〒110-0015 東京都台東区東上野4-10-3 (浅野ビル6F)	(03)3847-4119
(株)三菱電機ライフファシリテーズ中部	〒461-0005 名古屋市東区東桜1-4-3 (大信ビル)	(052)972-7257
北陸冷熱住設営業部	〒920-0811 金沢市小坂町西81	(076)252-9935
(株)三菱電機ライフファシリテーズ関西	〒564-0063 大阪府吹田市江坂町2-7-8	(06)6338-8176
(株)三菱電機ライフファシリテーズ中四国	〒733-8666 広島市西区商工センター6-2-17	(082)278-7001
四国支店	〒761-1705 香川県香川郡香川町川東下717-1 (新空港通り)	(087)879-1066
(株)三菱電機ライフファシリテーズ九州	〒816-0088 福岡市博多区板付4-6-35	(092)571-7014
	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-17-5 (EIMビル)	(092)431-1545

### 室内ユニット (標準タイプ)

PFAV-P224M-A  
 PFAV-P280M-A  
 PFAV-P450M-A  
 PFAV-P560M-A  
 PFAV-P670M-A  
 PFAV-P800M-A  
 PFAV-P1120M-A-L(R)  
 PFAV-P1400M-A-L(R)  
 PFAV-P1600M-A-L(R)

### 室内ユニット (オールフレッシュタイプ)

PFAV-P265M-A-F  
 PFAV-P335M-A-F  
 PFAV-P530M-A-F  
 PFAV-P670M-A-F  
 PFAV-P1000M-A-F  
 PFAV-P1250M-A-F-L(R)  
 PFAV-P1600M-A-F-L(R)

### 室外ユニット

PUHV-P224M-A  
 PUHV-P280M-A  
 PUHV-P335M-A  
 PUHV-P450M-A  
 PUHV-P560M-A



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



#### 設計サポートStation

三菱電機 冷熱・換気・照明設備機器の情報サービスホームページ

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/sss/>

#### 三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーダイヤル)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)  
0037-80-2229(フリーダイヤル)/073-428-2229(通常FAX)

# 安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

<b>⚠警告</b>	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
<b>⚠注意</b>	誤った取扱いをしたときに、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
  - お使いになる方は、いつでも見られる所に大切に保管し、移設・修理の時は、工事をされる方にお渡しください。
- また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しください。

## ⚠警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼してください。

- ご自分で据付け工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

据付工事は、据付説明書に従って確実に行ってください。

- 据付けに不備があると、水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

据付けは、質量に十分耐える所に確実に行ってください。

- 強度が不足している場合は、ユニット落下により、けがの原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

- 電源回路容量不足や施工不備があるとユニットが正常運転できなくなったり、最悪の場合、感電、発煙、発火の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。

- 接続や固定が不完全な場合は、発熱、発煙、発火等の原因になります。

ユニットの端子カバー(パネル)を確実に取付けてください。

- 端子台カバー(パネル)取付けに不備があると、ほこり・水などにより、感電、発煙、発火の原因になります。

台風等の強風、地震に備え、所定の据付工事を行ってください。

- 据付工事に不備があると、転倒等による事故の原因になります。

据付けや移設の場合は、機器に表示されている冷媒(R407C)以外の異なった冷媒を入れないでください。

- 異なった冷媒や空気等が混入すると、冷凍サイクルが異常となり、破裂等の原因になります。

改修は絶対にしないでください。また、修理は、お買上げの販売店にご相談ください。

- 修理に不備があると水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

小部屋へ据付けの場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。

- 限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付けてください。万一冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

熱交換器のフィン表面を素手で触れないように注意してください。

- 取扱いに不備があると、切傷の原因になります。

製品を移動再設置する場合は、販売店または専門業者にご相談ください。

- 据付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気してください。

- 冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。

- 冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

オールフレッシュタイプはサーモOFF等により外気が直接室内に吹き出すことがありますので、施工には十分ご注意ください。

- 外気が人体や食品に直接あたると、外気温度によっては健康障害や食品劣化等の原因になります。

## ⚠警告

保護装置の改造や設定変更をしないでください。

- 圧力開閉器や温度開閉器等の保護装置を短絡して強制的運転を行ったり、当社指定品以外のものを使用すると発煙、発火、爆発等の原因になります。

別売品は、必ず、当社指定の製品を使用してください。

- また、取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

# 冷媒R407C使用機器としての注意点

## ⚠注意

既設の冷媒配管を流用しないでください。

- 既設の配管内部には、従来の冷凍機油や冷媒中の塩素が大量に含まれ、これらの物質が新しい機器の冷凍機油劣化等の原因になります。

逆流防止器付真空ポンプを使用してください。

- 冷媒回路内に真空ポンプ油が逆流し、機器の冷凍器油劣化等の原因になります。

冷媒配管はJIS H3300「銅及び銅合金継目無管」のC1220のリン脱酸銅を使用してください。また、管の内外面は美麗であり、使用上有害なイオウ、酸化物、ゴミ、切粉、油脂、水分等（コンタミネーション）の付着がないことを確認してください。

- 冷媒配管の内部にコンタミネーションの付着があると、冷凍機油劣化等の原因になります。

従来の冷媒に使用している下記に示す工具類は使用しないでください。  
(ゲージマニホールド・チャージホース・ガス洩れ検知器・逆流防止器・冷媒チャージ用口金・真空度計・冷媒回収装置)

- 従来の冷媒・冷凍機油が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。
- 水分が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。
- 冷媒中に塩素を含まないため、従来の冷媒用ガス洩れ検知器では反応しません。

据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とも口ウ付けする直前までシールしておいてください。  
(エルボ等の継手はビニル袋等に包んだ状態で保管)

- 冷媒回路内にほこり、ゴミ、水分が混入しますと、油の劣化・圧縮機故障の原因になります。

チャージングシリンダを使用しないでください。

- チャージングシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

フレア・フランジ接続部に塗布する冷凍機油は、エステル油又はエーテル油又はアルキルベンゼン（少量）を使用してください。

- 鉱油が多量に混入すると、冷凍機油劣化の原因となります。

工具類の管理は従来以上に注意してください。

- 冷媒回路内にほこり、ゴミ、水分等が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。

液冷媒にて封入してください。

- ガス冷媒で封入するとボンベ内冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

R407C以外の冷媒は使用しないでください。

- R407C以外（R22等）を使用すると、塩素により冷凍機油劣化等の原因になります。

# 据付けをする前に

## ⚠警告

可燃性ガスの漏れるおそれがある場所への設置は行わないでください。

- 万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、発火の原因になります。

食品・動植物・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。

- 食品の品質低下等の原因になります。

特殊環境には、使用しないでください。

- 油・蒸気の多いところや、酸性、アルカリ性の溶液、特殊なスプレー等を頻繁に使用するところで使用しますと、性能を著しく低下させたり、感電、故障、発煙、発火等の原因になります。

病院などに据付される場合は、ノイズに対する備えを十分に行って施工してください。

- 高周波医療機器などの影響によりエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げるなどの弊害の原因になります。

濡れて困るものの上にユニットを据付しないでください。

- 湿度が80%を越える場合やドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落ちる場合もあります。また、室外ユニットからもドレンが垂れますので必要に応じ室外ユニットも集中排水工事をしてください。

# 据付け(移設)・電気工事をする前に

## ⚠注意

アースを行ってください。

- アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電、発煙、発火、及びノイズによる誤動作の原因になります。

正しい容量のブレーカ(漏電遮断器・手元開閉器 開閉器 + B種ヒューズ・配線用遮断器)を使用してください。

- 大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や発煙、発火の原因になります。

電源配線は、張力がかからないように配線工事をしてください。

- 断線したり、発熱、発煙、発火の原因になります。

エアコンを水洗いしないでください。

- 感電、発煙、発火の原因になります。

電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。

- 漏電遮断器が取付けられていないと感電、発煙、発火の原因になります。

長期使用で据付台等が傷んでないか注意してください。

- 傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、けが等の原因になります。

電源配線は、据付説明書記載のものをご使用ください。

- 漏電や感電、発煙、発火の原因になります。

ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないように保温してください。

- 配管工事に不備があると、水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

# 据付け(移設)・電気工事をする前に

## ⚠注意

製品の運搬には、十分注意してください。

- 20kg以上の製品の運搬は、1人でしないでください。
- 製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。
- 熱交換器のフィン表面で切傷する場合がありますので、素手で触れないように注意してください。
- 熱源ユニット等吊りボルトによる搬入を行う場合は、確実に4点支持で実施してください。3点支持等で運搬・吊下げしますと不安定となり、落下の原因になります。

梱包材の処理は確実に行ってください。

- 梱包材には「クギ」等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますと「さし傷」などの原因になります。
- 包装用のポリフクロで子供が遊ばないように、破いてから廃棄してください。窒息事故等の原因になります。

# 試運転をする前に

## ⚠注意

運転を開始する12時間以上前に電源を入れてください。

- 故障の原因になります。シーズン中は電源を切らないでください。

運転停止後、すぐに電源を切らないでください。

- 必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。

濡れた手でスイッチを操作しないでください。

- 感電、故障の原因になります。

エアフィルタを外したまま運転しないでください。

- 内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

運転中及び運転停止直後の冷媒配管に素手で触れないでください。

- 運転中、停止直後の冷媒配管や圧縮機などの冷媒回路部品は流れる冷媒の状態により、低温と高温になります。素手で触れると凍傷や火傷になる恐れがあります。

パネルやガードを外したまま運転しないでください。

- 機器の回転物、高温部、高電圧に触れると巻き込まれたり、火傷や感電によりケガの原因になります。



# 目次

## 安全のために必ず守ること

### ・ 機器概要

- 1. 機器構成表 .....1
  - (1)室外ユニット
  - (2)室内ユニット
  - (3)リモコン
- 2. 運転可能温度範囲 .....2
- 3. 機器選定時の注意事項 .....2
  - (1)共通の注意事項
  - (2)オールフレッシュタイプの注意事項

### ・ 製品仕様

- 1. 仕様表 .....5
- 2. 外形寸法図 .....13
  - (1)室外ユニット
  - (2)リモコン
  - (3)室内ユニット
- 3. 電気配線図 .....34
  - (1)室外ユニット
  - (2)室内ユニット

### ・ 製品データ

- 1. 冷房・暖房能力特性 .....44
  - (1)能力・入力補正
  - (2)霜取補正係数
  - (3)冷房配管長補正線図
  - (4)暖房配管補正線図
  - (5)冷房風量補正線図
  - (6)暖房風量補正線図
  - (7)容量変化時入力線図
  - (8)バイパスファクタ線図
- 2. 騒音データ .....54
  - (1)室外ユニット
  - (2)室内ユニット
- 3. 重心位置 .....61
  - (1)室内ユニット
  - (2)室外ユニット
- 4. 耐震強度計算 .....64
- 5. 室外ユニットの振動レベル .....87
- 6. 送風機性能線図 .....88

### ・ 据付工事

- 1. 据付場所の選定 .....126
  - (1)室外ユニット
  - (2)室内ユニット
- 2. 据付スペース .....127
  - (1)室外ユニット
  - (2)室内ユニット
- 3. 室外ユニットの据付 .....131
  - (1)製品の吊下げ方法
  - (2)据付け
  - (3)アンカーボルト位置
  - (4)下配管・下配線時の注意
  - (5)冷媒配管取出し方向
- 4. 雪・季節風に対する注意 .....135
  - (1)寒冷地域・積雪地域での防風・防雪対策
  - (2)季節風対策
  - (3)雪に対する注意
- 5. 室内ユニットの据付 .....136
  - (1)ユニットの取付け
  - (2)ブーリーおよびベルトについてのお願い

### ・ 配管設計

- 1. 冷媒配管の選定 .....140
- 2. 冷媒配管工事 .....140
  - (1)冷媒追加充填量の算出方法
  - (2)配管接続・バルブ操作のご注意
  - (3)冷媒配管・ドレン配管仕様
  - (4)冷媒配管・ドレン配管の接続
  - (5)気密試験・真空引き・冷媒充填
  - (6)冷媒配管の断熱

## 配線設計

1. 注意事項 .....154
2. 電気工事 .....155
  - (1) 室外ユニット
  - (2) 室内ユニット
3. 主電源の配線太さ及び開閉器容量 ...163
  - (1) 配線系統図(例)
  - (2) 主電源の配線太さ及び開閉器容量
4. 制御配線 .....164
  - (1) 制御配線の種類と許容長
  - (2) スイッチ設定の種類と方法
  - (3) 手元リモコンの機能比較
  - (4) 室温検知センサで検知される場合
5. システム接続例 .....169
  - (1) MAリモコンを用いたシステム
  - (2) MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム
  - (3) 当社フリープランと組み合わせたシステム例
6. システム制御 .....213
  - 6.1 室内ユニットのシステム制御.....213
    - (1) 各種発停制御
    - (2) 入出力信号用コネクタを使用した各種制御
  - 6.2 室外ユニットのシステム制御.....223
7. システムコントローラを使用した制御 224
  - (1) システムコントローラの選定
  - (2) 各システムコントローラの特長
  - (3) システムコントローラの電源
  - (4) システムコントローラの外部入出力仕様
  - (5) システムコントローラ使用時の注意点
  - (6) 据付スペース
  - (7) 製品仕様

## 取付部品データ

1. 取付可能部品表 .....245
2. 取付部品仕様概要 .....248
3. 取付部品電気配線図 .....255
4. 取付部品データ .....258

## 試運転

1. 試運転前の確認事項 .....269
2. 試運転方法 .....269
3. 試運転不具合時の対応 .....270
4. リモコンの動作不具合と処置 .....271
5. 次の現象は故障(異常)ではありません .....273



# 機器概要

## 1. 機器構成表

### (1) 室外ユニット

容量		8HP	10HP	13HP	16HP	20HP
形名	PUHV-P M-A	P224	P280	P335	P450	P560

### (2) 室内ユニット

#### PFAV

容量		8HP	10HP	16HP	20HP
形名	PFAV-P M-A	P224	P280	P450	P560
冷媒系統数		1	1	1	1
接続 室外 ユニット	No1	P224	P280	P450	P560
	No2	-	-	-	-
	No3	-	-	-	-

容量		26HP	30HP	40HP	50HP	60HP
形名	PFAV-P M-A	P670	P800	P1120	P1400	P1600
冷媒系統数		2	2	2	3	3
接続 室外 ユニット	No1	P335	P560	P560	P224	P560
	No2	P335	P224	P560	P560	P560
	No3	-	-	-	P560	P560

#### PFAV-F

容量		8HP	10HP	16HP	20HP
形名	PFAV-P M-A-F	P265	P335	P530	P670
冷媒系統数		1	1	1	1
接続 室外 ユニット	No1	P224	P280	P450	P560
	No2	-	-	-	-
	No3	-	-	-	-

容量		30HP	40HP	50HP
形名	PFAV-P M-A-F	P1000	P1250	P1600
冷媒系統数		2	2	3
接続 室外 ユニット	No1	P560	P560	P224
	No2	P224	P560	P560
	No3	-	-	P560

### (3) リモコン

ワイヤードリモコン	室内ユニット内蔵
MEリモコン	
システムコントローラ	
ワイヤレスリモコン	別売

## 2. 運転可能温度範囲

### PFHV

	冷房時	暖房時
室内吸込空気温度	湿球温度10～24	乾球温度15～28
室外吸込空気温度	乾球温度 - 5～43	P224・P280形：湿球温度 - 15～15.5 P335・P450・P560形：湿球温度 - 12～15.5

### PFHV-F

	冷房時	暖房時（注1.）
室内吸込空気温度	湿球温度15～35	乾球温度0～20
室外吸込空気温度	乾球温度20～43	P224・P280形：湿球温度 - 4～15.5 P450・P560形：湿球温度 - 4～15.5

注1.室内ユニット吸込空気を0 以上となるように一次処理する場合は、室外吸込空気温度P224・P280形：湿球温度-15～15.5、  
P450・P560形：湿球温度-12～15.5 での運転が可能です。

## 3. 機器選定時の注意事項

### （1）共通の注意事項

#### ・ノイズの影響について

注意事項	対応方法
空調機はマイコンを使用しておりますので、わずかながら電源、伝送線、本体から放射ノイズを出しております。電氣的に微細な信号を増幅するような機器（ワイヤレスマイク、医療機器等）の近傍に据付けた場合、これらの機器がノイズの影響を受け、誤動作を起こす場合があります。また、強いノイズを発生させる機器（放電加工機等）の近傍に空調機を据付けられた場合、これらの発生するノイズにより空調機が誤動作する場合も考えられます。これらが予め懸念される場合は、右記の対応を実施してください。	ノイズの影響を受けやすい機器（ワイヤレスマイクの受信器やアンテナ等）は、できる限りユニットの伝送線、電源線ならびに本体から離して設置してください。 強いノイズを発生させる機器の電源線とは空調機電源と分離し、伝送線、電源線、ユニット本体はできる限り分離して設置してください。

#### ・室外ユニット騒音

注意事項	対応方法
室外ユニットの製品仕様表に記載の騒音値は、無響音室にて測定した倍の値です。従って、現地での据付け環境、及び反響によって騒音値は大きく影響されますので注意が必要です。	通常の住宅地など静粛性が要求されるような居住地域への隣接設置は避けてください。 設置環境において、騒音の影響が懸念される場合には、ご相談ください。

#### ・デフロスト運転時の暖房能力への影響

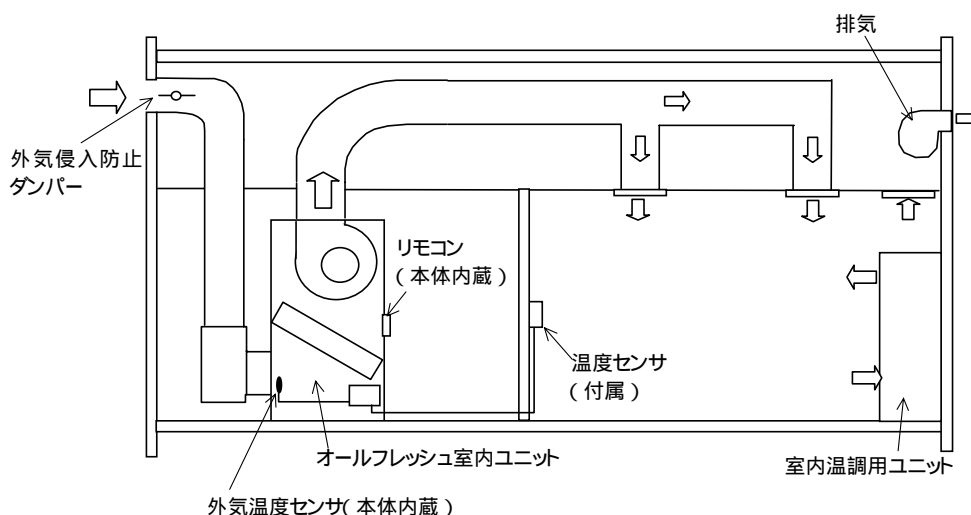
注意事項	対応方法
暖房運転中には外気が低下（湿球温度約6 以下）すると、室外ユニットの熱交換器に霜がついて性能が低下し、また霜を除去するためのデフロスト運転に入ることがあります。（異常ではありません）	後述の「 .製品データ」の「1.冷房・暖房能力特性」項の能力補正に従って、負荷見積りを実施してください。 暖房能力には以下の補正が必要です。 ・空気条件変化による補正×配管長補正×デフロスト補正
デフロスト復帰後には、デフロストによるガス配管の冷却などの要因により、そのデフロスト時間が長くなる（熱交換器の霜が多い、もしくは外風が室外ユニットに吹きつけている）ほど、暖房能力の立ち上がりが悪くなる場合があります。（性能復帰まで最長10～20分）	外風対策、防雪対策を実施してください。（ -4章を参照してください）

・冷房時の凍結防止運転について

注意事項	対応方法
冷房運転時、室内ユニット熱交換器が凍結することを防止するため、一定時間運転後に配管温度に応じて強制サーモOFFさせる運転（凍結防止運転）を行うことがあります。サーモOFF中は負荷に応じて室温が上昇することがあります。	左記目安となる外気温で冷房運転される場合、サーモOFFによる室温変化が許容されない用途へのご使用は避けてください。

(2) オールフレッシュタイプ選定時の注意事項

オールフレッシュタイプPFHV-Fは外気負荷を処理した空気を室内に供給する空調機です。したがって室内で発生する熱負荷については直接処理できませんので、他の空調機（例えばPFHVやシティマルチ）で処理してください。




注意事項

- (a) 室内ユニット吸込空気乾球温度(外気温度センサ検知温度)が冷房時21 以下、暖房時20 以上で、強制サーモOFF（送風状態）になります。
- (b) 吸込み空気温度の使用範囲は乾球温度0 以上です。それ以下の低外気時にファン運転されると、室内ユニット周囲空気条件によってはパネル表面等に着露する可能性がありますので、その着露水にて周囲の機械等が不具合に至らないようご注意ください。
- (c) 室内ユニット吸込空気乾球温度(外気温度センサ検知温度)が5 以下の場合には、加湿器凍結防止・冷風感防止のため、強制的に暖房運転することがあります。また、全冷媒系統が異常時・除霜時はファンが停止しますが、加湿器を搭載しない場合や、暖房時に冷風吹き出しの影響を受けない場合はスイッチ設定によりファン運転可能です。詳細は次項「送風機制御について」をご覧ください。
- (d) 本機には室温検知用の温度センサを付属していますので、部屋の平均的な温度を検知できる場所に取り付けてください。また、サーモOFFすると外気が直接室内に吹き出しますので、特に低外気時の冷風吹き出しにご注意ください。外気が人体や食品に直接あたると、外気温度によっては健康障害や食品劣化等の原因になります。
- (e) 本機は室温の制御はできません。室温の制御についてはオールフレッシュタイプ以外の空調機で対応してください。特に室内の除湿は行えませんので、吹出グリル等の結露に十分注意願います。また、吸込・吹出ダクトは結露防止のための断熱処理を必ず行ってください。

送風機制御について

室内ユニット吸込空気乾球温度が5 以下の場合には、加湿器凍結防止・冷風感防止のため、強制的に暖房運転することがあります。また全冷媒系統が異常時・除霜時にはファンが停止します。関連のスイッチ設定と運転動作については以下を参照ください。

仕 様	SW	動 作		備 考
		OFF	ON	
強制暖房運転、異常時ファンOFF	SW1-7	・強制暖房運転無効 ・異常時ファンON(ファン異常・通信異常時はファン停止します)	・強制暖房運転有効 ・異常時ファンOFF	強制暖房運転は、加湿器の凍結防止、冷風感防止のため室内ユニット吸込温度が5 以下では運転モードによらず暖房運転となります。また、6 以上で選択した運転モードに戻ります。異常時は外気温度によらずファン停止します。
除霜時ファン動作	SW3-4	・全冷媒系統除霜時ファンOFF	・除霜時ファンON	工場出荷時は加湿器の凍結防止、冷風感防止のためOFFとしています。

 部分は出荷時設定

加湿器組込みの場合は、低外気時に加湿器が凍結する恐れがありますので、必ずSW1-7をON、SW3-4をOFFでご使用ください。

除霜時にファンONにすると室内に冷風が吹き出し、また、除霜復帰が遅れ室温が著しく低下する恐れがありますのでSW3-4をOFFでご使用ください。

# 製品仕様

## 1.仕様表

### (1) 組合せ仕様表

#### PFHV

項目		セット形名	PFHV-P224M-A	PFHV-P280M-A	
室内ユニット形名			PFAV-P224M-A	PFAV-P280M-A	
室外ユニット形名			PUHV-P224M-A	PUHV-P280M-A	
標準仕様 注1	冷房	定格冷房能力	kW	20.0	25.0
		定格消費電力	kW	6.65/6.66	8.33/8.32
		運転電流	A	23.20/22.35	27.92/27.28
		運転力率	%	83/86	86/88
		エネルギー消費効率		3.01/3.00	3.00/3.00
	暖房	定格暖房能力	kW	22.4	28.0
		定格消費電力	kW	7.36/7.37	9.21/9.20
		運転電流	A	25.50/24.65	30.82/30.18
		運転力率	%	83/86	86/88
		エネルギー消費効率		3.04/3.04	3.04/3.04
	低温	暖房能力	kW	20.0	25.0
		消費電力	kW	8.33/8.34	10.57/10.56

項目		セット形名	PFHV-P450M-A	PFHV-P560M-A	
室内ユニット形名			PFAV-P450M-A	PFAV-P560M-A	
室外ユニット形名			PUHV-P450M-A	PUHV-P560M-A	
標準仕様 注1	冷房	定格冷房能力	kW	40.0	50.0
		定格消費電力	kW	15.68/16.01	20.14/21.21
		運転電流	A	51.42/51.42	65.52/68.58
		運転力率	%	88/90	89/89
		エネルギー消費効率		2.55/2.49	2.48/2.35
	暖房	定格暖房能力	kW	45.0	56.0
		定格消費電力	kW	16.34/16.59	18.13/18.40
		運転電流	A	53.51/53.26	59.76/60.37
		運転力率	%	88/90	88/88
		エネルギー消費効率		2.75/2.71	3.08/3.04
	低温	暖房能力	kW	40.0	50.0
		消費電力	kW	16.82/17.15	20.86/21.21

項目		セット形名	PFHV-P670M-A	PFHV-P800M-A	
室内ユニット形名			PFAV-P670M-A	PFAV-P800M-A	
室外ユニット形名			PUHV-P335M-A × 2台	PUHV-P560M-A PUHV-P224M-A	
標準仕様 注1	冷房	定格冷房能力	kW	60.0	71.0
		定格消費電力	kW	22.43/23.54	29.01/30.21
		運転電流	A	75.52/76.65	96.47/98.47
		運転力率	%	85/88	86/88
		エネルギー消費効率		2.67/2.54	2.44/2.35
	暖房	定格暖房能力	kW	63.0	80.0
		定格消費電力	kW	21.65/22.12	26.83/28.03
		運転電流	A	73.02/72.10	90.43/92.43
		運転力率	%	85/88	85/87
		エネルギー消費効率		2.90/2.84	2.98/2.85
	低温	暖房能力	kW	60.0	71.0
		消費電力	kW	21.92/21.56	31.20/32.44

注1. 運転特性はJIS B 8615-2の標準条件で運転したときの数値です。

項目		セット形名		PFHV-P1120M-A-L(R)	PFHV-P1400M-A-L(R)
		室内ユニット形名		PFAV-P1120M-A-L(R)	PFAV-P1400M-A-L(R)
		室外ユニット形名		PUHV-P560M-A × 2台	PUHV-P560M-A × 2台 PUHV-P224M-A
標準仕様 注1	冷房	定格冷房能力	kW	100	125
		定格消費電力	kW	42.30/45.64	51.42/56.16
		運転電流	A	136.64/144.96	170.14/179.76
		運転力率	%	89/90	87/90
		エネルギー消費効率		2.36/2.19	2.43/2.22
	暖房	定格暖房能力	kW	112	140
		定格消費電力	kW	38.27/40.02	47.35/50.49
		運転電流	A	125.12/128.44	158.42/163.14
		運転力率	%	88/89	86/89
		エネルギー消費効率		2.92/2.79	2.95/2.77
低温	暖房能力	kW	100	125	
	消費電力	kW	43.74/45.64	53.95/57.25	

項目		セット形名		PFHV-P1600M-A-L(R)
		室内ユニット形名		PFAV-P1600M-A-L(R)
		室外ユニット形名		PUHV-P560M-A × 3台
標準仕様 注1	冷房	定格冷房能力	kW	140
		定格消費電力	kW	63.50/68.26
		運転電流	A	205.76/216.04
		運転力率	%	89/91
		エネルギー消費効率		2.20/2.05
	暖房	定格暖房能力	kW	160
		定格消費電力	kW	57.47/59.83
		運転電流	A	188.48/191.41
		運転力率	%	88/90
		エネルギー消費効率		2.78/2.67
低温	暖房能力	kW	140	
	消費電力	kW	65.66/68.26	

注1. 運転特性はJIS B 8615-2の標準条件で運転したときの数値です。

## PFHV-F

項目		セット形名		PFHV-P265M-A-F	PFHV-P335M-A-F
		室内ユニット形名		PFHV-P265M-A-F	PFHV-P335M-A-F
		室外ユニット形名		PUHV-P224M-A	PUHV-P280M-A
オールフレッシュ仕様 注1	冷房	定格冷房能力	kW	22.4(26.5)	28.0(33.5)
		定格消費電力	kW	5.74/5.74	7.26/7.25
		運転電流	A	20.62/19.82	25.25/24.45
		運転力率	%	80/83	83/85
		エネルギー消費効率		3.01/3.00	3.00/3.00
	暖房	定格暖房能力	kW	20.0(22.4)	26.5(28.0)
		定格消費電力	kW	5.75/5.75	8.17/8.16
		運転電流	A	20.65/19.85	28.14/27.34
		運転力率	%	80/83	83/86
		エネルギー消費効率		3.04/3.04	3.04/3.04

注1. 運転特性は次の条件で運転したときの数値です。

冷房能力(室内側:乾球温度33.0・湿球温度28.0、室外側:乾球温度33.0)、暖房能力(室内側:乾球温度7.0、室外側:乾球温度7.0・湿球温度3.0)  
冷媒配管長7.5mで運転した場合の値を示します。

項目		セット形名		PFHV-P530M-A-F	PFHV-P670M-A-F
		室内ユニット形名		PFHV-P530M-A-F	PFAV-P670M-A-F
		室外ユニット形名		PUHV-P450M-A	PUHV-P560M-A
オールフレッシュ仕様 注1	冷房	定格冷房能力	kW	45.0(53.0)	56.0(67.0)
		定格消費電力	kW	13.78/13.96	18.54/19.62
		運転電流	A	46.44/45.64	61.99/63.49
		運転力率	%	85/88	86/89
		エネルギー消費効率		2.55/2.49	2.48/2.35
	暖房	定格暖房能力	kW	40.0(45.0)	50.0(56.0)
		定格消費電力	kW	13.08/13.19	17.06/17.36
		運転電流	A	44.22/43.20	57.91/56.95
		運転力率	%	85/88	85/87
		エネルギー消費効率		2.75/2.71	3.08/3.04

項目		セット形名		PFHV-P1000M-A-F	PFHV-P1250M-A-F-L(R)
		室内ユニット形名		PFHV-P1000M-A-F	PFAV-P1250M-A-F-L(R)
		室外ユニット形名		PUHV-P560M-A PUHV-P224M-A	PUHV-P560M-A × 2台
オールフレッシュ仕様 注1	冷房	定格冷房能力	kW	80(100)	112(125)
		定格消費電力	kW	24.47/25.42	37.00/39.30
		運転電流	A	80.62/82.11	121.87/125.78
		運転力率	%	87/89	87/90
		エネルギー消費効率		2.44/2.35	2.36/2.19
	暖房	定格暖房能力	kW	71(80)	90(100)
		定格消費電力	kW	20.23/20.41	26.32/27.10
		運転電流	A	66.78/66.86	89.23/88.35
		運転力率	%	87/88	85/88
		エネルギー消費効率		2.98/2.85	2.92/2.79

項目		セット形名		PFHV-P1600M-A-F-L(R)
		室内ユニット形名		PFAV-P1600M-A-F-L(R)
		室外ユニット形名		PUHV-P560M-A × 2台 PUHV-P224M-A
オールフレッシュ仕様 注1	冷房	定格冷房能力	kW	140(160)
		定格消費電力	kW	45.27/47.07
		運転電流	A	147.04/151.23
		運転力率	%	88/89
		エネルギー消費効率		2.43/2.22
	暖房	定格暖房能力	kW	112(125)
		定格消費電力	kW	32.10/32.38
		運転電流	A	106.48/105.90
		運転力率	%	87/88
		エネルギー消費効率		2.95/2.77

注1. 運転特性は次の条件で運転したときの数値です。  
冷房能力（室内側：乾球温度33.0 ・ 湿球温度28.0 、 室外側：乾球温度33.0 ） 暖房能力（室内側：乾球温度7.0 、 室外側：乾球温度7.0 ・ 湿球温度3.0 ）  
冷媒配管長7.5mで運転した場合の値を示します。

## (2) 室内ユニット仕様表

### PFHV

室内 ユ ニ ツ ト	送 風 機	形名	-	PFAV-P224M-A	PFAV-P280M-A
		定格電源	-	三相200V 50/60Hz	三相200V 50/60Hz
		外形寸法 (H×W×D)	mm	1748×980×485	1748×1200×485
		外装	-	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1
		熱交換器形式	-	クロスフィン	クロスフィン
		形式×個数	-	シロッコファン×1	シロッコファン×2
		風量	m <sup>3</sup> /min	70	90
		機外静圧	Pa	30 注2	30 注2
		電動機出力	kW	1.5	1.5
		始動電流	A	51/44	51/44
		防音・断熱材	-	グラスウール	グラスウール
		エアフィルタ	-	不織布	不織布
		ドレン配管サイズ	-	1B	1B
運転音 (A特性値)	dB	53/53	55/55		
製品質量	kg	124	148		

注2. 50Hz地区の場合、モータブリー径 (可変ブリー) を 140 (出荷時は 116.7) に調整した値を示します。

室内 ユ ニ ツ ト	送 風 機	形名	-	PFAV-P450M-A	PFAV-P560M-A
		定格電源	-	三相200V 50/60Hz	三相200V 50/60Hz
		外形寸法 (H×W×D)	mm	1850×1200×635	1850×1420×635
		外装	-	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1
		熱交換器形式	-	クロスフィン	クロスフィン
		形式×個数	-	シロッコファン×2	シロッコファン×2
		風量	m <sup>3</sup> /min	140	180
		機外静圧	Pa	30/130	30/130
		電動機出力	kW	2.2	3.7
		始動電流	A	59.6/52.2	112/96
		防音・断熱材	-	グラスウール	グラスウール
		エアフィルタ	-	不織布	不織布
		ドレン配管サイズ	-	1 1/4B	1 1/4B
運転音 (A特性値)	dB	53/55	57/60		
製品質量	kg	235	257		

室内 ユ ニ ツ ト	送 風 機	形名	-	PFAV-P670M-A	PFAV-P800M-A
		定格電源	-	三相200V 50/60Hz	三相200V 50/60Hz
		外形寸法 (H×W×D)	mm	1830×1750×1064	1830×1750×1064
		外装	-	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1
		熱交換器形式	-	クロスフィン	クロスフィン
		形式×個数	-	シロッコファン×1	シロッコファン×1
		風量	m <sup>3</sup> /min	210	260
		機外静圧	Pa	100/250	100/310
		電動機出力	kW	3.7	5.5
		始動電流	A	112/96	130/110
		防音・断熱材	-	グラスウール	グラスウール
		エアフィルタ	-	PPハニカム織	PPハニカム織
		ドレン配管サイズ	-	1 1/4Bメス	1 1/4Bメス
運転音 (A特性値)	dB	63/63	65/65		
製品質量	kg	410	425		



室内ユニット	形名	-	PFAV-P1120M-A-L (R)	PFAV-P1400M-A-L (R)	
	定格電源	-	三相200V 50/60Hz	三相200V 50/60Hz	
	外形寸法 (H×W×D)	mm	1852×1825×1333	1852×1825×1333	
	外装	-	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	
	熱交換器形式	-	クロスフィン	クロスフィン	
	送風機	形式×個数	-	シロッコファン×2	シロッコファン×2
		風量	m <sup>3</sup> /min	360	450
		機外静圧	Pa	62/294	82/294
		電動機出力	kW	7.5	11.0
	始動電流	A	199/172	270/230	
	防音・断熱材	-	グラスウール	グラスウール	
	エアフィルタ	-	PPハニカム織	PPハニカム織	
	ドレン配管サイズ	-	PT1-1/4オネジ	PT1-1/4オネジ	
運転音 (A特性値)	dB	68/68	69/69		
製品質量	kg	600	650		

室内ユニット	形名	-	PFAV-P1600M-A-L (R)	
	定格電源	-	三相200V 50/60Hz	
	外形寸法 (H×W×D)	mm	1852×2045×1332.5	
	外装	-	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	
	熱交換器形式	-	クロスフィン	
	送風機	形式×個数	-	シロッコファン×2
		風量	m <sup>3</sup> /min	520
		機外静圧	Pa	35/294
		電動機出力	kW	11
	始動電流	A	270/230	
	防音・断熱材	-	グラスウール	
	エアフィルタ	-	PPハニカム織	
	ドレン配管サイズ	-	PT1-1/4オネジ	
運転音 (A特性値)	dB	69/69		
製品質量	kg	700		

## PFHV-F

室内ユニット	形名	-	PFAV-P265M-A-F	PFAV-P335M-A-F	
	定格電源	-	三相200V 50/60Hz	三相200V 50/60Hz	
	外形寸法 (H×W×D)	mm	1748×980×485	1748×1200×485	
	外装	-	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	
	熱交換器形式	-	クロスフィン	クロスフィン	
	送風機	形式×個数	-	シロッコファン×1	シロッコファン×2
		風量	m <sup>3</sup> /min	35	45
		機外静圧	Pa	90 注3	80 注3
		電動機出力	kW	1.5	1.5
	始動電流	A	51/44	51/44	
	防音・断熱材	-	グラスウール	グラスウール	
	エアフィルタ	-	不織布	不織布	
	ドレン配管サイズ	-	1B	1B	
運転音 (A特性値)	dB	47/47	48.5/48.5		
製品質量	kg	127	151		

注3. 50Hz地区の場合、モータブリー径 (可変ブリー) を 140 (出荷時は 116.7) に調整した値を示します。

室内ユニット	形名	-	PFAV-P530M-A-F	PFAV-P670M-A-F
	定格電源	-	三相200V 50/60Hz	三相200V 50/60Hz
	外形寸法 (H×W×D)	mm	1899×1200×635	1899×1420×635
	外装	-	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1
	熱交換器形式	-	クロスフィン	クロスフィン
	形式×個数	-	シロッコファン×2	シロッコファン×2
	風量	m <sup>3</sup> /min	70	90
	機外静圧	Pa	110/180	110/190
	電動機出力	kW	2.2	3.7
	始動電流	A	112/96	130/110
	防音・断熱材	-	グラスウール	グラスウール
	エアフィルタ	-	不織布	不織布
	ドレン配管サイズ	-	1 1/4Bメス	1 1/4Bメス
運転音 (A特性値)	dB	48/50	50/53	
製品質量	kg	239	262	

室内ユニット	形名	-	PFAV-P1000M-A-F
	定格電源	-	三相200V 50/60Hz
	外形寸法 (H×W×D)	mm	1830×1750×1064
	外装	-	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1
	熱交換器形式	-	クロスフィン
	形式×個数	-	シロッコファン×1
	風量	m <sup>3</sup> /min	120
	機外静圧	Pa	210/330
	電動機出力	kW	2.2
	始動電流	A	199/172
	防音・断熱材	-	グラスウール
エアフィルタ	-	PPハニカム織	
ドレン配管サイズ	-	1 1/4Bメス	
運転音 (A特性値)	dB	57	
製品質量	kg	405	

室内ユニット	形名	-	PFAV-P1250M-A-F-L(R)	PFAV-P1600M-A-F-L(R)
	定格電源	-	三相200V 50/60Hz	三相200V 50/60Hz
	外形寸法 (H×W×D)	mm	1852×1825×1333	1852×1825×1333
	外装	-	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1
	熱交換器形式	-	クロスフィン	クロスフィン
	形式×個数	-	シロッコファン×2	シロッコファン×2
	風量	m <sup>3</sup> /min	150	200
	機外静圧	Pa	230/360	180/300
	電動機出力	kW	5.5	5.5
	始動電流	A	130/110	130/110
	防音・断熱材	-	グラスウール	グラスウール
	エアフィルタ	-	PPハニカム織	PPハニカム織
	ドレン配管サイズ	-	PT1-1/4オネジ	PT1-1/4オネジ
運転音 (A特性値)	dB	69/58	61/61	
製品質量	kg	590	625	

### (3) 室外ユニット仕様表

室外ユニット	形名	-	PUHV-P224M-A	PUHV-P280M-A	
	定格電源	-	三相200V 50/60Hz	三相200V 50/60Hz	
	外形寸法 (H×W×D)	mm	1715×990×840	1715×1290×840	
	外装		鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	
	熱交換器形式	-	クロスフィン	クロスフィン	
	圧縮機	形式×個数	-	全密閉形	全密閉形
		始動方式/称呼出力	kW	インバータ/5.5	インバータ+直入/5.7+3.2
		1日の冷凍能力	法定トン	2.45	3.15/3.21
		クランクケースヒータ	kW	0.045	0.045×2
	送風機	形式×個数	-	プロペラファン	プロペラファン
		風量	m <sup>3</sup> /min	185	200
		電動機出力	kW	0.38	0.38
	始動電流	A	23/23	146/127	
	霜取方式	-	リバースサイクル	リバースサイクル	
	保護装置	圧力開閉器	-	高圧側2.94MPa	高圧側2.94MPa
		圧縮機	-	過電流保護・過昇保護	過電流保護・過昇保護
		送風機	-	温度開閉器(内蔵)	温度開閉器(内蔵)
	運転音(A特性値)	dB	56	57	
	製品質量	kg	242	333	
	冷媒配管寸法	ガス配管	mm	25.4	28.6
液配管		mm	12.7	12.7	
冷媒	種類/出荷時封入量	kg	R407C×8.5	R407C×11.5	
	制御方式	-	電子膨張弁	電子膨張弁	
冷凍機油(種類×封入量)	ℓ	エステル油×3.0	エステル油×4.0		
冷媒配管長/高低差	m	実長120/40(冷房の場合、高低差は外気温度により異なります) 注4			

室外ユニット	形名	-	PUHV-P335M-A	PUHV-P450M-A	
	定格電源	-	三相200V 50/60Hz	三相200V 50/60Hz	
	外形寸法 (H×W×D)	mm	1715×1290×840	1715×1990×840	
	外装		鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	
	熱交換器形式	-	クロスフィン	クロスフィン	
	圧縮機	形式×個数	-	全密閉形	全密閉形
		始動方式/称呼出力	kW	インバータ/9.25	インバータ+直入/7.5+4.5
		1日の冷凍能力	法定トン	3.91	3.13+1.79/3.13+2.10
		クランクケースヒータ	kW	0.045	0.045
	送風機	形式×個数	-	プロペラファン	プロペラファン×2
		風量	m <sup>3</sup> /min	200	370
		電動機出力	kW	0.38	0.38×2
	始動電流	A	23/23	193/179	
	霜取方式	-	リバースサイクル	リバースサイクル	
	保護装置	圧力開閉器	-	高圧側2.94MPa	高圧側2.94MPa
		圧縮機	-	過電流保護・過昇保護	過電流保護・過昇保護
		送風機	-	温度開閉器(内蔵)	温度開閉器(内蔵)
	運転音(A特性値)	dB	60	60/61	
	製品質量	kg	283	433	
	冷媒配管寸法	ガス配管	mm	31.75	31.75
液配管		mm	15.88	15.88	
冷媒	種類/出荷時封入量	kg	R407C×11.5	R407C×16.0	
	制御方式	-	電子膨張弁	電子膨張弁	
冷凍機油(種類×封入量)	ℓ	エステル油×3.0	エステル油×4.0		
冷媒配管長/高低差	m	実長120/40(冷房の場合、高低差は外気温度により異なります) 注4			

注4. 室外ユニットが上: 40m、室外ユニットが下: 40m(0以上)~15m(0~-5)

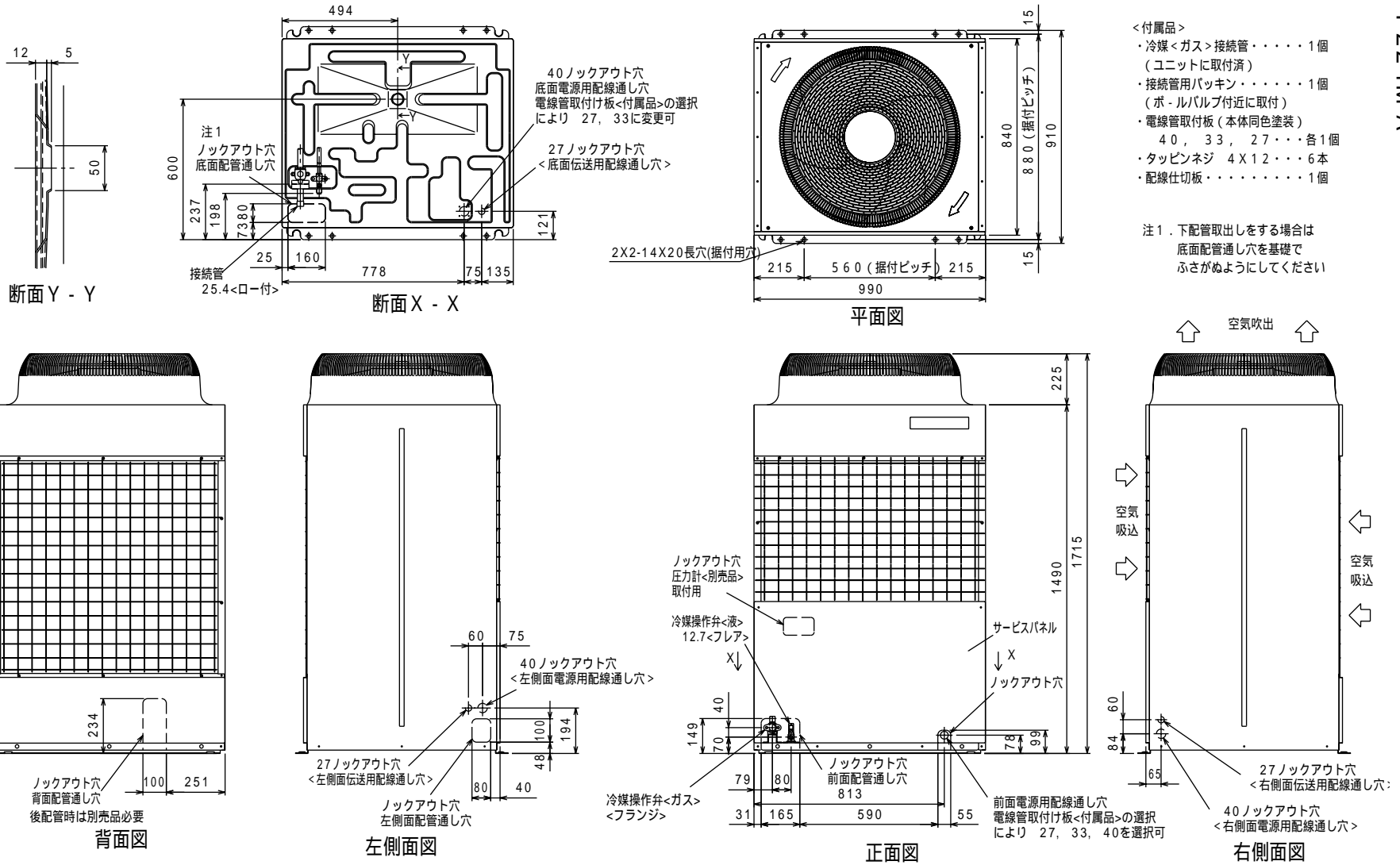
室 外 ユ ニ ツ ト	形名	-	PUHV-P560M-A	
	定格電源	-	三相200V 50/60Hz	
	外形寸法 (H×W×D)	mm	1715×1990×840	
	外装		鋼板粉体塗装 マンセル 5Y8/1	
	熱交換器形式	-	クロスフィン	
	圧縮機	形式×個数	-	全密閉形
		始動方式/称出力	kW	インバータ+直入/7.5+7.5
		1日の冷凍能力	法定トン	3.13+2.94/3.13+3.44
		クランクケースヒータ	kW	0.045+0.056
	送風機	形式×個数	-	プロペラファン×2
		風量	m <sup>3</sup> /min	370
		電動機出力	kW	0.38×2
		始動電流	A	226/198
	霜取方式	-	リバースサイクル	
	保護装置	圧力開閉器	-	高圧側2.94MPa
		圧縮機	-	過電流保護・過昇保護
		送風機	-	温度開閉器(内蔵)
運転音(A特性値)	dB	60/61		
製品質量	kg	473		
冷媒配管寸法	ガス配管	mm	38.1	
	液配管	mm	15.88	
冷媒	種類/出荷時封入量	kg	R407C×22.0	
	制御方式	-	電子膨張弁	
冷凍機油(種類×封入量)	ℓ		エステル油×3.0	
冷媒配管長/高低差	m		実長120/40(冷房の場合、高低差は外気温度により異なります) 注5	

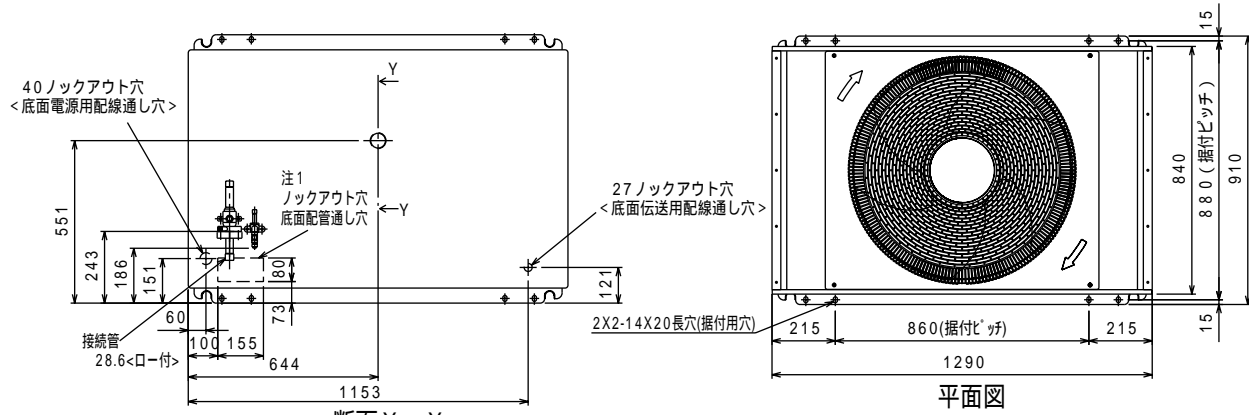
注5. 室外ユニットが上: 40m、室外ユニットが下: 40m(0以上) - 15m(0 ~ -5)

## 2.外形寸法図

### (1) 室外ユニット

PUHV-P224M-A

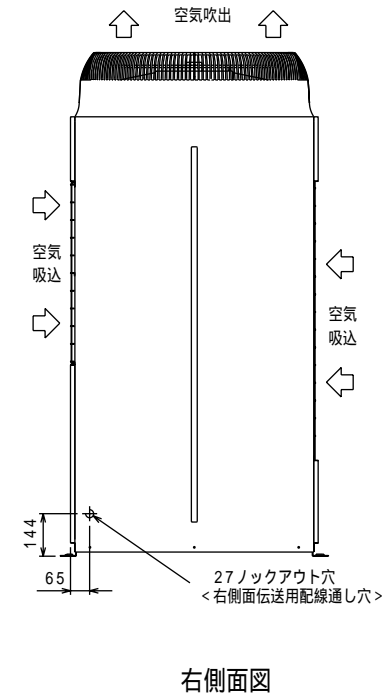
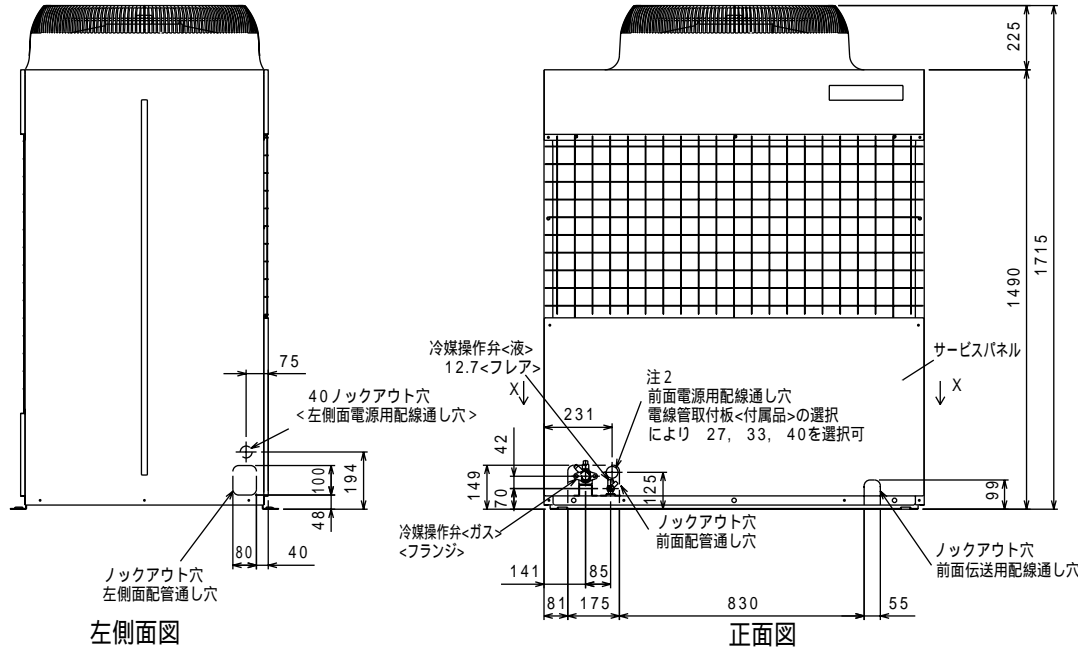
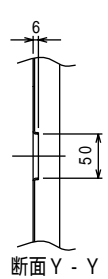


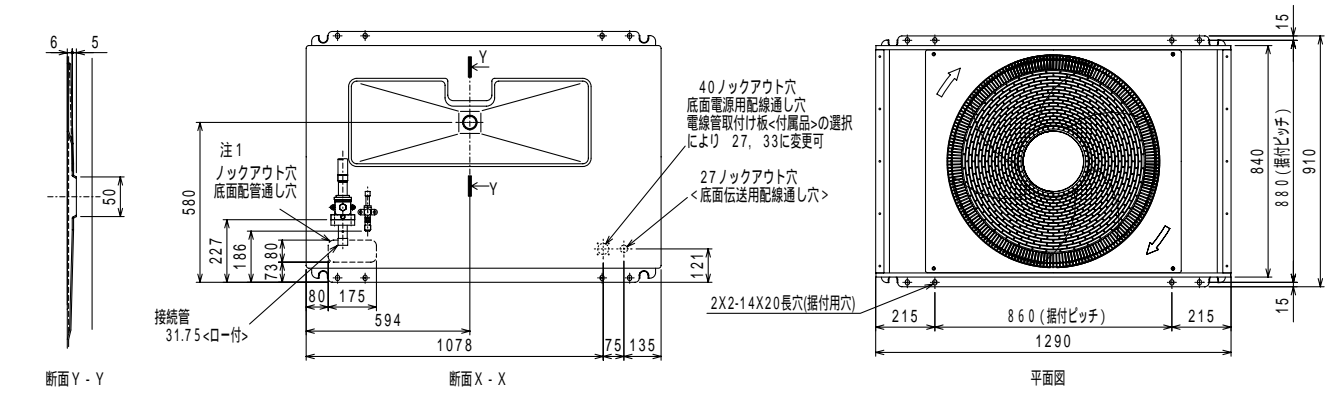


- <付属品>
- ・冷媒<ガス>接続管・・・1個  
(ユニットに取付済)
  - ・接続管用パッキン・・・1個  
(ボ-ルバルブ付近に取付)
  - ・電線管取付板(本体同色塗装)  
33, 27・・・各1個
  - ・タッピンネジ 4X12・・・6本
  - ・配線取付板・・・2種類各1個

注1. 下配管取出しをする場合は、底面配管通し穴を基礎でふさがぬようしてください。  
 2. 前面から電源配線する場合は、配管を前面から通す場合と、それ以外とで使用する配線取付板が異なります。

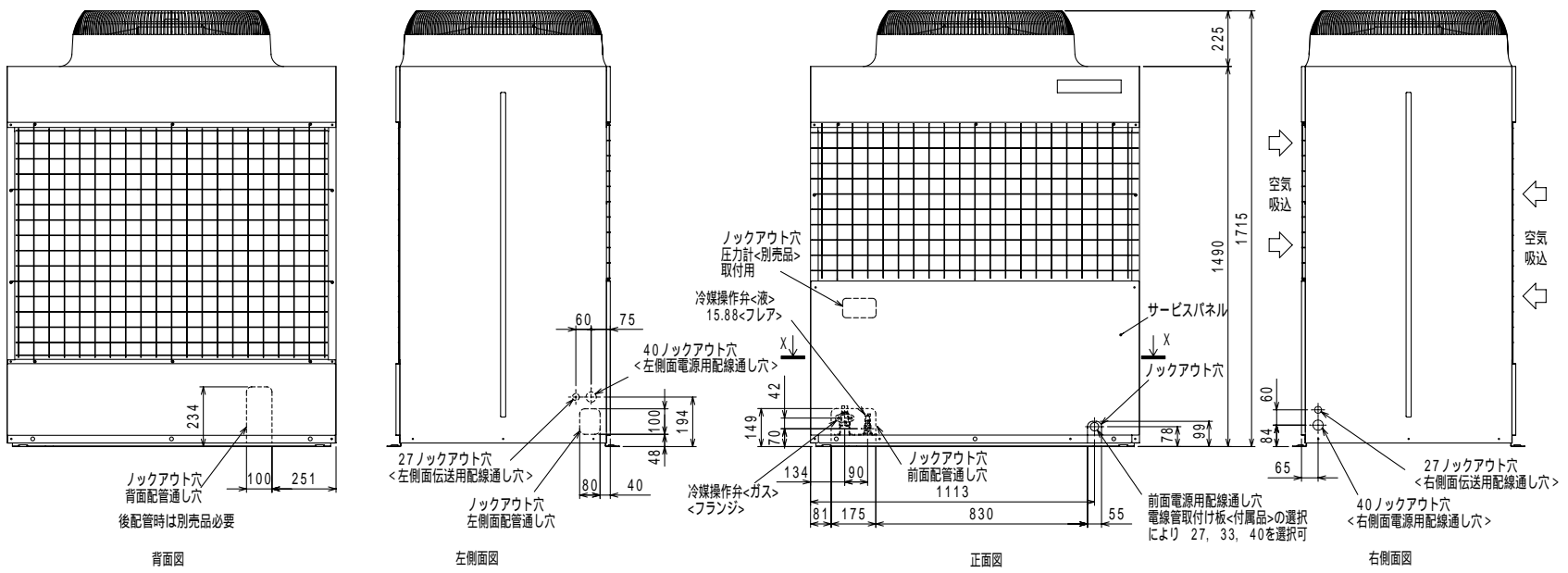
14





- <付属品>
- ・冷媒<ガス>接続管・・・1個  
(ユニットに取付済)
  - ・接続管用パッキン・・・1個  
(ボ-ルバルブ付近に取付)
  - ・電線管取付け板(本体同色塗装)  
40, 33, 27・・・各1個
  - ・タッピンネジ 4X12・・・6本
  - ・配線仕切板・・・1個

注1. 下配管取出しをする場合は  
底面配管通し穴を基礎で  
ふさがぬようにしてください



- <付属品>
- ・冷媒<ガス>接続管・・・1個  
(ユニットに取付済)
  - ・接続管用パッキン・・・1個  
(ボ・ルバル付近に取付)
  - ・電線管取付板(本体同色塗装)  
62, 53, 46・・・各1個
  - ・イブピンネジ 4X12・・・4本

27ノックアウト穴  
<底面伝送用配線通し穴>

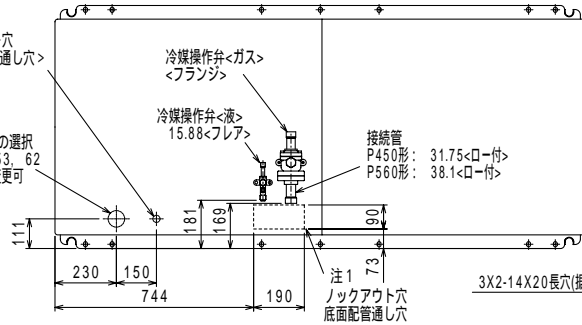
底面電源用配線通し穴  
電線管取付板<付属品>の選択  
によりP450形: 46, 53, 62  
P560形: 53, 62に変更可

冷媒操作弁<ガス>  
<フランジ>

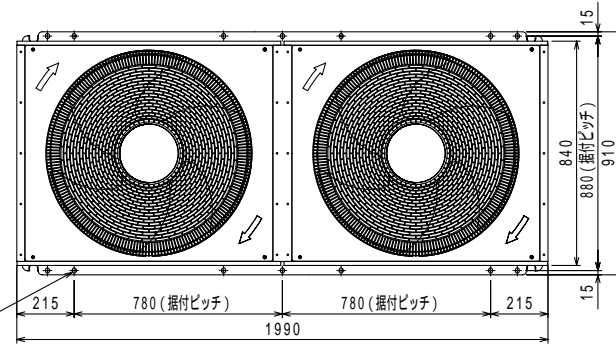
冷媒操作弁<液>  
15.88<フレア>

接続管  
P450形: 31.75<口-付>  
P560形: 38.1<口-付>

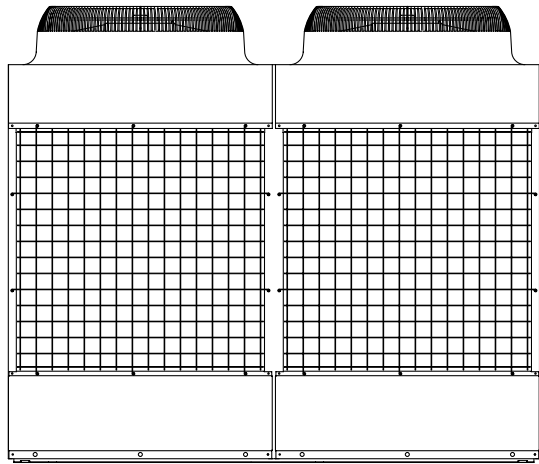
注1. 下配管取出しをする場合は  
底面配管通し穴を基礎で  
ふさがぬようにしてください



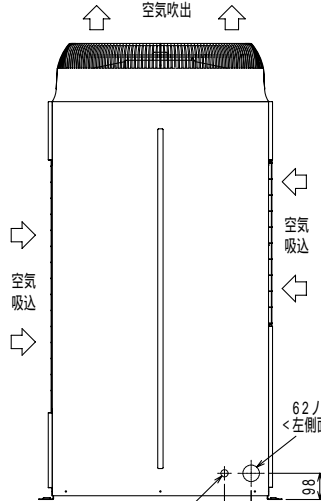
断面 X - X



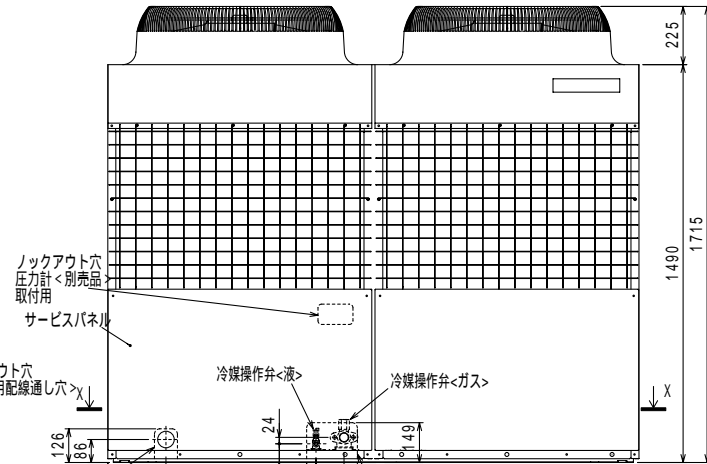
平面図



背面図



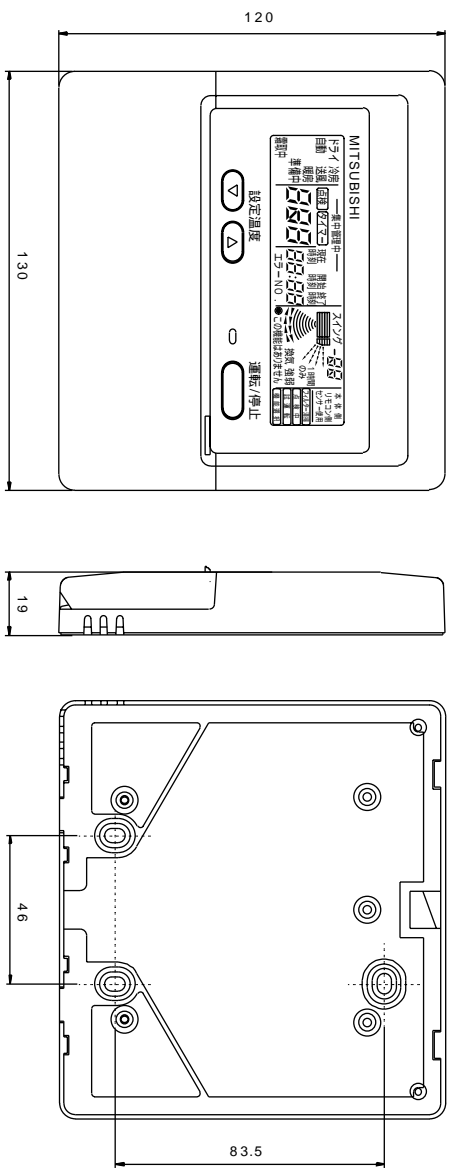
左側面図



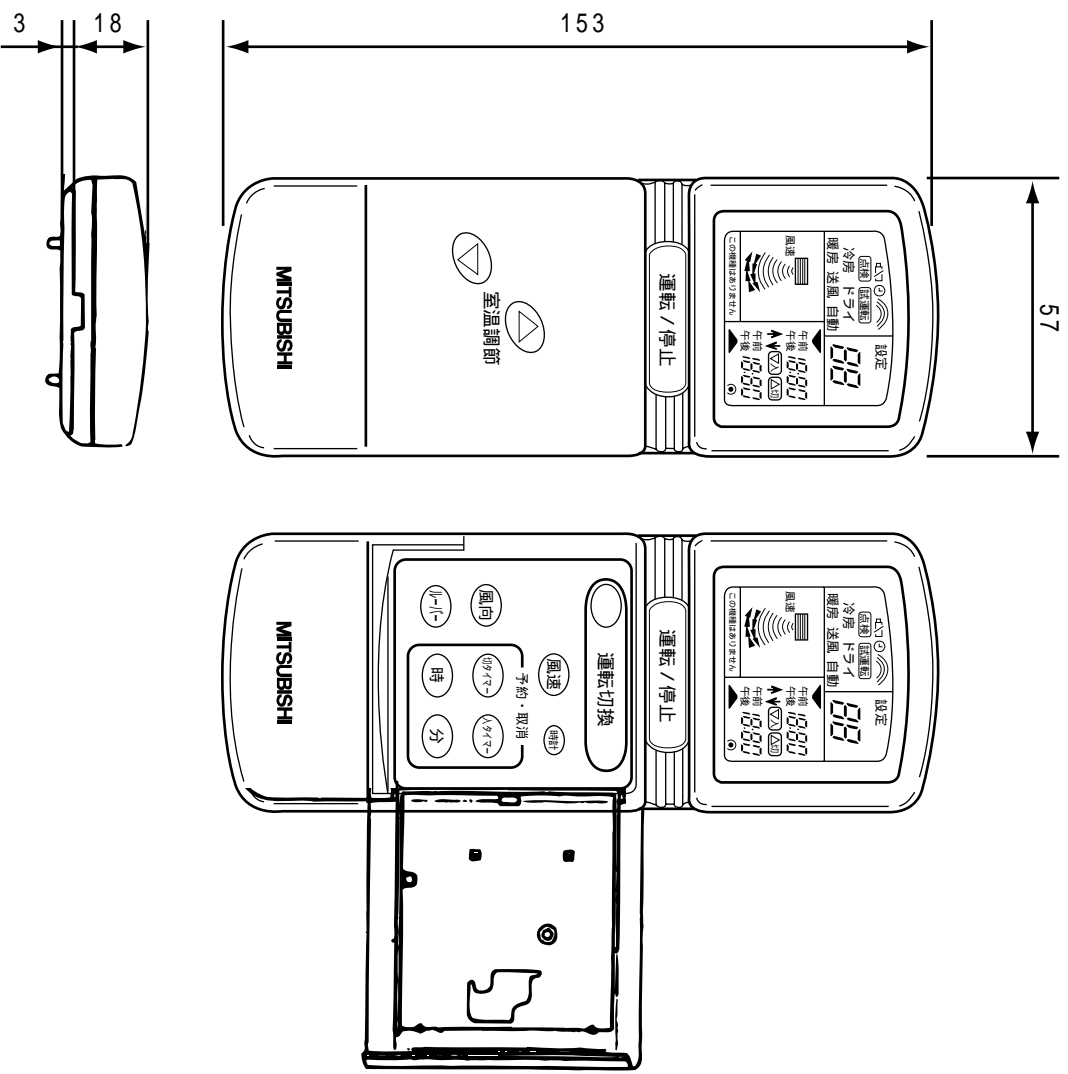
正面図



(2) リモコン  
ワイヤードリモコン (室内ユニット操作部)



ワイヤレスリモコン



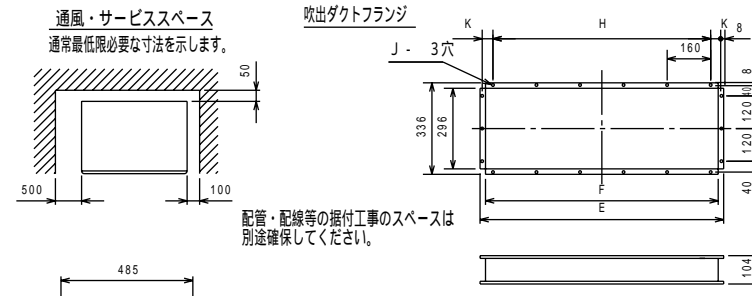
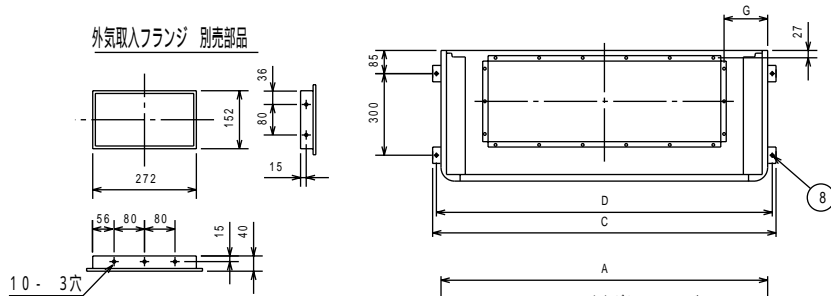
	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K
PFAV-P224M-A	980	962	1042	1014	715	675	108	640	16	29.5
PFAV-P280M-A	1200	1182	1262	1234	895	835	160	800	18	39.5

NO.	名称	NO.	名称
1	冷媒配管<ガス>……P224: 25.4, P280: 28.6 ㏍付	7	ア・ス端子(制御箱内に設置)……5枚
2	冷媒配管<液>…… 12.7 ㏍付	8	基礎ボルト穴……4・ 12
3	ドレン穴…… 1B	9	透湿膜加湿器配管穴…… 52
4	装置電源穴…… 43	10	加湿器配管穴…… 27
5	電線穴…… 27	11	加熱器(蒸気入口・温水出口)……P224:1B,P280:11/4B
6	室内外連絡穴・伝送線穴…… 27	12	加熱器(蒸気出口・温水入口)……P224:1B,P280:11/4B

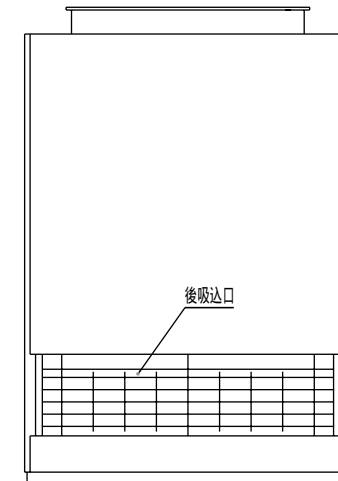
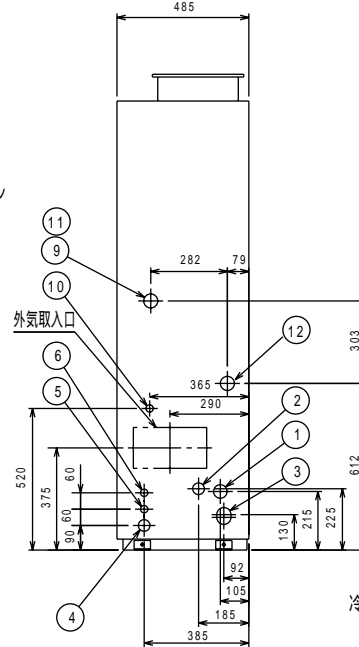
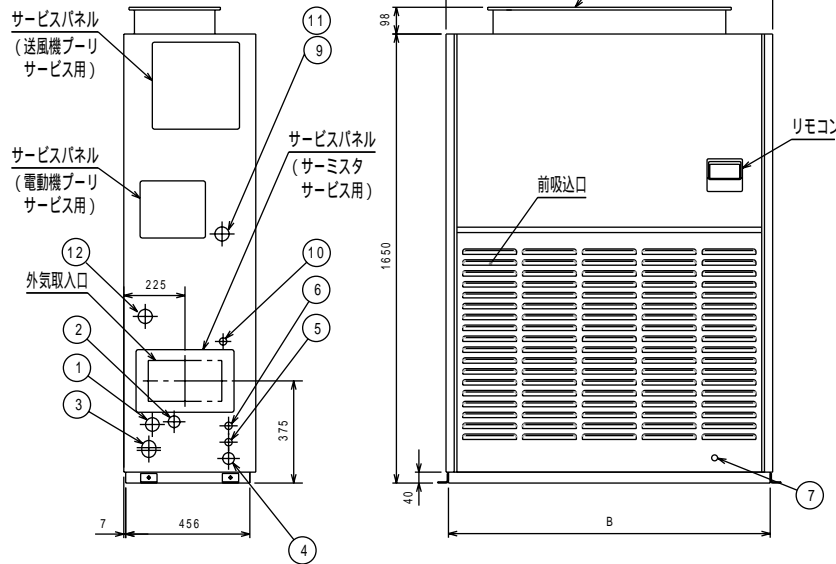
注1. 伝送線と電圧200V以上の配線は必ず分けた経路としてください。

注2. 左配管接続する場合、別売左配管部品が必要です。

注3. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等を設けてください。



配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。



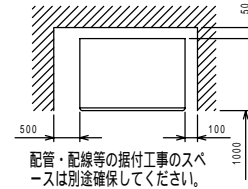
冷媒配管を左取出しにする場合は、別売「左配管部品」が必要となります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K
PFAV-P450M-A	1200	1258	1230	1046	1006	257	4	1028	16	1178
PFAV-P560M-A	1420	1478	1450	1255	1215	247	5	1235	18	1398

NO.	名称	NO.	名称
1	冷媒配管<ガス>…P450: 31.75, P560: 38.1 ロ-付	7	ア-ス端子(制御箱内に設置)……5枚
2	冷媒配管<液>…… 15.88 ロウ付	8	基礎ボルト穴……4- 12
3	ドレン穴……… 1 1/4φ	9	透湿膜加湿器配管穴……… 52
4	装置電源穴……… 52	10	加湿器配管穴……… 27
5	電線穴……… 37	11	加熱器(蒸気・温水)………11/2B
6	室内外連絡穴・伝送線穴……… 27		

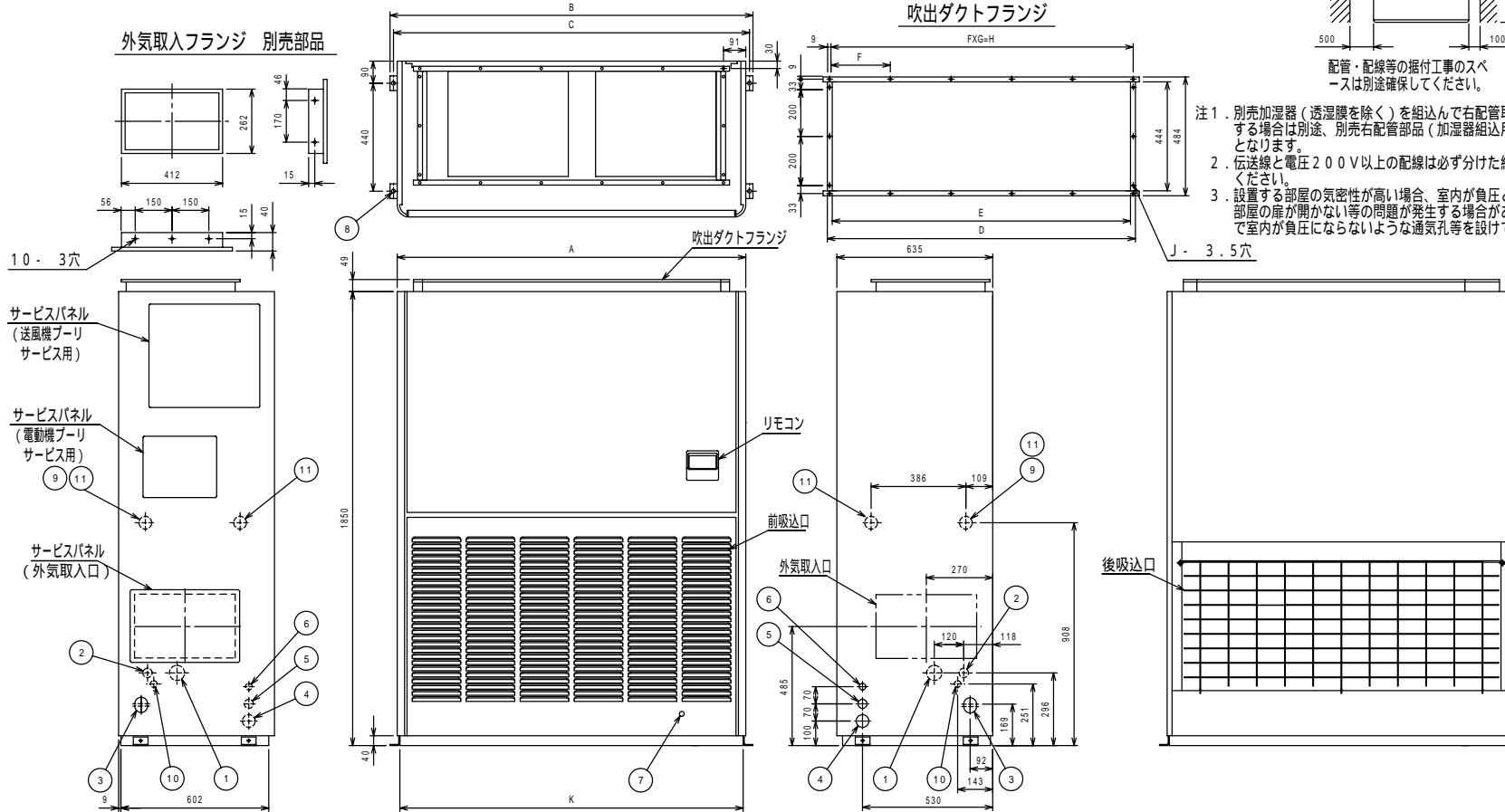
通風・サービススペース

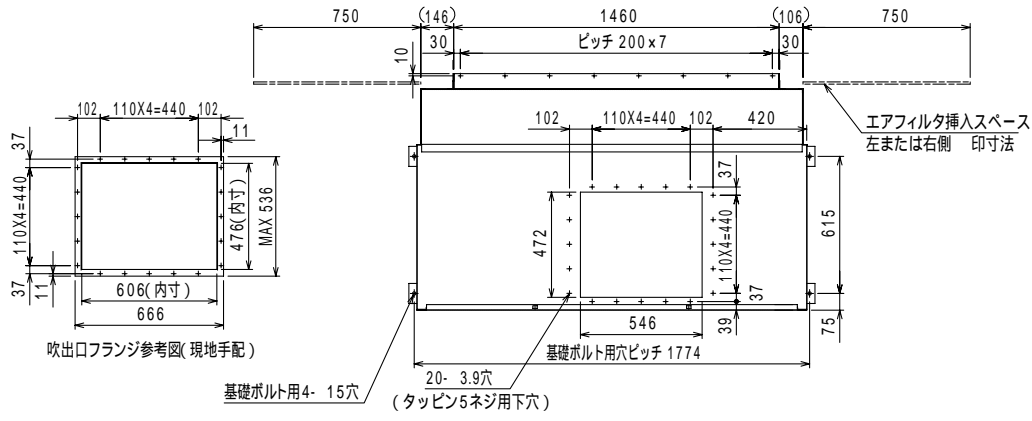
通常最低限必要な寸法を示します。



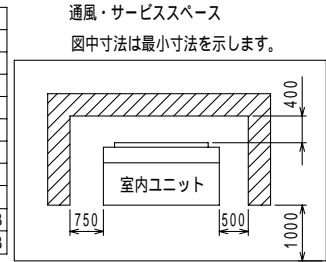
配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。

- 注1. 別売加湿器(透湿膜を除く)を組込んで右配管取り出しにする場合は別途、別売右配管部品(加湿器組込用)が必要となります。
- 注2. 伝送線と電圧200V以上の配線は必ず分けた経路としてください。
- 注3. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので室内が負圧にならないような通気孔を設けてください。





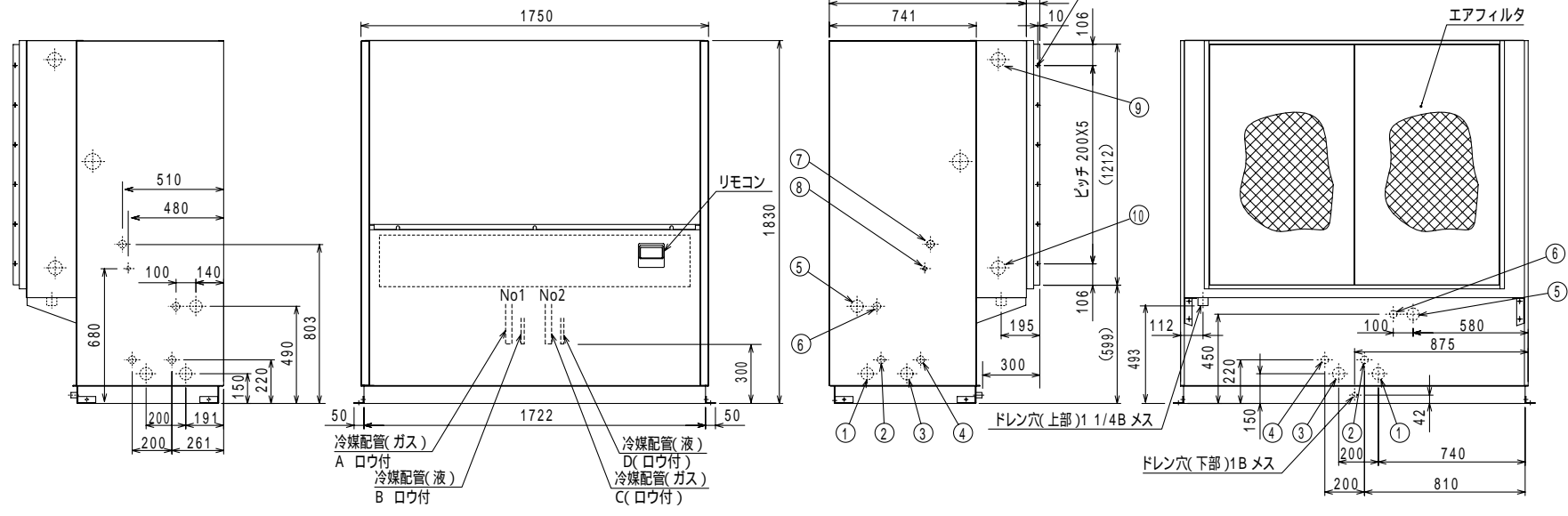
No.	名称
①	No.1 冷媒配管口(ガス) 75ノックアウト穴
②	No.1 冷媒配管口(液) 38ノックアウト穴
③	No.2 冷媒配管口(ガス) 75ノックアウト穴
④	No.2 冷媒配管口(液) 38ノックアウト穴
⑤	電源穴(200V線) 62ノックアウト穴
⑥	室内外連絡穴(制御線) 38ノックアウト穴
⑦	加湿器配管接続口 38ノックアウト穴
⑧	加湿器電源穴 22ノックアウト穴
⑨	加熱器(温水出口・蒸気入口) 70ノックアウト穴:2B
⑩	加熱器(温水入口・蒸気出口) 70ノックアウト穴:2B



注1. エアフィルタサービススペース(印)の寸法をユニットの左側面または右側面に必ず確保してください。  
 注2. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等をつけてください。

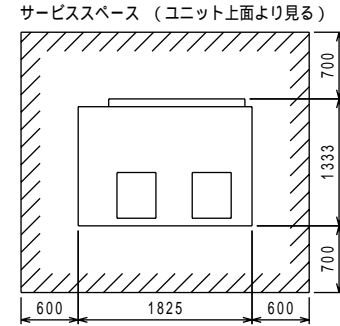
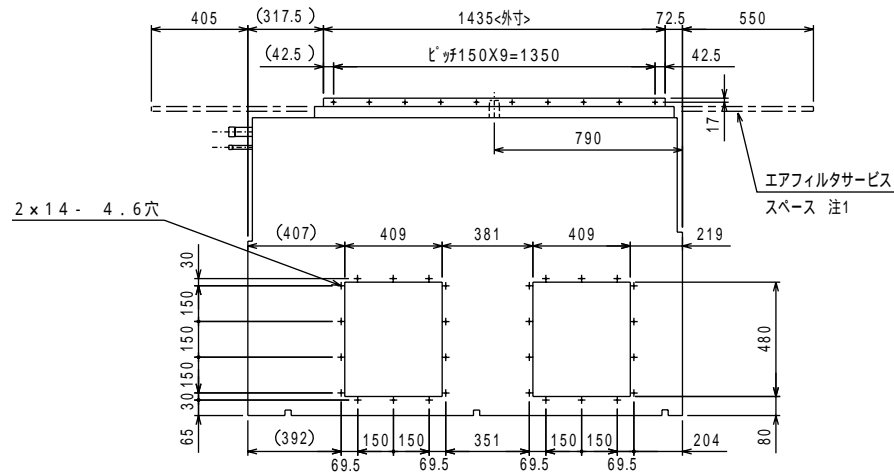
配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。  
 また、エアフィルタのサービスを本体右側から行う場合は、図中 印の寸法を確保してください。

	A	B	C	D
PFAV-P670M-A	31.75	15.88	31.75	15.88
PFAV-P800M-A	38.1	15.88	25.4	12.7

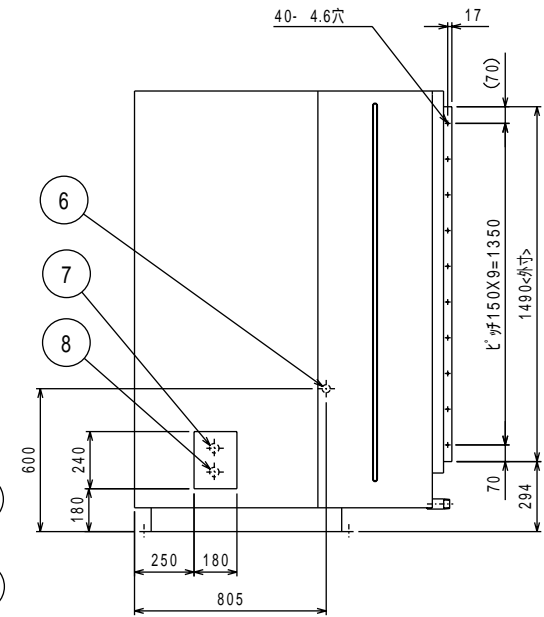
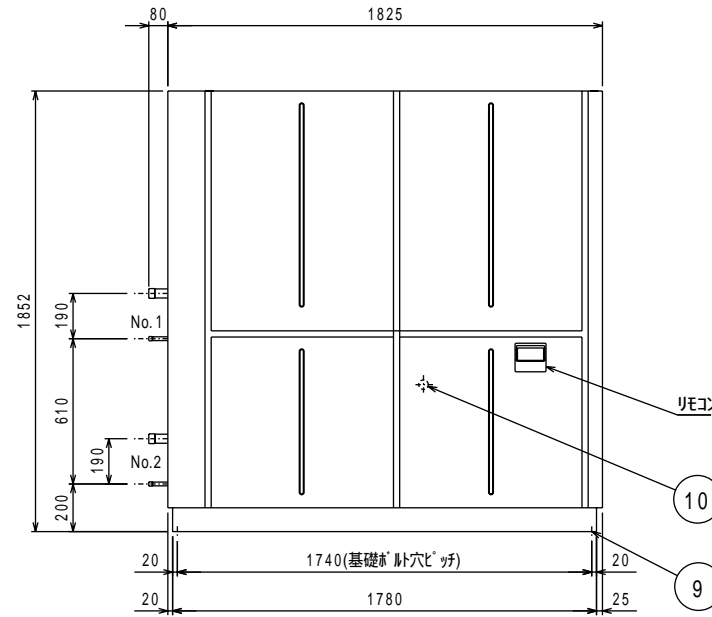
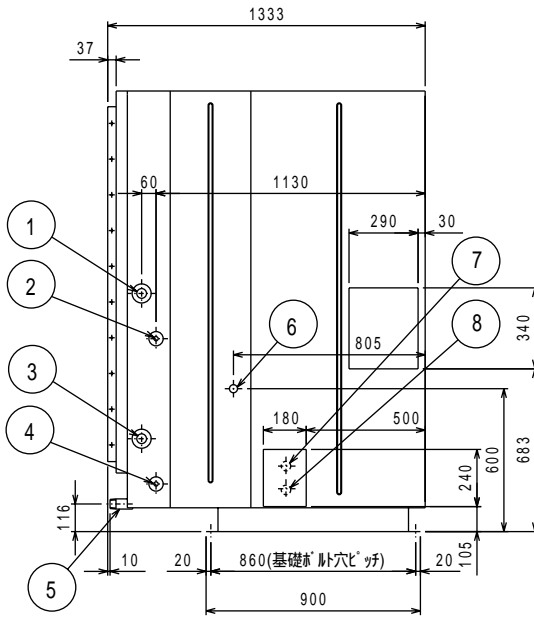


- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込はユニット右側面からが標準です。(左側面からの引込も可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方法はユニット右側面が標準ですが、左側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等を設けてください。

番号	名称
No.1	冷媒配管(ガス) 38.1<口付>
No.1	冷媒配管(液) 15.88<口付>
No.2	冷媒配管(ガス) 38.1<口付>
No.2	冷媒配管(液) 15.88<口付>
	ドレン配管 PT1-1/4おねじ
	加湿器接続口 PT1めねじ(水・蒸気スプレー)
	電源取入口 (穴は現地加工 30~60)
	室内外連絡線取入口(穴は現地加工 30~60)
	基礎ボルト用穴 4-20穴
	アース端子(制御箱内に設置)

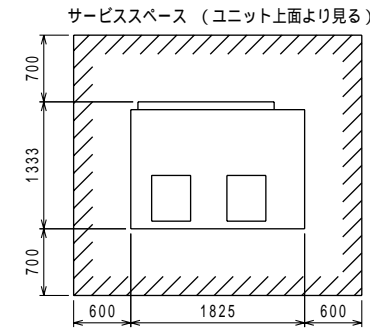
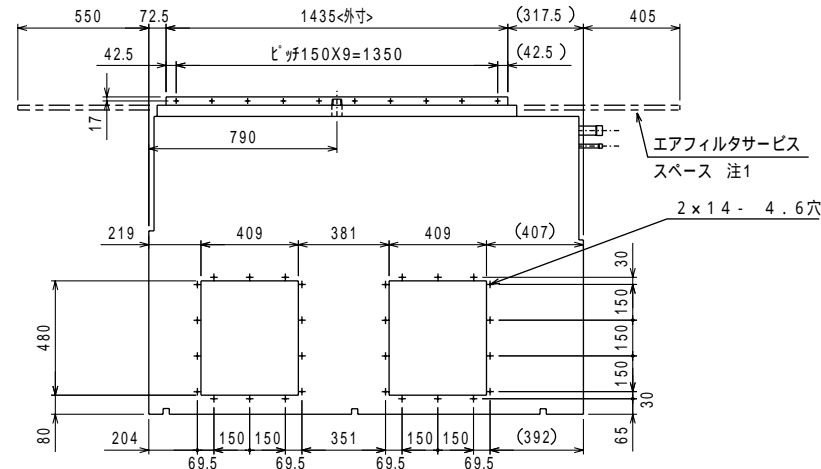


配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。

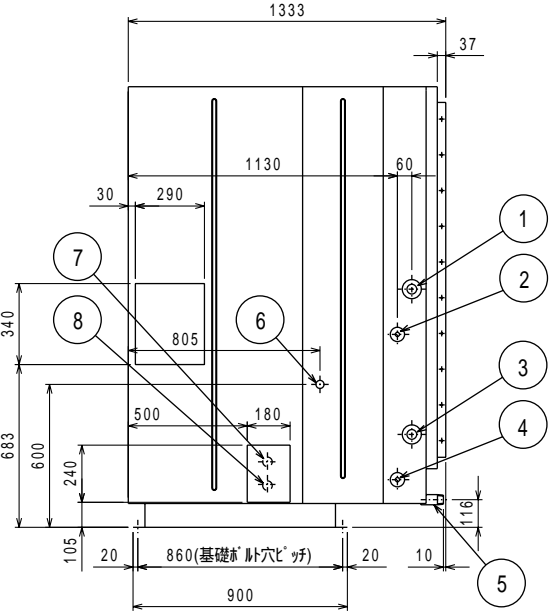
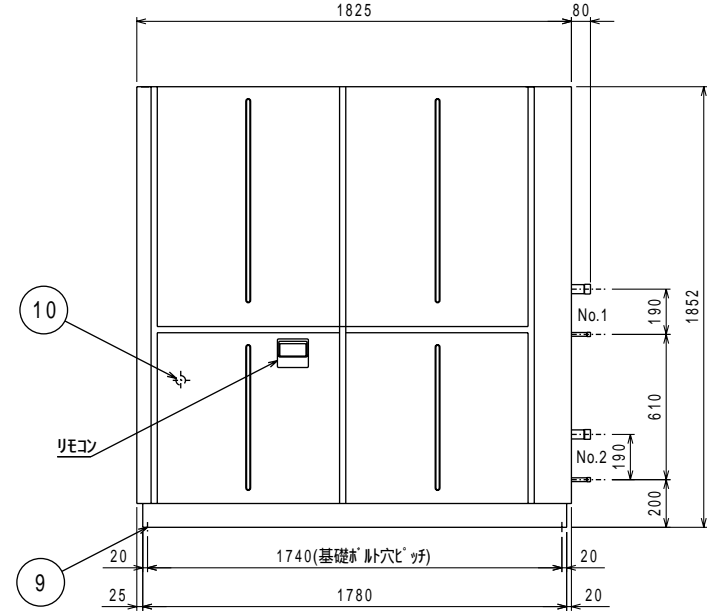
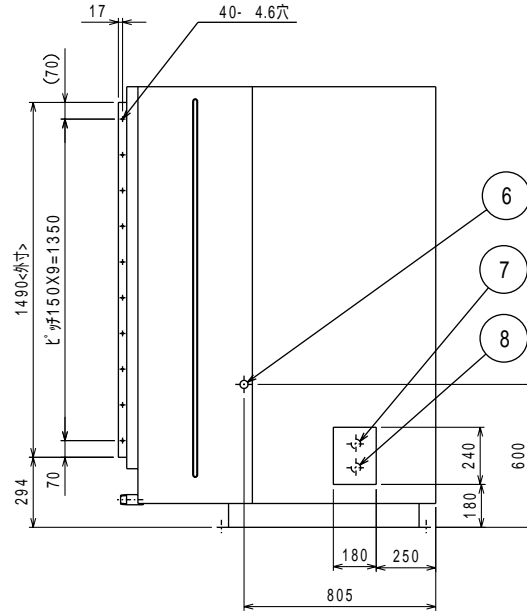


- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込はユニット左側面からが標準です。  
(右側面からの引込も可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方法はユニット左側面が標準ですが、右側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等を設けてください。

番 号	名 称
No.1	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.1	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
No.2	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.2	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	ドレン配管 PT1-1/4おねじ
	加湿器接続口 PT1めねじ(水・蒸気スプレー)
	電源取入口 (穴は現地加工 30~60)
	室内外連絡線取入口(穴は現地加工 30~60)
	基礎ボルト用穴 4 - 20穴
	アース端子(制御箱内に設置)

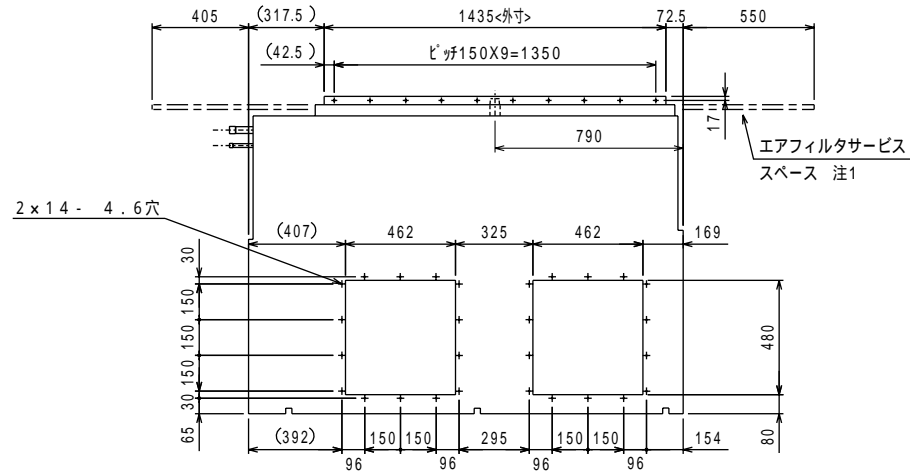


配管・配線等の据付工事は別途確保してください。

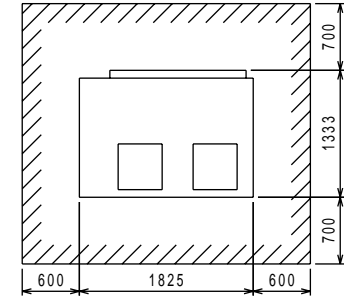


- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込はユニット右側面からが標準です。(左側面からの引込も可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方法はユニット右側面が標準ですが、左側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等を設けてください。

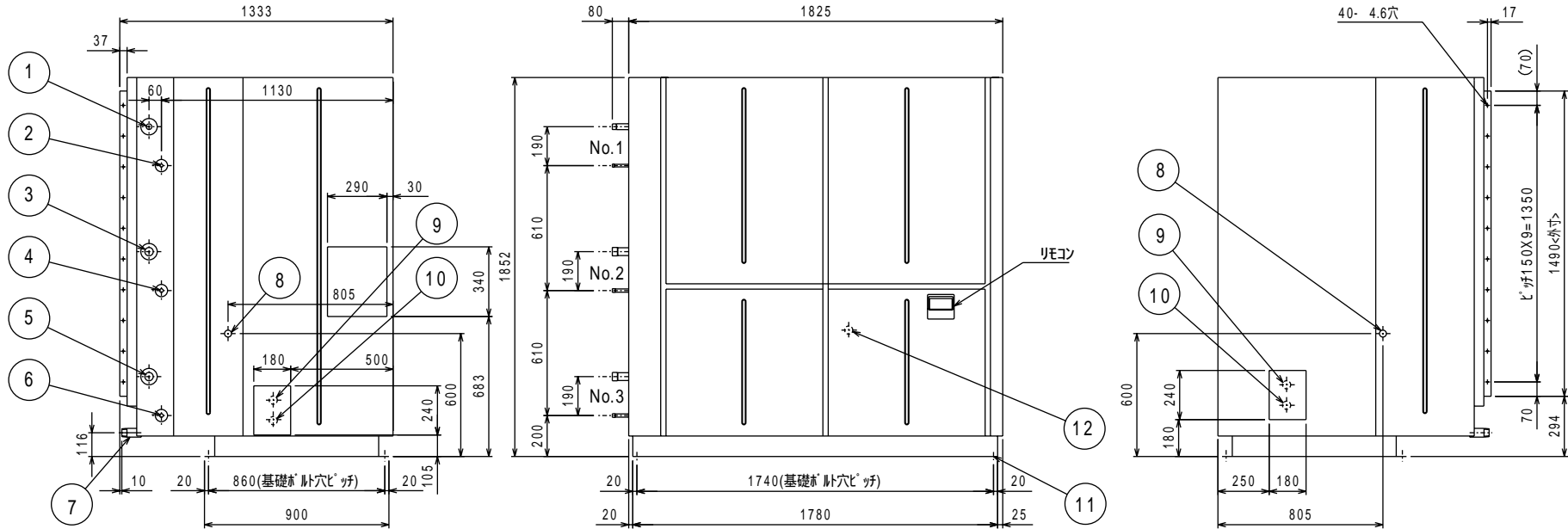
番号	名称
No.1	冷媒配管(ガス) 25.4<ロウ付>
No.1	冷媒配管(液) 12.7<ロウ付>
No.2	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.2	冷媒配管(液) 15.8<ロウ付>
No.3	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.3	冷媒配管(液) 15.8<ロウ付>
	ドレン配管 P T 1 - 1 / 4 おねじ
	加湿器接続口 P T 1めねじ(水・蒸気スプレー)
	電源取入口 (穴は現地加工 30 - 60)
	室内外連絡線取入口(穴は現地加工 30 - 60)
	基礎ボルト用穴 4 - 20穴
	アース端子(制御箱内に設置)



サービススペース (ユニット上面より見る)

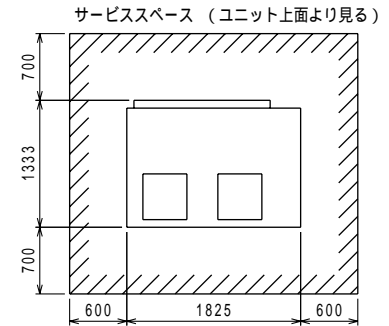
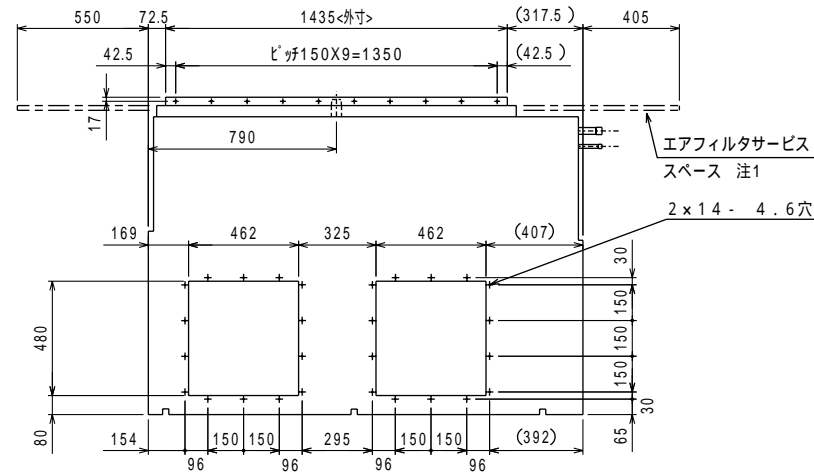


配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。



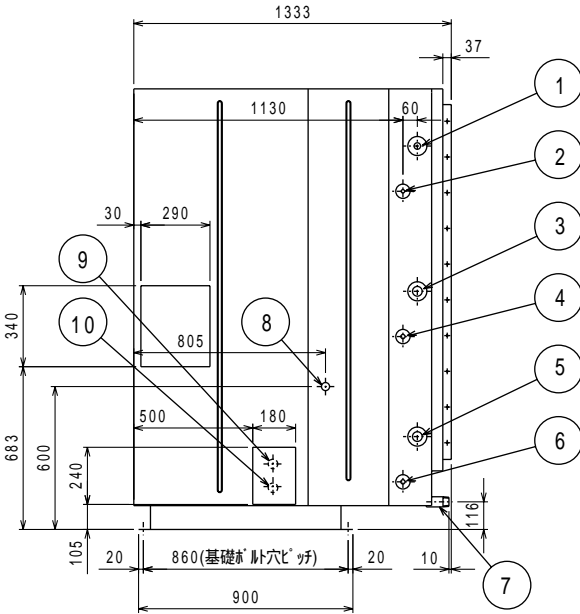
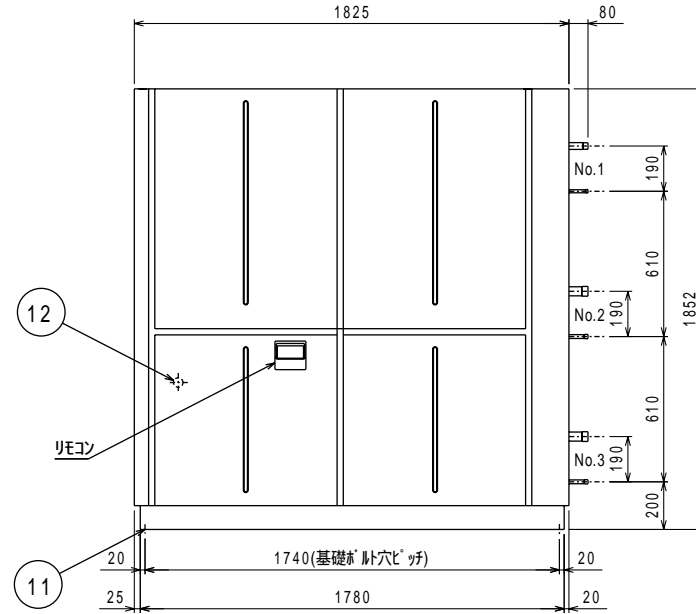
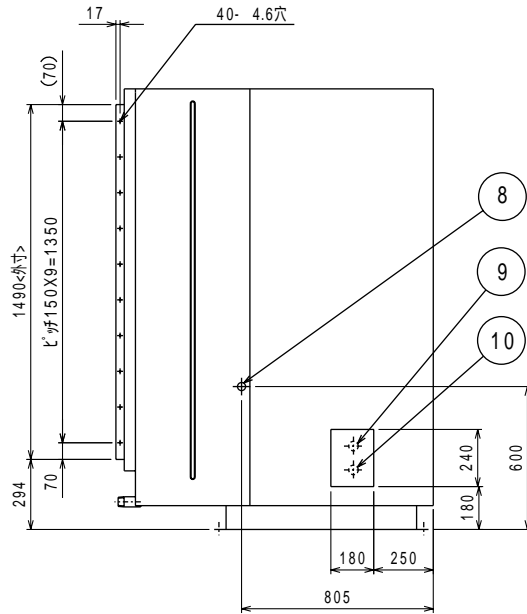
- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
- 電源の引込はユニット左側面からが標準です。(右側面からの引込も可能です)
  - ドレン配管はユニット背面から接続してください。
  - 加湿器用の配管接続方法はユニット左側面が標準ですが、右側面接続にも対応可能です。
  - 加湿器は受注組込部品となります。
  - 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等を設けてください。

番号	名称
No.1	冷媒配管(ガス) 2.5.4<ロウ付>
No.1	冷媒配管(液) 1.2.7<ロウ付>
No.2	冷媒配管(ガス) 3.8.1<ロウ付>
No.2	冷媒配管(液) 1.5.8.8<ロウ付>
No.3	冷媒配管(ガス) 3.8.1<ロウ付>
No.3	冷媒配管(液) 1.5.8.8<ロウ付>
ドレン配管 PT1-1/4おねじ	
加湿器接続口 PT1めねじ(水・蒸気スプレー)	
電源取入口 (穴は現地加工 30~60)	
室内外連絡線取入口(穴は現地加工 30~60)	
基礎ボルト用穴 4-2.0穴	
アース端子(制御箱内に設置)	



配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。

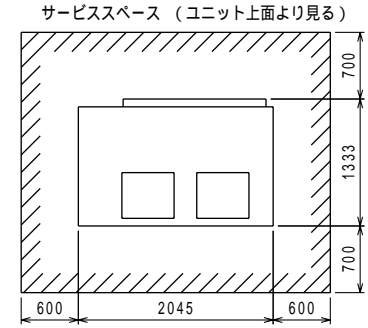
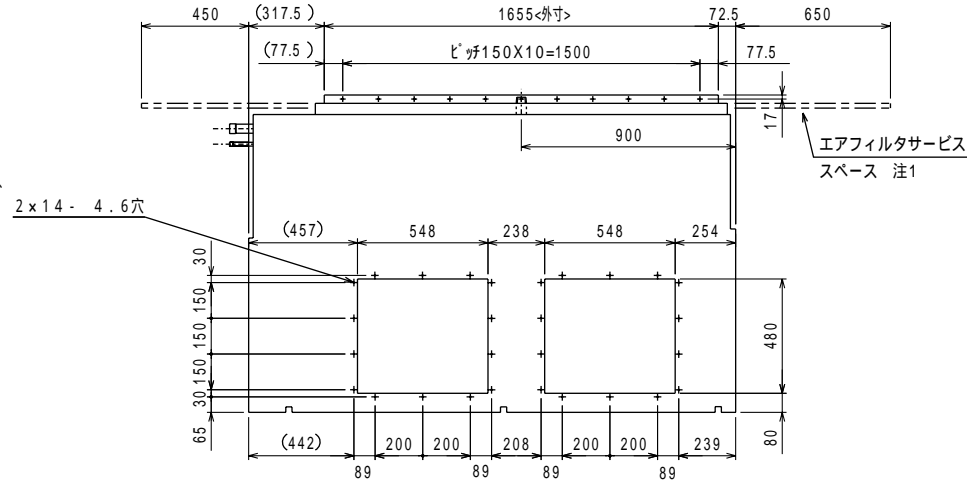
PFAV-P1400M-A-R



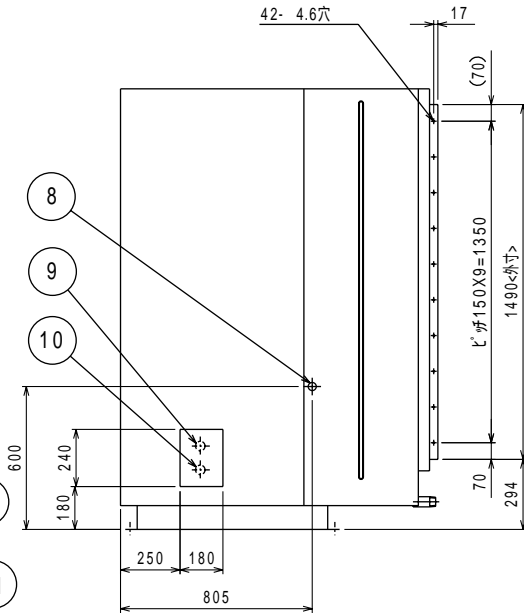
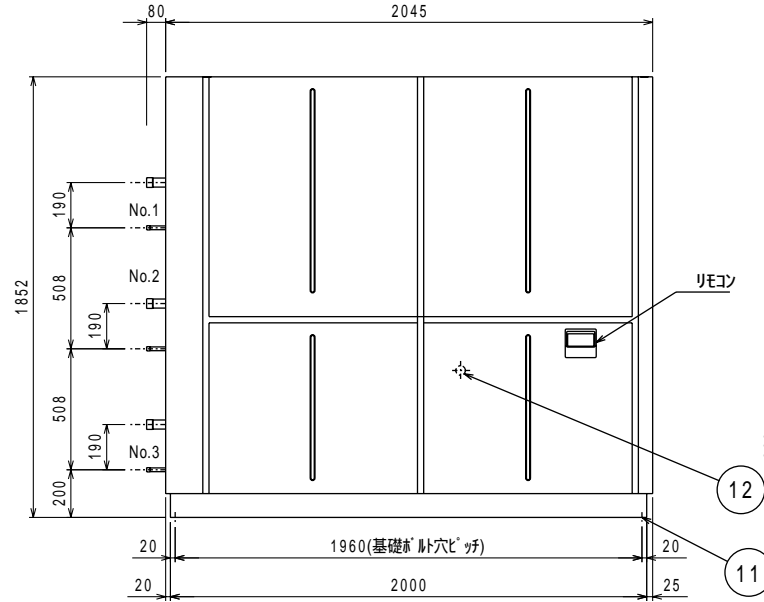
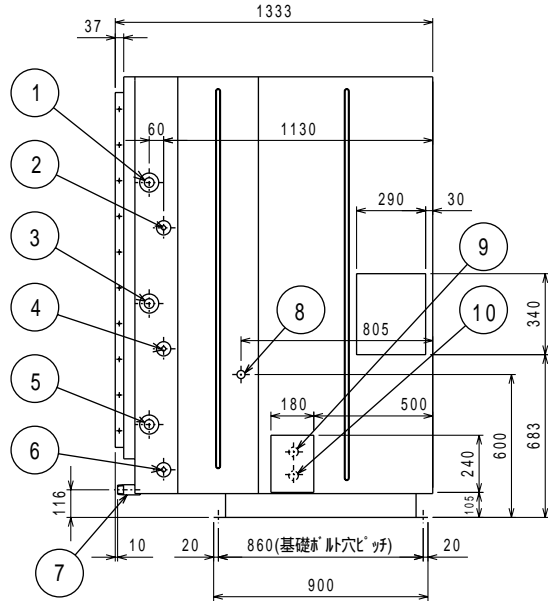


- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込はユニット右側面からが標準です。  
(左側面からの引込も可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方法はユニット右側面が標準ですが、左側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等を設けてください。

番号	名称
No.1	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.1	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
No.2	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.2	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
No.3	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.3	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	ドレン配管 PT1-1/4おねじ
	加湿器接続口 PT1めねじ(水・蒸気スプレー)
	電源取入口 (穴は現地加工 30~60)
	室内外連絡線取入口(穴は現地加工 30~60)
	基礎ボルト用穴 4-20穴
	アース端子(制御箱内に設置)

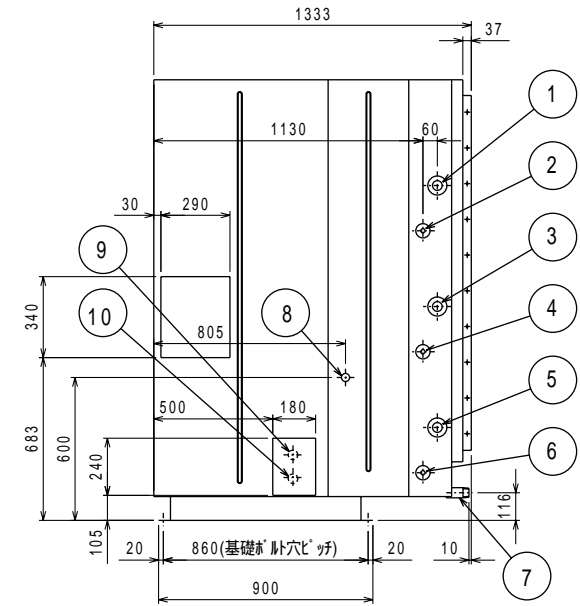
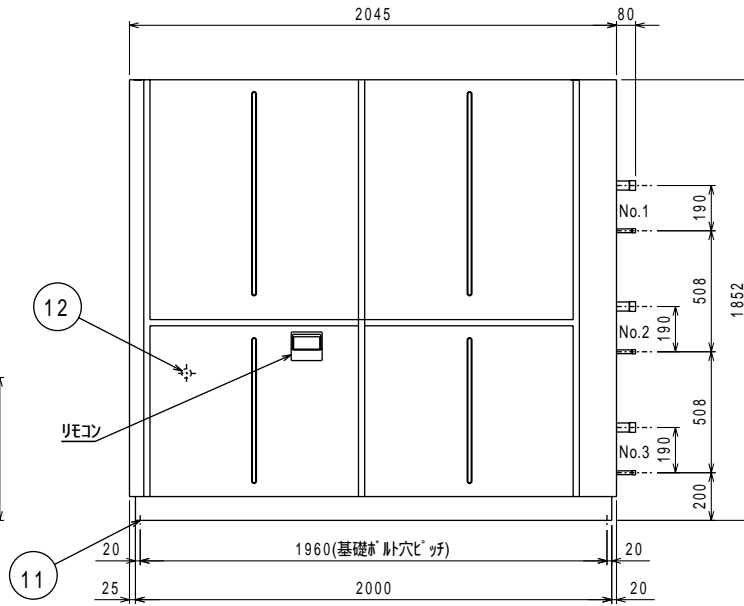
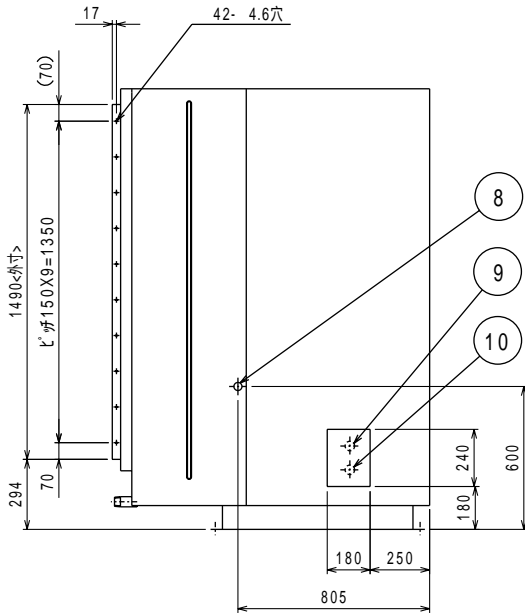
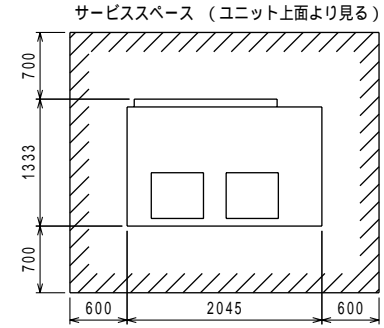
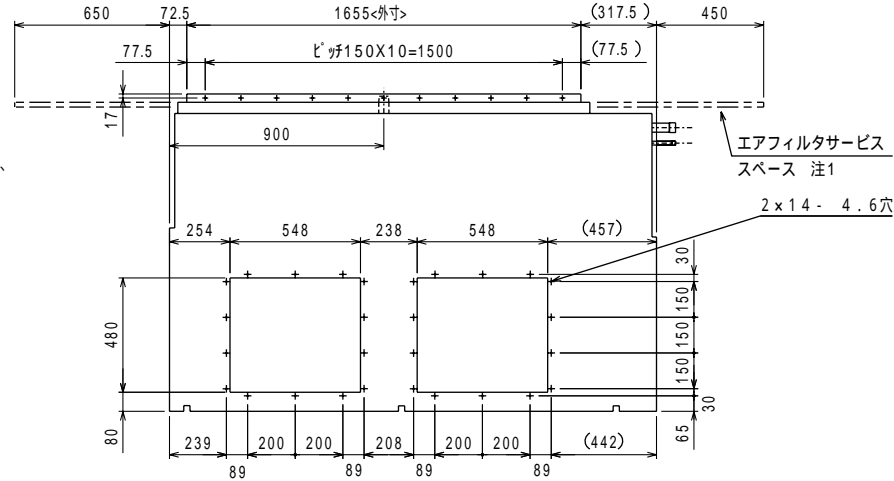


配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。



- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
- 電源の引込はユニット左側面からが標準です。(右側面からの引込も可能です)
  - ドレン配管はユニット背面から接続してください。
  - 加湿器用の配管接続方法はユニット左側面が標準ですが、右側面接続にも対応可能です。
  - 加湿器は受注組込部品となります。
  - 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等を設けてください。

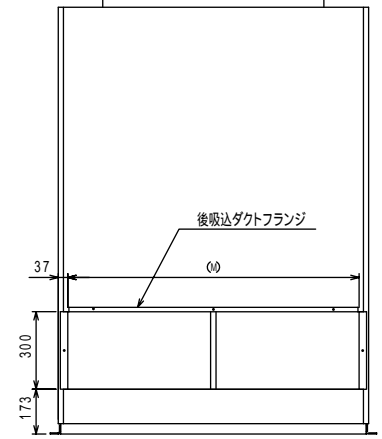
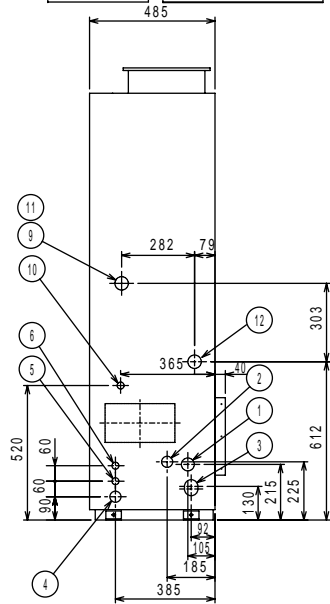
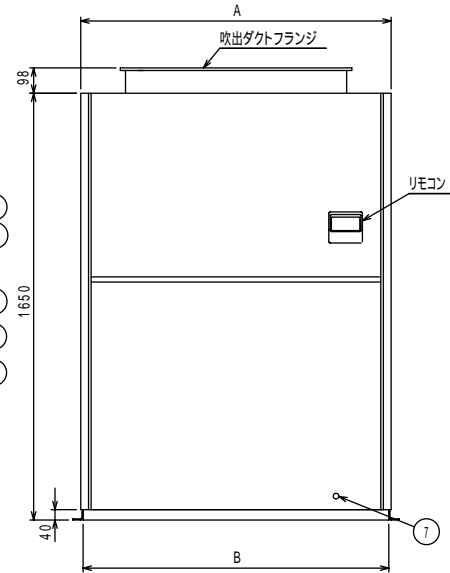
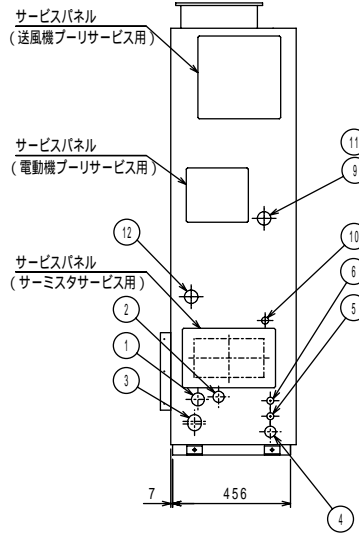
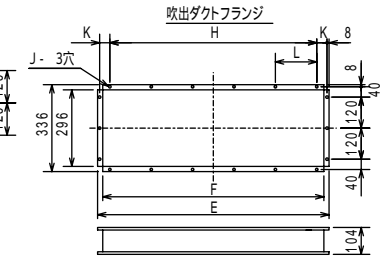
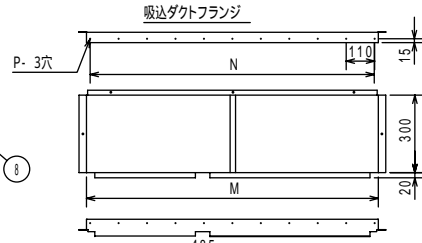
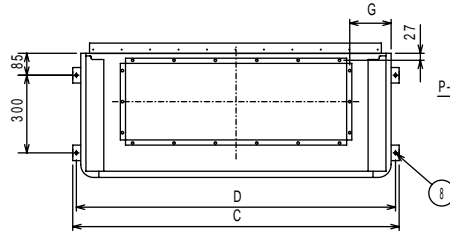
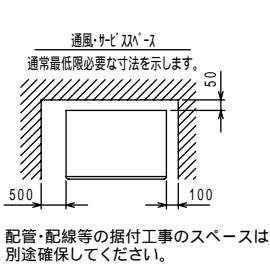
番号	名称
No.1	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.1	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
No.2	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.2	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
No.3	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.3	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	ドレン配管 PT1-1/4おねじ
	加湿器接続口 PT1めねじ(水・蒸気スプレー)
	電源取入口 (穴は現地加工 30~60)
	室内外連絡線取入口(穴は現地加工 30~60)
	基礎ボルト用穴 4-20穴
	アース端子(制御箱内に設置)



	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N	P
PFAV-P265(V)M-A-F	980	962	1042	1014	715	675	108	640	16	29.5	160	906	880	24
PFAV-P335M-A-F	1200	1182	1262	1234	895	835	160	800	18	39.5	160	1126	1100	28

NO.	名称	NO.	名称
1	冷媒配管<ガス>..... P265: 25.4 P335: 28.6 □付	6	室内外連絡穴 伝送線穴..... 27
2	冷媒配管<液>..... P265,P335: 12.7 □付	7	アース端子(制御箱内に設置)..... 5枚
3	ドレン穴..... 1B	8	基礎ボルト穴..... 4- 12
4	装置電源穴..... 43	9	透湿膜加湿器配管穴..... 52
5	電線穴..... 27	10	加湿器配管穴..... 27
		11	加熱器(蒸気入口・温水出口)..... P265:1B,P335:11/4B
		12	加熱器(蒸気出口・温水入口)..... P265:1B,P335:11/4B

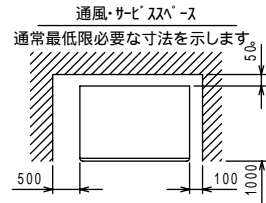
注1. 伝送線と電圧200V以上の配線は必ず分けた経路としてください。  
 注2. 左配管接続する場合、別売左配管部品が必要です。  
 注3. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔等を設けてください。



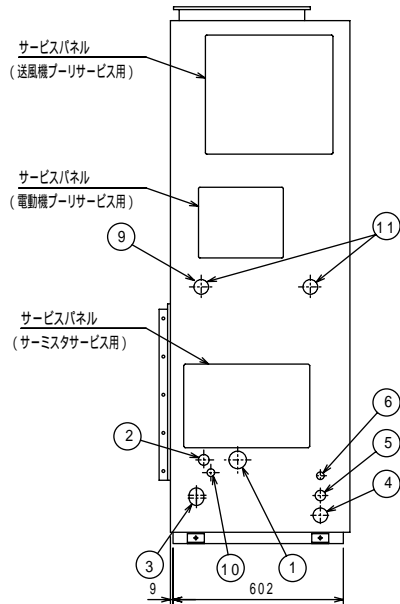
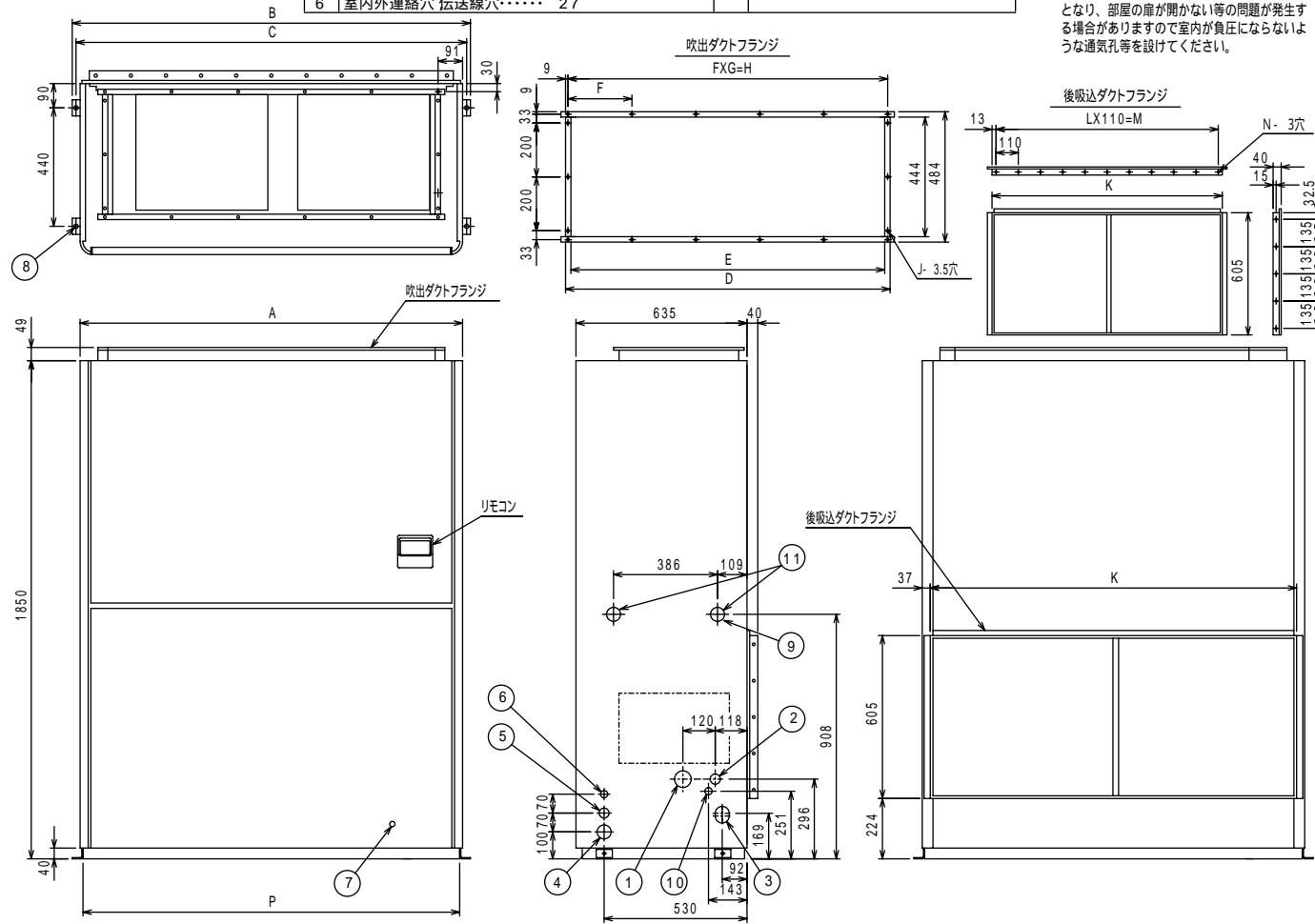
	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N	P
PFAV-P530(V)M-A-F	1200	1258	1230	1046	1006	257	4	1028	16	1126	10	1100	32	1178
PFAV-P670(V)M-A-F	1420	1478	1450	1255	1215	247	5	1235	18	1346	12	1320	36	1398

NO.	名称	NO.	名称
1	冷媒配管<ガス>.....P530: 31.75, P670: 38.1 ロ-付	7	ア-ス端子(制御箱内に設置).....5杉
2	冷媒配管<液>..... 15.88 ロ-付	8	基礎ボルト穴.....4- 12
3	ドレン穴.....11/4B	9	透湿膜加湿器配管穴..... 52
4	装置電源穴..... 52	10	加湿器配管穴..... 27
5	電線穴..... 37	11	加熱器(蒸気・温水).....11/2B
6	室内外連絡穴 伝送線穴..... 27		

- 注1. 別売加湿器(透湿膜を除く)を組込んで右配管取り出しにする場合は別途、別売右配管部品加湿器組込用)が必要となります。  
 2. 伝送線と電圧200V以上の配線は必ず分けた経路としてください。  
 3. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので室内が負圧にならないような通気孔等を設けてください。



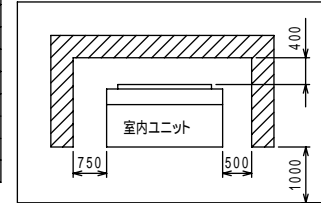
配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。



No.	名称
①	No.1 冷媒配管口(ガス) 75ノックアウト穴
②	No.1 冷媒配管口(液) 38ノックアウト穴
③	No.2 冷媒配管口(ガス) 75ノックアウト穴
④	No.2 冷媒配管口(液) 38ノックアウト穴
⑤	電源穴(200V線) 62ノックアウト穴
⑥	室内外連絡穴(制御線) 38ノックアウト穴
⑦	加湿器配管接続口 38ノックアウト穴
⑧	加湿器電源穴 22ノックアウト穴
⑨	加熱器(温水出口・蒸気入口) 70ノックアウト穴:2B
⑩	加熱器(温水入口・蒸気出口) 70ノックアウト穴:2B

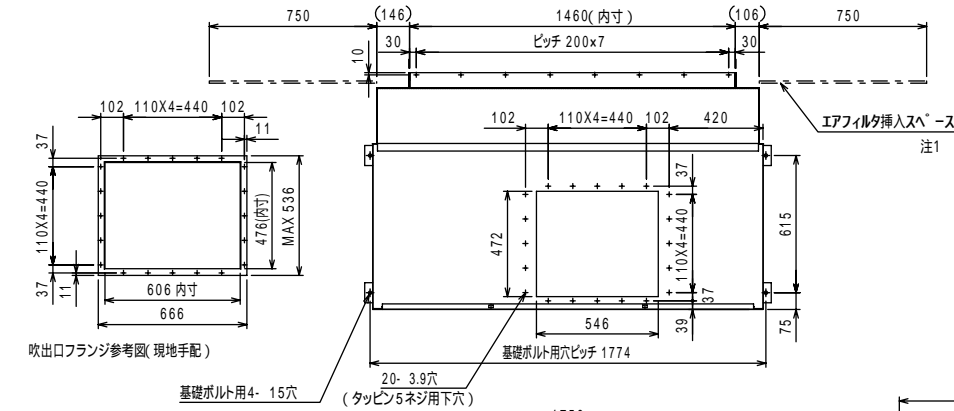
通風・サービススペース

図中寸法は最小寸法を示します。



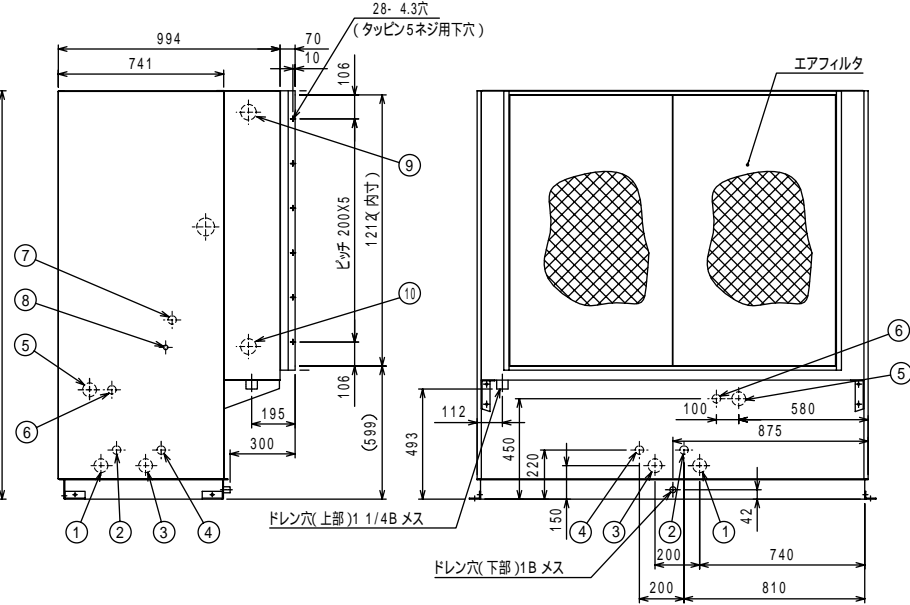
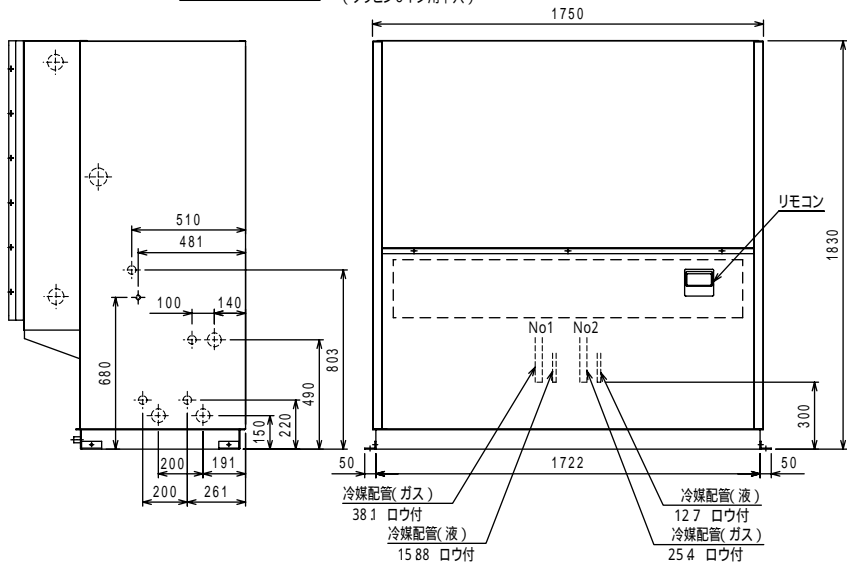
配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。  
また、エアフィルタのサービスを本体右側から行う場合は、図中 印の寸法を確保してください。

- 注1. エアフィルタサービススペース(印)の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔等を設けてください。



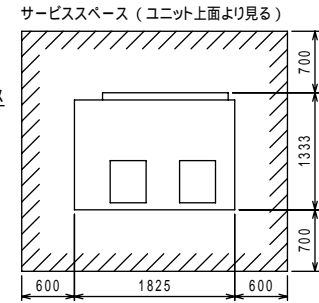
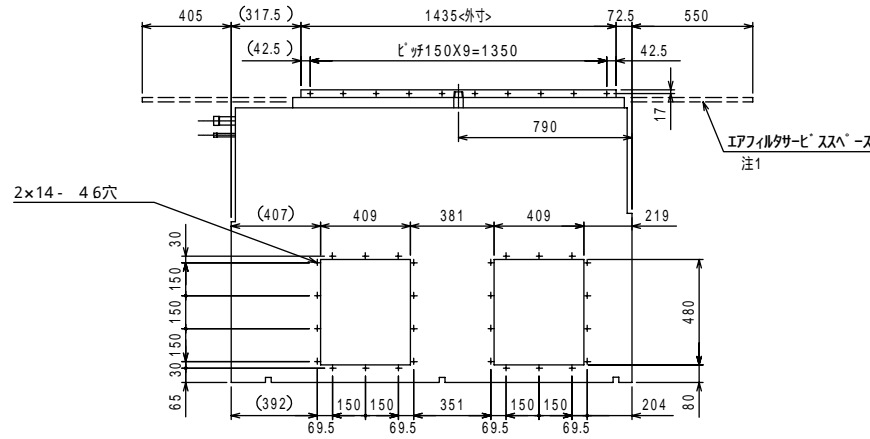
吹出口フランジ参考図(現地手配)

基礎ボルト用4・15穴 (タップインネジ用下穴)

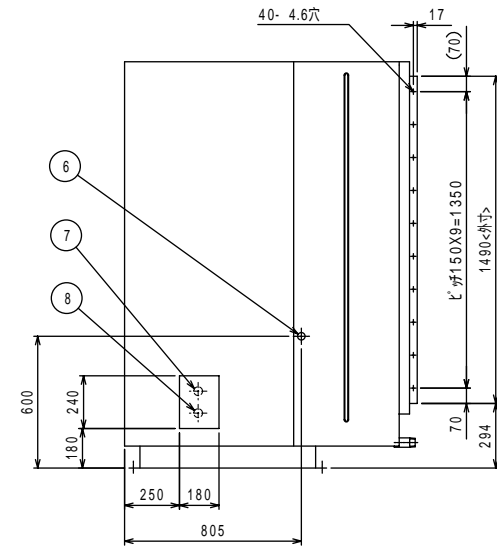
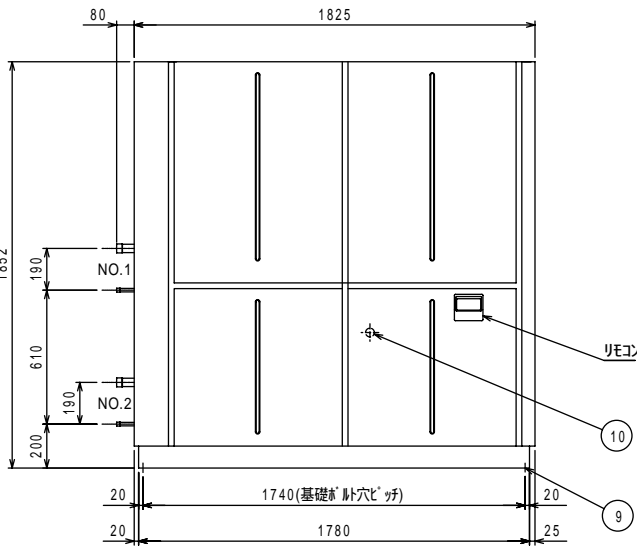
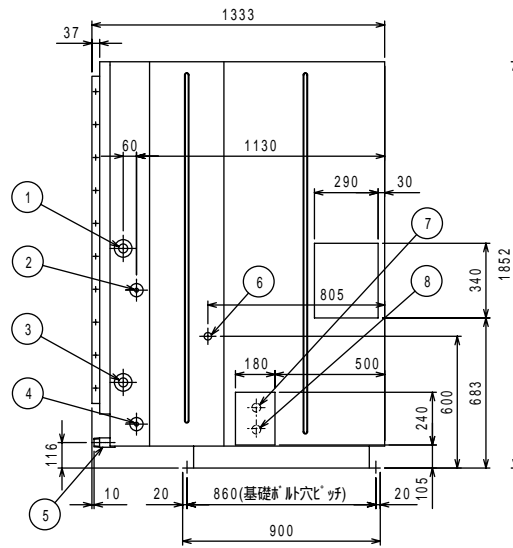


- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
- 電源の引込はユニット右側面からが標準です。(左側面からの引込も可能です)
  - ドレン配管はユニット背面から接続してください。
  - 加湿器用の配管接続方法はユニット右側面が標準ですが、左側面接続にも対応可能です。
  - 加湿器は受注組込部品となります。
  - 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔等を設けてください。

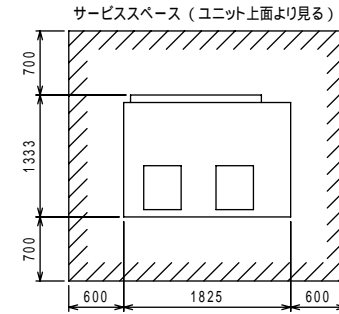
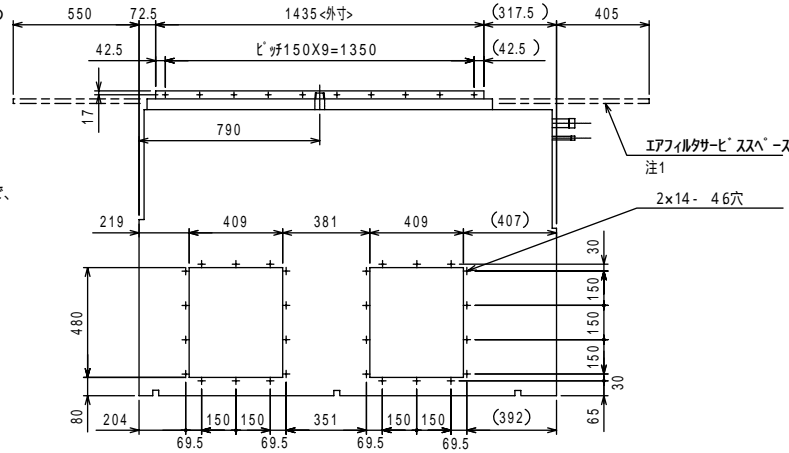
番号	名称
	NO.1 冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
	NO.1 冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	NO.2 冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
	NO.2 冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	ドレン配管 PT1-1/4おねじ
	加湿器接続口 PT1めねじ
	電源取入口 (穴は現地加工 30~60)
	室内外連絡線取入口(穴は現地加工 30~60)
	基礎ボルト用穴 4-20穴
	アース端子(制御箱内に設置)



配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。

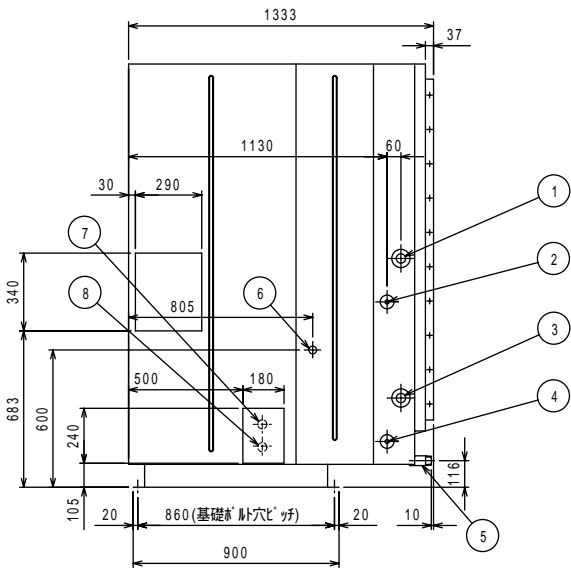
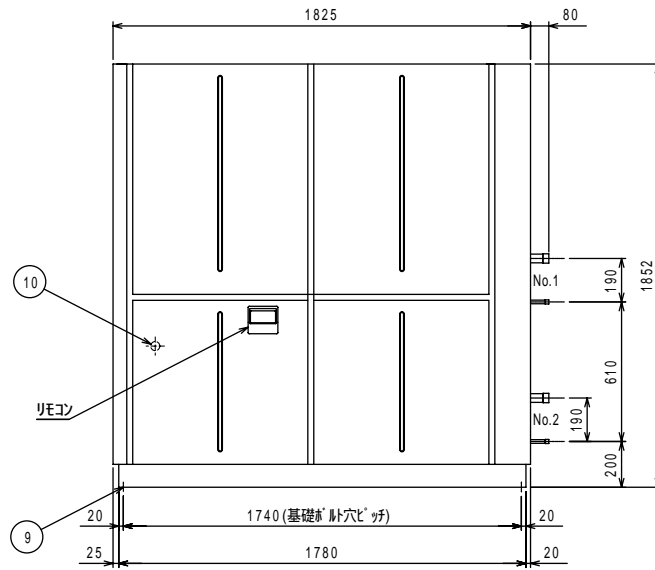
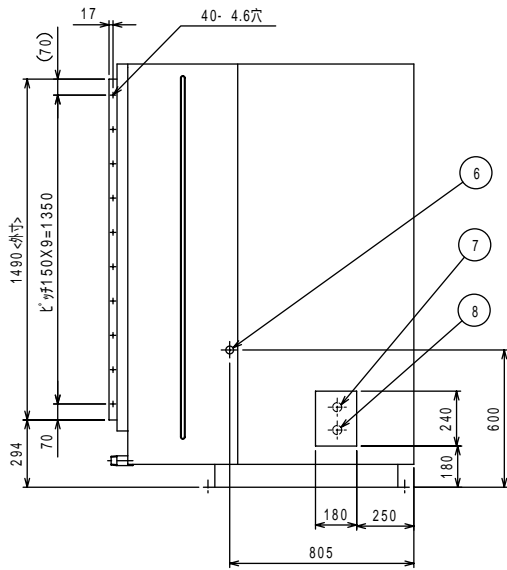


- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込はユニット左側面からが標準です。(右側面からの引込も可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方法はユニット左側面が標準ですが、右側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔を設けてください。



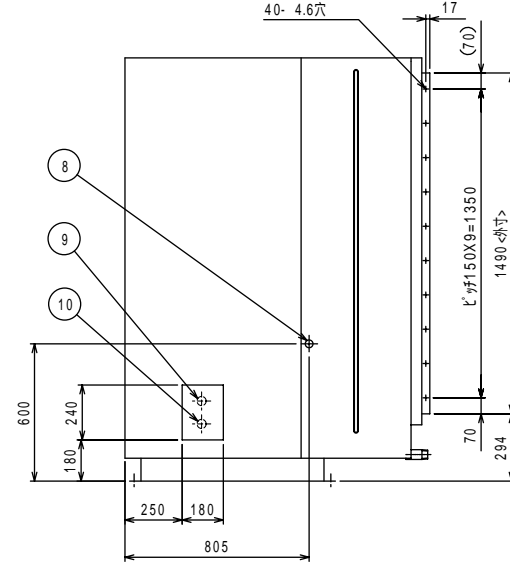
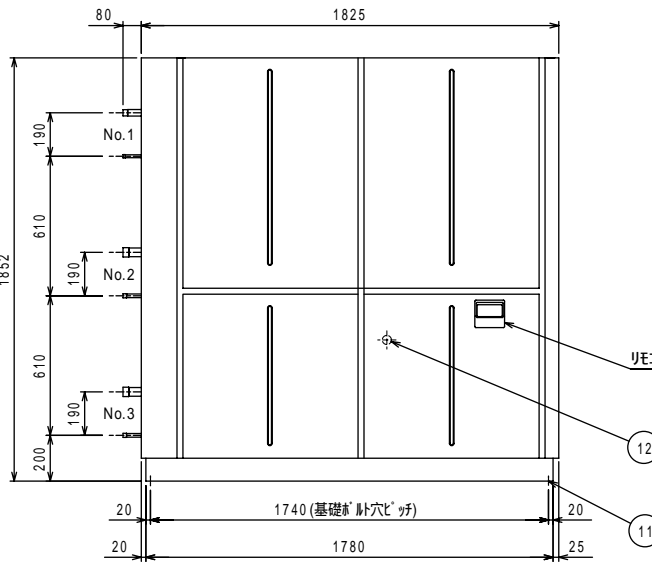
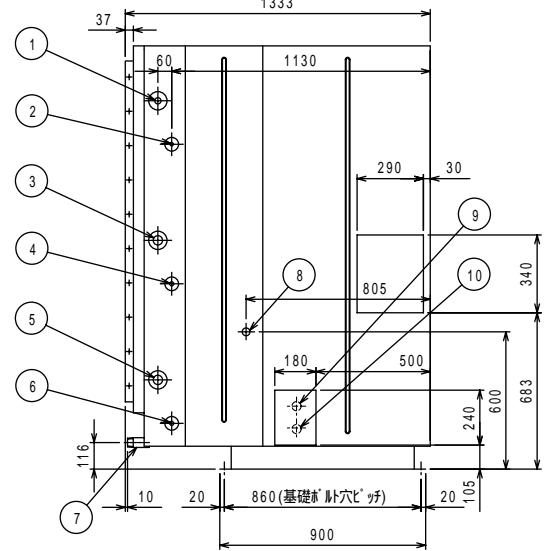
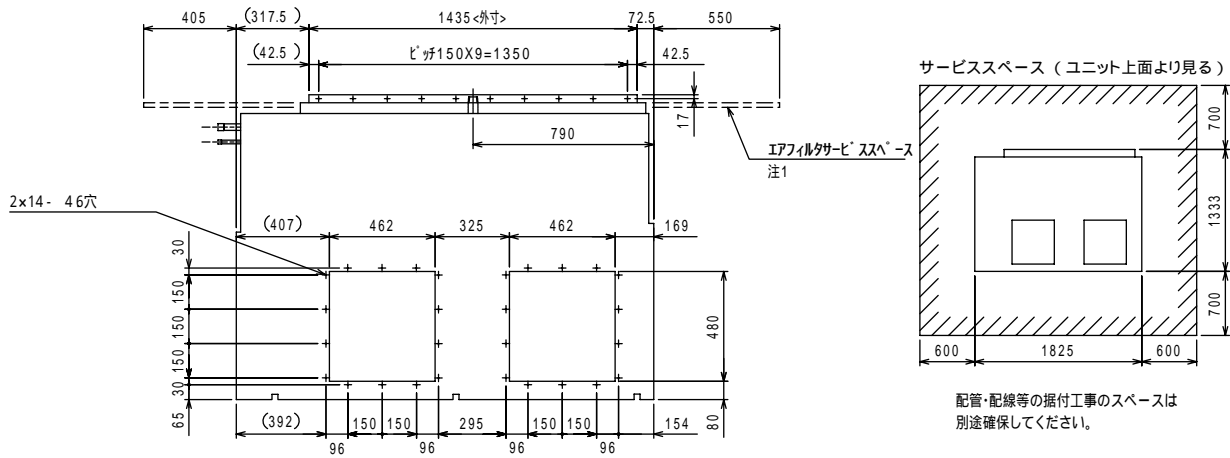
配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。

番号	名称
	No.1 冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
	No.1 冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	No.2 冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
	No.2 冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	ドレン配管 PT1-1/4おねじ
	加湿器接続口 PT1めねじ
	電源取入口 (穴は現地加工 30~60)
	室内外連絡線取入口(穴は現地加工 30~60)
	基礎ボルト用穴 4-20穴
	アース端子(制御箱内に設置)



- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込はユニット右側面からが標準です。(左側面からの引込も可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方法はユニット右側面が標準ですが、左側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔等を設けてください。

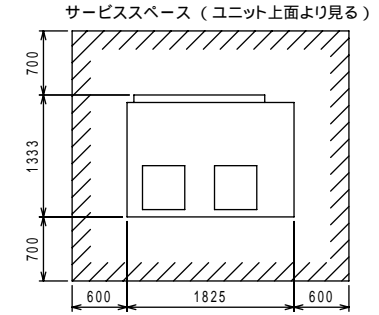
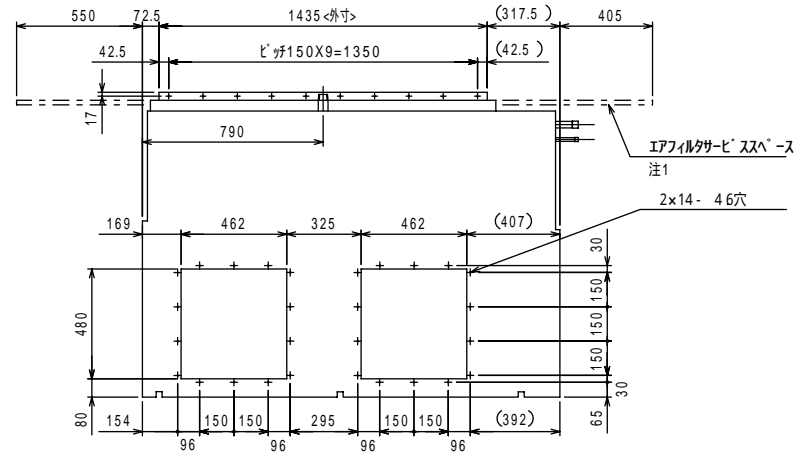
番号	名称
	No.1 冷媒配管(ガス) 25.4<ロウ付>
	No.1 冷媒配管(液) 12.7<ロウ付>
	No.2 冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
	No.2 冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	No.3 冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
	No.3 冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	ドレン配管 PT1-1/4おねじ
	加湿器接続口 PT1めねじ
	電源取入口 (穴は現地加工 30~60)
	室内外連絡線取入口(穴は現地加工 30~60)
	基礎ボルト用穴 4 - 20穴
	アース端子(制御箱内に設置)



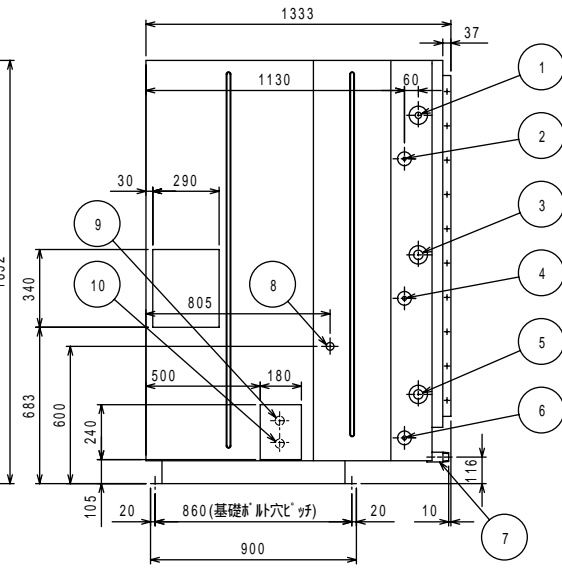
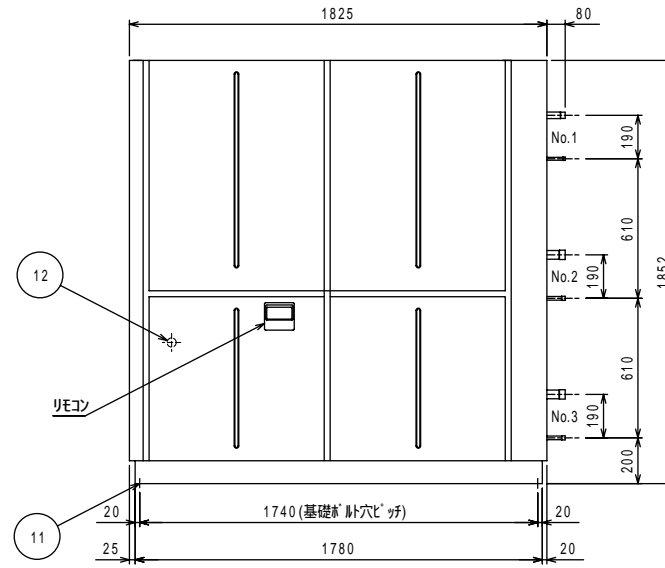
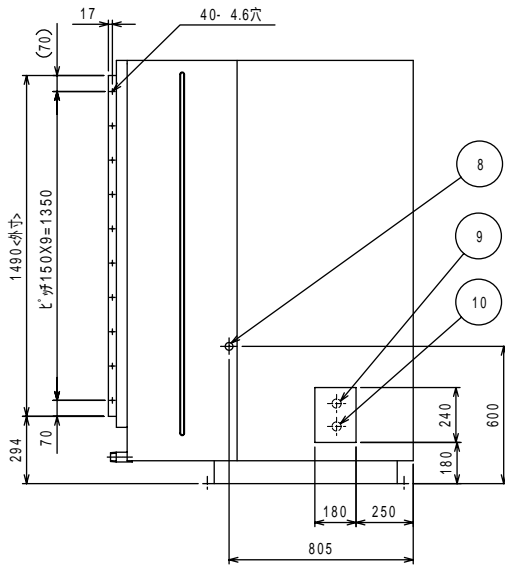


- 注1. エアフィルタサービススペース「印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込はユニット左側面からが標準です。  
(右側面からの引込も可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方法はユニット左側面が標準ですが、右側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔等を設けてください。

番号	名称
No.1	冷媒配管(ガス) 25.4<ロウ付>
No.1	冷媒配管(液) 12.7<ロウ付>
No.2	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.2	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
No.3	冷媒配管(ガス) 38.1<ロウ付>
No.3	冷媒配管(液) 15.88<ロウ付>
	ドレン配管 PT1-1/4おねじ
	加湿器接続口 PT1めねじ
	電源取入口 (穴は現地加工 30~60)
	室内外連絡線取入口 (穴は現地加工 30~60)
	基礎ボルト用穴 4-20穴
	アース端子(制御箱内に設置)

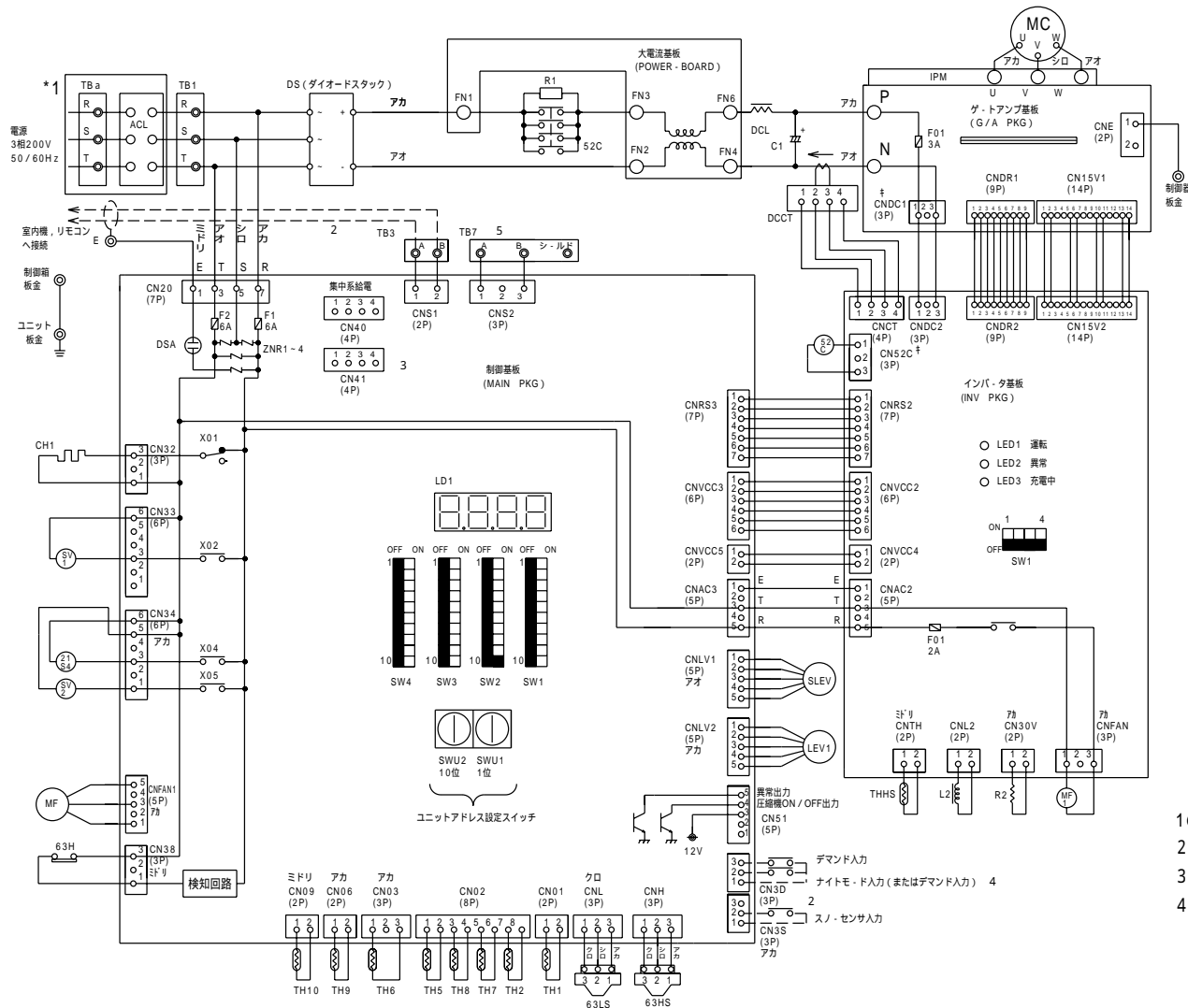


配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。



### 3.電気配線図

#### (1)室外ユニット PUHV-P224M-A

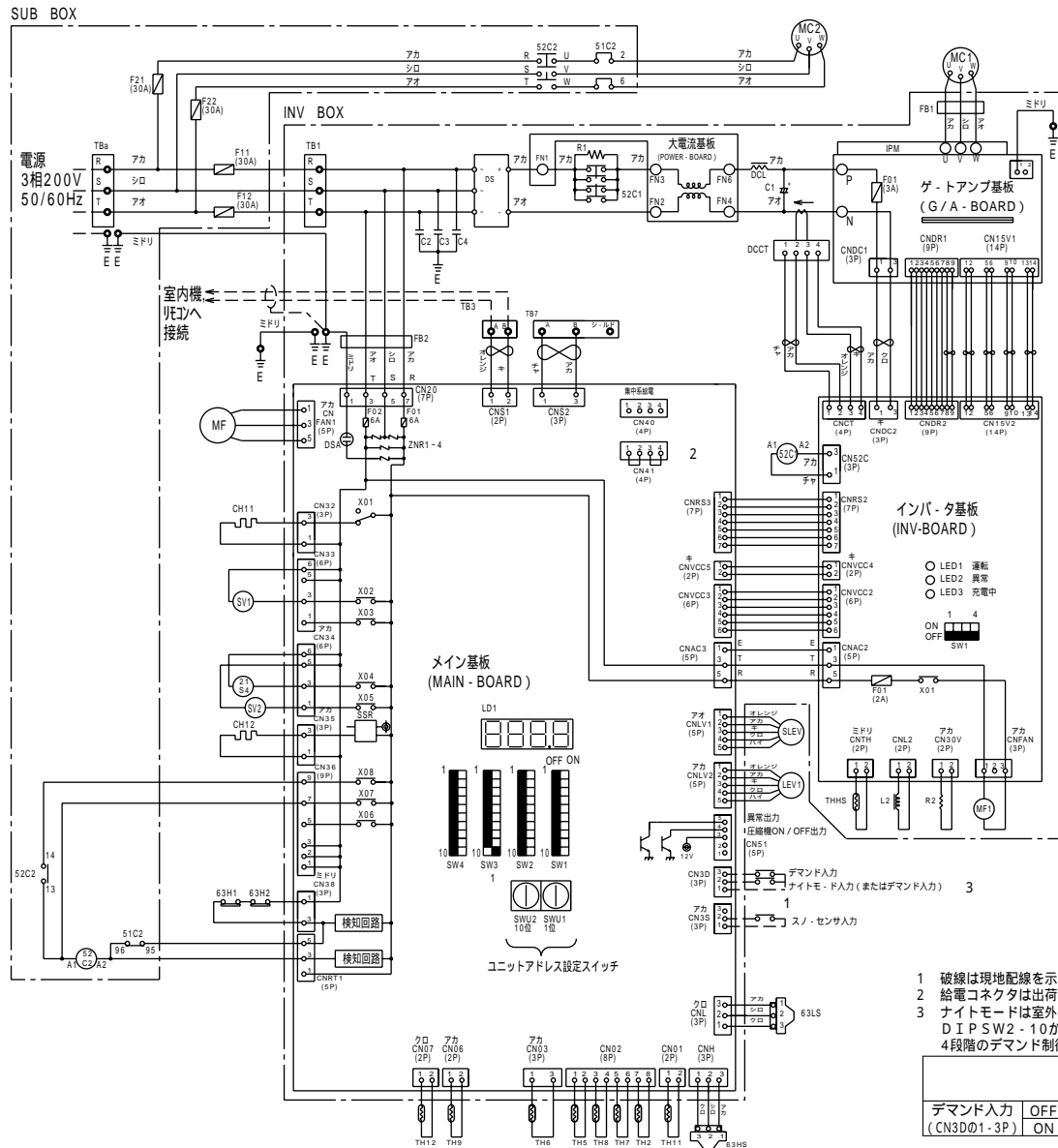


記号	名称
TB1	電源用端子台
TB3	伝送線用端子台(室内系用)
TB7	伝送線用端子台(集中管理用)
TB a	電源中継用端子台
E	アース端子
DCCT	電流センサ(直流電流)
R1	突入電流防止抵抗
R2	ブリダ抵抗
C1	主コンデンサ(平滑)
52C	電磁継電器(インバ-タ主回路)
MC	圧縮機用電動機
MF	送風機用電動機(熱交換器)
MF1	送風機用電動機(放熱板)
CH1	クランクケ-スヒ-タ(圧縮機)
21S4	四方弁
SV1, SV2	電磁弁(吐出-吸入バイパス)
63H	高圧圧力開閉器
TH1	サ-ミスタ(吐出配管温度検知)
TH2	サ-ミスタ(飽和蒸発温度検知)
TH5	サ-ミスタ(配管温度検知)
TH6	サ-ミスタ(外気温度検知)
TH7	サ-ミスタ(SCコイル液出口温度検知)
TH8	サ-ミスタ(SCコイル液入口温度検知)
TH9	サ-ミスタ(CS回路液温度検知)
TH10	サ-ミスタ(圧縮機シェル温度検知)
THHS	サ-ミスタ(放熱板)
63HS	高圧圧力センサ
63LS	低圧圧力センサ
SLEV	電子膨張弁(油戻し)
LEV1	電子膨張弁(SCコイル)
L2	チョ-クコイル(伝送)

- 1の部分は形名に-ACLが付く機種にのみ存在します。
- 破線は現地配線を示します。
- 給電コネクタは出荷時CN41に接続しています。
- ナイトモードは室外ユニットのDIPSW2-10がOFFの時に有効となります。DIPSW2-10がONの場合はナイトモード入力およびデマンド入力により4段階のデマンド制御が可能です。

		ナイトモード入力 (CN3D01-2P)	
		OFF	ON
デマンド入力 (CN3D01-3P)	OFF	100%デマンド	75%デマンド
	ON	0%デマンド	50%デマンド

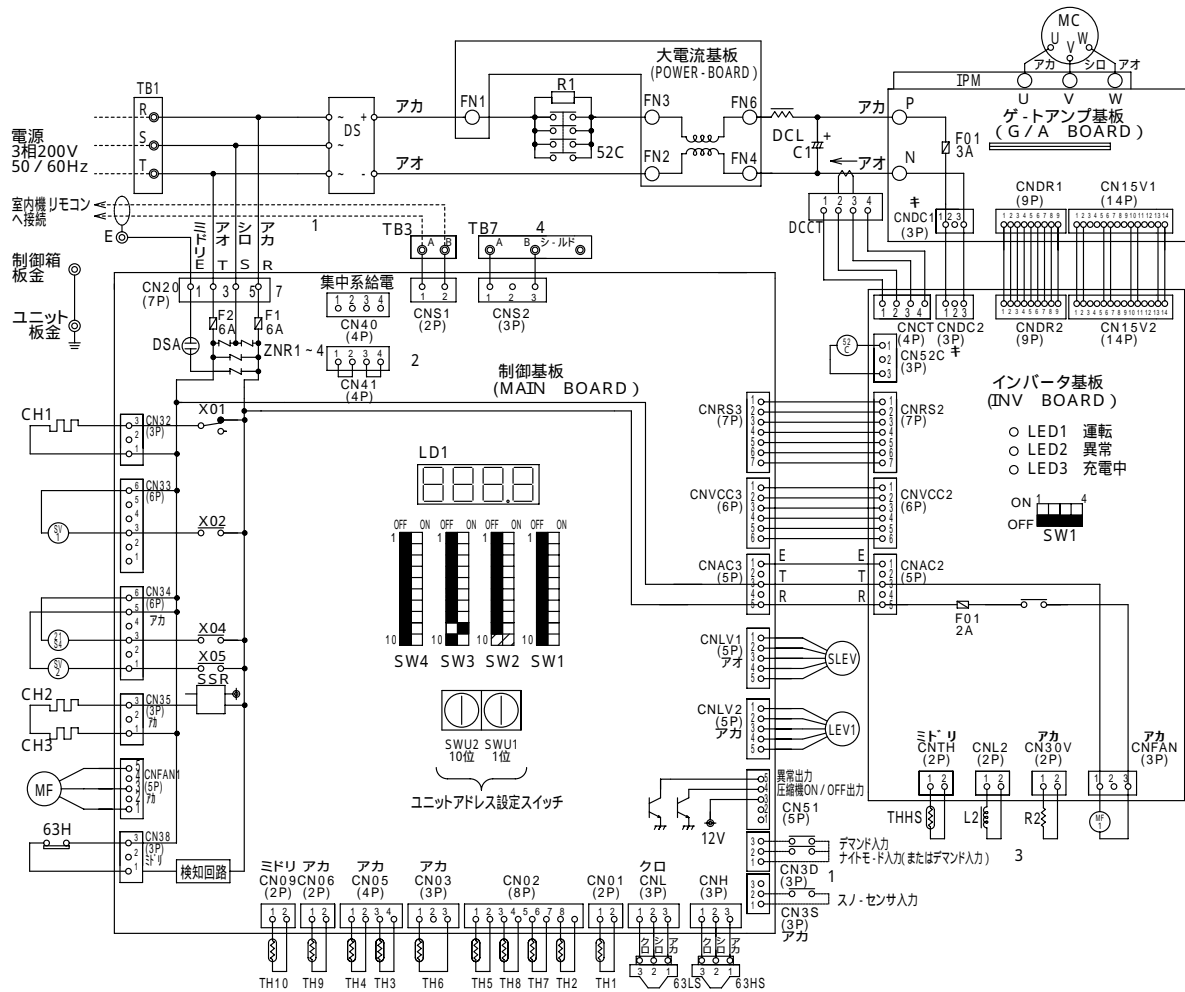
- 5の部分は室内ユニットの形名によって室外ユニットへ伝送線を接続する場合があります。  
(対象室内ユニット形名)  
PFAV-P800M-A(-F)  
PFAV-P1400M-A(-F)-L(R)



記号	名称
DCCT	電流センサ (直流電流)
R1	突入電流防止抵抗
R2	フリーダ抵抗
C1	主コンデンサ (平滑)
C2~4	コンデンサ
52C1	電磁継電器 (インバータ主回路)
52C2	電磁接触器 (No.2圧縮機)
51C2	過電流継電器 (No.2圧縮機)
MC1	No.1圧縮機 (インバータ駆動)
MC2	No.2圧縮機 (商用電源駆動)
MF	送風機用電動機 (熱交換器)
SLEV	電子膨張弁 (油戻し)
LEV1	電子膨張弁 (SCコイル)
CH11,12	クラックケースヒータ (圧縮機)
L2	チョークコイル (伝送)
21S4	四方弁
SV1.2	電磁弁 (吐出・吸入バイパス)
63H1,63H2	高圧圧力開閉器
63HS	高圧圧力センサ
63LS	低圧圧力センサ
TH11	サーミスタ (No.1圧縮機吐出温度)
TH12	サーミスタ (No.2圧縮機吐出温度)
TH2	サーミスタ (低圧飽和温度検知)
TH5	サーミスタ (配管温度検知)
TH6	サーミスタ (外気温度検知)
TH7	サーミスタ (SC3液体出口温度検知)
TH8	サーミスタ (SC3/M 吸入出口温度検知)
TH9	サーミスタ (組成検知高圧温度)
THHS	サーミスタ (インバータ放熱板温度)
FB1,2	フェライトコア
TB1	中継用端子台
TBa	電源用端子台
TB3	伝送線用端子台
TB7	集中管理用端子台
MF1	送風機用電動機 (放熱板)
E	アース端子

- 破線は現地配線を示します。
- 給電コネクタは出荷時CN41に接続しています。
- ナイトモードは室外ユニットのDIPSW2-10がOFFの時に有効となります。DIPSW2-10がONの場合はナイトモード入力およびデマンド入力により4段階のデマンド制御が可能です。

		ナイトモード入力 (CN3Dの1-2P)	
		OFF	ON
デマンド入力 (CN3Dの1-3P)	OFF	100%デマンド	75%デマンド
	ON	0%デマンド	50%デマンド

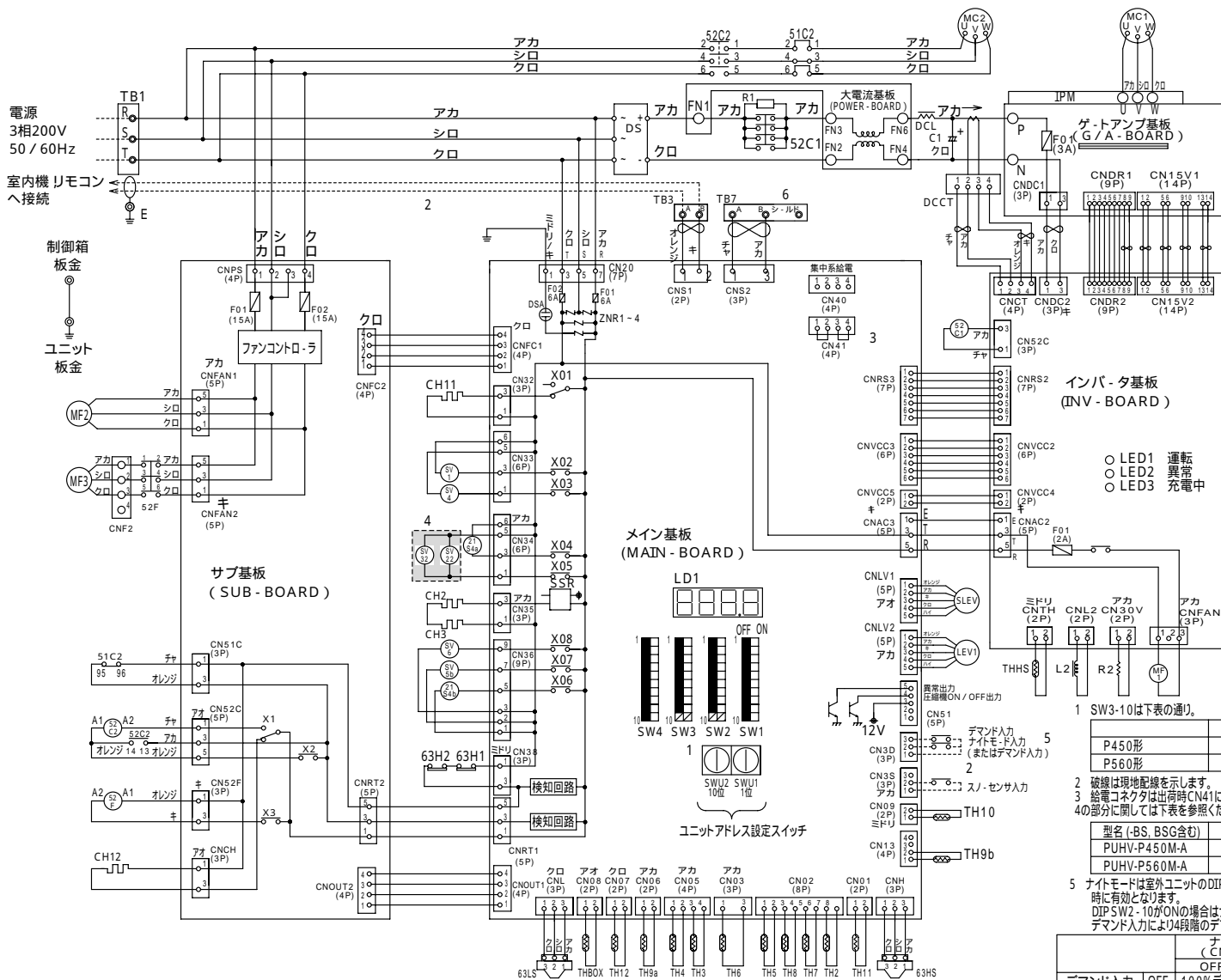


記号	名称	記号	名称
DS	ダイオ-ドスタック	TH10	サ-ミスタ(圧縮機シエル温度検知)
IPM	インテリジェントパワ-モジュール	THHS	サ-ミスタ(放熱板)
DCL	直流リアクトル	63HS	高圧圧力センサ
DCCT	電流センサ	63LS	低圧圧力センサ
R1	突入電流防止抵抗	SLEV	電子膨張弁(油戻し)
R2	プリアダ抵抗	LEV1	電子膨張弁(SCコイル)
		L2	チョ-クコイル(伝送)
ZNR1-4	バリスタ	X01	補助継電器
C1	主コンデンサ(平滑)	X02	補助継電器
52C	電磁継電器(インバ-タ主回路)	X04	補助継電器
MC	圧縮機用電動機	X05	補助継電器
MF	送風機用電動機(熱交換器)	LD1	発光ダイオ-ド(表示)
MF1	送風機用電動機(放熱板)	SW1	スイッチ(表示切換-自己診断)
DSA	アレスタ	SW2 SW3	スイッチ(モード切換)
SSR	ソリッドステ-トリレ-	SW4	スイッチ(組用設定機能切換)
CH1	クランクケ-スビ-タ(圧縮機)	SWU1-2	スイッチ(ユニットアドレス設定)
CH2 CH3	コ-ヒ-タ(アキュムレ-タ液面検知)	TB1	電源用端子台
21S4	四方弁	TB3	伝送線用端子台
SV1 SV2	電磁弁(吐出-吸入バイパス)	TB7	集中管理用端子台
63H	高圧圧力開閉器	CNCT	コネクタ(電流検知)
		CNVCC2, CNVCC3	コネクタ(制御電源)
TH1	サ-ミスタ(吐出配管温度検知)	CNRS2, CNRS3	コネクタ(シリアル通信信号)
TH2	サ-ミスタ(飽和蒸発温度検知)	CNAC2, CNAC3	コネクタ(交流電源)
TH3	サ-ミスタ(アキュムレ-タ液面検知下)	CNDC2, CNDC3	コネクタ(直流母線電源)
TH4	サ-ミスタ(アキュムレ-タ液面検知上)	CNDR2, CNDR3	コネクタ(INV信号)
TH5	サ-ミスタ(配管温度検知)	CN15V1, CN15V2	コネクタ(IPM駆動電源)
TH6	サ-ミスタ(外気温度検知)	E	ア-ス端子
TH7	サ-ミスタ(SCコイル液出口温度検知)		
TH8	サ-ミスタ(SCコイル液入口温度検知)		
TH9	サ-ミスタ(CS回路液温度検知)		

- 破線は現地配線を示します。
- 給電コネクタは受荷時CN41に接続しています。
- ナイトモードは室外ユニットのD I P S W 2 - 10がOFFの時に有効となります。  
D I P S W 2 - 10がONの場合はナイトモード入力およびデマンド入力により4段階のデマンド制御が可能です。

	ナイトモード入力 (CN3Dの1-2P)	
	OFF	ON
デマンド入力 (CN3Dの1-3P)	OFF	100%デマンド 75%デマンド
	ON	0%デマンド 50%デマンド

4 の部分は室外ユニットの形名によって、室外ユニットへ伝送線を接続する場合があります。  
(対象室内ユニット形名)  
PFAV-P670M-A(-F)



記号	名 称
DS	ダイオ-ドスタック
IPM	インテリジェントパワ-モジュ-ル
DCL	直流リアクトル
DCCT	電流センサ
R1	突入電流防止抵抗
R2	ブリ-ダ抵抗
ZNR1-4	バリスタ
C1	主コンデンサ(平滑)
52C1	電磁継電器(インバ-タ主回路)
52C2	電磁接触器(No2圧縮機)
51C2	過電流継電器(No2圧縮機)
MC1	No1圧縮機(インバ-タ駆動)
MC2	No2圧縮機(商用電源駆動)
MF1	送風機用電動機(制御箱)
MF2,3	送風機用電動機(熱交換器)
DSA	アレスタ
SSR	ソリッドステ-トリル-
52F	電磁接触器(送風機)
SLEV	電子膨張弁(油戻し)
LEV1	電子膨張弁(SCコイル)
CH11,12	クラウンケ-スヒ-タ(圧縮機)
CH2,CH3	コ-ヒ-タ(アクチュレ-タ液面検知)
21S4a,b	四方弁
SV1,4,6	電磁弁(吐出-吸入バイパス)
SV22,32	電磁弁(No2圧縮機容量制御)
SV5b	電磁弁(熱交換器容量制御)
6,3H1,6,3H2	高圧圧力閉閉器
6,3H5	高圧圧力センサ
6,3LS	低圧圧力センサ
TH11	サ-ミス外(No1圧縮機吐出温度)
TH12	サ-ミス外(No2圧縮機吐出温度)
TH2	サ-ミス外(低圧飽和温度検知)
TH3	サ-ミス外(アクチュレ-タ液面検知下)
TH4	サ-ミス外(アクチュレ-タ液面検知上)
TH5	サ-ミス外(配管温度検知)
TH6	サ-ミス外(外気温度検知)
TH7	サ-ミス外(SCコイル液出口温度検知)
TH8	サ-ミス外(SC2/M 体 入口温度検知)
TH9a	サ-ミス外(SC2/M 体 入口温度検知)
TH9b	サ-ミス外(CS回路液温度検知)
TH10	サ-ミス外(圧縮機シェル温度検知)
THHS	サ-ミス外(インバ-タ放熱板温度)
THBOX	サ-ミス外(ヒ-タ放熱板温度)
L2	チ-ココイル(伝送)
LD1	発光ダイ-ド(表示)
SW1	スイッチ(表示切換-自己診断)
SW2,SW3,SW4	スイッチ(モード切換)
SWU1,2	スイッチ(ユニットアドレス設定)
TB1	電源用端子台
TB3	伝送線用端子台
TB7	集中管理用端子台
CNCT	コネクタ(電流検知)
CNVC2,CNVC3	コネクタ(制御電源)
CNVC4,CNVC5	コネクタ(制御電源)
CNRS2,CNRS3	コネクタ(シリアル通信信号)
CNAC2,CNAC3	コネクタ(交流電源)
CNDC1,CNDC2	コネクタ(直流母線電源)
CNDR1,CNDR2	コネクタ(INV信号)
CN15V1,CN15V2	コネクタ(IPM駆動電源)
CNFC1,CNFC2	コネクタ(ファンコントロー-ル出力)
CNOUT1,CNOUT2	コネクタ(リレ-出力)
CNRT1,CNRT2	コネクタ(交流電源)
E	ア-ス端子

1 SW3-10は下表の通り。

	SW3-10
P450形	ON
P560形	OFF

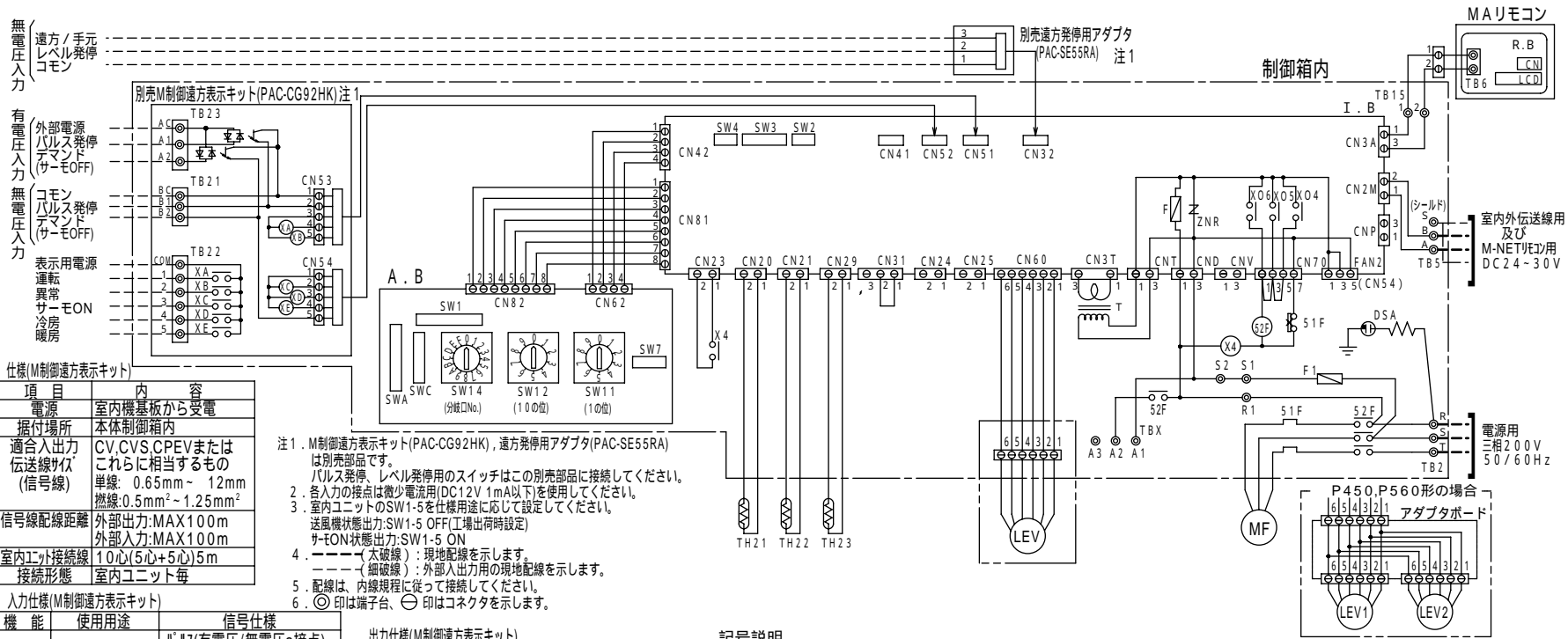
2 破線は現地配線を示します。  
 3 給電コネクタは出荷時CN41に接続しています。  
 4の部分に関しては下表を参照ください。

型名(-BS, BSG含む)	存在しない部分
PUHV-P450M-A	4
PUHV-P560M-A	

5 ナイトモードは室外ユニットのDIPSW2-10がOFFの時に有効となります。  
 DIPSW2-10がONの場合はナイトモード入力およびデマンド入力により4段階のデマンド制御が可能です。

ナイトモード入力 (CN3Dの1-2P)	
OFF	ON
デマンド入力 OFF	100%デマンド
デマンド入力 ON	0%デマンド
	75%デマンド
	50%デマンド

6の部分は室内ユニットの形名によって、室外ユニットへ伝送線を接続する場合があります。  
 (対象室内ユニット形名)  
 PFAV-P800M-A(-F) PFAV-P1400M-A(-F)(-L)(R)  
 PFAV-P1120M-A(-F)(-L)(R) PFAV-P1600M-A(-F)(-L)(R)



仕様(M制御遠方表示キット)

項目	内容
電源	室内機基板から受電
据付場所	本体制御箱内
適合入出力伝送線サイズ(信号線)	CV,CVSCPEVまたはこれらに相当するもの 単線: 0.65mm~12mm 熱線: 0.5mm <sup>2</sup> ~1.25mm <sup>2</sup>
信号線配線距離	外部出力: MAX100m 外部入力: MAX100m
室内ユニット接続線	10心(5心+5心)5m
接続形態	室内ユニット毎

入力仕様(M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
パルス発停(注1)(注2)	ON/OFF指令を出すことができます。	パルス(有電圧/無電圧a接点) (有電圧の場合) 電源: DC12V~24V 電流: 数10mA(DC12V時) 200ms以上
レベル発停(注1)(注2)	ON/OFF指令を出すことができます。	遠方/手元 ON OFF リモコン 運転/停止は運転操作ができません レベルON 運転 運転/停止は発停OFF 停止 できません
デマンド(注2)	デマンド指令(サ-EOFF)を出すことができます。	パルス(有電圧/無電圧a接点) (有電圧の場合) 電源: DC12V~24V 電流: 約10mA(DC12V時)

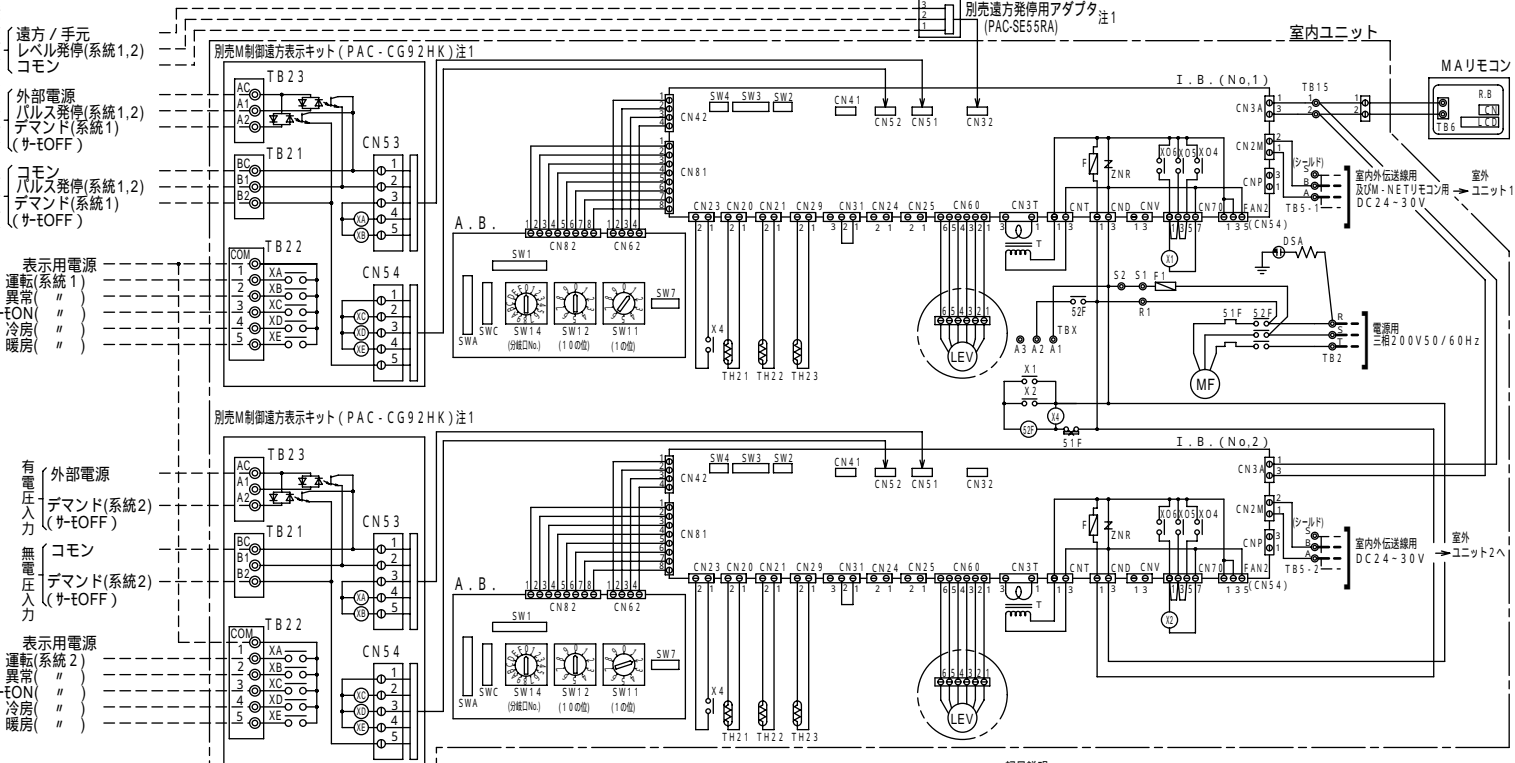
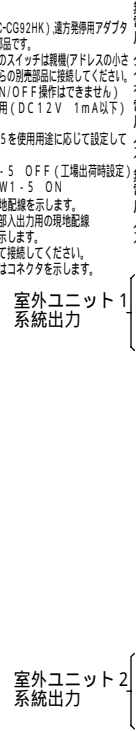
出力仕様(M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
運転状態	外部へ運転状態の信号が取り出せます。	リレーa接点出力 DC30Vまたは AC100V/200V 接点定格電流: 1A 接点最小負荷: 10mA
異常	外部へ異常の信号が取り出せます。	
送風機・サ-EOON状態(注3)	外部へ送風機状態・サ-EOON状態の信号が取り出せます。	
冷房状態	外部へ冷房運転の信号が取り出せます。	
暖房状態	外部へ暖房運転の信号が取り出せます。	

記号説明

記号	名称	記号	名称	記号	名称
MF	送風機用電動機	CN32	コネクタ(遠方切替)	X4	補助継電器(送風機用)
I.B.	室内コントローラボード	CN41	コネクタ(HA入力)	SW11(A.B.)	スイッチ(アドレス設定用1の位)
A.B.	アドレスキバン	CN51	コネクタ(集中管理)	SW12(A.B.)	スイッチ(アドレス設定用10の位)
TB2	電源端子台	CN52	コネクタ(遠方表示)	SW14(A.B.)	スイッチ(分岐口No.ベアNo.設定用)
TB5	伝送端子台	CN24	コネクタ(補助ヒータ用)	SW7(A.B.)	スイッチ(機種設定)
TB15	MAリモコン用端子台	CN25	コネクタ(加湿器)	SW1(A.B.)	スイッチ(機能切替)
F	ヒューズ<6A>	CNP	コネクタ(暖房ヒータ)	SWA(A.B.)	スイッチ(試運転用)
ZNR	バリスタ	CNV	コネクタ(霜取運転時出力)	SWC(A.B.)	スイッチ(機能切替)
T	電源トランス	TH21	室温検出用サーミスタ	SW2(I.B.)	スイッチ(能力設定)
LEV	電子式リア膨張弁	TH22	配管温度検出用サーミスタ(液)	SW3(I.B.)	スイッチ(機能切替)
52F	補助継電器(送風機用)	TH23	配管温度検出用サーミスタ(ガス)	SW4(I.B.)	スイッチ(機種設定)
51F	熱動過電流継電器	TBX	別売接続用端子台	XA~XE	補助継電器
F1	ヒューズ<10A>	DSA	アレスタ	TB21・22・23	入出力用端子台

- 注1. M制御遠方表示キット(PAC-CG92HK) 遠方発停用アダプタ(PAC-SE55RA)は別売品です。  
 パルス発停、レベル発停用のスイッチは規格(アドレスの小さい方に)接続されているこれらの別売部品に接続してください。(手権に接続しても、ON/OFF操作はできません)  
 2. 各入力の接続は微小電流用(DC12V 1mA以下)を使用してください。  
 3. 室内ユニットのSW1-5を使用用途に応じて設定してください。  
 送風機状態出力: SW1-5 OFF (工場出荷時設定)  
 サーマン状態出力: SW1-5 ON  
 4. --- (太破線): 現地配線を示します。  
 - - - (細破線): 外部入出力用の現地配線を示します。  
 5. 配線は、内線規程に従って接続してください。  
 6. ⊙印は端子台、⊖印はコネクタを示します。



仕様 (M制御遠方表示キット)

項目	内容
電源	室内機基板から受電
据付場所	本体制御箱内
適合入出力	CV, CVS, CPEVまたはこれらに相当するもの
伝送線サイズ (信号線)	単線: 0.65mm <sup>2</sup> - 1.2mm <sup>2</sup> 熱線: 0.5mm <sup>2</sup> - 1.25mm <sup>2</sup>
信号線配線距離	外部出力: max 100m 外部入力: max 100m
室内ユニット接続線	1.0心(5心+5心) 5m
接続形態	同一室内ユニット内に複数冷暖系統がある場合は、各系統の室内制御基板毎に必要

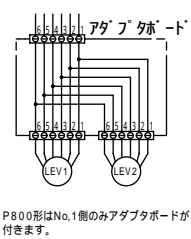
入力仕様 (M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
パルス発停 (注1)	室外ユニット1、室外ユニット2両系統に同時にON/OFF指令を出すことができます。	パルス (有電圧/無電圧a接点) 有電圧の場合 電圧: DC12V - 24V 電流: 約10mA (DC12V時) 入力電圧 200ms以下
レベル発停 (注2)	室外ユニット1、室外ユニット2両系統に同時にON/OFF指令を出すことができます。	遠方/手元 ON OFF リモコン 運転/停止はできません レベル ON 運転 運転/停止はできません 後 OFF 停止 はできません
デマンド (注2)	室外ユニット1、室外ユニット2各系統個別にデマンド指令 (サーモOFF) を出すことができます。	レベル (有電圧/無電圧接点) 電圧: DC12V - 24V 電流: 約10mA (DC12V時)

出力仕様 (M制御遠方表示キット)

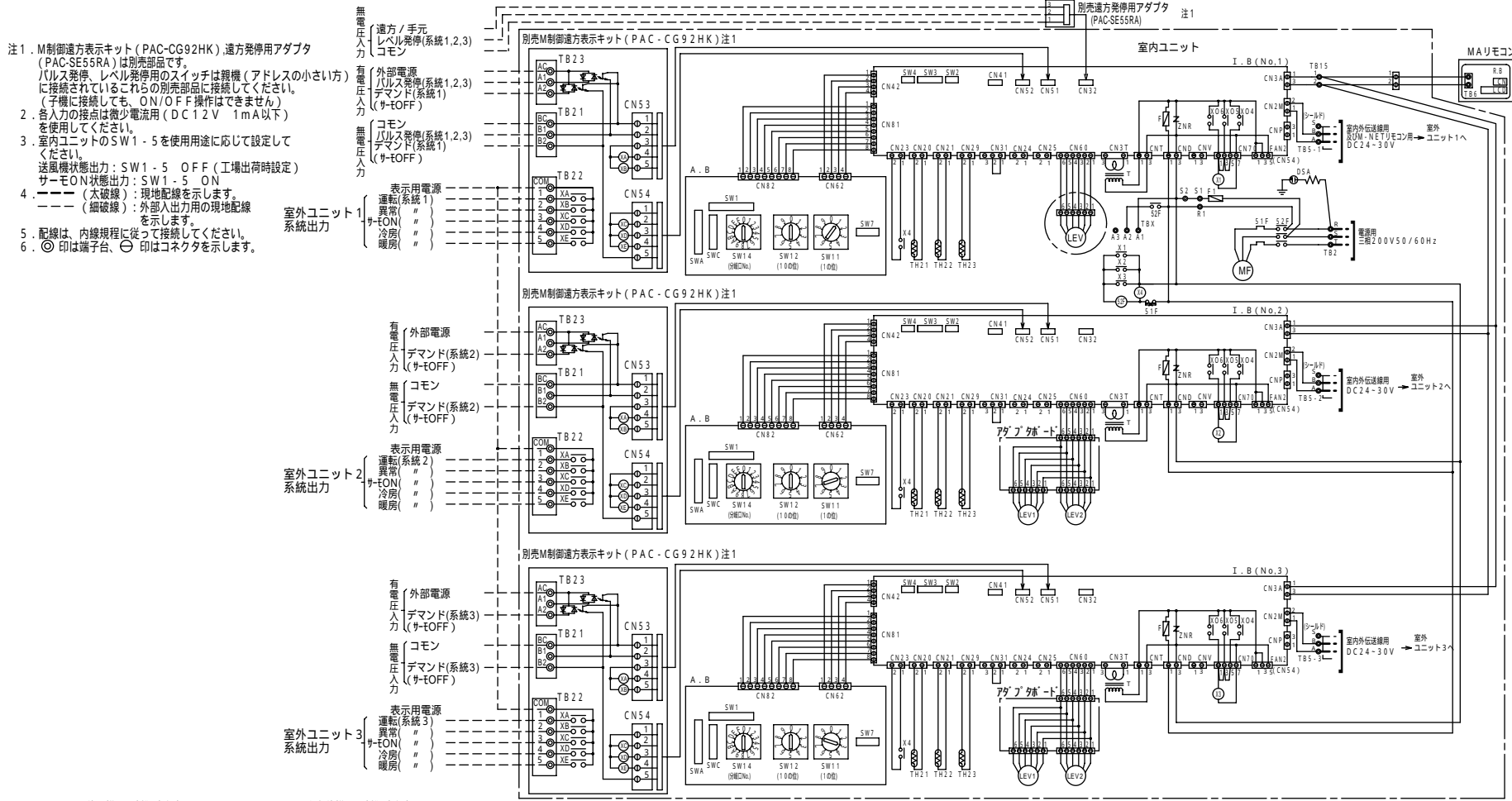
機能	使用用途	信号仕様
運転状態	室外ユニット系統毎に外部へ運転状態の信号が取り出せます	
異常	各ユニット系統毎に外部へ異常の信号が取り出せます	リレー-a接点出力 DC30Vまたは AC100V/200V 接点定格電流: 1A 接点最小負荷: 1.0mA
送風機・サーモON状態 (注3)	外部へ送風機状態、サーモON状態の信号が取り出せます	
冷房状態	室外ユニット系統毎に外部へ冷房運転の信号が取り出せます	
暖房状態	室外ユニット系統毎に外部へ暖房運転の信号が取り出せます	

P800, P1120形の場合



記号説明

記号	名称	記号	名称
MF	送風機用電動機	CN32	コネクタ (遠方切換)
I.B.	室内コントロールボード	CN41	コネクタ (H/A入力)
A.B.	アドレスキヤン	CN51	コネクタ (集平管理)
TB2	接合端子台	CN52	コネクタ (遠方表示)
TB5-1,2	熱交換器台 (No.1,2)	CN54	コネクタ (補助ヒータ用)
TB15	M.A.リモコン用端子台	CN25	コネクタ (加湿機)
F	ヒューズ < 6A >	CNP	コネクタ (暖房ヒータ)
ZNR	バリスタ	CNV	コネクタ (運転転送時出力)
T	電源トランス	SW11(A.B.)	スイッチ (アドレス設定用 1の位)
LEV	電子式リニア膨張弁	SW12(A.B.)	スイッチ (能力設定)
52F	補助電圧器 (送風機用)	SW14(A.B.)	スイッチ (分岐口No.ペアNo.設定用)
51F	熱動過電流保護器	SW7(A.B.)	スイッチ (機能設定)
F1	ヒューズ < 1.0A >	SW1(A.B.)	スイッチ (機能切換)
TH21	室温検出用サーミスタ	SWA(A.B.)	スイッチ (送風機用)
TH22	配管温度検出用サーミスタ (液)	SWC(A.B.)	スイッチ (機能切換)
TH23	配管温度検出用サーミスタ (ガス)	SW2(B.B.)	スイッチ (能力設定)
TBX	別売接続用端子台	SW3(B.B.)	スイッチ (機能切換)
DSA	アドレス	SW4(B.B.)	スイッチ (機能設定)
X1.2,4	補助電圧器 (送風機用)	XA-XE	補助電圧器
		TB21,22,23	入出力用端子台



注1. M制御遠方表示キット (PAC-CG92HK) 遠方発停用アダプタ (PAC-SE55RA) は別売部品です。パルス発停、レベル発停用のスイッチは親機 (アドレスの小さい方) に接続されているこれらの別売部品に接続してください。(子機に接続しても、ON/OFF操作はできません)

2. 各入力の接続は微小電流用 (DC12V 1mA以下) を使用してください。

3. 室内ユニットのSW1-5を使用用途に応じて設定してください。

送風機状態出力: SW1-5 OFF (工場出荷時設定)  
サーモON状態出力: SW1-5 ON

4. --- (太線): 現地配線を示します。  
- - - (細線): 外部入出力用の現地配線を示します。

5. 配線は、内線規程に従って接続してください。

6. ⊙印は端子台、⊖印はコネクタを示します。

室外ユニット1 系統出力

- 表示用電源
- 運転(系統1)
- 異常
- サーモON
- 冷房
- 暖房

室外ユニット2 系統出力

- 表示用電源
- 運転(系統2)
- 異常
- サーモON
- 冷房
- 暖房

室外ユニット3 系統出力

- 表示用電源
- 運転(系統3)
- 異常
- サーモON
- 冷房
- 暖房

仕 様 (M制御遠方表示キット)

項目	内容
電源	室内機基盤から受電
配付場所	本体制御箱内
適合入出力	CV, CVS, CPEVまたはこれらに相当するもの
伝送線サイズ (信号線)	単線: 0.65mm <sup>2</sup> - 1.2mm <sup>2</sup> 総線: 0.5mm <sup>2</sup> - 1.25mm <sup>2</sup>
信号線配線距離	外部出力: max 100m 外部入力: max 100m
室内ユニット毎	1.0心 (5心 + 5心) 5m
接続形態	室内-室内ユニット内に複数冷暖系統がある場合は、各系統の室内制御基板毎に必要

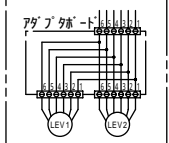
入力仕様 (M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
パルス発停	室外ユニット1-3全系統同時にON/OFF指令を出すことができます。(注1)(注2)	パルス (有電圧/無電圧a線点) 電圧: DC12V - 24V 電流: 約10mA (DC12V時) パルス幅: 200ms以上
レベル発停	室外ユニット1-3全系統同時にON/OFF指令を出すことができます。(注1)(注2)	遠方/手元 ON/OFF リモコン 運転/停止 運転/停止 レベルON レベルOFF
デマンド	室外ユニット1-3各系統個別にデマンド指令 (サーモOFF) を出すことができます。	レベル (有電圧/無電圧接点) 有電圧の場合 電圧: DC12V - 24V 電流: 約10mA (DC12V時)

出力仕様 (M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
運転状態	室外ユニット系統毎に外部へ運転状態の信号が取り出せます	
異常	各ユニット系統毎に外部へ異常の信号が取り出せます	リレーa接点出力 DC30Vまたは AC100V/200V 接点定格電流: 1A 接点最小負荷: 10mA
送風機サーモON状態	外部へ送風機状態、サーモON状態の信号が取り出せます (注3)	
冷房状態	室外ユニット系統毎に外部へ冷房運転の信号が取り出せます	
暖房状態	室外ユニット系統毎に外部へ暖房運転の信号が取り出せます	

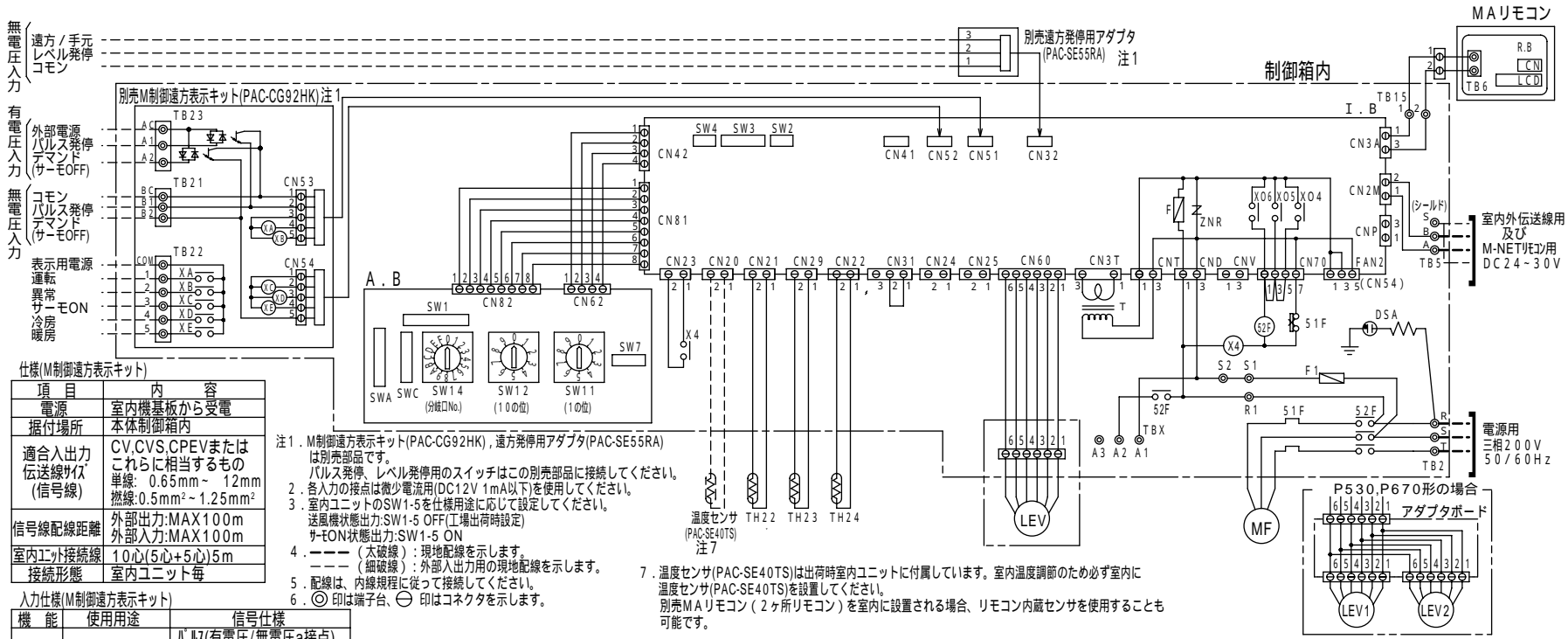
P1600形の場合



記号説明

記号	名称	記号	名称
MF	送風機用電動機	CN32	コネクタ (遠方切換)
I.B.	室内コントローラボード	CN41	コネクタ (H/A入力)
A.B.	アドレスパン	CN51	コネクタ (集管管理)
TB2	電源端子台	CN52	コネクタ (遠方表示)
TB5-1,2,3	伝送端子台 (No.1,2,3)	CN24	コネクタ (補助ヒータ用)
TB15	MAリモコン用端子台	CN25	コネクタ (加熱器)
ZNR	パルス	CNP	コネクタ (機能切換)
T	電圧トランス	CNV	コネクタ (霜融運転出力)
LEV	電子式リニア膨張弁	SW11(A,B)	スイッチ (アドレス設定用 1の位)
SW1	補助送風機 (送風機用)	SW12(A,B)	スイッチ (アドレス設定用 10の位)
S1F	自動送風機	SW14(A,B)	スイッチ (分岐口NオペアNo.設定用)
F1	ヒューズ<1.0A>	SW7(A,B)	スイッチ (機能切換)
TH21	室温検出用サーミスタ	SWA(A,B)	スイッチ (送風機用)
TH22	配管温度検出用サーミスタ (液)	SWC(A,B)	スイッチ (機能切換)
TH23	配管温度検出用サーミスタ (ガス)	SW2(B)	スイッチ (能力設定)
TBX	別売接続用端子台	SW3(B)	スイッチ (機能切換)
DSA	アドレス	SW4(B)	スイッチ (機能設定)
X1,2,3,4	補助送風機 (送風機用)	XA-XE	補助送風機
		TB21,22,23	補助送風機





仕様(M制御遠方表示キット)

項目	内容
電源	室内機基板から受電
据付場所	本体制御箱内
適合入出力伝送線径(信号線)	CV, CVS, CPEVまたはこれらに相当するもの 単線: 0.65mm <sup>2</sup> ~ 1.2mm <sup>2</sup> 燃線: 0.5mm <sup>2</sup> ~ 1.25mm <sup>2</sup>
信号線配線距離	外部出力: MAX 100m 外部入力: MAX 100m
室内工口接続線	10心(5心+5心) 5m
接続形態	室内ユニット毎

入力仕様(M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様	
		ON	OFF
パルス発停 (注1) (注2)	ON/OFF指令を出すことができます。	パルス(有電圧/無電圧a接点) (有電圧の場合) 電源: DC12V ~ 24V 電流: 数10mA (DC12V時) 200ms以上	
		遠方/手元	
レベル発停 (注1) (注2)	ON/OFF指令を出すことができます。	ON	OFF
		レベル発停 (注1) (注2)	ON/OFF レベル発停 (注1) (注2)
デマンド (注2)	デマンド指令(サーモOFF)を出すことができます。	パルス(有電圧/無電圧a接点) (有電圧の場合) 電源: DC12V ~ 24V 電流: 約10mA (DC12V時)	
		ON	OFF

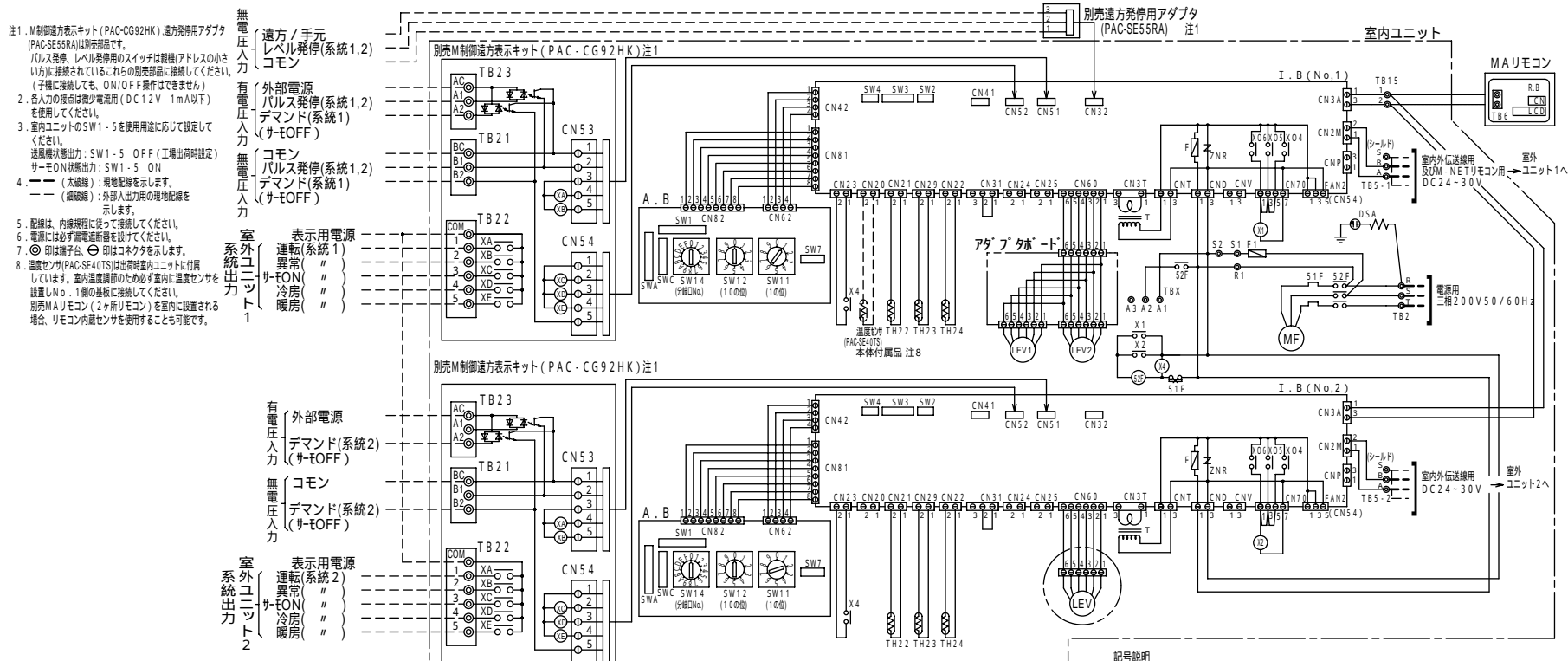
出力仕様(M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
運転状態	外部へ運転状態の信号が取り出せます。	リレーa接点出力 DC30Vまたは AC100V/200V 接点定格電流: 1A 接点最小負荷: 10mA
異常	外部へ異常の信号が取り出せます。	
送風機・サーモON状態 (注3)	外部へ送風機状態・サーモON状態の信号が取り出せます。	
冷房状態	外部へ冷房運転の信号が取り出せます。	
暖房状態	外部へ暖房運転の信号が取り出せます。	

- 注1. M制御遠方表示キット(PAC-CG92HK), 遠方発停用アダプタ(PAC-SE55RA)は別売部品です。  
 注2. 各入力の接点は微小電流用(DC12V 1mA以下)を使用してください。  
 注3. 室内ユニットのSW1-5を仕様用途に応じて設定してください。  
 送風機状態出力: SW1-5 OFF (工場出荷時設定)  
 サーモON状態出力: SW1-5 ON  
 注4. --- (太破線): 現地配線を示します。  
 - - - (細破線): 外部入出力用の現地配線を示します。  
 注5. 配線は、内線規程に従って接続してください。  
 注6. ⊙印は端子台、○印はコネクタを示します。  
 注7. 温度センサ(PAC-SE40TS)は出荷時室内ユニットに付属しています。室内温度調節のため必ず室内に温度センサ(PAC-SE40TS)を設置してください。  
 別売MAリモコン(2ヶ所リモコン)を室内に設置される場合、リモコン内蔵センサを使用することも可能です。

記号説明

記号	名称	記号	名称	記号	名称
MF	送風機用電動機	CN32	コネクタ(遠方切換)	X4	補助継電器(送風機用)
I.B.	室内コントローラボード	CN41	コネクタ(HA入力)	SW11(A.B)	スイッチ(アドレス設定用1の位)
A.B.	アドレスキパン	CN51	コネクタ(集中管理)	SW12(A.B)	スイッチ(アドレス設定用1.0の位)
TB2	電源端子台	CN52	コネクタ(遠方表示)	SW14(A.B)	スイッチ(分岐口No.ペアン0.設定用)
TB5	伝送端子台	CN24	コネクタ(補助ヒータ用)	SW7(A.B)	スイッチ(機種設定)
TB15	MARリモコン用端子台	CN25	コネクタ(加湿器)	SW1(A.B)	スイッチ(機能切換)
F	ヒューズ<6A>	CNP	コネクタ(暖房ヒータ)	SWA(A.B)	スイッチ(試運転用)
ZNR	バリスタ	CNV	コネクタ(霜取運転時出力)	SWC(A.B)	スイッチ(機能切換)
T	電源トランス	CH22	配管温度検出用サーミスタ(液)	SW2(L.B)	スイッチ(能力設定)
LEV	電子式リニア膨張弁	TH23	配管温度検出用サーミスタ(ガス)	SW3(L.B)	スイッチ(機能切換)
52F	補助継電器(送風機用)	TH24	外気温度検出用サーミスタ	SW4(L.B)	スイッチ(機種設定)
51F	熱動過電流継電器	TBX	別売接続用端子台	XA~XE	補助継電器
F1	ヒューズ<1.0A>	DSA	アレスタ	TB21・22・23	入出力用端子台



- 注1. M制御遠方表示キット (PAC-CG92HK) 遠方発停用アダプタ (PAC-SE55RA)は別売部品です。  
 パルス発停、レベル発停用のスイッチは縦横アドレスの小さい方に接続されているこれらの別売部品に接続してください。  
 (子供に接続しても、ON/OFF操作はできません)  
 2. 各入力端子は微小電流用 (DC12V 1mA以下) を使用してください。  
 3. 室内ユニットのSW1-5を使用用途に応じて設定してください。  
 送風機状態出力: SW1-5 OFF (工場出荷時設定)  
 サーマン状態出力: SW1-5 ON  
 4. --- (太線): 現地配線を示します。  
 - - - (細線): 外部入力用の現地配線を示します。  
 5. 配線は、内線規程に従って接続してください。  
 6. 電源には必ず漏電遮断器を設けてください。  
 7. ⊕印は端子台、⊖印はコネクタを示します。  
 8. 温度センサ(PAC-SE40TS)は出荷時室内ユニットに付属しています。室内温度調節のため必ず室内に温度センサを設置し、1階の基礎に接続してください。  
 別売MAリモコン(2ヶ所リモコン)を室内に設置される場合、リモコン内蔵センサを使用することも可能です。

仕 様 (M制御遠方表示キット)

項目	内容
電源	室内機基板から受電
据付場所	本体制御室内
適合入出力	CV, CVS, CPEVまたはこれらに相当するもの
伝送線サイズ (信号線)	単線: 0.65mm <sup>2</sup> ~ 12mm <sup>2</sup> 燃線: 0.5mm <sup>2</sup> ~ 1.25mm <sup>2</sup>
信号線配線距離	外部出力: max 100m 外部入力: max 100m
室内ユニット接続線	1.0心(5心+5心) 5m
接続形態	室内ユニット毎 同一室内ユニット内に複数冷媒系統がある場合は、各系統の室内制御基板毎に必要

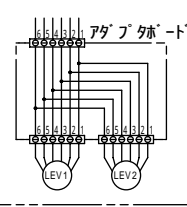
入力仕様 (M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
パルス発停	室外ユニット1、室外ユニット2 両系統に同時にON/OFF指令を出すことができます。 (注1) (注2)	パルス (有電圧/無電圧α接点) 有電圧の場合 電圧: DC12V ~ 24V 電流: 約10mA (DC12V時) パルス幅: 200ms以上
レベル発停	室外ユニット1、室外ユニット2 両系統に同時にON/OFF指令を出すことができます。 (注1) (注2)	遠方/手元 ON/OFF リモコン 運転/停止 運転操作が できません 運転/停止 運転/停止 運転操作が できません
デマンド	室外ユニット1、室外ユニット2 各系統個別にデマンド指令 (サーモOFF) を出すことができます。	有電圧/無電圧接点 有電圧の場合 電圧: DC12V ~ 24V 電流: 約10mA (DC12V時)

出力仕様 (M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
運転状態	室外ユニット系統毎に外部へ運転状態の信号が取り出せます	
異常	各ユニット系統毎に外部へ異常の信号が取り出せます	リレー接点出力 DC30Vまたは AC100V/200V 接点定格電流: 1A 接点最小負荷: 10mA
送風機サーモON状態 (注3)	外部へ送風機状態-サーモON状態の信号が取り出せます	
冷房状態	室外ユニット系統毎に外部へ冷房運転の信号が取り出せます	
暖房状態	室外ユニット系統毎に外部へ暖房運転の信号が取り出せます	

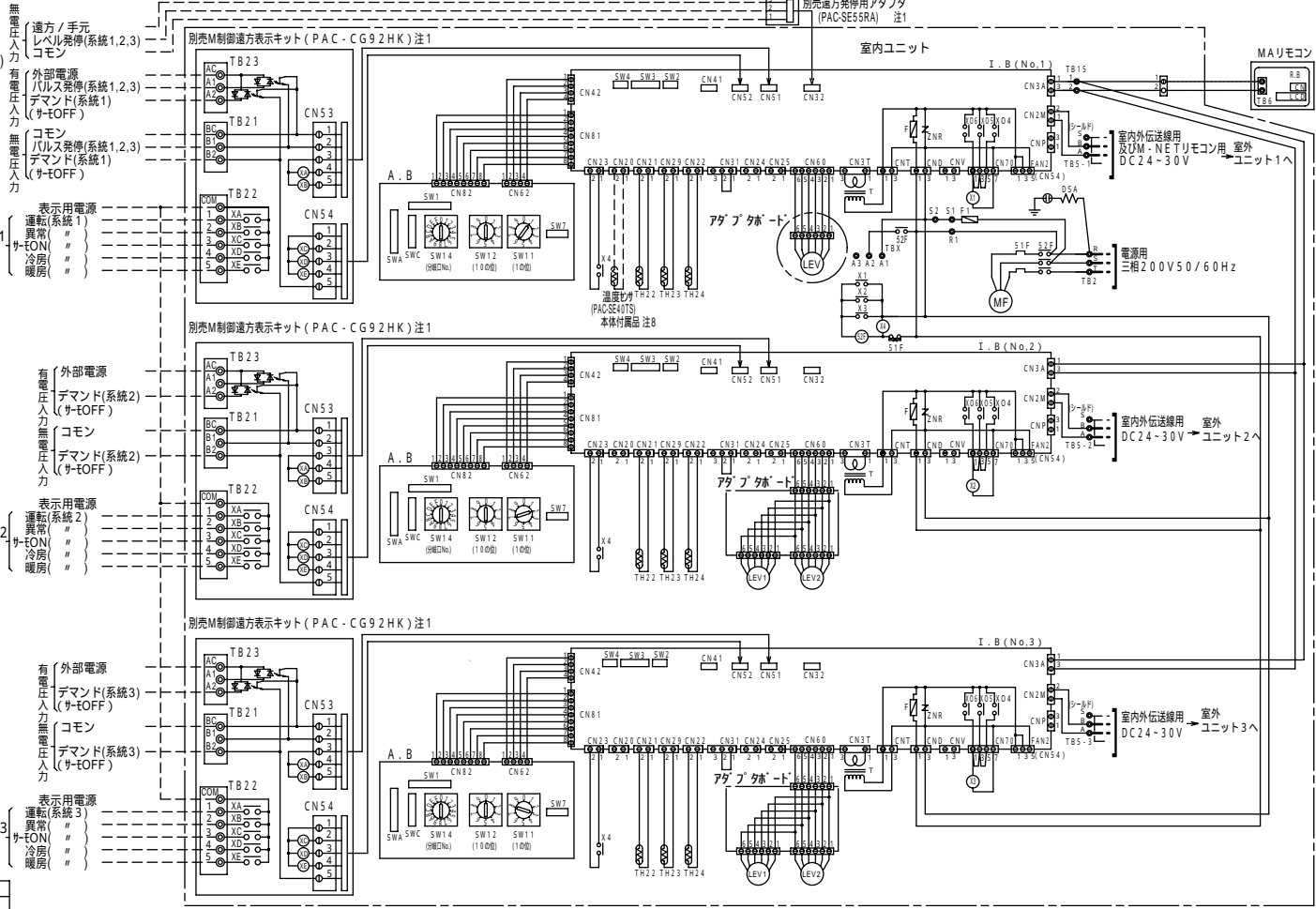
P1250形の場合



記号説明

記号	名 称	記号	名 称
MF	送風機用電動機	CN32	コネクタ (遠方切換)
IB	室内コントロールボード	CN41	コネクタ (HA入力)
A.B	アドレスキabin	CN51	コネクタ (集中管理)
TB2	電源端子台	CN52	コネクタ (遠方表示)
TB5-1.2	伝送端子台 (No.1,2)	CN24	コネクタ (補助ヒータ用)
TB15	MAリモコン用端子台	CN25	コネクタ (加湿器)
F	ヒューズ <6A>	CNP	コネクタ (加湿器ヒータ)
T	パルス	CNV	コネクタ (補助運転時出力)
ZNR	電源トランス	SW11(A.B)	スイッチ (アドレス設定用 1.0の位)
LEV	電子リニア膨張弁	SW12(A.B)	スイッチ (アドレス設定用 1.0の位)
S2F	補助送風機 (送風機用)	SW14(A.B)	スイッチ (分岐CIN o.p.e.p.N o.設定用)
S1F	送風機用補助電圧	SW7(A.B)	スイッチ (機種設定)
F1	ヒューズ <1.0A>	SW11(A.B)	スイッチ (機能切換)
TH22	配管温度検出用サーミスタ (液)	SWA(A.B)	スイッチ (設定用)
TH23	配管温度検出用サーミスタ (ガス)	SWC(A.B)	スイッチ (機能切換)
TH24	外気温度検出用サーミスタ	SW2(L.B)	スイッチ (能力設定)
TBX	別売接続用端子台	SW3(L.B)	スイッチ (機能切換)
DSA	アドレス	SW4(L.B)	スイッチ (機種設定)
X1.2.4	補助送風機 (送風機用)	XA-XE	補助送風機
		TB21,22,23	入出力用端子台

- 注1. M制御遠方表示キット (PAC-CG92HK)、遠方発停用アダプタ (PAC-SE55RA) は別部品です。  
パルス発停、レベル発停用のスイッチは親機(アドレスの小さい方)に接続されているこれらの別部品に接続してください。  
(子機に接続しても、ON/OFF操作はできません)
2. 各入力端子は微小電流用 (DC12V 1mA以下) を使用してください。
3. 室内ユニットのSW1-5 を使用用途に応じて設定してください。  
送風機状態出力: SW1-5 OFF (工場出荷時設定)  
サーモON状態出力: SW1-5 ON
4. --- (太破線): 現地配線を示します。  
---- (細破線): 外部入出力用の現地配線を示します。
5. 配線は、内線規程に従って接続してください。 室外ユニット1  
電源には必ず漏電遮断器を設けてください。 系統出力
6. ◎印は端子台、⊙印はコネクタを示します。
8. 温度センサ(PAC-SE40TS)は出荷時室内ユニットに付属しています。室内温度調節のため必ず室内に温度センサを設置しNo.1側の基板に接続してください。  
別売MAリモコン (2ヶ所リモコン) を室内に設置される場合、リモコン内蔵センサを使用することも可能です。



- 表示用電源  
運転(系統1)  
異常( )  
サーモON( )  
冷房( )  
暖房( )
- 表示用電源  
運転(系統2)  
異常( )  
サーモON( )  
冷房( )  
暖房( )
- 表示用電源  
運転(系統3)  
異常( )  
サーモON( )  
冷房( )  
暖房( )

仕様 (M制御遠方表示キット)

項目	内容
電源	室内機基板から受電
据付場所	本体制御室内
適合入出力	CV, CVS, CPEVまたはこれらに相当するもの
伝送線サイズ (信号線)	単線: 0.65mm <sup>2</sup> - 1.2mm <sup>2</sup> 撚線: 0.5mm <sup>2</sup> - 1.25mm <sup>2</sup>
信号線配線距離	外部出力: max 100m 外部入力: max 100m
室内ユニット接続線	100m (5m <sup>2</sup> +5m <sup>2</sup> ) 5m
接続形態	同一室内ユニット内に複数台設置される場合は、各系統の室内制御基板毎に必要

入力仕様 (M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
パルス発停 (注1)	室外ユニット1-3全系統同時にON/OFF指令を出すことができます。	パルス (有電圧/無電圧a接点) 有電圧の場合 電源: DC12V-24V 電流: 約10mA (DC12V時) パルス規格 
レベル発停 (注1)	室外ユニット1-3全系統同時にON/OFF指令を出すことができます。	遠方/手元 ON OFF リモコン 運転/停止 送風機状態出力 サーモON状態出力
デマンド (注2)	室外ユニット1-3各系統個別にデマンド指令 (サーモOFF) を出すことができます。	レベル (有電圧/無電圧接点) 有電圧の場合 電源: DC12V-24V 電流: 約10mA (DC12V時)

出力仕様 (M制御遠方表示キット)

機能	使用用途	信号仕様
運転状態	室外ユニット系統毎に外部へ運転状態の信号が取り出せます	リレーa接点出力 DC30Vまたは AC100V/200V 接点定格電流: 1A 接点最小負荷: 10mA
異常	各ユニット系統毎に外部へ異常の信号が取り出せます	
送風機・サーモON状態 (注3)	外部へ送風機状態・サーモON状態の信号が取り出せます	
冷房状態	室外ユニット系統毎に外部へ冷房運転の信号が取り出せます	
暖房状態	室外ユニット系統毎に外部へ暖房運転の信号が取り出せます	

記号説明

記号	名称	記号	名称	記号	名称
MF	送風機用電動機	TH22	配管温度検出用サーミスタ (液)	SW11(A,B)	スイッチ (アドレス設定用 1.0の位)
I.B.	室内コントローラボード	TH23	配管温度検出用サーミスタ (ガス)	SW12(A,B)	スイッチ (アドレス設定用 1.0の位)
A.B.	アドレスキパン	TH24	外気温度検出用サーミスタ	SW14(A,B)	スイッチ (分岐口No.0, 2, 4, 6, 8, 10, 12の位)
TB2	電源端子台	TBx	別売接続用端子台	SW7(A,B)	スイッチ (機能設定)
TB5-1, 2, 3	伝送端子台 (No.1, 2, 3)	DSA	別売接続用端子台	SW1(A,B)	スイッチ (機能切換)
TB15	MAリモコン用端子台	ALISTA	アレスタ	SW(A,B)	スイッチ (試運転切換)
F	ヒューズ <6A>	CN32	コネクタ (遠方切換)	SW(C,A,B)	スイッチ (機能切換)
ZNR	バリスタ	CN41	コネクタ (HA入力)	SW(C)	スイッチ (能力設定)
T	電源トランス	CN51	コネクタ (集中管理)	SW2(LB)	スイッチ (能力設定)
LEV	電子式リニア膨張機	CN52	コネクタ (遠方表示)	SW3(LB)	スイッチ (機能切換)
52F	補助送風機 (送風機用)	CN24	コネクタ (補助ヒータ用)	SW4(LB)	スイッチ (機能設定)
51F	熱動過電流遮断器	CN25	コネクタ (加温機)	X1, 2, 3, 4	補助送風機 (送風機用)
F1	ヒューズ <1.0A>	CNP	コネクタ (暖房ヒータ)	XA-XE	補助送風機
		CNV	コネクタ (運転時出力)	TB21, 22, 23	補助送風機

# 製品データ

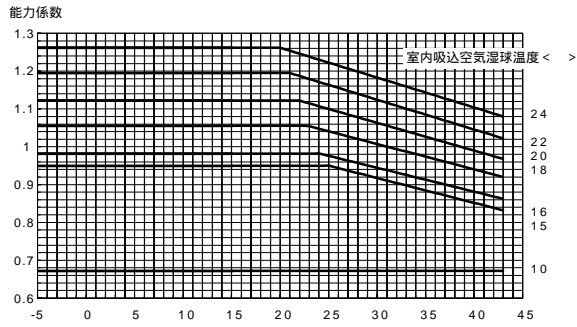
## 1. 冷房・暖房能力特性

### (1) 能力・入力補正

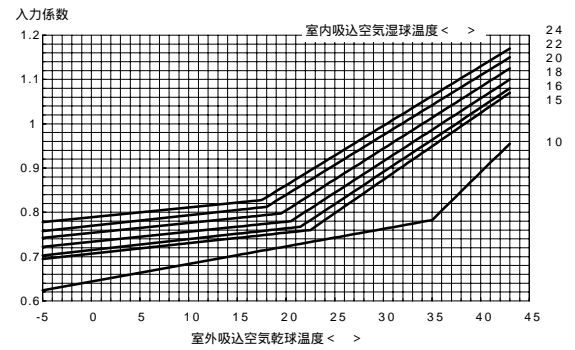
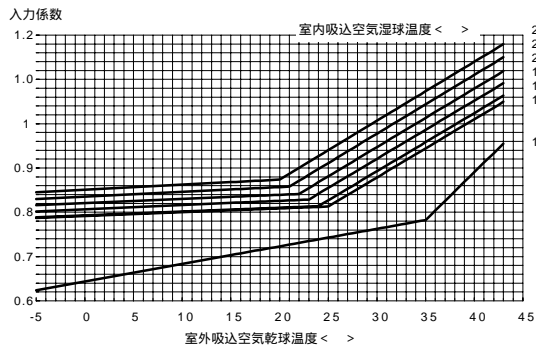
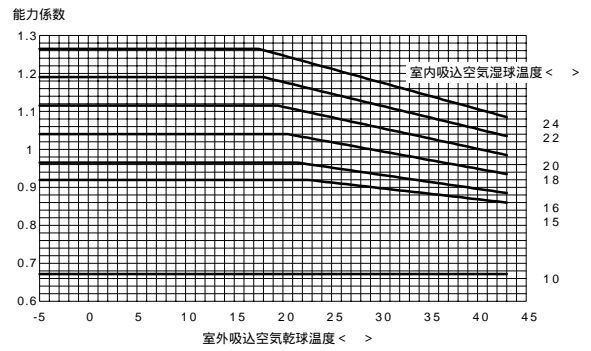
#### 冷房能力線図

#### 【標準タイプ】

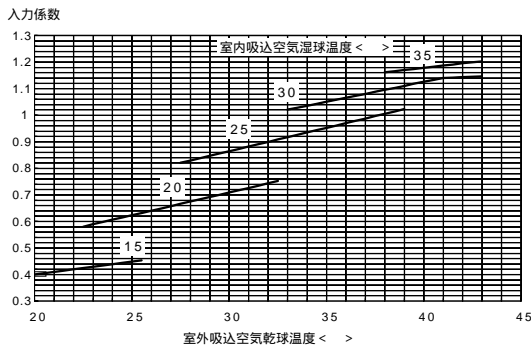
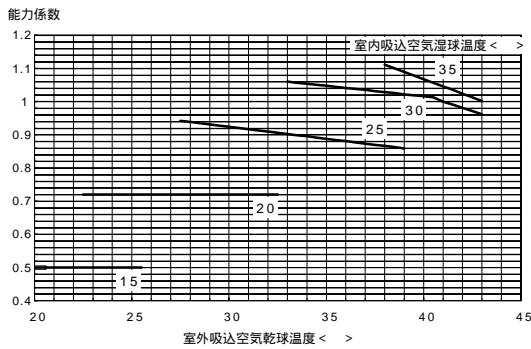
#### (i) P224・P280形



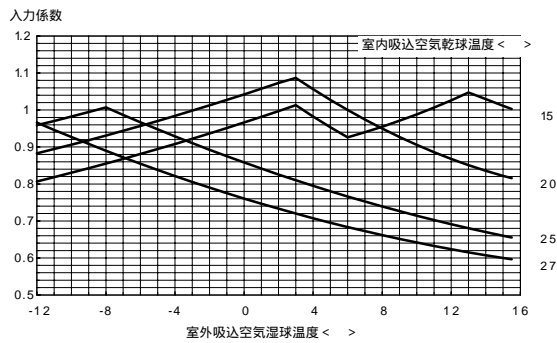
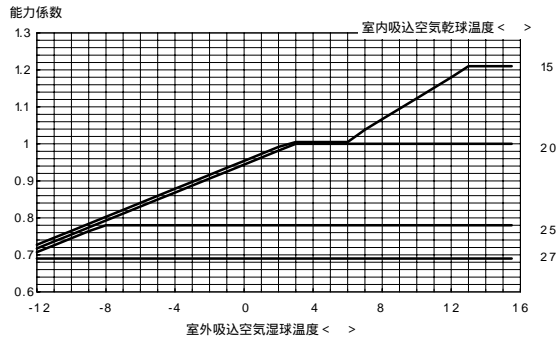
#### (ii) P450～P1600形



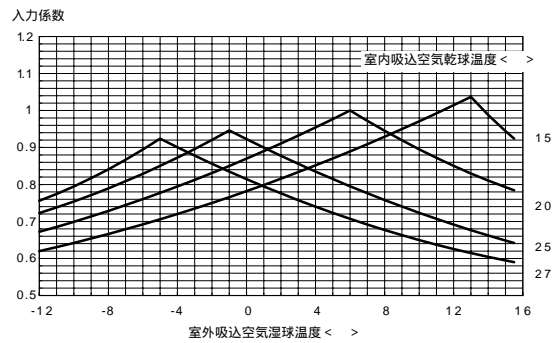
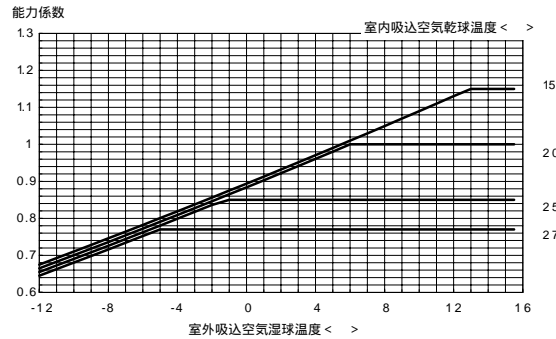
#### 【オールフレッシュタイプ】



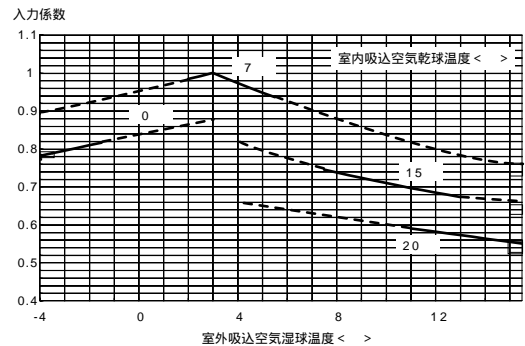
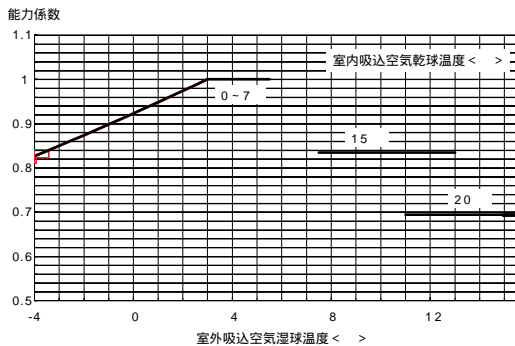
暖房能力線図  
【標準タイプ】  
(i)P224・P280形



(ii)P450 ~ P1600形



【オールフレッシュタイプ】



(2)霜取補正係数

P224,P280形

室外吸込空気湿球温度 < >	6	4	2	1	0	-2	-4	-6	-8	-10
霜取補正係数	1.00	0.95	0.84	0.825	0.83	0.87	0.90	0.95	0.95	0.95

P450,P560形

室外吸込空気湿球温度 < >	6	4	2	1	0	-2	-4	-6	-8	-10
霜取補正係数	1.00	0.98	0.89	0.879	0.89	0.90	0.92	0.95	0.95	0.95

P670形

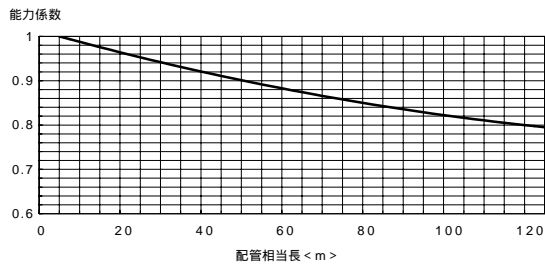
室外吸込空気湿球温度 < >	6	4	2	1	0	-2	-4	-6	-8	-10
霜取補正係数	1.00	0.98	0.855	0.85	0.845	0.89	0.90	0.95	0.95	0.95

P800,P1120,P1400,P1600形

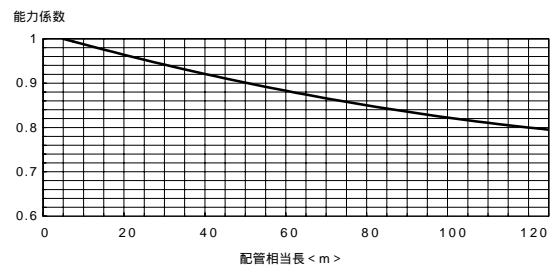
室外吸込空気湿球温度 < >	6	4	2	1	0	-2	-4	-6	-8	-10
霜取補正係数	1.00	0.98	0.89	0.879	0.89	0.90	0.92	0.95	0.95	0.95

(3)冷房配管長補正線図【標準・オールフレッシュタイプ共通】

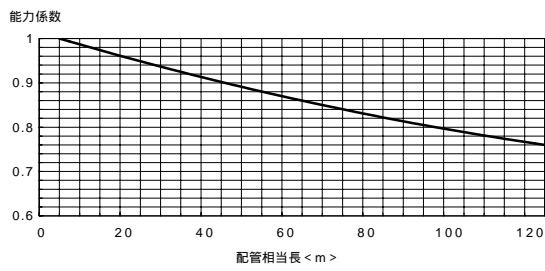
P224形



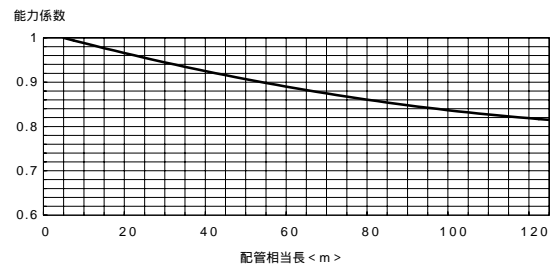
P280形



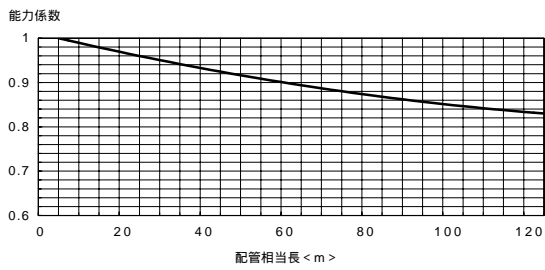
P450形



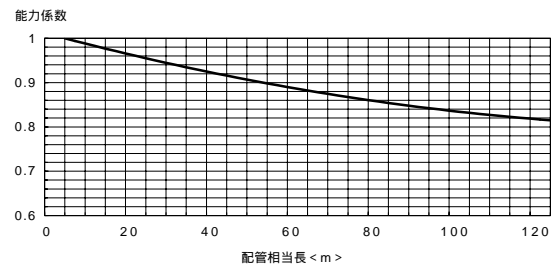
P560形



P670形

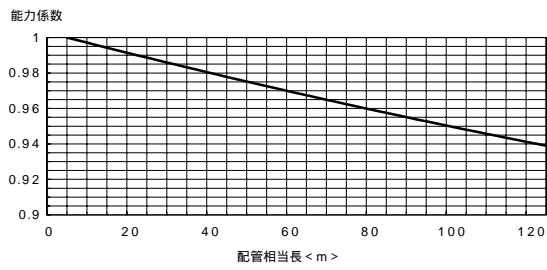


P800 ~ 1600形

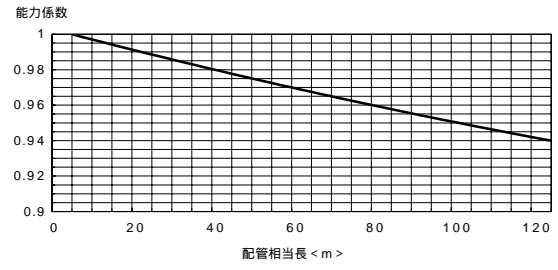


(4)暖房配管長補正線図【標準・オールフレッシュタイプ共通】

P224,280形

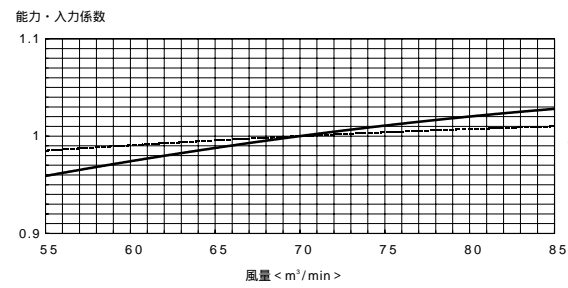


P450 ~ 1600形

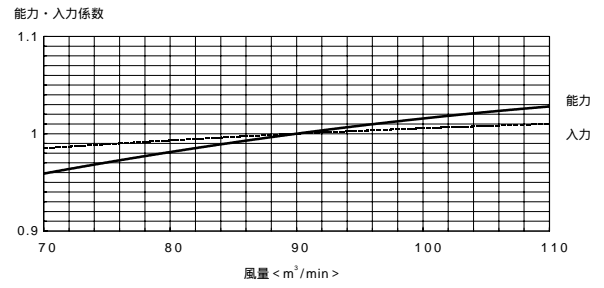


(5)冷房風量補正線図【標準タイプ】

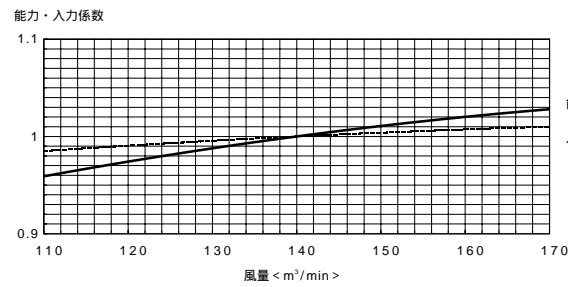
P224形



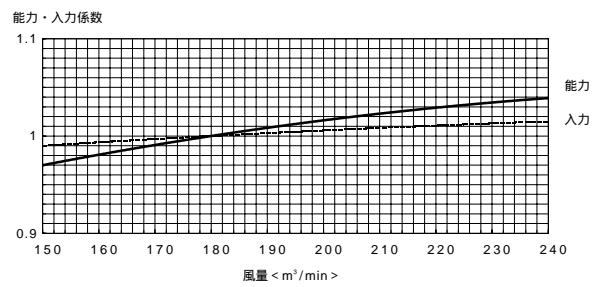
P280形



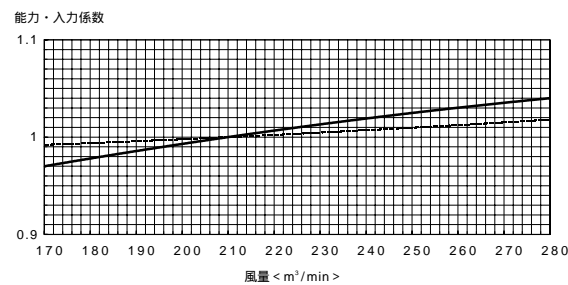
P450形



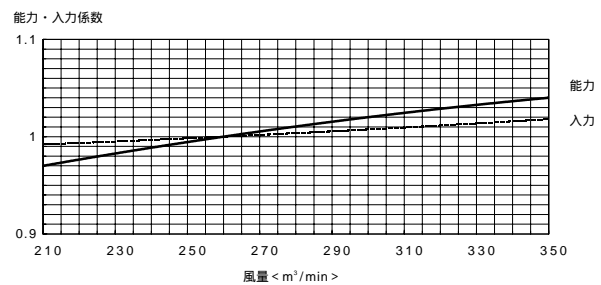
P560形



P670形

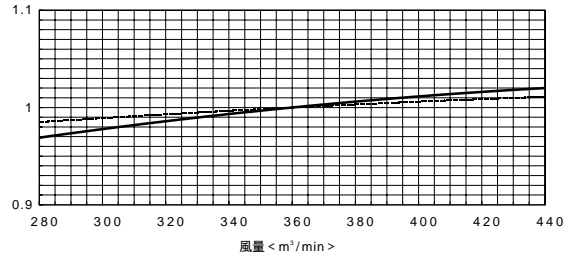


P800形



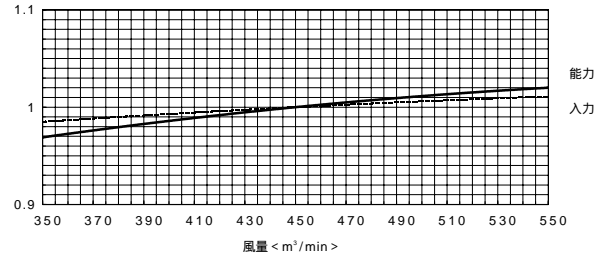
P1120形

能力・入力係数



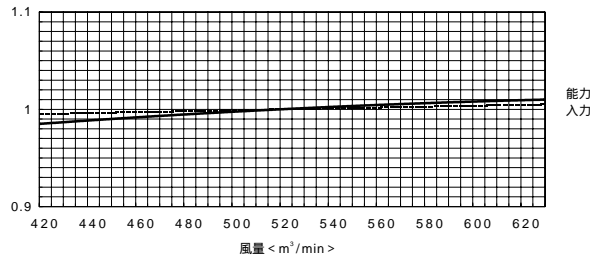
P1400形

能力・入力係数



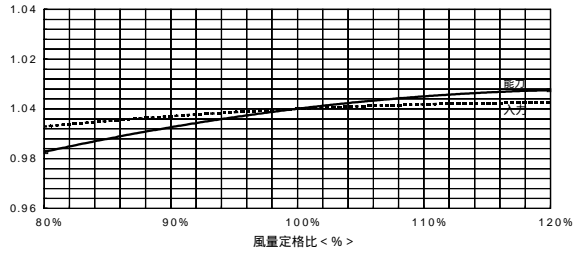
P1600形

能力・入力係数



### 【オールフレッシュタイプ】

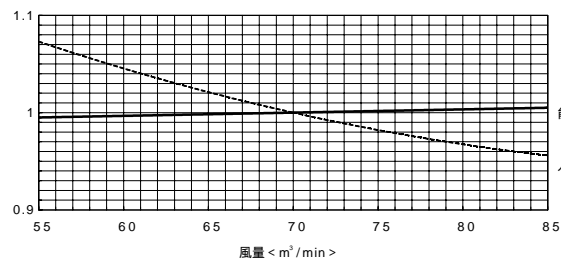
冷房補正係数



### (6)暖房風量補正線図

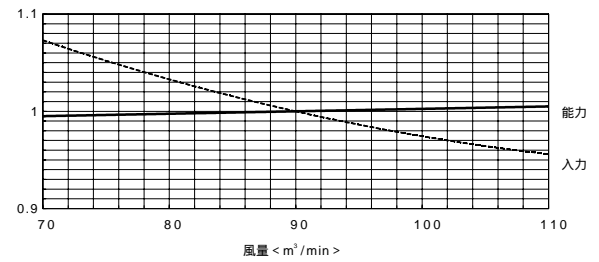
P224形

能力・入力係数



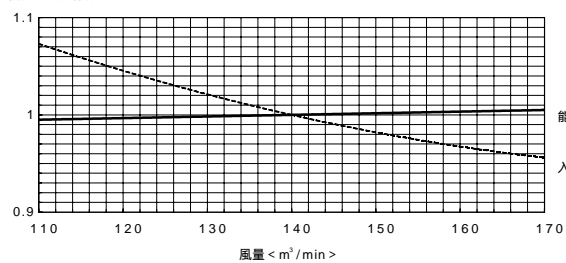
P280形

能力・入力係数



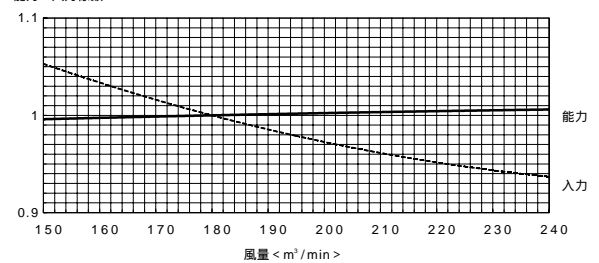
P450形

能力・入力係数



P560形

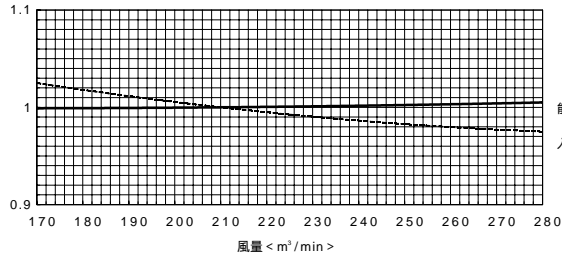
能力・入力係数





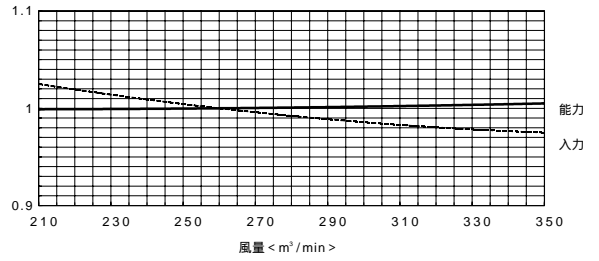
P670形

能力・入力係数



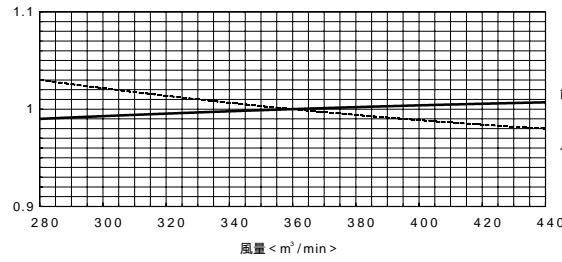
P800形

能力・入力係数



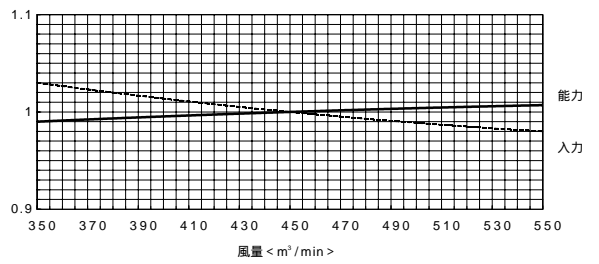
P1120形

能力・入力係数



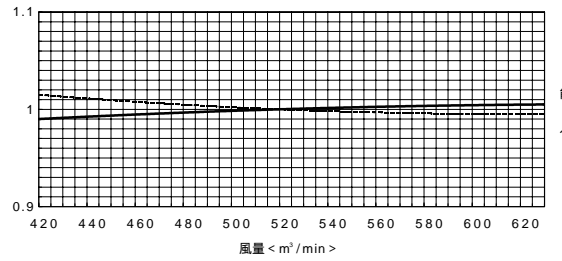
P1400形

能力・入力係数



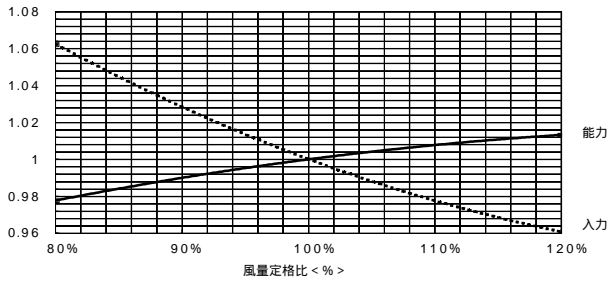
P1600形

能力・入力係数



【オールフレッシュタイプ】

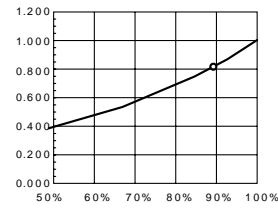
暖房補正係数



## (7)容量変化時入力線図 【標準タイプ】

P224形

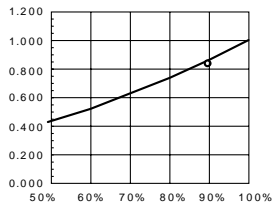
冷房入力係数



冷房能力比率

能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、JIS標準条件、室内風量；定格風量のときのものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の 印は定格能力時を示します。

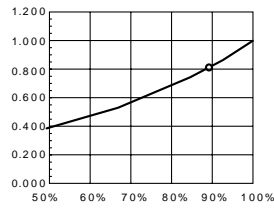
暖房入力係数



冷房能力比率

P280形

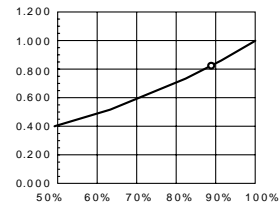
冷房入力係数



冷房能力比率

能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、JIS標準条件、室内風量；定格風量のときのものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の 印は定格能力時を示します。

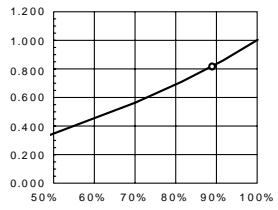
暖房入力係数



冷房能力比率

P450形

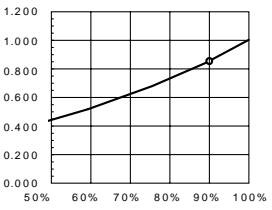
冷房入力係数



冷房能力比率

能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、JIS標準条件、室内風量；定格風量のときのものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の 印は定格能力時を示します。

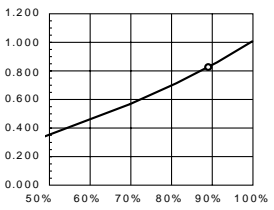
暖房入力係数



冷房能力比率

P560形

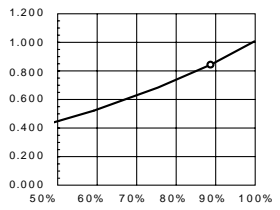
冷房入力係数



冷房能力比率

能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、JIS標準条件、室内風量；定格風量のときのものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の 印は定格能力時を示します。

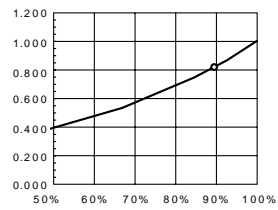
暖房入力係数



冷房能力比率

P670形

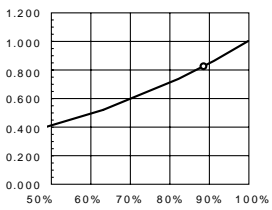
冷房入力係数



冷房能力比率

能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、JIS標準条件、室内風量；定格風量のときのものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の 印は定格能力時を示します。

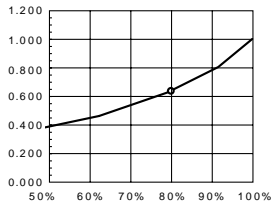
暖房入力係数



冷房能力比率

P800形

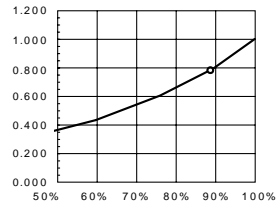
冷房入力係数



冷房能力比率

能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、JIS標準条件、室内風量；定格風量のときのものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の 印は定格能力時を示します。

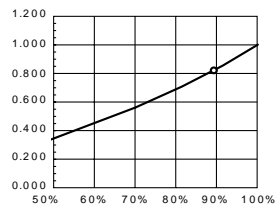
暖房入力係数



冷房能力比率

P1120形

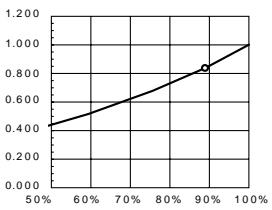
冷房入力係数



冷房能力比率

能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、JIS標準条件、室内風量；定格風量のときのものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の 印は定格能力時を示します。

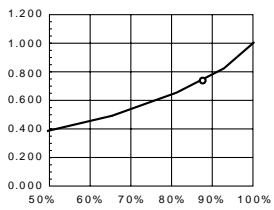
暖房入力係数



冷房能力比率

P1400形

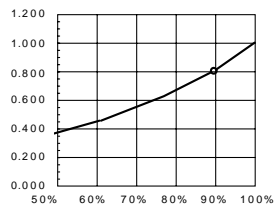
冷房入力係数



冷房能力比率

能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、JIS標準条件、室内風量；定格風量のときのものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の 印は定格能力時を示します。

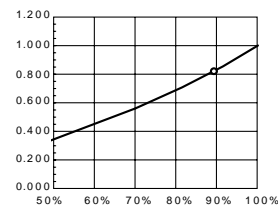
暖房入力係数



冷房能力比率

P1600形

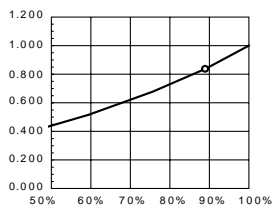
冷房入力係数



冷房能力比率

能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、JIS標準条件、室内風量；定格風量のときのものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の 印は定格能力時を示します。

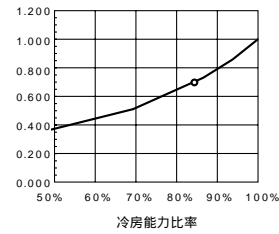
暖房入力係数



冷房能力比率

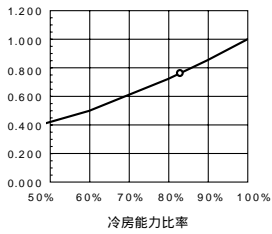
# 【オールフレッシュタイプ】

P265M-F形  
冷房入力係数



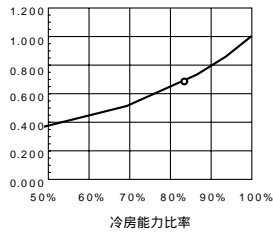
能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、冷房時：室外吸込乾球温度33.0、湿球温度28.0、  
暖房時：室内吸込乾球温度7.0、湿球温度3.0、室内風量：定格風量の時のものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の印は定格能力時を示します。

暖房入力係数



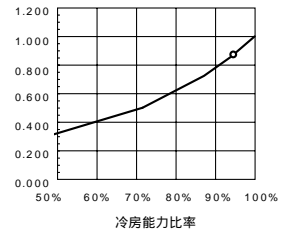
冷房能力比率

P335M-F形  
冷房入力係数



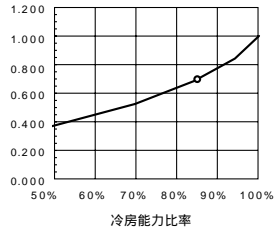
能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、冷房時：室外吸込乾球温度33.0、湿球温度28.0、  
暖房時：室内吸込乾球温度7.0、湿球温度3.0、室内風量：定格風量の時のものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の印は定格能力時を示します。

暖房入力係数



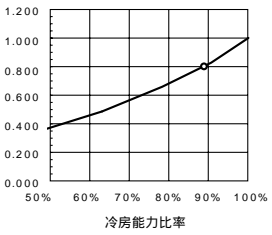
冷房能力比率

P530M-F形  
冷房入力係数



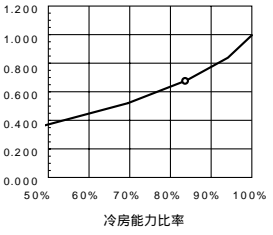
能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、冷房時：室外吸込乾球温度33.0、湿球温度28.0、  
暖房時：室内吸込乾球温度7.0、湿球温度3.0、室内風量：定格風量の時のものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の印は定格能力時を示します。

暖房入力係数



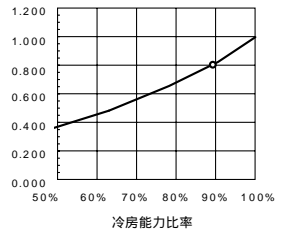
冷房能力比率

P670M-F形  
冷房入力係数



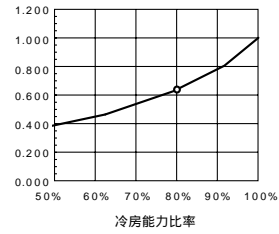
能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、冷房時：室外吸込乾球温度33.0、湿球温度28.0、  
暖房時：室内吸込乾球温度7.0、湿球温度3.0、室内風量：定格風量の時のものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の印は定格能力時を示します。

暖房入力係数



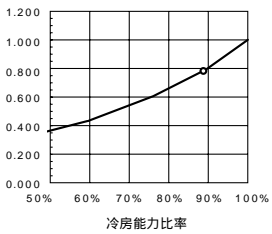
冷房能力比率

P1000M-F形  
冷房入力係数



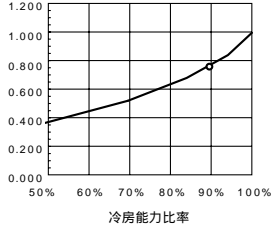
能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、冷房時：室外吸込乾球温度33.0、湿球温度28.0、  
暖房時：室内吸込乾球温度7.0、湿球温度3.0、室内風量：定格風量の時のものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の印は定格能力時を示します。

暖房入力係数



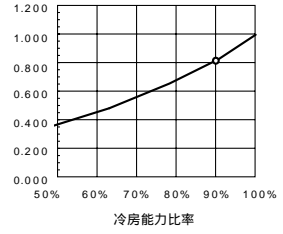
冷房能力比率

P1250M-F形  
冷房入力係数



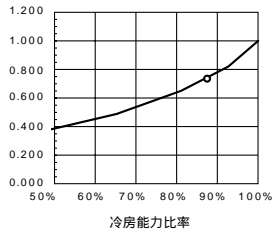
能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、冷房時：室外吸込乾球温度33.0、湿球温度28.0、  
暖房時：室内吸込乾球温度7.0、湿球温度3.0、室内風量：定格風量の時のものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の印は定格能力時を示します。

暖房入力係数



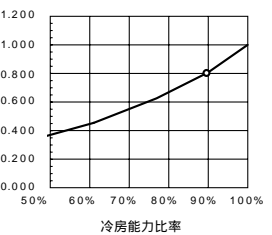
冷房能力比率

P1600M-F形  
冷房入力係数



能力比率100%が最大能力時に相当します。  
上記線図は、冷房時：室外吸込乾球温度33.0、湿球温度28.0、  
暖房時：室内吸込乾球温度7.0、湿球温度3.0、室内風量：定格風量の時のものです。  
入力係数は最大能力時の入力を1.0としたときのものです。  
線図中の印は定格能力時を示します。

暖房入力係数



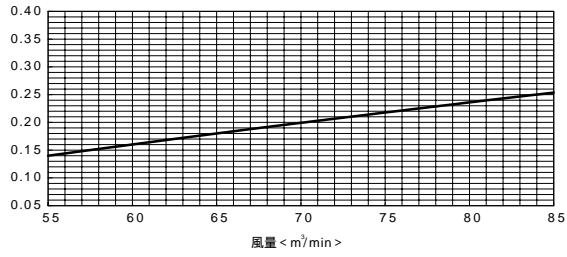
冷房能力比率

(8) バイパスファクタ線図

PFHV

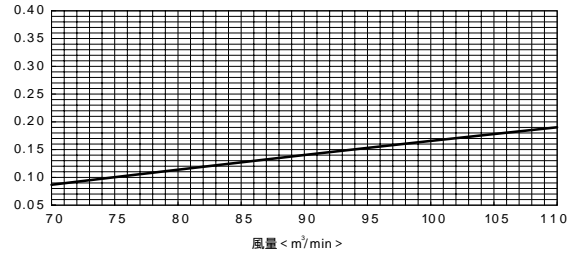
P224形

バイパスファクタ



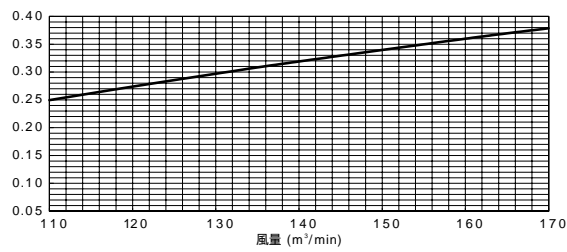
P280形

バイパスファクタ



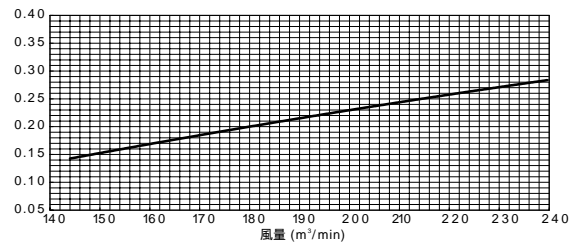
P450形

バイパスファクタ



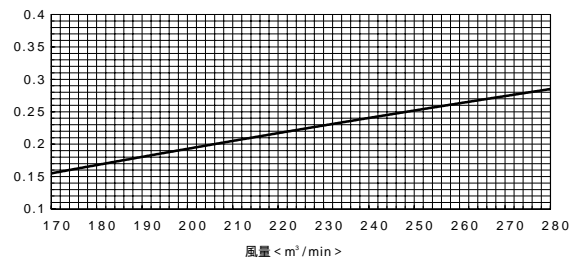
P560形

バイパスファクタ



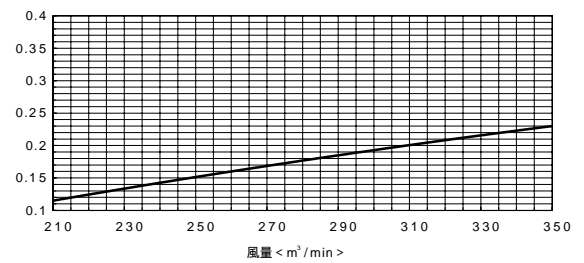
P670形

バイパスファクタ



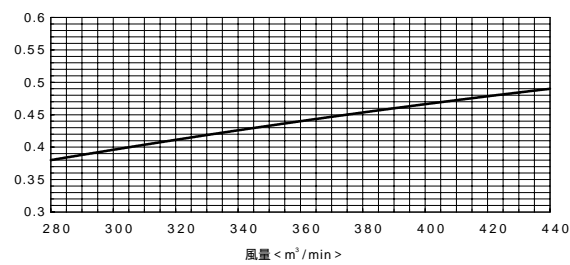
P800形

バイパスファクタ



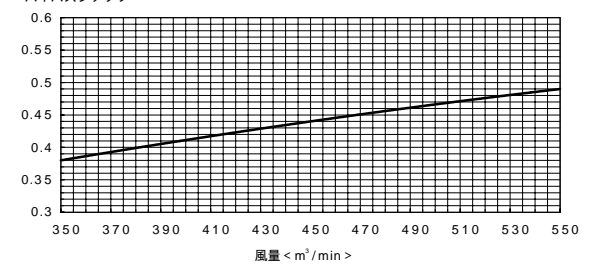
P1120形

バイパスファクタ



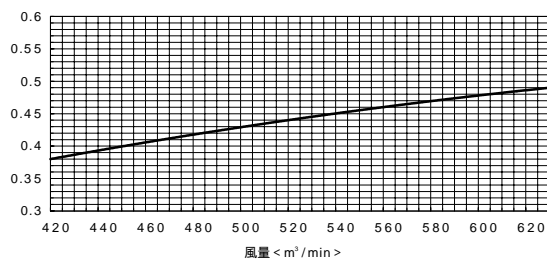
P1400形

バイパスファクタ



P1600形

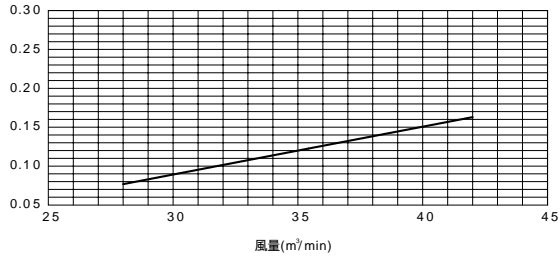
バイパスファクタ



PFHV-F

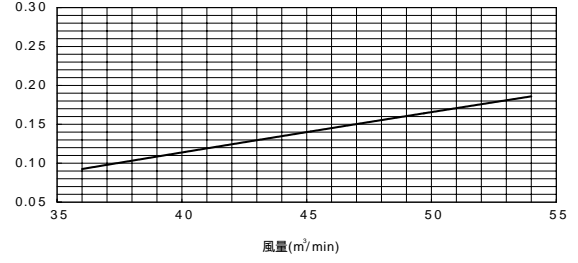
P265形

バイパスファクタ



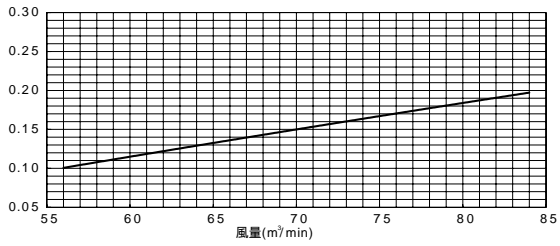
P335形

バイパスファクタ



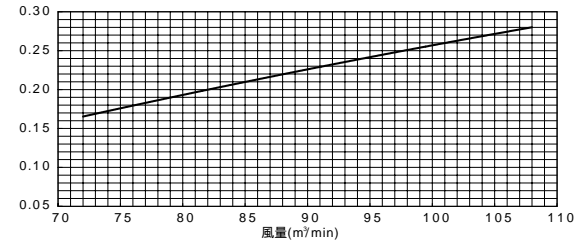
P530形

バイパスファクタ



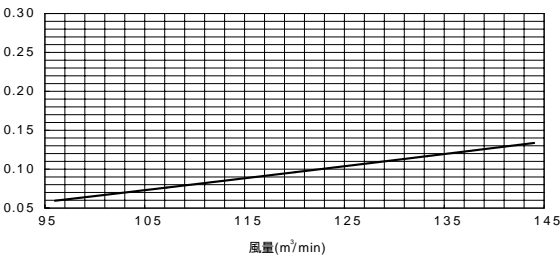
P670形

バイパスファクタ



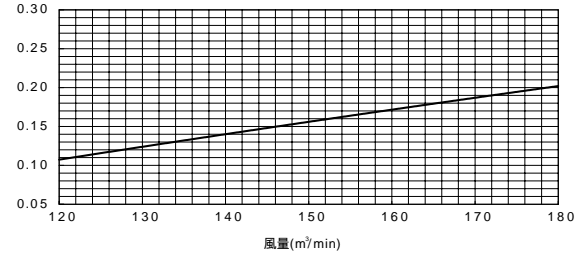
P1000形

バイパスファクタ



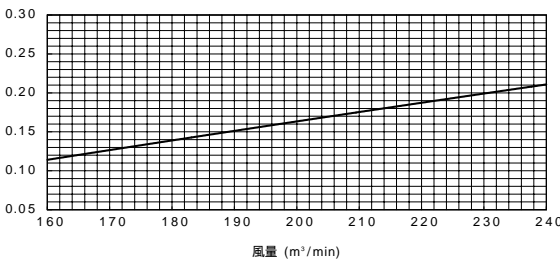
P1250形

バイパスファクタ



P1600形

バイパスファクタ

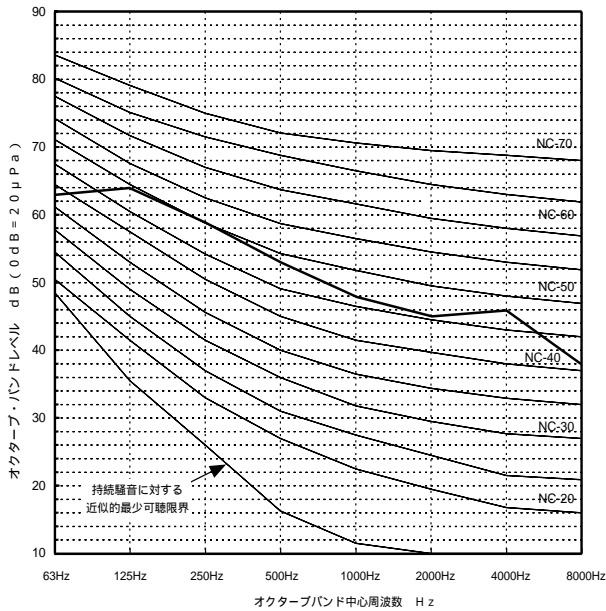


## 2.騒音データ

### (1)室外ユニット

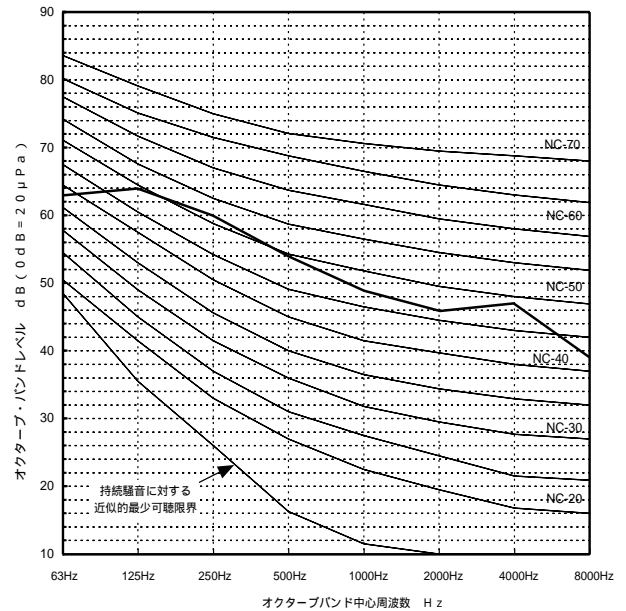
PUHV-P224M-A

63Hz	125Hz	250Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz	4000Hz	8000Hz	A特性計算
63	64	59	53	48	45	46	38	56



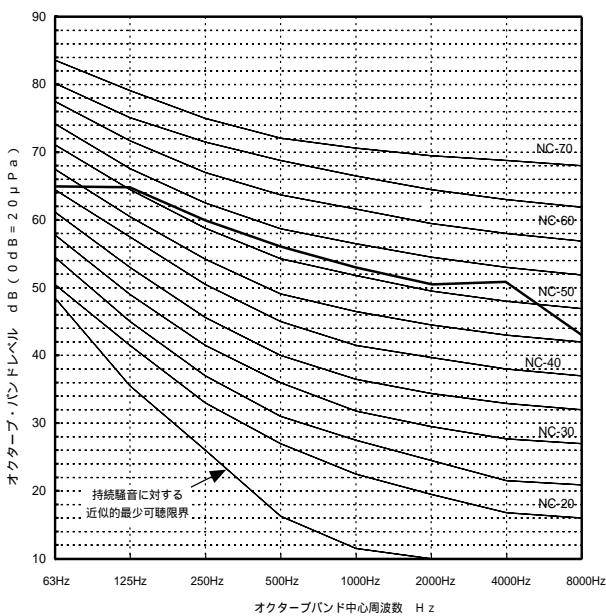
PUHV-P280M-A

63Hz	125Hz	250Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz	4000Hz	8000Hz	A特性計算
63	64	60	54	49	46	47	39	57



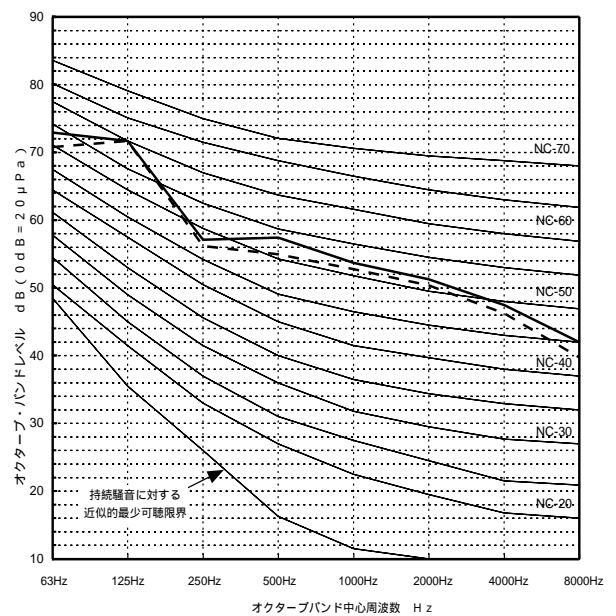
PUHV-P335M-A

63Hz	125Hz	250Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz	4000Hz	8000Hz	A特性計算
65	65	60	56	53	50.5	51	43	60



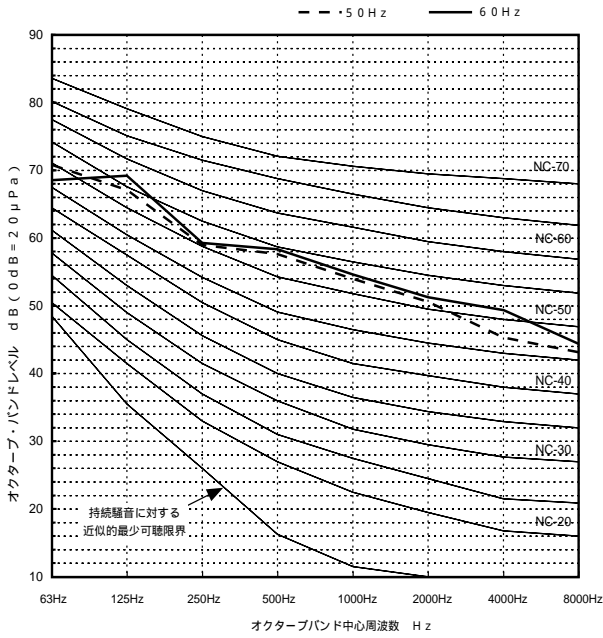
PUHV-P450M-A

	63Hz	125Hz	250Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz	4000Hz	8000Hz	A特性計算
5.0Hz	71	71.5	56	55	53	50.5	46.5	39.5	60
6.0Hz	73	71.5	57	57.5	54	51.5	47.5	42	61



# PUHV-P560M-A

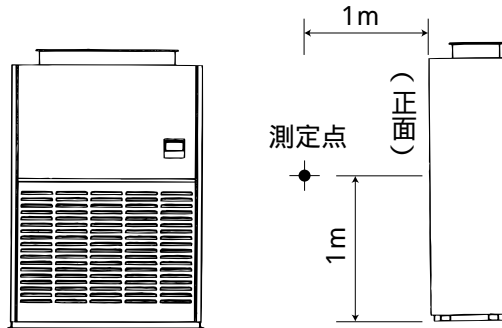
	63Hz	125Hz	250Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz	4000Hz	8000Hz	A特性計算
50Hz	71	67	59	57.5	54	51	45.5	43	60
60Hz	68.5	69.5	59.5	58	54.5	51.5	49.5	44.5	61



## (2)室内ユニット

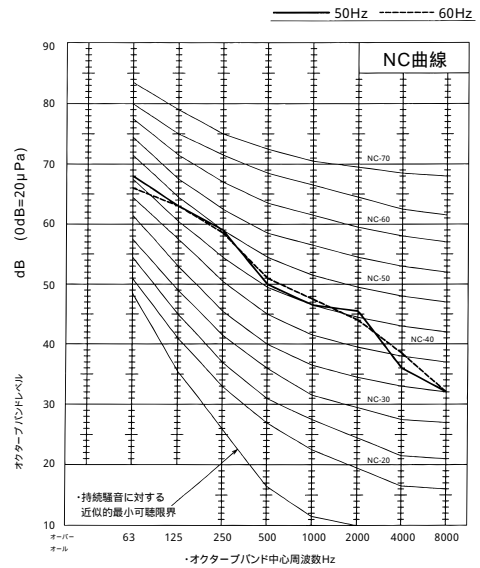
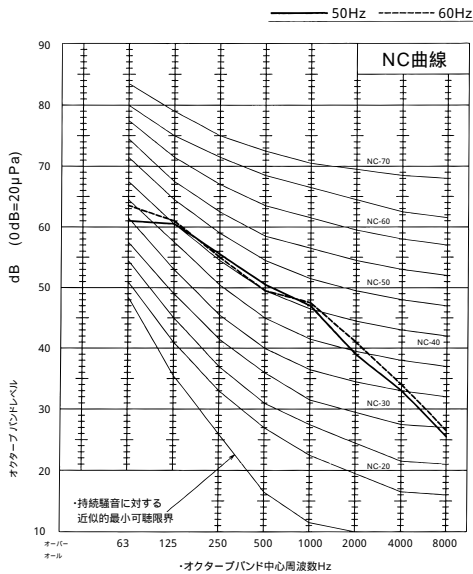
### 【測定条件】

無響音室：暗騒音25dB(A)以下

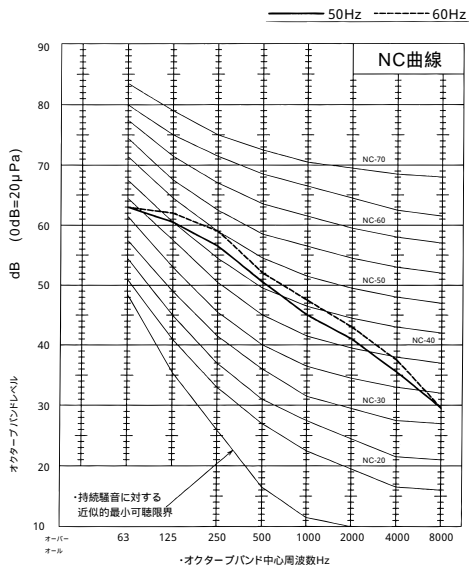


形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P224M-A標準	53/53

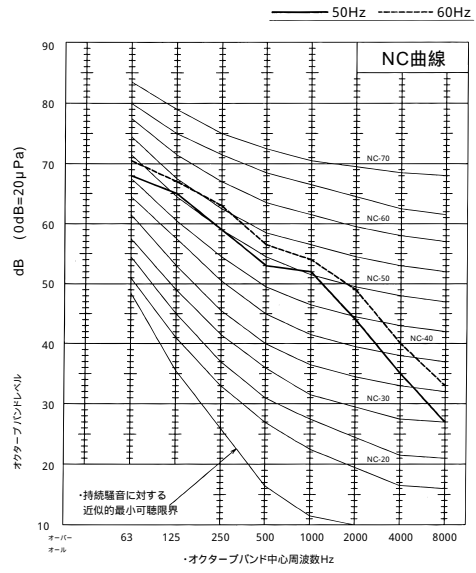
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P280M-A標準	55/55



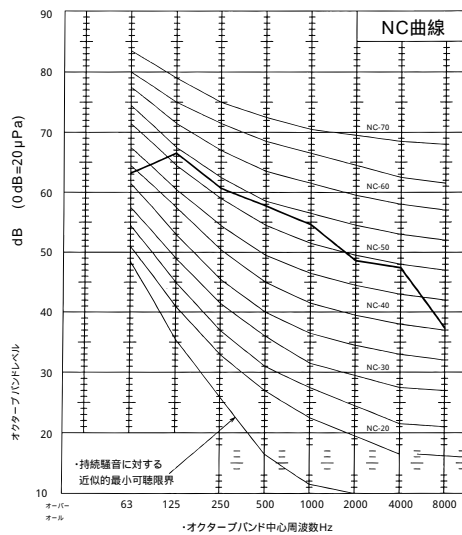
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P450M-A標準	53/55



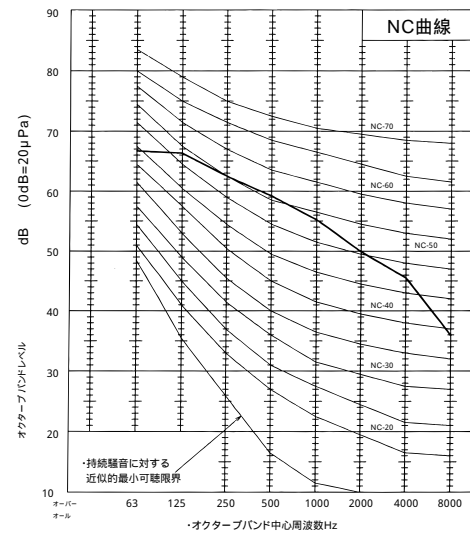
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P560M-A標準	57/60



形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P224M-A 別売プレナム取付時	60/60

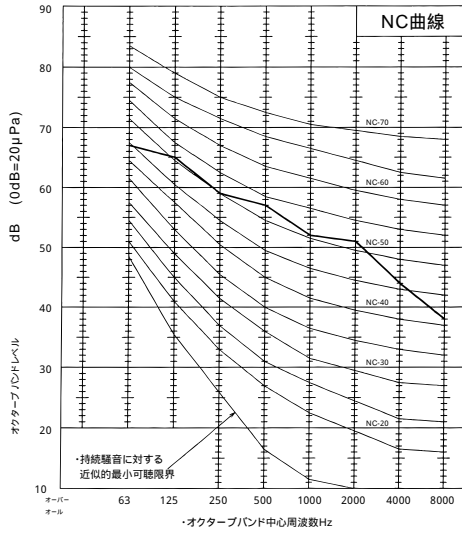


形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P280M-A 別売プレナム取付時	61/61

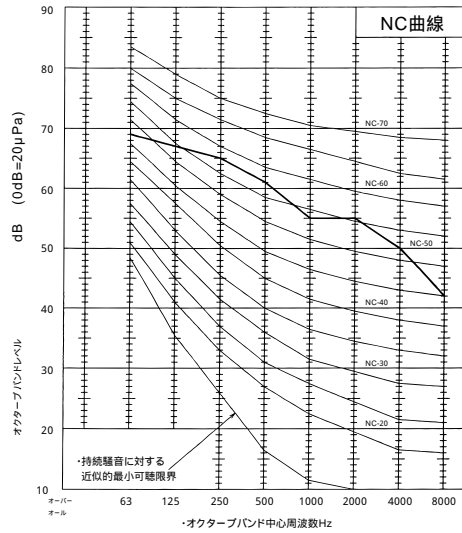




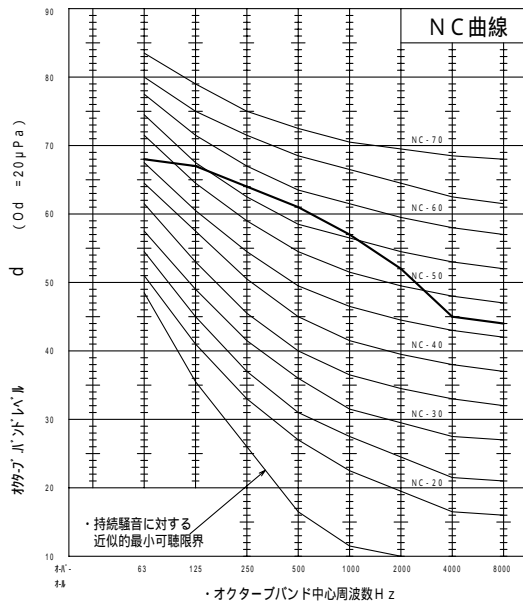
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P450M-A 別売プレナム取付時	59/59



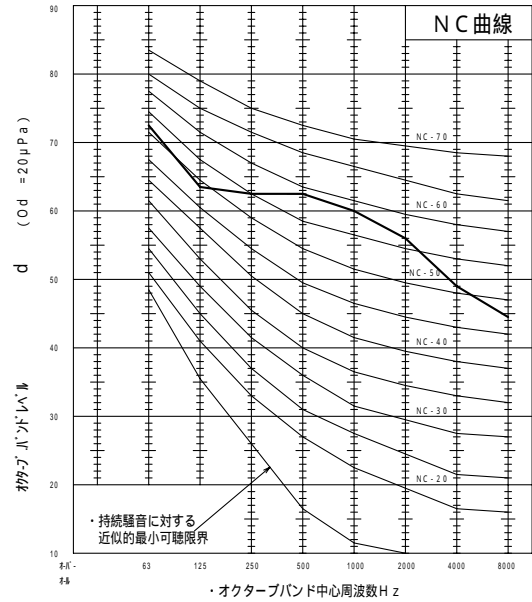
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P560M-A 別売プレナム取付時	63/63



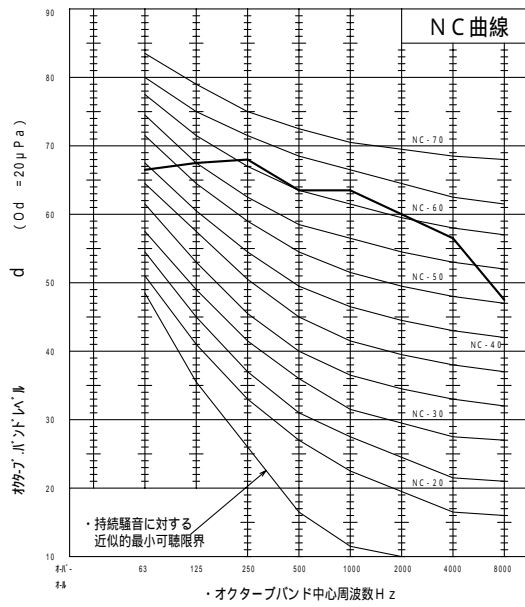
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P670M-A標準	63/63



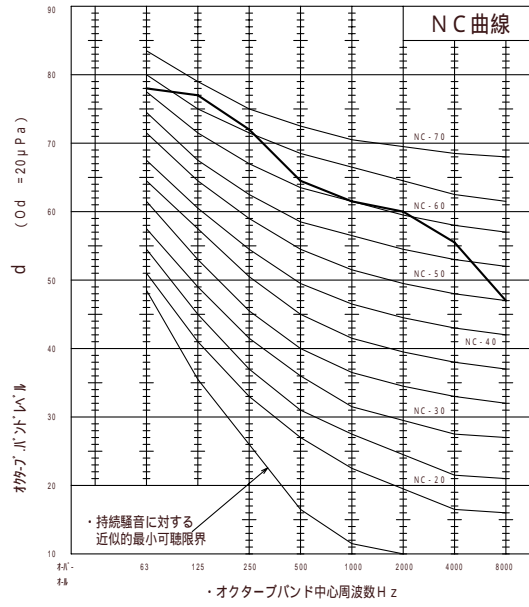
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P800M-A標準	65/65



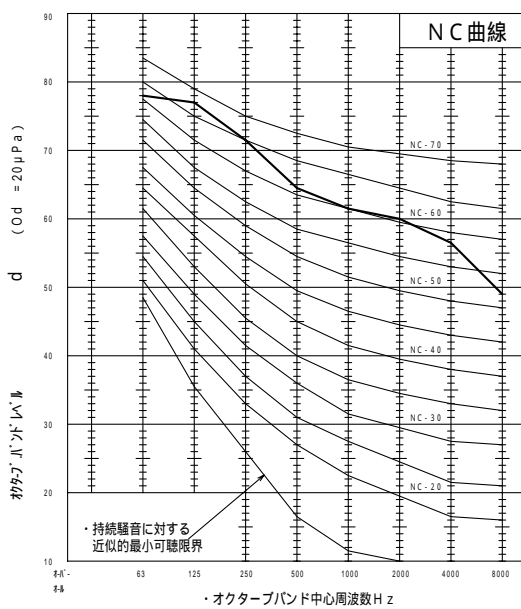
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P1120M-A-L(R)標準	68



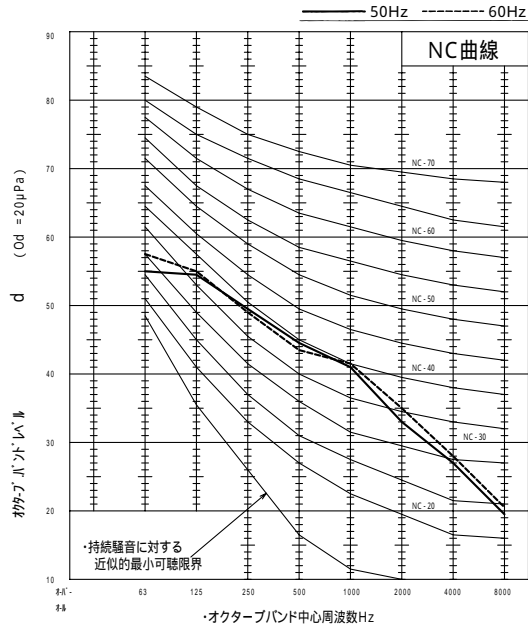
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P1400M-A-L(R)標準	69



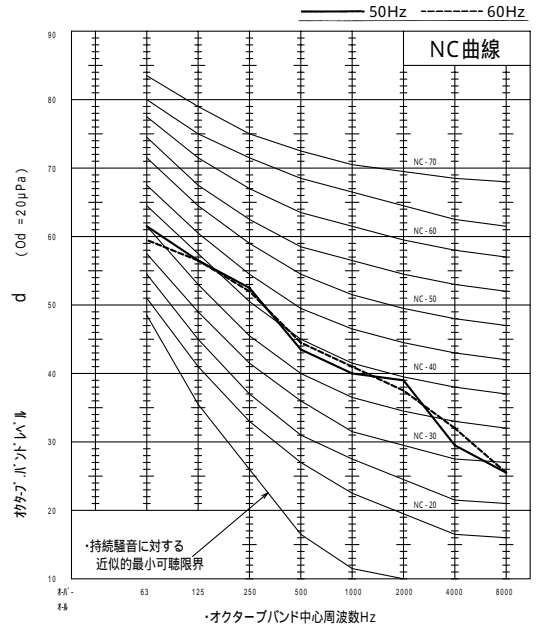
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P1600M-A-L(R)標準	69



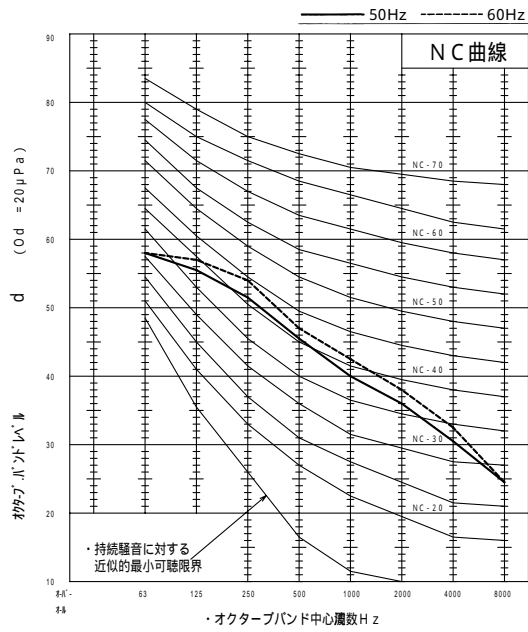
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P265M-A-F	47/47



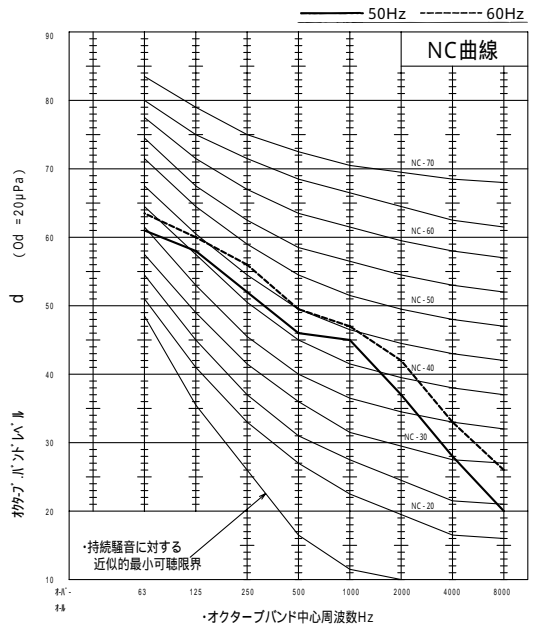
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P335M-A-F	48.5/48.5



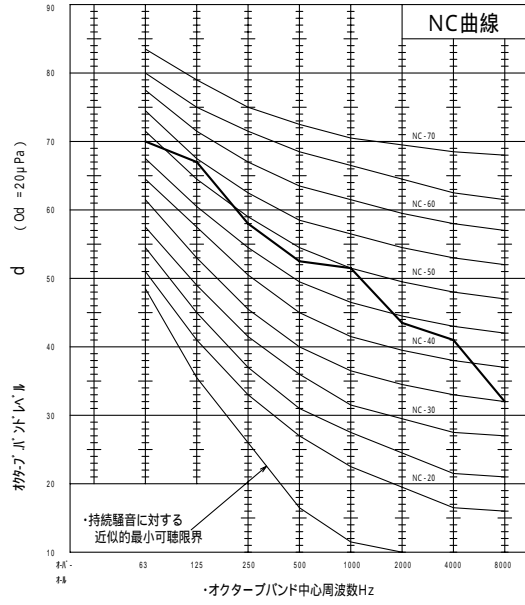
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P530M-A-F	48/50



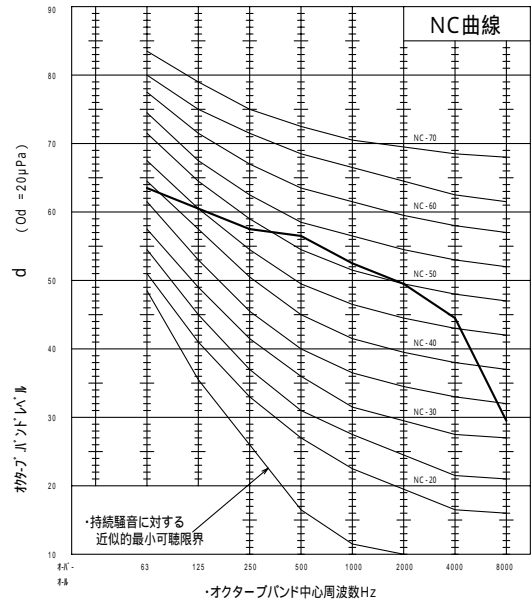
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P670M-A-F	50/53



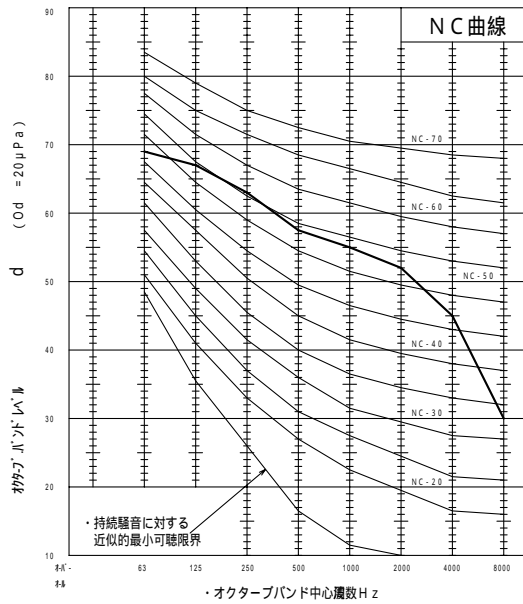
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P1000M-A-F	57



形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P1250M-A-F-L (R)	58



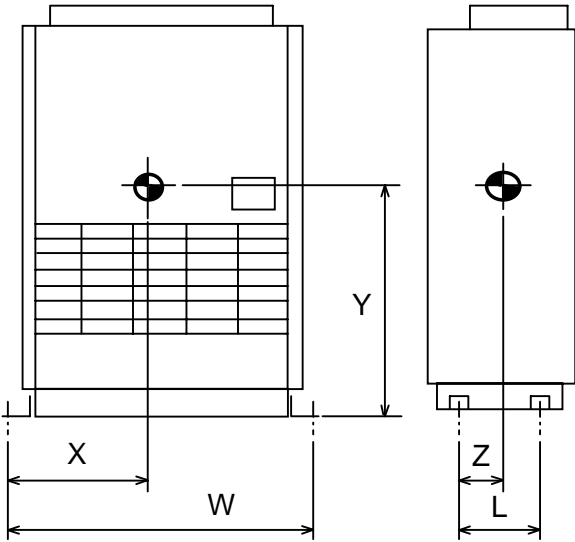
形名	騒音値(dB[A特性])
PFAV-P1600M-A-F-L (R)	61



### 3.重心位置

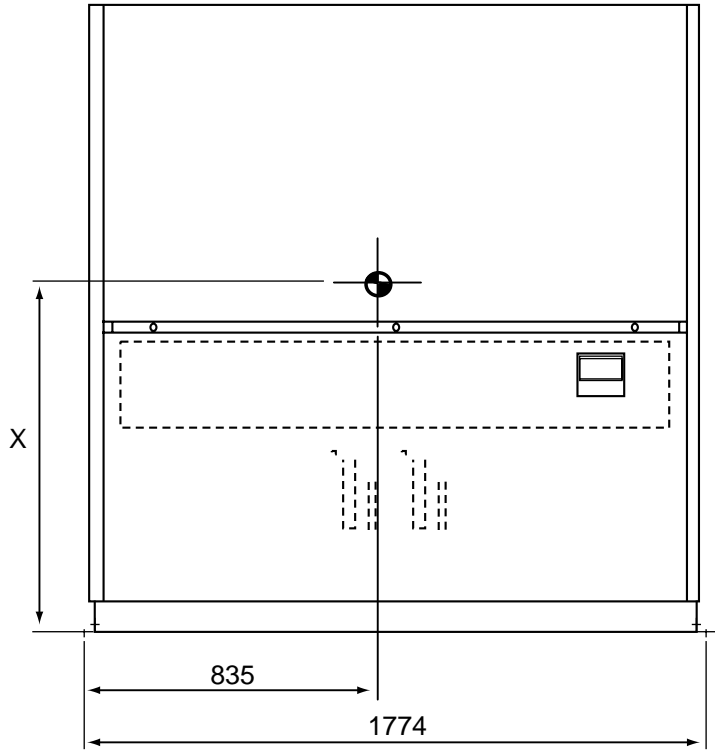
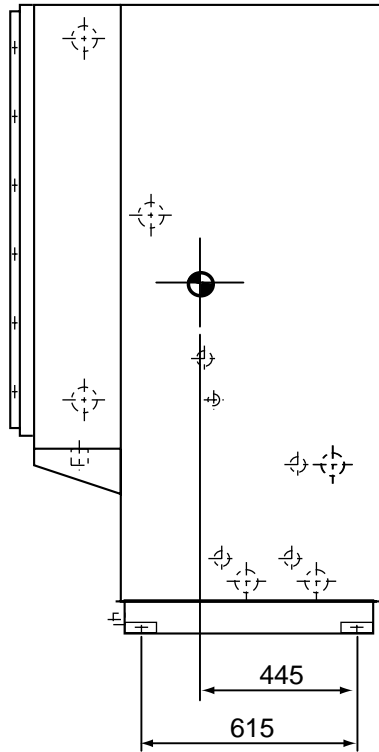
#### (1) 室内ユニット

設備用インバータ8~20HP



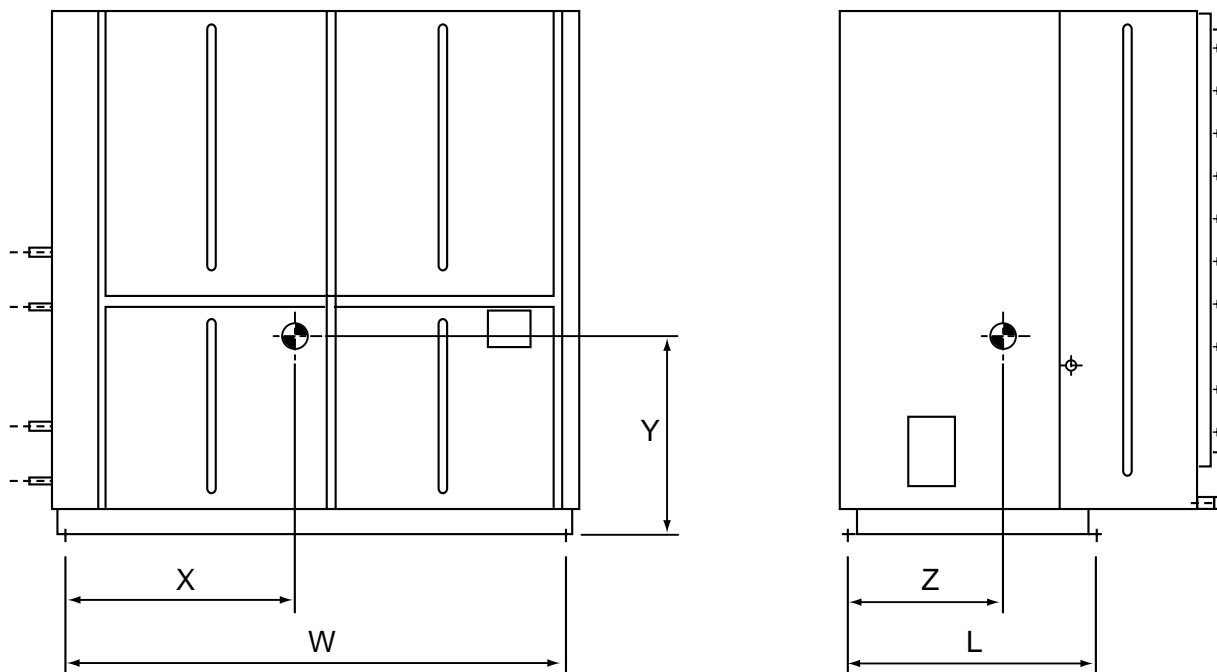
機種	W	L	X	Y	Z
PFAV-P224M-A	1014	300	467	809	158
PFAV-P280M-A	1234	300	573	835	156
PFAV-P450M-A	1230	440	567	1017	225
PFAV-P560M-A	1450	440	647	1017	225
PFAV-P265M-A-F	1014	300	467	798	163
PFAV-P335M-A-F	1234	300	573	825	161
PFAV-P530M-A-F	1230	440	567	1009	230
PFAV-P670M-A-F	1450	440	647	1008	231

設備用インバータ26・30HP



機種	X
PFAV-P670M-A	1010
PFAV-P800M-A	1020
PFAV-P1000M-A-F	

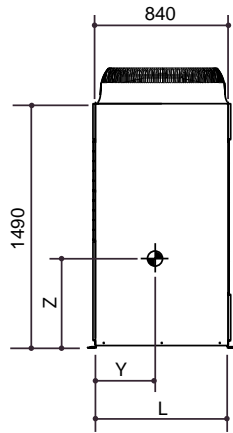
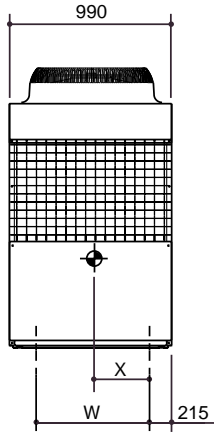
設備用インバータ40～60HP



機種	W	L	X	Y	Z
PFAV-P1120M-A-L(R)	1740	860	860	701	539
PFAV-P1400M-A-L(R)	1740	860	845	754	533
PFAV-P1600M-A-L(R)	1960	860	950	858	526
PFAV-P1250M-A-F-L(R)	1740	860	890	701	539
PFAV-P1600M-A-F-L(R)	1740	860	890	754	533

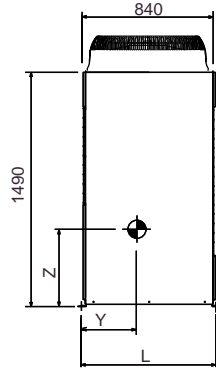
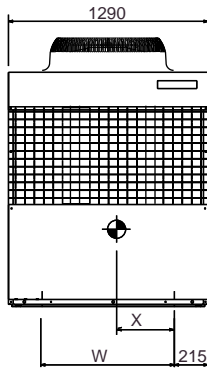
注．Rタイプ（右配管仕様）はX寸法が左右対称となります。

(2) 室外ユニット  
P224形



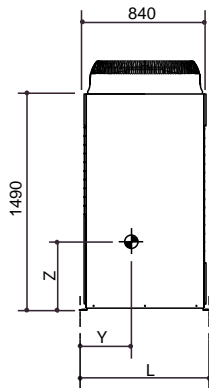
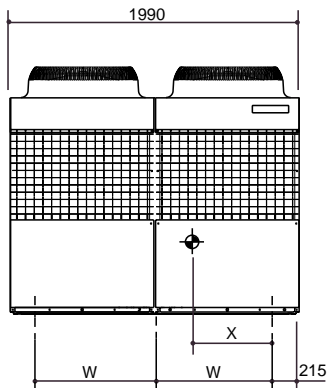
形名	W	L	X	Y	Z
PUHV-P224M-A	560	880	255	405	500

P335形



形名	W	L	X	Y	Z
PUHV-P335M-A	860	880	375	415	510
PUHV-P450M-A	780	880	485	400	500
PUHV-P560M-A	780	880	435	350	500

P450, 560形



## 4.耐震強度計算

### (1) 室外ユニット

#### 耐震強度計算書フォーム

1. 機種

2. 形名

3. 機器緒元

(1) 機器質量 (運転質量)

$$W = \text{ } \text{ kg}$$

(2) アンカーボルト

総本数

$$N = \text{ } \text{ 本}$$

サイズ

$$= M \text{ } \text{ 形}$$

1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)

$$A = \text{ } \text{ mm}^2 = \text{ } \text{ ' } \text{ m}^2$$

機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数

$$N_t = \text{ } \text{ 本}$$

(3) 据付面より機器重心までの高さ

$$H_g = \text{ } \text{ mm} = \text{ } \text{ ' } \text{ m}$$

(4) 検討する方向から見たボルトスパン

$$L = \text{ } \text{ mm} = \text{ } \text{ ' } \text{ m}$$

(5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離

$$L_g = \text{ } \text{ mm} (L_g = L/2) = \text{ } \text{ ' } \text{ m}$$

4. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度

$$K_h = \text{ } 1.0$$

(2) 設計用鉛直震度

$$K_v = K_h/2 = \text{ } 0.5$$

(3) 設計用水平地震力

$$F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = \text{ } \text{ N}$$

(4) 設計用鉛直地震力

$$F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = \text{ } \text{ N}$$

(5) アンカーボルトの引抜力

$$R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = \text{ } \text{ N}$$

(6) アンカーボルトのせん断力

$$Q = \frac{F_h}{N} = \text{ } \text{ N}$$

(7) アンカーボルトに生じる応力度

$$\text{引張り応力度} = \frac{R_b}{A} = \text{ } \text{ MPa} < f_t = 176.4 \text{ MPa}$$

$$\text{せん断応力度} = \frac{Q}{A} = \text{ } \text{ MPa} < f_s = 132.3 \text{ MPa}$$

$$\text{引張りとせん断を同時に受ける場合} \quad f_{ts} = 1.4f_t - 1.6 = \text{ } \text{ MPa}$$

$$= \text{ } \text{ MPa} < f_{ts} = \text{ } \text{ MPa}$$

(8) アンカーボルトの施工法

アンカーボルトの施工法

$$= \text{ } \text{ 箱抜き式 J 形アンカー}$$

コンクリート厚さ

$$= \text{ } \text{ mm} = \text{ } \text{ ' } \text{ m}$$

ボルトの埋込長さ

$$= \text{ } \text{ mm} = \text{ } \text{ ' } \text{ m}$$

許容引抜荷重

$$T_a = \text{ } \text{ N} > R_b = \text{ } \text{ N}$$

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



耐震強度計算

機種		設備用インバータシリーズ			
機器形名		PUHV-P224M-A	PUHV-P280M-A		
機器質量(kg)	W	227	242		
アンカーボルト	総本数	N	4	4	
	サイズ		M10	M10	
	軸断面積(mm <sup>2</sup> )	A	78	78	
	"    (m <sup>2</sup> )	A	78 × 10 <sup>-6</sup>	78 × 10 <sup>-6</sup>	
	引張りを受けるボルト総本数	Nt	2	2	
	機器重心までの高さ(mm)	Hg	500	500	
	"    (m)	Hg	0.500	0.500	
	ボルトスパン(mm)	L	880	880	
	"    (m)	L	0.880	0.880	
	機器重心までの距離(mm)	Lg	405	405	
	"    (m)	Lg	0.405	0.405	
	検討計算書	水平地震力(N)	Fh	2224.6	2371.6
		鉛直地震力(N)	Fv	1112.3	1185.8
		引抜力(N)	Rb	376.0	400.9
せん断力(N)		Q	556.2	592.9	
引張応力度(MPa)			4.8	5.1	
せん断応力度(MPa)			7.1	7.6	
同時応力度(MPa)		fts	235.6	234.8	
コンクリート厚さ(mm)			180	180	
"    (m)			0.180	0.180	
ボルトの埋込長さ(mm)			130	130	
"    (m)		0.130	0.130		
許容引抜荷重(N)	Ta	11760	11760		

機種		設備用インバータシリーズ				
機器形名		PUHV-P335M-A	PUHV-P450M-A	PUHV-P560M-A		
機器質量(kg)	W	283	453	473		
アンカーボルト	総本数	N	4	6	6	
	サイズ		M10	M10	M10	
	軸断面積(mm <sup>2</sup> )	A	78	78	78	
	"    (m <sup>2</sup> )	A	78 × 10 <sup>-6</sup>	78 × 10 <sup>-6</sup>	78 × 10 <sup>-6</sup>	
	引張りを受けるボルト総本数	Nt	2	3	3	
	機器重心までの高さ(mm)	Hg	500	500	500	
	"    (m)	Hg	0.500	0.500	0.500	
	ボルトスパン(mm)	L	880	880	880	
	"    (m)	L	0.880	0.880	0.880	
	機器重心までの距離(mm)	Lg	415	400	350	
	"    (m)	Lg	0.415	0.400	0.350	
	検討計算書	水平地震力(N)	Fh	2773.4	4439.4	4635.4
		鉛直地震力(N)	Fv	1386.7	2219.7	2317.7
		引抜力(N)	Rb	476.7	504.5	570.6
せん断力(N)		Q	693.4	739.9	772.6	
引張応力度(MPa)			6.1	6.5	7.3	
せん断応力度(MPa)			8.9	9.5	9.9	
同時応力度(MPa)		fts	232.7	231.8	231.1	
コンクリート厚さ(mm)			180	180	180	
"    (m)			0.180	0.180	0.180	
ボルトの埋込長さ(mm)			130	130	130	
"    (m)		0.130	0.130	0.130		
許容引抜荷重(N)	Ta	11760	11760	11760		

(2) 室内ユニット

PFAV-P224M-A

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 124$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 8$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 50$  mm<sup>2</sup> =  $50 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 809$  mm =  $0.809$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 300$  mm =  $0.3$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 142$  mm ( $L_g / L / 2$ ) =  $0.142$  m

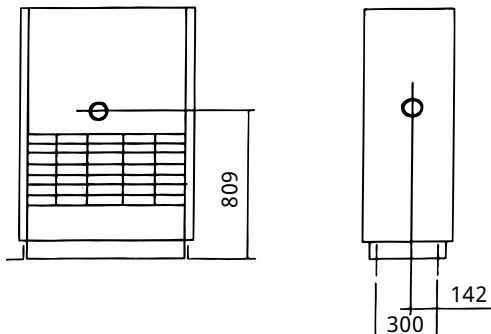
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 1215.2$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 607.6$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 1494.7$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 303.8$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 29.9$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 6.1$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $237.2$  MPa
- =  $29.9$  MPa <  $f_{ts} = 237.2$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 箱抜き式J形アンカー
- コンクリート厚さ =  $150$  mm =  $0.150$  m
- ボルトの埋込長さ =  $102$  mm =  $0.102$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 4508$  N >  $R_b = 1494.7$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P280M-A

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 148$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 8$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 50$  mm<sup>2</sup> =  $50 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 835$  mm =  $0.835$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 300$  mm =  $0.3$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 144$  mm ( $L_g = L/2$ ) =  $0.144$  m

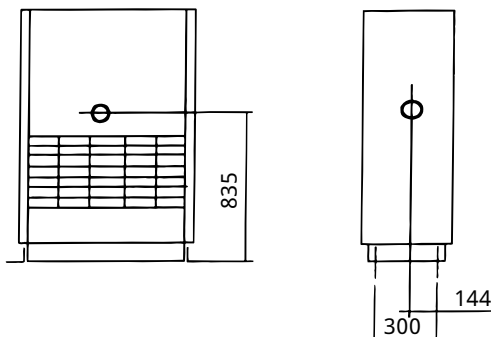
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 1450.4$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 725.2$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 1844.4$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 362.6$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 36.9$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 7.3$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $235.4$  MPa
- =  $36.9$  MPa <  $f_{ts} = 235.4$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 箱抜き式 J 形アンカー
- コンクリート厚さ =  $150$  mm =  $0.15$  m
- ボルトの埋込長さ =  $102$  mm =  $0.102$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 4508$  N >  $R_b = 1844.4$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



# PFAV-P450M-A

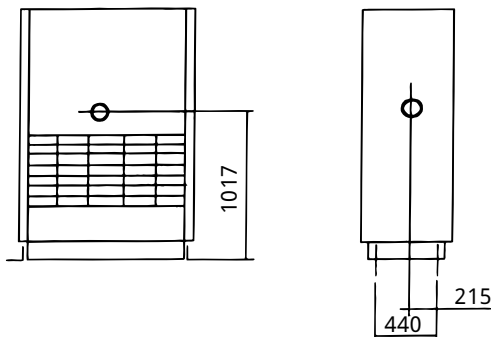
## 1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 235$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 8$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 50$  mm<sup>2</sup> =  $50 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 1017$  mm =  $1.017$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 440$  mm =  $0.44$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 215$  mm ( $L_g / L / 2$ ) =  $0.215$  m

## 2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 2303.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 1151.5$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 2380.2$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 575.8$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 47.6$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 11.5$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $228.5$  MPa
- =  $47.6$  MPa <  $f_{ts} = 228.5$  MPa
- (8) アンカーボルトの施工法
- アンカーボルトの施工法 = 箱抜き式 J 形アンカー
- コンクリート厚さ =  $150$  mm =  $0.15$  m
- ボルトの埋込長さ =  $102$  mm =  $0.102$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 4508$  N >  $R_b = 2380.2$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



# PFAV-P560M-A

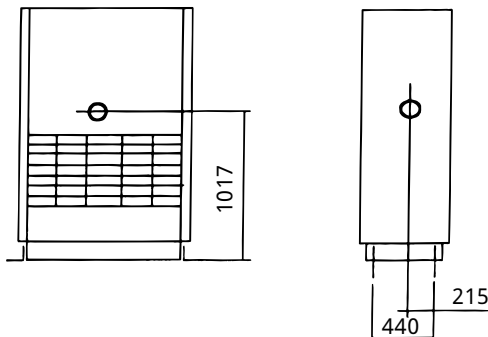
## 1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 257$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 8$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 50$  mm<sup>2</sup> =  $50 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 1017$  mm =  $1.017$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 440$  mm =  $0.44$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 215$  mm (  $L_g = L/2$  ) =  $0.215$  m

## 2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 2518.6$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 1259.3$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 2603.0$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 629.7$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 52.1$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 12.6$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $226.8$  MPa
- =  $52.1$  MPa <  $f_{ts} = 226.8$  MPa
- (8) アンカーボルトの施工法
- アンカーボルトの施工法 = 箱抜き式J形アンカー
- コンクリート厚さ =  $150$  mm =  $0.15$  m
- ボルトの埋込長さ =  $102$  mm =  $0.102$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 4508$  N >  $R_b = 2603.0$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P670M-A

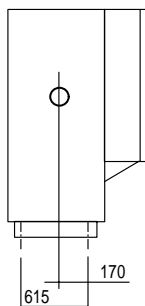
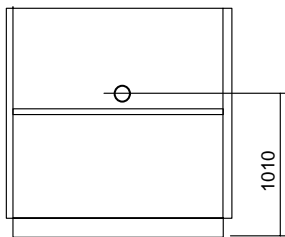
1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 410$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 10$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 78$  mm<sup>2</sup> =  $78 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 1010$  mm =  $1.01$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 615$  mm =  $0.615$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 170$  mm ( $L_g / 2$ ) =  $0.17$  m

2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 4018.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 2009.0$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 3021.7$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1004.5$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 38.7$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 12.9$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $226.4$  MPa
- =  $38.7$  MPa <  $f_{ts} = 226.4$  MPa
- (8) アンカーボルトの施工法
- アンカーボルトの施工法 = 箱抜き式 J 形アンカー
- コンクリート厚さ =  $150$  mm =  $0.15$  m
- ボルトの埋込長さ =  $100$  mm =  $0.1$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 4508$  N >  $R_b = 3021.7$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



# PFAV-P800M-A

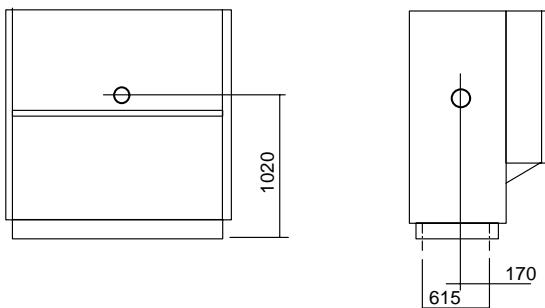
## 1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 425$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 10$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 78$  mm<sup>2</sup> =  $78 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 1020$  mm =  $1.02$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 615$  mm =  $0.615$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 170$  mm ( $L_g / L/2$ ) =  $0.17$  m

## 2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 4165.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 2082.5$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 3166.1$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1041.3$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 40.6$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 13.3$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6 = 225.6$  MPa
- $= 40.6$  MPa <  $f_{ts} = 225.6$  MPa
- (8) アンカーボルトの施工法
- アンカーボルトの施工法  $=$  箱抜き式 J 形アンカー
- コンクリート厚さ  $= 150$  mm =  $0.15$  m
- ボルトの埋込長さ  $= 100$  mm =  $0.1$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 4508$  N >  $R_b = 3166.1$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P1120M-A-L

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 600$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 16$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 200$  mm<sup>2</sup> =  $113 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 701$  mm =  $0.701$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 860$  mm =  $0.86$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 321$  mm ( $L_g = L/2$ ) =  $0.321$  m

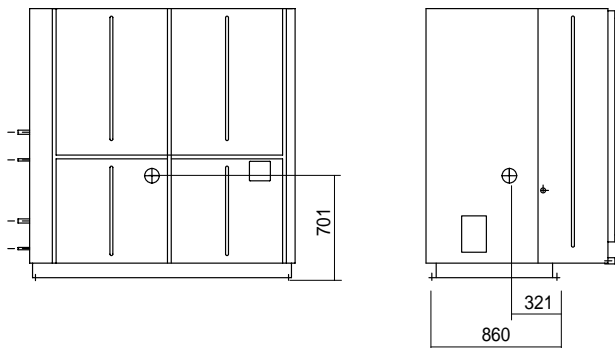
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 5880.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 2940.0$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 1847.8$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1470.0$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 9.2$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 7.4$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $235.2$  MPa
- =  $9.2$  MPa <  $f_{ts} = 235.2$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 後打ち式おねじ形メカニカルアンカー
- コンクリート厚さ =  $120$  mm =  $0.12$  m
- ボルトの埋込長さ =  $70$  mm =  $0.07$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 9016$  N >  $R_b = 1847.8$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています





PFAV-P1400M-A-L

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 650$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 16$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 200$  mm<sup>2</sup> =  $113 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 754$  mm =  $0.754$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 860$  mm =  $0.86$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 327$  mm ( $L_g = L/2$ ) =  $0.327$  m

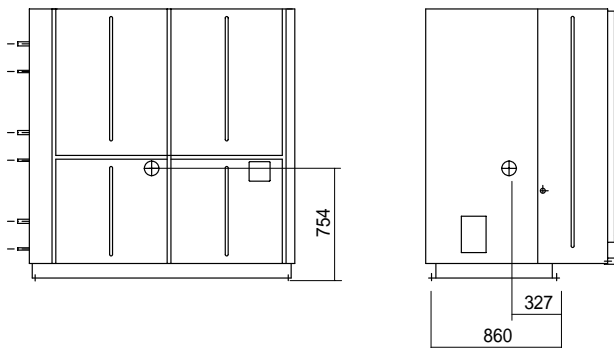
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 6370.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 3185.0$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 2186.9$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1592.5$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 10.9$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 8.0$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $234.2$  MPa
- =  $10.9$  MPa <  $f_{ts} = 234.2$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 後打ち式おねじ形メカニカルアンカー
- コンクリート厚さ =  $120$  mm =  $0.12$  m
- ボルトの埋込長さ =  $70$  mm =  $0.07$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 9016$  N >  $R_b = 2186.9$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P1600M-A-L

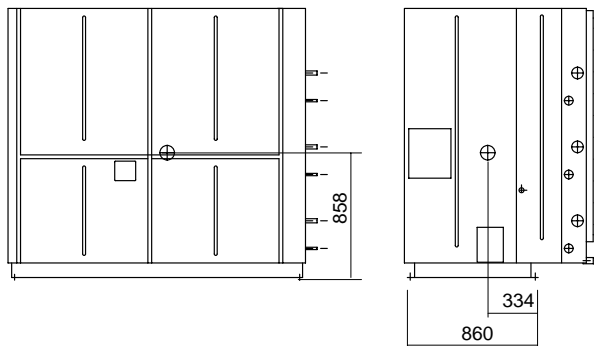
1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 700$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 16$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 200$  mm<sup>2</sup> =  $113 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 858$  mm =  $0.858$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 860$  mm =  $0.86$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 334$  mm ( $L_g / L/2$ ) =  $0.334$  m

2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 6860.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 3430.0$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 2756.0$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1715.0$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 13.8$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 8.6$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6 = 233.2$  MPa
- $= 13.8$  MPa <  $f_{ts} = 233.2$  MPa
- (8) アンカーボルトの施工法
- アンカーボルトの施工法  $=$  後打ち式おねじ形メカニカルアンカー
- コンクリート厚さ  $= 120$  mm =  $0.12$  m
- ボルトの埋込長さ  $= 70$  mm =  $0.07$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 9016$  N >  $R_b = 2756.0$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P1120M-A-R

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 600$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 16$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 200$  mm<sup>2</sup> =  $113 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 701$  mm =  $0.701$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 860$  mm =  $0.86$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 321$  mm ( $L_g = L/2$ ) =  $0.321$  m

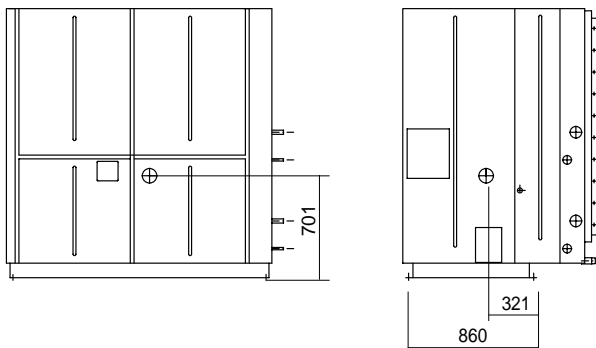
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 5880.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 2940.0$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 1847.8$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1470.0$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 9.2$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 7.4$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $235.2$  MPa
- =  $9.2$  MPa <  $f_{ts} = 235.2$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 後打ち式おねじ形メカニカルアンカー
- コンクリート厚さ =  $120$  mm =  $0.12$  m
- ボルトの埋込長さ =  $70$  mm =  $0.07$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 9016$  N >  $R_b = 1847.8$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P1400M-A-R

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 650$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 16$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 200$  mm<sup>2</sup> =  $113 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 754$  mm =  $0.754$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 860$  mm =  $0.86$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 327$  mm (  $L_g / 2$  ) =  $0.327$  m

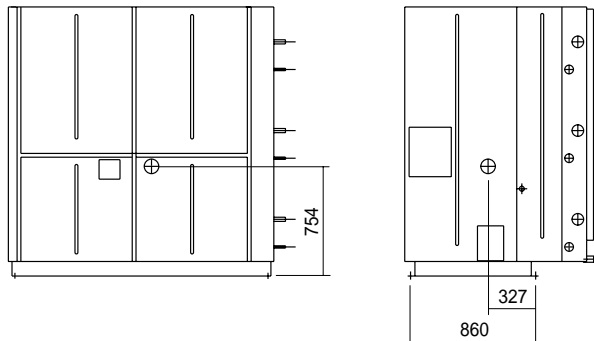
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 6370.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 3185.0$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 2186.9$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1592.5$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 10.9$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 8.0$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $234.2$  MPa
- =  $10.9$  MPa <  $f_{ts} = 234.2$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 後打ち式おねじ形メカニカルアンカー
- コンクリート厚さ =  $120$  mm =  $0.12$  m
- ボルトの埋込長さ =  $70$  mm =  $0.07$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 9016$  N >  $R_b = 2186.9$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P1600M-A-R

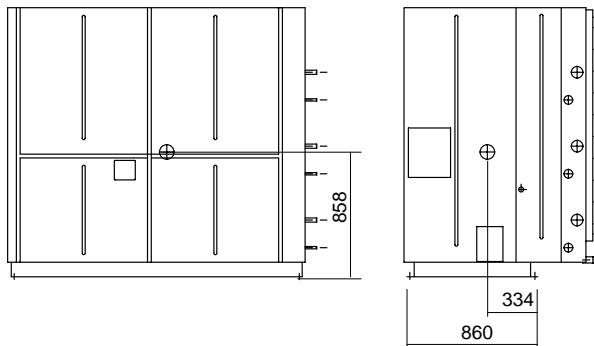
1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 700$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 16$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 200$  mm<sup>2</sup> =  $113 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 858$  mm =  $0.858$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 860$  mm =  $0.86$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 334$  mm ( $L_g / L =$   $0.334$ ) m

2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 6860.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 3430.0$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 2756.0$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1715.0$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 13.8$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 8.6$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6 = 233.2$  MPa
- $= 13.8$  MPa <  $f_{ts} = 233.2$  MPa
- (8) アンカーボルトの施工法
- アンカーボルトの施工法  $=$  後打ち式おねじ形メカニカルアンカー
- コンクリート厚さ  $= 120$  mm =  $0.12$  m
- ボルトの埋込長さ  $= 70$  mm =  $0.07$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 9016$  N >  $R_b = 2756.0$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P265M-A-F (オールフレッシュ用)

1. 仕様

(1) 機器質量 (運転質量)	W =	<input type="text" value="127"/>	kg
(2) アンカーボルト			
総本数	N =	<input type="text" value="4"/>	本
サイズ・形状	= M	<input type="text" value="8"/>	形
1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)	A =	<input type="text" value="50"/>	mm <sup>2</sup> = <input type="text" value="50 × 10&lt;sup&gt;-6&lt;/sup&gt;"/> m <sup>2</sup>
機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数	Nt =	<input type="text" value="2"/>	本
(3) 据付面より機器重心までの高さ	Hg =	<input type="text" value="798"/>	mm = <input type="text" value="0.798"/> m
(4) 検討する方向から見たボルトスパン	L =	<input type="text" value="300"/>	mm = <input type="text" value="0.3"/> m
(5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離	Lg =	<input type="text" value="137"/>	mm (Lg = L/2) = <input type="text" value="0.137"/> m

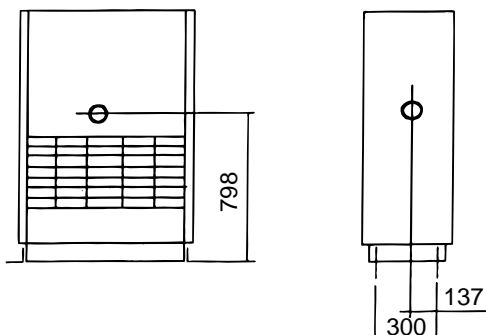
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度	Kh =	<input type="text" value="1.0"/>	
(2) 設計用鉛直震度	Kv = Kh/2 =	<input type="text" value="0.5"/>	
(3) 設計用水平地震力	Fh = Kh · W · 9.8 =	<input type="text" value="1244.6"/>	N
(4) 設計用鉛直地震力	Fv = Kv · W · 9.8 =	<input type="text" value="622.3"/>	N
(5) アンカーボルトの引抜力	$R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} =$	<input type="text" value="1513.2"/>	N
(6) アンカーボルトのせん断力	$Q = \frac{F_h}{N} =$	<input type="text" value="311.2"/>	N
(7) アンカーボルトに生じる応力度			
引張り応力度	$= \frac{R_b}{A} =$	<input type="text" value="30.3"/>	MPa < ft = 176.4 MPa
せん断応力度	$= \frac{Q}{A} =$	<input type="text" value="6.2"/>	MPa < fs = 132.3 MPa
引張りとせん断を同時に受ける場合	fts = 1.4ft - 1.6 =	<input type="text" value="237.0"/>	MPa
	=	<input type="text" value="30.3"/>	MPa < fts = <input type="text" value="237.0"/> MPa

(8) アンカーボルトの施工法

アンカーボルトの施工法	=	<input type="text" value="箱抜き式J形アンカー"/>
コンクリート厚さ	=	<input type="text" value="150"/> mm = <input type="text" value="0.15"/> m
ボルトの埋込長さ	=	<input type="text" value="102"/> mm = <input type="text" value="0.102"/> m
許容引抜荷重	Ta =	<input type="text" value="4508"/> N > Rb = <input type="text" value="1513.2"/> N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P335M-A-F (オールフレッシュ用)

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 151$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 8$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 50$  mm<sup>2</sup> =  $50 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 825$  mm =  $0.825$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 300$  mm =  $0.3$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 139$  mm ( $L_g / 2$ ) =  $0.139$  m

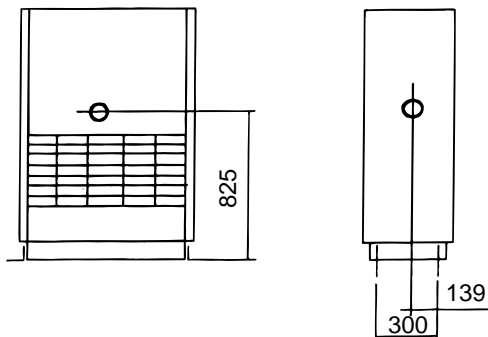
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 1479.8$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 739.9$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 1863.3$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 370.0$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 37.3$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 7.4$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $235.1$  MPa  
 $= 37.3$  MPa <  $f_{ts} = 235.1$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 箱抜き式J形アンカー
- コンクリート厚さ =  $150$  mm =  $0.15$  m
- ボルトの埋込長さ =  $102$  mm =  $0.102$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 4508$  N >  $R_b = 1863.3$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



# PFAV-P530M-A-F (オールフレッシュ用)

## 1. 仕様

(1) 機器質量 (運転質量)	W =	<input type="text" value="239"/>	kg
(2) アンカーボルト			
総本数	N =	<input type="text" value="4"/>	本
サイズ・形状	= M	<input type="text" value="8"/>	形
1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)	A =	<input type="text" value="50"/>	mm <sup>2</sup> = <input type="text" value="50 × 10&lt;sup&gt;-6&lt;/sup&gt;"/> m <sup>2</sup>
機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数	Nt =	<input type="text" value="2"/>	本
(3) 据付面より機器重心までの高さ	Hg =	<input type="text" value="1009"/>	mm = <input type="text" value="1.009"/> m
(4) 検討する方向から見たボルトスパン	L =	<input type="text" value="440"/>	mm = <input type="text" value="0.44"/> m
(5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離	Lg =	<input type="text" value="210"/>	mm (Lg / 2) = <input type="text" value="0.21"/> m

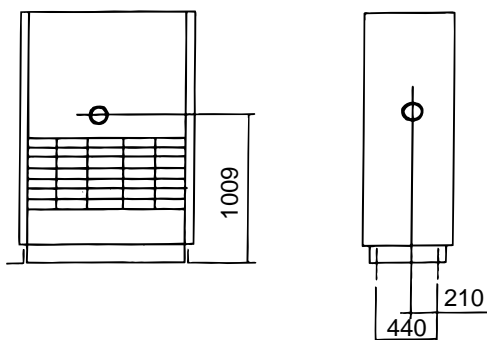
## 2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度	Kh =	<input type="text" value="1.0"/>	
(2) 設計用鉛直震度	Kv = Kh/2 =	<input type="text" value="0.5"/>	
(3) 設計用水平地震力	Fh = Kh · W · 9.8 =	<input type="text" value="2342.2"/>	N
(4) 設計用鉛直地震力	Fv = Kv · W · 9.8 =	<input type="text" value="1171.1"/>	N
(5) アンカーボルトの引抜力	$R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t}$	<input type="text" value="2406.1"/>	N
(6) アンカーボルトのせん断力	$Q = \frac{F_h}{N}$	<input type="text" value="585.6"/>	N
(7) アンカーボルトに生じる応力度			
引張り応力度	$= \frac{R_b}{A}$	<input type="text" value="48.1"/>	MPa < ft = 176.4 MPa
せん断応力度	$= \frac{Q}{A}$	<input type="text" value="11.7"/>	MPa < fs = 132.3 MPa
引張りとせん断を同時に受ける場合	$fts = 1.4ft - 1.6$	<input type="text" value="228.2"/>	MPa
	$=$	<input type="text" value="48.1"/>	MPa < fts = <input type="text" value="228.2"/> MPa

## (8) アンカーボルトの施工法

アンカーボルトの施工法	=	<input type="text" value="箱抜き式J形アンカー"/>
コンクリート厚さ	=	<input type="text" value="150"/> mm = <input type="text" value="0.15"/> m
ボルトの埋込長さ	=	<input type="text" value="102"/> mm = <input type="text" value="0.102"/> m
許容引抜荷重	Ta =	<input type="text" value="4508"/> N > Rb = <input type="text" value="2406.1"/> N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています





PFAV-P670M-A-F (オールフレッシュ用)

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 262$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 8$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 50$  mm<sup>2</sup> =  $50 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 1008$  mm =  $1.008$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 440$  mm =  $0.44$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 209$  mm ( $L_g = L/2$ ) =  $0.209$  m

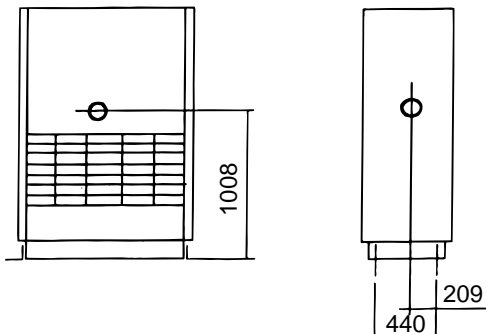
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 2567.6$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 1283.8$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 2636.2$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 641.9$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 52.7$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 12.8$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $226.4$  MPa
- =  $52.7$  MPa <  $f_{ts} = 226.4$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 箱抜き式J形アンカー
- コンクリート厚さ =  $150$  mm =  $0.15$  m
- ボルトの埋込長さ =  $102$  mm =  $0.102$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 4508$  N >  $R_b = 2636.2$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



## PFAV-P1000M-A-F (オールフレッシュ用)

### 1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 405$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 10$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 78$  mm<sup>2</sup> =  $78 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 1020$  mm =  $1.02$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 615$  mm =  $0.615$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 170$  mm ( $L_g / 2$ ) =  $0.17$  m

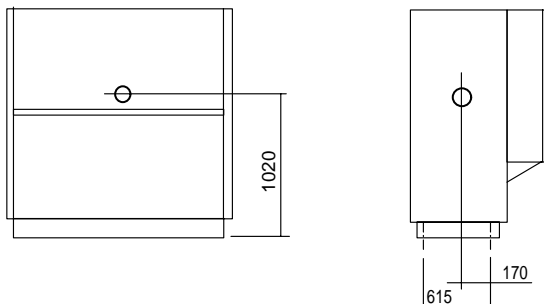
### 2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h / 2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 3969.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 1984.5$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 3017.1$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 992.3$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 38.7$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 12.7$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $226.6$  MPa  
 $= 38.7$  MPa <  $f_{ts} = 226.6$  MPa

### (8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 箱抜き式J形アンカー
- コンクリート厚さ =  $150$  mm =  $0.15$  m
- ボルトの埋込長さ =  $100$  mm =  $0.1$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 4508$  N >  $R_b = 3017.1$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P1250M-A-F-L (オールフレッシュ用)

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 590$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 16$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 200$  mm<sup>2</sup> =  $113 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 701$  mm =  $0.701$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 860$  mm =  $0.86$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 321$  mm ( $L_g = L/2$ ) =  $0.321$  m

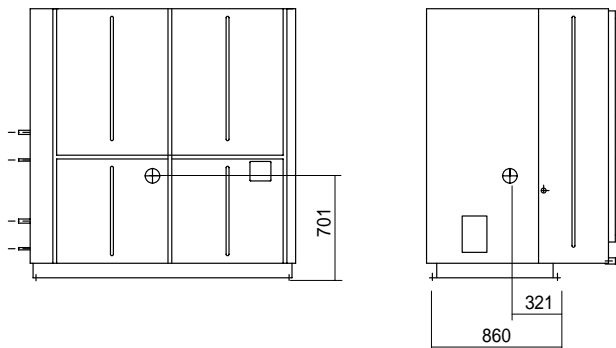
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 5782.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 2891.0$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 1817.0$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1445.5$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 9.1$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 7.2$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6 = 235.4$  MPa
- $= 9.1$  MPa <  $f_{ts} = 235.4$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法  $=$  後打ち式おねじ形メカニカルアンカー
- コンクリート厚さ  $= 120$  mm =  $0.12$  m
- ボルトの埋込長さ  $= 70$  mm =  $0.07$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 9016$  N >  $R_b = 1817.0$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P1600M-A-F-L (オールフレッシュ用)

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 625$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 16$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 200$  mm<sup>2</sup> =  $113 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 754$  mm =  $0.754$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 860$  mm =  $0.86$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 327$  mm ( $L_g = L/2$ ) =  $0.327$  m

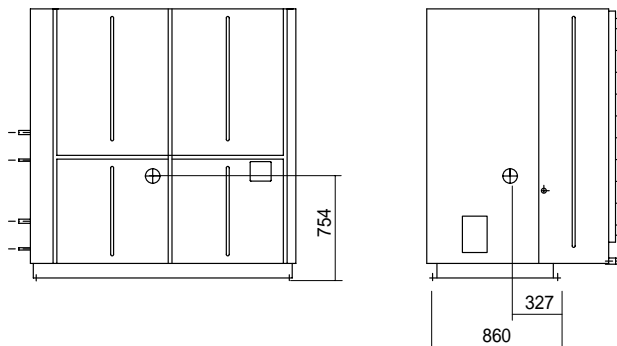
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 6125.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 3062.5$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 2102.8$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1531.3$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 10.5$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 7.7$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $234.7$  MPa
- $= 10.5$  MPa <  $f_{ts} = 234.7$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法  $=$  後打ち式おねじ形メカニカルアンカー
- コンクリート厚さ  $= 120$  mm =  $0.12$  m
- ボルトの埋込長さ  $= 70$  mm =  $0.07$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 9016$  N >  $R_b = 2102.8$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



PFAV-P1250M-A-F-R (オールフレッシュ用)

1. 仕様

- (1) 機器質量 (運転質量)  $W = 590$  kg
- (2) アンカーボルト
- 総本数  $N = 4$  本
- サイズ・形状  $= M 16$  形
- 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)  $A = 200$  mm<sup>2</sup> =  $113 \times 10^{-6}$  m<sup>2</sup>
- 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数  $N_t = 2$  本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ  $H_g = 701$  mm =  $0.701$  m
- (4) 検討する方向から見たボルトスパン  $L = 860$  mm =  $0.86$  m
- (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離  $L_g = 321$  mm ( $L_g = L/2$ ) =  $0.321$  m

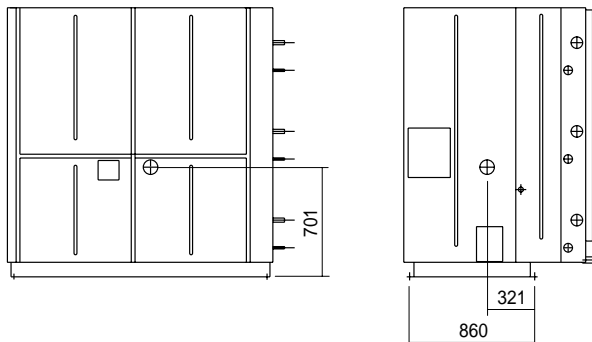
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度  $K_h = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度  $K_v = K_h/2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力  $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 5782.0$  N
- (4) 設計用鉛直地震力  $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 2891.0$  N
- (5) アンカーボルトの引抜力  $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 1817.0$  N
- (6) アンカーボルトのせん断力  $Q = \frac{F_h}{N} = 1445.5$  N
- (7) アンカーボルトに生じる応力度
- 引張り応力度  $= \frac{R_b}{A} = 9.1$  MPa <  $f_t = 176.4$  MPa
- せん断応力度  $= \frac{Q}{A} = 7.2$  MPa <  $f_s = 132.3$  MPa
- 引張りとせん断を同時に受ける場合  $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6$  =  $235.4$  MPa
- =  $9.1$  MPa <  $f_{ts} = 235.4$  MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- アンカーボルトの施工法 = 後打ち式おねじ形メカニカルアンカー
- コンクリート厚さ =  $120$  mm =  $0.12$  m
- ボルトの埋込長さ =  $70$  mm =  $0.07$  m
- 許容引抜荷重  $T_a = 9016$  N >  $R_b = 1817.0$  N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



②1 PFAV-P1600M-A-F-R (オールフレッシュ用)

1. 仕様

(1) 機器質量 (運転質量)	W =	<input type="text" value="625"/>	kg
(2) アンカーボルト			
総本数	N =	<input type="text" value="4"/>	本
サイズ・形状	= M	<input type="text" value="16"/>	形
1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積)	A =	<input type="text" value="200"/>	mm <sup>2</sup> = <input type="text" value="113 × 10&lt;sup&gt;-6&lt;/sup&gt;"/> m <sup>2</sup>
機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数	Nt =	<input type="text" value="2"/>	本
(3) 据付面より機器重心までの高さ	Hg =	<input type="text" value="754"/>	mm = <input type="text" value="0.754"/> m
(4) 検討する方向から見たボルトスパン	L =	<input type="text" value="860"/>	mm = <input type="text" value="0.86"/> m
(5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの距離	Lg =	<input type="text" value="327"/>	mm (Lg L/2) = <input type="text" value="0.327"/> m

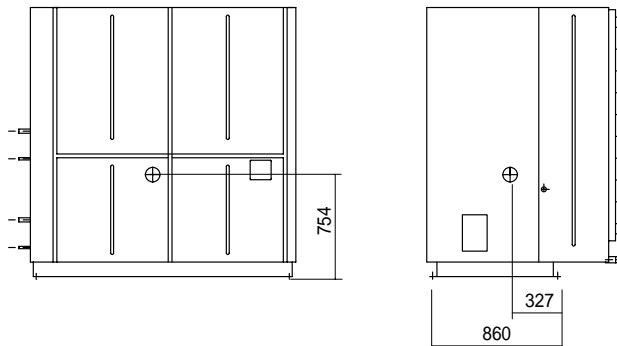
2. 検討計算 (小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度	Kh =	<input type="text" value="1.0"/>
(2) 設計用鉛直震度	Kv = Kh/2 =	<input type="text" value="0.5"/>
(3) 設計用水平地震力	Fh = Kh · W · 9.8 =	<input type="text" value="6125.0"/> N
(4) 設計用鉛直地震力	Fv = Kv · W · 9.8 =	<input type="text" value="3062.5"/> N
(5) アンカーボルトの引抜力	$R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t}$	= <input type="text" value="2102.8"/> N
(6) アンカーボルトのせん断力	$Q = \frac{F_h}{N}$	= <input type="text" value="1531.3"/> N
(7) アンカーボルトに生じる応力度		
引張り応力度	$= \frac{R_b}{A}$	= <input type="text" value="10.5"/> MPa < ft = 176.4 MPa
せん断応力度	$= \frac{Q}{A}$	= <input type="text" value="7.7"/> MPa < fs = 132.3 MPa
引張りとせん断を同時に受ける場合	fts = 1.4ft - 1.6	= <input type="text" value="234.7"/> MPa
	=	<input type="text" value="10.5"/> MPa < fts = <input type="text" value="234.7"/> MPa

(8) アンカーボルトの施工法

アンカーボルトの施工法	=	<input type="text" value="後打ち式おねじ形メカニカルアンカー"/>
コンクリート厚さ	=	<input type="text" value="120"/> mm = <input type="text" value="0.12"/> m
ボルトの埋込長さ	=	<input type="text" value="70"/> mm = <input type="text" value="0.07"/> m
許容引抜荷重	Ta =	<input type="text" value="9016"/> N > Rb = <input type="text" value="2102.8"/> N

以上の検討計算書より、アンカーボルトは十分な強度を有しています



## 5. 室外ユニットの振動レベル

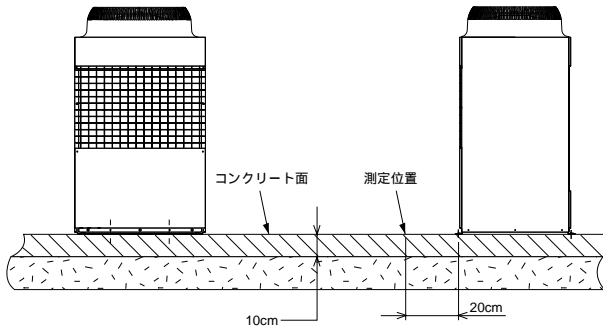
### P224形～P335形

(1) 測定条件

測定周波数帯：1Hz～80Hz

測定位置：ユニット脚部より20cmの距離の路面

据付状態：コンクリート床面直置



電源：三相200V 50Hz/60Hz

運転条件：JIS条件(冷房, 暖房)

測定機器：公害用振動レベル計 VM-1220C (JIS適合品)

(2) 振動レベル値

形名	振動レベル値(dB[A特性])
P224	45
P280	46
P335	47

注：上記値は、暗振動補正を行ったものである。

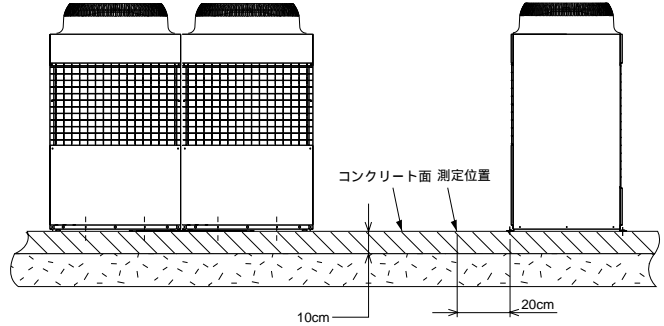
### P450形・P560形

(1) 測定条件

測定周波数帯：1Hz～80Hz

測定位置：ユニット脚部より20cmの距離の路面

据付状態：コンクリート床面直置



電源：三相200V 50Hz/60Hz

運転条件：JIS条件(冷房, 暖房)

測定機器：公害用振動レベル計 VM-1220C (JIS適合品)

(2) 振動レベル値

形名	振動レベル値(dB[A特性])
P450	48
P560	49

注：上記値は、暗振動補正を行ったものである。

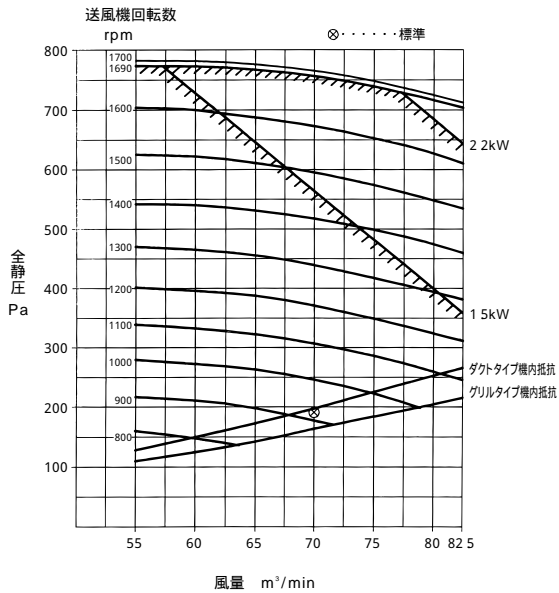
## 6.送風機性能線図と静風圧部品の選定

### (1)送風機性能線図

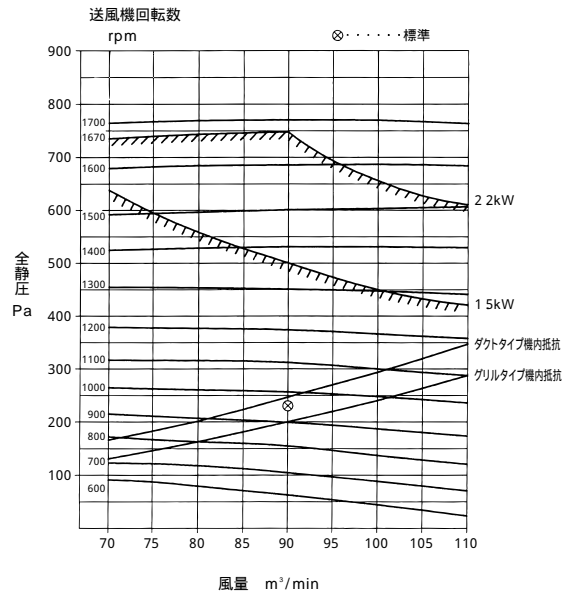
P224・P280形

#### (i)標準仕様

P224形



P280形

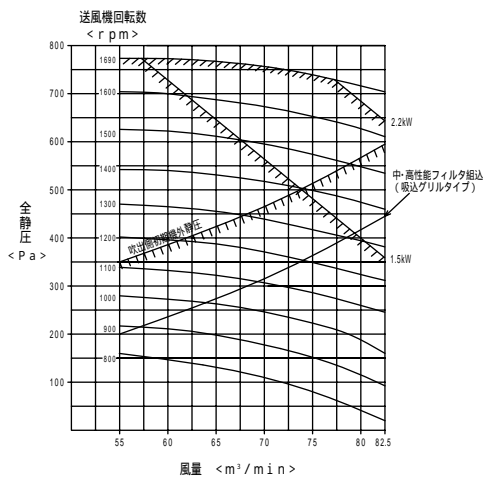


50Hz地区の場合、モータプーリ径(可変プーリ)を 140(出荷時は 116.7)に調整した値を示します。

P224・P280形の静風圧部品の選定はP95～99を参照ください。

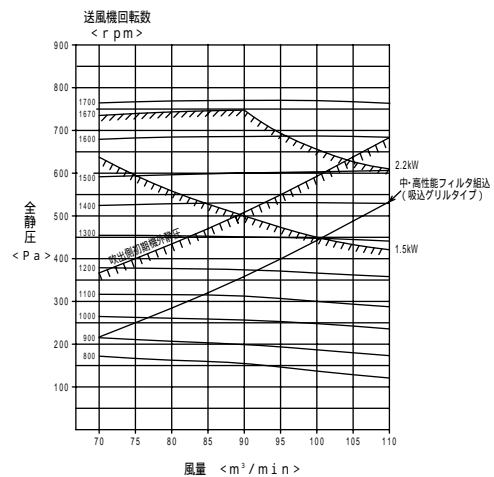
#### (ii)中高性能フィルタ<吸込グリル>

P224形



吹出ダクト接続する場合(別売吹出ダクトフランジPAC-TS05FDが必要)、吹出側初期機外静圧は150Pa以下としてください。

P280形

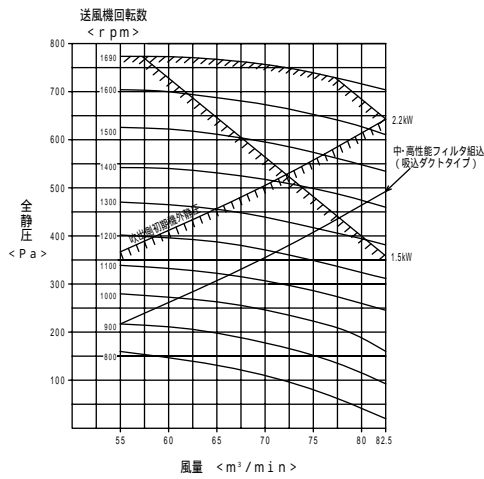


吹出ダクト接続する場合(別売吹出ダクトフランジPAC-TS08FDが必要)、吹出側初期機外静圧は150Pa以下としてください。



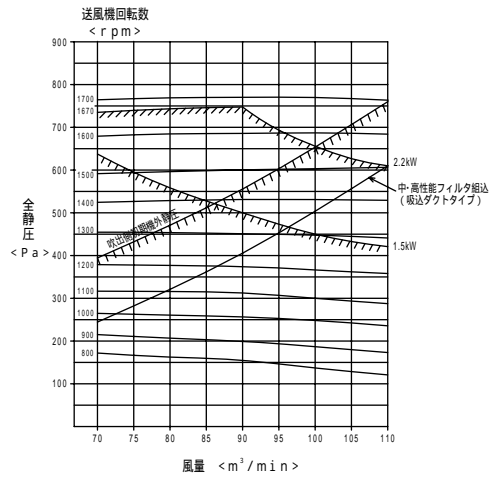
(iii) 中高性能フィルタ < 吸込ダクト >

P224形



吹出ダクト接続する場合(別売吹出ダクトフランジPAC-TS05FDが必要)、吹出側初期機外静圧は150Pa以下としてください。

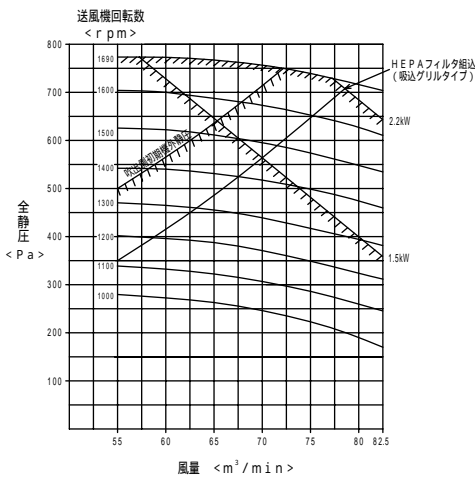
P280形



吹出ダクト接続する場合(別売吹出ダクトフランジPAC-TS08FDが必要)、吹出側初期機外静圧は150Pa以下としてください。

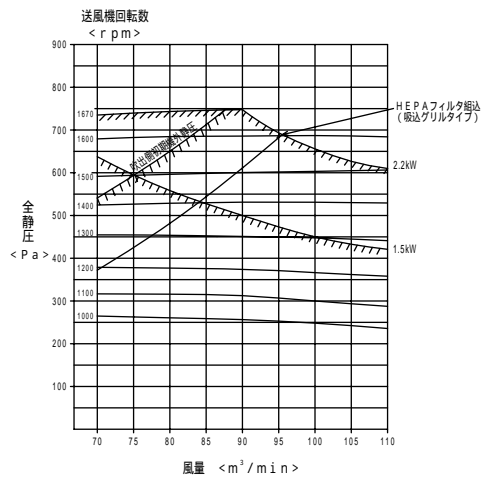
(iv) HEPAフィルタ < 吸込グリル >

P224形



吹出ダクト接続する場合(別売吹出ダクトフランジPAC-TS05FDが必要)、吹出側初期機外静圧は150Pa以下としてください。

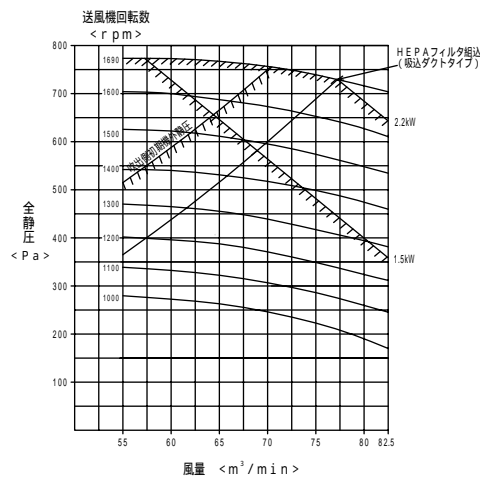
P280形



吹出ダクト接続する場合(別売吹出ダクトフランジPAC-TS08FDが必要)、吹出側初期機外静圧は150Pa以下としてください。

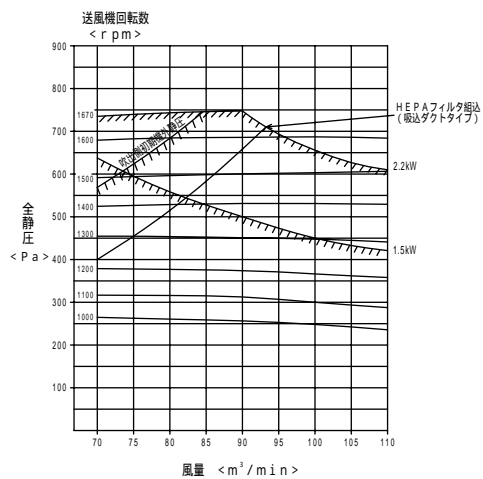
(v) HEPAフィルタ < 吸込ダクト >

P224形



吹出ダクト接続する場合(別売吹出ダクトフランジPAC-TS05FDが必要)、吹出側初期機外静圧は150Pa以下としてください。

P280形

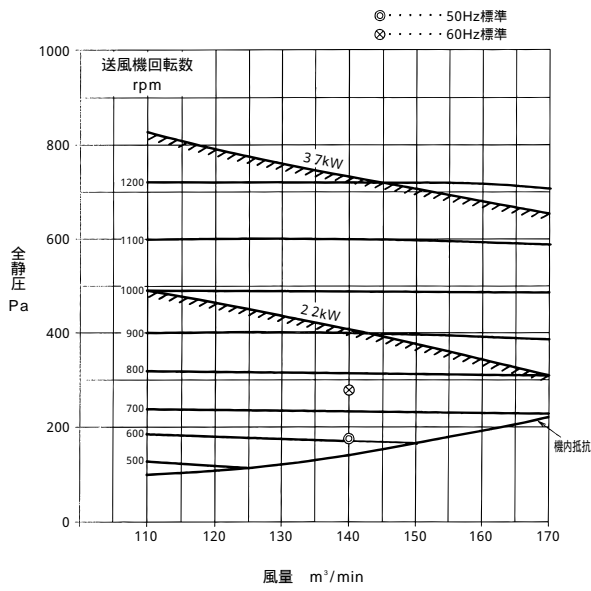


吹出ダクト接続する場合(別売吹出ダクトフランジPAC-TS08FDが必要)、吹出側初期機外静圧は150Pa以下としてください。

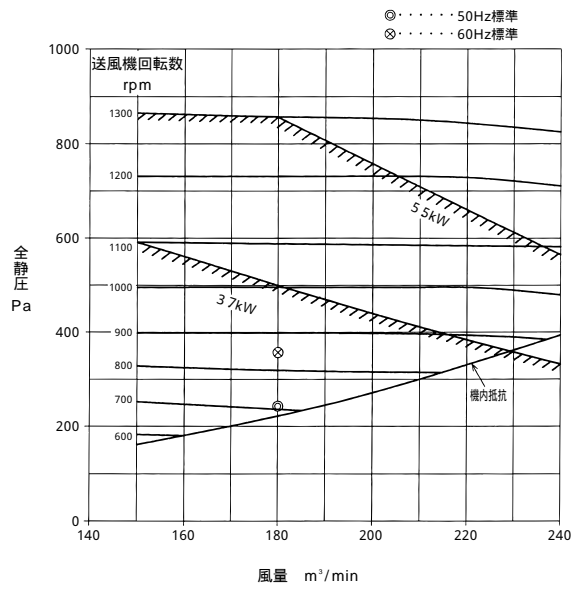
P450・P560形

(i)標準仕様

PFAV-P450M-A



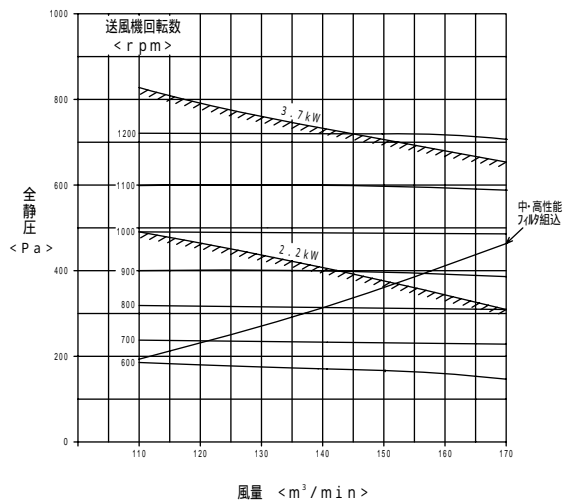
PFAV-P560M-A



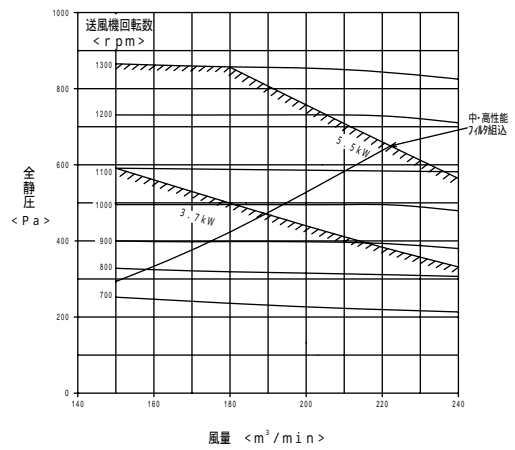
P450・P560形の静風圧部品の選定はP98～102を参照ください。

(ii)中高性能フィルタ<吸込グリル, 吸込ダクト>

P450形

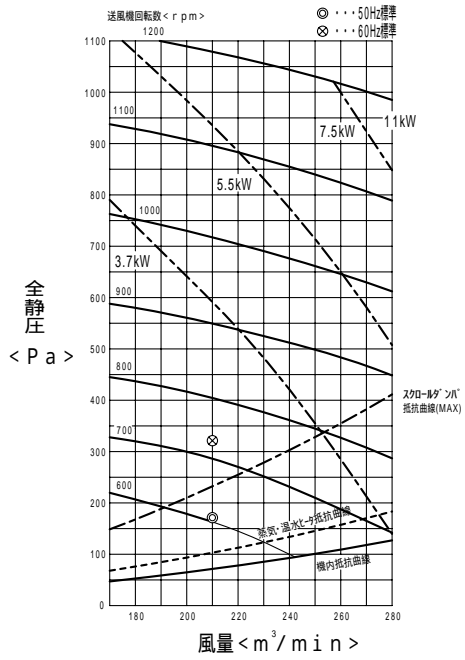


P560形

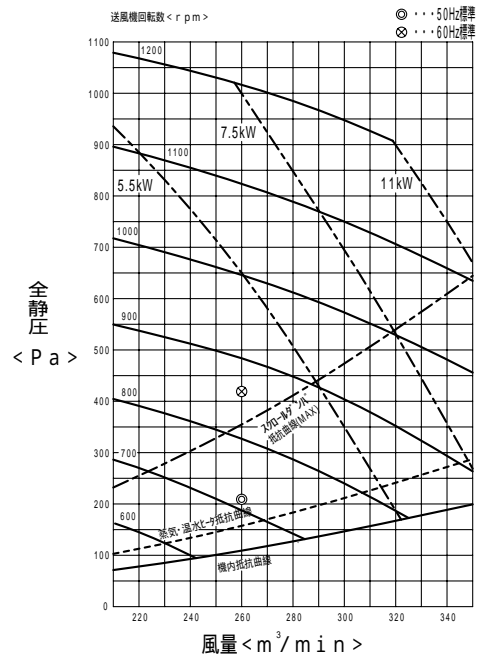


## P670・P800形

### PFAV-P670M-A



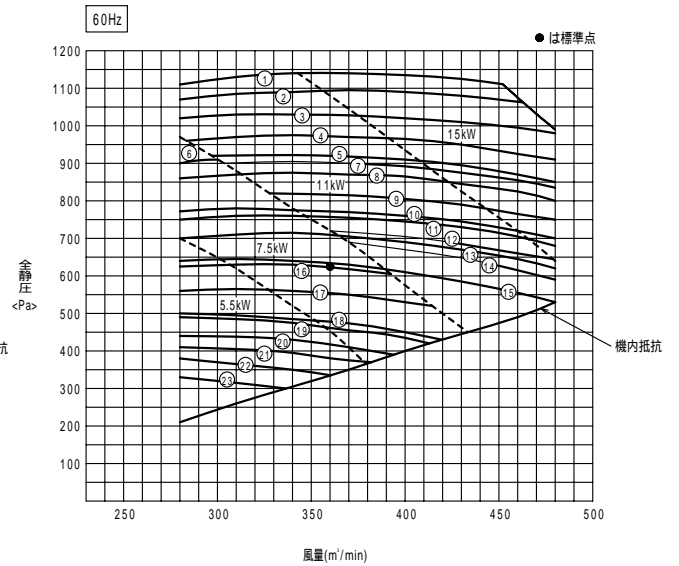
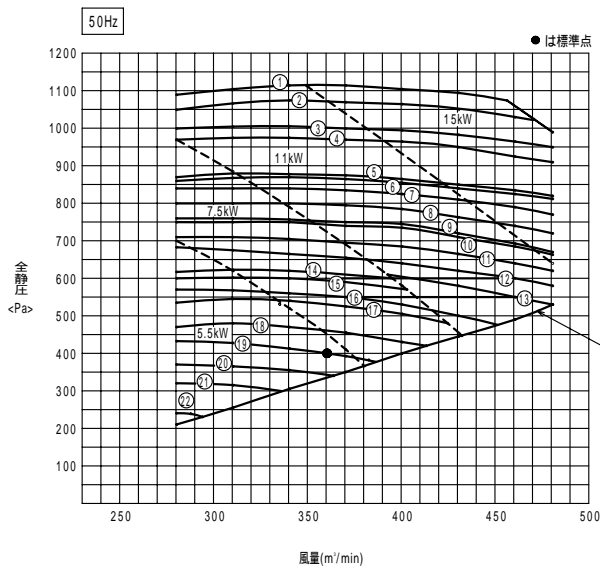
### PFAV-P800M-A



P670・P800形の静風圧部品の選定はP103～107を参照ください。

## P1120形

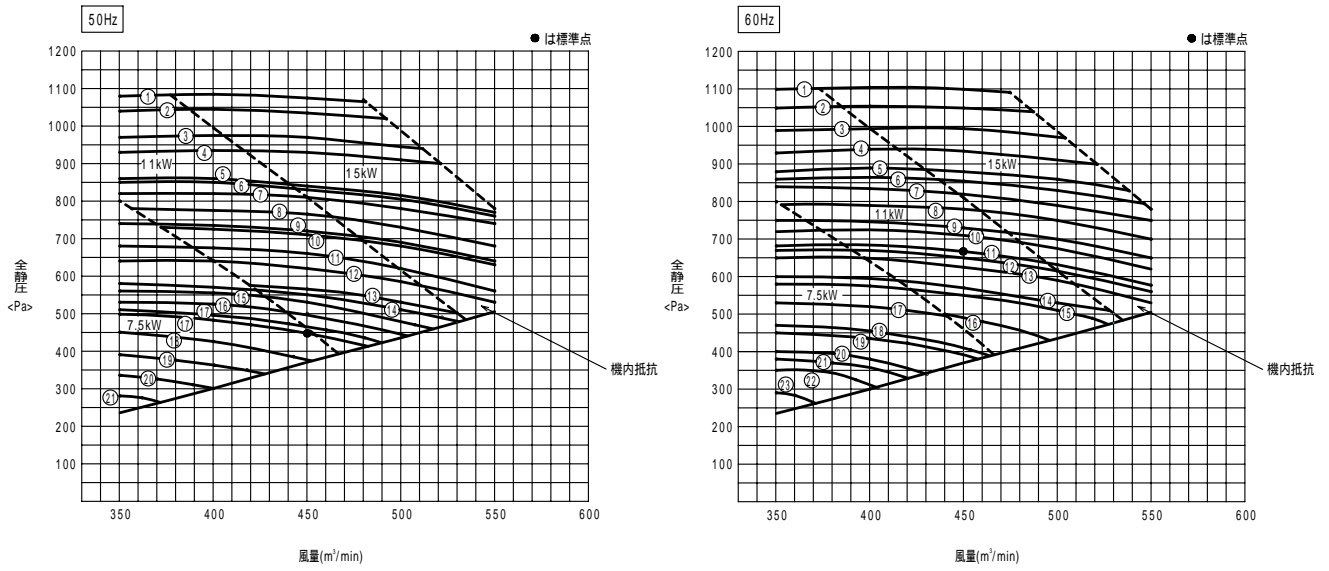
### PFAV-P1120M-A-L(R)



P1120形の静風圧部品の選定はP108を参照ください。

## P1400形

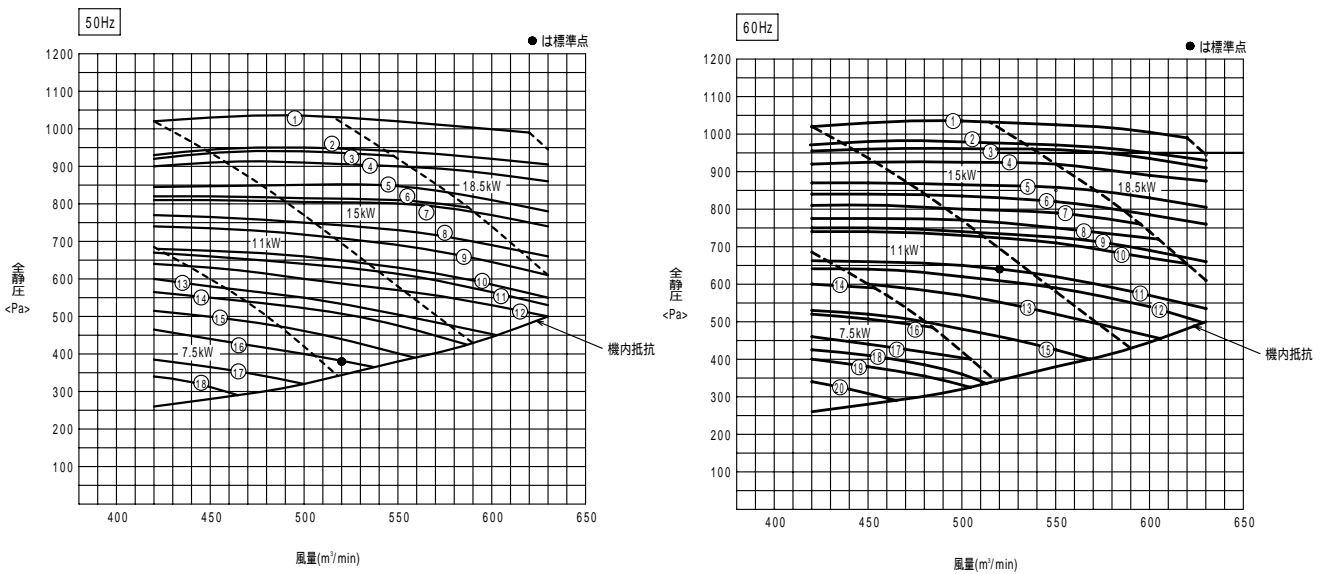
PFAV-P1400M-A-L(R)



P1400形の静風圧部品の選定はP108を参照ください。

## P1600形

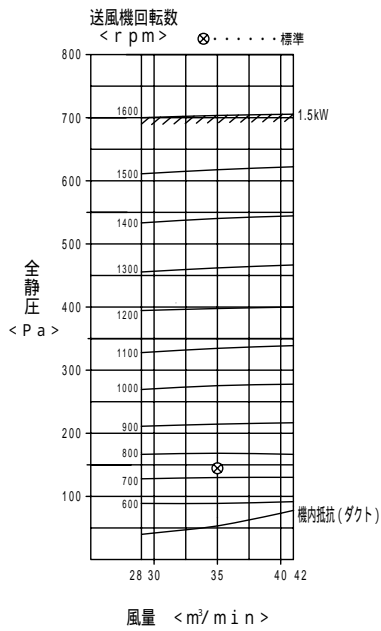
PFAV-P1600M-A-L(R)



P1600形の静風圧部品の選定はP109を参照ください。

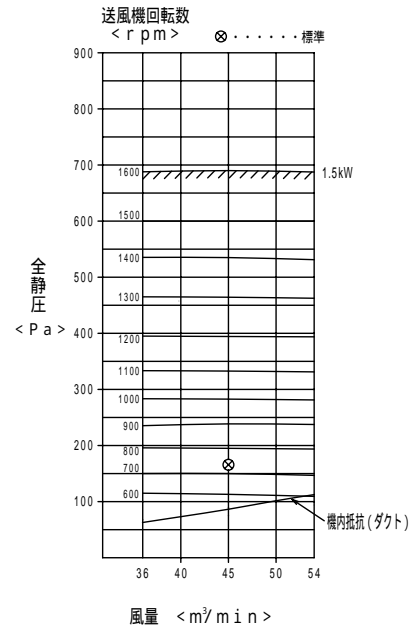
P265形 (オールフレッシュ用)

PFAV-P265M-A-F



P335形 (オールフレッシュ用)

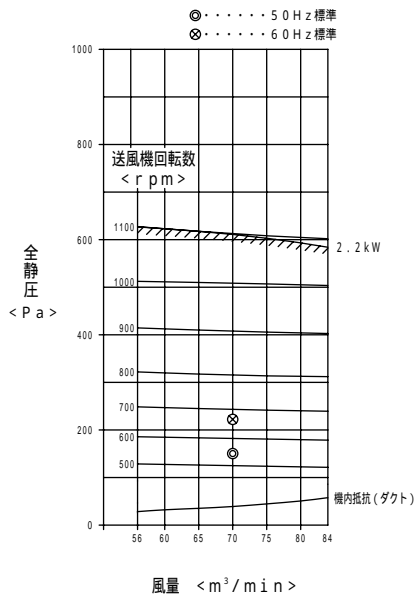
PFAV-P335M-A-F



50Hz地区の場合、モータプリー径 (可変プリー) を 140 (出荷時は 116.7) に調整した値を示します。

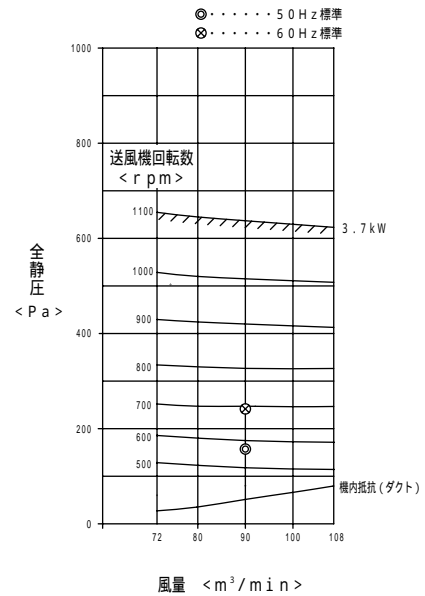
P530形 (オールフレッシュ用)

PFAV-P530M-A-F



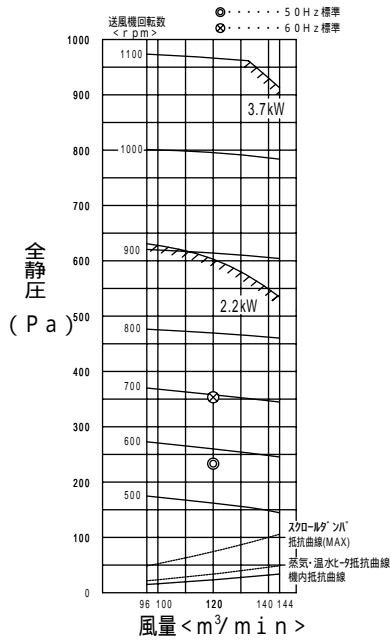
P670形 (オールフレッシュ用)

PFAV-P670M-A-F



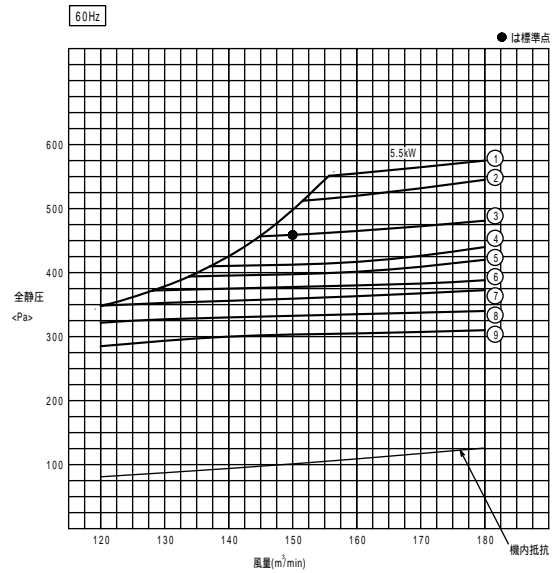
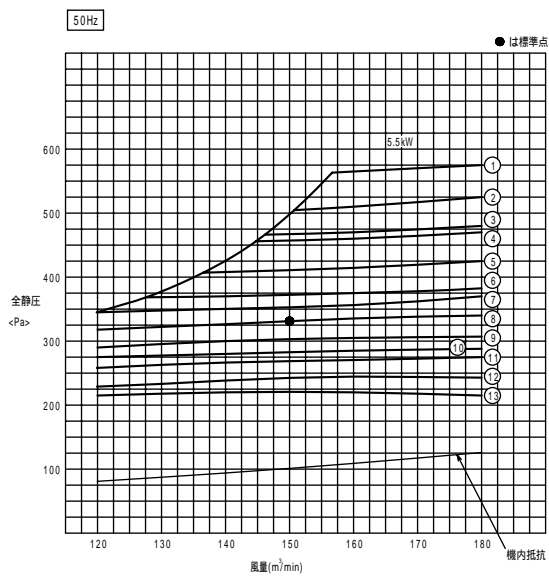
## P1000形 (オールフレッシュ用)

PFAV-P1000M-A-F



## P1250形 (オールフレッシュ用)

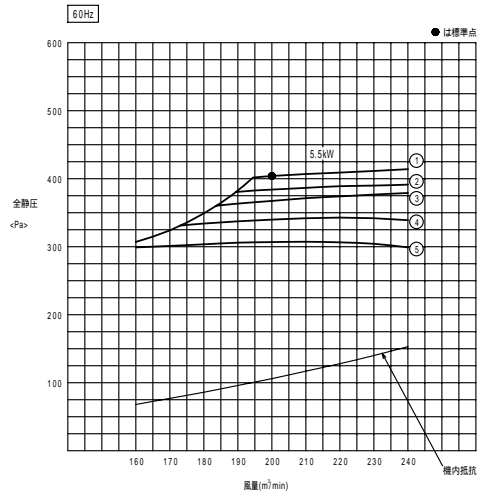
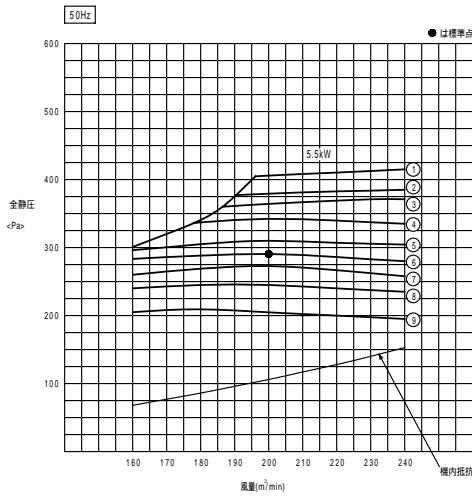
PFAV-P1250M-A-F-L(R)



P1250形の静風圧部品の選定はP123を参照ください。

# P1600形 (オールフレッシュ用)

## PFAV-P1600M-A-F-L(R)



P1600形の静風圧部品の選定はP123を参照ください。

### (2) 静風圧部品の選定

#### P224・P280形

##### (i) 標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P224M-A	1.5kW全閉外扇形	A224-20	A56	A可変24	6.5A
PFAV-P280M-A	1.5kW全閉外扇形	A212-20	A55	A可変24	6.5A

##### 可変プーリPC 一覧表

スライドピースの まわり回転数	0	1/4	1/2	3/4	1	1・1/4	1・1/2	1・3/4	2	2・1/4	2・1/2	2・3/4	3	3・1/4	3・1/2	3・3/4	4	4・1/4	4・1/2	4・3/4
隙間 (mm)	(0)	(0.4)	(0.8)	(1.1)	(1.5)	(1.9)	(2.3)	(2.6)	(3.0)	(3.4)	(3.8)	(4.1)	(4.5)	(4.9)	(5.3)	(5.6)	(6.0)	(6.4)	(6.8)	(7.1)
1.5kWモータ用 可変プーリPC	140.0	138.8	137.5	136.3	135.1	133.9	132.6	131.4	130.2	129.0	127.7	126.5	125.3	124.1	122.8	121.6	120.4	119.1	117.9	116.7
2.2kWモータ用 可変プーリPC PAC-CT10MP	150.0	148.8	147.5	146.3	145.1	143.9	142.6	141.4	140.2	139.0	137.7	136.5	135.3	134.1	132.8	131.6	130.4	129.1	127.9	126.7

##### (ii) 形名・仕様表

部品形名	部品名	プーリ	個数	ベルト	個数	電磁開閉器	個数	電動機	個数	備考
PAC-CT01SP	送風機プーリセット	A90-20	1							
PAC-CT02SP	"	A118-20	1							
PAC-CT03SP	"	A132-20	1							
PAC-CT04SP	"	A150-20	1	注3						
PAC-CT05SP	"	A180-20	1							
PAC-CT06SP	"	A224-20	1							
PAC-CT07SP	"	A250-20	1							
PAC-CT08SP	"	A280-20	1							
PAC-CT10MP	電動機プーリセット	A可変-28	1			PAK-6JTH(9A)	1			標準仕様変更銘板付 (2.2kWモータ用)
PAC-CJ64MR	電動機							SF-JR2.2kW-4P	1	
PAC-CJ49VB	Vベルト			A49	1					
PAC-CJ50VB	"			A50	1					
PAC-CJ51VB	"			A51	1					
PAC-CJ52VB	"			A52	1					
PAC-CJ53VB	"			A53	1					
PAC-CJ54VB	"			A54	1					
PAC-CJ55VB	"			A55	1					
PAC-CJ56VB	"			A56	1					
PAC-CJ58VB	"			A58	1					
PAC-CJ59VB	"			A59	1					

注1 プーリ仕様 A 150 - 20 PC ポス内径  
 A形ベルト1本掛  
 注2 ベルト仕様 A 34  
 A形ベルト ベルト長さ34インチ

注3 PAC-CT01~08SPに付属のベルトは使用できません。  
 別途技術資料(静風圧部品選定表)を参照の上、上記PAC-CJ49~59VBを  
 お買い求めください。

(iii)選定表

PFAV-P224M-A

50Hz

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min									
	55	60	65	70	75	80	82.5			
150	標準		X							
	標準( 224)									
	標準(A56)									
	標準									
200	4	3・1/4	2・3/4	X						
	標準									
	標準( 224)									
	標準(A56)									
250	標準		標準							
	標準( 224)		PAC-CT05SP( 180)							
	標準(A56)		PAC-CJ53VB(A53)							
	標準		標準							
300	1・1/4	3/4	1/4	4・3/4	4	X				
	標準		PAC-CT05SP( 180)							
	標準( 224)		PAC-CJ53VB(A53)							
	標準		標準							
350	標準		標準							
	標準( 224)		PAC-CT05SP( 180)							
	標準(A56)		PAC-CT04SP( 150)							
	標準		PAC-CJ51VB(A51)							
400	1/4	0	4・1/2	4	3・1/4	2・1/2	2・1/4			
	標準		PAC-CT04SP( 150)				PAC-CJ64MR			
	標準( 224)		PAC-CJ51VB(A51)				PAC-CT04SP( 150)			
	標準		標準				PAC-CJ52VB(A52)			
450	3・1/4	3	2・3/4	2・1/4	1・1/2	3	2・3/4			
	標準		PAC-CT04SP( 150)				PAC-CJ64MR			
	標準( 224)		PAC-CJ51VB(A51)				PAC-CT04SP( 150)			
	標準		標準				PAC-CJ52VB(A52)			
500	1・1/2	1・1/2	1・1/4	3/4	1/4	1・1/2	1・1/4			
	標準		PAC-CT04SP( 150)				PAC-CT10MP			
	標準( 224)		PAC-CJ51VB(A51)				PAC-CT04SP( 150)			
	標準		標準				PAC-CJ52VB(A52)			
550	標準		PAC-CT03SP( 132)				PAC-CJ64MR			
	標準( 224)		PAC-CJ50VB(A50)				PAC-CT04SP( 150)			
	標準		標準				PAC-CJ52VB(A52)			
	標準		標準				PAC-CT10MP			
600	3・3/4	3・1/2	3・1/4	2・3/4	1	1/4	0			
	標準		PAC-CT03SP( 132)				PAC-CJ64MR			
	標準( 224)		PAC-CJ50VB(A50)				PAC-CT03SP( 132)			
	標準		標準				PAC-CJ51VB(A51)			
650	1・1/4	1・1/4	1	2・3/4	2	1・1/4	1			
	標準		PAC-CT03SP( 132)				PAC-CJ64MR			
	標準( 224)		PAC-CJ50VB(A50)				PAC-CT03SP( 132)			
	標準		標準				PAC-CJ51VB(A51)			
700	1/4	0	1・3/4	1・1/4	3/4	1/2	X			
	標準		PAC-CT03SP( 132)							
	標準( 224)		PAC-CJ50VB(A50)					PAC-CJ51VB(A51)		
	標準		標準					PAC-CT10MP		
750	2	2	1/2	1/4	0	X				
	標準		PAC-CT02SP( 118)							
	標準( 224)		PAC-CJ49VB(A49)					PAC-CJ51VB(A51)		
	標準		標準					PAC-CT10MP		
750	1	3	2・3/4	2・1/2	X					
	標準		PAC-CJ64MR							
	標準( 224)		PAC-CT02SP( 118)							
	標準		PAC-CJ50VB(A50)							

- 注1. 出荷時の電動機プリーPC (可変プリー)は116.7(スライドピース回転数 4・3/4)となっています。
2. 機内抵抗はフレドフィルタなど別売部品を組み込んだ場合に变化しますので補正が必要です。該当する部品の機内抵抗線を参照の上、適宜補正をしてください。
3. プリー別売部品にはベルトが同梱されていますが、必ず静風圧選定表に示すベルトを手配・使用してください。
4. 電動機プリーのPC の調節方法は技術マニュアル、据付説明書を参照してください。
5. 電動機の変更時には、サーマル(熱動過電流継電器)の変更が必要です。別売部品の説明書を参照ください。
6. 標準仕様は機内抵抗165Pa 機外静圧30Pa 風量70m<sup>3</sup>/minです。
- 50Hz地区の場合、上記標準仕様にてご使用される時は、電動機プリーPC (可変プリー)を140(スライドピース回転数 0)にしてください。
7. 別売プレナムは機外静圧30Paです。上記6, に示すプリー仕様にてご使用ください。(風量70m<sup>3</sup>/min)

表中

1段目	電動機形名
2段目	送風機プリー形名(PC )
3段目	使用ベルト形名(サイズ)
4段目	電動機プリー形名
5段目	スライドピース回転数



全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min						
	55	60	65	70	75	80	82.5
150	標準			X			
	PAC-CT08SP( 280)						
	PAC-CJ59VB(A59)						
	標準						
	3	2・1/4	1・3/4				
200	標準			X			
	PAC-CT08SP( 280)						
	PAC-CJ59VB(A59)						
	標準						
	0	0	4・3/4	4・1/4	3		
250	標準			X			
	標準( 224)						
	標準(A56)						
	標準						
	3・1/2	3・1/4	3	2・1/4	1・1/4	0	0
300	標準			X			
	標準( 224)						
	標準(A56)						
	標準						
	1・1/2	1・1/4	3/4	1/4	4・3/4	4	3・3/4
350	標準			X			
	PAC-CT05SP( 180)						
	PAC-CJ53VB(A53)						
	標準						
	4・3/4	4・3/4	4・1/2	4	3・1/2	2・3/4	2・1/4
400	標準			X			
	PAC-CT05SP( 180)						
	PAC-CJ53VB(A53)						
	標準						
	3・1/2	3・1/4	3	2・1/2	1・3/4	3・1/4	3
450	標準			X			
	PAC-CT05SP( 180)						
	PAC-CJ53VB(A53)						
	標準						
	1・3/4	1・1/2	1・1/4	1	1/2	1・3/4	1・1/2
500	標準			X			
	PAC-CT05SP( 180)						
	PAC-CJ53VB(A53)						
	標準						
	1/2	1/4	0	4・1/4	1・1/4	1/2	0
550	標準			X			
	PAC-CT04SP( 150)						
	PAC-CJ51VB(A51)						
	標準						
	4	3・3/4	3・1/2	3・1/4	4・3/4	4・1/4	4
600	標準			X			
	PAC-CT04SP( 150)						
	PAC-CJ51VB(A51)						
	標準						
	2・3/4	2・3/4	2・1/2	4・1/4	3・3/4	3	2・3/4
650	標準			X			
	PAC-CT04SP( 150)						
	PAC-CJ51VB(A51)						
	標準						
	2	1・3/4	3・1/2	3	2・1/2	2・1/4	
700	標準			X			
	PAC-CT04SP( 150)						
	PAC-CJ51VB(A51)						
	標準						
	3/4	1/2	2・1/4	2	1・3/4		
750	標準			X			
	PAC-CT03SP( 132)						
	PAC-CJ50VB(A50)						
	標準						
	3	1・1/2	1・1/4	1・1/4			

- 注1 . 出荷時の電動機プリーPC (可変プリー)は116.7(スライドピース回転数 4・3/4)となっています。
- 2 . 機内抵抗はフレンドフィルタなど別売部品を組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。該当する部品の機内抵抗線を参照の上、適宜補正をしてください。
- 3 . プリー別売部品にはベルトが同梱されていますが、必ず静風圧選定表に示すベルトを手配・使用してください。
- 4 . 電動機プリーのPC の調節方法は技術マニュアル、据付説明書を参照してください。
- 5 . 電動機の変更時には、サーマル(熱動過電流継電器)の変更が必要です。別売部品の説明書を参照ください。
- 6 . 標準仕様は機内抵抗165Pa 機外静圧30Pa 風量70m<sup>3</sup>/minです。
- 7 . 別売プレナムは機外静圧30Paです。標準仕様のプリーのままご使用ください。(風量70m<sup>3</sup>/min)

表中

1段目	電動機形名
2段目	送風機プリー形名(PC )
3段目	使用ベルト形名(サイズ)
4段目	電動機プリー形名
5段目	スライドピース回転数

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min									
	70	75	80	85	90	95	100	105	110	
150	標準		X							
	PAC-CT07SP( 250)									
	PAC-CJ58VB(A58)									
	標準									
	1・3/4	1・1/2								
200	標準		X							
	標準( 212)									
	標準(A55)									
	標準									
	2・1/2	2・1/4								
250	標準		X							
	PAC-CT05SP( 180)									
	PAC-CJ53VB(A53)									
	標準									
	4	4								
300	標準		X							
	PAC-CT05SP( 180)									
	PAC-CJ53VB(A53)									
	標準									
	1・1/2	1・1/2	1・1/4	1・1/4	1	1	3/4	1/2	1/4	
350	標準		X							
	PAC-CT04SP( 150)									
	PAC-CJ51VB(A51)									
	標準									
	4・1/2	4・1/4	4	3・3/4	3・3/4	3・3/4	3・3/4	3・3/4	3・1/2	
400	標準		X							
	PAC-CT04SP( 150)									
	PAC-CJ51VB(A51)									
	標準									
	2・3/4	2・3/4	2・1/2	2・1/2	2・1/2	2・1/2	2・1/2	2・1/2	2・1/4	
450	標準		X						PAC-CJ64MR	
	PAC-CT03SP( 132)								PAC-CT04SP( 150)	
	PAC-CJ49VB(A49)								PAC-CJ52VB(A52)	
	標準								PAC-CT10MP	
	4・1/2	4・1/2							4・1/2	4・1/2
500	標準		X						PAC-CJ64MR	
	PAC-CT03SP( 132)								PAC-CT04SP( 150)	
	PAC-CJ49VB(A49)								PAC-CJ52VB(A52)	
	標準								PAC-CT10MP	
	3	3							3	3
550	標準		X						PAC-CJ64MR	
	PAC-CT03SP( 132)								PAC-CT04SP( 150)	
	PAC-CJ49VB(A49)								PAC-CJ52VB(A52)	
	標準								PAC-CT10MP	
	2	2							2・1/4	3/4
600	標準		X							
	PAC-CT03SP( 132)									
	PAC-CJ49VB(A49)									
	標準									
	1/2	2・1/2	2・3/4	2・3/4	2・3/4	3	3	3	3	
650	標準		X							
	PAC-CJ64MR									
	PAC-CT03SP( 132)									
	PAC-CJ51VB(A51)									
	PAC-CT10MP									
	1・1/2	1・1/2	1・1/2	1・1/2	1・3/4	1・3/4	1・3/4			
700	標準		X							
	PAC-CJ64MR									
	PAC-CT03SP( 132)									
	PAC-CT10MP									
	1/2	1/2	1/2	1/2	3/4					
750	標準		X							
	PAC-CJ64MR									
	PAC-CT02SP( 118)									
	PAC-CT10MP									
	3	3	3	3	3					

- 注1. 出荷時の電動機プリーPC (可変プリー)は116.7(スライドピース回転数 4・3/4)となっています。
2. 機内抵抗はフレドフィルタなど別売部品を組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。該当する部品の機内抵抗線を参照の上、適宜補正をしてください。
3. プリー別売部品にはベルトが同梱されていますが、必ず静風圧選定表に示すベルトを手配・使用してください。
4. 電動機プリーのPC の調節方法は技術マニュアル、振付説明書を参照してください。
5. 電動機の変更時には、サーマル(熱動過電流継電器)の変更が必要です。別売部品の説明書を参照ください。
6. 標準仕様は機内抵抗200Pa 機外静圧30Pa 風量90m<sup>3</sup>/minです。
- 50Hz地区の場合、上記標準仕様にてご使用される時は、電動機プリーPC (可変プリー)を140(スライドピース回転数 0)にしてください。
7. 別売プレナムは機外静圧30Paです。上記6, に示すプリー仕様にてご使用ください。(風量90m<sup>3</sup>/min)

表中

1段目	電動機形名
2段目	送風機プリー形名(PC )
3段目	使用ベルト形名(サイズ)
4段目	電動機プリー形名
5段目	スライドピース回転数

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min								
	70	75	80	85	90	95	100	105	110
150	標準		X						
	PAC-CT08SP( 280)								
	PAC-CJ59VB(A59)								
	標準								
	3・3/4	3・1/2							
200	標準		X						
	PAC-CT07SP( 250)								
	PAC-CJ58VB(A58)								
	標準								
	3・1/4	3	3	2・1/2	2・1/2				
250	標準		X						
	標準( 212)								
	標準(A55)								
	標準								
	4・1/2	4・1/2	4・1/4	4・1/4	4	4	3・3/4		
300	標準		X						
	標準( 212)								
	標準(A55)								
	標準								
	2	2	1・3/4	1・3/4	1・3/4	1・1/2	1・1/2	1・1/4	1
350	標準		X						
	PAC-CT05SP( 180)								
	PAC-CJ53VB(A53)								
	標準								
	4・1/2	4・1/2	4・1/4	4	4	4	3・3/4	3・3/4	3・1/2
400	標準		X						
	PAC-CT05SP( 180)								
	PAC-CJ53VB(A53)								
	標準								
	3	3	2・3/4	2・3/4	2・3/4	2・3/4	2・1/2	2・1/2	2・1/4
450	標準		X						
	PAC-CT05SP( 180)								
	PAC-CJ53VB(A53)								
	標準								
	1・1/2	1・1/2	1・1/2	1・1/2	1・1/4	1・1/4	1・1/4	3	3
500	標準		X						
	PAC-CT05SP( 180)								
	PAC-CJ53VB(A53)								
	標準								
	0	0	0	0	0	2	2	2	2
550	標準		X						
	PAC-CT04SP( 150)								
	PAC-CJ51VB(A51)								
	標準								
	3・1/2	3・1/2	3・3/4	3/4	3/4	3/4	3/4	3/4	3/4
600	標準		X						
	PAC-CT04SP( 150)								
	PAC-CJ51VB(A51)								
	標準								
	2・1/4	4・1/4	4・1/4	4・1/4	4・1/4	4・1/2	4・1/2	4・1/2	4・1/2
650	標準		X						
	PAC-CJ64MR								
	PAC-CT04SP( 150)								
	PAC-CJ52VB(A52)								
	3・1/4	3・1/4	3・1/4	3・1/4	3・1/2	3・1/2	3・1/2		
700	標準		X						
	PAC-CJ64MR								
	PAC-CT04SP( 150)								
	PAC-CJ52VB(A52)								
	2・1/4	2・1/4	2・1/4	2・1/2					
750	標準		X						
	PAC-CJ64MR								
	PAC-CT04SP( 150)								
	PAC-CJ52VB(A52)								
	1・1/2	1・1/2	1・1/2	1・1/2					

- 注1. 出荷時の電動機ブリーPC は116.7(スライドピース回転数 4・3/4)となっています。
2. 機内抵抗はフレッドフィルタなど別売部品を組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。該当する部品の機内抵抗線を参照の上、適宜補正をしてください。
3. ブリー別売部品にはベルトが同梱されていますが、必ず静風圧選定表に示すベルトを手配・使用してください。
4. 電動機ブリーのPC の調節方法は技術マニュアル、振付説明書を参照してください。
5. 電動機の変更時には、サーマル(熱動過電流継電器)の変更が必要です。別売部品の説明書を参照ください。
6. 標準仕様は機内抵抗200Pa 機外静圧30Pa 風量90m<sup>3</sup>/minです。
7. 別売プレナムは機外静圧30Paです。標準仕様のブリーのままご使用ください。(風量90m<sup>3</sup>/min)

表中

1段目	電動機形名
2段目	送風機ブリー形名(PC )
3段目	使用ベルト形
4段目	電動機ブリー形名
5段目	スライドピース回転数

P450・P560形

(i)標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P450M-A	2.2kW全閉外扇形	2B280-24	B65×2	2B118-28	9A
PFAV-P560M-A	3.7kW全閉外扇形	2B280-28	B64×2	2B135-28	15A

(ii)形名・仕様表

別売形名	部品名	部品内容										
		送風機プーリ	個数	ベルト	個数	電動機プーリ	個数	サーマルリレー	個数	電動機	個数	備考
PAC-CH41SP	送風機プーリセット	2B170-24	1	B58	2							
PAC-CH42SP	送風機プーリセット	2B180-24	1	B59	2							
PAC-CH43SP	送風機プーリセット	2B190-24	1	B59,B60	各2							
PAC-CH44SP	送風機プーリセット	2B200-24	1	B60	2							
PAC-CH45SP	送風機プーリセット	2B212-24	1	B61	2							
PAC-CH46SP	送風機プーリセット	2B224-24	1	B62	2							
PAC-CH47SP	送風機プーリセット	2B236-24	1	B62	2							
PAC-CH39SP	送風機プーリセット	2B250-24	1	B63,B64	各2							
PAC-CH48SP	送風機プーリセット	2B280-24	1	B65,B66	各2							
PAC-CH49SP	送風機プーリセット	2B300-24	1	B66	2							
PAC-CH50SP	送風機プーリセット	2B315-24	1	B67	2							
PAC-CH51SP	送風機プーリセット	2B355-24	1	B70	2							
PAC-CH52SP	送風機プーリセット	2B165-28	1	B56	2							
PAC-CH53SP	送風機プーリセット	2B170-28	1	B56	2							
PAC-CH54SP	送風機プーリセット	2B180-28	1	B57	2							
PAC-CH55SP	送風機プーリセット	2B200-28	1	B59,B60	各2							
PAC-CH56SP	送風機プーリセット	2B212-28	1	B59,B60	各2							
PAC-CH57SP	送風機プーリセット	2B224-28	1	B60,B61								
PAC-CH58SP	送風機プーリセット	2B236-28	1	B61,B62	各2							
PAC-CH40SP	送風機プーリセット	2B250-28	1	B62,B63	各2							
PAC-CH59SP	送風機プーリセット	2B280-28	1	B64,B65	各2							
PAC-CH60SP	送風機プーリセット	2B300-28	1	B65,B66	各2							
PAC-CH61SP	送風機プーリセット	2B315-28	1	B66	2							
PAC-CH62MP	電動機プーリセット					2B125-28	1					
PAC-CH63MP	電動機プーリセット			B63,B65	各2	2B145-28	1	PAK-21JT(15A)	1			
PAC-CH64MP	電動機プーリセット			B64,B66	各2	2B155-28	1	PAK-21JT(15A)	1			
PAC-CH65MP	電動機プーリセット					2B145-38	1	PAK-26JT(22.5A)	1			
PAC-CH66MP	電動機プーリセット					2155-38B	1	PAK-26JT(22.5A)	1			
PAC-CH67MP	電動機プーリセット			B63,B65	各2	2B165-38	1	PAK-26JT(22.5A)	1			
PAC-CJ65MR	電動機								SF-JR 3.7kW-4P	1		
PAC-CJ66MR	電動機								SF-JR 5.5kW-4P	1		

## (iii)選定表

PFAV-P450M-A

50Hz

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min												
	110	115	120	125	130	135	140	145	150	155	160	165	170
150Pa	PAC-CH62MP( 125 )				標準( 118 )				X				
	PAC-CH50SP( 315 )				標準( 280 )								
	B67				B65 (標準)								
	標準(2.2kW)				標準(2.2kW)								
200Pa	PAC-CH62MP( 125 )				標準( 280 )				X				
	B65 (標準)				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH39SP( 250 )								
	B63				標準(2.2kW)								
250Pa	標準( 118 )				PAC-CH39SP( 250 )				X				
	B63				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH46SP( 224 )								
	B62				標準(2.2kW)								
300Pa	標準( 118 )				PAC-CH44SP( 200 )				X				
	B60				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B60				PAC-CH39SP( 250 )								
350Pa	標準( 118 )				PAC-CH44SP( 200 )				X				
	B60				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B62				PAC-CH47SP( 236 )								
400Pa	標準( 118 )				PAC-CH43SP( 190 )				X				
	B59				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B59				PAC-CH46SP( 224 )								
450Pa	標準( 118 )				PAC-CH42SP( 180 )				X				
	B59				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B59				PAC-CH46SP( 224 )								
500Pa	標準( 118 )				PAC-CH42SP( 180 )				X				
	B59				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B59				PAC-CH46SP( 224 )								
550Pa	標準( 118 )				PAC-CH42SP( 180 )				X				
	B59				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B59				PAC-CH46SP( 224 )								
600Pa	標準( 118 )				PAC-CH42SP( 180 )				X				
	B59				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B59				PAC-CH46SP( 224 )								
650Pa	標準( 118 )				PAC-CH42SP( 180 )				X				
	B59				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B59				PAC-CH46SP( 224 )								
700Pa	標準( 118 )				PAC-CH42SP( 180 )				X				
	B59				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B59				PAC-CH46SP( 224 )								
750Pa	標準( 118 )				PAC-CH42SP( 180 )				X				
	B59				標準(2.2kW)								
	標準( 118 )				PAC-CH63MP( 145 )								
	B59				PAC-CH46SP( 224 )								

- 注1. 標準仕様 電動機プーリ: 2B118-28 送風機プーリ: 2B280-24 ベルトサイズ: B65  
 サーマル: PAK-6JT(9A) 電動機形名: SF-JR2.2kW  
 2. 電動機の変更時のみ、サーマルの変更が必要です。  
 3. 表中のプーリ径はPC を記載しています。外径はPC より11mm増加します。  
 4. 標準時は機内抵抗: 140Pa 機外静圧: 30Pa 風量: 140m<sup>3</sup>/minです。  
 5. 別売プレナムは機外静圧30Paです。標準仕様プーリのままご使用ください。

表中

1段目	電動機プーリ形名(PC)
2段目	送風機プーリ形名(PC)
3段目	ベルトサイズ
4段目	電動機形名(容量)

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min													
	110	115	120	125	130	135	140	145	150	155	160	165	170	
150Pa	標準( 118 )						X							
	PAC-CH51SP( 355 )													
	B70													
	標準(2.2kW)													
200Pa	標準( 118 )						X							
	PAC-CH50SP( 315 )													
	B67													
	標準(2.2kW)													
250Pa	標準( 118 )													
	標準( 280 )													
	B65 (標準)													
	標準(2.2kW)													
300Pa	PAC-CH62MP( 125 )													
	標準( 280 )													
	B65 (標準)													
	標準(2.2kW)													
350Pa	標準( 118 )						PAC-CH63MP( 145 )			PAC-CH63MP( 145 )				
	PAC-CH39SP( 250 )						標準( 280 )			PAC-CH49SP( 300 )				
	B63						B66			B66				
	標準(2.2kW)						PAC-CJ 65MR(3.7kW)			PAC-CJ 65MR(3.7kW)				
400Pa	標準( 118 )						PAC-CH63MP( 145 )							
	PAC-CH46SP( 224 )						標準( 280 )							
	B62						B65 (標準)							
	標準(2.2kW)						PAC-CJ 65MR(3.7kW)							
450Pa	標準( 118 )		PAC-CH64MP( 155 )											
	PAC-CH45SP( 212 )		標準( 280 )											
	B61		B66											
	標準(2.2kW)		PAC-CJ 65MR(3.7kW)											
500Pa	PAC-CH63MP( 145 )													
	PAC-CH39SP( 250 )													
	B63													
	PAC-CJ 65MR(3.7kW)													
550Pa	PAC-CH63MP( 145 )													
	PAC-CH47SP( 236 )													
	B62													
	PAC-CJ 65MR(3.7kW)													
600Pa	PAC-CH64MP( 155 )													
	PAC-CH39SP( 250 )													
	B64													
	PAC-CJ 65MR(3.7kW)													
650Pa	PAC-CH63MP( 145 )						X							
	PAC-CH46SP( 224 )													
	B62													
	PAC-CJ 65MR(3.7kW)													
700Pa	PAC-CH63MP( 145 )						X							
	PAC-CH45SP( 212 )													
	B61													
	PAC-CJ 65MR(3.7kW)													
750Pa	PAC-CH64MP( 155 )		X											
	PAC-CH46SP( 224 )													
	B62													
	PAC-CJ 65MR(3.7kW)													

- 注1. 標準仕様 電動機プーリ: 2B118-28 送風機プーリ: 2B280-24 ベルトサイズ: B65  
 サーマル: PAK-6JT(9A) 電動機形名: SF-JR2.2kW
- 電動機の変更時のみ、サーマルの変更が必要です。
  - 表中のプーリ径はPC を記載しています。外径はPC より11mm増加します。
  - 標準時は機内抵抗: 140Pa 機外静圧: 130Pa 風量: 140m<sup>3</sup>/minです。
  - 別売プレナムは機外静圧30Paです。プレナム取付時は、上表の全静圧150Paの仕様にしてください。

表中

1段目	電動機プーリ形名(PC)
2段目	送風機プーリ形名(PC)
3段目	ベルトサイズ
4段目	電動機形名(容量)

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min										
	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	
250Pa	標準 ( 135 )		X								
	標準 ( 280 )										
	B64 ( 標準 )										
	標準 ( 3.7kW )										
300Pa	標準 ( 135 )		X								
	PAC-CH40SP( 250 )										
	B62										
	標準 ( 3.7kW )										
350Pa	標準 ( 135 )		X								
	PAC-CH58SP( 236 )										
	B61										
	標準 ( 3.7kW )										
400Pa	PAC-CH63MP( 145 )		X					PAC-CH65MP( 145 )			
	PAC-CH58SP( 236 )							PAC-CH58SP( 236 )			
	B62							B61			
	標準 ( 3.7kW )							PAC-CJ 66MR(5.5kW)			
450Pa	PAC-CH63MP( 145 )		X					PAC-CH66MP( 155 )			
	PAC-CH57SP( 224 )							PAC-CH58SP( 236 )			
	B61							B61			
	標準 ( 3.7kW )							PAC-CJ 66MR(5.5kW)			
500Pa	PAC-CH63MP( 145 )		X					PAC-CH66MP( 155 )			
	PAC-CH56SP( 212 )							PAC-CH57SP( 224 )			
	B60							B60			
	標準 ( 3.7kW )							PAC-CJ 66MR(5.5kW)			
550Pa	PAC-CH63MP( 145 )		X					PAC-CH66MP( 155 )			
	PAC-CH55SP( 200 )							PAC-CH56SP( 212 )			
	B60							B60			
	標準 ( 3.7kW )							PAC-CJ 66MR(5.5kW)			
600Pa	PAC-CH67MP( 165 )		X								
	PAC-CH56SP( 212 )										
	B60										
	PAC-CJ 66MR(5.5kW)										
650Pa	PAC-CH65MP( 145 )		X								
	PAC-CH54SP( 180 )										
	B57										
	PAC-CJ 66MR(5.5kW)										
700Pa	PAC-CH67MP( 165 )		X								
	PAC-CH55SP( 200 )										
	B59										
	PAC-CJ 66MR(5.5kW)										
750Pa	PAC-CH65MP( 145 )		X								
	PAC-CH53SP( 170 )										
	B56										
	PAC-CJ 66MR(5.5kW)										
800Pa	PAC-CH66MP( 155 )		X								
	PAC-CH54SP( 180 )										
	B57										
	PAC-CJ 66MR(5.5kW)										
850Pa	PAC-CH65MP( 145 )		X								
	PAC-CH52SP( 165 )										
	B56										
	PAC-CJ 66MR(5.5kW)										

注1. 標準仕様 電動機プーリ：2B135-28 送風機プーリ：2B280-28 ベルトサイズ：B64  
 サーマル：PAK-21JT(15A) 電動機形名：SF-JR3.7kW

2. 電動機の変更時のみ、サーマルの変更が必要です。
3. 表中のプーリ径はPC を記載しています。外径はPC より11mm増加します。
4. 標準時は機内抵抗：220Pa 機外静圧：30Pa 風量：180m<sup>3</sup>/minです。
5. 別売プレナムは機外静圧30Paです。標準仕様プーリのままご使用ください。

表中

1 段目	電動機プーリ形名 ( PC )
2 段目	送風機プーリ形名 ( PC )
3 段目	ベルトサイズ
4 段目	電動機形名 ( 容量 )

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min										
	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	
250Pa	PAC-CH62MP( 125 )				X						
	PAC-CH61SP( 315 )										
	B66 標準 ( 3.7kW )										
300Pa	標準 ( 135 )				X						
	PAC-CH60SP( 300 )										
	B66 標準 ( 3.7kW )										
350Pa	標準 ( 135 )				X						
	標準 ( 280 )										
	B64 ( 標準 ) 標準 ( 3.7kW )										
400Pa	PAC-CH63MP( 145 )						PAC-CH65MP( 145 )		X		
	標準 ( 280 )						標準 ( 280 )				
	B65						B64 ( 標準 )				
450Pa	標準 ( 135 )						PAC-CH66MP( 155 )				
	PAC-CH40SP( 250 )						標準 ( 280 )				
	B62 標準 ( 3.7kW )						B64 ( 標準 ) PAC-CJ 66MR ( 5.5kW )				
500Pa	PAC-CH63MP( 145 )			PAC-CH67MP( 165 )							
	PAC-CH40SP( 250 )			標準 ( 280 )							
	B63 標準 ( 3.7kW )			B65 PAC-CJ 66MR ( 5.5kW )							
550Pa	PAC-CH63MP( 145 )		PAC-CH65MP( 145 )								
	PAC-CH58SP( 236 )		PAC-CH58SP( 236 )								
	B62 標準 ( 3.7kW )		B61 PAC-CJ 66MR ( 5.5kW )								
600Pa	PAC-CH65MP( 145 )								X		
	PAC-CH57SP( 224 )										
	B60 PAC-CJ 66MR ( 5.5kW )										
650Pa	PAC-CH66MP( 155 )								X		
	PAC-CH58SP( 236 )										
	B61 PAC-CJ 66MR ( 5.5kW )										
700Pa	PAC-CH67MP( 165 )								X		
	PAC-CH40SP( 250 )										
	B63 PAC-CJ 66MR ( 5.5kW )										
750Pa	PAC-CH66MP( 155 )								X		
	PAC-CH57SP( 224 )										
	B60 PAC-CJ 66MR ( 5.5kW )										
800Pa	PAC-CH65MP( 145 )								X		
	PAC-CH55SP( 200 )										
	B59 PAC-CJ 66MR ( 5.5kW )										
850Pa	PAC-CH66MP( 155 )								X		
	PAC-CH56SP( 212 )										
	B60 PAC-CJ 66MR ( 5.5kW )										

- 注 1 . 標準仕様 電動機プーリ : 2B135-28 送風機プーリ : 2B280-28 ベルトサイズ : B64  
 サーマル : PAK-21JT(15A) 電動機形名 : SF-JR3.7kW
- 電動機の変更時のみ、サーマルの変更が必要です。
  - 表中のプーリ径はPC を記載しています。外径はPC より11mm増加します。
  - 標準時は機内抵抗 : 220Pa 機外静圧 : 130Pa 風量 : 180m<sup>3</sup>/minです。
  - 別売プレナムは機外静圧30Paです。プレナム取付時は、上表の全静圧250Paの仕様にしください。

表中

1 段目	電動機プーリ形名 ( PC )
2 段目	送風機プーリ形名 ( PC )
3 段目	ベルトサイズ
4 段目	電動機形名 ( 容量 )



P670・P800形

(i)標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P670M-A	3.7kW全閉外扇形	2B300-32	B53	2B125-28	15A
PFAV-P800M-A	5.5kW全閉外扇形	2B300-32	B53	2B145-38	22.5A

(ii)形名・仕様表

別売形名	部品名	部品内容										備考		
		電動機プーリ	個数	ベルト	個数	送風機プーリ	個数	サーマルリレー	個数	電動機	個数			
PAC-CV51MP	電動機プーリセット	2B135-28	1	B54	2									
PAC-CV52MP	電動機プーリセット	2B140-28	1	B54	2									
PAC-CV53MP	電動機プーリセット	2B145-28	1	B54	2									
PAC-CV54MP	電動機プーリセット	2B150-28	1	B55	2									
PAC-CV55MP	電動機プーリセット	2B160-28	1	B55	2									
PAC-CV56MP	電動機プーリセット	2B170-28	1	B56	2									
PAC-CV57MP	電動機プーリセット	2B190-28	1	B57	2									
PAC-CV58MP	電動機プーリセット	2B212-28	1	B58	2									
PAC-CV59MP	電動機プーリセット	2B135-38	1	B53	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					標準仕様変更銘板(5.5kW用)
PAC-CV60MP	電動機プーリセット	2B150-38	1	B53	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV61MP	電動機プーリセット	2B160-38	1	B54	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV62MP	電動機プーリセット	2B170-38	1	B54	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV63MP	電動機プーリセット	2B180-38	1	B55	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV64MP	電動機プーリセット	2B190-38	1	B56	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV65MP	電動機プーリセット	2B200-38	1	B56	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV66MP	電動機プーリセット	2B212-38	1	B57	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV67MP	電動機プーリセット	2B224-38	1	B57	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV68MP	電動機プーリセット	2B170-38	1	B54	2			PAK-35JTH(30A)	1					標準仕様変更銘板(5.5kW用)
PAC-CV69MP	電動機プーリセット	2B190-38	1	B56	2			PAK-35JTH(30A)	1					"
PAC-CV70MP	電動機プーリセット	2B212-38	1	B57	2			PAK-35JTH(30A)	1					"
PAC-CV71MP	電動機プーリセット	2B224-38	1	B57	2			PAK-35JTH(30A)	1					"
PAC-CV76SP	送風機プーリセット					2B315-32	1							
PAC-CV77SP	送風機プーリセット			B61	2	2B400-32	1							
PAC-CJ67MR	電動機									SF-JR 5.5kW-4P	1			
PAC-CJ68MR	電動機									SF-JR 7.5kW-4P	1			

(iii)選定表

PFAV-P670M-A

50Hz

		風量(m <sup>3</sup> /min)											
		170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	280
全 静 圧 P a	50	標準 PAC-CV52MP PAC-CV77SP 2.5											
	100	標準 PAC-CV52MP PAC-CV77SP 0.5	標準 0										
	150			標準 標準 標準						標準 PAC-CV53MP 標準			標準 PAC-CJ67MR PAC-CV62MP 標準
	200		標準 標準 標準	標準 標準 標準					標準 PAC-CV53MP 標準		標準 標準 標準		標準 PAC-CJ67MR PAC-CV62MP 標準
	250				標準 PAC-CV53MP 標準					標準 PAC-CV55MP 標準			標準 PAC-CJ67MR PAC-CV62MP 標準
	300		標準 PAC-CV53MP 標準						標準 PAC-CV55MP 標準				標準 PAC-CJ67MR PAC-CV62MP 標準
	350			標準 PAC-CV55MP 標準					標準 PAC-CV56MP 標準		標準 PAC-CJ67MR PAC-CV62MP 標準		標準 PAC-CJ67MR PAC-CV64MP 標準
	400	標準 PAC-CV55MP 標準			標準 PAC-CV56MP 標準				標準 PAC-CV57MP PAC-CV76SP 標準				標準 PAC-CJ67MR PAC-CV64MP 標準
	450		標準 PAC-CV56MP 標準						標準 PAC-CV57MP PAC-CV76SP 標準				標準 PAC-CJ67MR PAC-CV64MP 標準
	500				標準 PAC-CV57MP PAC-CV76SP 標準					標準 PAC-CJ67MR PAC-CV64MP 標準			標準 PAC-CJ67MR PAC-CV66MP 標準
	550		標準 PAC-CV57MP PAC-CV76SP 標準						標準 PAC-CJ67MR PAC-CV64MP 標準				標準 PAC-CJ67MR PAC-CV66MP 標準
	600			標準 PAC-CV57MP 標準					標準 PAC-CJ67MR PAC-CV66MP 標準				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP 標準
	650		標準 PAC-CV58MP PAC-CV76SP 標準						標準 PAC-CJ67MR PAC-CV66MP 標準				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP 標準
	700		標準 PAC-CV58MP PAC-CV76SP 標準						標準 PAC-CJ67MR PAC-CV66MP 標準				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP 標準
	750	標準 PAC-CV58MP 標準			標準 PAC-CJ67MR PAC-CV66MP 標準				標準 PAC-CJ67MR PAC-CV67MP 標準				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP 標準
	800	標準 PAC-CJ67MR PAC-CV66MP 標準			標準 PAC-CJ67MR PAC-CV67MP 標準				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP 標準				
	850			標準 PAC-CJ67MR PAC-CV67MP 標準									
	900												
950													
1000													
1050													

- 標準仕様 電動機プーリ：2B125-28 送風機プーリ：2B300-32 電動機形名：SF-JR 3.7kW
- 標準時は機内抵抗：75Pa、機外静圧：100Pa、風量：210m<sup>3</sup>/minです。
- 機内抵抗は、温水・蒸気加熱器などを組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。該当する部品の機内抵抗線図を参照の上、適宜補正してください。
- は受注対応を示します。
- 電動機の変更時のみ電磁開閉器の変更が必要です。
- 別売プレナム取付時は、上表の全静圧100Paの仕様にしてください。

1段目	電動機形名
2段目	電動機プーリ形名
3段目	送風機プーリ形名
4段目	スクロールダンパ目盛り

		風量(m <sup>3</sup> /min)											
		170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	280
全 静 圧 Pa	50	標準 標準 PAC-CV77SP 4.5											
	100	標準 標準 PAC-CV77SP 1.5											
	150												
	200												
	250												
	300												
	350												
	400												
	450												
	500												
	550												
	600												
	650												
	700												
	750												
	800												
	850												
	900												
	950												
	1000												
	1050												

- 注 1. 標準仕様 電動機プーリ：2B125-28 送風機プーリ：2B300-32 電動機形名：SF-JR 3.7kW  
 2. 標準時は機内抵抗：75Pa、機外静圧：250Pa、風量：210m<sup>3</sup>/minです。  
 3. 機内抵抗は、温水・蒸気加熱器などを組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。  
 該当する部品の機内抵抗線図を参照の上、適宜補正してください。  
 4. は受注対応を示します。  
 5. 電動機の変更時のみ電磁開閉器の変更が必要です。  
 6. 別売プレナム取付時は、上表の全静圧100Paの仕様にてください。

1段目	電動機形名
2段目	電動機プーリ形名
3段目	送風機プーリ形名
4段目	スクロールダンパ目盛り

		風量(m <sup>3</sup> /min)															
		210	220	230	240	250	260	270	280	290	300	310	320	330	340	350	
全 静 圧 Pa	100	標準 PAC-CV59MP PAC-CV76SP															
	150	標準 PAC-CV59MP PAC-CV76SP				標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CV62MP			
	200	標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP	
	250	標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP			
	300	標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP			
	350	標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP			
	400	標準 PAC-CV62MP				標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP			
	450	標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP			
	500	標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CV65MP				標準 PAC-CV65MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP			
	550	標準 PAC-CV64MP				標準 PAC-CV65MP				標準 PAC-CV65MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV70MP			
	600	標準 PAC-CV65MP				標準 PAC-CV66MP				標準 PAC-CV66MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP			
	650	標準 PAC-CV65MP				標準 PAC-CV66MP				標準 PAC-CV66MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP			
	700	標準 PAC-CV66MP				標準 PAC-CV66MP				標準 PAC-CV66MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP			
	750	標準 PAC-CV66MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP			
	800	標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP			
	850	標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP			
	900	標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP			
	950	標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP			
	1000	標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP			
1050	標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CV67MP				標準 PAC-CJ68MR PAC-CV71MP				

注 1. 標準仕様 電動機プーリ：2B145-38 送風機プーリ：2B300-32 電動機形名：SF-JR 5.5kW  
 2. 標準時は機内抵抗：110Pa、機外静圧：100Pa、風量：260m<sup>3</sup>/minです。  
 3. 機内抵抗は、温水・蒸気加熱器などを組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。  
 該当する部品の機内抵抗線図を参照の上、適宜補正してください。  
 4. は受注対応を示します。  
 5. 電動機の変更時のみ電磁開閉器の変更が必要です。  
 6. 別売プレナム取付時は、上表の全静圧150Paの仕様にてください。

1段目	電動機形名
2段目	電動機プーリ形名
3段目	送風機プーリ形名
4段目	スクロールダンパ(目盛り)

		風量(m <sup>3</sup> /min)																		
		210	220	230	240	250	260	270	280	290	300	310	320	330	340	350				
全 静 圧 Pa	100	標準 PAC-CV60MP PAC-CV77SP		2.5	2	標準														
	150	標準 PAC-CV60MP PAC-CV77SP		1	0.5	0	標準 PAC-CV59MP			2	1.5	1	標準							
	200	標準 PAC-CV60MP PAC-CV77SP		1	0.5	4	3	2.5	2	標準 PAC-CV59MP	1.5	1	0.5	0	1.5	4	3.5	3	2.5	
	250	標準 PAC-CV59MP		4	3.5	2.5	2	1.5	1	0.5	0	1.5	1	標準 PAC-CV59MP	0.5	3.5	3	標準 PAC-CV59MP	2.5	2
	300	標準 PAC-CV59MP		2.5	2	1	1	0.5	0	1.5	1	標準 PAC-CV59MP	0.5	0	3	2.5	2	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		
	350	標準 PAC-CV59MP		1	0.5	0	2	1.5	1	標準 PAC-CV59MP	1	0.5	0	標準 PAC-CV61MP	2	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP			1.5	1
	400	標準 PAC-CV59MP		2	1.5	1	1	0.5	0	2	1.5	1	標準 PAC-CV61MP	2	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		1.5	1	標準	
	450	標準 PAC-CV59MP		0.5	0.5	3.5	2.5	2	1.5	1	0.5	2	1.5	1	0.5	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		
	500	標準 PAC-CV61MP		3.5	3	2	1.5	1	0.5	0	1.5	1	標準 PAC-CV62MP	1.5	1	0.5	0.5	0	標準	
	550	標準 PAC-CV61MP		2	1.5	1	0.5	0	1	1	0.5	0	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP	3	2.5	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		
	600	標準 PAC-CV61MP		0.5	0	2	1	1	0.5	0	3.5	3	標準 PAC-CV62MP	2.5	2	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		
	650	標準 PAC-CV62MP		1.5	1	標準 PAC-CV63MP	0.5	0	2	3.5	3	2.5	2	1.5	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準			
	700	標準 PAC-CV62MP		0	2.5	標準 PAC-CV63MP	2	1.5	1	3	2.5	2	1.5	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		標準		
	750	標準 PAC-CV63MP		1.5	1	標準 PAC-CV64MP	0.5	0	2.5	2	1.5	1	0.5	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		標準		
	800	標準 PAC-CV63MP		0	3	標準 PAC-CV64MP	2	1.5	1	0.5	0	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		標準		標準		
	850	標準 PAC-CV64MP		2	1.5	標準 PAC-CV65MP	1	0.5	0	標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		標準		標準		標準		
	900	標準 PAC-CV64MP		0	0	標準 PAC-CV65MP		標準		標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		標準		標準		標準		
	950	標準 PAC-CV64MP		標準		標準		標準		標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		標準		標準		標準		
	1000	標準 PAC-CV64MP		標準		標準		標準		標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		標準		標準		標準		
	1050	標準 PAC-CV64MP		標準		標準		標準		標準 PAC-CJ68MR PAC-CV68MP		標準		標準		標準		標準		

注 1. 標準仕様 電動機ブリー: 2B145-38 送風機ブリー: 2B300-32 電動機形名: SF-JR 5.5kW  
 2. 標準時は機内抵抗: 110Pa、機外静圧: 310Pa、風量: 260m<sup>3</sup>/minです。  
 3. 機内抵抗は、温水・蒸気加熱などを組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。  
 該当する部品の機内抵抗線図を参照の上、適宜補正してください。  
 4. は受注対応を示します。  
 5. 電動機の変更時のみ電磁開閉器の変更が必要です。  
 6. 別売プレナム取付時は、上表の全静圧150Paの仕様にてください。

1段目	電動機形名
2段目	電動機ブリー形名
3段目	送風機ブリー形名
4段目	スクロールダンパ目盛り

P1120・P1400形

(i)標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P1120M-A-L(R)	7.5kW防滴保護形	2B400-42	B99	2B200-38	29A
PFAV-P1400M-A-L(R)	11kW防滴保護形	2C300-42	C88	2C165-42	49A

(ii)選定表

50Hz							
		モータ5.5/7.5kW用 B2( B形・2本掛け )REDラベル			モータ11.15kW用 C2( C形・2本掛け )REDラベル		
No.	回転数 (rpm)	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号
1	1168				224	280	91
2	1150				315	400	104
3	1112				240	315	94
4	1095	300	400	105	300	400	103
5	1043	200	280	92	200	280	89
6	1038	224	315	95	224	315	93
7	1022	280	400	104	280	400	102
8	987				240	355	96
9	971	236	355	99	236	355	96
10	967				265	400	101
11	939	180	280	91	180	280	88
12	913	250	400	102	250	400	100
13	885				191	315	91
14	876	180	300	92			
15	861	236	400	102			
16	834	180	315	93	180	315	90
17	818	224	400	101			
17'	803				165	300	88
18	774	212	400	100			
19	730	200	400	99			
20	694	190	400	99			
21	657	180	400	98			
22	602	165	400	98			

60Hz							
		モータ5.5/7.5kW用 B2( B形・2本掛け )REDラベル			モータ11.15kW用 C2( C形・2本掛け )REDラベル		
No.	回転数 (rpm)	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号
1	1183				240	355	96
2	1159				265	400	101
3	1125				180	280	88
4	1094	250	400	102	250	400	100
5	1061				191	315	91
6	1056	109	315	93			
7	1050				240	400	99
8	1033	236	400	102	236	400	99
9	1000				180	315	90
10	980	224	400	101	224	400	98
11	963	165	300	91	165	300	88
12	942				191	355	93
13	928	212	400	100	212	400	98
14	917				165	315	89
15	887	180	355	95	180	355	93
16	875	200	400	99			
17	831	190	400	99			
18	788	180	400	98			
19	778	140	315	90			
20	739	150	355	94			
21	722	165	400	98			
22	700	160	400	97			
23	656	150	400	97			

P1600形

(i)標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P1600M-A-L(R)	11kW防滴保護形	2C355-42	C92	2C180-42	49A

(ii)選定表

50Hz		モータ5.5/7.5kW用 B2( B形・2本掛け )REDラベル			モータ11.15kW用 C2( C形・2本掛け )REDラベル			モータ18.5kW用 C3( C形・3本掛け )REDラベル		
No.	回転数 (rpm)	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号
1	1095				300	400	103	300	400	103
2	1043				200	280	89	200	280	89
3	1038				224	315	93			
4	1022				280	400	102	280	400	102
5	987				240	355	96	240	355	96
6	971				236	355	96			
7	967				265	400	101	265	400	101
8	939				180	280	88	180	280	88
9	913	250	400	102	250	400	100			
10	885				191	315	91			
11	876				240	400	99			
12	861	236	400	102	236	400	99			
13	834	180	315	93	180	315	90			
14	818	224	400	101	224	400	98			
15	774	212	400	100	212	400	98			
16	740				180	355	93			
17	694	190	400	99						
18	657	180	400	98						

60Hz		モータ5.5/7.5kW用 B2( B形・2本掛け )REDラベル			モータ11.15kW用 C2( C形・2本掛け )REDラベル			モータ18.5kW用 C3( C形・3本掛け )REDラベル		
No.	回転数 (rpm)	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号
1	1094				250	400	100	250	400	100
2	1061				191	315	91	191	315	91
3	1050				240	400	99	240	400	99
4	1033				236	400	99	236	400	99
5	1000				180	315	90	180	315	90
6	980				224	400	98	224	400	98
7	963				165	300	88			
8	942				191	355	93	191	355	93
9	928				212	400	98	212	400	98
10	917				165	315	89			
11	887	180	355	95	180	355	93			
12	875	200	400	100	200	400	97			
13	836				191	400	96			
14	831	190	400	99						
15	788	180	400	98	180	400	95			
16	778	140	315	90						
17	739	150	355	94						
18	722	165	400	98	165	400	95			
19	700	160	400	97						
20	656	150	400	97						

P265・P335形（オールフレッシュ用）

(i)標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P265M-A-F	1.5kW全閉外扇形	A280-20	A59	A可変24	6.5A
PFAV-P335M-A-F	1.5kW全閉外扇形	A280-20	A59	A可変24	6.5A

(ii)形名・仕様表

部品形名	部品名	プーリ	個数	ベルト	個数	電磁開閉器	個数	電動機	個数	備考
PAC-CT01SP	送風機プーリセット	A90-20	1							
PAC-CT02SP	"	A118-20	1							
PAC-CT03SP	"	A132-20	1							
PAC-CT04SP	"	A150-20	1	注3						
PAC-CT05SP	"	A180-20	1							
PAC-CT06SP	"	A224-20	1							
PAC-CT07SP	"	A250-20	1							
PAC-CT08SP	"	A280-20	1							
PAC-CT10MP	電動機プーリセット	A可変-28	1			PAK-6JTH(9A)	1			標準仕様変更銘板付(2.2kWモータ用)
PAC-CJ64MR	電動機							SF-JR2.2kW-4P	1	
PAC-CJ49VB	Vベルト			A49	1					
PAC-CJ50VB	"			A50	1					
PAC-CJ51VB	"			A51	1					
PAC-CJ52VB	"			A52	1					
PAC-CJ53VB	"			A53	1					
PAC-CJ54VB	"			A54	1					
PAC-CJ55VB	"			A55	1					
PAC-CJ56VB	"			A56	1					
PAC-CJ58VB	"			A58	1					
PAC-CJ59VB	"			A59	1					

注1 プーリ仕様 A 150 - 20  
 A形ベルト1本掛 PC ポス内径

注2 ベルト仕様 A 34  
 A形ベルト ベルト長さ34インチ

注3 PAC-CT01～08SPに付属のベルトは使用できません。  
 別途技術資料（静風圧部品選定表）を参照の上、上記PAC-CJ49～59VBを  
 お買い求めください。



(iii)選定表

PFAV-P265M-A-F

50Hz

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min			
	28	30	35	40
100	標準			
	標準( 280 )			
	標準(A59)			
	標準			
	3・3/4			
150	標準			
	PAC-CT07SP( 250 )			
	PAC-CJ58VB( A58 )			
	標準			
	2	2・1/4		
200	標準			
	PAC-CT06SP( 224 )			
	PAC-CJ56VB( A56 )			
	標準			
	1	1・1/4		
250	標準			
	PAC-CT05SP( 180 )			
	PAC-CJ52VB( A52 )			
	標準			
	4	4・1/4		
300	標準			
	PAC-CT05SP( 180 )			
	PAC-CJ53VB( A53 )			
	標準			
	2	2・1/4		
350	標準			
	PAC-CT05SP( 180 )			
	PAC-CJ53VB( A53 )			
	標準			
	0	1/4		
400	標準			
	PAC-CT04SP( 150 )			
	PAC-CJ51VB( A51 )			
	標準			
	3	3・1/4		
450	標準			
	PAC-CT04SP( 150 )			
	PAC-CJ51VB( A51 )			
	標準			
	1・1/4	1・1/2	1・3/4	
500	標準			
	PAC-CT04SP( 150 )			
	PAC-CJ52VB( A52 )			
	標準			
	0	1/4		
550	標準			
	PAC-CT03SP( 132 )			
	PAC-CJ50VB( A50 )			
	標準			
	2・1/4	2・1/2		
600	標準			
	PAC-CT03SP( 132 )			
	PAC-CJ50VB( A50 )			
	標準			
	1	1・1/4		
650	標準			
	PAC-CT02SP( 118 )			
	PAC-CJ49VB( A49 )			
	標準			
	3	3・1/4		
700	標準			
	PAC-CT02SP( 118 )			
	PAC-CJ49VB( A49 )			
	標準			
	2	2・1/4		

- 注1. 出荷時の電動機プリーPC (可変プリー)は116.7(スライドピース回転数 4・3/4)となっています。  
 2. 機内抵抗はフィルドフィルタ、温水・蒸気ヒータなど別売部品を組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。該当する部品の機内抵抗線を参照の上、適宜補正をしてください。  
 3. プリー別売部品にはベルトが同梱されていますが、必ず静風圧選定表に示すベルトを手配・使用してください。  
 4. 電動機プリーのPC の調節方法は技術マニュアル、据付説明書を参照してください。  
 5. 電動機の変更時には、サーマル(熱動過電流継電器)の変更が必要です。別売部品の説明書を参照ください。  
 6. 標準仕様は機内抵抗55Pa 機外静圧90Pa 風量35m<sup>3</sup>/minです。  
 50Hz地区の場合、上記標準仕様にてご使用される時は、電動機プリーPC (可変プリー)を140(スライドピース回転数 0)にしてください。

表中

1段目	電動機形名
2段目	送風機プリー形名(PC )
3段目	使用ベルト形名(サイズ)
4段目	電動機プリー形名
5段目	スライドピース回転数

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min			
	28	30	35	40
100	標準 標準( 280 ) 標準( A59 ) 標準 4			
150	標準 標準( 280 ) 標準( A59 ) 標準 4			
200	0		1 / 4	
250	標準 PAC-CT07SP( 250 ) PAC-CJ58VB( A58 ) 標準			
	1 / 2		3 / 4	
300	標準 PAC-CT06SP( 224 ) PAC-CJ56VB( A56 ) 標準			
	1・1 / 4		1・1 / 2	
350	標準 PAC-CT05SP( 180 ) PAC-CJ52VB( A52 ) 標準 4・3 / 4			
400	標準 PAC-CT05SP( 180 ) PAC-CJ52VB( A52 ) 標準			
	3・1 / 4		3・1 / 2	
450	標準 PAC-CT05SP( 180 ) PAC-CJ53VB( A53 ) 標準			
	1・1 / 2		1・3 / 4	
500	標準 PAC-CT05SP( 180 ) PAC-CJ53VB( A53 ) 標準			
	0		1 / 4	
550	標準 PAC-CT04SP( 150 ) PAC-CJ50VB( A50 ) 標準			
	3・3 / 4		4	
600	標準 PAC-CT04SP( 150 ) PAC-CJ51VB( A51 ) 標準			
	2・1 / 2		2・3 / 4	
650	標準 PAC-CT04SP( 150 ) PAC-CJ51VB( A51 ) 標準			
	1・1 / 2		1・3 / 4	
700	標準 PAC-CT03SP( 132 ) PAC-CJ49VB( A49 ) 標準 4			

- 注1. 出荷時の電動機プリーPC (可変プリー)は116.7(スライドピース回転数 4・3/4)となっています。  
 2. 機内抵抗はフィルドフィルタ、温水・蒸気ヒータなど別売部品を組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。  
 該当する部品の機内抵抗線を参照の上、適宜補正をしてください。  
 3. プリー別売部品にはベルトが同梱されていますが、必ず静風圧選定表に示すベルトを手配・使用してください。  
 4. 電動機プリーのPC の調節方法は技術マニュアル、据付説明書を参照してください。  
 5. 電動機の変更時には、サーマル(熱動過電流継電器)の変更が必要です。別売部品の説明書を参照ください。  
 6. 標準仕様は機内抵抗55Pa 機外静圧90Pa 風量35m<sup>3</sup>/minです。

表中

1段目	電動機形名
2段目	送風機プリー形名(PC )
3段目	使用ベルト形名(サイズ)
4段目	電動機プリー形名
5段目	スライドピース回転数

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min				
	36	40	45	50	54
150	標準				
	標準( 280 )				
	標準(A59)				
	標準				
	1				
200	標準				
	PAC-CT06SP( 224 )				
	PAC-CJ56VB(A56)				
	標準				
	3				
250	標準				
	PAC-CT05SP( 180 )				
	PAC-CJ52VB(A52)				
	標準				
	4・3/4				
300	標準				
	PAC-CT05SP( 180 )				
	PAC-CJ53VB(A53)				
	標準				
	2・1/4				
350	標準				
	PAC-CT04SP( 150 )				
	PAC-CJ50VB(A50)				
	標準				
	4・3/4				
400	標準				
	PAC-CT04SP( 150 )				
	PAC-CJ51VB(A51)				
	標準				
	3				
450	標準				
	PAC-CT03SP( 132 )				
	PAC-CJ49VB(A49)				
	標準				
	4・3/4				
500	標準				
	PAC-CT03SP( 132 )				
	PAC-CJ50VB(A50)				
	標準				
	3・1/2				
550	標準				
	PAC-CT03SP( 132 )				
	PAC-CJ50VB(A50)				
	標準				
	2・1/4				
600	標準				
	PAC-CT03SP( 132 )				
	PAC-CJ50VB(A50)				
	標準				
	3/4				
650	標準				
	PAC-CT02SP( 118 )				
	PAC-CJ49VB(A49)				
	標準				
	2・3/4				

- 注1.出荷時の電動機ブリーPC (可変ブリー)は116.7(スライドピース回転数 4・3/4)となっています。  
 2.機内抵抗はフレドフィルタ、温水・蒸気ヒータなど別売部品を組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。  
 該当する部品の機内抵抗線を参照の上、適宜補正をしてください。  
 3.ブリー別売部品にはベルトが同梱されていますが、必ず静風圧選定表に示すベルトを手配・使用してください。  
 4.電動機ブリーのPC の調節方法は技術マニュアル、据付説明書を参照してください。  
 5.電動機の変更時には、サーマル(熱動過電流継電器)の変更が必要です。別売部品の説明書を参照ください。  
 6.標準仕様は機内抵抗85Pa 機外静圧80Pa 風量45m<sup>3</sup>/minです。  
 50Hz地区の場合、上記標準仕様にてご使用される時は、電動機ブリーPC (可変ブリー)を  
 140(スライドピース回転数 0)にしてください。

表中

1段目	電動機形名
2段目	送風機ブリー形名(PC )
3段目	使用ベルト形名(サイズ)
4段目	電動機ブリー形名
5段目	スライドピース回転数

全静圧 Pa	風量 $m^3/min$				
	36	40	45	50	54
150	標準				
	標準( 280 )				
	標準(A59)				
	標準				
	4・3/4				
200	標準				
	標準( 280 )				
	標準(A59)				
	標準				
	2				
250	標準				
	PAC-CT07SP( 250 )				
	PAC-CJ58VB( A58 )				
	標準				
	1・1/2				
300	標準				
	PAC-CT06SP( 224 )				
	PAC-CJ56VB( A56 )				
	標準				
	1・1/2				
350	標準				
	PAC-CT05SP( 180 )				
	PAC-CJ52VB( A52 )				
	標準				
	4・3/4				
400	標準				
	PAC-CT05SP( 180 )				
	PAC-CJ53VB( A53 )				
	標準				
	3・1/4				
450	標準				
	PAC-CT05SP( 180 )				
	PAC-CJ53VB( A53 )				
	標準				
	1・3/4				
500	標準				
	PAC-CT05SP( 180 )				
	PAC-CJ54VB( A54 )				
	標準				
	1/4				
550	標準				
	PAC-CT04SP( 150 )				
	PAC-CJ51VB( A51 )				
	標準				
	3・3/4				
600	標準				
	PAC-CT04SP( 150 )				
	PAC-CJ51VB( A51 )				
	標準				
	2・1/4				
650	標準				
	PAC-CT04SP( 150 )				
	PAC-CJ51VB( A51 )				
	標準				
	1・1/4				

- 注1. 出荷時の電動機プーリPC (可変プーリ)は116.7(スライドピース回転数 4・3/4)となっています。  
 2. 機内抵抗はフィルドフィルタ、温水・蒸気ヒータなど別売部品を組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。  
 該当する部品の機内抵抗線を参照の上、適宜補正をしてください。  
 3. プーリ別売部品にはベルトが同梱されていますが、必ず静風圧選定表に示すベルトを手配・使用してください。  
 4. 電動機プーリのPC の調節方法は技術マニュアル、据付説明書を参照してください。  
 5. 電動機の変更時には、サーマル(熱動過電流継電器)の変更が必要です。別売部品の説明書を参照ください。  
 6. 標準仕様は機内抵抗85Pa 機外静圧80Pa 風量45m<sup>3</sup>/minです。

表中

1段目	電動機形名
2段目	送風機プーリ形名(PC )
3段目	使用ベルト形名(サイズ)
4段目	電動機プーリ形名
5段目	スライドピース回転数

P530・P670形(オールフレッシュ用)

(i)標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P530M-A-F	2.2kW全閉外扇形	2B315-24	B67×2	2B118-28	9A
PFAV-P670M-A-F	3.7kW全閉外扇形	2B315-28	B66×2	2B125-28	15A

(ii)形名・仕様表

別売形名	部品名	部品内容										備考	
		送風機プーリ	個数	ベルト	個数	電動機プーリ	個数	サーマルリレー	個数	電動機	個数		
PAC-CH41SP	送風機プーリセット	2B170-24	1	B58	2								
PAC-CH42SP	送風機プーリセット	2B180-24	1	B59	2								
PAC-CH43SP	送風機プーリセット	2B190-24	1	B59,B60	各2								
PAC-CH44SP	送風機プーリセット	2B200-24	1	B60	2								
PAC-CH45SP	送風機プーリセット	2B212-24	1	B61	2								
PAC-CH46SP	送風機プーリセット	2B224-24	1	B62	2								
PAC-CH47SP	送風機プーリセット	2B236-24	1	B62	2								
PAC-CH39SP	送風機プーリセット	2B250-24	1	B63,B64	各2								
PAC-CH48SP	送風機プーリセット	2B280-24	1	B65,B66	各2								
PAC-CH49SP	送風機プーリセット	2B300-24	1	B66	2								
PAC-CH50SP	送風機プーリセット	2B315-24	1	B67	2								
PAC-CH51SP	送風機プーリセット	2B355-24	1	B70	2								
PAC-CH52SP	送風機プーリセット	2B165-28	1	B56	2								
PAC-CH53SP	送風機プーリセット	2B170-28	1	B56	2								
PAC-CH54SP	送風機プーリセット	2B180-28	1	B57	2								
PAC-CH55SP	送風機プーリセット	2B200-28	1	B59,B60	各2								
PAC-CH56SP	送風機プーリセット	2B212-28	1	B59,B60	各2								
PAC-CH57SP	送風機プーリセット	2B224-28	1	B60,B61									
PAC-CH58SP	送風機プーリセット	2B236-28	1	B61,B62	各2								
PAC-CH40SP	送風機プーリセット	2B250-28	1	B62,B63	各2								
PAC-CH59SP	送風機プーリセット	2B280-28	1	B64,B65	各2								
PAC-CH60SP	送風機プーリセット	2B300-28	1	B65,B66	各2								
PAC-CH61SP	送風機プーリセット	2B315-28	1	B66	2								
PAC-CH62MP	電動機プーリセット					2B125-28	1						
PAC-CH63MP	電動機プーリセット			B63,B65	各2	2B145-28	1	PAK-21JT(15A)	1				
PAC-CH64MP	電動機プーリセット			B64,B66	各2	2B155-28	1	PAK-21JT(15A)	1				
PAC-CH65MP	電動機プーリセット					2B145-38	1	PAK-26JT(22.5A)	1				
PAC-CH66MP	電動機プーリセット					2155-38B	1	PAK-26JT(22.5A)	1				
PAC-CH67MP	電動機プーリセット			B63,B65	各2	2B165-38	1	PAK-26JT(22.5A)	1				
PAC-CJ65MR	電動機									SF-JR 3.7kW-4P	1		
PAC-CJ66MR	電動機									SF-JR 5.5kW-4P	1		

(iii)選定表

PFAV-P530M-A-F

50Hz

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min						
	56	60	65	70	75	80	84
100Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH51SP( 355 )						
	B70 標準(2.2kW)						
150Pa	標準( 118 )						
	標準( 315 )						
	B67( 標準 ) 標準(2.2kW)						
200Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH48SP( 280 )						
	B65 標準(2.2kW)						
250Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH47SP( 236 )						
	B62 標準(2.2kW)						
300Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH46SP( 224 )						
	B62 標準(2.2kW)						
350Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH44SP( 200 )						
	B60 標準(2.2kW)						
400Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH43SP( 190 )						
	B59 標準(2.2kW)						
450Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH42SP( 180 )						
	B59 標準(2.2kW)						
500Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH41SP( 170 )						
	B58 標準(2.2kW)						
550Pa	PAC-CH62MP( 125 )						
	PAC-CH42SP( 180 )						
	B59 標準(2.2kW)						
600Pa	PAC-CH62MP( 125 )						
	PAC-CH41SP( 170 )						
	B58 標準(2.2kW)						

注1 標準仕様 電動機プーリ:2B118-28 送風機プーリ:2B315-24 ベルトサイズ:B67  
 サーマル:PAK-6JT(9A) 電動機形名:SF-JR2.2kW  
 2 表中のプーリ径はPC を記載しています。外径はPC より11mm増加します。  
 3 標準時は機内抵抗:40Pa 機外静圧:110Pa 風量:70m<sup>3</sup>/minです。

表中

1段目	電動機プーリ形名( PC )
2段目	送風機プーリ形名( PC )
3段目	ベルトサイズ
4段目	電動機形名( 容量 )

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min						
	56	60	65	70	75	80	84
100Pa	標準( 118 ) PAC-CH51SP( 355 ) B70						
150Pa							
200Pa	標準( 118 )						
	標準( 315 )						
	B67( 標準 )						
250Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH49SP( 300 )						
	B66						
300Pa	標準( 2.2kW )						
	PAC-CH62MP( 125 )						
	PAC-CH48SP( 280 )						
350Pa	B65						
	標準( 2.2kW )						
	標準( 118 )						
400Pa	PAC-CH39SP( 250 )						
	B63						
	標準( 2.2kW )						
450Pa	標準( 118 )						
	PAC-CH47SP( 236 )						
	B62						
500Pa	標準( 2.2kW )						
	PAC-CH62MP( 125 )						
	PAC-CH47SP( 236 )						
550Pa	B62						
	標準( 2.2kW )						
	標準( 118 )						
600Pa	PAC-CH62MP( 125 )						
	PAC-CH46SP( 224 )						
	B62						
600Pa	標準( 2.2kW )						
	標準( 118 )						
	PAC-CH44SP( 200 )						
600Pa	B60						
	標準( 2.2kW )						
	標準( 118 )						
600Pa	PAC-CH43SP( 190 )						
	B59						
	標準( 2.2kW )						

注1 標準仕様 電動機プーリ:2B118-28 送風機プーリ:2B315-24 ベルトサイズ:B67  
 サーマル:PAK-6JT(9A) 電動機形名:SF-JR2.2kW  
 2 表中のプーリ径はPC を記載しています。外径はPC より11mm増加します。  
 3 標準時は機内抵抗:40Pa 機外静圧:180Pa 風量:70m<sup>3</sup>/minです。

表中

1段目	電動機プーリ形名( PC )
2段目	送風機プーリ形名( PC )
3段目	ベルトサイズ
4段目	電動機形名( 容量 )

全静圧 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min				
	72	80	90	100	108
100Pa					
150Pa					
150Pa	標準( 125 )				
	標準( 315 )				
	B66( 標準 )				
	標準(3.7kW)				
200Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH59SP( 280 )				
	B64				
	標準(3.7kW)				
250Pa	PAC-CH63MP( 145 )				
	PAC-CH60SP( 300 )				
	B66(標準)				
	標準(3.7kW)				
300Pa	PAC-CH63MP( 145 )				
	PAC-CH59SP( 280 )				
	B65				
	標準(3.7kW)				
350Pa	PAC-CH63MP( 145 )				
	PAC-CH40SP( 250 )				
	B63				
	標準(3.7kW)				
400Pa	PAC-CH63MP( 145 )				
	PAC-CH58SP( 236 )				
	B62				
	標準(3.7kW)				
450Pa	PAC-CH63MP( 145 )				
	PAC-CH57SP( 224 )				
	B61				
	標準(3.7kW)				
500Pa	PAC-CH63MP( 145 )				
	PAC-CH56SP( 212 )				
	B60				
	標準(3.7kW)				
550Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH54SP( 180 )				
	B57				
	標準(3.7kW)				
600Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH53SP( 170 )				
	B56				
	標準(3.7kW)				
600Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH52SP( 165 )				
	B56				
	標準(3.7kW)				

注1 標準仕様      電動機プーリ:2B125-28 送風機プーリ:2B315-28 ベルトサイズ:B66  
 サーマル:PAK-6JT(9A) 電動機形名:SF-JR2.2kW  
 2 表中のプーリ径はPC を記載しています。外径はPC より11mm増加します。  
 3 標準時は機内抵抗:50Pa 機外静圧:110Pa 風量:90m<sup>3</sup>/minです。

表中

1段目	電動機プーリ形名( PC )
2段目	送風機プーリ形名( PC )
3段目	ベルトサイズ
4段目	電動機形名( 容量 )



全静压 Pa	風量 m <sup>3</sup> /min				
	72	80	90	100	108
100Pa					
150Pa					
200Pa					
250Pa					
300Pa	標準( 125 )				
	標準( 315 )				
	B66( 標準 )				
	標準(3.7kW)				
350Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH60SP( 300 )				
	B65				
	標準(3.7kW)				
400Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH59SP( 280 )				
	B64				
	標準(3.7kW)				
450Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH40SP( 250 )				
	B62				
	標準(3.7kW)				
500Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH58SP( 236 )				
	B61				
	標準(3.7kW)				
550Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH57SP( 224 )				
	B60				
	標準(3.7kW)				
600Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH56SP( 212 )				
	B59				
	標準(3.7kW)				
600Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH63MP( 145 )				
	PAC-CH58SP( 236 )				
	B62				
600Pa	標準( 125 )				
	PAC-CH55SP( 200 )				
	B59				
	標準(3.7kW)				

注1 標準仕様 電動機プーリ:2B125-28 送風機プーリ:2B315-28 ベルトサイズ:B66  
 サーマル:PAK-6JT(9A) 電動機形名:SF-JR2.2kW  
 2 表中のプーリ径はPC を記載しています。外径はPC より11mm増加します。  
 3 標準時は機内抵抗:50Pa 機外静圧:190Pa 風量:90m<sup>3</sup>/minです。

表中

1段目	電動機プーリ形名( PC )
2段目	送風機プーリ形名( PC )
3段目	ベルトサイズ
4段目	電動機形名( 容量 )

P1000形(オールフレッシュ用)

(i)標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P1000M-A-F	2.2kW全閉外扇形	2B315-32	B56	2B125-28	9A

(ii)形名・仕様表

別売形名	部品名	部品内容										備考		
		電動機プーリ	個数	ベルト	個数	送風機プーリ	個数	サーマルリレー	個数	電動機	個数			
PAC-CV51MP	電動機プーリセット	2B135-28	1	B54	2									
PAC-CV52MP	電動機プーリセット	2B140-28	1	B54	2									
PAC-CV53MP	電動機プーリセット	2B145-28	1	B54	2									
PAC-CV54MP	電動機プーリセット	2B150-28	1	B55	2									
PAC-CV55MP	電動機プーリセット	2B160-28	1	B55	2									
PAC-CV56MP	電動機プーリセット	2B170-28	1	B56	2									
PAC-CV57MP	電動機プーリセット	2B190-28	1	B57	2									
PAC-CV58MP	電動機プーリセット	2B212-28	1	B58	2									
PAC-CV59MP	電動機プーリセット	2B135-38	1	B53	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					標準仕様変更銘板(5.5kW用)
PAC-CV60MP	電動機プーリセット	2B150-38	1	B53	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV61MP	電動機プーリセット	2B160-38	1	B54	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV62MP	電動機プーリセット	2B170-38	1	B54	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV63MP	電動機プーリセット	2B180-38	1	B55	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV64MP	電動機プーリセット	2B190-38	1	B56	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV65MP	電動機プーリセット	2B200-38	1	B56	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV66MP	電動機プーリセット	2B212-38	1	B57	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV67MP	電動機プーリセット	2B224-38	1	B57	2			PAK-26JTH(22.5A)	1					"
PAC-CV68MP	電動機プーリセット	2B170-38	1	B54	2			PAK-35JTH(30A)	1					標準仕様変更銘板(5.5kW用)
PAC-CV69MP	電動機プーリセット	2B190-38	1	B56	2			PAK-35JTH(30A)	1					"
PAC-CV70MP	電動機プーリセット	2B212-38	1	B57	2			PAK-35JTH(30A)	1					"
PAC-CV71MP	電動機プーリセット	2B224-38	1	B57	2			PAK-35JTH(30A)	1					"
PAC-CV76SP	送風機プーリセット					2B315-32	1							
PAC-CV77SP	送風機プーリセット			B61	2	2B400-32	1							
PAC-CJ67MR	電動機									SF-JR 5.5kW-4P	1			
PAC-CJ68MR	電動機									SF-JR 7.5kW-4P	1			

(iii)選定表

PFAV-P1000M-A-F

50Hz

		風量(m <sup>3</sup> /min)						
		96	100	110	120	130	140	144
全 静 压 Pa	100	標準(2.2kW)						
		標準(125)						
	PAC-CV77SP(400)							
		5	4	2	1	0.5	0	0
	150	標準(2.2kW)						
		PAC-CV51MP(135)			標準(2.2kW)			
		PAC-CV77SP(400)			PAC-CV52MP(140)			
		2.5	2	1	0.5	0	1	0
	200	標準(2.2kW)						
		PAC-CV54MP(150)			標準(125)			
		PAC-CV77SP(400)			標準(315)			
		2.5	2	1	0	2.5	1.5	1
	250	標準(2.2kW)			標準(2.2kW)			
		標準(125)			PAC-CV51MP(135)			
		標準(315)			標準(315)			
		0	0	5	3	2	1.5	1
	300	標準(2.2kW)						
		PAC-CV52MP(140)						
		標準(315)						
		3	2.5	1.5	1	0.5	0	0
350	標準(2.2kW)							
	PAC-CV54MP(150)							
	標準(315)							
	3	2.5	1.5	1	0.5	0	0	
400	標準(2.2kW)							
	PAC-CV55MP(160)							
	標準(315)							
	3	2.5	1.5	1	0.5	0	0	
450	標準(2.2kW)							
	PAC-CV56MP(170)							
	標準(315)							
	3	2.5	1.5	1	0.5	0	0	
500	標準(2.2kW)			標準(2.2kW)				
	PAC-CV56MP(170)			PAC-CV57MP(190)				
	標準(315)			標準(315)				
	0	0	0	0	5	5	4.5	
550	標準(2.2kW)							
	PAC-CV57MP(190)			PAC-CJ62MR(3.7kW)				
	標準(315)							
	4.5	4	3.5	2.5	2	1.5	1	
600								
650								
700								
750								
800								
850								
900								
950								
1000								
1050								

注1.標準仕様 電動機プーリ:125-B-2 送風機プーリ:315-B-2 電動機形名:SF-JR 2.2kW  
 2.標準時は機内抵抗:25Pa、機外静圧:210Pa、風量:120m<sup>3</sup>/minです。  
 3.機内抵抗は、温水・蒸気加熱器などを組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。  
 該当する部品の機内抵抗線図を参照の上、適宜補正してください。  
 4.電動機の変更時のみ電磁開閉器の変更が必要です。  
 5.は受注対応を示します。

1段目	電動機形名
2段目	電動機プーリ形名
3段目	送風機プーリ形名
4段目	スクロールダンパ目盛り

		風量(m <sup>3</sup> /min)							
		96	100	110	120	130	140	144	
全 静 圧 Pa	100	標準(2.2kW)							
	150	標準(125)							
	200	PAC-CV77SP(400)							
	250	3	2.5	1.5	1	0.5	0	0	
		標準(2.2kW)				標準(2.2kW)			
		PAC-CV51MP(135) PAC-CV77SP(400)				PAC-CV52MP(140) PAC-CV77SP(400)			
	300	2	1.5	0.5	0	2	1	0.5	
		標準(2.2kW)			標準(2.2kW)				
		PAC-CV53MP(145) PAC-CV77SP(400)			PAC-CV54MP(150) PAC-CV77SP(400)				
	350	1.5	1	2.5	1.5	1	0	0	
		標準(2.2kW)				標準(2.2kW)			
		標準(125)				PAC-CV51MP(135) 標準(315)			
	400	2.5	2	1	0	0	4	4	
		標準(2.2kW)							
		PAC-CV51MP(135) 標準(315)							
	450	3	2.5	2	1.5	1	0.5	0	
		標準(2.2kW)				標準(2.2kW)			
		PAC-CV52MP(140) 標準(315)				PAC-CV54MP(150) 標準(315)			
	500	1.5	1	0	0	5	4	35	
		標準(2.2kW)							
PAC-CV54MP(150) 標準(315)									
550	3.5	3	2.5	2	1.5	0.5	0		
	標準(2.2kW)			PAC-CJ62MR(3.7kW)					
	PAC-CV54MP(150) 標準(315)			PAC-CV55MP(160) 標準(315)					
600	0	0	5	5	4.5	4	3.5		
	標準(2.2kW)				PAC-CJ62MR(3.7kW)				
	PAC-CV55MP(160) 標準(315)				PAC-CV55MP(160) 標準(315)				
650	1.5	1	0.5	0	5	4.5	4.5		
	PAC-CJ62MR(3.7kW)								
	PAC-CV56MP(170) 標準(315)								
700	5	5	4.5	3.5	2.5	2	2		
	標準(315)								
750	標準(315)								
800	標準(315)								
850	標準(315)								
900	標準(315)								
950	標準(315)								
1000	標準(315)								
1050	標準(315)								

注1 標準仕様 電動機プーリ:125-B-2 送風機プーリ:315-B-2 電動機形名:SF-JR 2.2kW  
 2. 標準時は機内抵抗:25Pa、機外静圧:330Pa、風量:120m<sup>3</sup>/minです。  
 3. 機内抵抗は、温水・蒸気加熱器などを組み込んだ場合に変わりますので補正が必要です。  
 該当する部品の機内抵抗線図を参照の上、適宜補正してください。  
 4. 電動機の変更時のみ電磁開閉器の変更が必要です。  
 5. は受注対応を示します。

1段目	電動機形名
2段目	電動機プーリ形名
3段目	送風機プーリ形名
4段目	スクロールダンパ目盛り

P1250形 (オールフレッシュ用)

(i)標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P1250M-A-F-L(R)	5.5kW防滴保護形	2B355-42	B94	2B160-38	25A

50Hz

		モータ5.5kW用 B2( B形・2本掛け)REDラベル		
No.	回転数 (rpm)	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号
1	861	236	400	102
2	818	224	400	101
3	781	190	355	96
4	774	212	400	100
5	730	200	400	100
6	694	190	400	99
7	679	165	355	94
8	658	160	355	94
9	617	150	355	93
10	602	165	400	98
11	584	160	400	97
12	548	150	400	97
13	511	140	400	96

60Hz

		モータ5.5kW用 B2( B形・2本掛け)REDラベル		
No.	回転数 (rpm)	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号
1	831	190	400	99
2	813	165	355	94
3	788	160	355	94
4	739	150	355	93
5	722	165	400	98
6	700	160	400	97
7	690	140	355	93
8	656	150	400	97
9	613	140	400	96

P1600形 (オールフレッシュ用)

(i)標準仕様表

室内ユニット形名	電動機	送風機プーリ	Vベルト	電動機プーリ	51F設定値 (過電流継電器)
PFAV-P1600M-A-F-L(R)	5.5kW防滴保護形	2B400-42	B97	2B165-38	25A

50Hz

		モータ5.5kW用 B2( B形・2本掛け)REDラベル		
No.	回転数 (rpm)	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号
1	730	200	400	100
2	694	190	400	99
3	679	165	355	94
4	658	160	355	94
5	617	150	355	94
6	602	165	400	97
7	584	160	400	97
8	548	150	400	97
9	511	140	400	96

60Hz

		モータ5.5kW用 B2( B形・2本掛け)REDラベル		
No.	回転数 (rpm)	モータ側プーリ 呼び径(mm)	ファン側プーリ 呼び径(mm)	Vベルト 呼び番号
1	722	165	400	97
2	700	160	400	97
3	690	140	355	93
4	656	150	400	97
5	613	140	400	96

# 据付工事

## 1. 据付場所の選定

### (1) 室外ユニット

- 他の熱源から直接ふく射熱を受けないところ。
- ユニットから発生する騒音が隣家に迷惑のかからないところ。
- 強風が吹きつけないところ。
- 本体の質量に十分耐えられる強度のあるところ。
- 暖房運転時には、ユニットからドレンが流れますのでご注意ください。
- 次項「2. 据付スペース」に示すサービス、風路スペースがあるところ。
- 可燃性ガスの発生、流入、滞留、漏れのおそれがある場所では、火災をおこす危険性がありますので設置しないでください。
- 酸性の溶液や特殊なスプレー(イオウ系)を頻繁に使用する場所は避けてください。
- 油、蒸気、硫化ガスの多い特殊環境では使用しないでください。
- 外気10 以下にて冷房運転を実施する可能性がある場合は、ユニットの安定した運転を確保するため、室外ユニットに直接雨雪が当たらない場所を選定するか、吹出ダクト、吸込ダクトを取付けるようにしてください。

### ⚠ 注意

ユニットから発生する騒音で隣家に迷惑のかからないように据付場所を選定してください。  
また、場所によっては防音壁等の防音対策を行ってください。

### (2) 室内ユニット

- 吹出空気が部屋全体に行き渡るところ。
- 侵入外気の影響のないところ。
- 吹出空気、吸込空気の流れに傷害物のないところ。
- 油の飛沫や蒸気のないところ。
- 可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れの恐れのないところ。
- 高周波を発生する機械（高周波ウエルダー等）のないところ。
- 吹出口側に火災報知器（センサ部）が位置しないようにしてください。  
（暖房運転時に吹出温風により火災報知器が誤作動するおそれがあります。）
- 酸性の溶液などを頻繁に使用するところは避けてください。
- 特殊なスプレー（イオウ系）などを頻繁に使用するところは避けてください。

### ⚠ 警告

据付けは、質量に十分耐える場所に  
確実に行ってください。

- 強度不足の場合は、ユニットの転倒により、ケガの原因になります。

## 2.据付スペース

### (1)室外ユニット

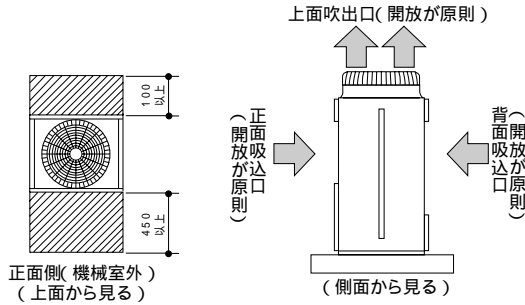
P224・P280・P335形

(単位 mm)

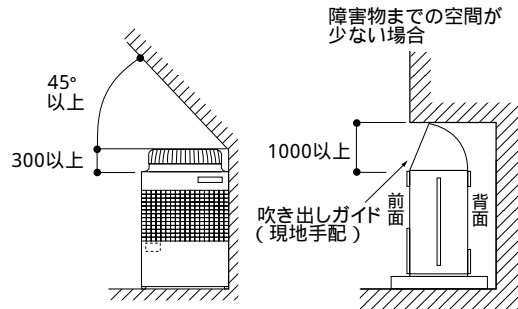
#### 【必要空間の基本】

##### 単独設置の場合

後面側は吸込空気の関係上100mm以上必要ですが、後面からのサービス等を考慮した場合、前面同様450mm程度開いていた方が便利です。

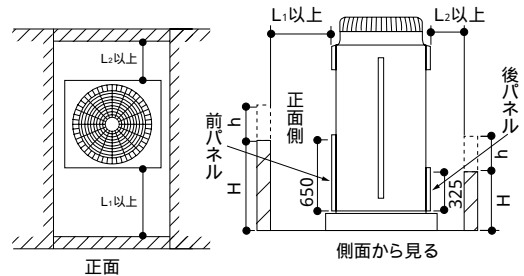
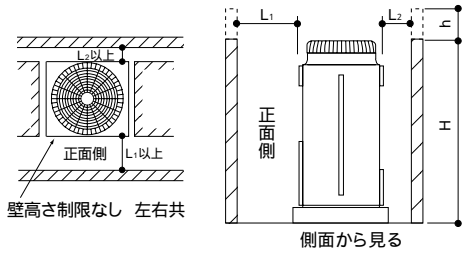


#### 【ユニットの上方に障害物がある場合】



#### 【ユニット周囲が壁の場合】

#### 【ユニット左右から吸込空気が入る場合】



- (注)・前、後の壁高さ<H>は、ユニットの全高以下のこと。  
 ・前、後の壁高さ<H'>がユニットの全高を越える場合は、上図のh寸法を右表のL<sub>1</sub>、L<sub>2</sub>に加算してください。

$$h = \text{壁高さ} < H' > - \text{ユニット全高}$$

L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>
450	100

(注)・前、後の壁高さ<H>はユニットの前、後パネルの高さ以下のこと。

- ・前、後の壁高さ<H'>がパネル高さを越える場合は、上図のh寸法を下表のL<sub>1</sub>、L<sub>2</sub>に加算してください。

$$h = \text{壁高さ} < H' > - \text{パネル高さ}$$

例 h = 100の場合

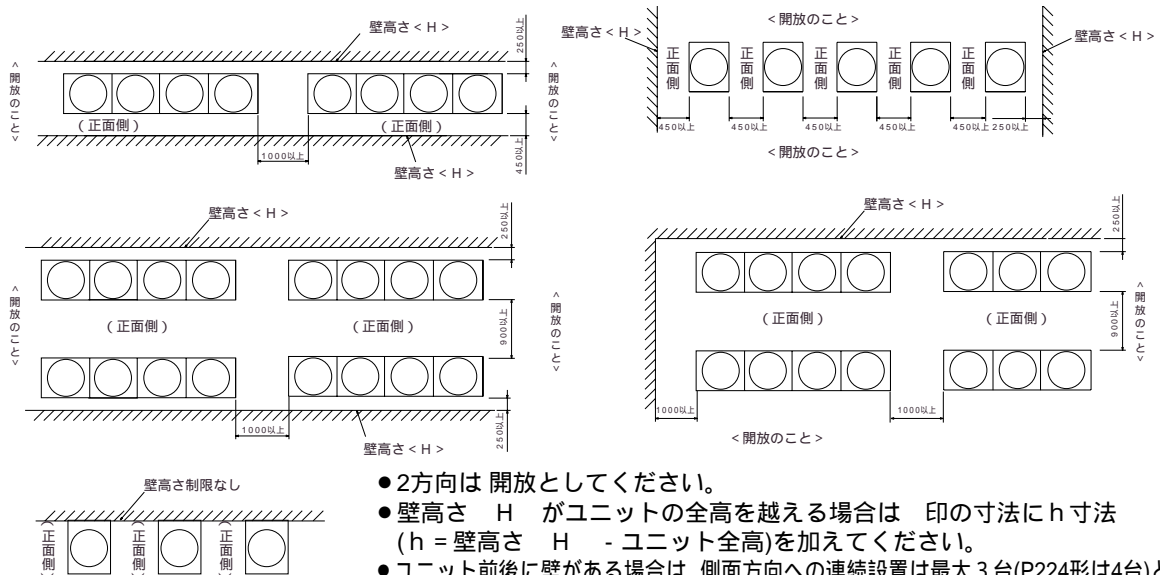
$$L1 \text{寸法は} 450 + 100 = 550$$

となります。

L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>
450	100

#### 集中設置・連続設置の場合

多数のユニットを設置する場合は、人の通路、風の流通を考慮して、各ブロック間に下図スペースをとってください。



- 2方向は開放としてください。
- 壁高さ H がユニットの全高を越える場合は 印の寸法にh寸法 (h = 壁高さ H - ユニット全高)を加えてください。
- ユニット前後に壁がある場合は、側面方向への連続設置は最大3台(P224形は4台)とし、3台(4台)毎に吸込スペース兼通路スペースとして、1000mm以上をとってください。

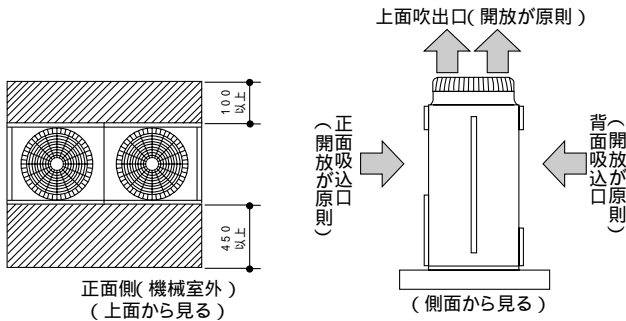
## P450・P560形

### 【必要空間の基本】

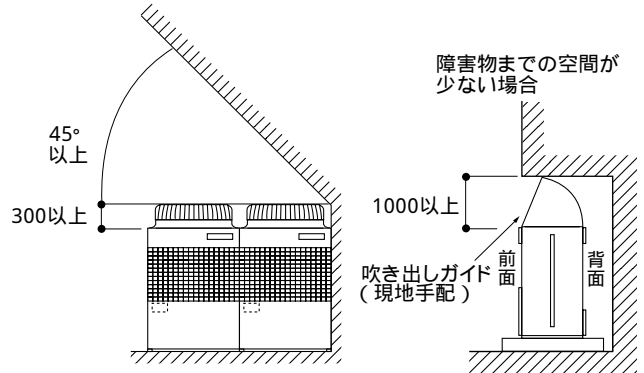
#### 単独設置の場合

後面側は吸込空気の関係上100mm以上必要ですが、後面からのサービス等を考慮した場合、前面同様450mm程度開いていた方が便利です。

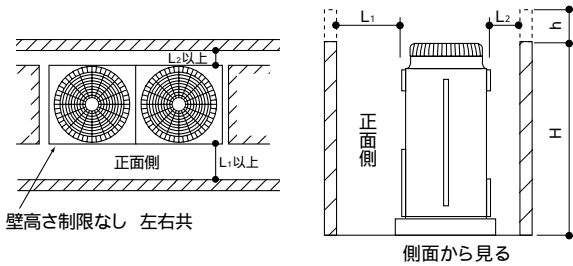
(単位：mm)



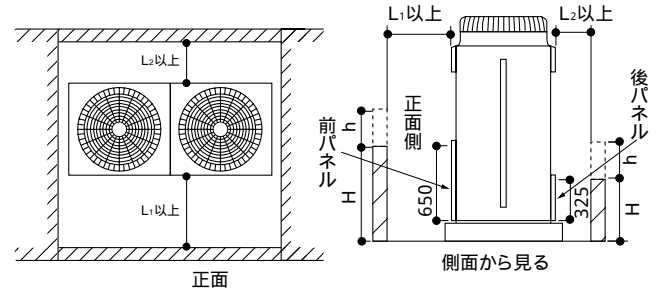
### 【ユニットの上方に障害物がある場合】



### 【ユニット左右から吸込空気が入る場合】



### 【ユニット周囲が壁の場合】



- (注) ●前、後の壁高さHはユニットの全高以下のこと。  
●ユニットの全高をこえる場合は、上図のh寸法を上表のL<sub>1</sub>、L<sub>2</sub>に加算してください。

L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>
450	100

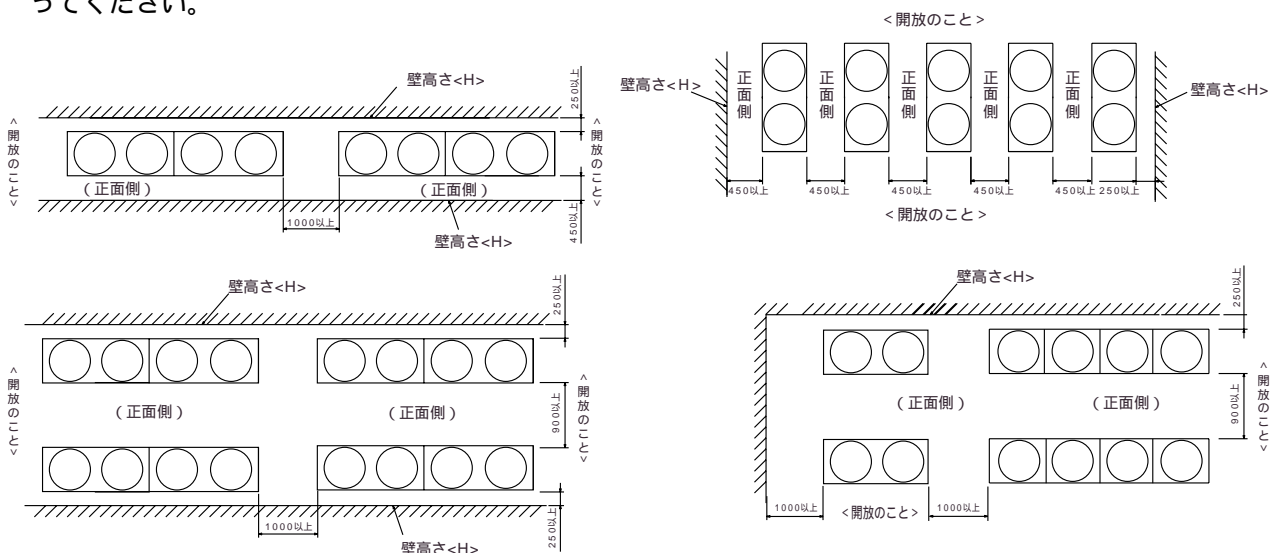
- (注) ●前、後の壁高さHはユニットの前、後パネルの高さ以下のこと。  
●パネル高さをこえる場合は上図のh寸法を上表のL<sub>1</sub>、L<sub>2</sub>に加算してください。

L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>
450	100

例 hが100の場合  
L<sub>1</sub>寸法は450 + 100 = 550  
となります。

### 集中設置・連続設置の場合

多数のユニットを設置する場合は、人の通路、風の流通を考慮して、各ブロック間に下図スペースをとってください。



- 2方向は開放としてください。
- 壁高さ H がユニットの全高を越える場合は 印の寸法にh寸法(h = 壁高さ H - ユニット全高)を加えてください。
- ユニット前後に壁がある場合は、側面方向への連続設置は最大3台とし、3台毎に吸込スペース兼通路スペースとして、1000mm以上をとってください。

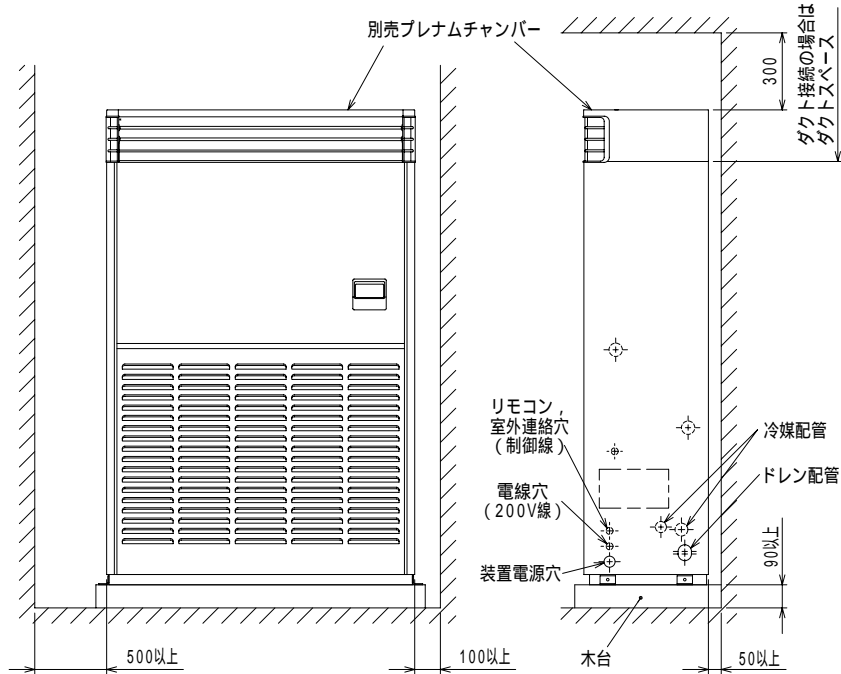


(2)室内ユニット

(単位 mm)

P224・P280・P450・P560形

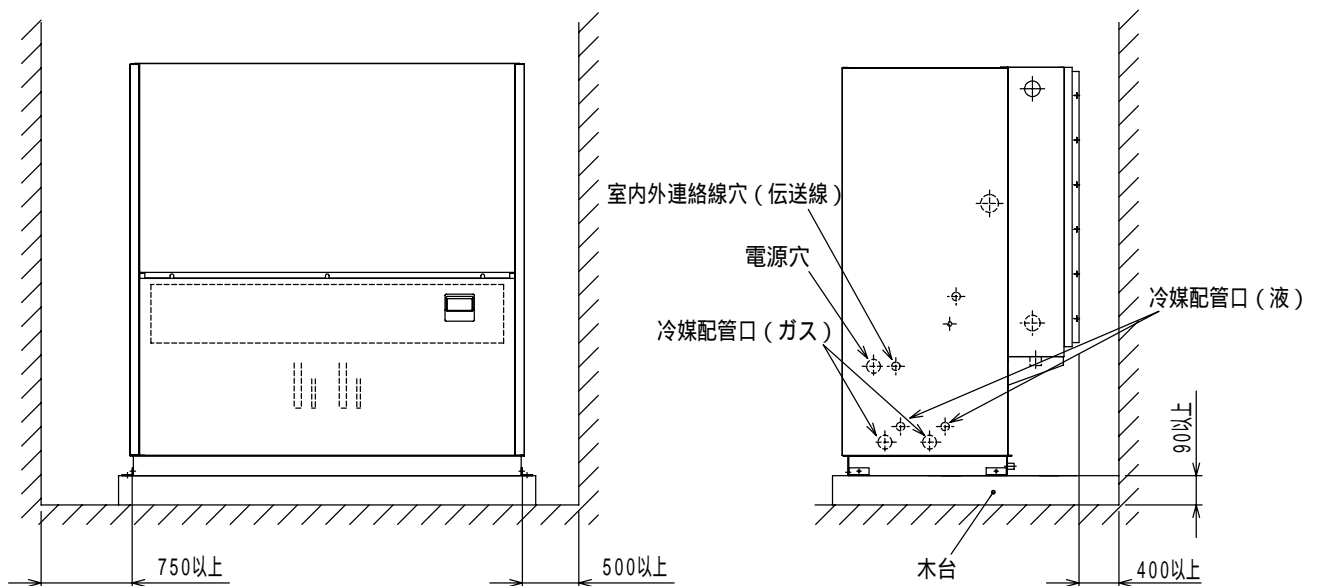
P265・P335・P530・P670形(オールフレッシュ用)



- 強固な床面を選定し、ドレン排水の便を図るため、ならびにエアコンから床への振動伝播防止のため、9cm以上の木台を使用してください。  
本図は、P280形ユニットを示しています。他の機種についても必要スペース寸法は同じです。  
配管、配線図等の据付工事のスペースは別途確保してください。  
オールフレッシュ用は別売プレナムチャンバーは取り付けられません。

P670・P800形

P1000形(オールフレッシュ用)



- 強固な床面を選定し、ドレン排水の便を図るため、ならびにエアコンから床への振動伝播防止のため、9cm以上の木台を使用してください。  
配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。

P1120・P1400・P1600形  
P1250・P1600形（オールフレッシュ用）

ユニットを設置する場合には、コンクリートなどのしっかりした基礎の上に図1、2に示すようにユニットを載せてください。また、基礎は床面より100mm以上高くし、水平度を取ってください。（基礎がしっかりしていませんと、振動発生の原因となります。）

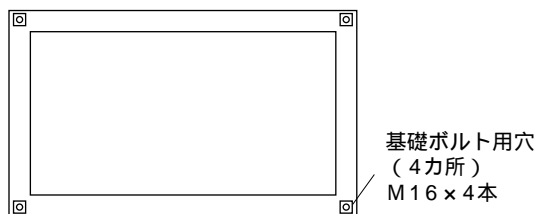


図1 PFAV-P1120・P1400・P1600M-A-L(R)基礎図

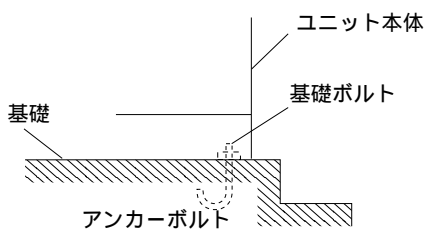
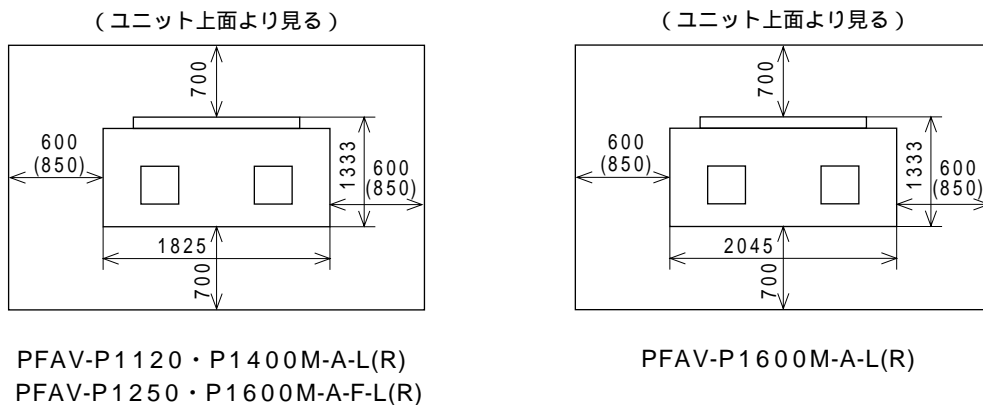


図2 アンカーボルト設置図

保守・点検、エアフィルタ抜き出し、配管・配線作業が容易にできるように、また、後面吸込口の風路がふさがれないように図3に示したスペースを必ず確保してください。



注：( ) 寸法は送風機軸の引き出しスペースです。

図3 サービススペース

<b>⚠ 警告</b>	据付けは、質量に十分耐える場所に 確実に行ってください。
	●強度不足の場合は、ユニットの転倒により、 ケガの原因になります。

**⚠ 注意**

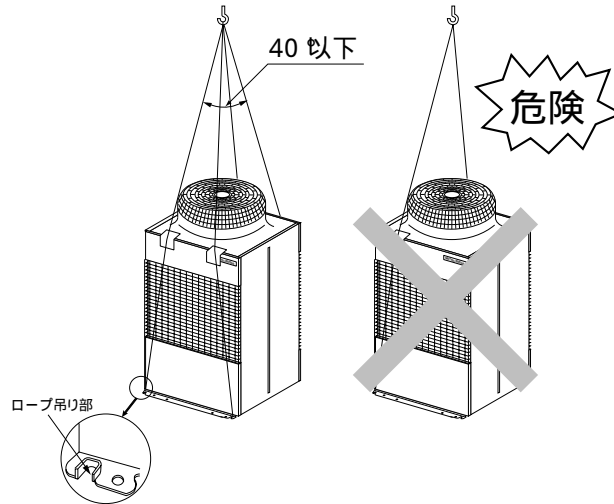
本体が必ず水平になるように据え付けてください。

### 3. 室外ユニットの据付

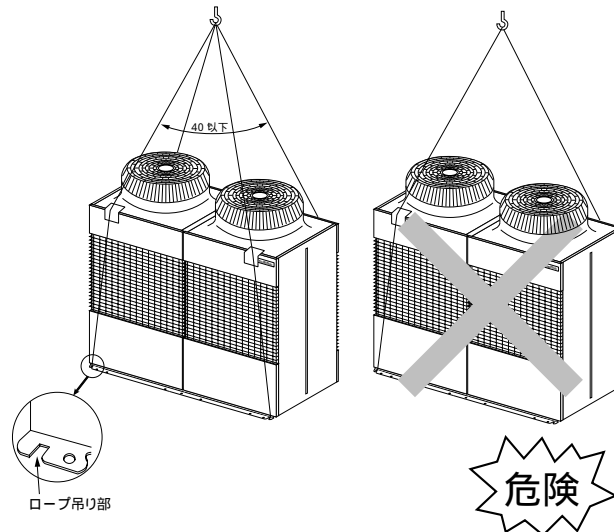
#### (1) 製品の吊下げ方法

- 製品を吊下げて搬入する場合はロープをユニットの下に通し、前後各2ヶ所の吊り部を使用してください。
- ロープは必ず4ヶ所吊りとし、ユニットに衝撃を与えないようにしてください。
- ロープ掛けの角度は下図のように40°以下にしてください。
- ロープは7m以上のものを2本使用してください。

P224・P280・P335形



P450・P560形



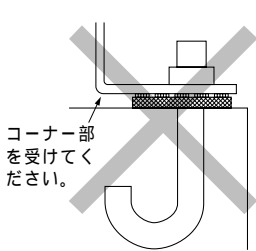
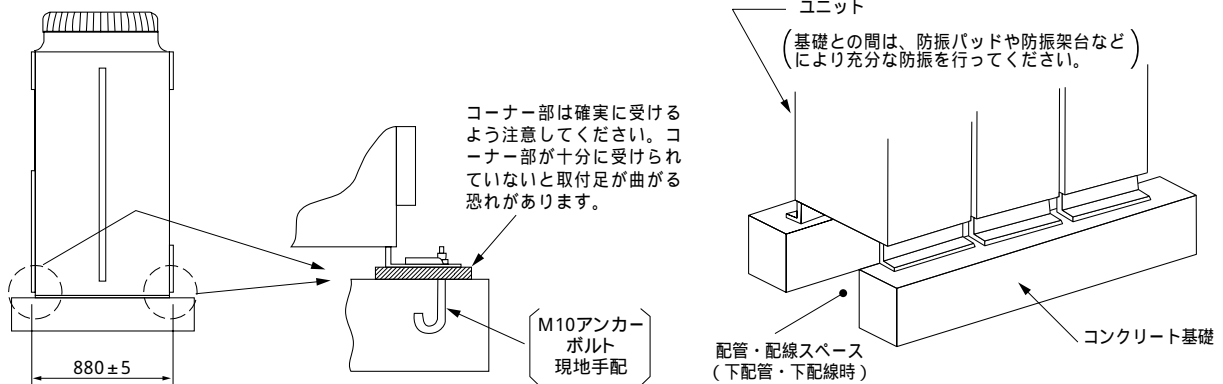
#### ⚠ 注意

製品の運搬には、十分注意してください。

- ・20kg以上の製品の運搬は、1人でしないでください。
- ・製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段には使用しないでください。
- ・熱交換器のフィン表面で切傷する場合がありますので、素手で触れないように注意してください。
- ・包装用のポリブクロで子どもが遊ばないように、破いてから廃棄してください。窒息事故などの原因となります。
- ・室外ユニットの搬入を行う場合は、ユニットベースの指定位置に吊下げてください。また、適宜、室外ユニットが横ずれしないよう固定し、確実に4点支持で実施してください。3点支持以下で運搬・吊下げしますと不安定となり、落下の原因となります。

## (2) 据付け

- ユニットが地震や突風などで倒れないように、下図のようにボルトで強固に固定してください。
- ユニットの基礎は、コンクリートまたはアングル等の強固な基礎としてください。
- 据付条件によっては、振動が据付部から伝搬し、床や壁面から、騒音や振動が発生する場合がありますので、十分な防振工事(防振パッド、防振架台など)を行なってください。



### 警告

据付けは、重量に十分耐える所に確実に行ってください。強度が不足している場合には、ユニット落下によりけがの原因になります。

### 警告

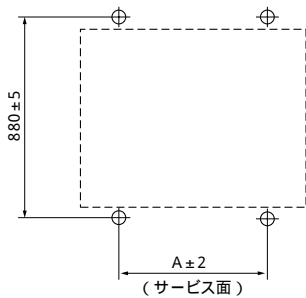
台風等の強風、地震に備え、所定の据付工事を行ってください。据付工事に不備があると、転倒等による事故の原因になります。

基礎施工に際しましては床面強度、ドレン水処理 運転時にはドレン水が機外に流出します、配管、配線の経路に十分留意してください。

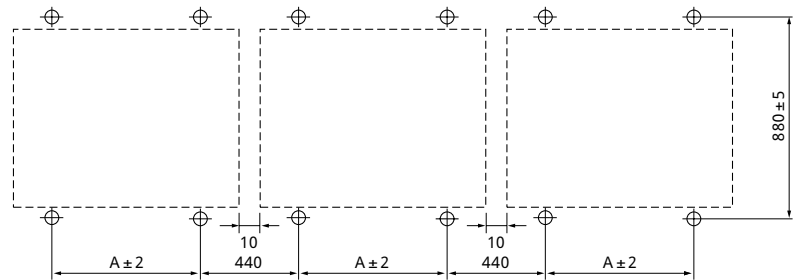
## (3) アンカーボルト位置

P224・P280・P335形

### ● 単独設置

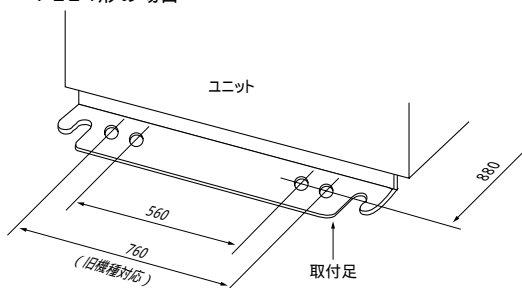


### ● 集中設置例

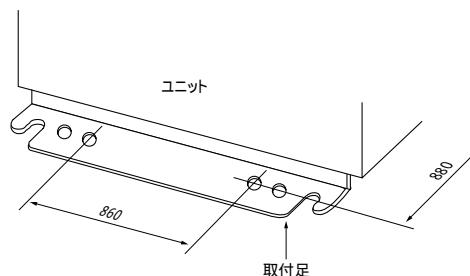


集中設置時、ユニット間には10mmのすきまを設けてください。

< P224形の場合 >



< P280・P335形の場合 >

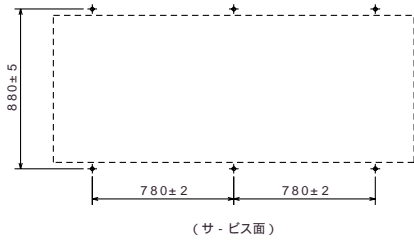


	P224形	P280・P335形
A寸法	560	860

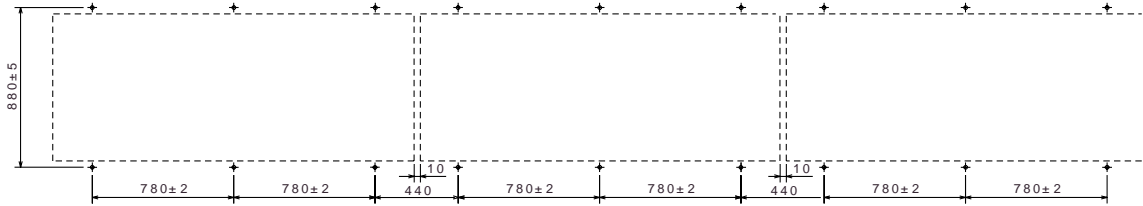
旧機種との互換を考慮し、760にも対応できます。但し、奥行き寸法(880)は、現地にて対応ください。

## P450・P560形

### ●単独設置例



### ●集中設置例



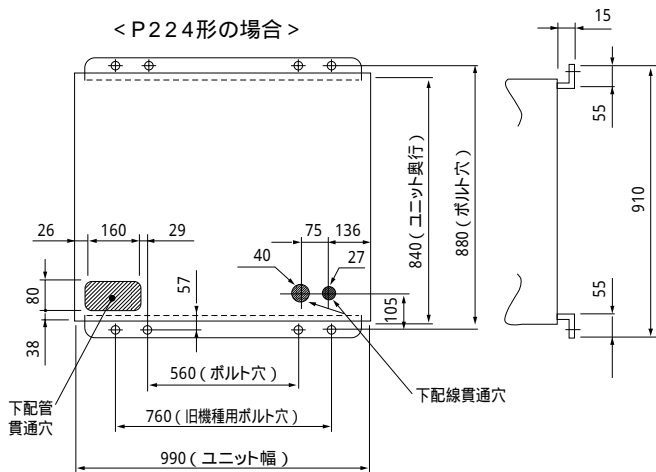
集中設置時、ユニット間には10mmのすきまを設けてください。

### (4)下配管・下配線時の注意

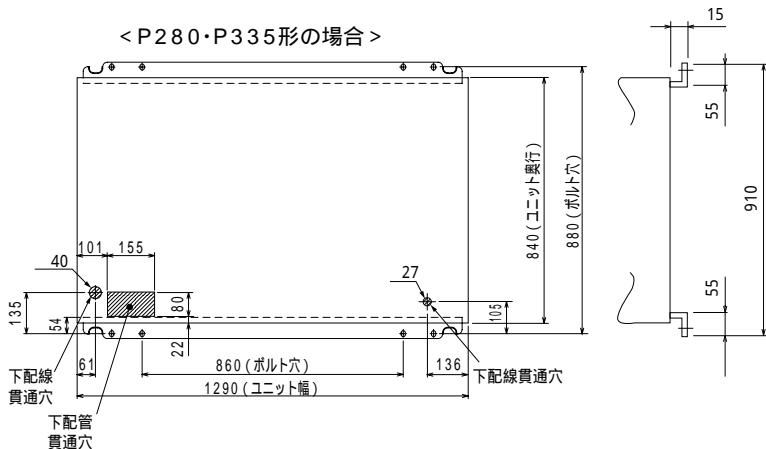
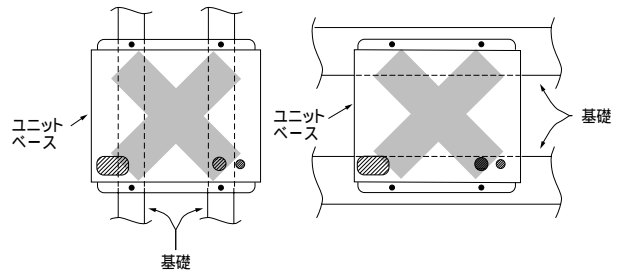
下配管または下配線を行う場合は、ベースの貫通穴を塞がないように基礎や架台の施工には注意してください。また、下配管する時にはユニットの底下に配管が通るように100mm以上の高さの基礎を設けてください。

## P224・P280・P335形

単位(mm)

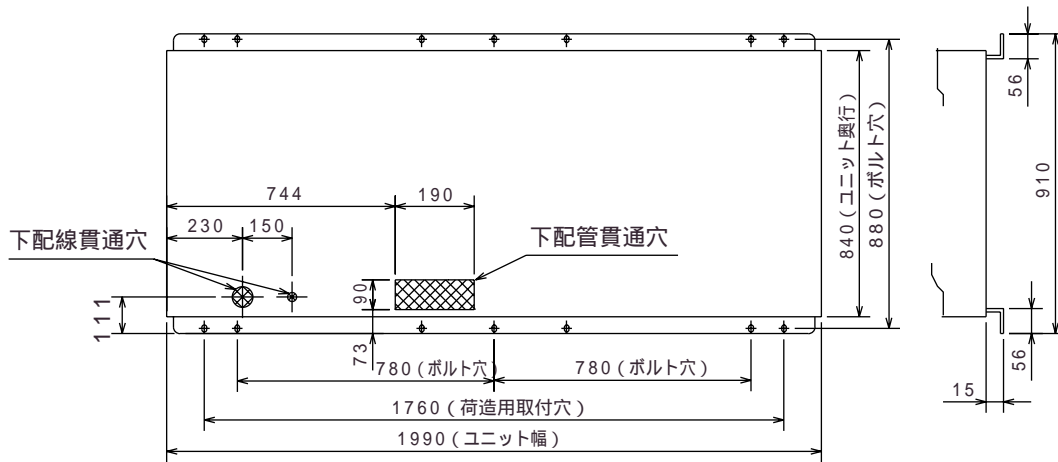


下図のような基礎や架台の施工の場合には、貫通穴が塞がれるため、下配管および下配線ができなくなります。



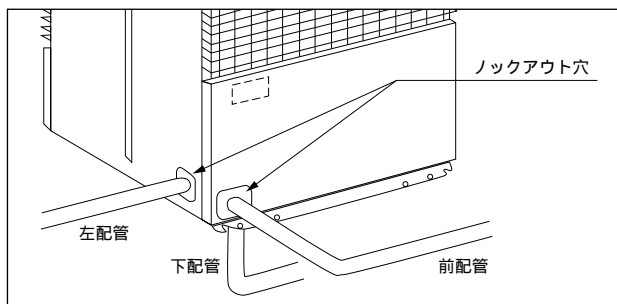
## P450・P560形

### 下配管、下配線時の注意



### (5)冷媒配管取出し方向

室外ユニットの冷媒配管取出し方向は、下図のように、下配管、前配管、左配管の3通りが可能です。ただし、集中設置、連続設置時等、ユニット左側に他のユニットが連結された場合、そのユニットの左配管はできません。



注：下配管する場合は、本体の底下に配管が通るように高さ100mm以上の基礎を設けてください。

## 4.雪・季節風に対する注意

寒冷地域や積雪の予想される地域で、冬季にユニットを正常に運転するためには、十分な防風、防雪対策が必要です。その他の地域でも、季節風や降雪の影響による異常運転を防止するために、ユニットの設置に際して十分な配慮をお願いいたします。また、外気10 以下で冷房運転を実施する場合、ユニットに直接風・雨・雪が当たる時は、ユニットの安定した運転を得るために、ユニットに吹出ダクト、吸込ダクトを取付けるようにしてください。

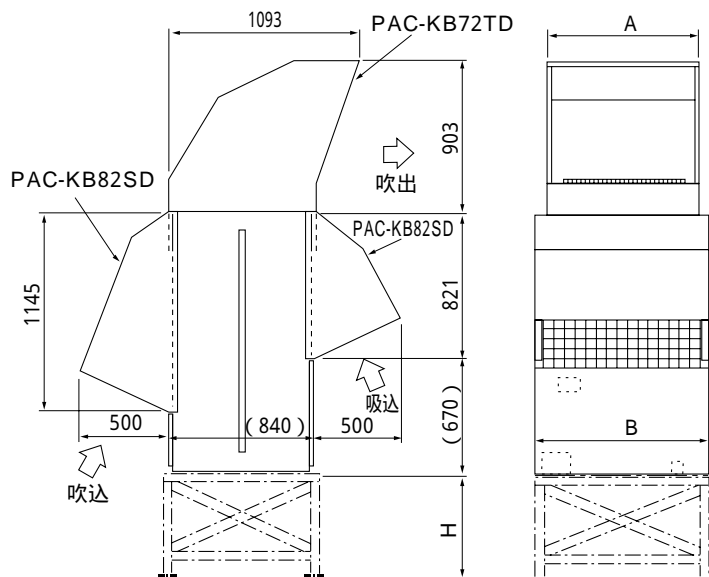
### (1) 寒冷地域・積雪地域での防風・防雪対策

下図に防雪フード組込図を示しますので参考にしてください。

#### 防雪フード組込図

P224・P280・P335形

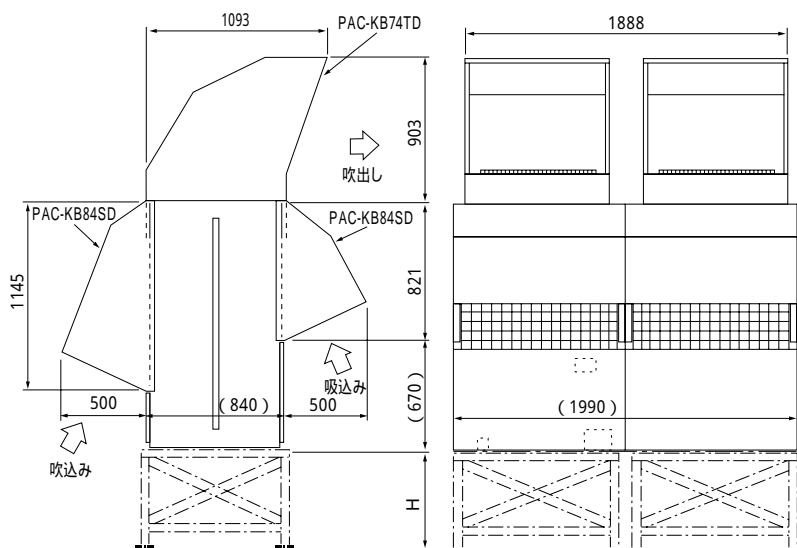
オプション部品		PUHV-P224M-A	PUHV-P280・P335M-A
防雪フード	吹出ダクト	PAC-KB72TD	PAC-KB73TD
	吸込ダクト	PAC-KB82SD	PAC-KB83SD
A 寸法		888	1188
B 寸法		990	1290



(注)

- (1)防雪架台の高さ<H>は、予想される積雪量の2倍程度としてください。また、架台はアングル鋼材等で組立て、風雪の素通りする構造とし、架台の幅はユニットの寸法より大きくならないよう決定してください。大きくするとその上に積雪します。
- (2)本図を参考として現地にて架台の製作、施工を実施してください。  
材質：亜鉛メッキ鋼板 1.2T  
塗装：ポリエステル粉体全面塗装  
色：マンセル 5Y8/1(本体同色)
- (3)寒冷地域での使用で、外気が氷点下以下の暖房運転を連続的に長期間使用する場合には、ユニットベースへのヒータ取付等を適宜行ない、ベース上の氷結を防止するようにしてください。

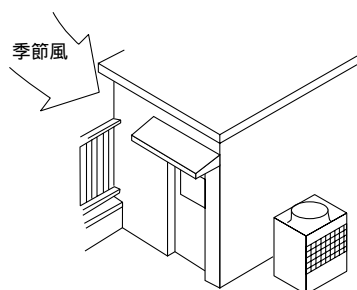
P450・P560形



オプション部品		形名
防雪フード	吹出ダクト	PAC-KB74TD
	吸込ダクト	PAC-KB84SD

## (2) 季節風対策

下記例を参考にして据付場所の実情に応じた適切な措置を施してください。



(注)ユニット設置時季節風が吹出口、吸込口の正面から当たらないように配慮してください。

## (3) 雪に対する注意

積雪の予想される地域では、十分な防雪対策（雪よけ屋根等の設置）が必要です。ユニットの設置に際しては十分な配慮をお願いします。（槽の積雪について考慮した構造にしていますが、環境条件（雪質等）及び設置状況により、ユニットへの負担は変わります。従って、ユニットの故障防止及び安全のため積雪が0.5mを越える場合は早めに雪おろししてください。また、屋根から雪が落ちる場所への設置は避けてください。

## 5.室内ユニットの据付

### ⚠ 注意

ユニットは水平に据付ける。

- 傾いていると、水漏れや故障の原因になります。必ず水準器等で水平を確認してください。

### ⚠ 注意

梱包材の処理は確実に行う。

- 梱包材にはクギ等の金属あるいは木片等を使用していますので、放置しますとさし傷等の原因になります。
- 梱包用のポリ袋で子供が遊ばないように、破いてから廃却してください。窒息事故の原因になります。

### ⚠ 注意

製品の運搬には十分注意する。

- 20kg以上の製品の運搬は、一人では行わないでください。
- 製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。
- 熱交換器フィン表面で切傷する場合がありますので、素手で触れないでください。
- 室外ユニット等吊りボルトによる搬入を行う場合は、確実に4点支持で実施してください。3点支持等で運搬・吊り下げすると不安定になり、落下等の原因になります。



## (1) ユニットの取付け

- 室内ユニットは、据付場所まで梱包のまま搬入してください。
- 現地手配のアンカーボルトを前項のサービススペースとの位置関係に留意して強固に設置してください。

アンカーボルトサイズ

P224・P280・P450・P560・P265-F・P335-F・P530-F・P670-F形： 8 (M8ネジ)

P670・P800・P1000-F形： 10 (M10ネジ)

P1120・P1400・P1600・P1250-F・P1600-F形： 16 (M16ネジ)

- 室内ユニットは必ず水平に据付けてください。傾斜して据付けますと、本体の重心が中央にあたるため倒れるおそれがあります。また、ドレン漏れ等の事故に至る場合がありますので、必ず水平に据付けてください。

### ⚠ 警告

本体が必ず水平になるように、据付けてください。

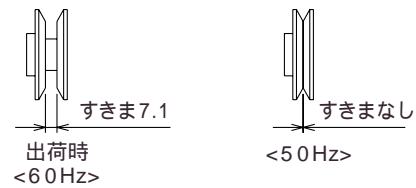
#### 電動機プーリの調整

P224・P280・P265-F・P335-F形の場合のみ

標準機外静圧の場合、電動機プーリ(可変プーリ)は60Hz地区用にセットしています。

50Hz地区で使用する場合は、電動機プーリを右記寸法に調節してください。

(調節方法は(2)プーリおよびベルトについてのお願いを参照ください。)



#### ダクト接続時のお願い

- ダクトの接続には、ユニットとダクトの間にキャンバスダクトを入れてください。
- ダクトの部品には不燃材料を使用してください。
- ダクトおよびフランジには十分な断熱・防音を行ってください。
- アルミ製フレキシブルダクト等の軽い材料のご使用はダクト振動により騒音が出る場合がありますので、避けてください。
- 吸込ダクト接続する場合には、冷媒配管～ドレン配管のパネル貫通部をシール材(現地手配)にてシールしてください。

#### 別売プレナムチャンバ使用時

P224～P800形の場合のみ(オールフレッシュ用は取付けできません)

本機は、ダクトタイプの機種であり別売プレナムチャンバ使用時は、プーリの変更、調節が必要です。

- 別売プレナムチャンバの接続は、別売部品に付属の説明書に従い据付けてください。

#### 本体前面の前上パネル取外し時のご注意

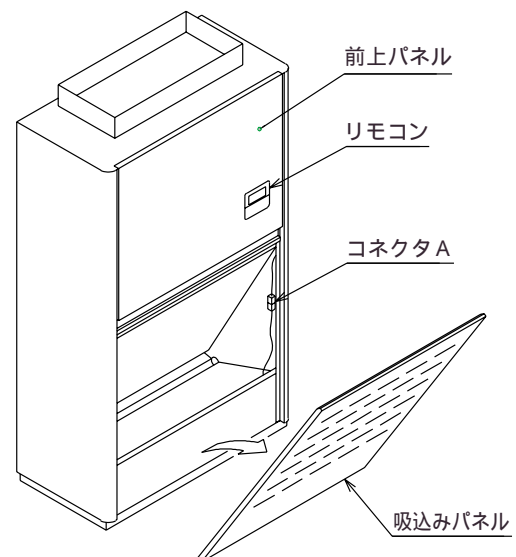
P224～P560・P265～P670-F形の場合のみ

プーリおよびベルトの調整や交換、別売部品の組み込み等で、前上パネル(リモコン埋め込みパネル)を取外す時は、パネルを取外す前に、リモコンへの配線を外す必要があります。

必ず、下記手順にて実施してください。

- (1) 本体下側の吸い込みパネルを手前に引いて外してください。
- (2) 右図に示すリモコン配線のコネクタAを抜いてください。  
このコネクタは、必ず抜いてください。抜かずに前上パネルを外すと、リモコン配線を破損する恐れがあります。
- (3) 前上パネルの固体ネジ2本を外して、パネル下側を手前に開き、リモコン配線(コネクタA)を上引き出してください。
- (4) 前上パネルを上を持ち上げて取外してください。

外したパネルを地面などに下ろす場合、地面との間に配線やコネクタを挟まないように注意してください。



## (2) プーリおよびベルトについてのお願い

可変プーリの調節方法 ( P224・P280・P265-F・P335-F形のみ)

下記の調節方法に従って可変プーリのPC を調節してください。

プーリ本体とスライドピースを固定している止めネジをゆるめます。

スライドピースを左側にまわし、プーリ本体との隙間を0mmにしてください。

表1にて希望のPC に最も近いPC にスライドピースのまわし回転数を合わせます。

止めネジによりプーリ本体とスライドピースを固定します。(締付トルク：13.5N・m)

止めネジはプーリ本体のネジのない部分のV溝に挿入して固定します。

止めネジのはずれ防止のためネジロック(現地手配)をネジに塗布してください。(ネジロック：ThreeBond 1401C 相当品)

試運転を行いプーリのゆるみなど問題のないことを確認してください。なお、試運転終了後にスライドピースの止めネジにゆるみがないことを確認してください。

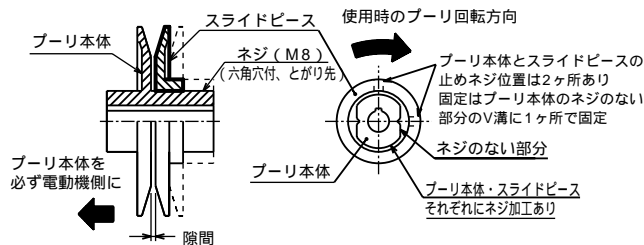
注、希望回転数が送風機性能線図の使用範囲内であることを確認してください。(使用範囲外では送風機の過電流継電器が作動します。)

**△ 注意**

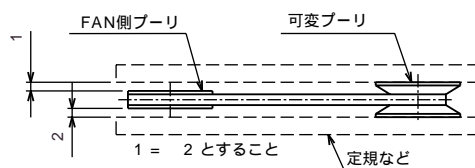
注1. プーリ本体が必ず電動機側になるように使用してください。  
(スライドピースを電動機側にして使用しないでください。) 図1参照

2. 可変プーリの調節の行った後は、必ず平行度(心出し)の調節を行ってください。  
(可変プーリはV溝の隙間が可変するため平行度(心出し)の調節は図2のように定規等を当てて左右の隙間が同じになるようにしてください。)

3. 表1の隙間は参考値ですので、可変プーリのPC はスライドピースのまわし回転数であわせてください。



(図1) 可変プーリ



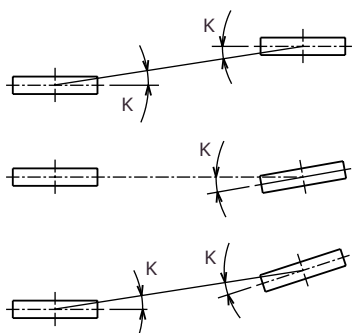
(図2) 可変プーリ使用時の平行度の調節

(表1) 可変プーリPC 一覧表

スライドピースのまわし回転数	0	1/4	1/2	3/4	1	1・1/4	1・1/2	1・3/4	2	2・1/4	2・1/2	2・3/4	3	3・1/4	3・1/2	3・3/4	4	4・1/4	4・1/2	4・3/4
隙間 (mm)	(0)	(0.4)	(0.8)	(1.1)	(1.5)	(1.9)	(2.3)	(2.6)	(3.0)	(3.4)	(3.8)	(4.1)	(4.5)	(4.9)	(5.3)	(5.6)	(6.0)	(6.4)	(6.8)	(7.1)
1.5kWモータ用可変プーリPC	140.0	138.8	137.5	136.3	135.1	133.9	132.6	131.4	130.2	129.0	127.7	126.5	125.3	124.1	122.8	121.6	120.4	119.1	117.9	116.7
2.2kWモータ用可変プーリPC	150.0	148.8	147.5	146.3	145.1	143.9	142.6	141.4	140.2	139.0	137.7	136.5	135.3	134.1	132.8	131.6	130.4	129.1	127.9	126.7

## プーリの平行度・ベルト張りについて

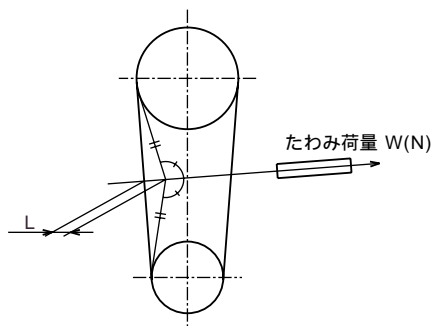
- (1) ファンプーリと電動機プーリの平行度は、図3・表2の内容を満足するようにセットしてください。
- (2) ベルトの一本当りの張力はたわみ量Lの値を右式にて計算し、 $L=0.016 \times C$  C:プーリの軸間距離(mm)その時のたわみ荷重Wが表3の範囲内になるようにセットしてください。
- (3) ベルトがプーリになじんだ後（運転後24～28時間以後）ベルトの緩みがないか確認し、緩みがある場合には(2)項の適正張りに調整するようにしてください。また、新しいベルトの場合は、たわみ荷重Wの最大値の約1.3倍程度に調整するようにしてください。
- (4) (3)項の初期のび調整の後、2000時間ごとに張り再調整を行ってください。  
[ベルトは初期のび（約1%）を含め、ベルト周長が2%のびた時点が寿命です。（運転時間で約8000時間）]



(図3)プーリの平行度

(表2) プーリ同士の平行度

プーリ	平行度 K(分)	備考
鑄鉄製プーリ	10以下	1m当り3mmのずれに相当



(図4)ベルトの張力

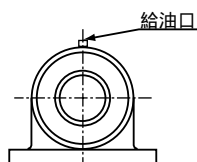
(表3) Vベルトのたわみ荷重

	Vベルトの種類	
	モータプーリ径(mm)	たわみ荷重W(N)
A形	106～	19～24
B形	160以下	27～34
	161～	29～37
C形	175～205	40～52
	206～255	48～62
	256～	56～72

送風機軸受について（ P670～P1600・P1000～P1600-F形のみ）

送風機軸受は、2000時間ごとにグリスの給油が必要です。グリスの給油は軸受に設けられた給油口（図5）よりグリスガンにて行ってください。

推奨グリス「昭和シェル アルバニアNo.3」を使ってください。



(図5)軸受

# 配管設計

## 1.冷媒配管の選定

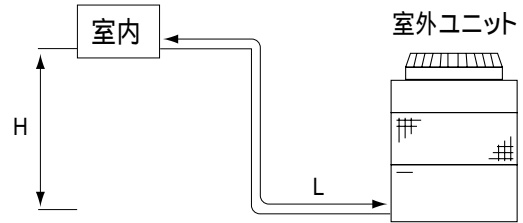
### 配管の制限

室外ユニット形名	配管サイズ		配管実長 L 最遠実長 (室内~室外間)	高低差 H 最大高低差 室内~室外
	ガス側	液側		
P224形	25.4	12.7	120m (相当長125m)	40m
P280形	28.58			
P335形	31.75			
P450形	31.75			
P560形	58.1			

冷房の場合、外気温により異なります。

室外ユニットが上:40m

室外ユニットが下:40m(外気0 以上)~15m(外気0 ~-5 )



## 2.冷媒配管工事

### (1)冷媒追加充填量の算出方法

冷媒は工場出荷時、室外ユニットに下表の値を封入していますが、延長配管分(現地配管)は含まれていませんので、現地にて追加充填して下さい。

室外ユニット形名	P224	P280	P335
冷媒封入量	9.0kg	11.5kg	11.5kg

室外ユニット形名	P450	P560
冷媒封入量	16.0kg	22.0kg

#### 計算式

追加充填量は、延長配管の液管サイズとその長さ(単位:m)で算出します。

$$\text{追加充填量 (kg)} = A \times L +$$

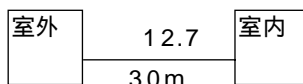
A	液管 15.88のとき0.25
	液管 12.7のとき0.12
	液管 9.52のとき0.06
	液管 6.35のとき0.024

L: 液管の長さ  
: 右表参照

\* 計算結果で、0.01kg以下の端数は切り上げて下さい  
(例18.54kg 18.6kg)

接続室内ユニット合計容量		
P224・P280・P265-F・P335-F		1.0kg
P450・P560・P530-F・P670-F		2.0kg
P670	No.1, No.2	1.5kg
P800・P1000-F	No.1	2.0kg
	No.2	1.0kg
P1120・P1250-F		No.1, No.2 2.0kg
P1400・P1600-F	No.1	1.0kg
	No.2, No.3	2.0kg
P1600		No.1 ~ No.3 2.0kg

例 PFHV-P280M-A (室外:PUHV-P280M-A,室内:PFV-P280M-A)



液管サイズ: 12.7なので、配管長: 30mのとき、  
上記計算式より

$$\text{追加充てん量} = 0.12 \times 30 + 1.0 = 4.6\text{kg}$$

したがって、

$$\text{追加充てん量} = 4.6\text{kg} \text{ となります。}$$

### 注意

液冷媒にて封入してください。

- ガス冷媒で封入するとポンペ内冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

## (2)配管接続、バルブ操作のご注意 室外ユニット

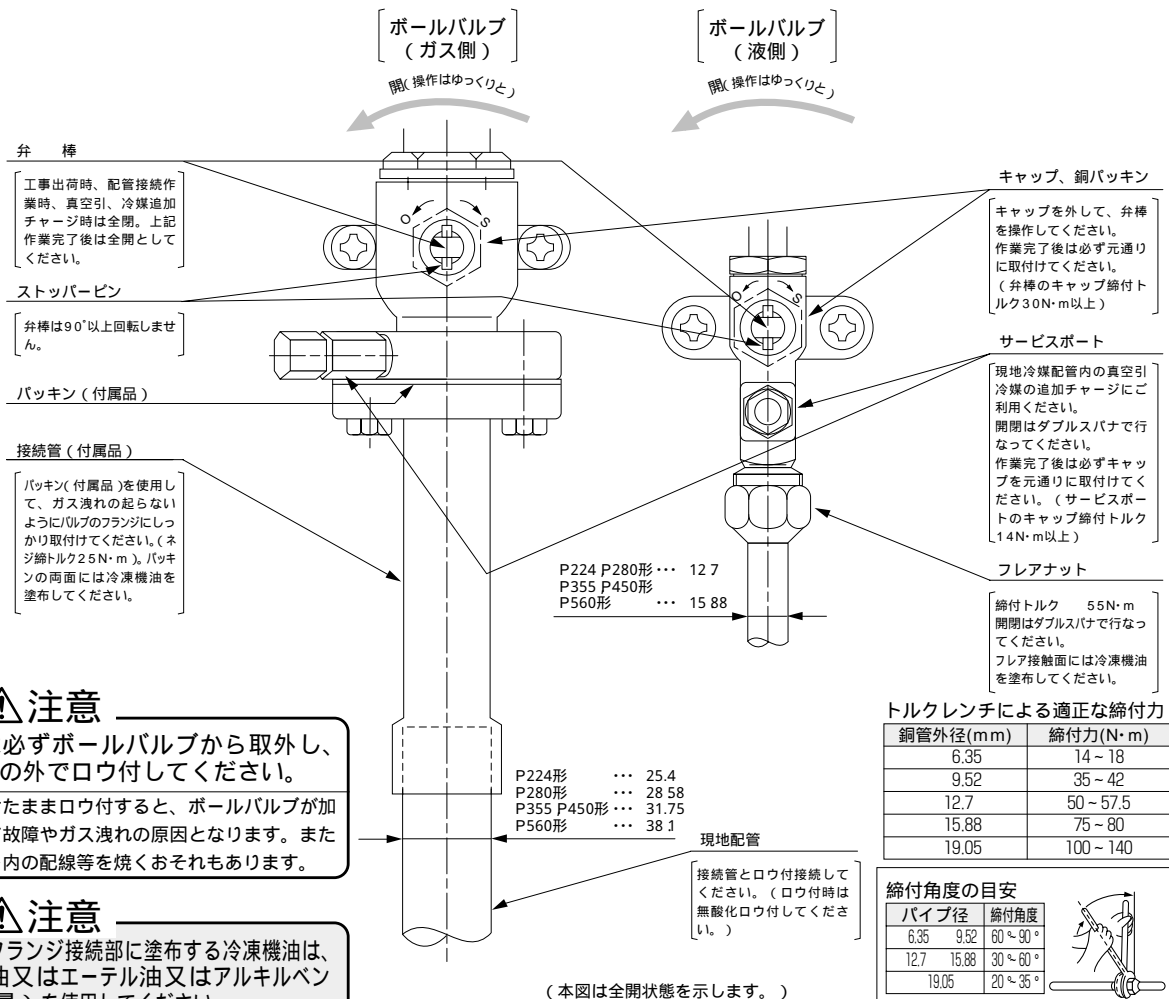
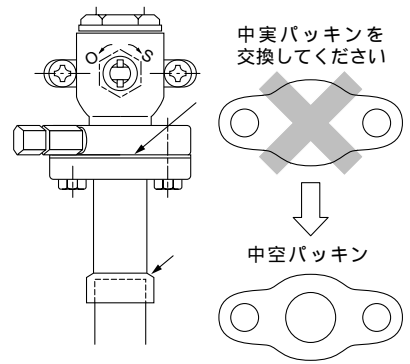
- 配管接続、バルブ操作は下図にしたがって確実に行ってください。
- ガス側接続管は組付けて出荷しています。(右図参照)

フランジ付接続管へのロウ付の際には、フランジ付接続管をボールバルブから取り外し、ユニットの外部にてロウ付してください。フランジ付き接続管を取り外している間、ボールバルブ内へのゴミの侵入を防止するため、チュウイフダの裏面に貼り付けているシールを剥がして、ボールバルブのフランジ面に貼付けてください。出荷時には、フランジ間にガス漏れ防止のため中実のパッキンを入れて冷媒回路を遮断しています。

このままの状態では運転できませんので、配管接続に際しては必ず付属の中実パッキンと交換してください。

中空パッキン取付けに際しては、フランジのシート面、及びパッキンにゴミ等の付着がないように拭き取ってください。パッキンの両面には冷凍機油(エステル油又はエーテル油又はアルキルベンゼン〔少量〕)を塗布してください。

- 真空引き、冷媒チャージ後は必ず、ハンドルを全開状態にしてください。バルブを閉めたまま運転しますと冷媒回路高圧側または低圧側が異常圧力となり、圧縮機、四方弁等の損傷を招きます。
- 計算式により、追加冷媒量を決定し、配管接続作業完了後にサービスポートから追加チャージを行ってください。
- 作業完了後、サービスポート及びキャップはガス漏れの起らないようしっかり締付けてください。



### ⚠注意

接続管は必ずボールバルブから取外し、ユニットの外でロウ付してください。

- 取りつけたままロウ付すると、ボールバルブが加熱されて故障やガス洩れの原因となります。またユニット内の配線等を焼くおそれもあります。

### ⚠注意

フレア・フランジ接続部に塗布する冷凍機油は、エステル油又はエーテル油又はアルキルベンゼン(少量)を使用してください。

- 鉛油が多量に混入すると、冷凍機油劣化の原因となります。

(本図は全開状態を示します。)

トルクレンチが無い場合、次の方法を目安にします。フレアナットをスパナで締付けて行くと締付トルクが急に増すときがあるのでそこで一度とめてそれから更に上表の角度だけ回転させます。

### (3)冷媒配管・ドレン配管仕様

冷媒配管・ドレン配管とも露タレを防止するため、十分な防露断熱工事を施工してください。  
市販の冷媒配管を使用の場合には、液管・ガス管ともに必ず市販の断熱材（耐熱温度100 以上・厚さ、下表による）を巻いてください。室内を通るドレン配管は、必ず市販の断熱材（発泡ポリエチレン比重0.03・厚さ、下表による）を巻いてください。  
断熱材の厚さは、配管サイズにより選定してください。

配管サイズ	断熱材の厚さ
6.4mm ~ 25.4mm	10mm以上
28.6mm ~ 38.1mm	15mm以上

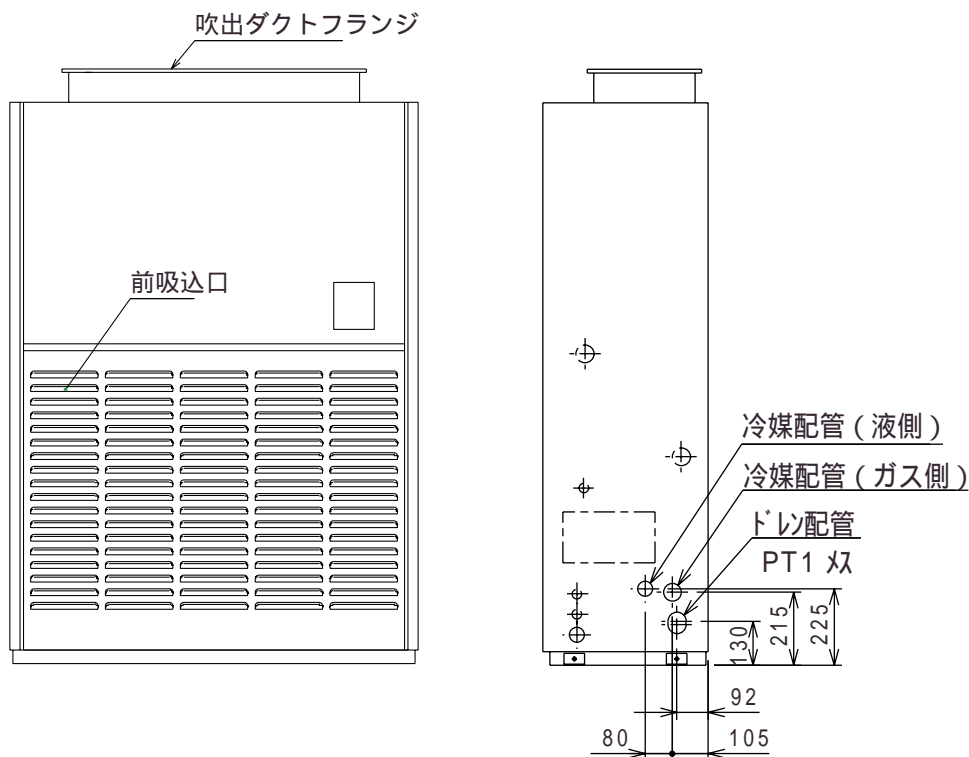
最上階又は高温多湿の条件下で使用する場合は、上記の厚さ以上にする必要があります。  
客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。

#### 冷媒配管・ドレン配管のサイズと位置

P224・P280・P265-F・P335-F形の場合

項目	形名	P224・P265-F形	P280・P335-F形
		冷媒配管	
	液管	12.7	12.7
	ガス管	25.4	28.6
ドレン配管		1Bオネジ接続 34 鋼管, VP25	

塩ビ管接続の場合、接続用ソケットは現地手配願います。



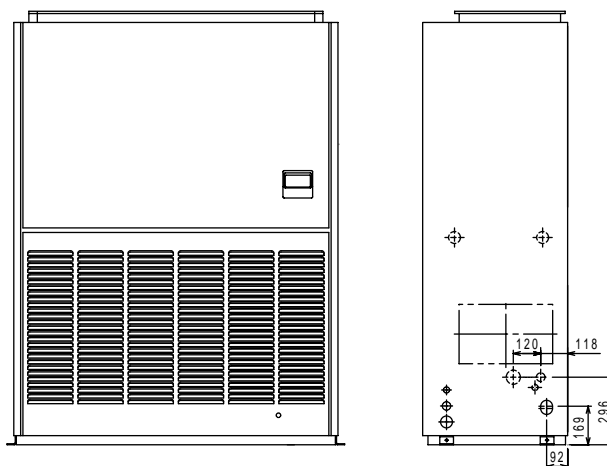
左配管取出しにする場合は、別売「左配管部品 PAC-CJ85RP」が必要です。  
配管位置は左右同じ位置です。

オ - ルフレッシュ用は後吸込フランジ仕様となりますので前吸込口はありません。

P450・P560・P530-F・P670-F形の場合

項目	形名	P450・P530-F形	P560・P670-F形
冷媒配管	液管	15.88	15.88
	ガス管	31.75	38.1
ドレン配管		1 $\frac{1}{4}$ Bオネジ接続 42.7鋼管, VP30	

塩ビ管接続の場合、接続用ソケットは現地手配願います。



配管接続は、左・右可能です。(左右同じ位置です。)

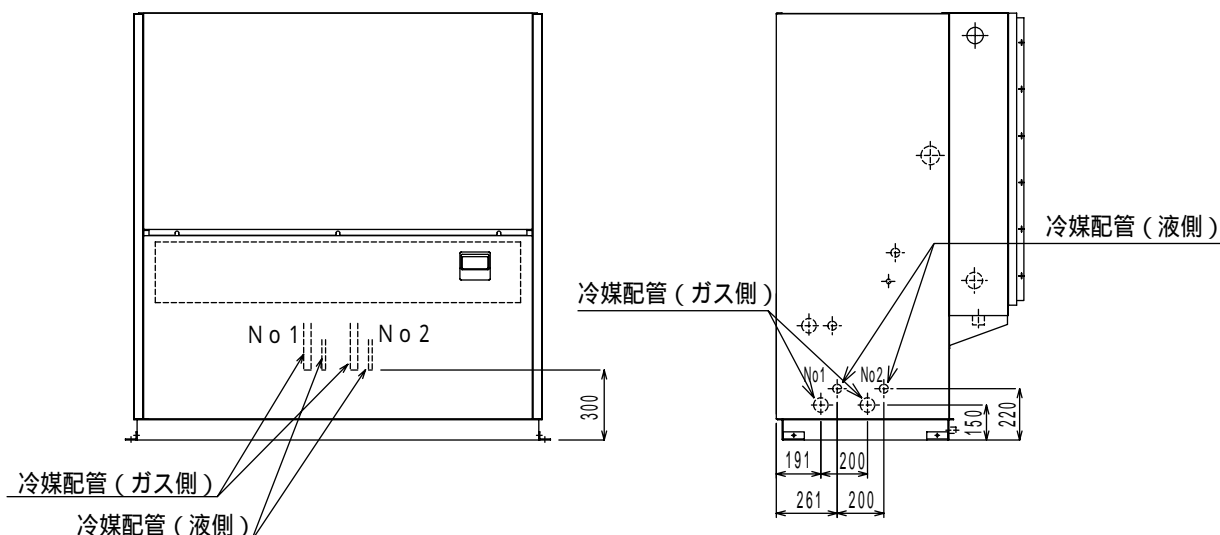
但し、別売加湿器(透湿膜除く)を組込んで右配管する場合は、別売右配管部品(加湿器組込用)が必要になります。オ・ルフレッシュ用は後吸込フランジ仕様となりますので前吸込口はありません。

P670・P800・P1000-F形の場合

本室内ユニットには、室外ユニットからガス・液それぞれ2本ずつ接続する冷媒回路方式となっています。室外ユニット側の据付説明書を参考にして2冷媒回路におけるガス・液管の誤接続がないように注意してください。

項目	形名	P670形	P800・P1000-F形
冷媒配管	液管	15.88 (口付 $\chi$ No.1, No.2)	15.88/ 12.7 (口付 $\chi$ No.1/No.2)
	ガス管	31.75 (口付 $\chi$ No.1, No.2)	38.1/ 25.4 (口付 $\chi$ No.1/No.2)
ドレン配管		上部: 1 $\frac{1}{4}$ Bメス 下部: 1Bメス	上部: 1 $\frac{1}{4}$ Bメス 下部: 1Bメス

塩ビ管接続の場合、接続用ソケットは現地手配願います。



配管接続は、左・右及び背面から可能です。

P1120・P1400・P1600・P1250-F・P1600-F形の場合

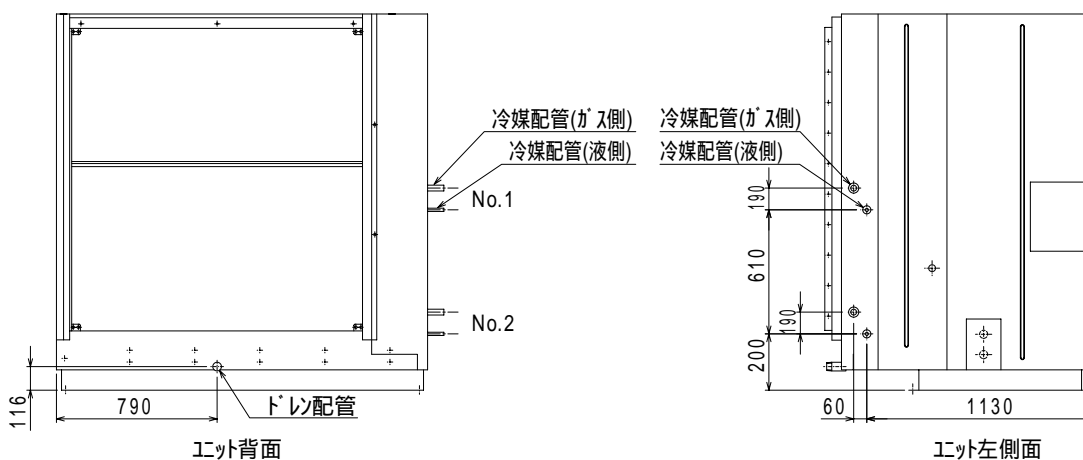
本室内ユニットには、室外ユニットからガス・液それぞれ3本ずつ(P1120形は2本ずつ)接続する冷媒回路方式となっています。

室外ユニット側の据付説明書を参考にして3冷媒回路(P1120形は2冷媒回路)におけるガス・液管の誤接続がないように注意してください。

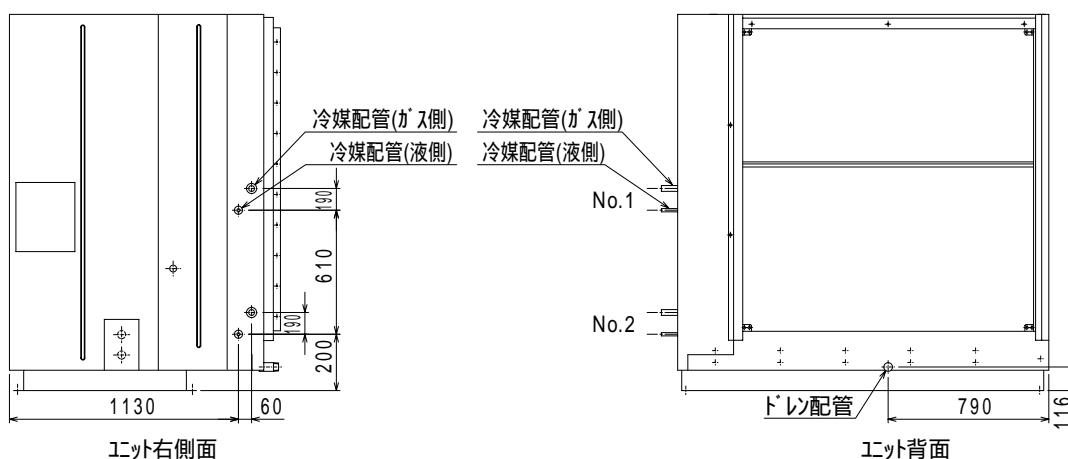
項目	形名	P1120・P1250-F形	P1400・P1600-F形	P1600形
冷媒配管	液管	15.88 (ロウ付)×2	No1: 12.7(ロウ付)×1、No2,3: 15.88(ロウ付)×2	15.88 (ロウ付)×3
	ガス管	38.1 (ロウ付)×2	No1: 25.4(ロウ付)×1、No2,3: 15.88(ロウ付)×2	38.1 (ロウ付)×3
ドレン配管		PT1 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> オネジ接続 42.7鋼管		

塩ビ管接続の場合、接続用ソケットは現地手配願います。

PFAV-P1120M-A-L・P1250M-A-F-Lの場合

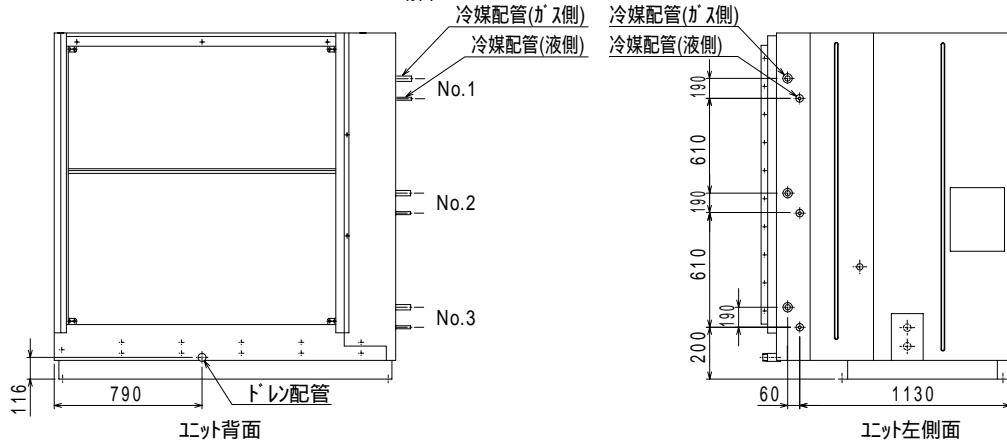


PFAV-P1120M-A-R・P1250M-A-F-Rの場合

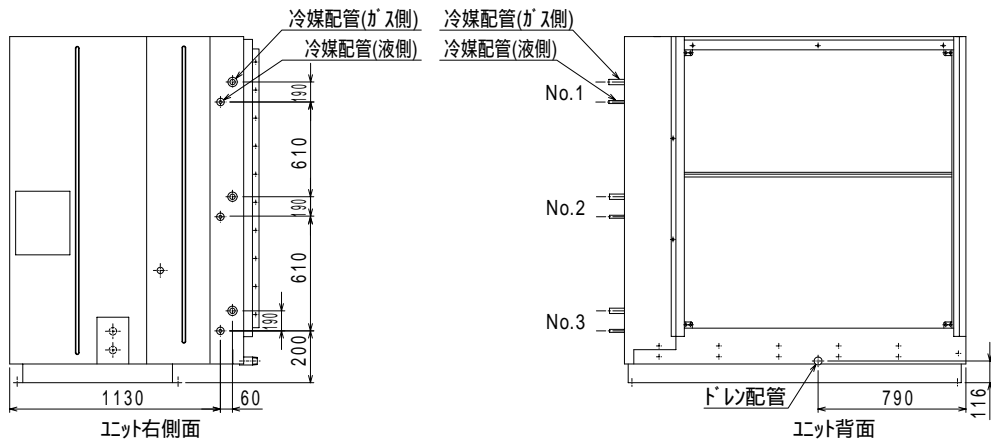




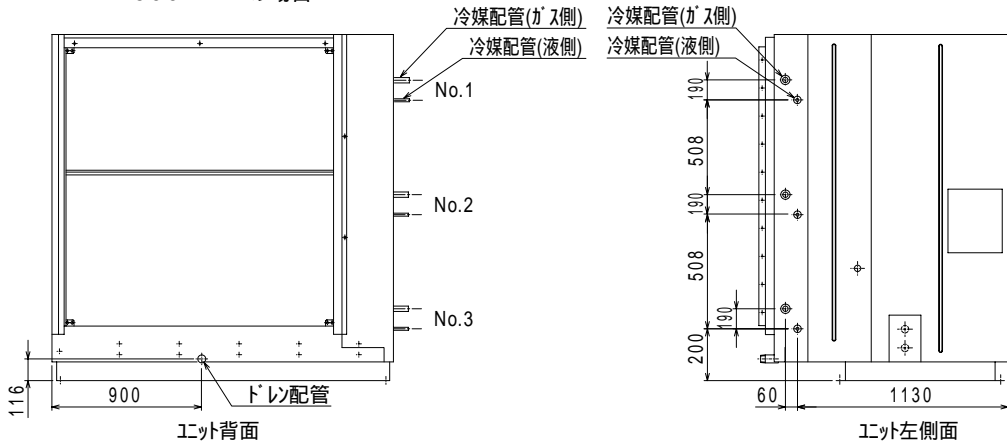
PFAV-P1400M-A-L・P1600M-A-F-Lの場合



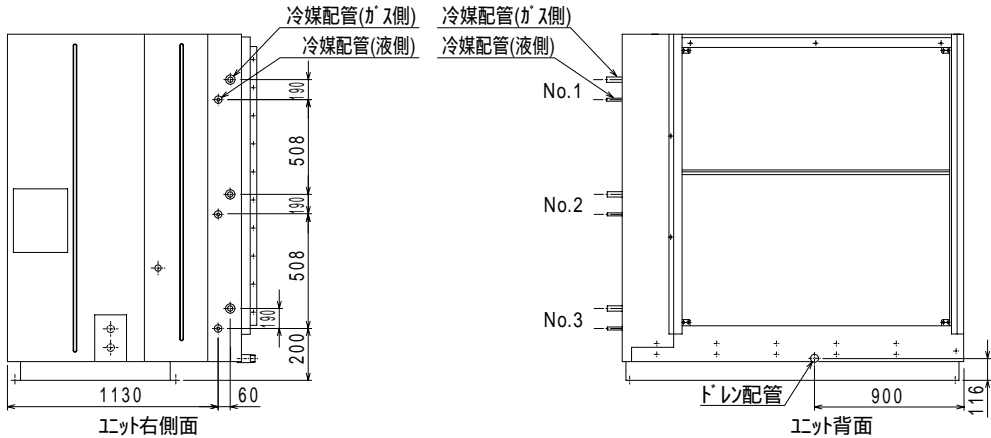
PFAV-P1400M-A-R・P1600M-A-F-Rの場合



PFAV-P1600M-A-Lの場合



PFAV-P1600M-A-Rの場合



#### (4)冷媒配管・ドレン配管の接続

##### 冷媒配管工事

本工事を実施する場合は、必ず室外ユニットの据付工事説明書と照らし合わせて行ってください。

- 配管長さ、許容高低差等の制限は、室外ユニットの説明書を参照してください。

##### 冷媒配管注意事項

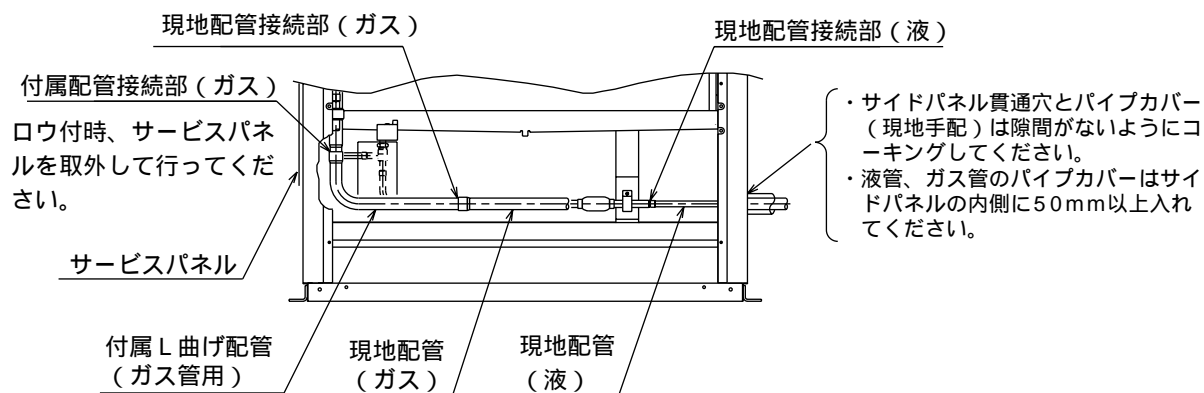
- ロウ付は必ず無酸化ロウ付を行い、配管内に異物、水分が混入しないようにしてください。
- ロウ付作業は必ずフィルタを取外して行ってください。
- 配管ロウ付時、周囲の部材（ゴム、グラスウール、配線など）にトーチの炎を当てないようにご注意ください。

### 警告

据付けや移設の場合は、冷凍サイクル内に指定冷媒（R407C）以外のものを混入させないでください。  
空気などを混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂等の原因になります。

#### P224・P280・P265-F・P335-F形の場合

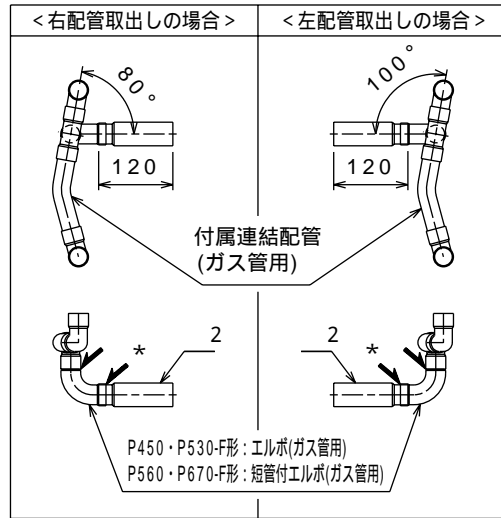
付属のL曲げ配管(ガス管用) を用いて下図に示すようにロウ付接続してください。



P450・P560・P530-F・P670-F形の場合

付属の配管を用いて下記要領にてロウ付接続してください。

- (1) 左側面のサービスパネルを外してください。(ネジ10本)
- (2) <右配管取出しの場合>右側の冷媒配管用ノックアウト穴を打抜いてください。  
<左配管取出しの場合>左側の冷媒配管用ノックアウト穴を打抜いてください。
- (3) 図1に示す通り付属配管(ガス管用)をユニットに接続する前に配管取出し方向に合わせてロウ付け接続し、組立ててください。
- (4) 図2に示す通りガス管接続部及びエキ管接続部のキャップ配管を左側面サービス点検口及び、前面から取外してください。
- (5) 図3・図4に示す通り付属配管、現地配管を左側面サービス点検口及び、前面からロウ付接続を行なってください。  
注1. 右配管取出しする場合、ロウ付順序は下記の通り実施してください。現地配管接続部(図4) 付属配管接続部(図3)  
注2. 現地配管接続部ロウ付時、周囲の部材にトーチの炎を当てないようにご注意ください。
- (6) 図4に示す通りパイプカバーを取付けてください。



1. 印は現地ロウ付け箇所を示します。  
(但し、\*部はP450・P530-F形のみ)
2. P450・P530-F形の場合、短管は現地手配となります。  
31.75x120mm銅管を接続してください。

図1

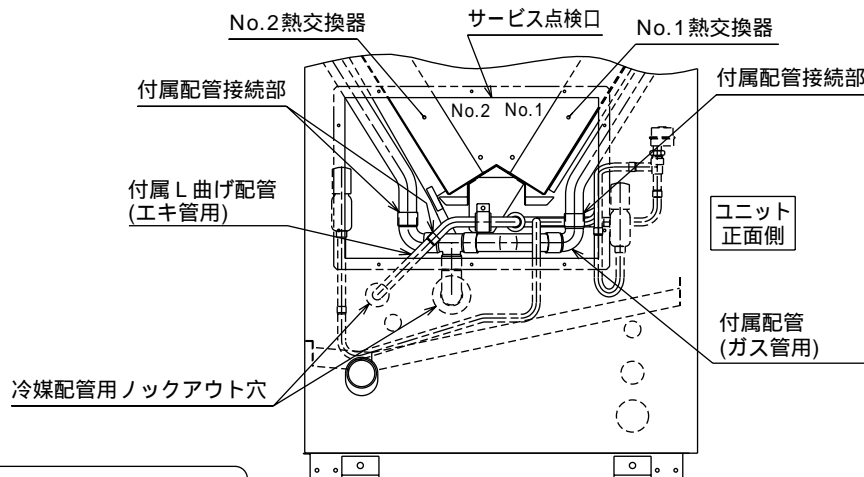
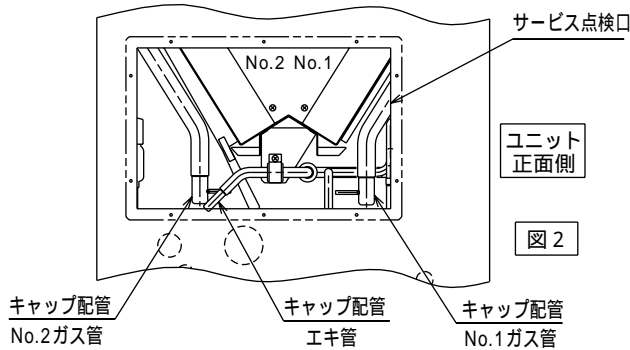


図3 (左側面図)

右配管取出し時のガス管は、前面からの後ろフィルタ脱着時に手が触れる恐れがあるため、本体内直管部の奥までパイプカバーを巻いてください。

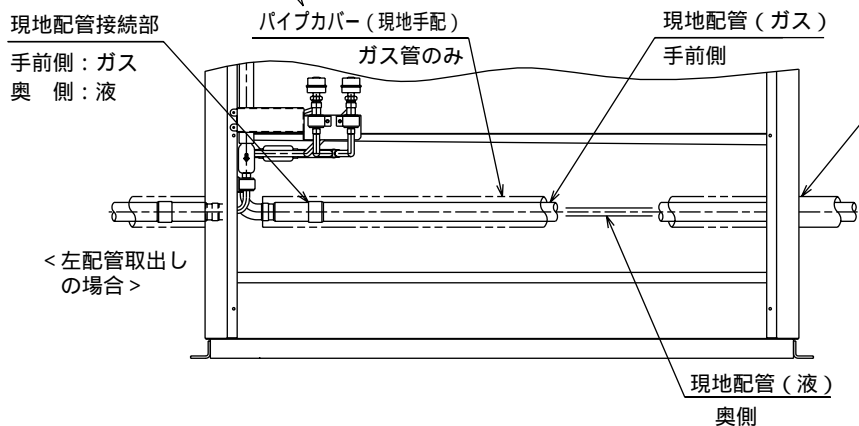
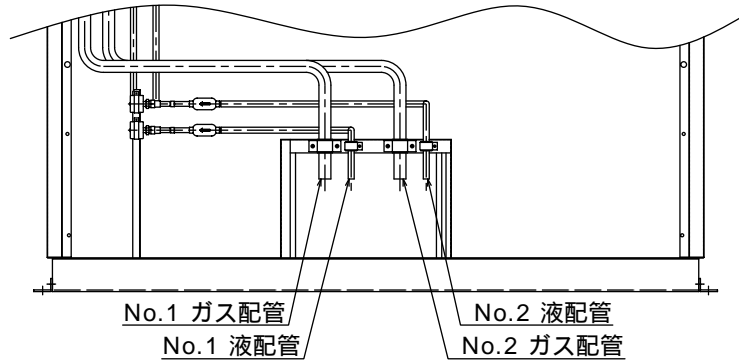


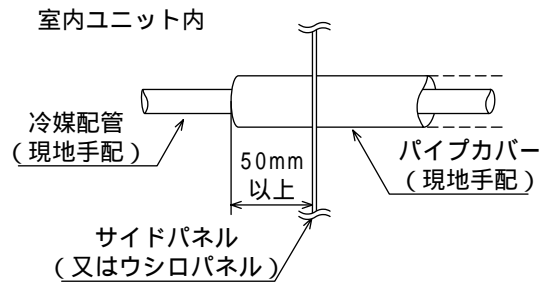
図4 (正面図)

- ・液管、ガス管のパイプカバー(現地手配)はサイドパネルの内側に50mm以上入れてください。(右配管時のガス管は除く)
- ・サイドパネル貫通穴とパイプカバー(現地手配)は隙間がないようにコーキングしてください。
- ・現地配管パイプカバーの中に配管の結露水が浸水しないようにコーキング等の水切り処置をしてください。左配管取出しの場合も同様

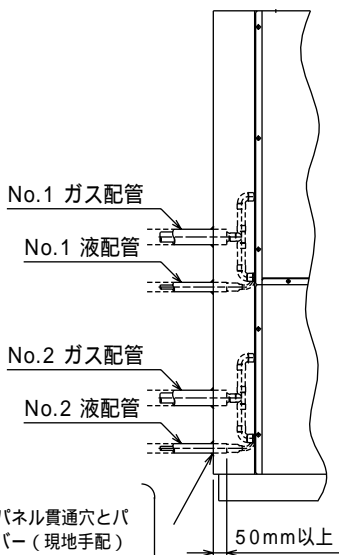
P670・P800・P1000-F形の場合



- 現地配管は室内ユニットの右側面、左側面、後面のいずれからでも取出しできます。
- 液管、ガス管のパイプカバーはサイドパネル（又はウシロパネル）の内側に50mm以上入れてください。（右図）

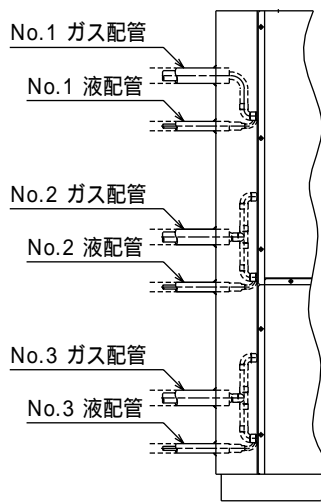


P1120・P1250-F形の場合

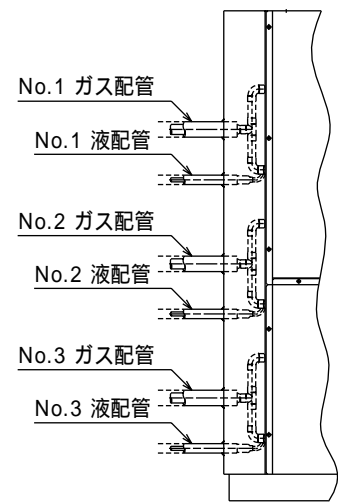


- ・サイドパネル貫通穴とパイプカバー（現場手配）隙間がないようにコーキングしてください。
- ・液管、ガス管のパイプカバーはサイドパネルの内側に50mm以上入れてください。

P1400・P1600-F形の場合



P1600形の場合



## ドレン配管工事

ドレン配管は室外側（排水側）が下り勾配（1/100以上）となるようにしてください。  
ドレン配管の横引きは20m（高低差は含みません）以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には途中で支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくしてください。エアー抜き管は絶対につけないでください。ドレンが吹出場合があります。

塩ビ管を使用する場合、必ず塩ビ系接着剤にて漏れのないように確実に接続してください。

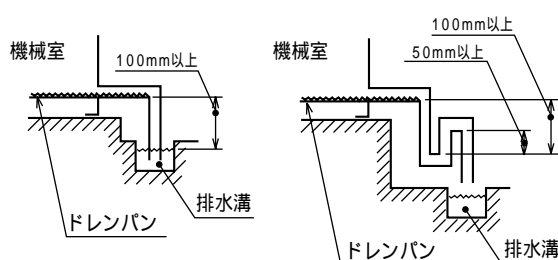
ドレン配管から空気の吸込を防止するため、下図のようなドレントラップを必ず設けてください。

集合配管は、本体ドレン出口より10cm位低い位置に集合配管がくるようにし、かつ集合配管は、VP35（P1120～P1600形はVP40）以上のもので下り勾配が1/100以上になるように施工してください。

ドレン配管はイオウ系ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。

ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。

ドレン排水テストをしてください。ドレンパンにやかん等で注水して排水が確実に行われることを確認してください。



### P224～P560・P265～P670-F形の場合

この機種のドレンパンは出荷時は水平となっていますが、本体側のネジの固定位置を変更して傾斜を設けることが可能です。

傾斜を設ける場合は、下記要領にて作業を行ってください。

必ずユニット据付前に作業してください。

ガードを取外してください。（ネジ3本）

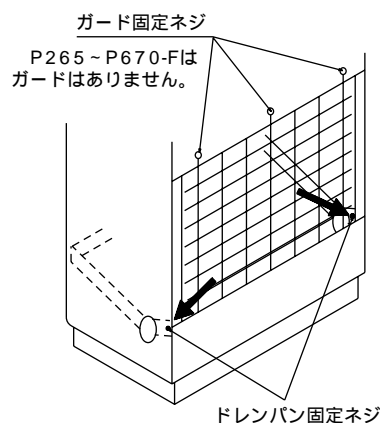
傾斜させたい側のネジを取外してください。（ネジ1本）

ネジを外した側を下方へ移動させてください。（約10mm移動します）

取外したネジを取付けてください。

ガードを元どおりに取付けてください。

注．ドレンパンを傾斜させますと、ユニット本体に接続するドレン管も傾斜します。（約0.5°）



### ⚠ 注意

ドレン配管は、確実に排水するよう配管し、結露が生じないように保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

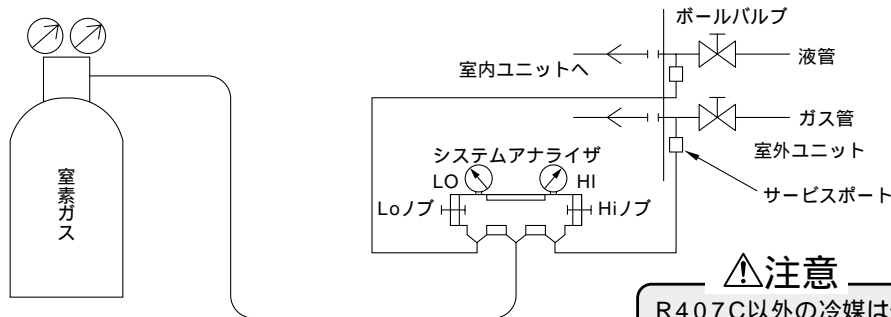
作業時は必ず保護具を着用してください。ケガ等の原因になります。

## (5)気密試験・真空引き・冷媒充填

気密試験と真空引きについては、配管接続完了後に実施してください。

### 気密試験

気密試験は下図のように、室外ユニットのボールバルブを閉じたまま、室外ユニットのボールバルブについているサービスポートから接続配管と室内ユニットに加圧して行います。(必ず、液管・ガス管の両方のサービスポートより加圧してください。)



### ⚠注意

R407C以外の冷媒は使用しないでください。

- R407C以外 (R22等) を使用すると、塩素により冷凍機油劣化等の原因になります。

気密試験のやり方は従来機と基本的に同じですが、冷凍機油劣化への影響が大きいため下記の制約事項を必ず遵守してください。また、非共沸混合冷媒 ( R407C 等) はガス漏れにより組成変化が生じ、性能に影響しますので、気密試験は慎重に実施してください。

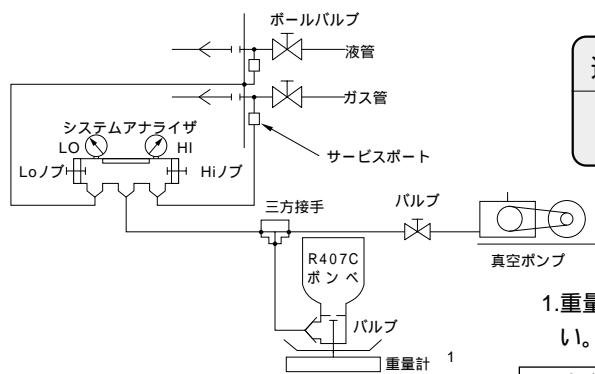
気密試験の手順	制約事項
<p><b>1.窒素ガス加圧の場合</b></p> <p>(1)窒素ガスにて設計圧力(2.98MPa)に加圧後、1日程度放置し、圧力が低下していなければ良好です。 但し、圧力が低下している場合、漏れ箇所は不明なので次の泡式で行うことができます。</p> <p>(2)上記加圧後、フレア接続部・ロウ付部・フランジ部等漏れが予想されるすべての箇所に泡剤(キューボフレックスなど)をスプレーし、泡の発生を目視確認ください。</p> <p>(3)気密試験後、泡剤をよく拭きとってください。</p>	<p>×加圧ガスに可燃ガスや空気(酸素)を使用すると爆発の危険があります。</p>
<p><b>2.冷媒ガスと窒素ガスで加圧の場合</b></p> <p>(1)ポンベよりR407Cを液で封入し、ガス圧力で約0.2MPa程度に加圧後、窒素ガスにて設計圧力(2.98MPa)に加圧する。 但し、一気に加圧しないで、途中加圧を停止し、圧力低下のないことを確認ください。</p> <p>(2)R407C対応の電気式リークディテクタでフレア接続部・ロウ付部・フランジ部等漏れが予想されるすべての箇所のガス漏洩を検査する。</p> <p>(3)泡式のガス漏洩検査と併用しても良い。</p>	<p>×機器に表示されている冷媒以外は、使用不可です。</p> <p>×ポンベよりガスで封入するとボンベ内冷媒の組成が変化します。</p> <p>×圧力計・チャージングホース等の部品はR407C専用のものを使用してください。</p> <p>×R22用電気式リークディテクタでは、漏洩検知できません。</p> <p>×炎色式(ハライドトーチ)は使用不可です。(検出不可能)</p>

## 真空引き

真空引きは、下図のように、室外ユニットのボールバルブを閉じたまま、室外ユニットのボールバルブについているサービスポートから接続配管と室内ユニット共真空ポンプにて実施してください。(必ず、液管・ガス管の両方のサービスポートから行ってください。)

真空度が650Paに到達後、1時間以上真空引きをしてください。その後、真空ポンプを止めて1時間放置し、真空度が上昇していないことを確認してください。(真空度の上昇幅が130Paより大きい場合は、水分が混入している可能性がありますので、乾燥窒素ガスを0.05MPaまで加圧して、再度真空引きを実施してください。)最後に、液管から液冷媒にて封入してください。また、運転時に冷媒が適正量になるようガス管から冷媒量調整をしてください。

冷媒によるエアバージは、絶対に行なわないでください。



### ⚠注意

逆流防止器付真空ポンプを使用してください。

- 冷媒回路内に真空ポンプ油が逆流し、機器の冷凍油劣化等の原因になります。

1.重量計は精度の高いもの(0.1kgまで測定可能なもの)を使用してください。

2.真空ポンプは逆流防止器付のものを使用してください。  
(推奨真空度計 ROBINAIR 14010 Thermistor Vacuum Gauge.)  
また、真空ポンプは、5分運転後で65Pa[abs]以下のものを使用してください。

(注)・冷媒は必ず適正量を追加してください。(冷媒追加量については11ページをご覧ください。)また、必ず液冷媒にて封入してください。

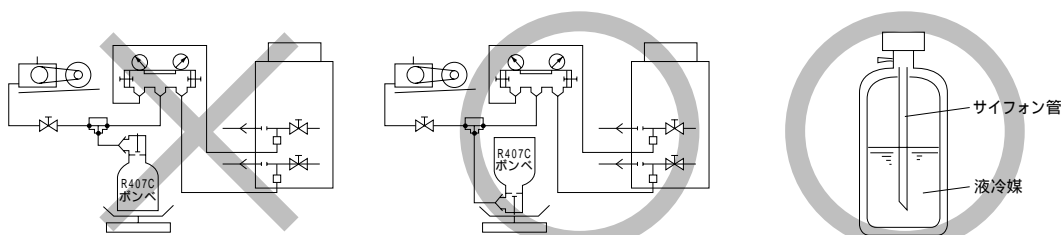
冷媒は多くても少なくてもトラブルの原因になります。

- ・ゲージマニホールド、チャージングホース等の部品は機器に表示されている冷媒専用のものを使用してください。

## 冷媒充填

機器に使用しています冷媒は、非共沸混合冷媒のため充填に関しては液の状態で行なう必要があります。よって、ポンベより機器に冷媒充填するときに、サイフォン管が付いていないポンベの場合は下図のようにポンベを逆さにして充填します。なお、右下図のようなサイフォン管付きポンベの場合は、立てたまま液冷媒を充填することができますので、ポンベの仕様には注意してください。

万一、ガスの状態で冷媒充填した場合、機器は新しい冷媒に入替え、冷媒の残ったポンベは使用しないでください。



【サイフォン管が付いていないポンベの場合】

【サイフォン管付きポンベの場合(立てたまま液冷媒を充填できる)】

### ⚠警告

据付けや移設の場合は、機器に表示されている冷媒(R407C)以外の異なった冷媒を入れないでください。

- 異なった冷媒や空気等が混入すると、冷凍サイクルが異常となり、破裂等の原因になります。

### ⚠注意

チャージングシリンダを使用しないでください。

- チャージングシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

### ⚠注意

工具類の管理は従来以上に注意してください。

- 冷媒回路内にほこり、ゴミ、水分等が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。

### ⚠注意

従来の冷媒に使用している下記に示す工具類は使用しないでください。

(ゲージマニホールド・チャージホース・ガス洩れ検知器・逆流防止器・冷媒チャージ用口金・冷媒回収装置)

- 従来の冷媒・冷凍機油が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。
- 水分が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。
- 冷媒中に塩素を含まないため、従来の冷媒用ガス洩れ検知器では反応しません。

#### 既設配管対応

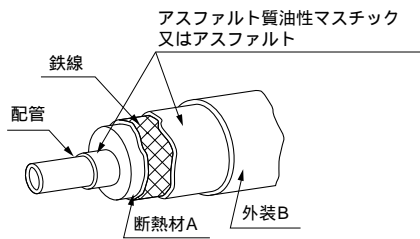
本ユニットは、既設配管を流用することはできません。

既設の配管内部には、従来の冷凍機油や冷媒中の塩素が多量に含まれ、これらの物質が新しい機器の冷凍機油劣化等の原因になります。



(6)冷媒配管の断熱

冷媒配管の断熱は、必ず液管とガス管とを別々に十分な厚さの耐熱ポリエチレンフォームで、室内ユニットと断熱材及び断熱材間の継目に隙間のない様に行ってください。  
断熱工事が不完全だと露タレ等が発生することがありますので、特に天井裏内の断熱工事は注意が必要です。



断熱材 A	グラスファイバー + 鉄線	
	接着剤 + 耐熱ポリエチレンフォーム + 圧着テープ	
外装 B	屋 内	ビニルテープ
	床下露出	防水麻布 + ブロンズアスファルト
	屋 外	防水麻布 + アエン鉄板 + 油性ペイント

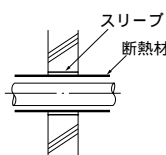
(注) 被覆材にポリエチレンカバーを使用する場合は、アスファルトルーフィングは不要です。

悪い例	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガス管と液管を同時に断熱してはならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 接続部も十分断熱すること。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 良い例</li> </ul>	

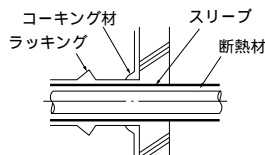
(注) 電線の断熱処理は、行わないでください。

貫通部

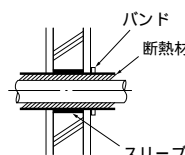
○内壁 (いんべい)



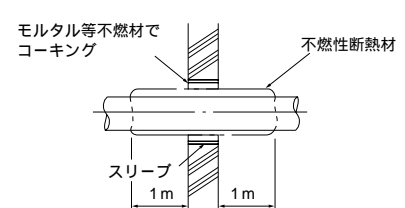
○外壁



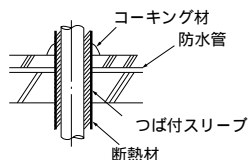
○外壁 (露出)



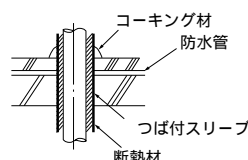
○防火区画、界壁等における貫通部



○床 (防水)



○屋上パイプシャフト



モルタルにてすき間を充填する場合は、貫通部を鋼板にて被覆し断熱材がへこまないようにしてください。またその部分は不燃性断熱材を使用し、被覆材も不燃性(ビニルテープ巻きはダメ)を使用してください。

● 現地配管の断熱材は、下表の規格を満足していることを確認してください。

	配管サイズ	
	6.35 ~ 25.4mm	28.58 ~ 38.1mm
厚さ	10mm以上	15mm以上
耐熱温度	100℃以上	

最上階など高温多湿の条件下で使用する場合は、左表以上の厚さが必要となる場合があります。客先指定の仕様がある場合は、左表の規格を満足する範囲でそれに従ってください。

# 配線設計

## 1. 注意事項

「電気設備に関する技術基準を定める省令」、「内線規程」および、事前に、各電力会社のご指導に従ってください。

### ⚠ 警告

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路に容量不足や施工不備があると、ユニットが正常運転できなくなったり、最悪の場合、感電、発煙、発火等の原因になります。

ユニット外部では制御用配線が電源配線の電気ノイズを受けないよう離して（5cm以上）施設してください。（同一電線管に入れないでください。）

室外ユニットには、D種接地工事を必ず実施してください。

### ⚠ 注意

室外ユニット側で確実にアースを行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電、発煙、発火及びノイズによる誤動作の原因になります。

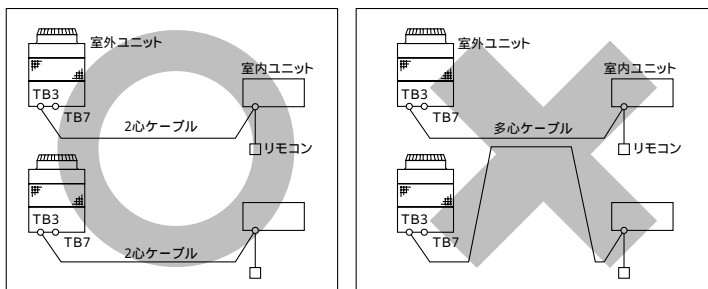
室内ユニット、室外ユニットの電気品箱はサービス時取りはずす事がありますので、配線は必ず取りはずす為の余裕を設けてください。

制御配線用端子台には、200V電源を絶対に接続しないでください。万一接続すると電子部品が焼損します。

制御用配線は、2心線をご使用ください。（下図○印）

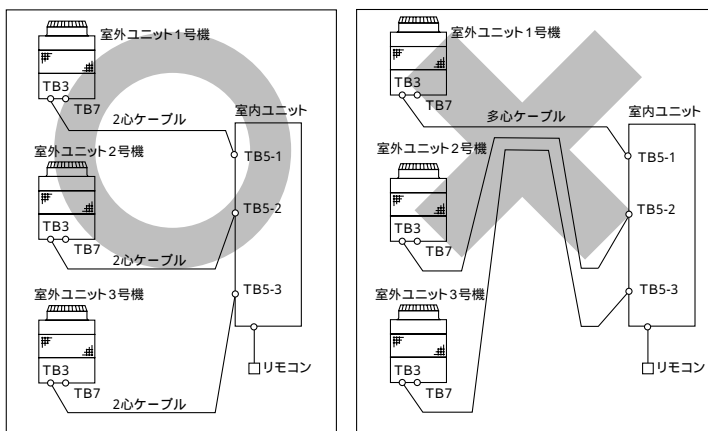
系統の異なる制御配線を多心の同一ケーブルを使用して配線しますと伝送信号の送・受信が正常にできなくなり、誤動作の原因になりますので、絶対に行わないでください。（下図×印）

1対1システム同士



TB3：伝送線用端子台  
TB7：集中管理用端子台

複数冷媒系統



TB3：伝送線用端子台（室外）  
TB5：伝送線用端子台（室内）  
TB7：集中管理用端子台

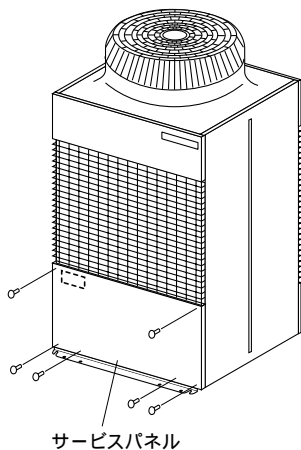
## 2.電気工事

### (1)室外ユニット

< P224形の場合 >

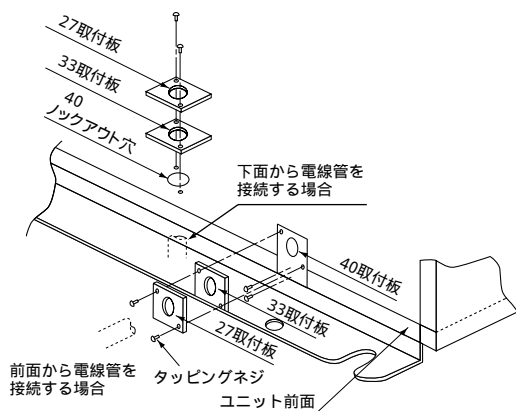
#### 制御箱及び配線接続位置

(イ)サービスパネルは、上部及び下部のネジ計6本を外し、手前に引くと、外せます。(下図参照)



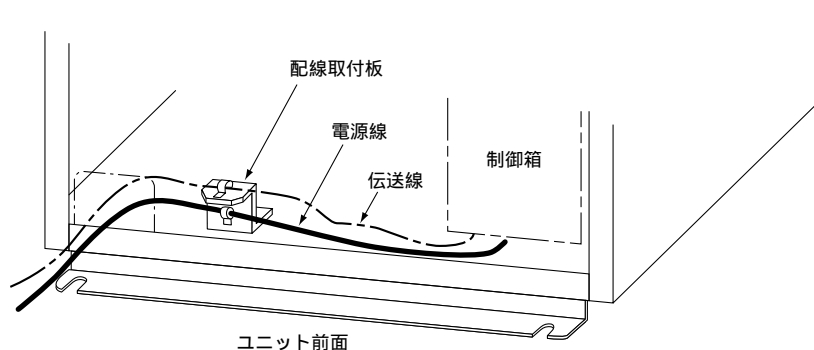
#### 電線管取付板の使用方法

電線管取付板(27、33、40)が付属しています。使用する電線管の外径から取付板を選択し下図のように取付けてください。



#### 配線取付板の使用方法

左配線または前面の配管ロックアウト穴から電源線と伝送線を配線する場合には、配線経路を明確にするために、下図のように配線取付板をベース(comp前面)へネジ(2本)止めし、電源線を下、伝送線を上のクランプへ固定してください。

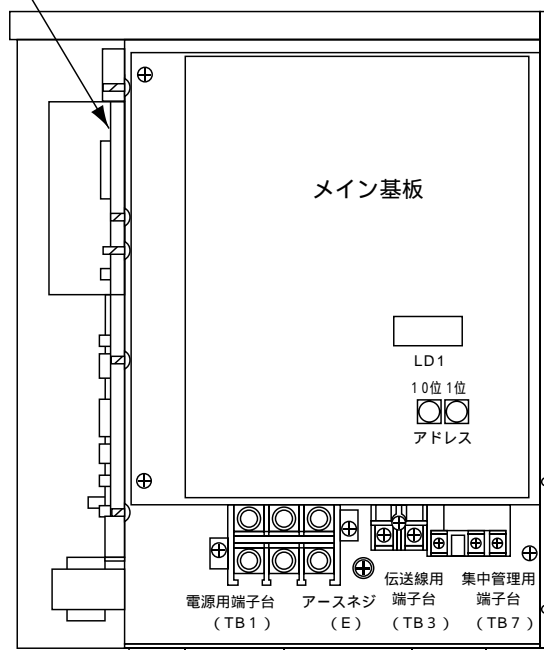


(ロ)制御箱カバーは上下2分割になっており、各々ネジ(2本)を外して下に引張ると外せます。現地での電源線および伝送線の作業を行なう場合は下カバーのみを外してください。基板上的コネクタやディップスイッチの操作は上カバーのみを外すことで行えます。(制御箱カバーを外した状態を下図に示します。)

(ハ)室内外伝送線は、伝送用端子台(TB3)に、室外ユニット間または集中管理システムとの配線は、集中管理用端子台(TB7)に接続してください。

シールド線使用の場合、シールドアースは、室内外伝送線の場合は、アースネジ(E)へ、室外ユニット間または集中管理システムの伝送線の場合は、集中管理用端子台(TB7)のシールド(S)端子へ接続してください。尚、給電コネクタをCN41からCN40に差換えた室外ユニットの場合は、上記に加えて集中管理用端子台(TB7)のシールド(S)端子をアースネジ(E)に接続してください。

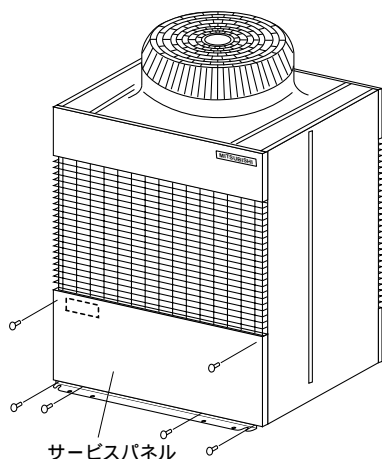
#### インバータ基板



## < P280形の場合 >

### 制御箱及び配線接続位置

(イ) サービスパネルは、上部及び下部のネジ計6本を外し、手前に引くと、外せます。(下図参照)



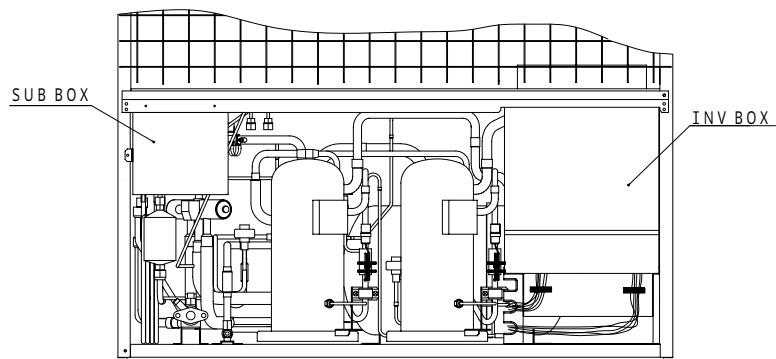
(ロ) 現地電源配線およびアース線は、SUB BOX内の電源用端子台 (TBa) およびアース端子 (⊕) に接続してください。SUB BOXのカバーは下図に示すようにネジ(2本)を外し、下に引張ると外せます。

(ハ) INV BOXカバーは上下2分割になっており、各々ネジ(2本)を外して下に引張ると外せます。

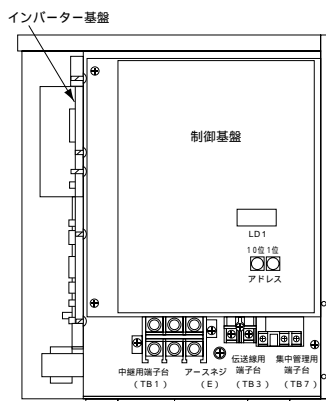
現地での伝送線の作業を行なう場合は下カバーのみを外してください。基板上的コネクタやディップスイッチの操作は上カバーのみを外すことで行えます。(制御箱カバーを外した状態を下図に示します。)

(ニ) 室内外伝送線は、伝送用端子台(TB3)に室外ユニット間または集中管理システムとの配線は、集中管理用端子台(TB7)に接続してください。

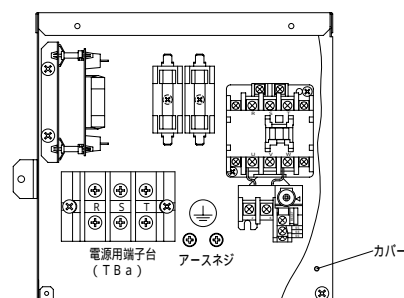
シールド線使用の場合、シールドアースは、室内外伝送線の場合は、アースネジ(E)へ、室外ユニット間または集中管理システムの伝送線の場合は、集中管理用端子台(TB7)のシールド(S)端子へ接続してください。尚、給電コネクタをCN41からCN40に差換えた室外ユニットの場合は、上記に加えて集中管理用端子台(TB7)のシールド(S)端子をアースネジ(E)に接続してください。



制御箱配置図



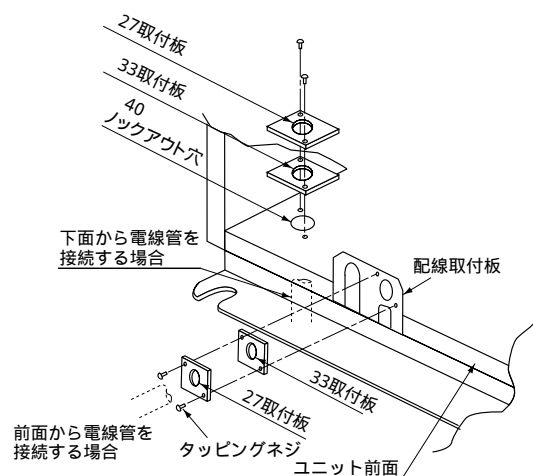
### < INV BOX >



### < SUB BOX >

### 電線管取付板の使用方法

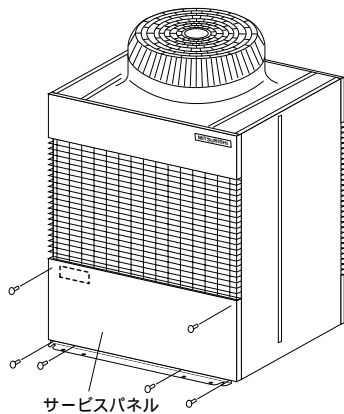
電線管取付板 ( 27、 33、 40 ) が付属しています。使用する電線管の外径から取付板を選択し右図のように取付けてください。



## < P335形の場合 >

### 制御箱及び配線接続位置

(イ)サービスパネルは、上部及び下部のネジ計6本を外し、手前に引くと、外せます。(下図参照)



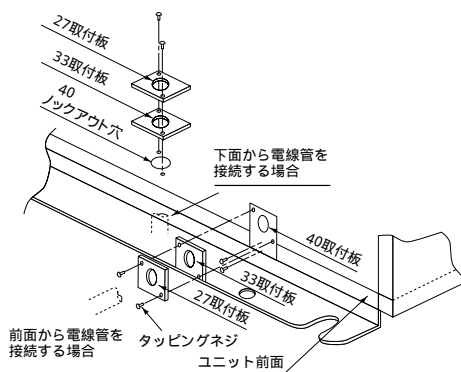
#### 電線管取付板の使用方法

電線管取付板 ( 27、33、40 ) が付属しています。使用する電線管の外径から取付板を選択し右図のように取付けてください。

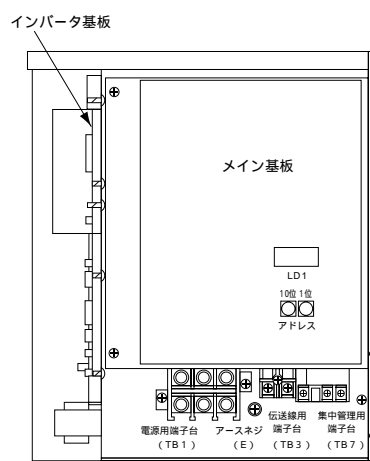
(ロ)制御箱カバーは上下2分割になっており、各々ネジ(2本)を外して下に引張ると外せます。

現地での電源線及び伝送線の作業を行う場合は、下カバーのみを外してください。基板上的コネクタやディップスイッチの操作は、上カバーのみを外すことで行えます。

(制御箱カバーを外した状態を右図に示します。)

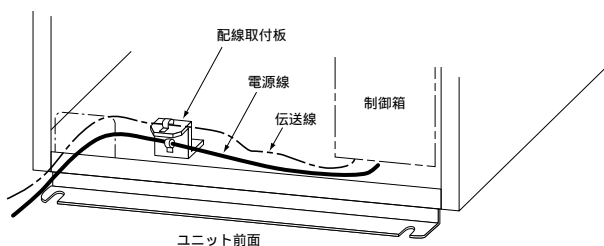


(ハ)室内外伝送線は、伝送線用端子台 (TB3)に、室外ユニット間又は集中管理システムとの配線は、集中管理用端子台(TB7)に接続してください。シールド線使用の場合、シールドアースは、室内外伝送線の場合は、アースネジ(E)へ、室外ユニット間又は集中管理システムの伝送線の場合は、集中管理用端子台(TB7)のシールド線(S)端子へ接続してください。



#### 配線取付板の使用方法

左配線または前面の配管ロックアウト穴から電源線と伝送線を配線する場合には、配線経路を明確にするために、右図のように配線取付板をベース (圧縮機前面)へネジ (2本) 止めし、電源線を下、伝送線を上のクランプへ固定してください。

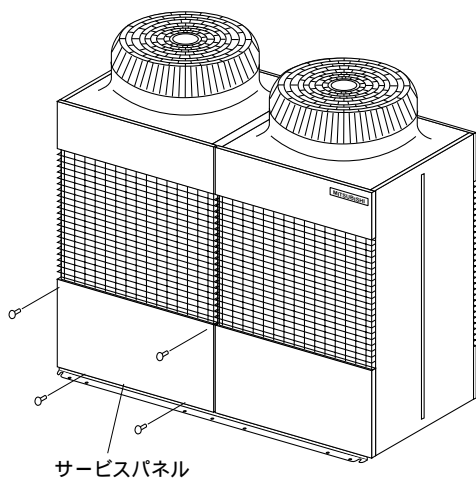


## < P450・P560形の場合 >

### 制御箱及び配線接続位置

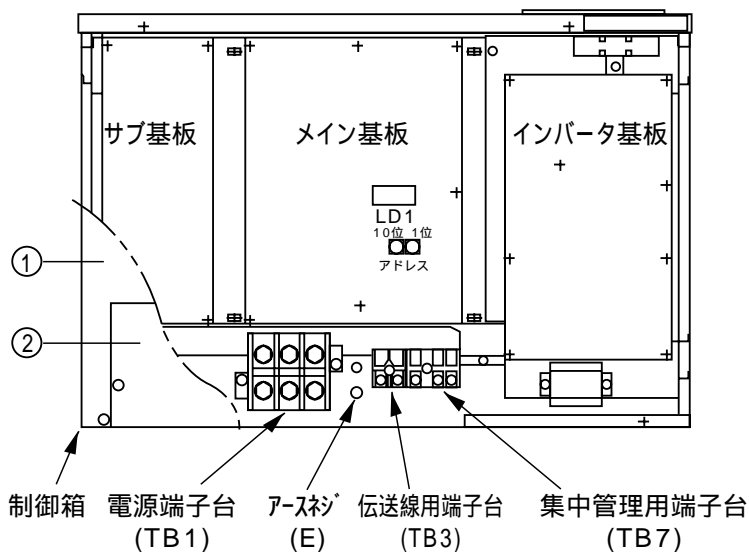
#### 室外ユニット

(イ) サービスパネルは、上部及び下部のネジ計4本を外し、手前に引くと、外せます。(下図参照)



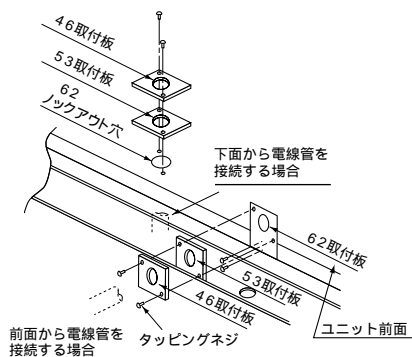
(ロ) 制御箱カバーは、全体カバー(下図)と端子台カバー(下図)に分かれており、端子台カバーは、カバー左右のネジ2本を外し、手前に引き起こすと外れます。また全体カバーは制御箱下左右のネジ2本を外し、下に引っ張ると外せます。なお全体カバーを外す場合は、端子台カバーを外す必要はありません。現地での電源線及び伝送線の作業を行う場合は、端子台カバーのみを外してください。(制御箱カバーを外した状態を下図に示します。)

(ハ) 室内外伝送線は、伝送用端子台(TB3)に、室外ユニット間又は集中管理システムとの配線は、集中管理用端子台(TB7)に接続してください。シールド線使用の場合、シールドアースは、室内外伝送線の場合は、アースネジ(E)へ、室外ユニット間又は集中管理システムの伝送線の場合は、集中管理用端子台(TB7)のシールド(S)端子へ接続してください。なお、給電コネクタをCN41からCN40に差換えた室外ユニットの場合は、上記に加えて集中管理用端子台(TB7)のシールド(S)端子をアースネジ(E)に接続してください。



#### 電線管取付板の使用方法

電線管取付板(62、53、46)が付属しています。使用する電線管の外径から取付板を選択し下図のように取付けてください。



## (2)室内ユニット

(イ)本体下側のパネルを外し、制御ボックスのカバーを外してください。

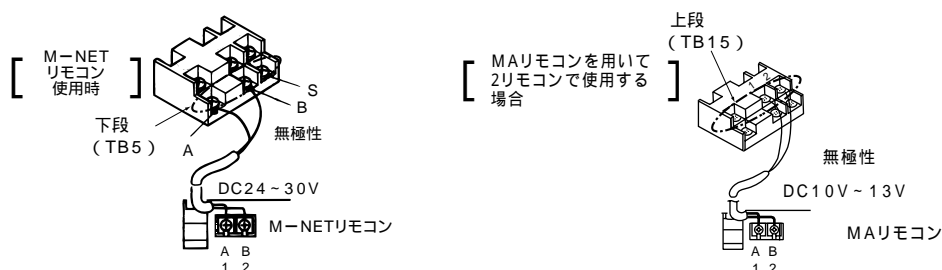
(ロ)下図のように、電源配線、室外伝送線配線及びリモコン配線（2リモコンの場合）を行ってください。制御ボックスの取外しは不要です。

### ⚠注意

現地側電気配線をクランプで確実に固定してください。

### ⚠注意

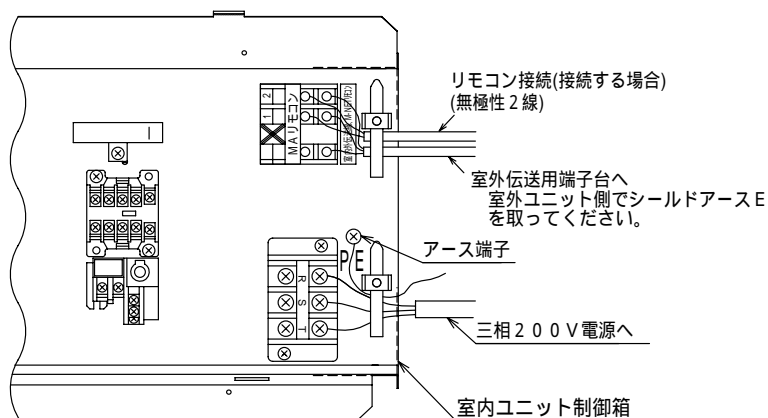
電源配線は、張力がかからないように配線工事をしてください。断線したり、発熱・火災の原因になります。



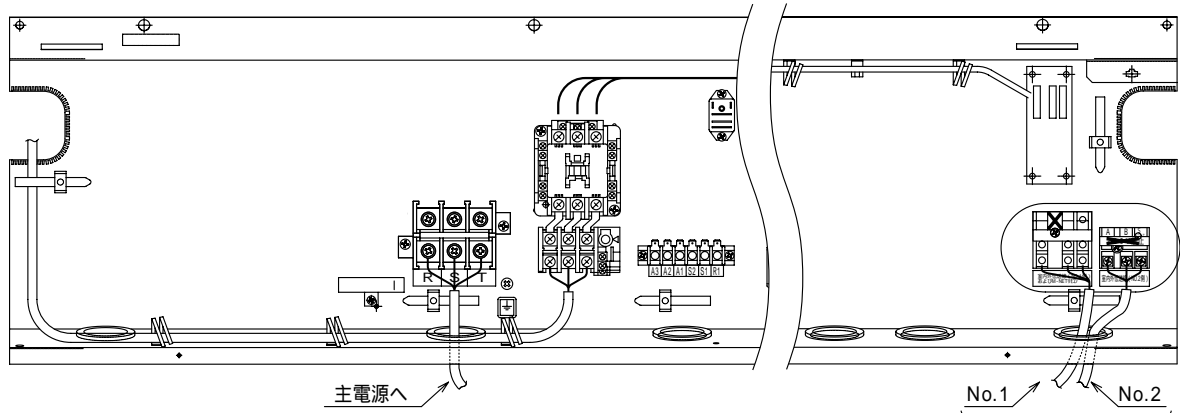
(ハ)配線が終わりましたら、ゆるみ・誤りのないことを再度ご確認の上、パネル及び制御ボックスカバーを取外しとは逆の手順で取付けてください。

本体左側面から配線を取り入れる場合、配線は制御箱の裏面を通し、下図の位置から制御箱内に接続してください。このとき、三相200V配線と伝送線配線（室内外伝送線、MAリモコン線、集中管理用M-NET伝送線）の経路を必ず分けた経路としてください。

### P224～P560・P265～P670-F形の場合

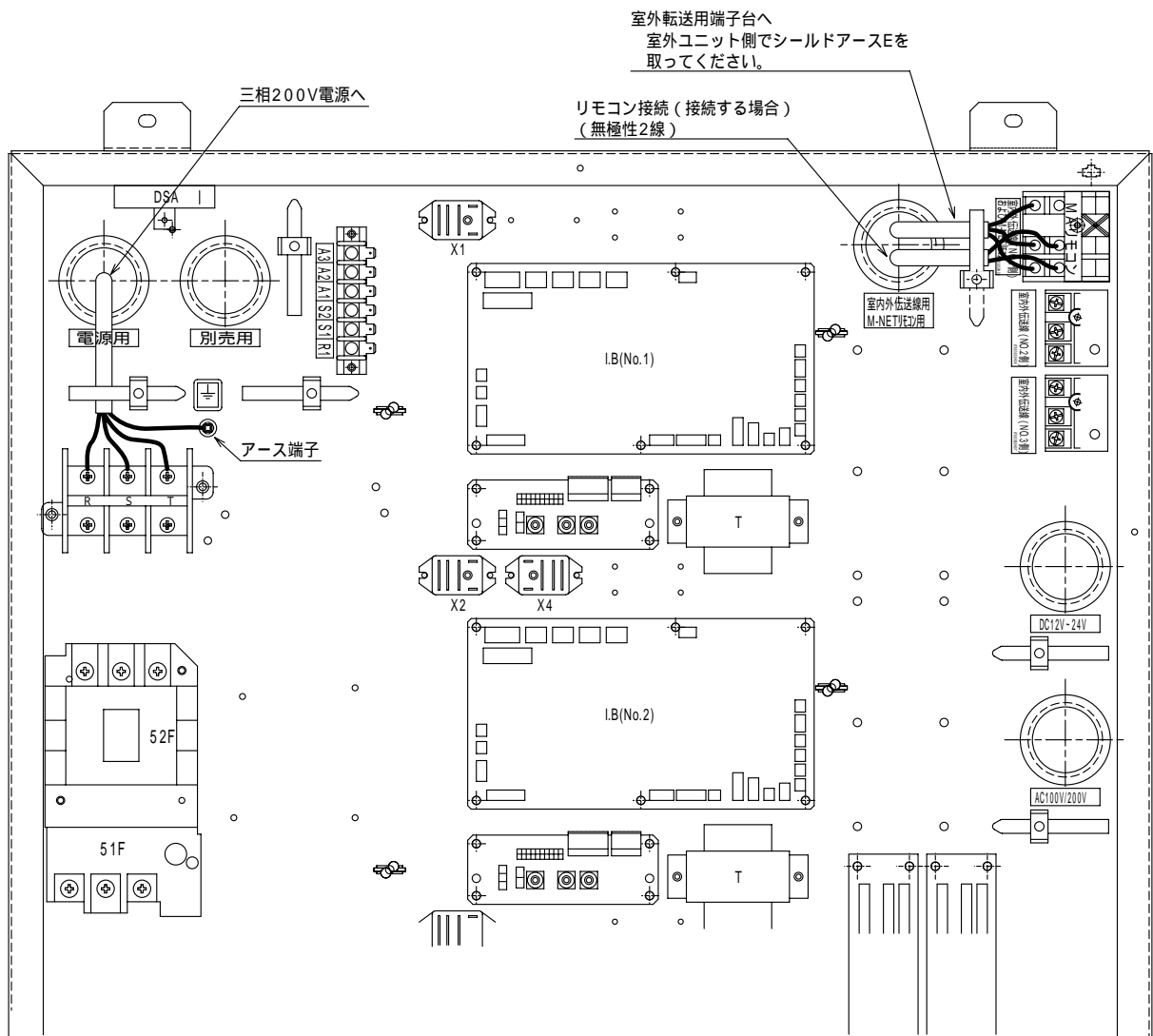


P670・P800・P1000-F形の場合



室外伝送用端子台へ  
 室外ユニット側でシールド  
 アースを取ってください。  
 電源配線と室内外伝送線及  
 びリモコン配線（2リモコン  
 の場合）の経路を必ず分け  
 た経路としてください。

P1120・P1400・P1600・P1250-F・P1600-F形の場合





## MAリモコン用「主リモコン」「従リモコン」の設定方法

(M-NETリモコンによる「主従」設定方法は、「4.(2). アドレス設定」を参照ください。)

室内ユニット2台を1グループで運転する場合、または2リモコン運転を行う場合には、一方を「従リモコン」に設定する必要があります。1グループに接続できるリモコンは最大2個までです。

(工場出荷時は「主リモコン」に設定しています。)

下記に従って設定してください。

MAリモコン(別売)の据付説明書も参照願います。

### 1. 本体前面のパネルを取外してください。

P224～P560・P265～P670-F形の場合

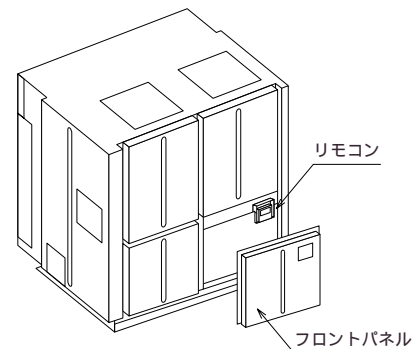
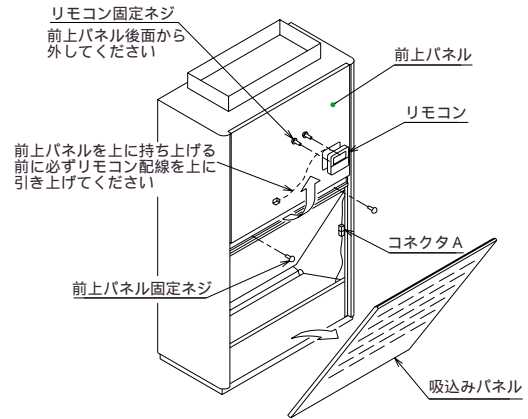
- (1) 本体下側の吸込みパネルを手前に引いて外してください。
- (2) 右図に示すリモコン配線のコネクタAを抜いてください。  
このコネクタは、必ず抜いてください。抜かずに前上パネルを外すとリモコン配線を破損する恐れがあります。
- (3) 前上パネルの固定ネジ2本を外して、パネル下側を手前に開き、リモコン配線(コネクタA)を上を引き出してください。
- (4) 前上パネルを上を持ち上げて取外してください。  
外したパネルを地面などに下ろす場合、地面との間に配線やコネクタを挟まないように注意してください。

P670・P800・P1000-F形の場合

本体前面のフロントパネル(下)を取外してください。

P1120・P1400・P1600・P1250-F・P1600-F形の場合

本体前面の前下パネル(角穴付)を取外してください。



(左配管仕様の場合)

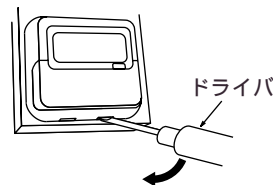
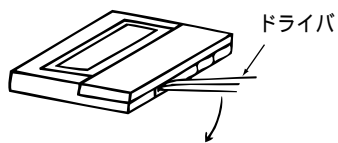
### 2. 前上パネル後面からネジ本を外し、リモコンをパネルから外してください。 P224～P560・P265～P670-F形の場合

### 3. リモコン本体のカバーを外してください。

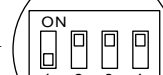
マイナスドライバーを爪部にはめ込み、矢印方向に動かします。

P224～P560・P265～P670-F形

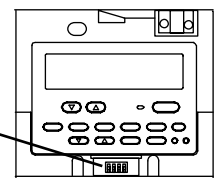
P670・P800・P1000-F・P1120・1400・1600・P1250-F・P1600-F形



### 4. リモコンのディップスイッチ1番をON OFF(主 従)に変更してください。



切換スイッチ



リモコン本体

### 5. 逆の手順でリモコン、前上パネルなどを元通りに取付けてください。

ワイヤレスリモコン（別売）をご使用になる場合 ワイヤレスリモコン（PAR-FL39M） 受光アダプター（PAR-FA31M）

受光アダプター（スイッチボックス）の据付位置は、下図事項を必ず守ってください。

（受光アダプター（別売）の据付説明書を参照願います。）

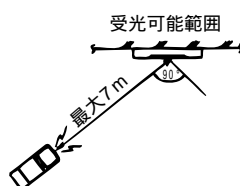
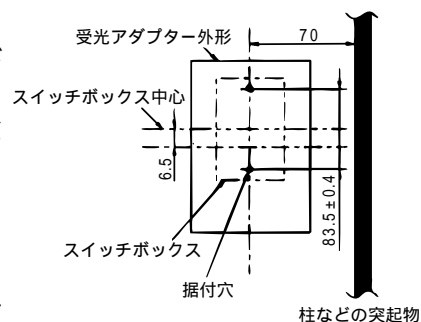
壁、天井、スイッチボックスのいずれに据付ける場合でも、右図で示すスペースを確保してください。（間隔が十分でない、取付けられない場合があります。）

本機をスイッチボックスに取付けた場合、右図のように据付時の中心が下方に6.5mmずれますのでご注意ください。

スイッチボックスに取付ける場合、下記の部品は現地にて調達してください。

- ・1個用スイッチボックス (JIS C8336)
- ・薄鋼電線管 (JIS C8305)
- ・ロックナット、ブッシング (JIS C8330)

壁面または天井面でのワイヤレスリモコンから受光が可能な位置に取付けてください。（下図参照）



どの位置からでも受光アダプターが見える場所に設置してください。

室内ユニット以外の受信可能な場所に設置してください。

配線埋込みの場合、リモコン線を通すための穴加工が取付部に必要です。

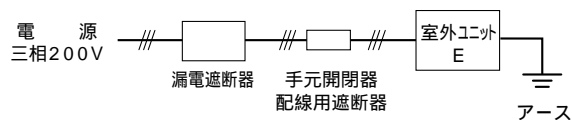
お願い

蛍光灯（特にインバータータイプ）の近くに受光アダプターを設置すると、ワイヤレスリモコンからの信号を受信できない場合がありますので、受光アダプターの設置時、蛍光灯の買換え時には注意してください。

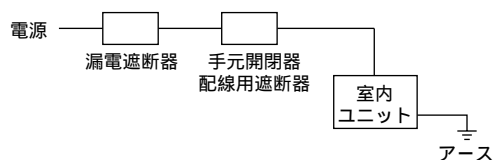
### 3.主電源の配線太さ及び開閉器容量

#### (1)配線系統図(例)

室外ユニット



室内ユニット



#### (2)主電源の配線太さ及び開閉器容量

室外ユニット

型名	電源太さ		漏電遮断器 注1	手元開閉器(*1)		配線用遮断器 (*2)	
	電源配線	アース		開閉器容量	過電流保護器 (B種ヒューズ)		
		*1の場合					*2の場合
PUHV-P224M-A PUHV-P280M-A	14mm <sup>2</sup>	3.5mm <sup>2</sup>	3.5mm <sup>2</sup>	50A (NV60-C(当社))	60A	50A (NF60-C(当社))	
PUHV-P335M-A PUHV-P450M-A	22mm <sup>2</sup> 30mm <sup>2</sup>	5.5mm <sup>2</sup>	5.5mm <sup>2</sup>	100A (NV100-C(当社))	100A	75A 100A (NF100-C(当社))	
PUHV-P560M-A	38mm <sup>2</sup>	5.5mm <sup>2</sup>	8mm <sup>2</sup>	125A (NV225-C(当社))	100A	125A (NF225-C(当社))	

注1 漏電遮断器は感度100mA 0.1s以下を使用ください。

室内ユニット

型名	電源太さ		漏電遮断器	手元開閉器		配線用遮断器
	電源配線	アース		開閉器容量	過電流保護器 (B種ヒューズ)	
PFAV-P224M-A PFAV-P265M-A-F PFAV-P280M-A PFAV-P335M-A-F	1.6mm	1.6mm	15A(注2) (NV30-C(当社))	15A	15A	15A (NF30-C(当社))
PFAV-P450M-A PFAV-P530M-A-F PFAV-P560M-A PFAV-P670M-A-F PFAV-P670M-A PFAV-P1000M-A-F			30A(注2) (NV30-C(当社))	30A	20A 30A	30A (NF30-C(当社))
PFAV-P800M-A PFAV-P1250M-A-F PFAV-P1600M-A-F			75A(注3) (NV100-C(当社))	60A	50A	75A (NF100-C(当社))
PFAV-P1120M-A			100A(注3) (NV100-C(当社))	100A	75A	100A (NF100-C(当社))
PFAV-P1400M-A PFAV-P1600M-A	14mm <sup>2</sup>	8mm <sup>2</sup>	125A(注3) (NV125-C(当社))	100A	100A	125A (NF125-C(当社))

注2 漏電遮断器は感度30mA 0.1s以下を使用ください。

注3 漏電遮断器は感度100mA 0.1s以下を使用ください。

注4 漏電遮断器は感度100~200mA 0.1s以下を使用ください。

\*1は開閉器の場合、\*2は配線用遮断器の場合のアース線太さを示します。

電源には、必ず漏電遮断器を取付けてください。

漏電遮断器で地絡保護専用のものは、手元開閉器または配線用遮断器を組合わせて使用してください。

上表の値は、標準仕様でのものです。

電源配線に当たっては「電気設備に関する技術基準を定める省令」及び「内線規程」に従ってください。

#### ⚠警告

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

#### ⚠注意

必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。

#### ⚠注意

正しい容量の遮断器やヒューズ以外は使用しないでください。大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や火災の原因になります。

## 4.制御配線

制御配線は、システム構成により異なります。配線工事の前に必ず、【5.システム接続例】をご覧ください。

### (1)制御配線の種類と許容長

制御配線には、「伝送線」と「リモコン線」があり、システム構成により配線の種類及び許容長が異なります。

また、以下に示すように、伝送線が長い場合やノイズ源がユニットに近傍している場合は、ノイズ障害防止のためにユニット本体をノイズ源から離すと共に、シールド線の使用を推奨します。

#### 伝送線配線（M-NET伝送線）

システム構成		単一冷媒系統システムの場合		複数冷媒系統システムの場合
配線の種類	伝送線の長さ	120m未満		120m以上 長さに無関係
	対象施設例 (ノイズ判定)	住宅及び独立店舗 などノイズ発生が ない施設	ビル、診療所、病院、通信事業所などインバータ 機器、自家発電機器、高周波医療機器、無線通信 装置などによるノイズの発生が想定される施設	全ての施設
	線種	VCTF・VCTEK・CVV・ CVS・VVR・VVF・VCT 又はシールド線 CVVS・ CPEVS	シールド線 CVVS・CPEVS	
	線数	2心ケーブル		
	線径	1.25mm <sup>2</sup> 以上		
室内外伝送線最遠長		最大120m		最大200m
集中管理用伝送線及び 室内外伝送線最遠長 (室外ユニットを経由した最遠長)		-		最大500m *集中管理用伝送線に設置され る伝送線用給電ユニットから 各室外ユニット及びシステム コントローラまでの配線長は 最大200m

#### リモコン線

		MAリモコン（注1）	M-NETリモコン（注2）	
配線の種類		VCTF、VCTFK、CVV、CVS、 VVR、VVF、VCT	10m以下	10mを超える場合
	線数	2心ケーブル		伝送線と同一仕様となります
	線径	0.3～1.25mm <sup>2</sup> （注3） （0.75～1.25mm <sup>2</sup> ）（注4）	0.3～1.25mm <sup>2</sup> （注3） （0.75～1.25mm <sup>2</sup> ）（注4）	
総延長		最大200m	最大10m	10mを超える部分は、室内外伝 送線最遠長の内数としてください

（注1）MAリモコンとは、MAリモコン及びワイヤレスリモコンを示します。

（注2）M-NETリモコンとは、MEリモコン及びコンパクトリモコンを示します。

（注3）作業上、0.75mm<sup>2</sup>までの線径を推奨します。

（注4）（ ）内は、コンパクトリモコンの線径です。

### (2)スイッチ設定の種類と方法

スイッチ設定は、システム構成により設定の要否が異なります。配線工事の前に必ず、【5.システム接続例】をご覧ください。

また、スイッチを設定する場合は、必ず電源を遮断した状態で行ってください。

通電状態のままスイッチを操作した場合は、設定内容が変わらず正常に動作しません。

スイッチ設定ユニット		記号	電源遮断ユニット
室外ユニット		OC	室外ユニット
室内ユニット	親機・子機	IC	室外ユニット及び室内ユニット
M-NETリモコン	主・従リモコン	RC	室外ユニット
MAリモコン	主・従リモコン	MA	室内ユニット

## アドレスの設定

システム構成により、アドレス設定の要否及びアドレス設定範囲が異なります。

【5.システム接続例】でご確認ください。

ユニット又はコントローラ		記号	アドレス 設定範囲	設定方法	工場出荷時の アドレス設定		
					機 種		
室内ユニット	親機・子機	IC	01～50 注1	同一グループ内の親機にしたい室内ユニットを最も若いアドレスにし、 同一グループ内の室内ユニットのアドレスを順番に設定してください。	1冷媒	2冷媒 注4	3冷媒 注4
					00	01 02	01 02 03
MAリモコン		MA	アドレス設定不要です。(但し、2リモコン運転する場合・複数冷媒をグループ運転する 場合は主従切換スイッチ設定が必要です。)		主		
室外ユニット		OC	51～100 注2	同一冷媒システムの室内ユニットアドレス+50に設定してください。	00		
M-NET リモコン	主リモコン	RC	101～150	同一グループ内の最も若い室内ユニット親機アドレス+100に設定してください。	101		
	従リモコン	RC	151～200注3	同一グループ内の最も若い室内ユニット親機アドレス+150に設定してください。			
システム コントローラ	グループリモコン	GR, SC	201～250	管理したい最小グループNo.+“200”に設定してください。	201		
	システムリモコン	SR, SC	201～250	左記アドレス範囲で任意			
	ON/OFFリモコン	AN, SC	201～250	管理したい最小グループNo.+“200”に設定してください。			
	スケジュール タイマー (M-NET対応)	ST, SC	201～250	左記アドレス範囲で任意	202		
	集中コントローラ	TR, SC	0、201～250	左記アドレス範囲で任意 但し、上位SC設定で使用する場合、あるいは、K制御ユニットを管理したい場合は “0”に設定してください。	000		
	LMアダプター	SC	201～250	左記アドレス範囲で任意	247		

注1 他の冷媒システムの室内ユニット、室外ユニットのアドレスと重複する場合は、設定範囲内で別の空きアドレスを設定してください。

注2 室外ユニットのアドレスを“100”に設定する場合は“50”としてください。

注3 M-NETリモコンのアドレスを“200”に設定する場合は“00”としてください。

注4 室内ユニット内には、2枚もしくは3枚の室内コントローラ(制御基板)があります。

No.2基板のアドレスは「No.1基板アドレス+1」に、No.3基板のアドレスは、「No.1基板アドレス+2」に、必ず設定してください。

### MAリモコン主従切換スイッチの設定「MAリモコン使用時(工場出荷時の設定“主”)」

MAリモコンには、主・従切換スイッチがあります。2リモコン運転する場合・異冷媒グルーピング運転する場合は必ず一方を従リモコンに設定してください。

### 室外ユニット給電切換コネクタの設定(工場出荷時の設定：“CN41”にコネクタ接続)

システム構成	電源遮断ユニット
単一冷媒システム	CN41のまま(工場出荷時の設定)
複数冷媒システム	1台の室外ユニット(OC)のみ、給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えます。
システムコントローラ(MELANS)との接続システム	CN41のまま(工場出荷時の設定) *但し、給電装置を使用せずに、システムコントローラ又はグループリモコンを室内外伝送線に接続する場合は、1台の室外ユニット(OC)のみ、給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えます。

### 室外ユニット集中管理スイッチの設定(工場出荷時の設定：SW2-1“OFF”)

システム構成	集中管理スイッチの設定(SW2-1)
システムコントローラ(MELANS)との接続システム なし	OFFのまま(工場出荷時の設定)
システムコントローラ(MELANS)との接続システム あり	ON

室内ユニット室温検出位置の設定（工場出荷時の設定：SW1-1 “OFF”）

リモコン内蔵センサを使用する場合は、SW1-1を“ON”に設定してください。

リモコンの機種により、内蔵センサがないものがあります。

その場合は、室内ユニット内蔵センサにてご使用ください。

リモコン内蔵センサ使用時は、室温検出可能な部分へのリモコン取付をお願いします。

室内ユニット内に制御基板が複数枚ある機種（PFAV-P670～1600M-A）は、室内ユニット内の全ての基板のSW1-1を“ON”に設定してください。

システムコントローラのスイッチ設定

機種	設定部位	内容	設定方法	工場出荷時の設定																											
グループリモコン PAC-SC30GR	SW3 (注1)	上位SC設定 / 下位SC設定	上位SC設定時：上位側 下位SC設定時：下位側	上位SC 設定																											
システムリモコン PAC-SF44SR	SW3-1 (注1)	上位SC設定 / 下位SC設定	OFF：システムコントローラを上位に設定する場合 ON：システムコントローラを下位に設定する場合	OFF																											
	SW3-2,3	外部入力機能切換 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th colspan="2">DipSW3</th> <th rowspan="2">外部入力信号の機能</th> <th rowspan="2">入力状態</th> </tr> <tr> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>外部入力使用せず</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td>緊急停止 / 通常を切り換える</td> <td>レベル入力</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>運転 / 停止を設定する</td> <td>レベル入力</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ON</td> <td>ON</td> <td>運転 / 停止・禁止 / 許可を設定する</td> <td>パルス入力(0.5s以上)</td> </tr> </tbody> </table>	No.	DipSW3		外部入力信号の機能	入力状態	2	3	1	OFF	OFF	外部入力使用せず	-	2	OFF	ON	緊急停止 / 通常を切り換える	レベル入力	3	ON	OFF	運転 / 停止を設定する	レベル入力	4	ON	ON	運転 / 停止・禁止 / 許可を設定する	パルス入力(0.5s以上)		OFF
	No.	DipSW3		外部入力信号の機能	入力状態																										
		2	3																												
	1	OFF	OFF	外部入力使用せず	-																										
2	OFF	ON	緊急停止 / 通常を切り換える	レベル入力																											
3	ON	OFF	運転 / 停止を設定する	レベル入力																											
4	ON	ON	運転 / 停止・禁止 / 許可を設定する	パルス入力(0.5s以上)																											
SW3-4 (注2)(注3)	操作禁止設定切換	手元リモコンの操作禁止機能を設定します OFF：本機の操作禁止機能を使用しない場合 ON：本機の操作禁止機能を使用する場合		OFF																											
SW3-5 (注4)	操作禁止範囲設定切換	本機で使用する操作禁止機能の管理範囲を設定します OFF：手元リモコンのみ操作禁止する場合 ON：手元リモコン及び他のシステムコントローラを操作禁止する場合		OFF																											
SW3-6	設定温度表示切換	OFF：設定温度の表示を摂氏(°C)表示に設定する場合 ON：設定温度の表示を華氏(°F)表示に設定する場合		OFF																											
スケジュールタイマー (M-NET対応) PAC-YT34ST	SW3-1 (注1)	上位SC設定 / 下位SC設定	OFF：システムコントローラを上位に設定する場合 ON：システムコントローラを下位に設定する場合	OFF																											
	SW3-2,3	外部入力機能切換 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th colspan="2">DipSW3</th> <th rowspan="2">外部入力信号の機能</th> <th rowspan="2">入力状態</th> </tr> <tr> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>外部入力使用せず</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td>緊急停止 / 通常を切り換える</td> <td>レベル入力</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>運転 / 停止を設定する</td> <td>レベル入力</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ON</td> <td>ON</td> <td>運転 / 停止・禁止 / 許可を設定する</td> <td>パルス入力(0.5s以上)</td> </tr> </tbody> </table>	No.	DipSW3		外部入力信号の機能	入力状態	2	3	1	OFF	OFF	外部入力使用せず	-	2	OFF	ON	緊急停止 / 通常を切り換える	レベル入力	3	ON	OFF	運転 / 停止を設定する	レベル入力	4	ON	ON	運転 / 停止・禁止 / 許可を設定する	パルス入力(0.5s以上)		OFF
	No.	DipSW3		外部入力信号の機能	入力状態																										
		2	3																												
	1	OFF	OFF	外部入力使用せず	-																										
	2	OFF	ON	緊急停止 / 通常を切り換える	レベル入力																										
	3	ON	OFF	運転 / 停止を設定する	レベル入力																										
4	ON	ON	運転 / 停止・禁止 / 許可を設定する	パルス入力(0.5s以上)																											
SW3-4 (注2)(注3)	操作禁止設定切換	手元リモコンの操作禁止機能を設定します OFF：本機の操作禁止機能を使用しない場合 ON：本機の操作禁止機能を使用する場合		OFF																											
SW3-5 (注4)	操作禁止範囲設定切換	本機で使用する操作禁止機能の管理範囲を設定します OFF：手元リモコンのみ操作禁止する場合 ON：手元リモコン及び他のシステムコントローラを操作禁止する場合		OFF																											
SW3-6	設定温度表示切換	OFF：設定温度の表示を摂氏(°C)表示に設定する場合 ON：設定温度の表示を華氏(°F)表示に設定する場合		OFF																											
SW3-7 (注5)	設定温度範囲切換	OFF：設定温度範囲を19～28にする場合 ON：設定温度範囲を12～30にする場合		OFF																											
SW3-8 (注6)	フィルタサイン スイッチ禁止設定切換	OFF：手元リモコンのフィルタサインリセット スイッチを使用できるようにする場合 ON：手元リモコンのフィルタサインリセット スイッチを使用できないようにする場合		OFF																											
ON/OFFリモコン PAC-YT40ANR	SW4-1 (注1)	上位SC設定 / 下位SC設定	上位SC設定時：OFF 下位SC設定時：ON	OFF																											
	SW4-2,3	外部入力機能切換 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th colspan="2">DipSW4</th> <th rowspan="2">外部入力信号の機能</th> <th rowspan="2">入力状態</th> </tr> <tr> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>外部入力使用せず</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td>緊急停止 / 通常を切り換える</td> <td>レベル入力</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>運転 / 停止を設定する</td> <td>レベル入力</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ON</td> <td>ON</td> <td>運転 / 停止・禁止 / 許可を設定する</td> <td>パルス入力(0.5s以上)</td> </tr> </tbody> </table>	No.	DipSW4		外部入力信号の機能	入力状態	2	3	1	OFF	OFF	外部入力使用せず	-	2	OFF	ON	緊急停止 / 通常を切り換える	レベル入力	3	ON	OFF	運転 / 停止を設定する	レベル入力	4	ON	ON	運転 / 停止・禁止 / 許可を設定する	パルス入力(0.5s以上)		OFF
No.	DipSW4			外部入力信号の機能	入力状態																										
	2	3																													
1	OFF	OFF	外部入力使用せず	-																											
2	OFF	ON	緊急停止 / 通常を切り換える	レベル入力																											
3	ON	OFF	運転 / 停止を設定する	レベル入力																											
4	ON	ON	運転 / 停止・禁止 / 許可を設定する	パルス入力(0.5s以上)																											

(注1) “7.(2). 上位SC設定/下位SC設定とグループ管理について”を参考に設定します。

(注2) 同一システム内で操作禁止機能を使用できるのは1台です。システムコントローラが複数設置される場合は操作禁止機能を使用しないシステムコントローラは操作禁止（無効）にしてください。

集中コントローラは出荷時（有効）設定、他のシステムコントローラは出荷時（無効）設定となっています。

(注3) “操作禁止設定をしない”に設定した場合、外部入力機能は緊急停止のみになります。

(注4) SW3-4がONの場合のみ有効です。

(注5) 本機で使用する設定温度の範囲を運転モードに関係なく切換えます。実際に設定可能な温度範囲は、室内ユニット及び室外ユニットの機種により異なります。

(注6) ON設定により常時、手元リモコンのフィルタサインスイッチ操作は禁止となります。

機種	設定部位	内容	設定方法	工場出荷時の設定																												
集中コントローラ G-50	機能設定SW1	予備	(OFF固定)	OFF																												
	機能設定SW2	予備	(OFF固定)	OFF																												
	機能設定SW3	K制御ユニット管理あり/なし	K制御ユニット管理なし: OFF K制御ユニット管理あり: ON (注7)	OFF																												
	機能設定SW4	手元リモコンへの操作禁止設定機能あり/なし	本機から手元リモコン/他のシステムコントローラの操作を禁止設定する場合: OFF 本機から手元リモコン/他のシステムコントローラの操作を禁止設定しない場合: ON (注8)	OFF																												
	機能設定SW6,7	外部入力機能切換		OFF																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th colspan="2">機能設定SW</th> <th>外部入力信号の機能</th> <th>入力状態</th> </tr> <tr> <td></td> <th>6</th> <th>7</th> <td></td> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>OFF</td> <td>OFF</td> <td>外部入力使用せず</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td>緊急停止/通常を切り換える</td> <td>レベル入力</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> <td>運転/停止を設定する</td> <td>レベル入力</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ON</td> <td>ON</td> <td>運転/停止・禁止/許可を設定する</td> <td>パルス入力(0.5s - 1.0s)</td> </tr> </tbody> </table>		No.		機能設定SW		外部入力信号の機能	入力状態		6	7			1	OFF	OFF	外部入力使用せず	-	2	OFF	ON	緊急停止/通常を切り換える	レベル入力	3	ON	OFF	運転/停止を設定する	レベル入力	4	ON	ON	運転/停止・禁止/許可を設定する
No.	機能設定SW		外部入力信号の機能		入力状態																											
	6	7																														
1	OFF	OFF	外部入力使用せず	-																												
2	OFF	ON	緊急停止/通常を切り換える	レベル入力																												
3	ON	OFF	運転/停止を設定する	レベル入力																												
4	ON	ON	運転/停止・禁止/許可を設定する	パルス入力(0.5s - 1.0s)																												
機能設定SW8	操作禁止時の範囲手元リモコンのみ/システムコントローラ含む	操作禁止設定時、手元リモコン及び本機以外のシステムコントローラの操作を禁止: OFF 手元リモコンのみ操作禁止: ON	OFF																													
LMアダプター PAC-YV03LMAP	SW1-1 (注9)	手元リモコン操作禁止設定切換	操作禁止nv (入力/出力)を使用しない場合: OFF 操作禁止nv (入力/出力)を使用する場合: ON	OFF																												
	SW1-2	システムコントローラ併用設定切換	システムコントローラを併用しない場合: OFF システムコントローラを併用する場合: ON	OFF																												
	SW1-5	M-NETロスナイ設定切換 SW1-2がOFFの場合のみ有効	空調機側でロスナイと室内ユニットを連動する場合: OFF 空調機側でロスナイと室内ユニットを連動せずに、LONWORKS®からロスナイを直接操作する場合: ON	OFF																												
	CN41	LMアダプターのみの接続の場合は、LMアダプターの給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えます。		CN41																												

\* LONWORKS® に接続される機器の管理内容により、LMアダプター上のスイッチ設定が異なります。管理内容を十分ご確認の上、システム設定を行ってください。

- (注7) K制御ユニットを管理できるシステムコントローラはアドレス“0”のコントローラのみです。アドレス“0”以外のシステムコントローラでは機能設定SW3をONに設定しないでください。
- (注8) 同一システムにシステムコントローラが複数設置される場合、手元リモコン(システムコントローラも含む)の操作を禁止設定できるシステムコントローラはシステムに1台です。本機以外のシステムコントローラから手元リモコン(システムコントローラも含む)の操作を禁止する場合は、必ず機能設定SW4をONに設定してください。この場合、本機から手元リモコンへの操作禁止設定はできません。
- (注9) LMアダプターから他のシステムコントローラの操作を禁止にすることはできません。

### (3)手元リモコンの機能比較

	MAリモコン		M-NETリモコン	
	MAリモコン (注1)	ワイヤレスリモコン	MEリモコン	コンパクトリモコン (注2)
運転/停止				
空調機運転モード切換				×
室温設定				
風速設定	×	×	×	×
風向設定	×	×	×	×
タイマー制御 (注3)	1日タイマー			×
	毎日タイマー	×	×	×
	簡単切タイマー	×	×	×
室温設定範囲制限機能 (注4)	×	×		×
リモコン操作簡易ロック機能(注5)	×	×		×
室内ユニットと換気連動時の換気単独運転		×		×
リモコンからの換気連動登録		×		×

- (注1) MAリモコンは、本体に内蔵されています。
- (注2) コンパクトリモコンは、運転モード及び風向設定ができない為、MAリモコン(本体内蔵)またはMEリモコン、システムコントローラとの併用が必要です。
- (注3) 1日タイマー : 一回ずつのON/OFF設定ができ、1日のみ有効です。  
毎日タイマー : 一回ずつのON/OFF設定ができ、毎日同時刻にタイマー運転が可能です。  
簡単切タイマー : 30分~4時間の間で切タイマーを設定できます。  
(簡単切タイマーモードでは、次回運転時にも自動的に切タイマーが作動し、切り忘れ防止用のタイマーとしても使用できます)
- (注4) 通常、室温調節範囲は冷房時19~30、暖房時17~28の範囲で自由に温度設定が可能ですが、この室温調節範囲を冷房時は下限温度、暖房時は上限温度を予め任意の温度値に制限する機能です。これにより、冷房時は通常より高め、暖房時は低めの設定温度範囲としておけば、過度の冷房、暖房運転を防ぎ、手軽に省エネ対策が実現できます。
- (注5) リモコンの全ボタンをロックあるいは、運転/停止ボタン以外のボタンをロックすることが可能です。

#### (4)室温検知を温度センサ ( PAC-SE40TS ) で検知される場合

温度センサ配線を12m以内で使用する場合は、PAC-SE40TSに付属しているケーブル(12m)を使用してください。12mを超える場合は、次の配線表の仕様にしながら配線をしてください。

配線の種類	線種	シールド線 (CVVS、CPEVS)
	線数	2心ケーブル
	線径	1.25mm <sup>2</sup> 以上
総延長	最大200m	

温度センサ設置方法は、温度センサ(PAC-SE40TS)の据付工事説明書と下記「電気配線接続」を必ず参照ください。

シールド線にて延長される場合は、次の据付条件にしたがって配線してください。

動力線(強電系)とは、30cm以上離してください。

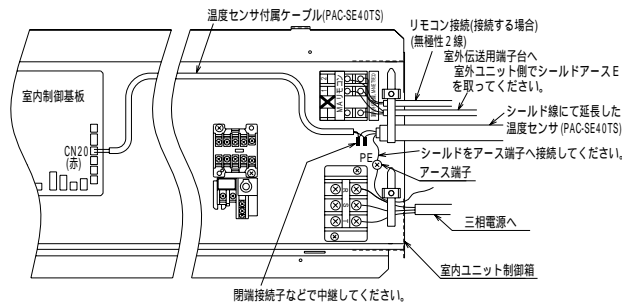
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器などの影響を受けないように配線してください。

シールド線は、室内ユニットのアース端子へ接続してください。

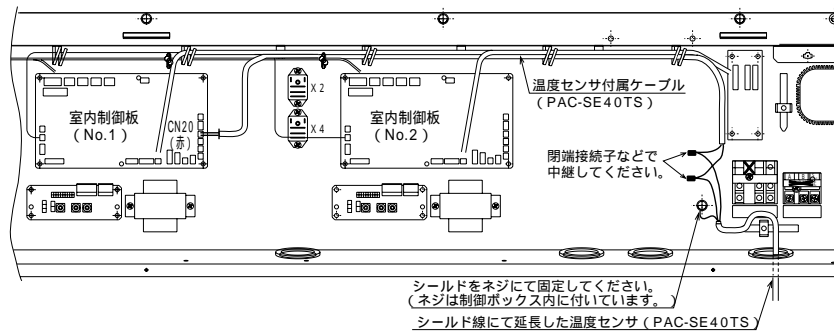
##### < 電気配線接続 >

複数冷媒回路機種は、温度センサ ( PAC-SE40TS ) をNo.1基板のみに接続してください。

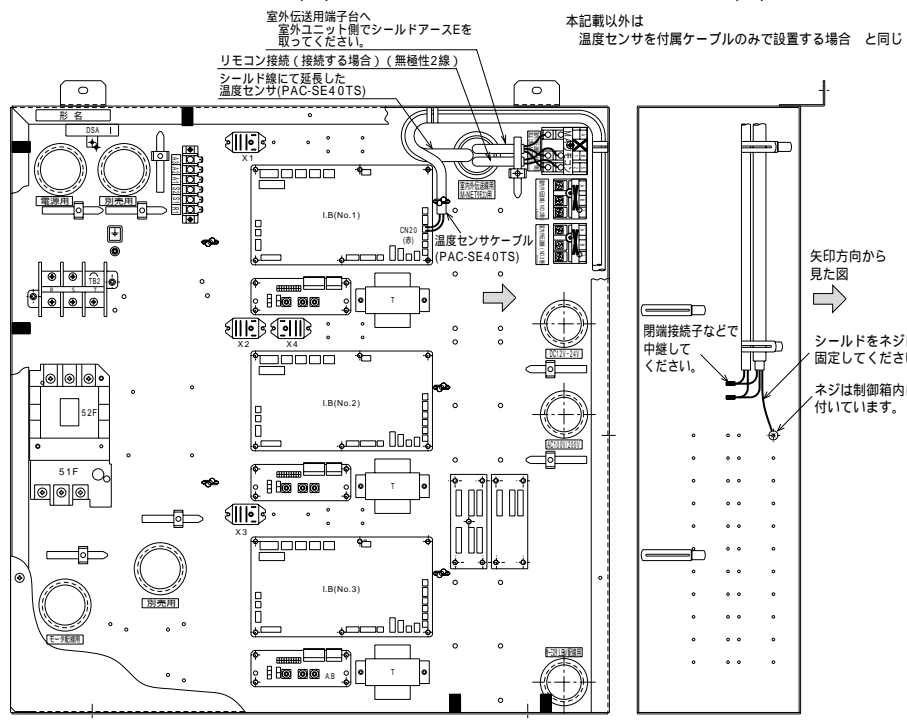
【PFAV-P224・P280・P450・P560M-A, PFAV-P265・P335・P530・P670M-A-F 形】



【PFAV-P670・P800M-A, PFAV-P1000M-A-F 形】



【PFAV-P1120・P1400・P1600M-A-L(R), PFAV-P1250・P1600M-A-F-L(R) 形】



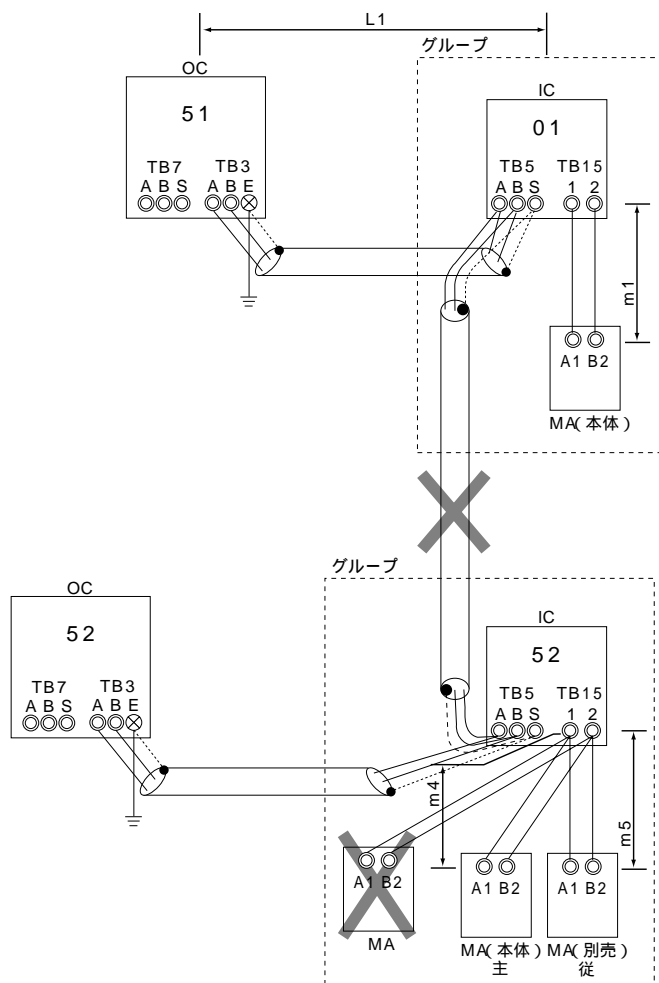


## 5.システム接続例

### (1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P224 ~ 560M-A, PFAV-P265 ~ 670M-A-F)

-a.単一冷媒システムの場合

#### 制御線配線例



—シールド線使用例—

#### 禁止事項

1. 異冷媒室内ユニットのTB5の渡り配線は禁止です。
2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). のコネクタを取外してください。

#### 許容長

- < a . 室内外伝送線 >  
最遠長 ( 1 . 2 5 mm<sup>2</sup>以上 )  
L 1            2 0 0 m
- < b . 集中管理用伝送線 >  
接続不要です
- < c . MAリモコン配線 >  
総延長 ( 0 . 3 ~ 1 . 2 5 mm<sup>2</sup> )  
m 1            2 0 0 m  
m 4 + m 5    2 0 0 m

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

室外ユニット ( O C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 3 ) の A、B 端子と室内ユニット ( I C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 5 ) の A、B 端子を配線します。(無極性2線)

伝送線が長い場合やノイズ源がユニットに近接している場合は、シールド線の使用を推奨します。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、O C のアースネジと、I C の端子台 ( T B 5 ) の S 端子とを渡り配線します。

### < b . 集中管理用伝送線 >

接続不要です。

### < c . M A リモコン配線 > 2リモコンまたはグループ運転しない場合は不要です。

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

2リモコンとする場合は、I C の端子台 ( T B 1 5 ) の 1 , 2 端子と M A リモコン ( 別売 ) の端子台を接続します。

(無極性2線)

接続した M A リモコン ( 別売 ) の主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。

(設定方法は、「 .4.(2). M A リモコン主従切換スイッチの設定」および M A リモコンの据付説明書を参照ください。)

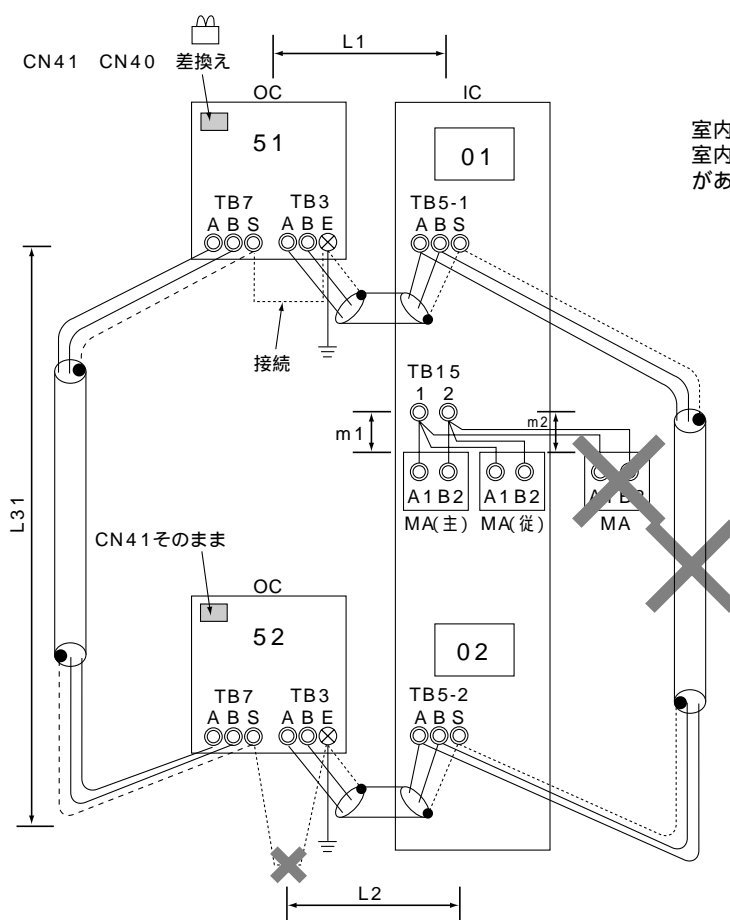
M A リモコンは室内ユニットに内蔵されています。

### < d . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P670～800M-A, PFAV-P1000M-A-F)  
 -b.単一冷媒システムの場合

制 御 線 配 線 例



室内ユニット内には、2枚の  
室内コントローラ(制御基板)  
があります。

—シールド線使用例—

禁止事項	許容長
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 室内ユニットアドレスは連番で設定してください。</li> <li>2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。</li> <li>3. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。</li> <li>4. 室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。</li> <li>5. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は、1台の室外ユニットのみで実施してください。</li> </ol>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;                  最遠長 ( 1 . 2 5 mm<sup>2</sup> 以上 )                  L 1 , L 2      2 0 0 m</p> <p>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;                  室外ユニットを経由した最遠長 ( 1 . 2 5 mm<sup>2</sup> 以上 )                  L 1 + L 3 1 + L 2    5 0 0 m</p> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;                  総延長 ( 0 . 3 ~ 1 . 2 5 mm<sup>2</sup> )                  m 1 + m 2      2 0 0 m</p>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

室外ユニット ( O C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 3 ) の A , B 端子と室内ユニット ( I C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 5 ) の A , B 端子を配線します。(無極性2線)

伝送線が長い場合やノイズ源がユニットに近接している場合は、シールド線の使用を推奨します。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、O C のアースネジと、I C の端子台 ( T B 5 ) の S 端子とを渡り配線します。

### < b . 集中管理用伝送線 >

各O C の集中管理用伝送線端子台 ( T B 7 ) の A , B 端子を渡り配線します。1 台のO C のみ、制御基板上の給電切換コネクタ ( C N 4 1 ) を ( C N 4 0 ) に差し替えます。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を渡り配線します。( C N 4 0 ) に差し替えた1 台のO C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を電気品箱のアースネジ ( E ) に接続します。

### < c . M A リモコン配線 > 2 リモコンまたはグループ運転しない場合は不要です。

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

2 リモコンとする場合は、I C の端子台 ( T B 1 5 ) の 1 , 2 端子とM A リモコン ( 別売 ) の端子台を接続します。(無極性2線)

接続したM A リモコン ( 別売 ) の主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。

( 設定方法は、「 .4.(2). M A リモコン主従切換スイッチの設定」およびM A リモコンの据付説明書を参照ください。)

M A リモコンは室内ユニットに内蔵されています。

### < d . スイッチ設定 >

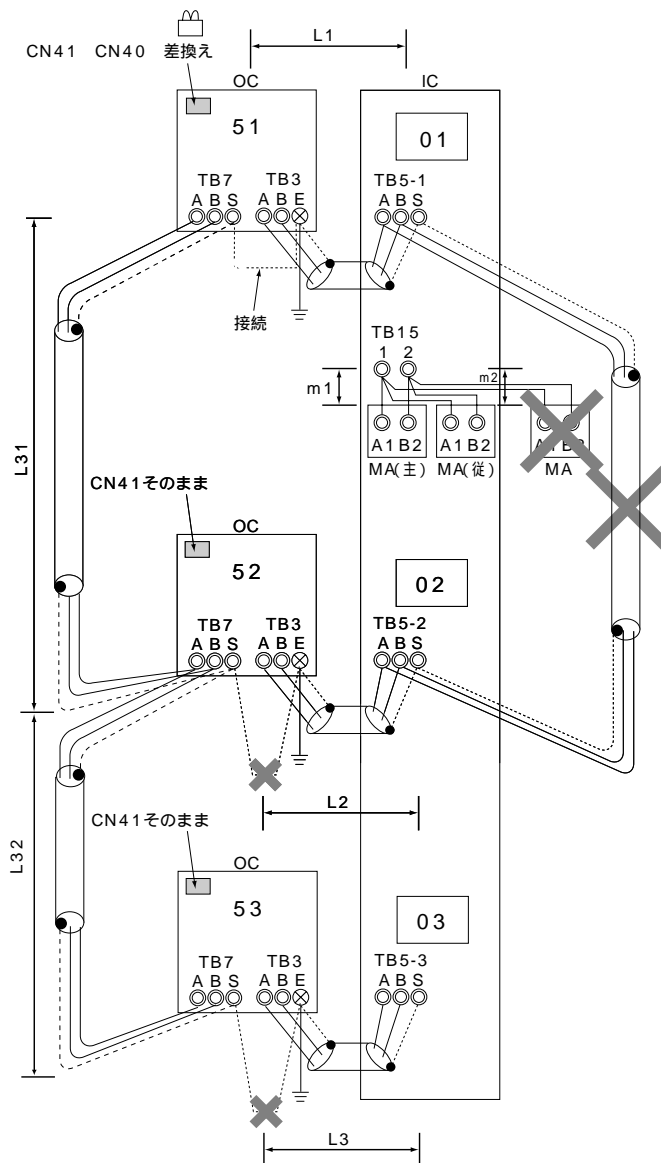
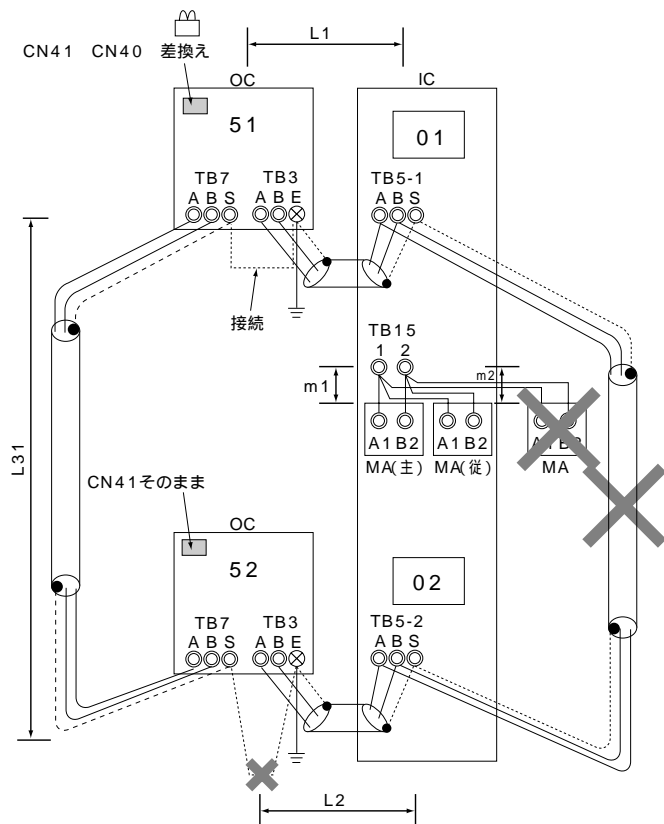
「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P1120～1600M-A, PFAV-P1250～P1600M-A-F)  
 -c.単一冷媒システムの場合

制 御 線 配 線 例

P1120、P1250-F形室内ユニット内には、  
 2枚の室内コントローラ(制御基板)  
 があります。

P1400、P1600、P1600-F形室内ユニット内には、  
 3枚の室内コントローラ(制御基板)が  
 あります。



—シールド線使用例—

禁止事項

1. 室内ユニットアドレスは連番で設定してください。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。
3. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは、.2.(2).の中継コネクタを外してください。
4. 室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。
5. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は、1台の室外ユニットのみで実施してください。

許容長

- < a . 室内外伝送線 >  
 最遠長 ( 1 . 2 5 mm<sup>2</sup>以上 )  
 L1, L2, L3 200 m
- < b . 集中管理用伝送線 >  
 室外ユニットを経由した最遠長 ( 1 . 2 5 mm<sup>2</sup>以上 )  
 L1+L31+L2 500 m  
 L1+L31+L32+L3 500 m
- < c . MAリモコン配線 >  
 総延長 ( 0 . 3 ~ 1 . 2 5 mm<sup>2</sup> )  
 m1 + m2 200 m

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

室外ユニット ( O C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 3 ) の A , B 端子と室内ユニット ( I C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 5 ) の A , B 端子を配線します。( 無極性 2 線 )

伝送線が長い場合やノイズ源がユニットに近接している場合は、シールド線の使用を推奨します。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、 O C のアースネジと、 I C の端子台 ( T B 5 ) の S 端子とを渡り配線します。

### < b . 集中管理用伝送線 >

各 O C の集中管理用伝送線端子台 ( T B 7 ) の A , B 端子を渡り配線します。 1 台の O C のみ、制御基板上の給電切換コネクタ ( C N 4 1 ) を ( C N 4 0 ) に差し替えます。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各 O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を渡り配線します。( C N 4 0 ) に差し替えた 1 台の O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を電気品箱のアースネジ ( E ) に接続します。

### < c . M A リモコン配線 > 2 リモコンまたはグループ運転しない場合は不要です。

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

2 リモコンとする場合は、 I C の端子台 ( T B 1 5 ) の 1 , 2 端子と M A リモコン ( 別売 ) の端子台を接続します。( 無極性 2 線 )

接続した M A リモコン ( 別売 ) の主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。

( 設定方法は、「 . 4 . ( 2 ) . M A リモコン主従切換スイッチの設定 」および M A リモコンの据付説明書を参照ください。 )

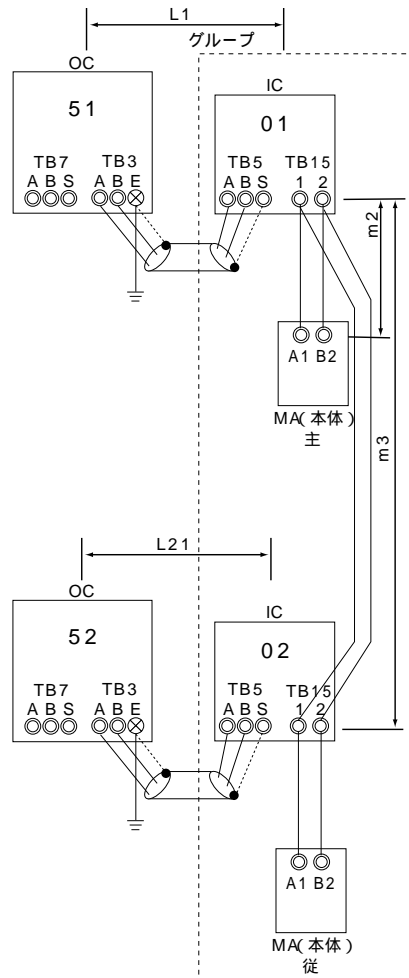
M A リモコンは室内ユニットに内蔵されています。

### < d . スイッチ設定 >

「 . 4 . ( 2 ) . アドレスの設定 」を参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P224 ~ 560M-A, PFAV-P265 ~ 670M-A-F)  
 -a.異冷媒グループピンギ運転の場合

制 御 線 配 線 例



禁止事項	許容長
<p>1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). のコネクタを取外してください。</p> <p>2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台 ( T B 5 ) 同士を接続しないでください。</p>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;                      最遠長 ( 1.25 mm<sup>2</sup>以上 )                      L 1            200 m                      L 2 1         200 m</p> <p>&lt; b . 集中管理伝送線 &gt;                      (1) -aと同様</p> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;                      総延長 ( 0.3 ~ 1.25 mm<sup>2</sup> )                      m 2 + m 3 + m 4    200 m</p>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

室外ユニット ( O C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 3 ) の A、B 端子と各室内ユニット ( I C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 5 ) の A、B 端子を配線します。(無極性2線)

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

(1) -aと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(1) -aと同様

### < c . M A リモコン配線 > 異冷媒グループ運転の場合、必ず一方の室内ユニットのMAリモコンを「従リモコン」に設定してください。

(1) -aと同様

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

(1) -aと同様

#### [ 室内グループ運転の場合 ]

ICをグループ運転する場合は、両方のICの端子台(TB15)の1,2端子同士を接続します。(無極性2線)

一方の室内ユニットのリモコンの主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。

同一グループ内の一番機能が多い室内ユニットのアドレスを01～50の若い番号に設定してください。

### < d . スイッチ設定 >

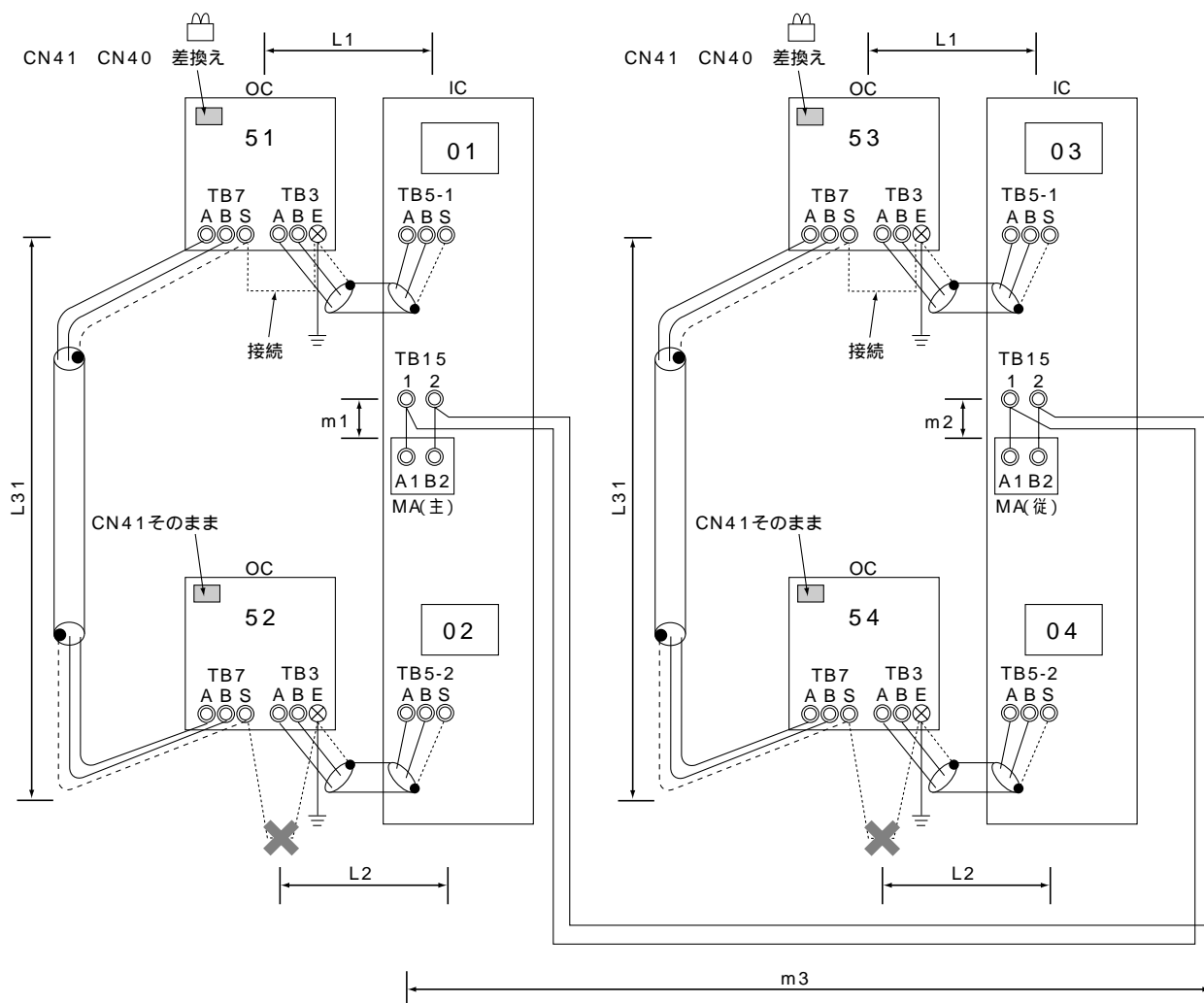
「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。



(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P670 ~ 800M-A, PFAV-P1000M-A-F)  
 -b.異冷媒グループング運転の場合

制 御 線 配 線 例

各室内ユニット内には、2枚の室内コントローラ(制御基板)があります。



禁止事項

1. 室内ユニットアドレスは連番で設定してください。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。
3. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。
4. 室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。
5. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は、1台の室外ユニットのみで実施してください。

許容長

- < a . 室内外伝送線 >
  - (1) -bと同様
- < b . 集中管理伝送線 >
  - (1) -bと同様
- < c . MAリモコン配線 >
 

総延長 ( 0 . 3 ~ 1 . 2 5 m m <sup>2</sup> )

$m_1 + m_2 + m_3$     2 0 0 m

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

室外ユニット(OC)の室内外伝送線用端子台(TB3)のA、B端子と各室内ユニット(IC)の室内外伝送線用端子台(TB5)のA、B端子を配線します。(無極性2線)

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

(1) -bと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(1) -bと同様

### < c . MAリモコン配線 >

異冷媒グループ運転の場合、必ず一方の室内ユニットのMAリモコンを「従リモコン」に設定してください。

(1) -bと同様

#### [ 2リモコン運転の場合 ]

(1) -bと同様

#### [ 室内グループ運転の場合 ]

ICをグループ運転する場合は、両方のICの端子台(TB15)の1,2端子同士を接続します。(無極性2線)

一方の室内ユニットのリモコンの主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。

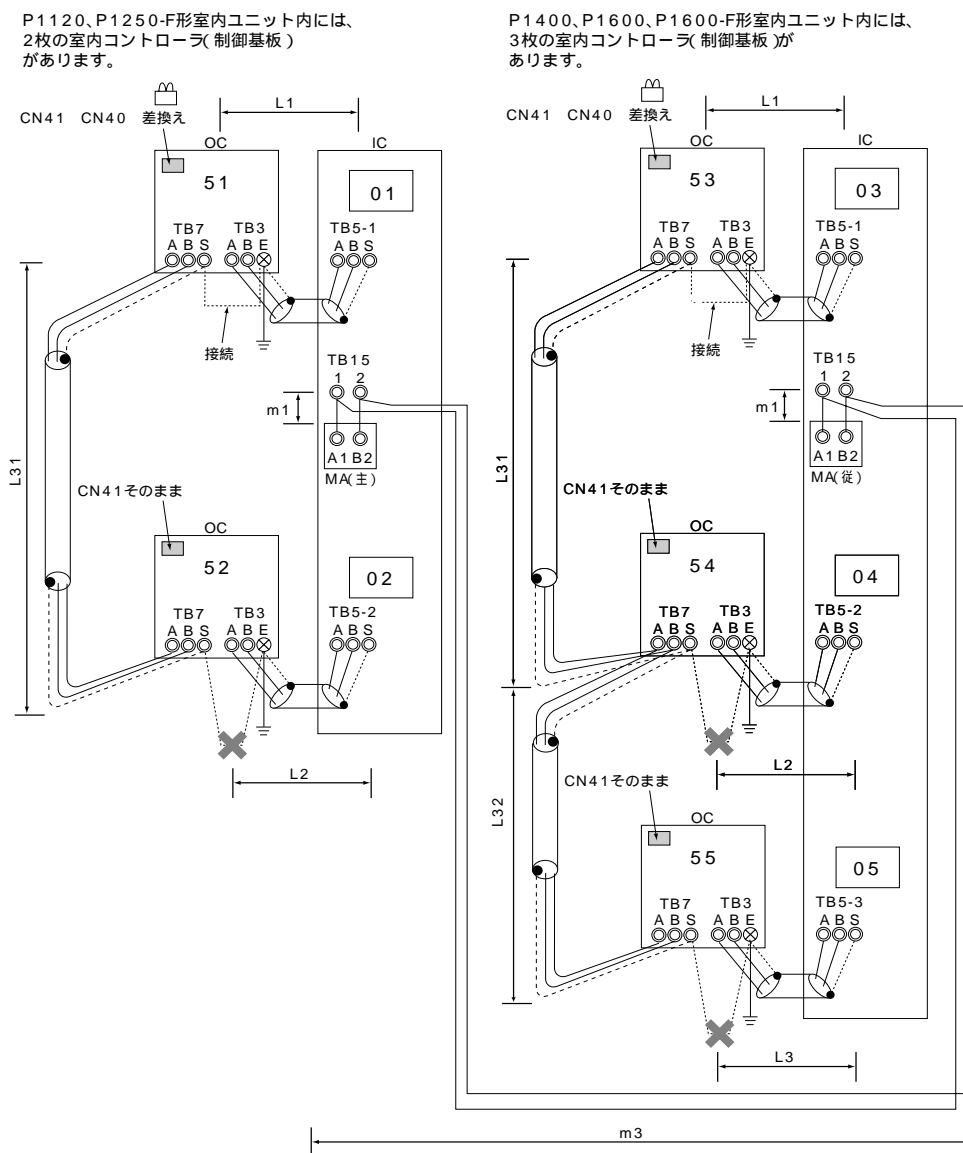
同一グループ内の一番機能が多い室内ユニットのアドレスを01～50の若い番号に設定してください。

### < d . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P1120 ~ 1600M-A, PFAV-P1250 ~ P1600M-A-F)  
 -c.異冷媒グループリング運転の場合

制御線配線例



禁止事項

1. 室内ユニットアドレスは順番で設定してください。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。
3. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。
4. 室外ユニットの給電切替コネクタ(CN41)の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。
5. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は、1台の室外ユニットのみで実施してください。

許容長

- < a . 室内外伝送線 >
  - (1) -cと同様
- < b . 集中管理伝送線 >
  - (1) -cと同様
- < c . MAリモコン配線 >
  - 総延長(0.3 ~ 1.25 mm<sup>2</sup>)
  - $m1 + m2 + m3$  200m

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

室外ユニット ( O C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 3 ) の A、B 端子と各室内ユニット ( I C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 5 ) の A、B 端子を配線します。(無極性2線)

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

(1) -cと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(1) -cと同様

### < c . M A リモコン配線 >

異冷媒グループ運転の場合、必ず一方の室内ユニットのMAリモコンを「従リモコン」に設定してください。

(1) -cと同様

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

(1) -cと同様

#### [ 室内グループ運転の場合 ]

ICをグループ運転する場合は、両方のICの端子台(TB15)の1,2端子同士を接続します。(無極性2線)

一方の室内ユニットのリモコンの主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。

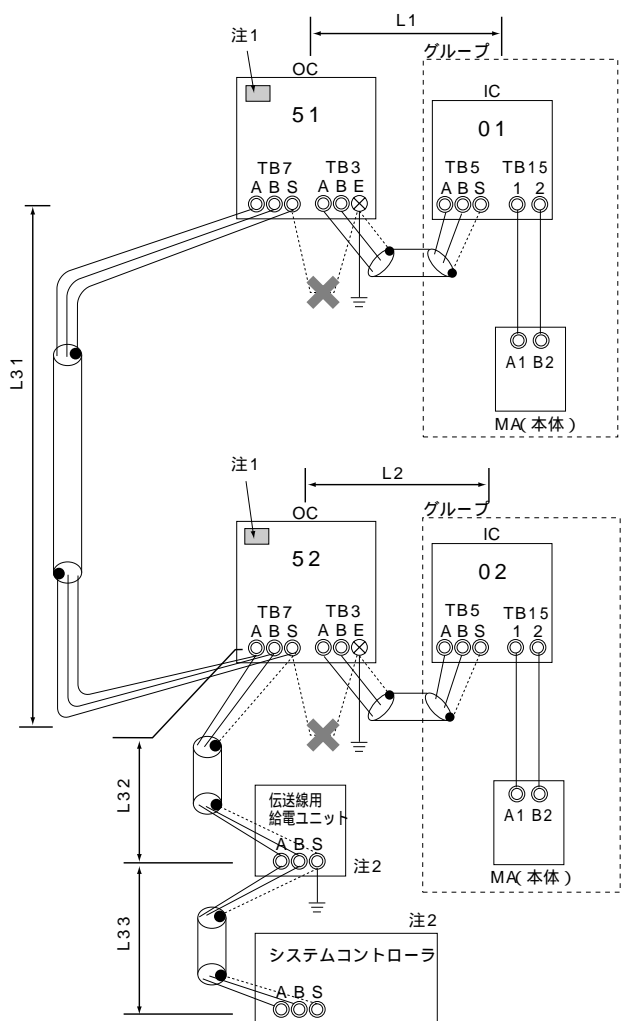
同一グループ内の一番機能が多い室内ユニットのアドレスを01～50の若い番号に設定してください。

### < d . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P224～560M-A, PFAV-P265～670M-A-F)  
 -a.集中管理用伝送線にシステムコントローラを接続した場合(1グループ室内ユニット1台管理した場合)

制御線配線例



注1 CN41はそのまま、SW2-1はOFF ON。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は、SW2-1は“OFF”のままとしてください。  
 注2 LMアダプターには、電源単相AC200Vが必要です。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は伝送線用給電ユニットが不要ですが、LMアダプターの給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えてください。

禁止事項	許容長
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). のコネクタを取外してください。</li> <li>2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。</li> <li>3. 室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)はそのままにしてください。</li> <li>4. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は不要です。</li> </ol>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;</p> <p>(1) -aと同様</p> <p>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;</p> <p>室外ユニットを経由した最遠長(1.25mm<sup>2</sup>以上)</p> <p><math>L33 + L32 + L31 + L1</math>      500m</p> <p><math>L33 + L32 + L2</math>            500m</p> <p><math>L1 + L2 + L31</math>            500m</p> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;</p> <p>(1) -aと同様</p>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -aと同様

#### [ シールド線の処理 ]

(1) -aと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

各室外ユニット ( O C ) の集中管理用伝送線端子台 ( T B 7 ) の A , B 端子を渡り配線します。

全 O C の制御基板上の集中管理スイッチ ( S W 2 - 1 ) を “ O N ” に設定します。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各 O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を渡り配線します。

システムコントローラの給電装置の S 端子をアース接地してください。

給電装置からアース接地できない場合は、1台の室外ユニットの端子台 ( T B 7 ) の S 端子を電気品箱のアースネジ ( E ) に接続してください。

### < c . M A リモコン配線 >

(1) -aと同様

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

(1) -aと同様

#### [ 室内グループ運転の場合 ]

(1) -aと同様

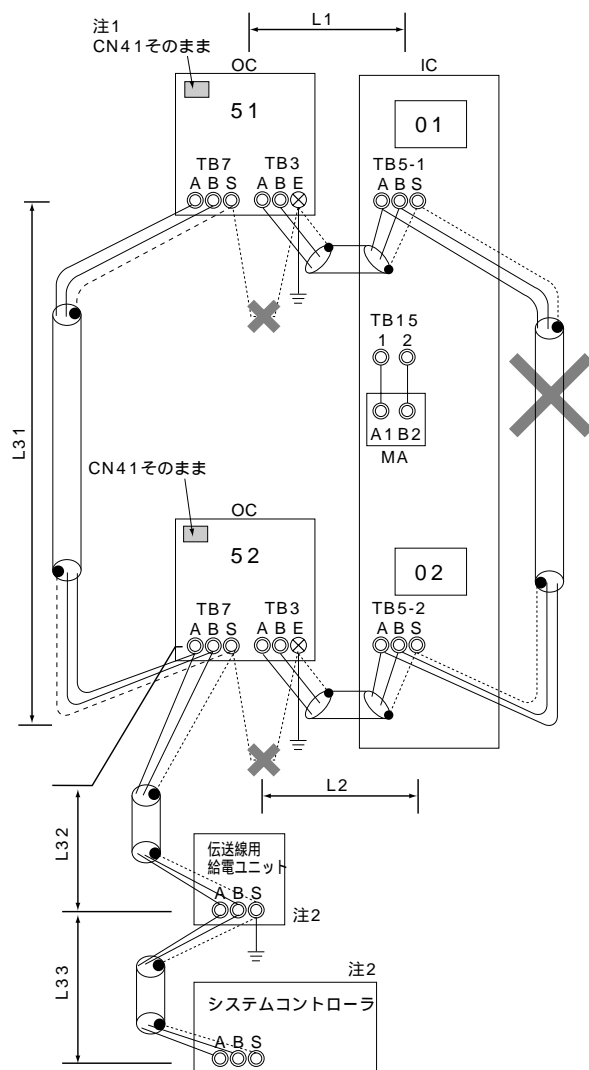
### < d . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P670～800M-A, PFAV-P1000M-A-F)

-b.集中管理用伝送線にシステムコントローラを接続した場合(1グループ室内ユニット1台管理した場合)

制御線配線例



P1120形室内ユニット内には2枚、  
P1400、P1600形室内ユニット内には3枚の  
室内コントローラ(制御基板)があります。

注1 CN41はそのまま、SW2-1はOFF ON。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は、SW2-1は“OFF”のままとしてください。  
注2 LMアダプターには、電源単相AC200Vが必要です。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は伝送線用給電ユニットが不要ですが、LMアダプターの給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えてください。

禁止事項	許容長						
<ol style="list-style-type: none"> <li>室内ユニットアドレスは連番で設定してください。</li> <li>異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。</li> <li>室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)はそのままにしてください。</li> <li>室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は不要です。</li> </ol>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;</p> <p>(1) -bと同様</p> <p>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;</p> <p>室外ユニットを経由した最遠長(1.25mm<sup>2</sup>以上)</p> <table border="0"> <tr> <td><math>L33 + L32 + L31 + L1</math></td> <td>500m</td> </tr> <tr> <td><math>L33 + L32 + L2</math></td> <td>500m</td> </tr> <tr> <td><math>L1 + L2 + L31</math></td> <td>500m</td> </tr> </table> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;</p> <p>(1) -bと同様</p>	$L33 + L32 + L31 + L1$	500m	$L33 + L32 + L2$	500m	$L1 + L2 + L31$	500m
$L33 + L32 + L31 + L1$	500m						
$L33 + L32 + L2$	500m						
$L1 + L2 + L31$	500m						

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -bと同様

#### [ シールド線の処理 ]

(1) -bと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

各室外ユニット ( O C ) の集中管理用伝送線端子台 ( T B 7 ) の A , B 端子を渡り配線します。

全 O C の制御基板上的集中管理スイッチ ( S W 2 - 1 ) を “ O N ” に設定します。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各 O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を渡り配線します。

システムコントローラの給電装置の S 端子をアース接地してください。

給電装置からアース接地できない場合は、1台の室外ユニットの端子台 ( T B 7 ) の S 端子を電気品箱のアースネジ ( E ) に接続してください。

### < c . M A リモコン配線 >

(1) -bと同様

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

(1) -bと同様

#### [ 室内グループ運転の場合 ]

(1) -bと同様

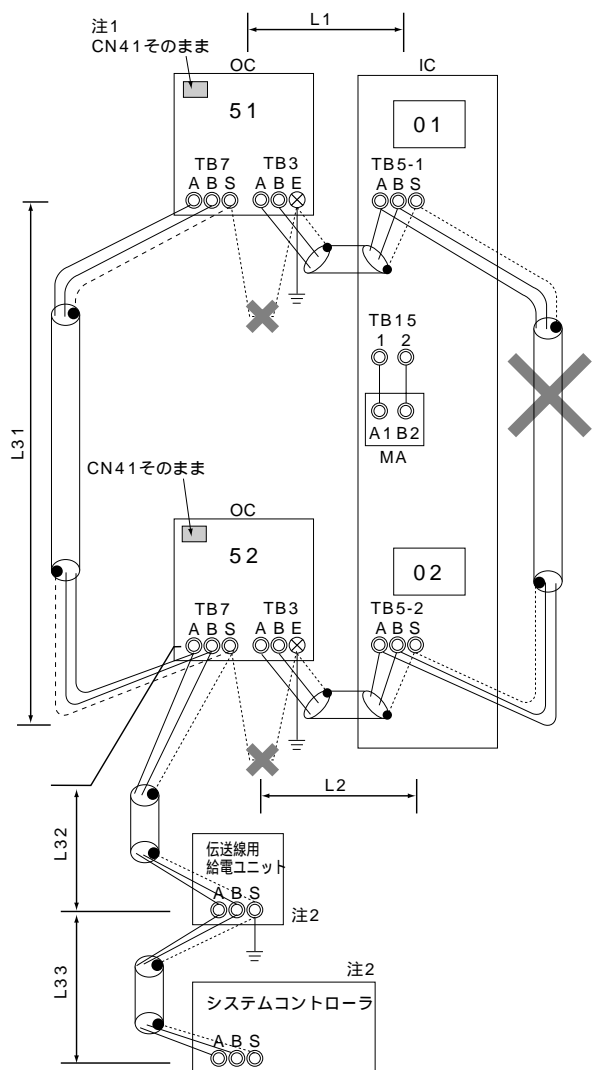
### < d . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。



(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P1120～1600M-A, PFAV-P1250～P1600M-A-F)  
 -c.集中管理用伝送線にシステムコントローラを接続した場合(1グループ室内ユニット1台管理した場合)

制御線配線例



P1120、P1250-F形室内ユニット内には2枚、  
 P1400、P1600、P1600-F形室内ユニット内には3枚の  
 室内コントローラ(制御基板)があります。

注1 CN41はそのまま、SW2-1はOFF ON。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は、SW2-1は"OFF"のままとしてください。  
 注2 LMアダプターには、電源単相AC200Vが必要です。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は伝送線用給電ユニットが不要ですが、  
 LMアダプターの給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えてください。

禁止事項	許容長
<ol style="list-style-type: none"> <li>室内ユニットアドレスは連番で設定してください。</li> <li>異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。</li> <li>室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)はそのままにしてください。</li> <li>室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は不要です。</li> </ol>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;</p> <p>(1) -cと同様</p> <p>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;</p> <p>室外ユニットを経由した最遠長(1.25mm<sup>2</sup>以上)</p> <p><math>L33 + L32 + L31 + L1</math>      500m</p> <p><math>L33 + L32 + L2</math>          500m</p> <p><math>L1 + L2 + L31</math>            500m</p> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;</p> <p>(1) -cと同様</p>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -cと同様

#### [ シールド線の処理 ]

(1) -cと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

各室外ユニット ( O C ) の集中管理用伝送線端子台 ( T B 7 ) の A , B 端子を渡り配線します。

全 O C の制御基板上の集中管理スイッチ ( S W 2 - 1 ) を “ O N ” に設定します。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各 O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を渡り配線します。

システムコントローラの給電装置の S 端子をアース接地してください。

給電装置からアース接地できない場合は、1台の室外ユニットの端子台 ( T B 7 ) の S 端子を電気品箱のアースネジ ( E ) に接続してください。

### < c . M A リモコン配線 >

(1) -cと同様

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

(1) -cと同様

#### [ 室内グループ運転の場合 ]

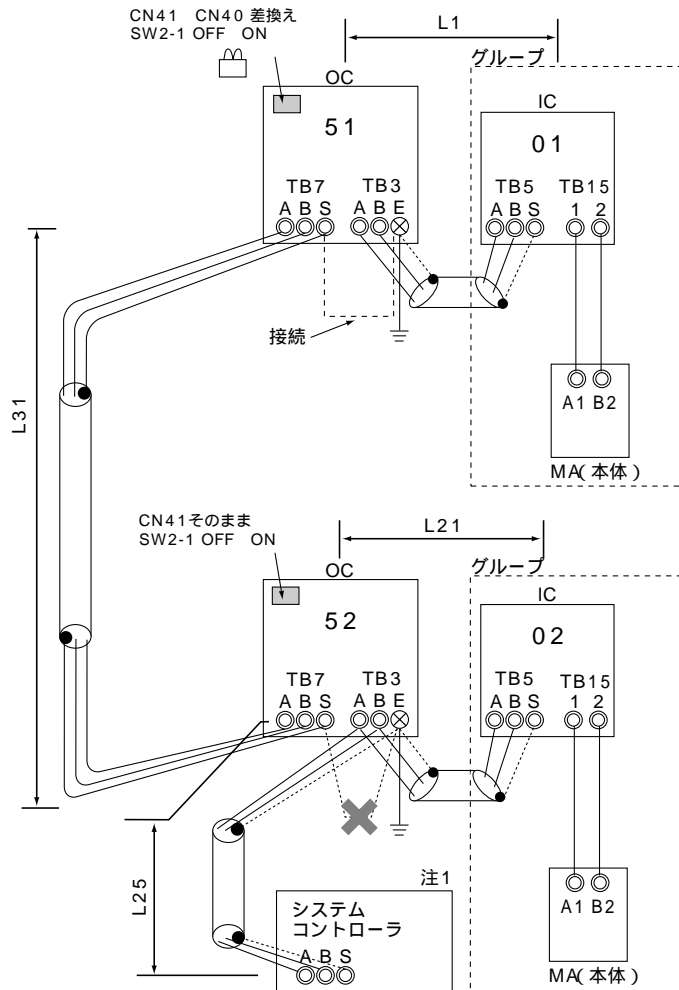
(1) -cと同様

### < d . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P224 ~ 560M-A, PFAV-P265 ~ 670M-A-F)  
 -a.室内外伝送線にシステムコントローラを接続した場合 (LMアダプターを除く)

制 御 線 配 線 例



禁止事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). のコネクタを取外してください。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台 (TB5) 同士を接続しないでください。
3. 室外ユニットの給電切換コネクタ (CN41) の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。
4. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台 (TB7) のS端子のアース処理は1台の室外ユニットのみで実施してください。
5. 室内外伝送線に接続できるシステムコントローラは最大3台です。

許容長

- < a . 室内外伝送線 >  
 最遠長 ( 1.25mm<sup>2</sup>以上 )  
 L 1                    200m  
 L 2 1                  200m  
 L 2 5                  200m
- < b . 集中管理用伝送線 >  
 室外ユニットを経由した最遠長 ( 1.25mm<sup>2</sup>以上 )  
 L 2 5 + L 3 1 + L 1    500m  
 L 1 + L 3 1 + L 2 1    500m
- < c . MAリモコン配線 >  
 (1) -aと同様

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

室外ユニット ( O C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 3 ) の A , B 端子と各室内ユニット ( I C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 5 ) の A , B 端子、及びシステムコントローラの A , B 端子を渡り配線します。( 無極性 2 線 )

必ず、シールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、 O C のアースネジと、 I C の端子台 ( T B 5 ) の S 端子、及びシステムコントローラの S 端子とを渡り配線します。

### < b . 集中管理用伝送線 >

各 O C の集中管理用伝送線端子台 ( T B 7 ) の A , B 端子を渡り配線します。 1 台の O C のみ、制御基板上的給電切換コネクタ ( C N 4 1 ) を ( C N 4 0 ) に差し替えます。全 O C の制御基板上的集中管理スイッチ ( S W 2 - 1 ) を “ O N ” に設定します。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各 O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を渡り配線します。( C N 4 0 ) に差し替えた 1 台の O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を電気品箱のアースネジ ( E ) に接続します。

### < c . M A リモコン配線 >

( 1 ) - a と同様

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

( 1 ) - a と同様

#### [ 室内グループ運転の場合 ]

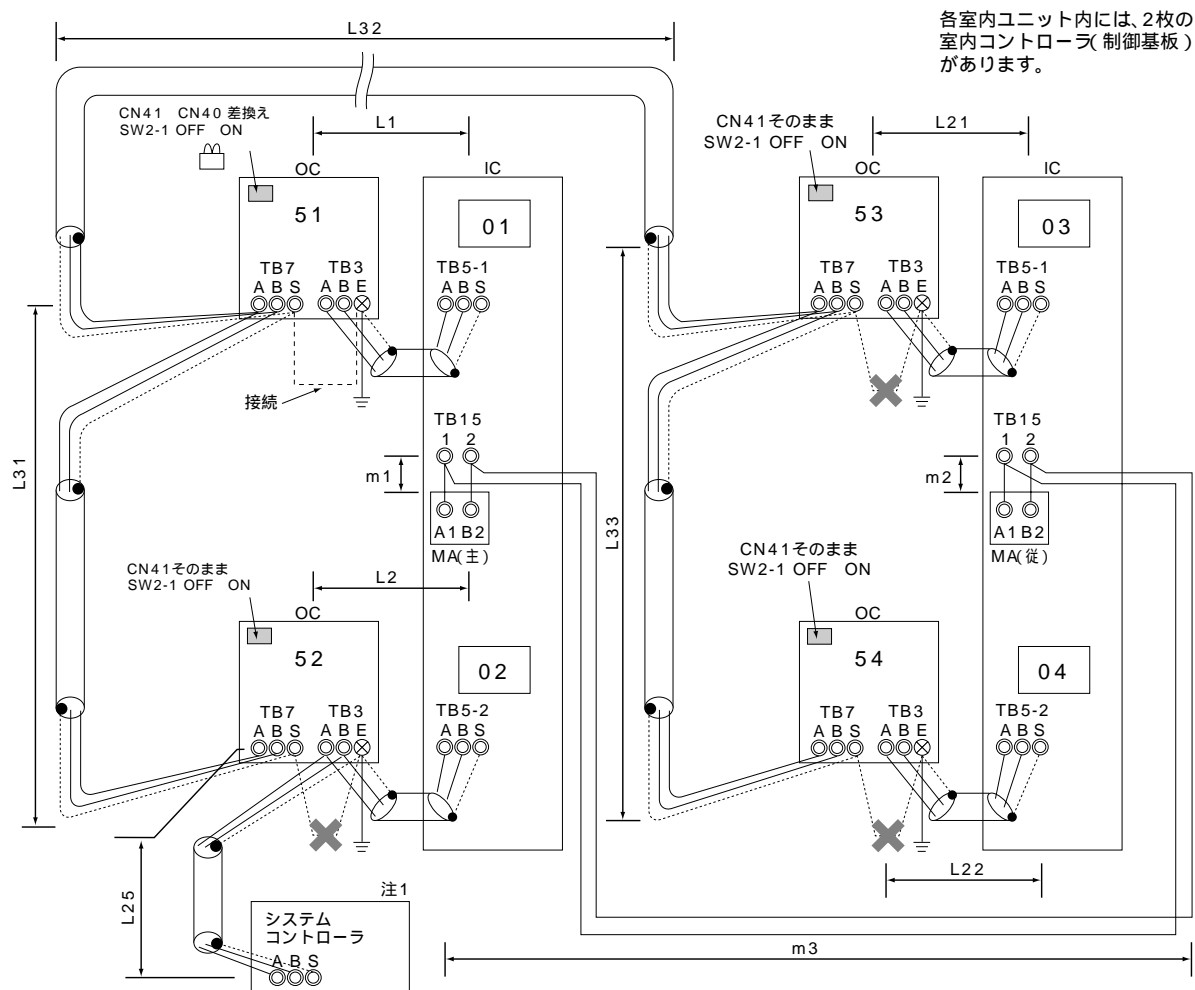
( 1 ) - a と同様

### < d . スイッチ設定 >

「 . 4.( 2). アドレスの設定」を参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P670~800M-A, PFAV-P1000M-A-F)  
 -b.室内外伝送線にシステムコントローラを接続した場合(LMアダプターを除く)

制御線配線例



禁止事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。
3. 室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。
4. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は1台の室外ユニットのみで実施してください。
5. 室内外伝送線に接続できるシステムコントローラは最大3台です。

許容長

- < a . 室内外伝送線 >  
 最遠長 ( 1.25mm<sup>2</sup>以上 )  
 L 1 , L 2            200m  
 L 2 1 , L 2 2        200m  
 L 2 5                200m
- < b . 集中管理用伝送線 >  
 室外ユニットを経由した最遠長 ( 1.25mm<sup>2</sup>以上 )  
 L 2 5 + L 3 1 + L 1     500m  
 L 1 + L 3 1 + L 2        500m  
 L 2 5 + L 3 1 + L 3 2 + L 3 3 + L 2 2    500m  
 L 2 + L 3 1 + L 3 2 + L 3 3 + L 2 2    500m
- < c . MAリモコン配線 >  
 (1) -bと同様

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

室外ユニット ( O C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 3 ) の A , B 端子と各室内ユニット ( I C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 5 ) の A , B 端子、及びシステムコントローラの A , B 端子を渡り配線します。(無極性 2 線)

必ず、シールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、O C のアースネジと、I C の端子台 ( T B 5 ) の S 端子、及びシステムコントローラの S 端子とを渡り配線します。

### < b . 集中管理用伝送線 >

各 O C の集中管理用伝送線端子台 ( T B 7 ) の A , B 端子を渡り配線します。1 台の O C のみ、制御基板上的給電切換コネクタ ( C N 4 1 ) を ( C N 4 0 ) に差し替えます。全 O C の制御基板上的集中管理スイッチ ( S W 2 - 1 ) を “ O N ” に設定します。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各 O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を渡り配線します。( C N 4 0 ) に差し替えた 1 台の O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を電気品箱のアースネジ ( E ) に接続します。

### < c . M A リモコン配線 >

異冷媒グループینگ運転の場合、必ず一方の室内ユニットの M A リモコンを「従リモコン」に設定してください。

(1) -b と同様

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

(1) -b と同様

#### [ 室内グループ運転の場合 ]

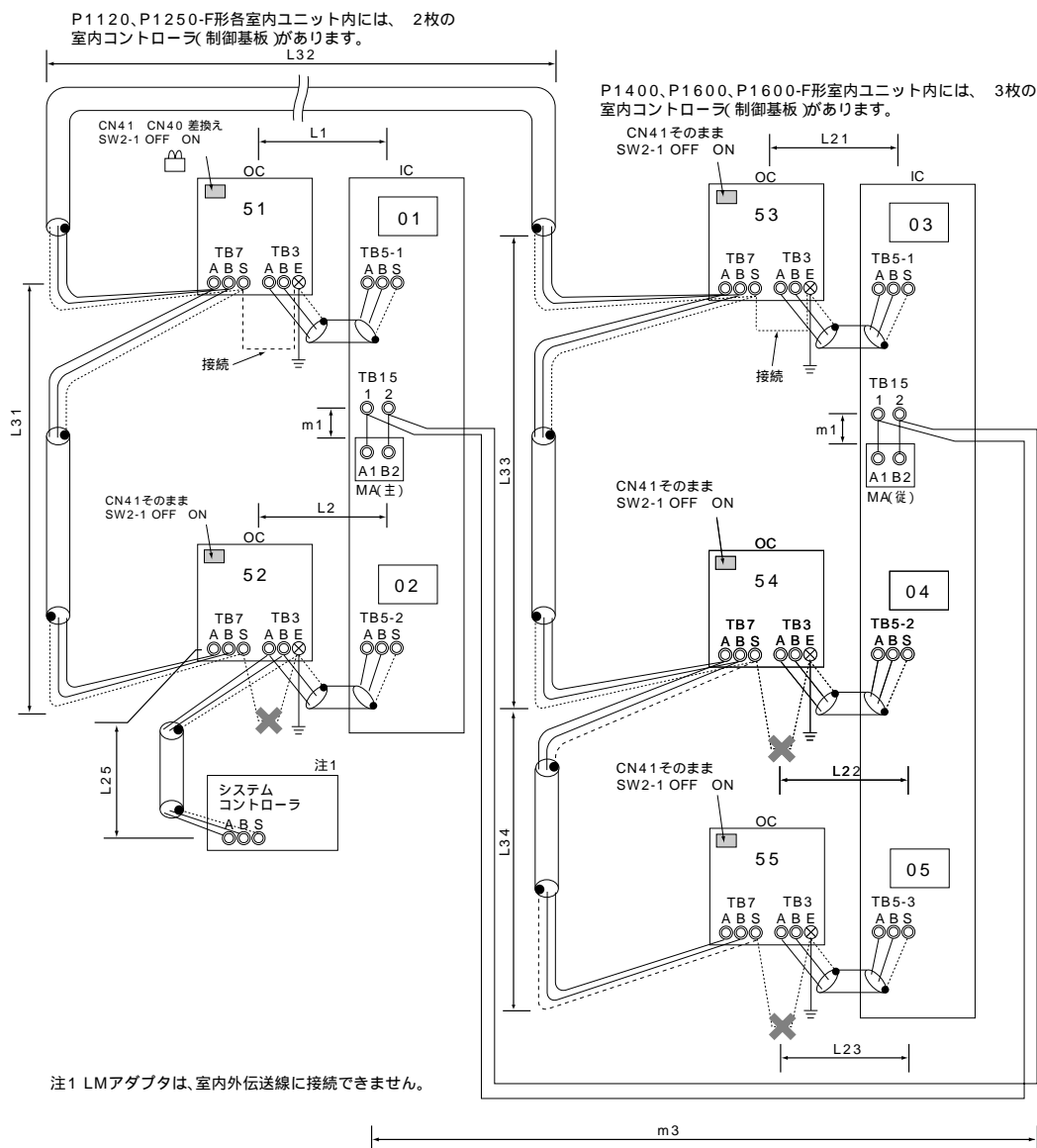
(1) -b と同様

### < d . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム(PFAV-P1120～1600M-A, PFAV-P1250～P1600M-A-F)  
 -c.室内外伝送線にシステムコントローラを接続した場合(LMアダプターを除く)

制御線配線例



禁止事項	許容長
<ol style="list-style-type: none"> <li>同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。</li> <li>異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。</li> <li>室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。</li> <li>室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は1台の室外ユニットのみで実施してください。</li> <li>室内外伝送線に接続できるシステムコントローラは最大3台です。</li> </ol>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;                      最遠長 ( 1.25mm<sup>2</sup>以上 )</p> <p>L 1 , L 2 ,                    200 m                      L 2 1 , L 2 2 , L 2 3        200 m                      L 2 5                            200 m</p> <p>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;                      室外ユニットを經由した最遠長 ( 1.25mm<sup>2</sup>以上 )</p> <p>L 2 5 + L 3 1 + L 1            500 m                      L 1 + L 3 1 + L 2            500 m                      L 2 5 + L 3 1 + L 3 2 + L 3 3 + L 3 4 + L 2 3    500 m                      L 2 + L 3 1 + L 3 2 + L 3 3 + L 3 4 + L 2 3    500 m</p> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;                      (1) -cと同様</p>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

室外ユニット ( O C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 3 ) の A , B 端子と各室内ユニット ( I C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 5 ) の A , B 端子、及びシステムコントローラの A , B 端子を渡り配線します。( 無極性 2 線 )

必ず、シールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、O C のアースネジと、I C の端子台 ( T B 5 ) の S 端子、及びシステムコントローラの S 端子とを渡り配線します。

### < b . 集中管理用伝送線 >

各 O C の集中管理用伝送線端子台 ( T B 7 ) の A , B 端子を渡り配線します。1 台の O C のみ、制御基板上的給電切換コネクタ ( C N 4 1 ) を ( C N 4 0 ) に差し替えます。全 O C の制御基板上的集中管理スイッチ ( S W 2 - 1 ) を “ O N ” に設定します。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各 O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を渡り配線します。( C N 4 0 ) に差し替えた 1 台の O C の端子台 ( T B 7 ) の S 端子を電気品箱のアースネジ ( E ) に接続します。

### < c . M A リモコン配線 >

異冷媒グループ運転の場合、必ず一方の室内ユニットの M A リモコンを「従リモコン」に設定してください。

( 1 ) -c と同様

#### [ 2 リモコン運転の場合 ]

( 1 ) -c と同様

#### [ 室内グループ運転の場合 ]

( 1 ) -c と同様

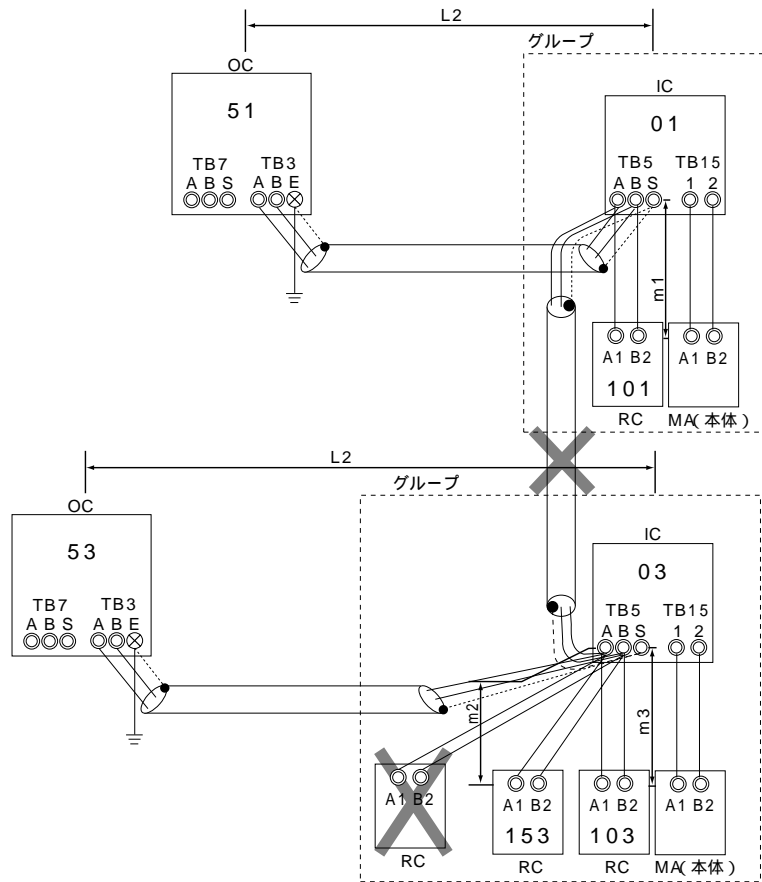
### < d . スイッチ設定 >

「 . 4 . ( 2 ) . アドレスの設定 」を参照ください。



(2)MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム(PFAV-P224 ~ 560M-A, PFAV-P265 ~ 670M-A-F)  
 -a.単一冷媒システムの場合

制御線配線例



—シールド線使用例—

禁止事項	許容長
<p>1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。</p> <p>2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). のコネクタを取外してください。</p> <p>3. 異冷媒室内ユニットのTB5の渡り配線は禁止です。</p>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;                      (1) -aと同様</p> <p>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;                      接続不要です。</p> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;                      (1) -aと同様</p> <p>&lt; d . M-NETリモコン配線 &gt;                      総延長 ( 0.3 ~ 0.75 mm<sup>2</sup> )                      m 1            10 m                      m 2 + m 3    10 m</p> <p>注. 但し、10mを超える場合は、配線径を 1.25 mm<sup>2</sup> とし、                      &lt; a. 室内外伝送線 &gt; の内数としてください。</p>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -aと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -aと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

接続不要です。

### < c . MAリモコン配線 >

(1) -aと同様

### < d . M - N E T リモコン配線 >

室内ユニット ( I C ) の室内外伝送線用端子台 ( T B 5 ) の A , B 端子をそれぞれ M - N E T リモコン ( R C ) の端子台に接続します ( 無極性 2 線 ) 。

[ 2 リモコン運転の場合 ]

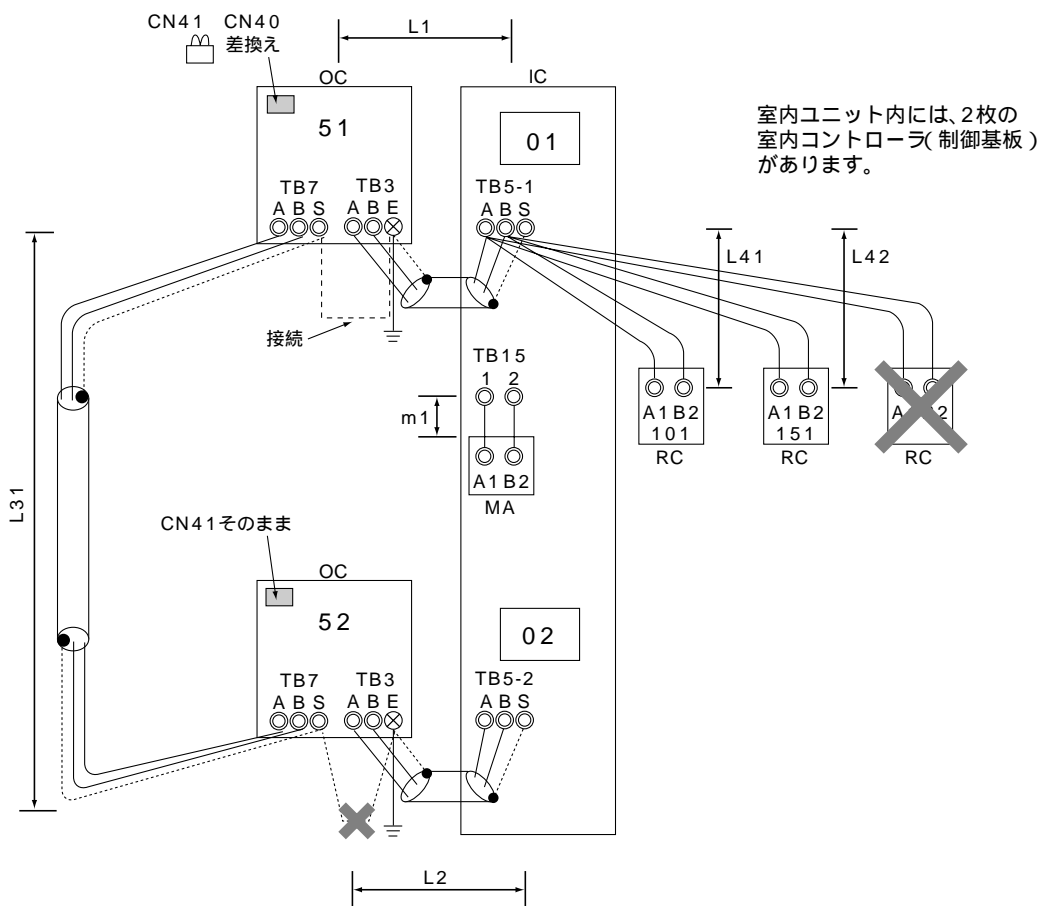
2 リモコンとする場合は、 I C の端子台 ( T B 5 ) の A , B 端子と 2 つの R C の端子台をそれぞれ接続します。

### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(2)MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム(PFAV-P670~800M-A, PFAV-P1000M-A-F)  
 -b.単一冷媒システムの場合

制 御 線 配 線 例



—シールド線使用例—

禁止事項	許容長
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。</li> <li>2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。</li> <li>3. 異冷媒室内ユニットのTB5の渡り配線は禁止です。</li> <li>4. 室外ユニットの給電切換コネクタ (CN41) の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。</li> <li>5. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台 (TB7) のS端子のアース処理は1台の室外ユニットのみで実施してください。</li> </ol>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;                      (1) -bと同様</p> <p>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;                      (1) -bと同様</p> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;                      (1) -bと同様</p> <p>&lt; d . M-NETリモコン配線 &gt;                      総延長 ( 0.3 ~ 1.25 mm<sup>2</sup> )                      L41 + L42    10m</p> <p>注. 但し、10mを超える場合は、                      &lt; a . 室内外伝送線 &gt; の内数としてください。</p>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -bと同様

#### [ シールド線の処理 ]

(1) -bと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

各OCの集中管理用伝送線端子台(TB7)のA, B端子を渡り配線します。1台のOCのみ、制御基板上の給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えます。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各OCの端子台(TB7)のS端子を渡り配線します。(CN40)に差し替えた1台のOCの端子台(TB7)のS端子を電気品箱のアースネジ(E)に接続します。

### < c . MAリモコン配線 >

(1) -bと同様

### < d . M - NETリモコン配線 >

室内ユニット(IC)の室内外伝送線用端子台(TB5)のA, B端子をそれぞれM - NETリモコン(RC)の端子台に接続します(無極性2線)。

#### [ 2リモコン運転の場合 ]

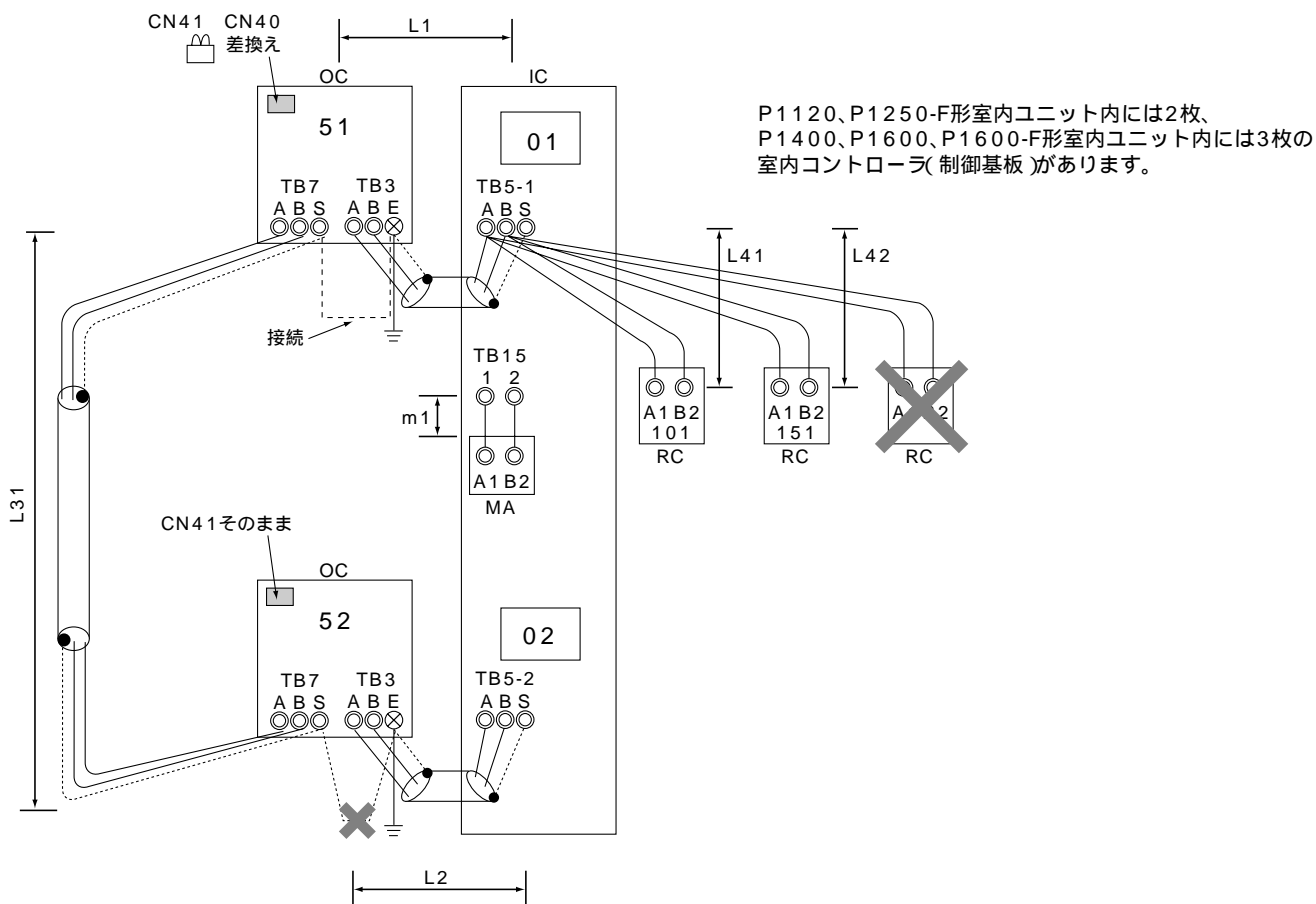
2リモコンとする場合は、ICの端子台(TB5)のA, B端子と2つのRCの端子台をそれぞれ接続します。

### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(2)MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム(PFAV-P1120~1600M-A, PFAV-P1250~P1600M-A-F)  
 -c.単一冷媒システムの場合

制御線配線例



—シールド線使用例—

禁止事項	許容長
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。</li> <li>2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。</li> <li>3. 異冷媒室内ユニットのTB5の渡り配線は禁止です。</li> <li>4. 室外ユニットの給電切換コネクタ (CN41) の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。</li> <li>5. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台 (TB7) のS端子のアース処理は1台の室外ユニットのみで実施してください。</li> </ol>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;                      (1) -cと同様</p> <p>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;                      (1) -cと同様</p> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;                      (1) -cと同様</p> <p>&lt; d . M-NETリモコン配線 &gt;                      総延長 ( 0.3 ~ 1.25 mm<sup>2</sup> )                      L41 + L42 10m</p> <p>注. 但し、10mを超える場合は、                      &lt; a . 室内外伝送線 &gt; の内数としてください。</p>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -cと同様

#### [ シールド線の処理 ]

(1) -cと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

各OCの集中管理用伝送線端子台(TB7)のA, B端子を渡り配線します。1台のOCのみ、制御基板上の給電切替コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えます。

必ずシールド線をご使用ください。

#### [ シールド線の処理 ]

シールド線のアースは、各OCの端子台(TB7)のS端子を渡り配線します。(CN40)に差し替えた1台のOCの端子台(TB7)のS端子を電気品箱のアースネジ(E)に接続します。

### < c . MAリモコン配線 >

(1) -cと同様

### < d . M - NETリモコン配線 >

室内ユニット(IC)の室内外伝送線用端子台(TB5)のA, B端子をそれぞれM - NETリモコン(RC)の端子台に接続します(無極性2線)。

#### [ 2リモコン運転の場合 ]

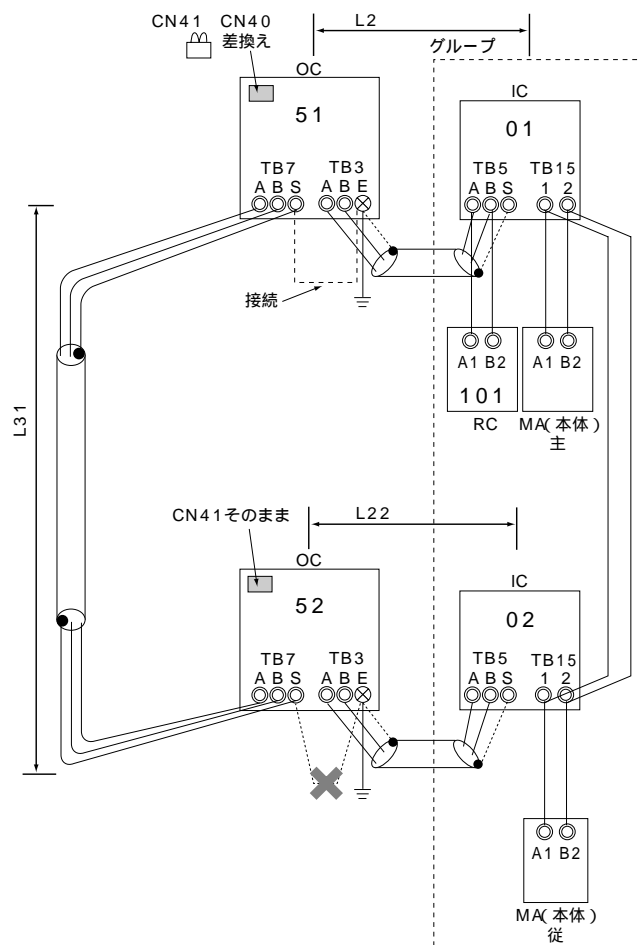
2リモコンとする場合は、ICの端子台(TB5)のA, B端子と2つのRCの端子台をそれぞれ接続します。

### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(2)MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム(PFAV-P224 ~ 560M-A, PFAV-P265 ~ 670M-A-F)  
 -a.異冷媒グループング運転の場合

制御線配線例



禁止事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台 (TB5) 同士を接続しないでください。
3. 室外ユニットの給電切換コネクタ (CN41) の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。
4. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台 (TB7) のS端子のアーチ処理は、1台の室外ユニットのみで実施してください。
5. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). のコネクタを取外してください。

許容長

- < a . 室内外伝送線 >
  - (1) -aと同様
- < b . 集中管理用伝送線 >
  - (1) -aと同様
- < c . MAリモコン配線 >
  - (1) -aと同様
- < d . M-NETリモコン配線 >
  - (2) -aと同様

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -aと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -aと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(1) -aと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -aと同様

### < c . MAリモコン配線 > 異冷媒グループ運転の場合、必ず一方の室内ユニットのMAリモコンを「従リモコン」に設定してください。

(1) -aと同様

### < d . M - N E Tリモコン配線 >

(2) -aと同様

[ 2リモコン運転の場合 ]

(2) -aと同様

[ 室内グループ運転の場合 ]

ICをグループ運転する場合は、同一グループとするICの親機ICの端子台 (TB5)のA,B端子とRCの端子台を接続します (無極性2線)。

M-NETリモコンは、室内外伝送線上のどこにでも接続可能です。

機能が異なる室内ユニットを同一グループ運転する場合は、同一グループ内の一番機能が多い室内ユニットを親機としてください。

異冷媒にまたがる室内グループのM-NETリモコンは、室内ユニットの親機と同じ系統の室内外伝送線に接続してください。

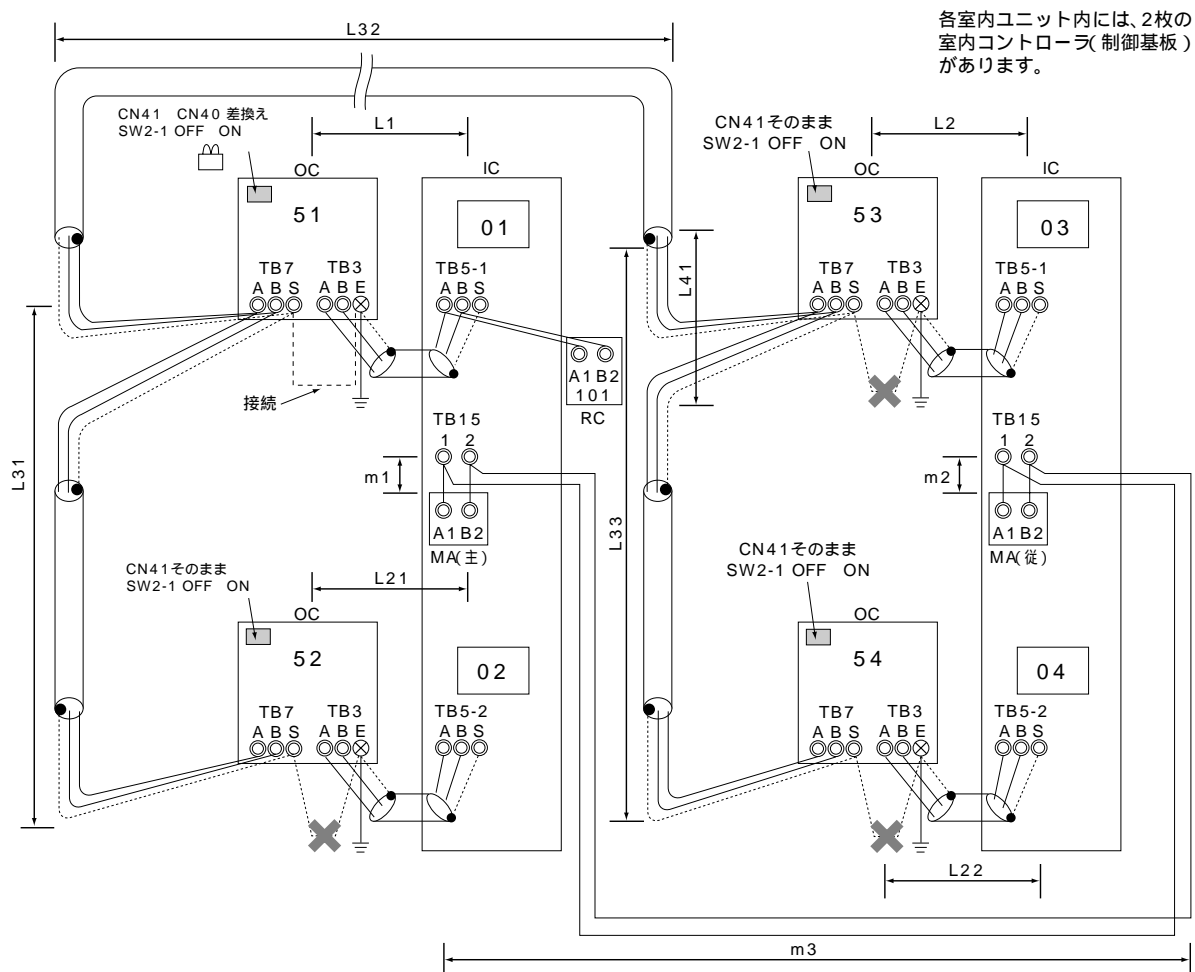
### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。



(2)MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム(PFAV-P670～800M-A, PFAV-P1000M-A-F)  
 -b.異冷媒グループing運転の場合

制御線配線例



注1 LMアダプタは、室内外伝送線に接続できません。

禁止事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。
3. 室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。
4. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は、1台の室外ユニットのみで実施してください。
5. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。

許容長

- < a . 室内外伝送線 >
  - (1) -bと同様
- < b . 集中管理用伝送線 >
  - (1) -bと同様
- < c . MAリモコン配線 >
  - (1) -bと同様
- < d . M-NETリモコン配線 >
  - (2) -bと同様

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -bと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -bと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(2) -bと同様

[ シールド線の処理 ]

(2) -bと同様

### < c . MAリモコン配線 >

異冷媒グループリング運転の場合、必ず一方の室内ユニットのMAリモコンを「従リモコン」に設定してください。

(1) -bと同様

### < d . M - N E Tリモコン配線 >

(2) -bと同様

[ 2リモコン運転の場合 ]

(2) -bと同様

[ 室内グループ運転の場合 ]

ICをグループ運転する場合は、同一グループとする ICの親機ICの端子台 (TB5)のA,B端子と RCの端子台を接続します (無極性2線)。

M-NETリモコンは、室内外伝送線のどこにでも接続可能です。

機能が異なる室内ユニットを同一グループ運転する場合は、同一グループ内の一番機能が多い室内ユニットを親機としてください。

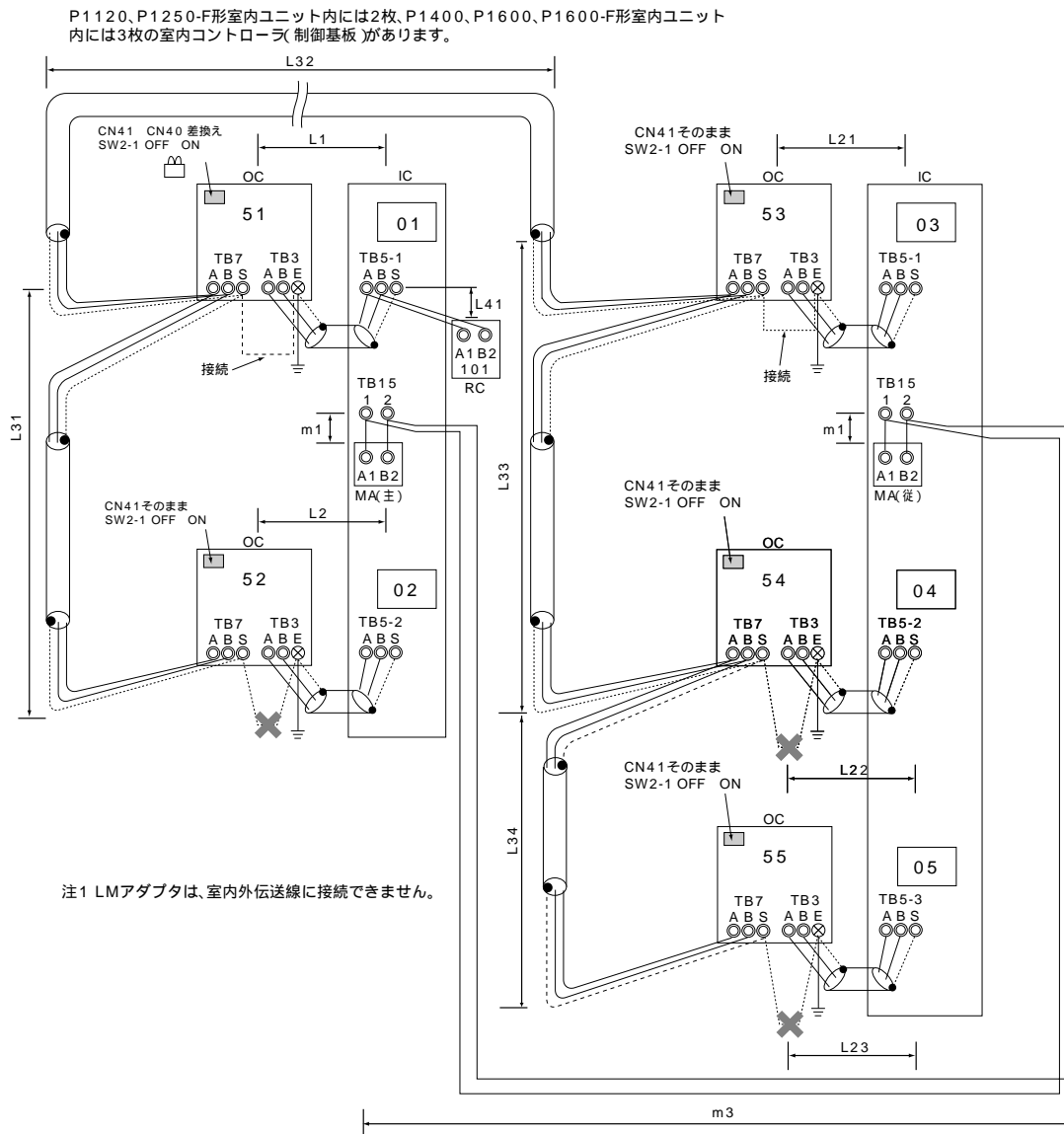
異冷媒にまたがる室内グループのM-NETリモコンは、室内ユニットの親機と同じ系統の室内外伝送線に接続してください。

### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(2)MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム(PFAV-P1120~1600M-A, PFAV-P1250~1600M-A-F)  
 -c.異冷媒グループing運転の場合

制御線配線例



禁止事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。
3. 室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)の差し替えは、1台の室外ユニットのみで実施してください。
4. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は、1台の室外ユニットのみで実施してください。
5. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。

許容長

- < a . 室内外伝送線 >
  - (1) -cと同様
- < b . 集中管理用伝送線 >
  - (1) -cと同様
- < c . MAリモコン配線 >
  - (1) -cと同様
- < d . M-NETリモコン配線 >
  - (2) -cと同様

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -cと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -cと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(2) -cと同様

[ シールド線の処理 ]

(2) -cと同様

### < c . MAリモコン配線 >

異冷媒グルーピング運転の場合、必ず一方の室内ユニットのMAリモコンを「従リモコン」に設定してください。

(1) -cと同様

### < d . M - N E T リモコン配線 >

(2) -cと同様

[ 2 リモコン運転の場合 ]

(2) -cと同様

[ 室内グループ運転の場合 ]

ICをグループ運転する場合は、同一グループとする ICの親機ICの端子台 (TB5)のA,B端子と RCの端子台を接続します (無極性2線)。

M-NETリモコンは、室内外伝送線のどこにでも接続可能です。

機能が異なる室内ユニットを同一グループ運転する場合は、同一グループ内の一番機能が多い室内ユニットを親機としてください。

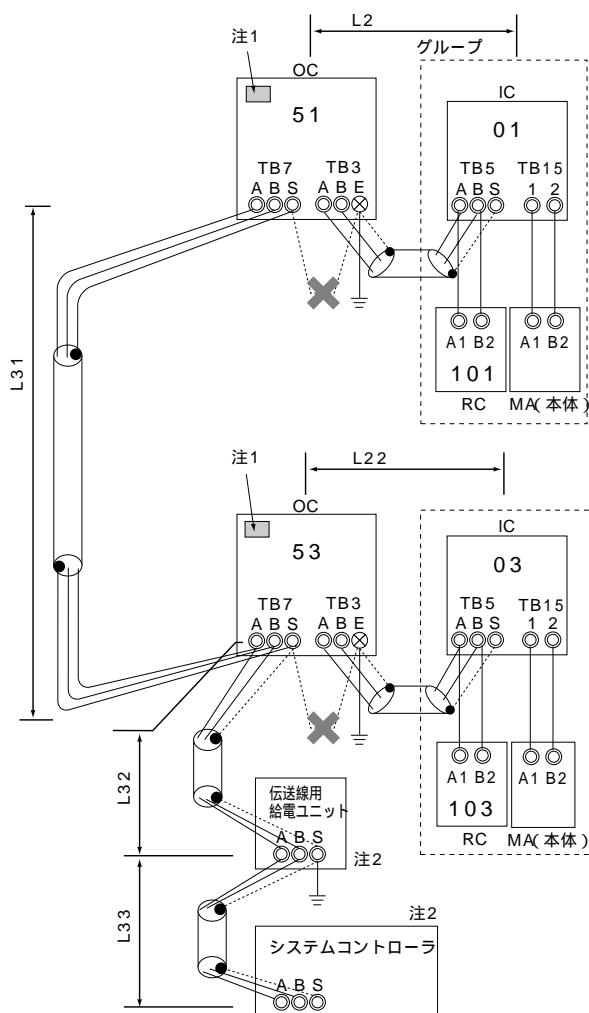
異冷媒にまたがる室内グループのM-NETリモコンは、室内ユニットの親機と同じ系統の室内外伝送線に接続してください。

### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(2)MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム(PFAV-P224～560M-A, PFAV-P265～670M-A-F)  
 -a.集中管理用伝送線にシステムコントローラを接続した場合(1グループ室内ユニット1台管理した場合)

制御線配線例



注1 CN41はそのまま、SW2-1はOFF ON。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は、SW2-1は「OFF」のままとしてください。  
 注2 LMアダプターには、電源単相AC200Vが必要です。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は伝送線用給電ユニットが不要ですが、LMアダプターの給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えてください。

禁止事項	許容長
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。</li> <li>2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台(TB5)同士を接続しないでください。</li> <li>3. 室外ユニットの給電切換コネクタ(CN41)はそのままにしてください。</li> <li>4. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台(TB7)のS端子のアース処理は不要です。</li> <li>5. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). のコネクタを取外してください。</li> <li>6. システムコントローラにて異冷媒室内ユニットをグループ運転する場合は、MAリモコン(室内ユニットの)端子台TB15同士を渡り配線してください。</li> </ol>	<p>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;                      (1) -aと同様</p> <p>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;                      (1) -aと同様</p> <p>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;                      (1) -aと同様</p> <p>&lt; d . M-NETリモコン配線 &gt;                      (2) -aと同様</p>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -aと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -aと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(1) -aと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -aと同様

### < c . MAリモコン配線 >

(1) -aと同様

### < d . M - N E Tリモコン配線 >

(2) -aと同様

[ 2リモコン運転の場合 ]

(2) -aと同様

[ 室内グループ運転の場合 ]

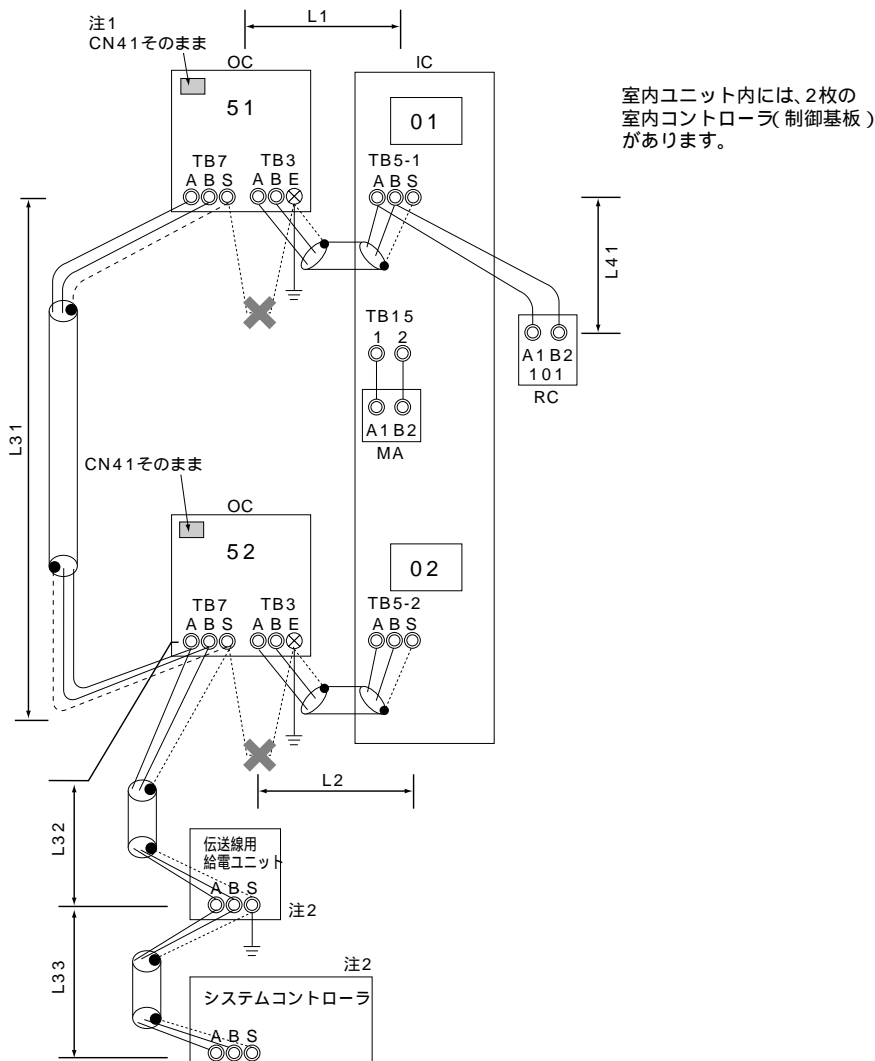
(2) -aと同様

### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。

(2) MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム(PFAV-P670～800M-A, PFAV-P1000M-A-F)  
 -b.集中管理用伝送線にシステムコントローラを接続した場合

制御線配線例



注1 CN41はそのまま、SW2-1はOFF ON。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は、SW2-1は「OFF」のままとしてください。  
 注2 LMアダプターには、電源単相AC200Vが必要です。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は伝送線用給電ユニットが不要ですが、LMアダプターの給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えてください。

禁止事項	許容長
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。</li> <li>2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台 (TB5) 同士を接続しないでください。</li> <li>3. 室外ユニットの給電切換コネクタ (CN41) はそのままにしてください。</li> <li>4. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台 (TB7) のS端子のアース処理は不要です。</li> <li>5. システムコントローラにて異冷媒室内ユニットをグループ運転する場合は、MAリモコン (室内ユニットの) 端子台 TB15 同士を渡り配線してください。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; a . 室内外伝送線 &gt;                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -bと同様</li> </ol> </li> <li>&lt; b . 集中管理用伝送線 &gt;                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -bと同様</li> </ol> </li> <li>&lt; c . MAリモコン配線 &gt;                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -bと同様</li> </ol> </li> <li>&lt; d . M-NETリモコン配線 &gt;                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(2) -bと同様</li> </ol> </li> </ul>

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -bと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -bと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(1) -bと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -bと同様

### < c . MAリモコン配線 >

(1) -bと同様

### < d . M - N E Tリモコン配線 >

(2) -bと同様

[ 2リモコン運転の場合 ]

(2) -bと同様

[ 室内グループ運転の場合 ]

(2) -bと同様

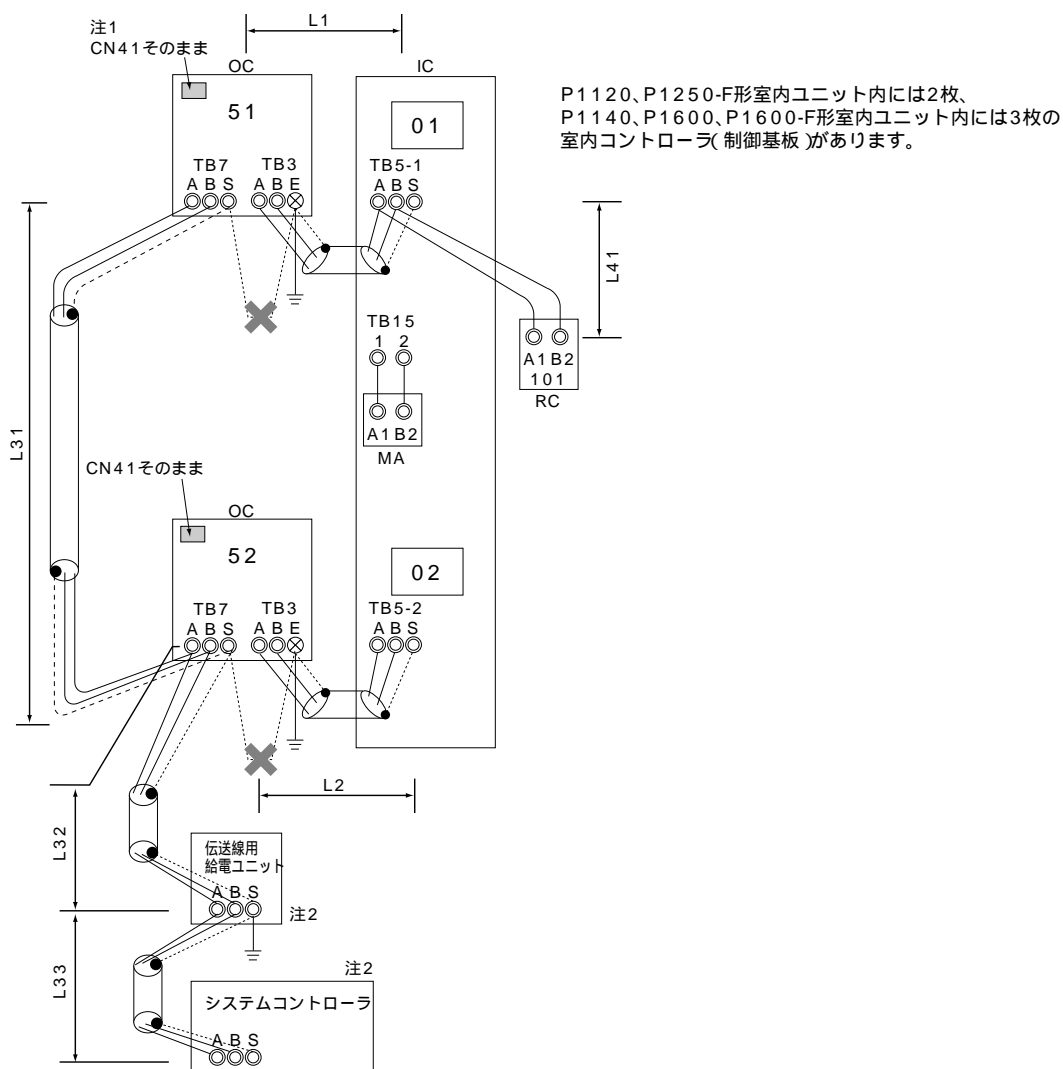
### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。



(2) MAリモコンとM-NETリモコンを混在したシステム(PFAV-P1120~1600M-A, PFAV-P1250~P1600M-A-F)  
 -c.集中管理用伝送線にシステムコントローラを接続した場合

制御線配線例



注1 CN41はそのまま、SW2-1はOFF ON。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は、SW2-1は「OFF」のままとしてください。  
 注2 LMアダプターには、電源単相AC200Vが必要です。ただし、LMアダプターのみ接続する場合は伝送線用給電ユニットが不要ですが、LMアダプターの給電切換コネクタ(CN41)を(CN40)に差し替えてください。

禁止事項	許容長
1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合は、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。MAリモコン配線の取外しは .2.(2). の中継コネクタを外してください。 2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台 (TB5) 同士を接続しないでください。 3. 室外ユニットの給電切換コネクタ (CN41) はそのままにしてください。 4. 室外ユニットの集中管理用伝送端子台 (TB7) のS端子のアース処理は不要です。 5. システムコントローラにて異冷媒室内ユニットをグループ運転する場合は、MAリモコン (室内ユニットの) 端子台 TB15同士を渡り配線してください。	< a . 室内外伝送線 > (1) -cと同様 < b . 集中管理用伝送線 > (1) -cと同様 < c . MAリモコン配線 > (1) -cと同様 < d . M-NETリモコン配線 > (2) -cと同様

## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) -cと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -cと同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(1) -cと同様

[ シールド線の処理 ]

(1) -cと同様

### < c . MAリモコン配線 >

(1) -cと同様

### < d . M - N E Tリモコン配線 >

(2) -cと同様

[ 2リモコン運転の場合 ]

(2) -cと同様

[ 室内グループ運転の場合 ]

(2) -cと同様

### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定」を参照ください。



## 配線方法・アドレス設定方法

### < a . 室内外伝送線 >

(1) と同様

[ シールド線の処理 ]

(1) と同様

### < b . 集中管理用伝送線 >

(1) と同様

[ シールド線の処理 ]

(1) と同様

### < c . MAリモコン配線 > , [ 2リモコン運転の場合 ] , [ 室内グループ運転の場合 ]

(1) と同様

### < d . M-NETリモコン配線 > , [ 2リモコン運転の場合 ] , [ 室内グループ運転の場合 ]

(2) と同様

### < e . スイッチ設定 >

「 .4.(2). アドレスの設定 」を参照ください。

## 6. システム制御

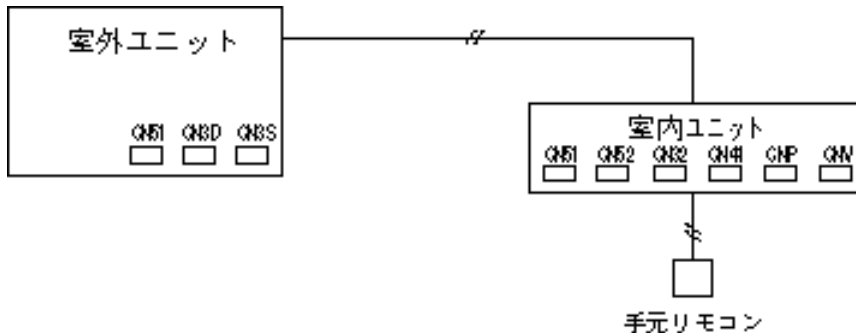
室内ユニットの操作入力や信号出力は、標準装備のMAリモコンやシステムコントローラ（別売）のほか、外部の制御盤とのリレー入出力信号配線の接続が可能です。

現地制御盤からの信号入力配線（運転ON/OFF、冷暖房切替入力等）を直接室内ユニットに接続することが可能です。ただし、入力接点には微小電流対応のものを使用してください。入力接点が微小電流対応でない場合は、現地リレー（微小電流用リレー）追加により、レベル信号入力の接続が可能です。

出力については、別売「M制御用遠方表示キット（PAC-CG92HK）」を組み込むことにより、運転・異常表示等の信号取出が可能です。

これらにより、現地側の状況に応じた配線接続が可能なほか、エアコンの更新時も既設の現地制御盤の改装工事を軽減することができます。

### 【入出力コネクタの仕様】



### 6.1 室内ユニットのシステム制御

#### (1) 各種発停制御（室内ユニット設定）

室内ユニットのDIPSW（SW1-9、10）により、発停制御が可能です。

機能	室内ユニット復帰時の動作	設定(SW1)	
		9	10
電源発停（注1, 2, 3）	電源を切る（停電する）前の状態にかかわらず運転継続（約5分後）	—	ON
停電自動復帰（注3）	電源を切る（停電する）前に運転していた場合に運転継続（約5分後）	ON	OFF
	電源を切る（停電する）前の状態にかかわらず停止のまま	OFF	OFF

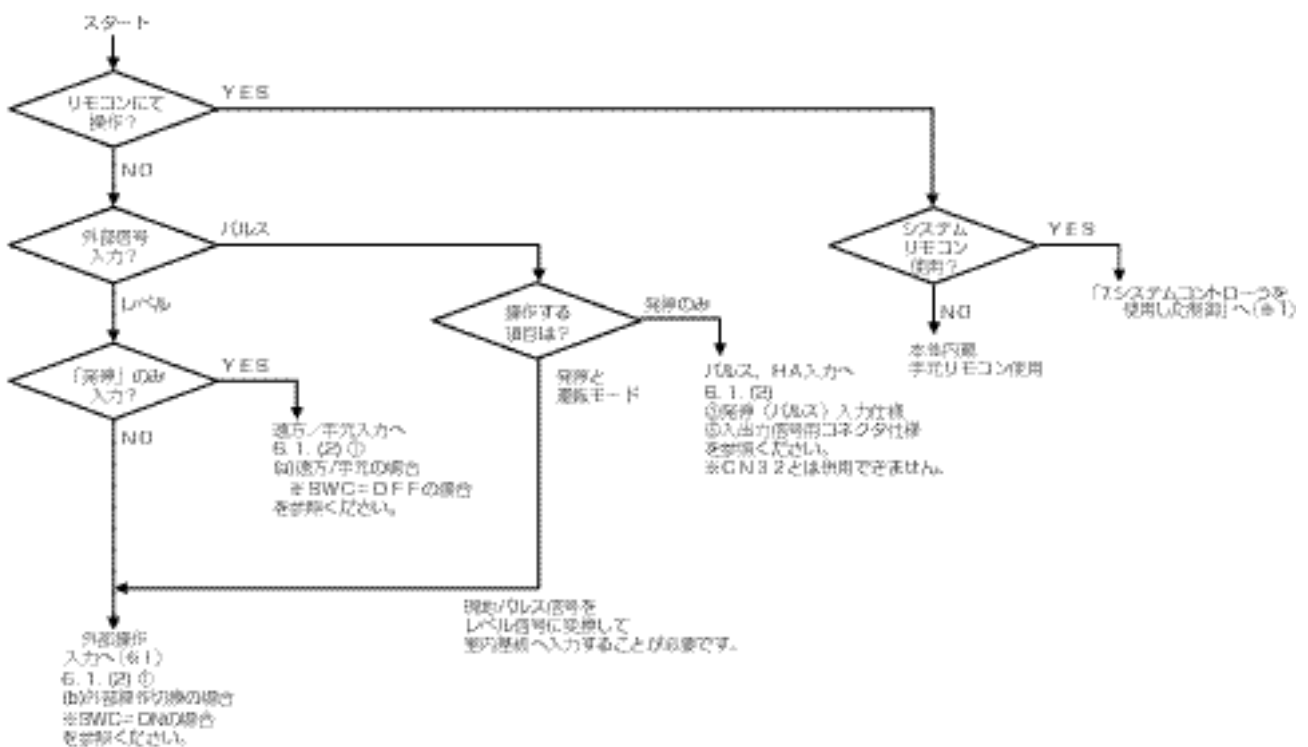
- (注1) 室外ユニットの電源は、遮断しないでください。  
 室外ユニットのクランクケースヒータ電源が遮断されてしまうため、復帰後運転させた場合に圧搾機のお障につながる可能性があります。
- (注2) 加圧制御機能は対応できません。
- (注3) SWCがOFF設定されている場合、使用可能です。

(2)入出力信号用コネクタを使用した各種制御（各種オプションによる接続）

分類	使用用途	機能	使用端子	使用オプション
入力 (注1)	室内ユニットグループ毎に外部からの接点・スイッチ等の入・切により、発停制御をする方法 *タイマーアダプターとして使用可能（注1） *『切り忘れ防止』や『強制停止』として使用可能	遠方/手元切替（注3） 発停レベル（注2,4）	CN32	遠方発停用アダプター (PAC-SE55RA)
	室内ユニットグループ毎に外部からのパルス入力（接点）により、運転/停止を反転させ発停制御をする方法	発停パルス（注2,4）	CN51	遠方表示用アダプター（注5,6） (PAC-SAB8HA)
	室内ユニットグループ毎にHA、JEMA規格によるHA端子で、発停制御をする方法 *本規格に合致したテレコンからの発停制御として使用可能	発停パルス (HA、JEMA規格)（注2,4）	CN41	
	室内ユニット毎に外部からの接点・スイッチ等の入・切により、冷房運転の禁止（強制送風）制御をする方法 *室内ユニット毎のデマンド制御として使用可能	デマンドレベル	CN52	遠方表示用アダプター（注5,6） (PAC-SAB8HA)
出力 (注7)	室内ユニットグループ毎に外部へ信号を取り出す方法 *運転状態の表示装置として使用可能 *外部機器との連動制御として使用可能	運転状態	CN51	M制御用遠方表示キット（注6） (PAC-CG92HK)
		異常状態		
		運転モード（送風）状態	CN52	
		運転モード（冷房・ドライ）状態		
		サーモON又は送風状態		

- (注1) 信号入力は、グループ内の系統のみに接続してください。  
(但し、デマンド入力は室内ユニット個別に信号入力が必要です。)
- (注2) グループ運転で発停入力を使用する場合は、手元リモコンが必要です。(MAリモコン又はM-NETリモコン)
- (注3) 遠方に設定時には、手元リモコンからの操作は出来ません。リモコンは「集中管理表示」となります。
- (注4) CN51又はCN52を出力信号と併用する場合は、M制御用遠方表示キットを必ずご使用ください。
- (注5) M制御用遠方表示キットは、そのままCN51及びCN52の入力信号もご使用になれます。
- (注6) 信号出力の「運転状態」及び「運転モード（送風/冷房・ドライ）状態」をご使用になる場合は、系統のみに接続してください。  
「異常状態」「サーモON（又は送風）状態」をご使用になる場合は、室内ユニット個別に接続してください。

〈発停操作選択フローチャート〉



※1 外部操作入力とシステムコントローラは併用できません。

CN32を使用した場合の説明

(a) 遠方/手元切替の場合

SWC	遠方/手元切替	空席	状態	リモコン表示及び操作
OFF	OFF	OFF	手元/許可	操作有効
	ON	OFF	遠方/禁止	遠方中は「集中管理表示」
	ON	ON	遠方/差込	リモコン差込操作[ON/OFF]禁止(無効)

(b) 外部操作切替の場合

SWC	CN32(32)OFF	CN32(32)ON	状態	リモコン表示及び操作
ON	OFF	OFF	禁止	SWCがON設定されているときは「集中管理表示」 リモコン差込操作[ON/OFF]、①モード禁止(無効)
	ON	OFF	差込禁止	
	OFF	ON	差込実行	

入力(発停)信号組合せ制限

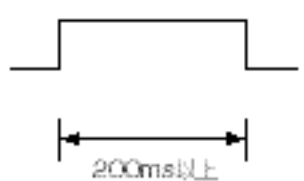
	発停の種類	遠方/手元切替	外部操作入力	外部/手元切替	発停(パルス)	HA発停(JEMA)	電源発停	停電自動復帰
1	遠方/手元切替 [CN32(32)]	○(注1)	×	×	△(注1)	△(注1)	△(注1)	△(注1)
2	外部操作入力 [CN32(注3)]	×	○(注2)	×	×	×	×	×
3	外部/手元切替 [CN15(注3)]	×	○(注2)	×	×	×	×	×
4	発停(パルス) [CN15(注3)]	△(注1)	×	×	○	○	○	○
5	HA発停(JEMA) [CN41(注3)]	△(注1)	×	×	○	○	○	○
6	電源発停	-	×	×	○	○	○	○
7	停電自動復帰	-	×	×	○	○	○	○

(注1)発停(パルス)・電源発停・復電自動復帰は、遠方/手元切替(CN32)が「手元」に設定されている場合にのみ使用可能です。ご使用には十分ご注意ください。

(注2)外部/手元切替は、外部操作入力設定されている場合にのみ使用可能です。

(注3)信号入力は、グループ内の機器のみに接続してください。(室内ユニット内のNo1基板へ接続してください。)

発停(パルス)入力仕様

項目	内容
入力信号	パルス信号 (a接点)
パルス規格	

サ - モ信号組合せ制限

	サーモの種類	デマンド	外部サーモ入力
1	デマンド [CN52(注1)]	×	×
2	外部サーモ入力 [CN52(注2)]	×	×

(注1)濃気酸素コイル切替入力處で使用されている場合は、使用不可です。

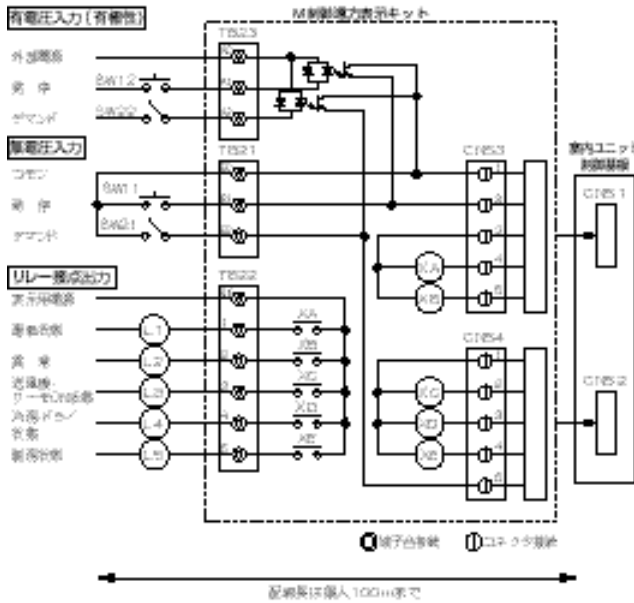
(注2)デマンド入力・外部サーモ入力は室内ユニット複数に信号入力が必要です。(室内ユニット内の全制御基板に接続が必要です。)

(注3)外部サーモ入力處で使用される場合は、室内ユニット内の全制御基板のDIPSW3-3を「ON」設定にしてください。

入出力信号用コネクタ仕様

(a)M制御遠方表示キット (PAC-CG92HK)

出力信号をご利用時には、必ず本表示キットをご使用ください。遠方表示用アダプター (PAC-SA88HA) は使用できません。



<有電圧入力(有極性)の場合>

外部電源	DC12~24V 入力電流 (1接点あたり) 約10mA (DC12V)
SW12	遠方発停スイッチ ※SWを押す(リレス入力する) 毎にON/OFFを反転します。
SW22	デマンドスイッチ ※SW ON時、冷暖房運転を禁止 (強制送風)します。

<無電圧入力の場合>

SW11	遠方発停スイッチ ※SWを押す(リレス入力する) 毎にON/OFFを反転します。
SW21	デマンドスイッチ ※SW ON時、冷暖房運転を禁止 (強制送風)します。

※最小電圧使用電圧 DC12V 1mA

<リレー接点出力>

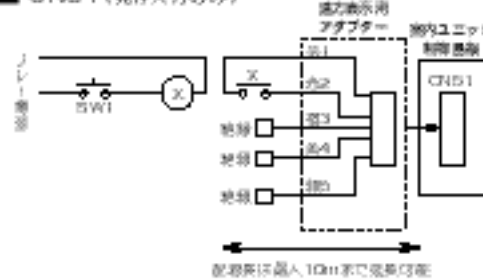
表示用電圧	DC30V 1A AC100V/200V 1A	L4	冷暖・ドライ状態表示ランプ
L1	運転状態表示ランプ	L5	暖房状態表示ランプ
L2	異常状態表示ランプ	XA~XE	リレー (許容電流 10mA~1A)
L3	SW1-5 ON時:サーモON SW1-5 OFF時:送風機状態表示ランプ		

- 室内ユニット側の設定
- 1) 送風 (リレス) は遠方/手元切換(CN32)が、"手元"に設定されている場合のみ使用可能です。
- 2) サーモON状態を表示するには、アドレス基板上のディップスイッチ SW1-5をONにセットしてください。  
工場出荷時設定は、OFF (送風機状態表示) です。

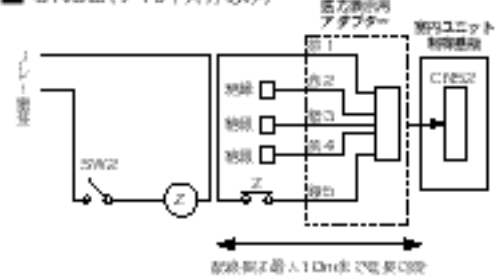


(b)遠方表示用アダプター (PAC-SA88HA)

■ CN51 (発停入力のみ)



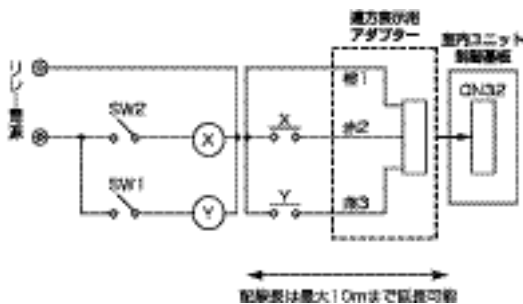
■ CN52 (デマンド入力のみ)



SW1	遠方発停スイッチ (モーメンタリスイッチ) ※SWを押す(リレス入力する)毎にON/OFFを反転します。
X: リレー	(接点: 最小適用負荷 DC12V 1mA)

SW2	デマンドスイッチ ※SW ON時、冷暖房運転を禁止 (強制送風) します。
Z: リレー	(接点: 最小適用負荷 DC12V 1mA)

(c)遠方発停用アダプター (PAC-SE55RA)



	SWC=OFF時	SWC=ON時
SW1	遠方/手元切換スイッチ	冷暖運転入力カススイッチ
SW2	発停スイッチ ※SW1がON時のみ有効	暖房運転入力カススイッチ

X, Y: リレー (接点: 最小適用負荷 DC12V 1mA)

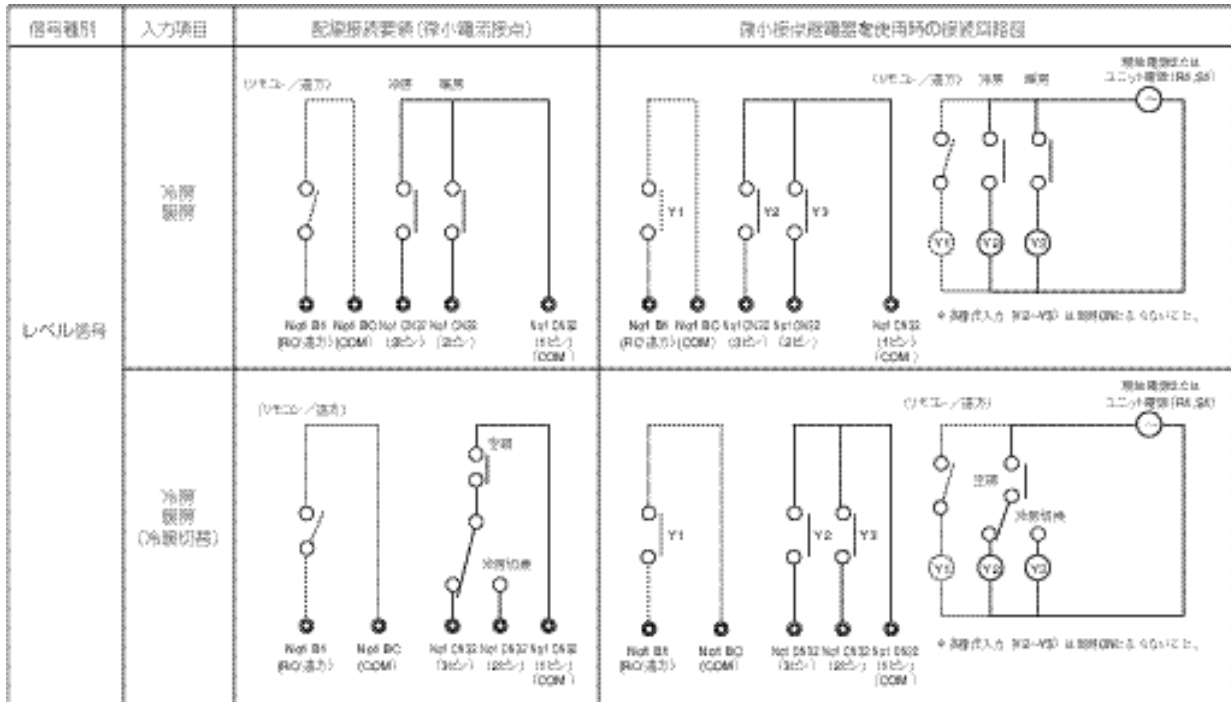


(d)外部接続回路の配線

(i) 外部操作入力(各アドレス基板上的SWCを“ON”に設定してください。)

現地の外部信号による運転操作を選択した場合は、入力信号の種類に応じて下表の入力端子に外部操作入力配線を接続してください。各入力端子の内容は次の通りです。

端子番号	基板上的表示	基板上的表示	動作
No1 B1	DN51	RC(リモコン)と遠方入力(外部入力)との切替	ONでRC(リモコン)操作
No1 B0	COM	No1 B1端子のコモン端子	DC12V供給
No1 CN32(1ピン)	COM	CN32コネクタのコモン端子	DC5V供給
No1 CN32(2ピン)	CN32	暖房運転のON/OFF	ONで暖房ON
No1 CN32(3ピン)	CN32	冷房運転のON/OFF	ONで冷房ON



注. 外部操作入力の接続・操作について、下記の点にご注意ください。

入力接点に関して

- ・外部入力は無電圧のレベル入力とし、微小電流用接点を使用してください。レベル信号入力がOFFとなった時点で、運転停止します。
- ・微小電流用接点以外のものを接続した場合、接点の劣化によって信号が伝達されずにユニットが運転しないあるいは停止しないことがあります。
- ・COM (コモン) 端子には必ず配線してください。接続されない場合、DC12V, DC5V電源が供給されず、入力信号を認識することができないため、ユニットが運転できません。

信号入力時間に関して

- ・運転入力は、異なった運転指令信号を同時に入れないでください。入力信号が重複しますと、ユニットは運転停止(禁止状態)します。

信号入力の選択について

- ・外部操作入力は、レベル信号入力により動作を保持しますので、パルス入力信号は別途レベル信号に保持させる必要があります。
- ・信号入力は、室内ユニット内のNo.1基板へ接続してください。

(ii) 外部サーモ入力接続（各制御基板上のDISPW3-3を“ON”に設定してください。）

現地の外部サーモによる温度調節を選択した場合は、下表の所定のサーモ接続用端子にサーモ入力配線を接続してください。サーモステップと容量制御の関係は、下表のようになりますので参照してください。

運転種別	冷媒回路数	サーモステップ数	配線接続要項(微小電流用接点)	外部サーモの動作	微小電流用接点继电器を使用した接続回路図
高熱運転 暖房運転 (個別制御)	3冷媒回路	3 ステップ サーモ		各冷媒回路のサーモを個別にON/OFF制御する。	

注．外部サーモ入力接続について、下記の点にご注意ください。

- ・外部サーモ入力は、無電圧のレベル入力とし、微小電流用接点を使用してください。  
微小電流用接続以外のものを接続した場合、接点の劣化によって信号が伝達されずにユニットが運転しない、あるいは停止しないことがあります。
- ・冷房・暖房運転は、上表の外部サーモの動作順序に従って圧縮機（室外ユニット内）が動作します。

(iii) 外部接点出力 (必ず、M制御用遠方表示キット (PAC-CG92HK) をご使用ください。)

外部接点出力端子は、別売「M制御用遠方表示キット (PAC-CG92HK)」を組み込むことにより室内ユニットの電気品箱内に設けることができます。

運転表示や現地機器とのインターロック等、出力信号を外部に取り出す場合は、下表の端子への接続要領を参考に配線接続してください。

出力項目	配線接続要領	備考
<p>遠方運転表示</p>		<p>各接点は無電圧接点 印加電圧は AC200V、1A以下</p> <p>L1 運転状態 (異常中もON状態)</p> <p>L2 異常状態</p> <p>L3 送風機状態もしくはサーモON状態</p> <p>L4 冷房状態 (サーモOFF時もON出力)</p> <p>L5 暖房状態 (サーモOFF、霜取中もON出力)</p>
<p>遠方一括異常表示</p>		<p>各接点は無電圧接点 印加電圧は AC200V、1A以下</p> <p>L2-一括異常 (室内機異常又は 室外機異常時ON出力)</p>

注:外部接点出力の接続について、下記の点にご注意ください。

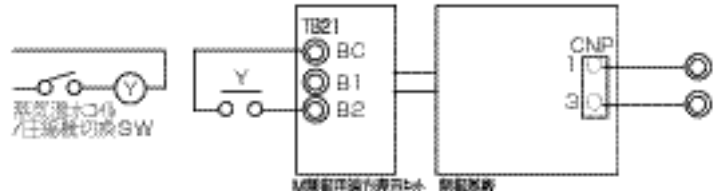
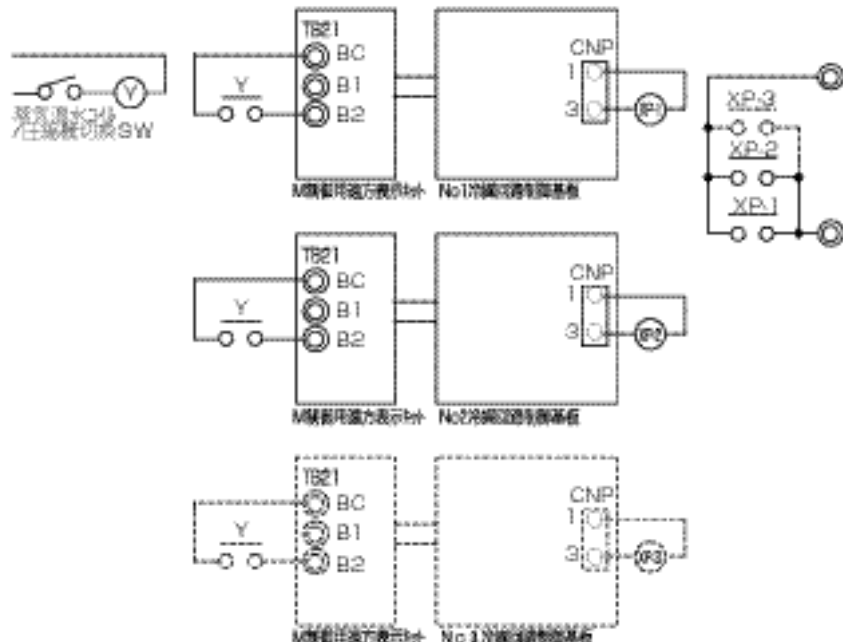
各出力接点は、無電圧接点です。断電器接続時等の接点への印加電圧は、AC200V,1A以下としてください。

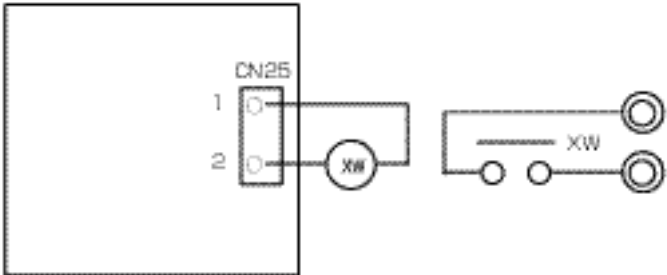
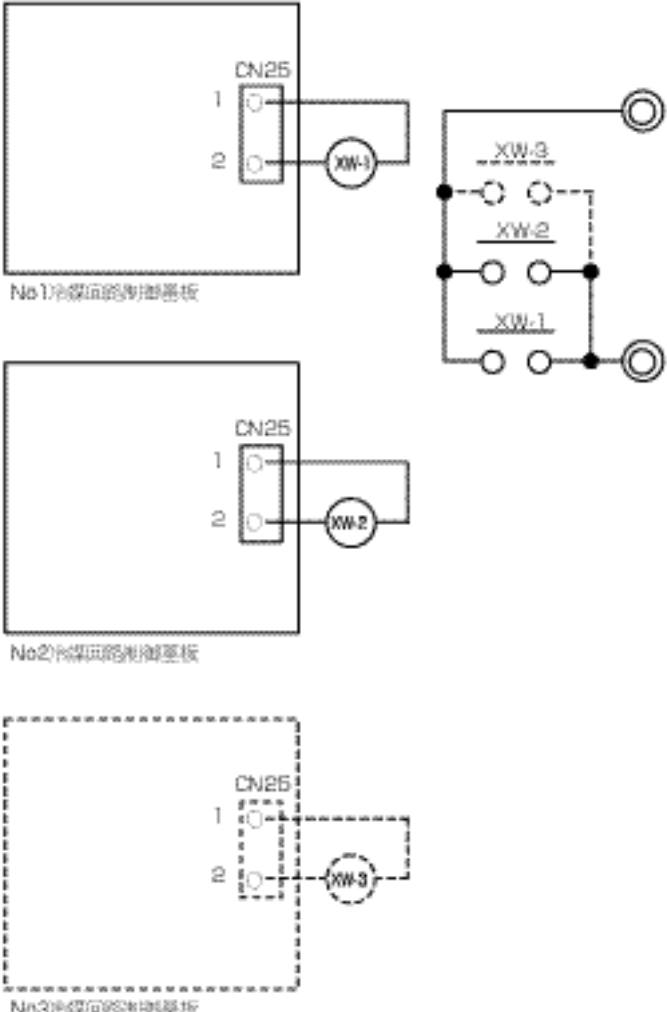
表中の接続端子は、室内ユニット電気品箱内の端子台番号です。

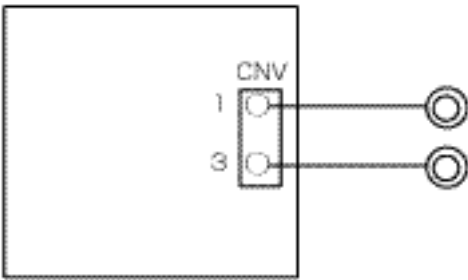
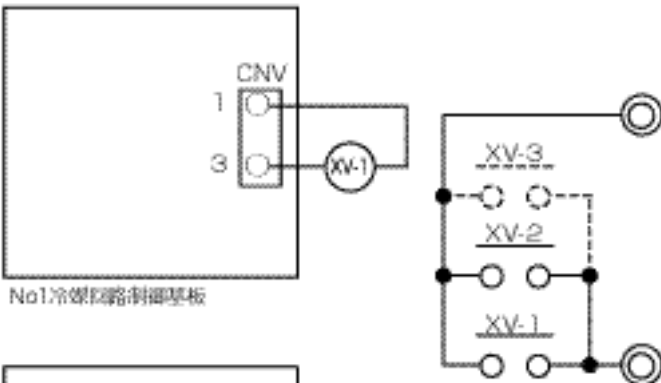
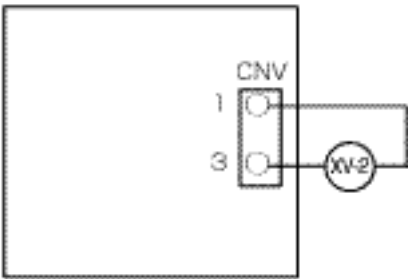
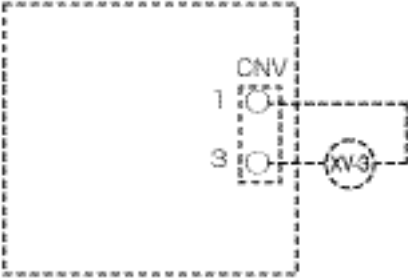
L1~L5はリレーを示します。(現地手配)

(iv) オプション接続

別売部品等を接続する場合は、下表の接続要領を参考に配線接続してください。

ケーブル種別	配線接続要領	備考
1 標準型電源ケーブル	 <p>M機器用過電圧表示灯外 標準基板</p>	<p>所定定格はAC200V、1A以下</p> <p>標準型基板上のDIPSW3-3を「OFF」に設定してください。</p> <p>省7F基板上のDIPSW7-1を「ON」に設定してください。</p> <p>省7F入力・外置型入力との併用は不可です。</p>
2 ミニ山形電源ケーブル	 <p>M機器用過電圧表示灯外 No.1冷媒圧降検出基板</p> <p>M機器用過電圧表示灯外 No.2冷媒圧降検出基板</p> <p>M機器用過電圧表示灯外 No.1冷媒圧降検出基板</p>	<p>所定定格はAC200V、1A以下</p> <p>※ 省制基板上のDIPSW3-3を「OFF」に設定してください。</p> <p>※ 省7F基板上のDIPSW7-1を「ON」に設定してください。</p> <p>※ 省7F入力・外置型入力との併用は不可です。</p>

出力項目	接続接続要図	備考
制御盤 制御盤内配線工事	 <p>制御基板</p>	昇降機用接点 印加電圧はAC200V、1A以下
	 <p>No1)制御盤内制御基板</p> <p>No2)制御盤内制御基板</p> <p>No3)制御盤内制御基板</p>	昇降機用接点 印加電圧はAC200V、1A以下

出力項目	配線接続要領	備考
デアフロスト 一系制御回路要領	 <p>制御基板</p>	有電圧接点 AC200V, 1A以下
	 <p>No1冷媒回路制御基板</p>	有電圧接点 印加電圧はAC200V, 1A以下
	 <p>No2冷媒回路制御基板</p>	
 <p>No3冷媒回路制御基板</p>		

### (3)FAN制御

室内ユニット内のDIPSW設定により、次の制御が可能です。

機能	動作	設定(SW3)	
		4	6
デアフロスト時のFAN運転	室外ユニットがデアフロスト運転に入っても、室内ユニットはFAN運転する	ON	—
ヒータ用の余熱運転	ヒータ組み込み時、室内ユニットを停止しても約3分間余熱運転する	—	ON

## 6.2 室外ユニットのシステム制御

入出力信号用コネクタを使用した各種制御（各種オプションによる接続）

分類	使用用途	機能	使用端子
入力	室外ユニットへの外部からの入力により、冷室運転の禁止（サーモOFF）制御をする方法 *冷室運転時のデマンド制御として使用可能	デマンド(レベル) (注1)	CN3D
	室外ユニットへの外部からの入力により、室外ユニットの低騒音運転を行います。 (ナイトモードは一定の外気温条件、冷房時：30℃以下/暖房時：30℃以上のモード作動となります。)	ナイトモード またはデマンド (レベル) (注1)	
	スノーセンサからの降雪信号をうけて、自動的に室外ユニットを送風運転します。	スノーセンサ 信号入力 (レベル)	
出力	室外ユニットから外部へ信号を取出す方法 *運転状態の表示装置として使用可能 *外部機器との連動制御として使用可能	圧縮機運転状態	CN51
		異常状態	

(注1) ナイトモードは室外ユニットのDIPSW2-10がOFFのときに有効となります。  
DIPSW2-10がONの場合はナイトモード入力およびデマンド入力により4段階のデマンド制御が可能です。

		ナイトモード指令 (CN3DのSW1)	
		OFF	ON
デマンド指令 (CN3DのSW2)	OFF	100% (デマンドなし)	75%デマンド
	ON	0%デマンド	50%デマンド

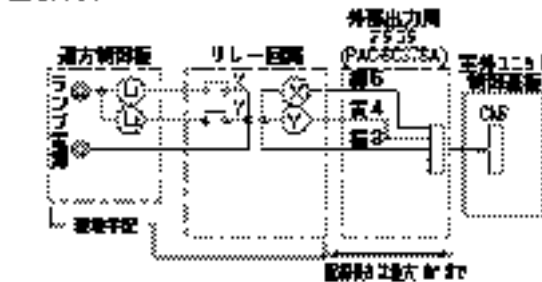
4段階デマンドを使用される場合は、次のステップに注意してください。  
(例) 100%→50%に変更する場合



上記のような誤切替されますとサーモOFFになる可能性があります。  
デマンドのパーセント(%)は圧縮機容量の概算値ですので、能力比とは必ずしも一致しません。

### 室外ユニット 入出力コネクタ

#### ■CN51



Li : 異常表示ランプ  
L : 運転状態表示ランプ  
XY : リレー (DC12V用 4#定格0.9W以下)

#### ■CN3S



X : スノーセンサ (標点定格DC12V) 配線長は最大10mまで

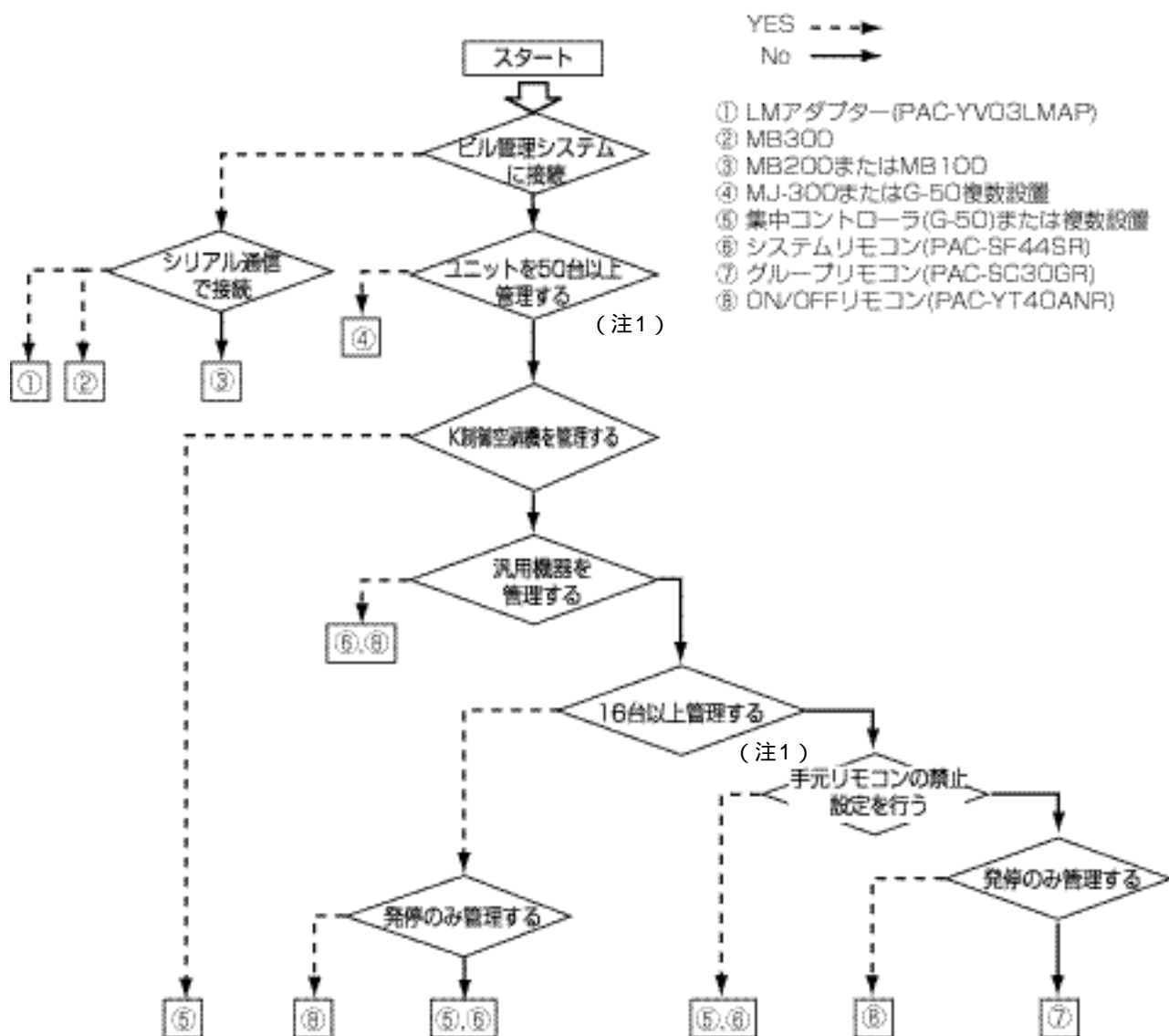
#### ■CN3D



SW1 : ナイトモードまたはデマンド指令  
SW2 : デマンド指令  
XY : リレー (標点定格DC12V)

## 7.システムコントローラを使用した制御

### (1)システムコントローラの選定



※MBシリーズ、LMアダプターについての詳細はそれぞれのカタログ・ハンドブックを参照してください。  
 ※上記フローチャートは、一般的なシステム選定の目安であり、実際には建物の用途、運営方法などを考慮したシステム選定が必要です。また、上記で選定したコントローラ同士の組み合わせによるシステム構築も可能です。

(注1) 2冷媒機種・3冷媒機種については、下表の通り換算したユニット台数をご使用ください。

	ユニット台数換算
2冷媒機種	2台
3冷媒機種	3台

例1. 2冷媒機種が10台の場合、 $10(台) \times 2(冷媒) = 20台$

例2. 3冷媒機種が6台の場合、 $6(台) \times 3(冷媒) = 18台$



## (2)各システムコントローラの特長

	グループリモコン PAC-SC30GR	システムリモコン PAC-SF44SR	ON/OFFリモコン PAC-YT40ANR	スケジュールタイマー (M-NET対応) PAC-YT34ST	集中コントローラ G-50	
管理可能ユニット台数/グループ数	16台/8G	50台/50G	50台/16G	50台/50G	50台/50G	
K制御ユニットの管理	×	×	×	×	○	
汎用機器(汎用インターフェース使用)の管理	×	○	○	○	×	
機能	運転/停止	◎	◎	◎	◎	
	空調機運転モード切換	◎	◎	×	△(注7)	◎
	室温設定	◎	◎	×	△(注7)	◎
	風速設定	×	×	×	×	×
	風向設定	×	×	×	×	×
	手元操作への禁止/許可設定(注6)	×	◎	△(外部入力)	△(注7)	◎(注8)
	特定モードへの操作禁止設定	×	◎(一括のみ)	×	×	×
	室温表示	○	×	×	×	△
	異常内容表示	◎	◎	△(LED点滅)	◎	◎
	異常履歴	○	○	×	×	○
	スケジュール	△(注1)	△(注1)	△(注1)	○	○
	ゲート制御換気機器への換気モード操作	×	○	×	×	◎
	換気機器の連動運転	◎	◎	△(注2)	◎	◎
	外部入力緊急停止	×	◎(一括のみ)	◎(一括のみ)	◎(一括のみ)	◎(一括のみ)
	外部出力(運転状態、異常出力)	×	◎(一括のみ)	◎(一括のみ)	◎(一括のみ)	◎(一括のみ)
	その他	手元リモコンなしシステム	○	○	×(注3)	×(注3)
伝送線接続位置(室内外系/集中管理系)		○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
グループング/タイマー情報バックアップ(注4)		○	○	○	○	○/○
現在時刻停電保証時間		×	×	×	1週間(注5)	1週間(注5)

◎：グループ又は一括操作可能 △：条件付きで可能 ○：グループ操作可能・対応可能 ×：機能なし・対応不可

(注1) スケジュールタイマー (M-NET対応) PAC-YT34STを接続することにより設定可能です。

(注2) 換気単独運転は設定できませんが、室内ユニットの運転/停止動作に連動して運転/停止することは可能です。

(注3) ON/OFFリモコン及びスケジュールタイマー (M-NET対応) は運転モードなどの操作機能がないため、基本的には手元リモコンなしシステムでのご使用はできません。

(注4) グループング情報/タイマー情報は、不揮発メモリに記憶していますので停電時記憶情報は保持されます。しかし、落雷や伝送線ノイズが大きい場合などは記憶情報が消失する可能性があります。

(注5) 伝送線より電圧を受電し、内部のコンデンサに充電を行います。充電には約1日必要です。  
(電池とは異なり、内部コンデンサの交換は不要です。)

(注6) 手元操作禁止制御を行うシステムコントローラはシステム系統内で1台としてください。

(注7) スケジュールの実行項目としての制御と外部入力による制御が可能です。

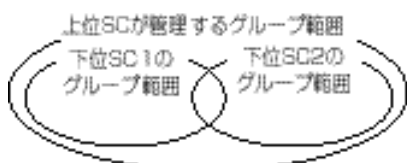
(注8) 機能設定により他のシステムコントローラの操作を禁止にすることが可能です。

## 上位SC設定 / 下位SC設定とグループ管理について

管理する空調システムの同一系統に2台以上システムコントローラを併用する場合に、上位 / 下位SCの設定が必要となります。(G-50を除く)

上位SC設定：空調システムの系統全体を管理するシステムコントローラ

下位SC設定：上位SC設定と同一範囲或いは、その範囲以内のグループを管理するシステムコントローラ



\* 下位SCは上位SCが管理するグループ以外は管理できません。

\* 管理するグループが全く異なればシステムに上位SCが2台以上存在しても構いません。

通常は、機能が大きいシステムコントローラを上位設定にします。

従って、G-50 > PAC-SF44SR > PAC-YT34ST > PAC-YT40ANR > PAC-SC30GR > PAC-YV03LMAPの順になります。

\* 上位機種(MJ-300など)が接続される場合は、G-50を除く上記5機種は必ず下位設定となります。

\* G-50は上位設定のみです。

## システムコントローラと室内ユニットの外部入力との組合せ制限

	発/停の種類 (室内ユニット外部入力コネクタ)		システムコントローラ 接続なし	システムコントローラ 接続あり
1	速方/手元切換	CN32	○	△※
2	パルス発/停	CN51	○	○
3	HA発/停(JEMA)	CN41	○	○
4	電源発/停	—	○	○
5	停電自動復帰	—	○	○

※速方/手元切換(CN32)が“速方”設定されている場合は、システムコントローラの発/停操作及び手元リモコン禁止機能は使用できません。

## システムコントローラの外部入力について

外部入力による緊急停止信号により、システム内全てのユニットを停止させ、又、全てのシステムコントローラ、ならびに手元リモコンからの操作が禁止されます。(G-50は操作禁止レベルを手元リモコンのみに変更可能)

### (3)システムコントローラの電源

システムコントローラはM-NET伝送線からの給電となります。(LMアダプターを除く)

集中管理用伝送線に接続する場合 (LMアダプターを除く)

伝送線用給電ユニット (PAC-SC33KU/PAC-SC34KU) が必要です。

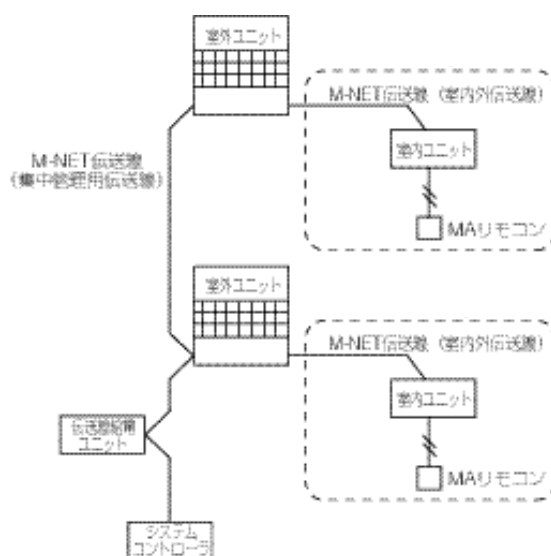
それぞれの伝送線用給電ユニットにより接続できるシステムコントローラの台数が異なります。

伝送線用給電ユニット	システムコントローラ	
	ON/OFFリモコン (注1)	集中コントローラ(G-50)
PAC-SC33KU	1~2台	1台 (注2)
PAC-SC34KU	1~5台	1~2台 (注3)

(注1) システムリモコン、グループリモコン及びスケジュールタイマー (M-NET対応) は、ON/OFFリモコンに比べ消費電力が1/2です。従って、1台につき1/2台として照らし合わせてください。

(注2) この場合、他のシステムコントローラは集中管理用伝送線に一切接続できません。システムに接続する場合、その他のシステムコントローラを室内外伝送線側に接続してください。

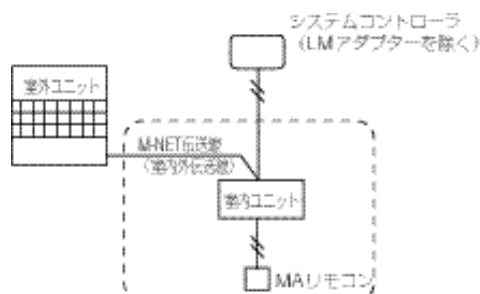
(注3) 集中コントローラ(G-50)を1台のみ接続した場合は3台まで、G-50以外のシステムコントローラを追加接続できます。(G-50を2台接続の場合、他のシステムコントローラ1台まで)



室内外伝送線に接続する場合 (LMアダプターを除く)

システムコントローラはM-NET伝送線の室内外伝送線に最大3台 (G-50は1台まで) まで接続可能です。この場合、伝送線用給電ユニットが不要です。

<システムコントローラを室内外伝送線へ接続した場合>



\* 室内外伝送線にシステムコントローラを接続する場合は、室外ユニットの電源を遮断した場合などにシステムコントローラからの操作ができなくなりますので、ご使用には十分ご注意ください。また、集中コントローラ(G-50)のオプションである「電力按力課金」機能を使用する場合は、G-50を室内外伝送線には接続しないでください。

LMアダプターの場合

電源单相AC200Vが必要です。

\* LMアダプターのみ接続する場合は伝送線用給電ユニットは不要ですが、LMアダプターの給電切換コネクタ (CN41)を(CN40)に差し替えてください。

(4)システムコントローラの外部入出力仕様 (LMアダプターを除く)

外部入出力使用時に使用するリレー、ダイオード、電源、ランプ、延長ケーブルなどは現地手配です。また、外部入出力接続用の専用ケーブルが必要です。集中コントローラ、システムリモコン、スケジュールタイマー (M-NET対応)、ON/OFFリモコンを使用する場合、別売設定されていますので別途手配が必要です。

集中コントローラ(G-50)用 : PAC-YG10HA  
 システムリモコン、スケジュールタイマー (M-NET対応) : PAC-YT41HA  
 ON/OFFリモコン用

システムリモコン、スケジュールタイマー (M-NET対応) ON/OFFリモコンの場合

(A) 外部入力

機能表

機能設定SWの設定により、下記の機能を選択できます。

システムリモコン、スケジュールタイマーについては、手元リモコン操作禁止設定不可 ( .4.(2). 参照) の場合、外部入力機能は緊急停止のみに なります。

No.	外部入力信号の機能	システムリモコン		スケジュールタイマー		ON/OFFリモコン		入力状態
		SW3		SW3		SW4		
		2	3	2	3	2	3	
1	外部入力を使用しない。	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	—
2	緊急停止/通常を切り換える。 緊急停止中、全ユニットを停止させ本機及び、手元リモコンの運転/停止、運転モード、設定速度、フィルタリセットの操作が禁止されます。 ※ON/OFFリモコンの場合、運転/停止操作のみ禁止となります。	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	レベル入力
3	運転/停止を設定する。 入力状態より、全ユニットを運転/停止します。本機を使用中、本機及び、手元リモコンの運転/停止操作が禁止となります。	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	レベル入力
4	運転/停止・禁止/許可を設定する。 入力状態により、全ユニットを運転/停止したり、全手元リモコンの操作を禁止します。禁止入力の場合、手元リモコンの運転/停止、運転モード、設定速度、フィルタリセットの操作が禁止されます。本機からの操作は可能です。 ※ON/OFFリモコンの場合、運転/停止操作のみ禁止となります。	ON	ON	ON	ON	ON	ON	パルス入力 (0.5~1秒)

配線仕様

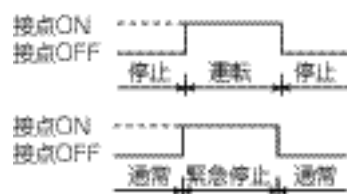
CN2	リード線	緊急停止/通常のレベル信号	運転/停止のレベル信号	運転/停止、禁止/許可のパルス信号
1番	緑	緊急停止/通常入力	運転/停止入力	運転入力
2番	黄	未使用	未使用	停止入力
3番	橙	未使用	未使用	手元リモコン操作禁止入力
4番	赤	未使用	未使用	手元リモコン操作許可入力
5番	茶	コモン (共通) OV		

入力信号

(レベル信号)

(パルス信号)

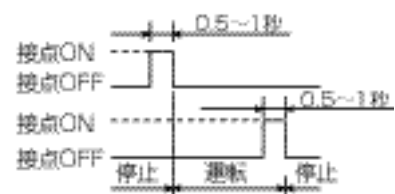
(例)運転 / 停止の場合



信号1 (運転)

信号2 (停止)

※禁止/許可入力も同様です。



(レベル信号)

緊急停止 / 通常信号選択時、外部入力信号の接点OFF ONの変化時に通常 緊急停止、接点ON OFFの変化時に緊急停止 通常となります。

運転 / 停止信号選択時、外部入力信号の接点OFF ONの変化時に停止 運転、接点ON OFFの変化時に運転 停止となります。

(パルス信号)

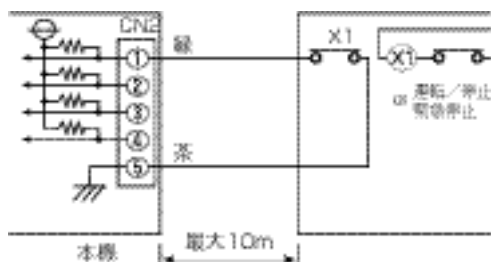
運転中に運転信号をいれても運転のままです。(停止、禁止、許可も同様です。)

手元リモコン禁止とした場合、手元リモコンによる運転 / 停止の操作を禁止します。

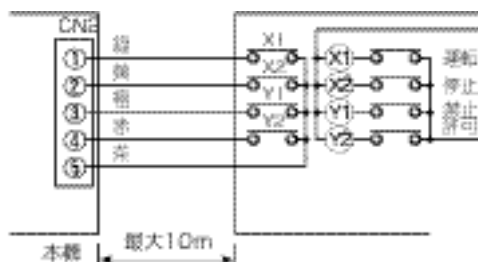
パルス幅 (接点ON時間) は0.5 ~ 1秒としてください。

推奨回路例

(レベル信号)



(パルス信号)



無電圧接点、延長ケーブル等は別途、現地にて手配してください。

無電圧接点の微小負荷 (最小適用負荷DC5V・1mA) に対応したリレーを使用してください。

接続ケーブルの延長は10mまでとしてください。(0.3mm<sup>2</sup>以上のケーブルを使用してください。)

使用しないケーブルはコネクタの近くでカットし、カットした部分はテープ等で確実に絶縁処理してください。

(B) 外部出力

機能

1台以上の空調機が運転しているとき「運転」、1台以上の空調機に異常が発生しているとき「異常発生中」の信号を出力します。

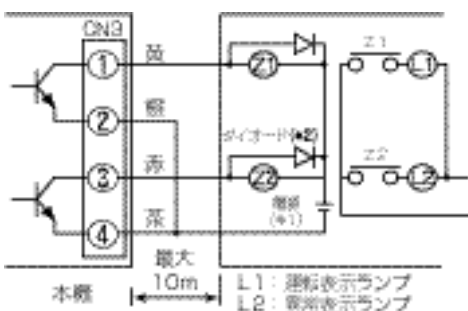
配線仕様

CN3	リード線(4線、黒チューブ付き)	各端子の内容
1番	黄	運転/停止
2番	橙	
3番	赤	異常/正常
4番	茶	

\* 「異常発生中」も「運転中」は出力しません。

推奨回路例

リレーを駆動させる場合



リレー-Z1、Z2は次の仕様のものを使用ください。  
操作コイル

定格電圧 : DC12V、DC24V

消費電圧 : 0.9W以下

(\*1) 使用するリレーに合わせて電源を別途手配してください。(DC12VまたはDC24V)

(\*2) リレーコイルの両端に必ずダイオードを入れてください。

運転中、異常発生中に各素子がONします。

接続ケーブルの延長は、10mまでとしてください。

リレー、ランプ、ダイオード、延長ケーブル等は別途、現地にて手配してください。

集中コントローラ(G-50)の場合

(A) 外部入力

機能表

機能設定SWの設定により、下記の機能を選択できます。

No	外部入力信号の機能	機能設定SW		入力状態
		6	7	
1	外部入力を使用しない。	OFF	OFF	—
2	緊急停止／通常を切替える。 緊急停止中、全ユニットを停止させ本機及び、手元リモコンの 運転／停止操作が禁止となります。	OFF	ON	レベル入力
3	運転／停止を設定する。 入力状態により、全ユニットを運転／停止します。 本機能を使用中、本機及び、手元リモコンの運転／停止操作が 禁止となります。	ON	OFF	レベル入力
4	運転／停止・禁止／許可を設定する。 入力状態により、全ユニットを運転／停止したり、全手元リモ コンの操作を禁止します。禁止入力の場合、手元リモコンの運 転／停止、運転モード、設定温度、フィルターリセットの操作 が禁止されます。本機からの操作は可能です。	ON	ON	パルス入力 (0.5～1秒)

配線仕様

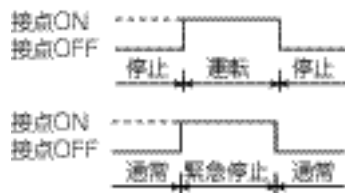
CN2	リード線	緊急停止／通常のレベル信号	運転／停止のレベル信号	運転／停止、禁止／許可のパルス信号
5番	橙	緊急停止／通常入力	運転／停止入力	運転入力
6番	黄	未使用	未使用	停止入力
7番	青	未使用	未使用	手元リモコン操作禁止入力
8番	灰	未使用	未使用	手元リモコン操作許可入力
9番	赤	外部DC電源+12Vまたは+24V		

入力信号

(レベル信号)

(パルス信号)

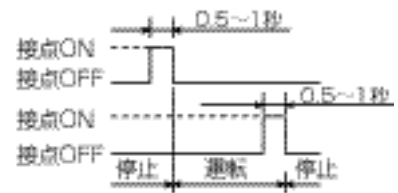
(例)運転／停止の場合



信号1(運転)

信号2(停止)

※禁止／許可入力も同様です。



(レベル信号)

緊急停止／通常信号選択時、外部入力信号の接点OFF ONの変化時に通常 緊急停止、接点ON OFFの変化時に緊急停止 通常となります。

運転／停止信号選択時、外部入力信号の接点OFF ONの変化時に停止 運転、接点ON OFFの変化時に運転 停止となります。

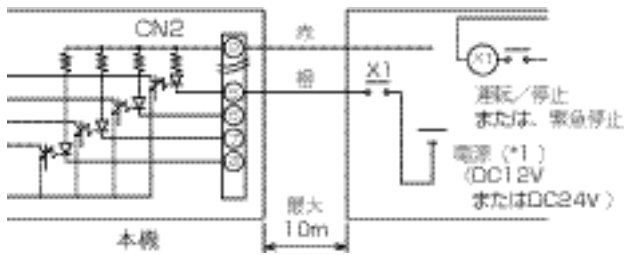
(パルス信号)

運転中に運転信号をいれても運転のままです。(停止、禁止、許可も同様です。)

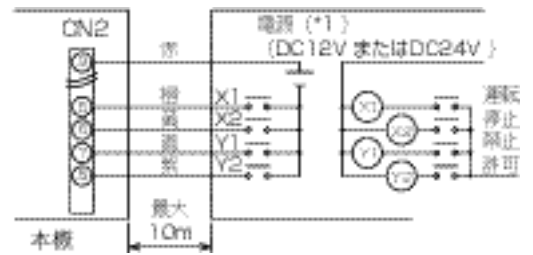
手元リモコン禁止とした場合、手元リモコンによる運転／停止・運転モード・温度設定・フィルターリセットの操作を禁止します。

パルス幅(接点ON時間)は0.5～1秒としてください。

推奨回路例  
(レベル信号)



(パルス信号)



リレー、DC 電源、延長ケーブル等は別途、現地にて手配してください。  
 接続ケーブルの延長は10m までとしてください。(0.3mm<sup>2</sup>以上のケーブルを使用してください。)  
 使用しないケーブルはコネクタの近くでカットし、カットした部分はテープ等で確実に絶縁処理してください。

(B) 外部出力

機能

1台以上の空調機が運転しているとき「運転」、1台以上の空調機に異常が発生しているとき「異常発生中」の信号を出力します。

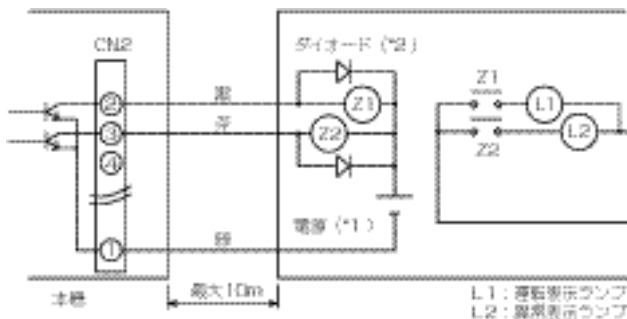
配線仕様

CN2	リード線	各端子の内容
1番	緑	外部出力共通GND (外部DC電源GND)
2番	黒	運転/停止
3番	茶	異常/正常

\* 「異常発生中」も「運転中」は出力します。

推奨回路例

リレーを駆動させる場合



リレー Z1、Z2 は次の仕様のものを使用ください。  
 操作コイル  
 定格電圧：DC12V、DC24V  
 消費電力：0.9W 以下  
 (\*1) 使用するリレーに合わせて電源を別途手配してください。(DC12V または DC24V)  
 (\*2) リレーコイルの両端に必ずダイオードを入れてください。

運転中、異常発生中に各素子がON します。  
 接続ケーブルの延長は、10m までとしてください。  
 リレー、ランプ、ダイオード、延長ケーブル等は別途、現地にて手配してください。

(5)システムコントローラ使用時の注意点

システムコントローラ	項目	内 容									
		IC	A_IC	K_IC	RAC	連LC	単LC	汎用	多汎用		
グループリモコン PAC-SC30GR	管理規模・機器 (注1)	16台/8G	○	○	×	○	○	×	×	×	
	接続位置	・集中管理用伝送線或いは、室内外伝送線のどちらでも接続可能 *必ず【7.(3)システムコントローラの電源】をご覧ください。									
	管理グループ範囲	・最大8グループ、管理可能グループNo.はグループリモコン自己アドレスの[下2桁]～[下2桁+7] M-NETアドレスは同一に設定できないため、グループリモコンを2台使用し各々を上位設定/下位設定にして、全く同一のグループ範囲を管理することはできません。									
システムリモコン PAC-SF44SR	管理規模・機器 (注1)	50台/50G	○	○	×	○	○	○	○	×	
	接続位置	・集中管理用伝送線或いは、室内外伝送線のどちらでも接続可能 *必ず【7.(3)システムコントローラの電源】をご覧ください。									
	管理グループ範囲	・最大50グループ、管理可能グループNo.は1～50。									
	手元リモコン 操作禁止	・機能設定スイッチ設定により「操作禁止送信有効」に設定した場合に有効になります。 ・本機から手元操作禁止を設定する場合、室内ユニットや他のシステムコントローラからの禁止制御は使用できません。									
	運転モード制限 機能	・本機能は設備用室内ユニットのグループに接続される手元リモコンに対してのみ有効です。									
	外部入力	・本機能の停止入力を使用してもRAC機種は、停止しないときがあります。RACを管理している時は、本機能は使用しないでください。 ・本機から手元禁止を設定入力する場合、室内ユニットの通方/手元切換 (ON32) は使用できません。									
ON-OFFリモコン PAC-YT40ANR	管理規模・機器 (注1)	50台/16G	○	○	×	○	○	○	○	×	
	接続位置	・集中管理用伝送線或いは、室内外伝送線のどちらでも接続可能 *必ず【7.(3)システムコントローラの電源】をご覧ください。									
	管理グループ範囲	・最大16グループ、管理可能グループNo.は通常自己アドレスの[下2桁]～[下2桁+15] (連番で任意で設定することも可能。)									
	外部入力	・PAC-SF44SRと同様									
スケジュール タイマー (M-MET対応) PAC-YT34ST	管理規模・機器 (注1)	50台/50G	○	○	×	○	○	○	○	×	
	接続位置	・集中管理用伝送線或いは、室内外伝送線のどちらでも接続可能 *必ず【7.(3)システムコントローラの電源】をご覧ください。									
	管理グループ範囲	・最大50グループ、管理可能グループNo.は1～50。									
	スケジュール	・他のシステムコントローラから本機の手元操作設定された場合や、緊急停止中はスケジュール制御が停止します。									
	手元リモコン 操作禁止	・機能設定スイッチ設定により「操作禁止送信有効」に設定した場合に有効になります。 ・本機から手元操作禁止を設定する場合、室内ユニットや他のシステムコントローラからの禁止制御は使用できません。									
	外部入力	・PAC-SF44SRと同様									

- (注1) 管理機種 ① IC : 設備用室内ユニット ② A\_IC : M-NET通信対応A制御スリム機種 ③ K\_IC : K制御機種  
 ④ RAC : M-NET制御インターフェースを用いたルームエアコン、ハウジングエアコン  
 ⑤ 連LC : 室内ユニットとの連動制御で運転動作するフリープランロスナイ  
 ⑥ 単LC : グループ制御で管理するフリープランロスナイ  
 ⑦ 汎用 : 汎用インターフェース(PAC-SE46DC)を介し接続された汎用機器  
 ⑧ 多汎用 : 多接点汎用インターフェース(MI-96MB)を介し接続された汎用機器



システムコントローラ	項目	内 容																																								
集中コントローラ G-50	管理規模・機器 (注1)	50台/50G	IC	A_IC	K_IC	RAC	連LC	単LC	汎用	多汎用																																
	K制御管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>K伝送コンバータ (形名: PAC-SC25KA) が必要です。</li> <li>K伝送コンバータのアドレスは、管理するK制御ユニットの最小アドレス+200を設定してください。</li> <li>(K伝送コンバータのアドレスはシステムコントローラへのグループ登録は不要です。)</li> <li>アドレス "0" のシステムコントローラのみK制御ユニットを管理できます。</li> <li>本機でK制御機種を管理したい場合、必ずアドレスを "0" に設定してください。</li> <li>M-NETアドレスは同一に設定できないため、複数のシステムコントローラからK制御機種を管理できません。</li> <li>K制御ユニットとM-NET機種のユニットの両方を管理する場合、K制御室内ユニットのアドレスはM-NET機種の室内ユニットアドレスより大きくなるように設定してください。また、グループ番号とそのグループに関するK制御室内ユニットの最小アドレスが同値になるようにシステムコントローラへグループ登録してください。</li> </ul>																																								
	接続位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中管理用伝送線または、室内外伝送線のどちらでも接続可能</li> <li>※必ず [7.(3)システムコントローラの電源] をご覧ください。</li> </ul>																																								
	管理グループ範囲	最大50グループ、管理可能グループNoは1~50																																								
	手元リモコン 操作禁止	本機から手元操作禁止を設定する場合、室内ユニットや他のシステムコントローラからの禁止制御は使用できません。																																								
外部入力	PAC-SF44SRと同様。																																									
LMアダプター PAC-YVD3LMAP	管理規模・機器 (注1)	50台/—	IC	A_IC	K_IC	RAC	連LC	単LC	汎用	多汎用																																
	接続位置	M-NET伝送線 (集中管理用伝送線)																																								
	管理グループ範囲	グループ管理機能はありません。LowWorks®からの操作は、空調機で設定したグループ構成と同一の室内ユニット (親機/子機) 全てに対し操作が必要です。																																								
*空調機のシステム構成により対応できない場合があります。詳細は販売店にてお問い合わせください。																																										
その他	システム立上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>上位SC設定のシステムコントローラにて、初期設定 (グループ設定・運動設定) が必要です。</li> <li>グループ設定: 各グループ毎にユニット、リモコン、下位システムコントローラを登録します。</li> <li>リモコン登録: <ul style="list-style-type: none"> <li>M-NETリモコン使用時のみグループ設定します。MAリモコン (ワイヤレスリモコン含む) 使用時にはリモコンをグループ設定する必要はありません。</li> </ul> </li> <li>下位システムコントローラ登録: <ul style="list-style-type: none"> <li>上位システムコントローラ (SC) で下位SCをグループ登録する際には下位SCの管理グループ範囲内で、グループ登録してください。或いは、自己アドレス変更などで下位SC側の管理グループ範囲を変更してください。</li> <li>(下位SC側の管理グループ範囲を変更した場合、上位SC、下位SCの両方を電源リセットし再立上げしてください。)</li> </ul> </li> <li>運動設定: 室内ユニットと運動ロスナイの運動関係を登録します。</li> <li>ON/OFFリモコンでは、運動設定ができません。手元リモコンにて室内ユニットと運動ロスナイとの接続関係を結んでください。その情報をON/OFFリモコンは吸い上げます。</li> </ul>																																								
	RAC、LC使用時の リモコン給電	<p>RAC機種は、集中管理用伝送線に接続します。ロスナイは、室内外伝送線・集中管理用伝送線どちらにも接続することが可能です。</p> <p>上記ユニットを集中管理用伝送線に接続した場合、各リモコンは伝送線給電ユニットから給電され接続台数の制限があります。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">リモコン台数(*1)</th> </tr> <tr> <th colspan="5">集中コントローラ(G-50)(*2)・ON/OFFリモコン (システムリモコン・スケジュールタイマー グループリモコン)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>0台(0台)</th> <th>1台(2台)</th> <th>2台(4台)</th> <th>3台(5台)</th> <th>4台(5台)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ユニット 登録台数</td> <td>PAC-SC34KU</td> <td>30台以下</td> <td>26台以下</td> <td>22台以下</td> <td>18台以下</td> <td>14台以下</td> </tr> <tr> <td>PAC-SC33KU</td> <td>10台以下</td> <td>6台以下</td> <td>2台以下</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>ロスナイ: ロスナイリモコン RAC: MEリモコン或いはコンパクトリモコン (但し、RACにコンパクトリモコン型PAC-SE52CRは接続できません。)</p> <p>*1 上記台数以上のリモコンを接続する場合、伝送線用給電拡張ユニット (PAC-SF46EP) が別途必要です。 伝送線用給電拡張ユニットからリモコンを50台まで給電できます。</p> <p>*2 集中コントローラ(G-50)を接続する場合は、リモコン台数8台を差し引いてください。</p>												リモコン台数(*1)					集中コントローラ(G-50)(*2)・ON/OFFリモコン (システムリモコン・スケジュールタイマー グループリモコン)							0台(0台)	1台(2台)	2台(4台)	3台(5台)	4台(5台)	ユニット 登録台数	PAC-SC34KU	30台以下	26台以下	22台以下	18台以下	14台以下	PAC-SC33KU	10台以下	6台以下	2台以下	-
		リモコン台数(*1)																																								
		集中コントローラ(G-50)(*2)・ON/OFFリモコン (システムリモコン・スケジュールタイマー グループリモコン)																																								
		0台(0台)	1台(2台)	2台(4台)	3台(5台)	4台(5台)																																				
ユニット 登録台数	PAC-SC34KU	30台以下	26台以下	22台以下	18台以下	14台以下																																				
	PAC-SC33KU	10台以下	6台以下	2台以下	-	-																																				

(注1) 管理機種 ① IC : 設備用室内ユニット ② A\_IC : M-NET通信対応A制御スリム機種 ③ K\_IC : K制御機種  
④ RAC : M-NET制御インターフェースを用いたルームエアコン、ハウジングエアコン  
⑤ 連LC : 室内ユニットとの運動制御で運転動作するフリープランロスナイ  
⑥ 単LC : グループ制御で管理するフリープランロスナイ  
⑦ 汎用 : 汎用インターフェース(PAC-SE46DC)を介し接続された汎用機器  
⑧ 多汎用 : 多接点汎用インターフェース(MI-96MB)を介し接続された汎用機器

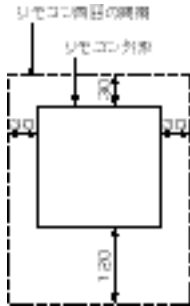
## (6)据付スペース

- ・システムコントローラは、十分強度がある場所に設置してください。
- ・0 以下、40 以上になる場所、直射日光のあたる場所には据え付けしないでください。
- ・浴室、厨房など大量の湯気が発生するところには据え付けしないでください。

グループリモコン、システムリモコン、スケジュールタイマー（M-NET対応）、ON/OFFリモコンの場合スイッチボックス、壁どちらかに設置することができます。

据付位置を決定する場合、下図に示すスペースを確保してください。

また、露、水滴、虫などの進入を防ぐために、伝送線引込口をパテで確実にシールしてください。



スイッチボックスに設置する場合は、下記部品を現地にて手配が必要です。

- ・2個用スイッチボックス（JIS C8336）
- ・薄鋼電線管（JIS C8305）
- ・ロックナット、ブッシング（JIS C8330）

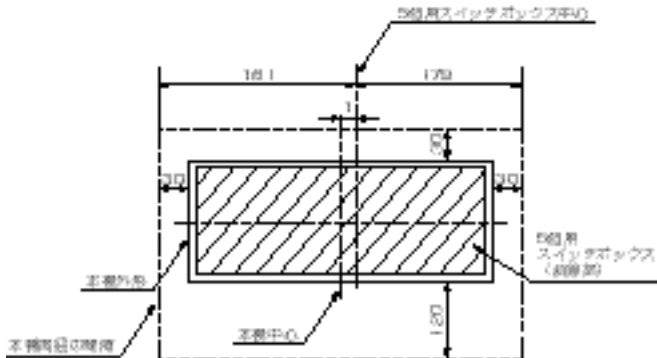
### 集中コントローラの場合

スイッチボックスを使用し設置します。

据付位置を決定する場合、下図に示すスペースを確保してください。

但し、スイッチボックスに取付けた時、下図のように左方向へ1mmずれます。

また、露、水滴、虫などの進入を防ぐために、伝送線引込口をパテで確実にシールしてください。



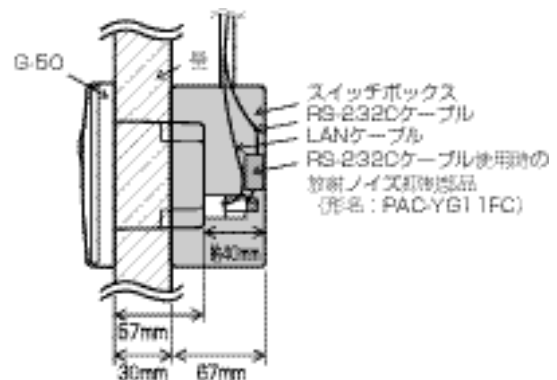
スイッチボックスに設置する場合は、下記部品を現地にて手配が必要です。

- ・5個用スイッチボックス（JIS C8336（カバー付））
- ・薄鋼電線管（JIS C8305）
- ・ロックナット、ブッシング（JIS C8330）

G-50を2台以上、横並びで据え付ける場合、製品間には30mm以上の間隔を確保してください。また縦方向に同様の間隔で並べて使用しますと、カバーの取り外しが困難になります。LANやRS-232Cコネクタを接続するときに、コネクタとの配線分の空間が必要ですので、本機とスイッチボックス背面との距離を確保してください。

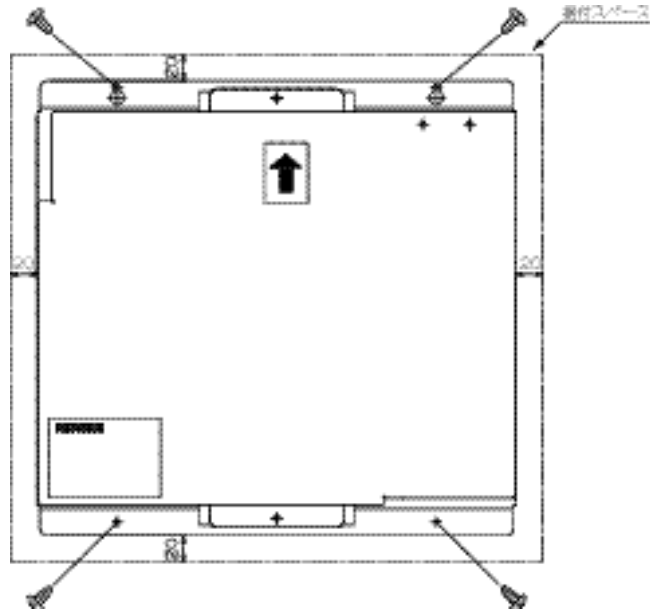
手配していただくLANケーブル、RS-232Cケーブルの仕様にもよりますが、本体底面よりLANコネクタが約20mm、RS-232Cコネクタが約40mm程度突出する場合があります。空間確保のため、できる限りコネクタ部が小さいケーブルを準備願います。

参考例) 壁厚30mmで、スイッチボックスの深さ67mmを使用したときの設置例



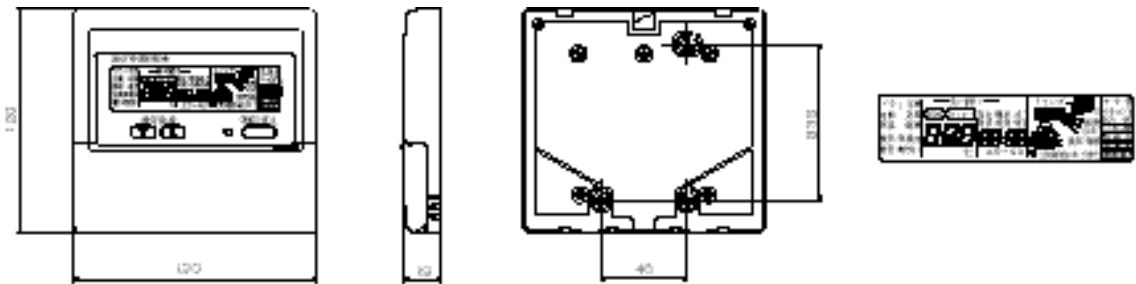
LMアダプター (PAC-YV03LMAP) の場合

- ・据付時は、本体カバーの取付けおよび取外し可能なスペースを確保ください。
- ・下図のようにM4ネジを使用し、固定します。落下の原因となるため、必ず4ヶ所固定してください。
- ・本製品は防水構造ではありません。必ず制御盤内に設置してください。
- ・3.3kgの荷重に耐えられる場所に設置してください。



(7)製品仕様

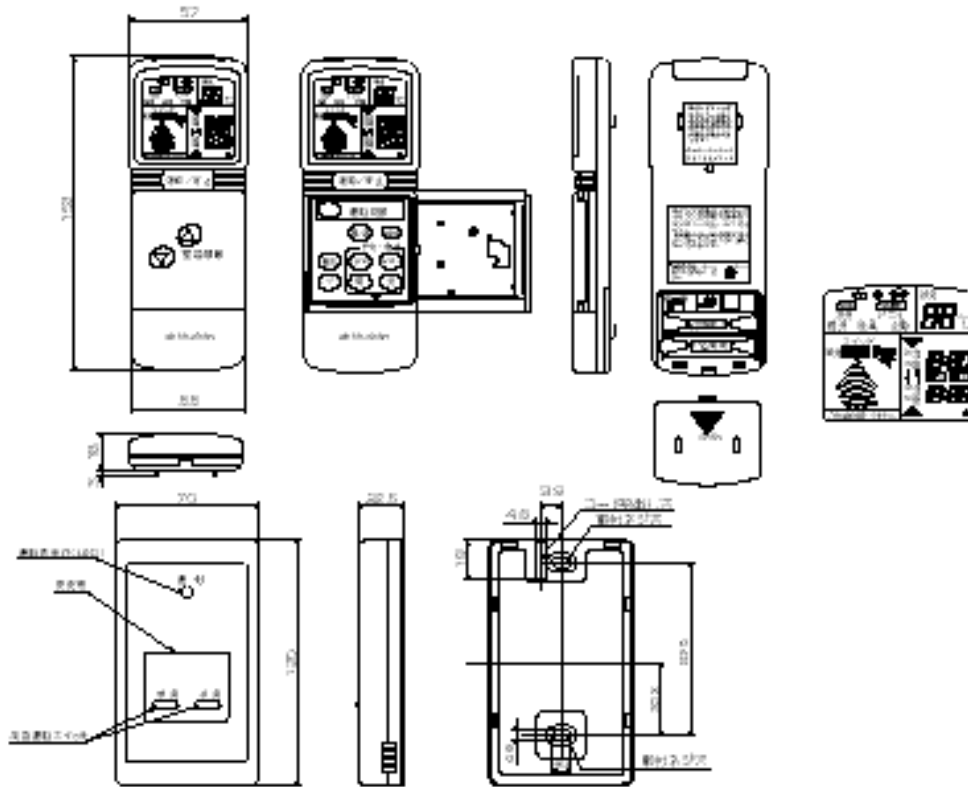
MAリモコン PAR-20MA



■仕様表

項目	内容
外形寸法	120 (H) x 120 (W) x 40 (D) mm
質量	0.2kg
電源	DC 5V 消費電力: 1.5W (動作時) 0.5W (待機時)
使用環境	湿度: 0~95% 温度: 0~50℃ (動作時) 0~60℃ (待機時)
材質	PS
外観色	白 (一部: 黒) 又は 黒 (一部: 白) (オプション: 黒) (オプション: 白)
取付方法	4ヶ所M4ネジを使用して制御盤内に固定してください。取付時、必ず本体の取付位置を確認してください。

## ワイヤレスリモコン PAR-FL39M/FA31M



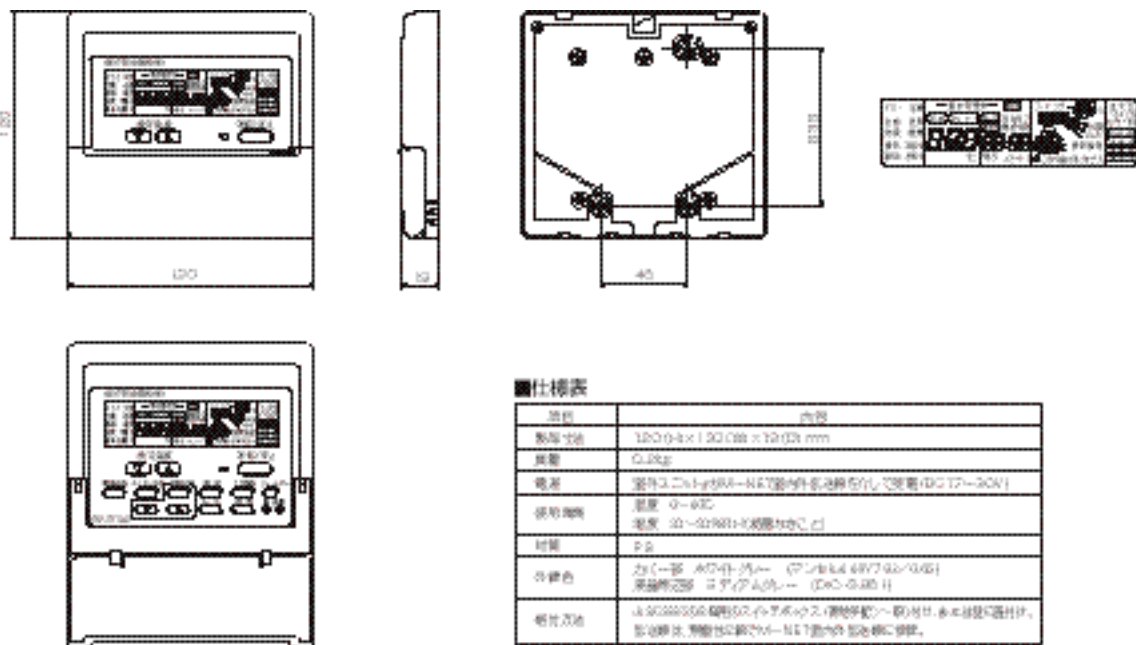
■リモコン本体仕様表

項目	内容
外形寸法	120(高)×57(幅)×21(奥) mm
重量	1.5g(約)
使用電源	乾電池 2×AA
材質	ABS
外観色	白(一部、ボタンは黒) (P-1000448722/001) 黒(一部、ボタンは白) (P-1000448722/002)
付属品	リモコン本体

■MA受光アダプタ仕様表

項目	内容
外形寸法	120(高)×70(幅)×12(奥) mm
重量	0.2g(約)
電源	DC12V (受信機に接続して動作)
使用電源	乾電池 2×AA
材質	ABS
外観色	黒(一部、ボタンは白) (P-1000448722/001)
使用方法	1. 受信機に接続して動作させる。2. 受信機に接続して動作させる。3. 受信機に接続して動作させる。4. 受信機に接続して動作させる。

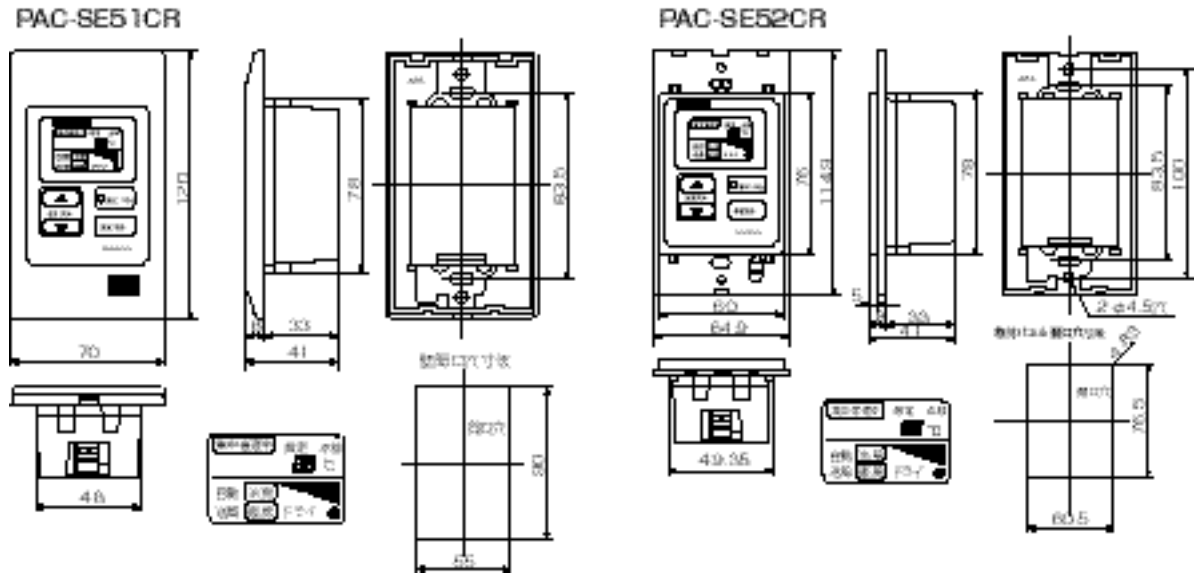
## MEリモコン PAR-F27ME



■仕様表

項目	内容
外形寸法	120(高)×120(幅)×21(奥) mm
重量	0.2g(約)
電源	受信機に接続して動作させる。2. 受信機に接続して動作させる。3. 受信機に接続して動作させる。4. 受信機に接続して動作させる。
使用電源	乾電池 2×AA
材質	ABS
外観色	白(一部、ボタンは黒) (P-1000448722/001) 黒(一部、ボタンは白) (P-1000448722/002)
使用方法	1. 受信機に接続して動作させる。2. 受信機に接続して動作させる。3. 受信機に接続して動作させる。4. 受信機に接続して動作させる。

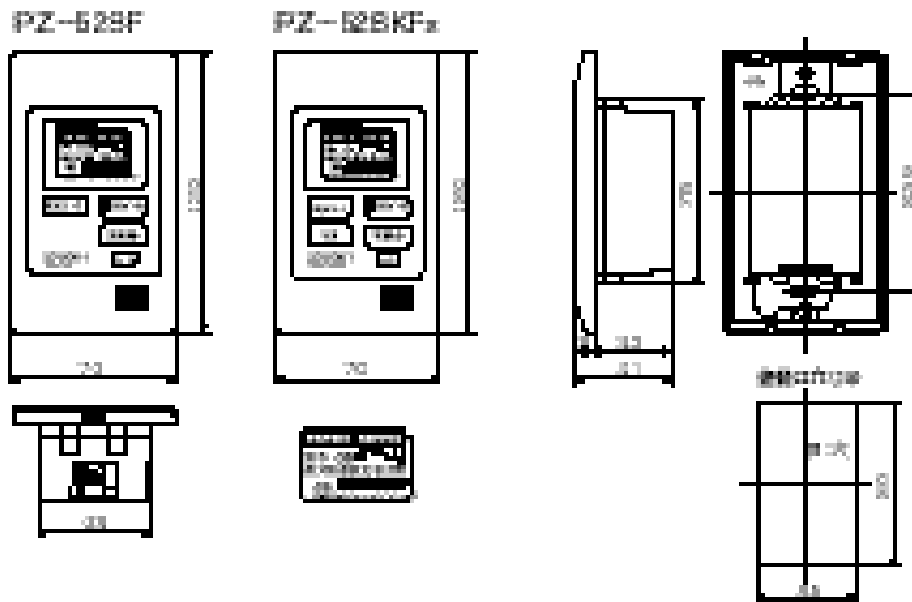
コンパクトリモコン PAC-SE51CR/52CR



■仕様表

項目	対応	
	PAC-SE51CR	PAC-SE52CR
外形寸法	120(高さ)×70(幅)×41(奥行き)mm	114.8(高さ)×64(幅)×70(奥行き)mm
質量	0.2kg	
電源	電池ユニット(4本)→RF受信時自動起動(リモコン)して発射(DC1.7~20V)	
受信電圧	電圧 0~470 感度 20~90%RH(湿度による)	
材質	ABS	
外観色	カーキ系 カウチカラー (Pantone447C/50/644) 濃紺系 ネイビーブルー (Pantone286C)	
接続方法	JIS規格の標準的スチールボックス(両面扉型)へ取り付け、 任意の位置に壁でM4×6Tボルトで固定可能。	

ロスナイリモコン PZ-52SF/52SKF<sub>2</sub>

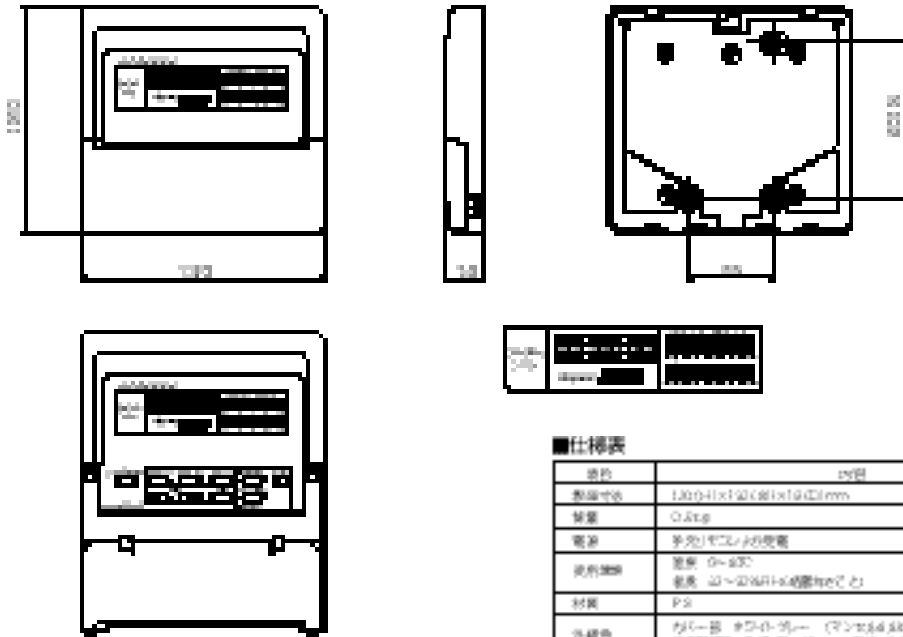


■仕様表

項目	対応	
	PZ-52SF	PZ-52SKF <sub>2</sub>
外形寸法	130(高さ)×70(幅)×41(奥行き)mm	
質量	0.2kg	
電源	DC1.7~20V(リモコン)の自動起動(リモコン)して発射(DC1.7~20V) (リモコン自動起動ユニット及び電池ユニットはRF受信時を以て発射)	
受信電圧	電圧 0~470 感度 20~90%RH(湿度による)	
材質	ABS	
外観色	カーキ系 カウチカラー (Pantone447C/50/644) 濃紺系 ネイビーブルー (Pantone286C)	
接続方法	JIS規格の標準的スチールボックス(両面扉型)へ取り付け、 任意の位置に壁でM4×6Tボルトで固定可能。	

スケジュールタイマー（手元リモコン用）

PAC-YT30ST

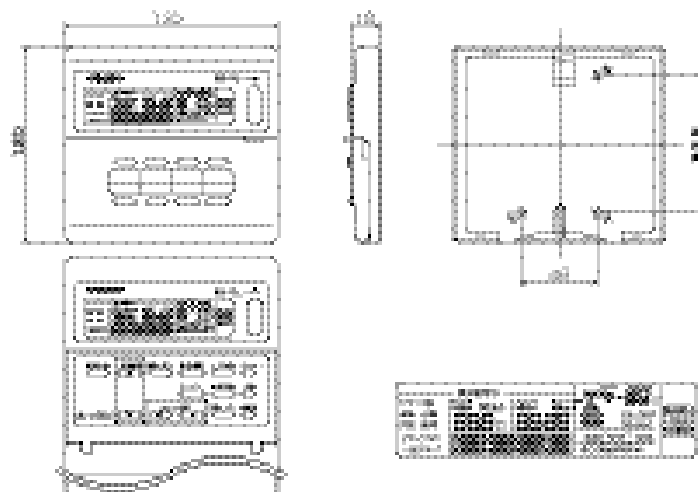


■仕様表

項目	内容
型番	YT30ST
外形寸法	130(D)×120(W)×32(D)mm
質量	0.2kg
電圧	単相100Vの交流
使用電流	定額 0～40A 最大値 30～32A(1+α)と表示してください
材質	PS
外観色	カバークローム（ワゴン色） 液晶表示部 スチールカラー（D6001）
販売方法	上記の型番は、製品の型番です（販売店）へお問い合わせください。また、お問い合わせ先、販売店等のWebサイトからお問い合わせいただけます。

グループリモコン

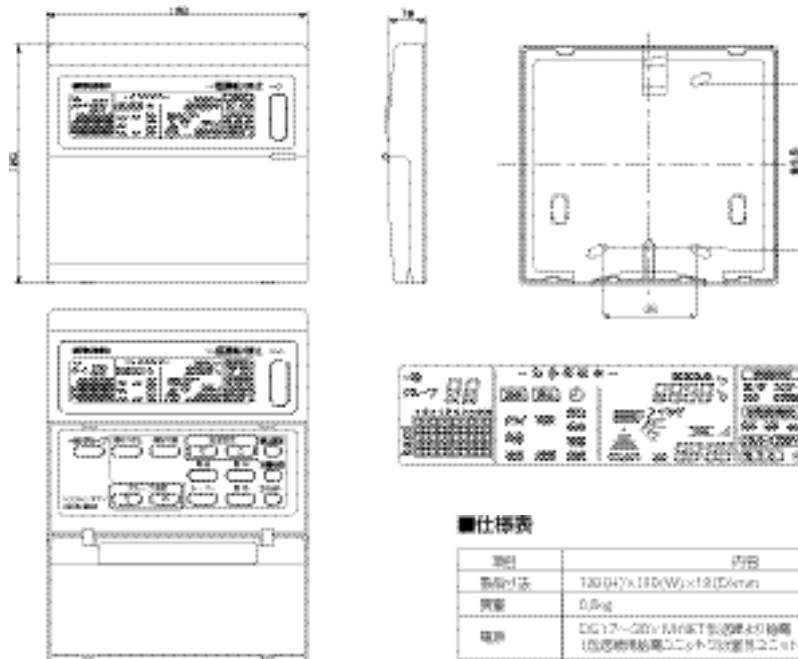
PAC-SC30GR



■仕様表

項目	内容
型番	SC30GR
外形寸法	130(D)×120(W)×32(D)mm
質量	0.2kg
電圧	DC 17～20V 4.1kV 交流電圧の範囲（各電圧の電圧範囲） 又は電圧12Vより14Vまで交流電圧を介して使用
使用電流	定額 0～40A 最大値 30～32A(1+α)と表示してください
材質	ABS
外観色	カバークローム（ワゴン色） 液晶表示部 スチールカラー（D6001）
販売方法	上記の型番は、製品の型番です（販売店）へお問い合わせください。また、お問い合わせ先、販売店等のWebサイトからお問い合わせいただけます。

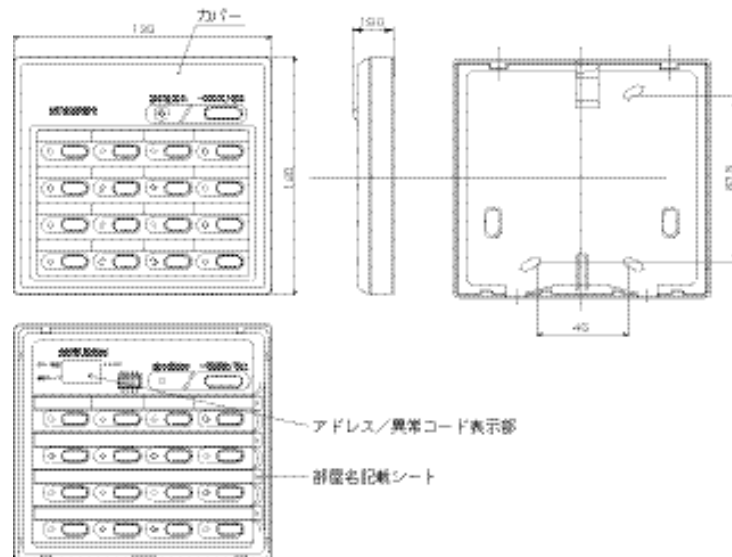
システムリモコン PAC-SF44SR



■仕様表

項目	内容
外形寸法	120(D)×118(W)×12(D)mm
質量	0.5kg
電源	DC 1.7~2.0V NiMH 2枚(標準40時間) (1.5V乾電池2枚をコンニャク型電池ボックスに装着して使用)
使用環境	温度 0~40℃ 湿度 20~80%RH(結露なきこと)
材質	ABS
外観色	本体部 ポリカーボネート (P2)色 液晶表示部 シリコン樹脂 (D005)
操作方法	JIS規格の標準的なタッチパネル(両手操作)に対応。また液晶表示部、液晶表示部でON/OFF動作/電源切替に対応。

ON/OFFリモコン PAC-YT40ANR

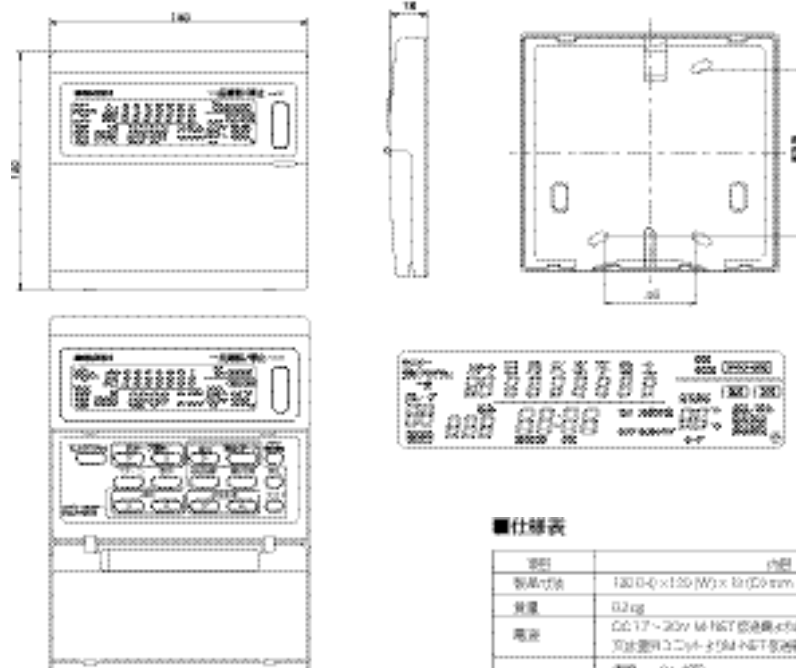


■仕様表

項目	内容
外形寸法	120(D)×128(W)×12(D)mm
質量	0.7kg
電源	DC 1.7~2.0V NiMH 2枚(標準40時間) (1.5V乾電池2枚をコンニャク型電池ボックスに装着して使用)
使用環境	温度 0~40℃ 湿度 20~80%RH(結露なきこと)
材質	ABS
外観色	本体部 ポリカーボネート (マリンブルー)色 液晶表示部 シリコン樹脂 (D005)
操作方法	JIS規格の標準的なタッチパネル(両手操作)に対応。また液晶表示部、液晶表示部でON/OFF動作/電源切替に対応。

スケジュールタイマー（M-NET対応）

PAC-YT34ST

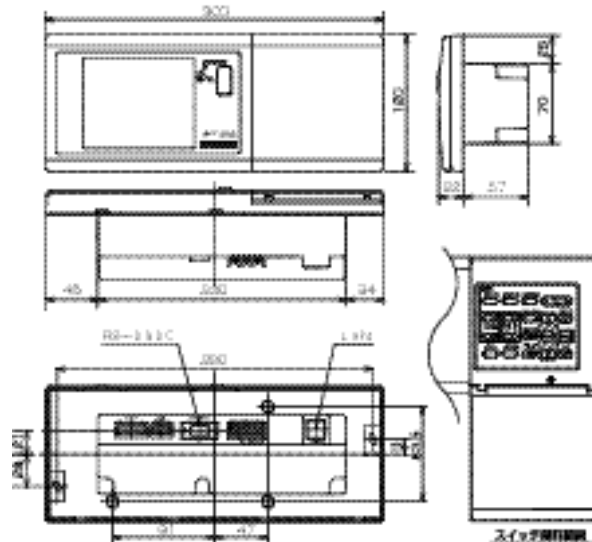


■仕様表

項目	内容
外形寸法	180(φ)×120(W)×18(D)mm
質量	0.2g
電圧	DC1.7～20V M-NET対応専用電源（各電源供給ユニット及び専用ユニットよりM-NET対応電源を利用）
動作温度	温度 0～40℃ 湿度 30～80%RH（結露防止のため）
材質	ABS
外装色	カバー部 ホワイト樹脂（70-1614 4877 32/036） 液晶表示部 シリアムグリーン（D10051）
取り付け	JIS規格に準拠したスイッチボックス（別冊別記）へ取り付け、※は軸に適合した電源は、別冊別記「M-NET型」の集中管理用電源に接続。

集中コントローラ

G-50

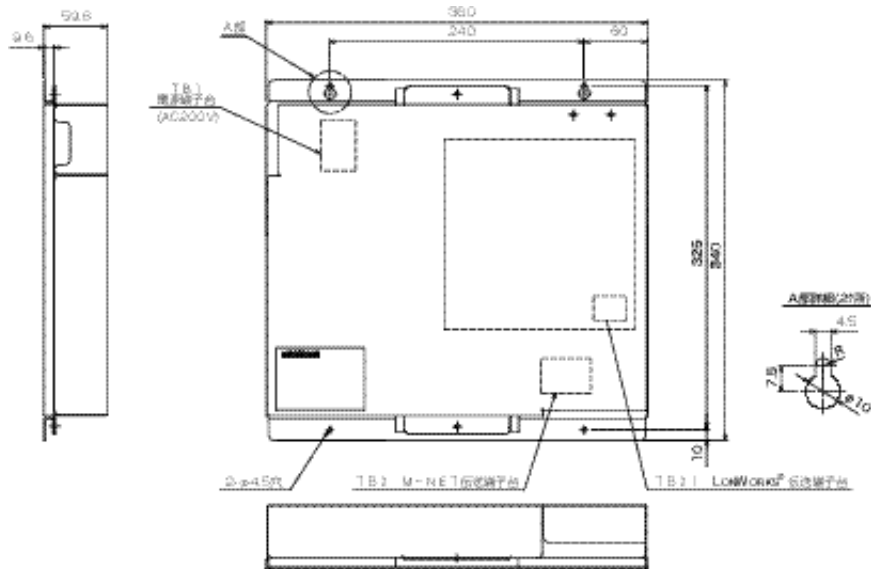


■仕様表

項目	内容
外形寸法	120(φ)×300(幅)×70(高)mm
質量	1.0kg
電圧	DC1.7～20V M-NET対応専用電源 （各電源供給専用ユニット及び専用ユニットよりM-NET対応電源を利用して使用）
動作温度	温度 0～40℃ 湿度 30～80%RH（結露防止のため）
材質	ABS
外装色	カバー部 ホワイト樹脂（70-1614 4877 32/036） 液晶表示部 シリアムグリーン（D10051）
取り付け	JIS規格に準拠したスイッチボックス（カバー付型）（別冊別記）へ取り付け、※は軸に適合した電源は、別冊別記「M-NET型」の集中管理用電源に接続。



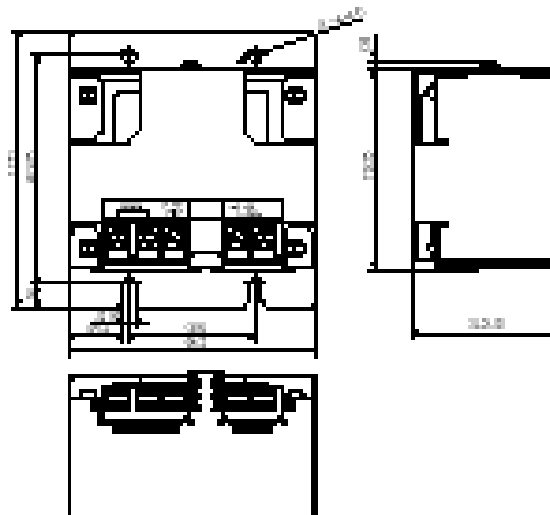
## LMアダプター PAC-YV03LMAP



■仕様表

項目		内容
外形寸法		340(H)×360(W)×99.6(D)mm
総重量		0.3kg
電源		単相AC200V(50/60Hz)
消費電力		10W
使用環境	湿度	相対湿度
	温度	動作
	湿度	保存
耐付方法		水平、垂直方向横付け可能。 ただし、垂直方向の場合は、 軸付けシールの方向と異なる。
材質		溶融樹脂スリット基板

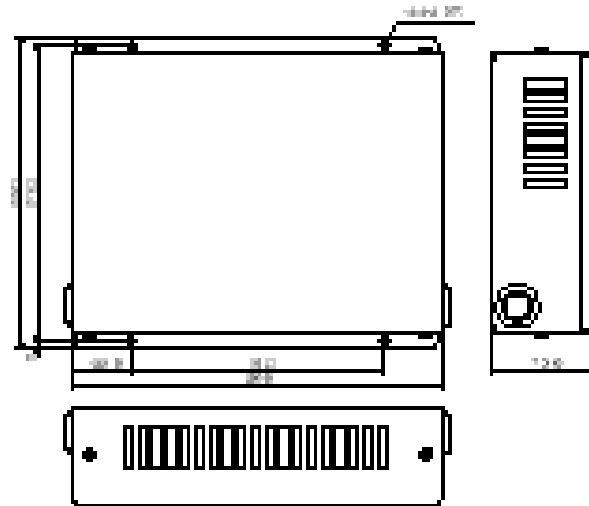
## 伝送線用給電ユニット PAC-SC33KU



■仕様表

項目		内容
寸法		160(H)×130(D)×130(L)mm
質量		0.8kg
電源		単相AC100V又はAC200V(50/60Hz)
出力電圧		DC50V
出力電流		1.2Arms
使用環境	湿度	0~90%
	温度	0~50℃(結露防止のため)
消費電力		40W
耐付方法		φ4.5mm(縦向き)
材質		樹脂製スリット基板
耐付方法		水平・垂直方向横付け可能、ただし、垂直方向の場合は、 軸付けシールの方向と異なる。

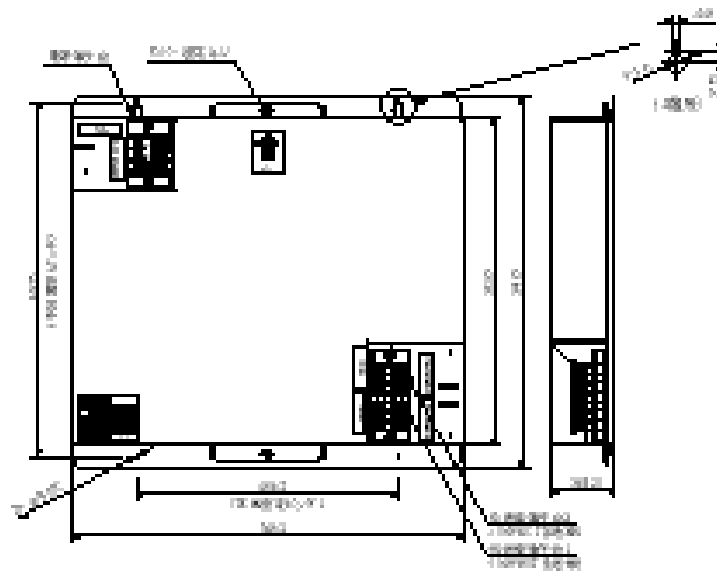
伝送線用給電ユニット PAC-SC34KU



■仕様表

項目	内容
寸法	300mm(幅)×100mm(高さ)×100mm(奥行)
質量	2.5kg
電源	AC100V/50/60Hz(50/60Hz)
出力電圧	DC50V
出力電流	1.00mA
使用温度	温度 0～40℃ 湿度 40～90%RH(結露防止)
消費電力	47W
適合伝送線	40.0～1.2mm(線径)
付属品	取扱説明書(日本語)
販売方法	水平・垂直方向にそれぞれ、100mm単位で自在に調整可能なタイプです。

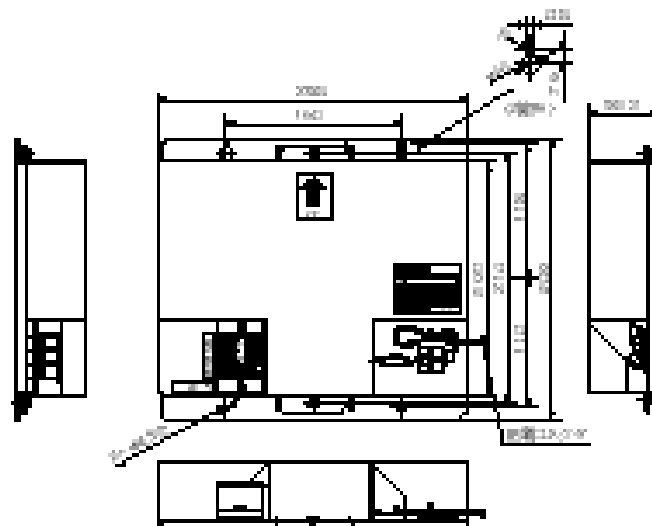
伝送線用給電拡張ユニット PAC-SF46EP



■仕様表

項目	内容
寸法	300mm(幅)×100mm(高さ)×100mm(奥行)
質量	2.5kg
電源	AC100V/50/60Hz(50/60Hz)
消費電力	52W
使用温度	温度 0～40℃ 湿度 40～90%RH(結露防止)
適合伝送線	40.0～1.2mm(線径)
付属品	取扱説明書(日本語)
販売方法	水平・垂直方向にそれぞれ、100mm単位で自在に調整可能なタイプです。

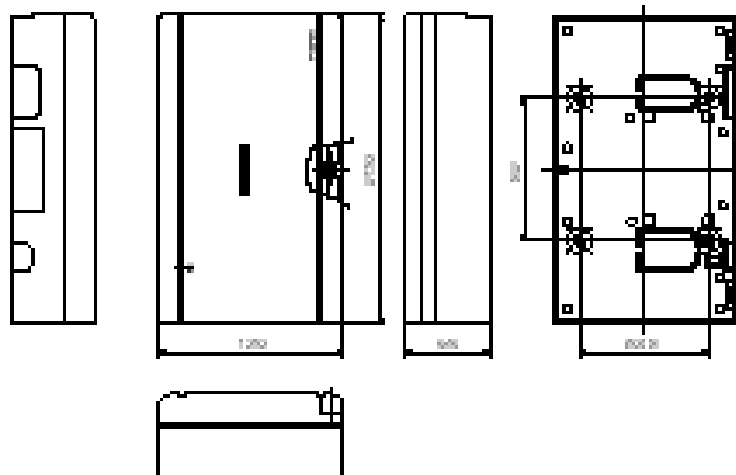
個別給電ユニット PAC-SE58KU



■仕様表

項目	内容
外形寸法	幅2000×奥行1660×高さ1130mm
質量	1.6kg
電源	AC100V 50/60Hz (Vレギュレーション)
対応機種	機種 3~400 選定 30~400MHz (選定機種のみに対応)
消費電力	60W
出力電圧	3.3V
出力電流	1.7A
対応	PAC-SE100C、PAC-SE200C、PAC-SE300Cの対応ユニット
対応機種	対応機種への接続
取り付け	水平 設置可能な取り付け面に、必ずしも壁面を必要としない。取り付け方向は任意とする。

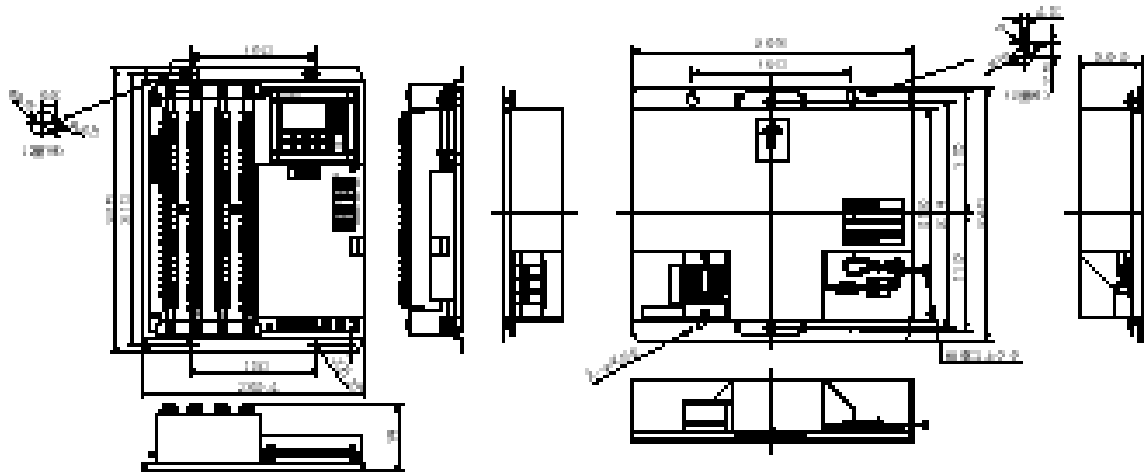
汎用インタフェース PAC-SE46DC



■仕様表

項目	内容
外形寸法	幅1200×奥行600×高さ100mm
質量	3.5kg
電源	標準電源ユニット (PAC-SE46DC-04) の電源供給端子からの取電
消費電力	20W
対応機種	機種 3~400 選定 30~400MHz (選定機種のみに対応)
材質	ABS
設置場所	天井設置 対応機種 (PAC-SE46DC-04) の設置
取り付け	JIS規格の標準規格のネジとワッシャー (両側取付) への取付可能。また、壁面に取付可能。取付方法は、取扱説明書で詳しく説明されている。

多接点汎用インタフェース MI-96MB



■仕様表

項目	内容	
外形寸法	標準寸法	200mm×200mm×100mm
	質量	2.2kg
	構造	0.5mmピッチの標準型コネクタ
	消費電力	35W
	動作温度	室温 0～40℃ 湿度 35～85%RH(結露あり)
	動作湿度	湿度 35～85%RH(結露あり)
接続仕様	標準寸法	200mm×200mm×100mm
	質量	2.2kg
	消費電力	40W
	消費電力	35W
	動作温度	室温 0～40℃ 湿度 35～85%RH(結露あり)
	動作湿度	湿度 35～85%RH(結露あり)

# 取付部品データ

## 1.取付可能部品表

### (1)室内ユニット適用表

標準用

室内ユニット形名		PFAV-P224M-A	PFAV-P280M-A	PFAV-P450M-A	PFAV-P560M-A
加熱器	蒸気・温水ヒータ	PAC-CG42×H	PAC-CG43×H	PAC-CG44×H	PAC-CG45×H
	補助電気ヒータ	PAC-CE42EH	PAC-CE43EH	PAC-CE44EH	PAC-CE45EH
加湿器	透湿膜	PAC-CE32TF	PAC-CE33TF	PAC-CE34TF	PAC-CE35TF
	蒸気スプレー	PAC-CG03SS		PAC-CG04SS	PAC-CG05SS
	ペーパーパン	PAC-CG33VP		PAC-CG35VP	
	水スプレー(ヘッド1本)	PAC-CG12WS	PAC-CG13WS	PAC-CG14WS	PAC-CG15WS
	水スプレー(ヘッド2本)	PAC-CG22WS	PAC-CG23WS	PAC-CG24WS	PAC-CG25WS
風路部品	プレナム	PAC-CG52PL	PAC-CG53PL	PAC-CG54PL	PAC-CG55PL
	吸込ダクトフランジ	PAC-CG62DF	PAC-CG63DF	PAC-CG64DF	PAC-CG65DF
	外気取入フランジ	PAC-CG73GF		PAC-CG75GF	
エアフィルタ	フィレドフィルタ	PAC-CJ72FF	PAC-CJ73FF	PAC-CJ74FF	PAC-CJ75FF
	予備フィルタ	PAC-CF82YF	PAC-CF83YF	PAC-CF84YF	PAC-CF85YF
	高性能フィルタ(NBS90%)	PAC-CF92AF	PAC-CF93AF	PAC-CF94AF	PAC-CF95AF
	中性能フィルタ(NBS65%)	PAC-CF62AF	PAC-CF63AF	PAC-CF64AF	PAC-CF65AF
	中・高性能フィルタボックス	PAC-CF72TB	PAC-CF73TB	PAC-CF74TB	PAC-CF75TB
	クリーンルーム用フィルタユニット	PAC-CF42CLB	PAC-CF43CLB	-	-
	クリーンルーム用吹出ダクトフランジ	PAC-TS05FD	PAC-TS08FD	-	-
	HEPAフィルタ	PAC-CF32CLF	PAC-CF33CLF	-	-
	エリミネータ(ピニロック)	-			
	エリミネータ(SUS)	-			
電気部品	MAリモコン	PAR-20MA			
	ワイヤレスリモコン	PAR-FL39M/FA31M			
	サーミスタ取付位置変更部品	PAC-SE40TS			
	進相コンデンサ	PAC-CP29~37CA			
	進相コンデンサ取付アタッチメント	PAC-CG85CAA			
	M制御遠方表示キット	PAC-CG92HK			
その他	右配管部品(加湿器組み用)	-	-	PAC-CF56RPH	PAC-CF57RPH
	木台	PAC-CQ31MD	PAC-CQ32MD	PAC-CG94MD	PAC-CG95MD
	サービス工具	PAC-CQ04SK			

室内ユニット形名		PFAV-P670M-A	PFAV-P800M-A	PFAV-P1120M-A	PFAV-P1400M-A	PFAV-P1600M-A
加熱器	蒸気・温水ヒータ	PAC-CG47XH		受注対応	受注対応	受注対応
	補助電気ヒータ	PAC-CE46EH		-	-	-
加湿器	透湿膜	-		-	-	-
	蒸気スプレー	PAC-CL35SS		受注対応	受注対応	受注対応
	ペーパーパン	PAC-CM08VP		受注対応	受注対応	受注対応
	水スプレー(ヘッド1本)	PAC-CL25WS		受注対応	受注対応	受注対応
	水スプレー(ヘッド2本)	-		-	-	-
風路部品	プレナム	PAC-CG57PL		-	-	-
	吸込ダクトフランジ	付		-	-	-
	外気取入フランジ	-		-	-	-
エアフィルタ	フィレドフィルタ	受注対応		受注対応	受注対応	受注対応
	予備フィルタ	PAC-CQ61YF		-	-	-
	高性能フィルタ(NBS90%)	-		-	-	-
	中性能フィルタ(NBS65%)	-		-	-	-
	中・高性能フィルタボックス	-		-	-	-
	クリーンルーム用フィルタユニット	-		-	-	-
	クリーンルーム用吹出ダクトフランジ	-		-	-	-
	HEPAフィルタ	-		-	-	-
	エリミネータ(ピニロック)	PAC-CM36EN		受注対応	受注対応	受注対応
エリミネータ(SUS)	PAC-CM37EN		受注対応	受注対応	受注対応	
電気部品	MAリモコン	PAR-20MA				
	ワイヤレスリモコン	PAR-FL39M/FA31M				
	サーミスタ取付位置変更部品	PAC-SE40TS				
	進相コンデンサ	PAC-CP29~37CA		受注対応	受注対応	受注対応
	進相コンデンサ取付アタッチメント	PAC-CP82CA		-	-	-
	M制御遠方表示キット	PAC-CG92HK				
その他	木台	-		受注対応	受注対応	受注対応
	サービス工具	PAC-CQ04SK				

## オールフレッシュ用

室内ユニット形名		PFAV-P265M-A-F	PFAV-P335M-A-F	PFAV-P530M-A-F	PFAV-P670M-A-F
加熱器	蒸気・温水ヒータ	PAC-CG42XH	PAC-CG43XH	PAC-CG44XH	PAC-CG45XH
加湿器	透湿膜	PAC-CE32TF	PAC-CE33TF	PAC-CE34TF	PAC-CE35TF
	蒸気スプレー	PAC-CG03SS		PAC-CG04SS	PAC-CG05SS
	ペーパーパン	PAC-CG33VP		PAC-CG35VP	
	水スプレー(ヘッド1本)	PAC-CG12WS	PAC-CG13WS	PAC-CG14WS	PAC-CG15WS
	水スプレー(ヘッド2本)	PAC-CG22WS	PAC-CG23WS	PAC-CG24WS	PAC-CG25WS
エアフィルタ	フレドフィルタ	PAC-CJ72FF	PAC-CJ73FF	PAC-CJ74FF	PAC-CJ75FF
	予備フィルタ	PAC-CF82YF	PAC-CF83YF	PAC-CF84YF	PAC-CF85YF
電気部品	MAリモコン	PAR-20MA			
	ワイヤレスリモコン	PAR-FL39M/FA31M			
	サーミスタ取付位置変更部品	PAC-SE40TS			
	進相コンデンサ	PAC-CP29 ~ 37CA			
	進相コンデンサ取付アタッチメント	PAC-CG85CAA			
	M制御遠方表示キット	PAC-CG92HK			
その他	木台	PAC-CQ31MD	PAC-CQ32MD	PAC-CG94MD	PAC-CG95MD
	サービス工具	PAC-CQ04SK			

室内ユニット形名		PFAV-P1000M-A-F	PFAV-P1250M-A-F	PFAV-P1600M-A-F
加熱器	蒸気・温水ヒータ	PAC-CG47×H	受注対応	受注対応
加湿器	透湿膜	-	-	-
	蒸気スプレー	PAC-CL35SS	受注対応	受注対応
	ペーパーパン	PAC-CM08VP	受注対応	受注対応
	水スプレー(ヘッド1本)	PAC-CL25WS	受注対応	受注対応
	水スプレー(ヘッド2本)	-	-	-
エアフィルタ	フレドフィルタ	受注対応	受注対応	受注対応
	予備フィルタ	PAC-CQ61YF	-	-
電気部品	MAリモコン	PAR-20MA		
	ワイヤレスリモコン	PAR-FL39M/FA31M		
	サーミスタ取付位置変更部品	PAC-SE40TS		
	進相コンデンサ	PAC-CP29 ~ 37CA	受注対応	受注対応
	進相コンデンサ取付アタッチメント	PAC-CP82CA	-	-
	M制御遠方表示キット	PAC-CG92HK		
その他	木台	-	受注対応	受注対応
	サービス工具	PAC-CQ04SK		

## (2) 室外ユニット適用表

室外ユニット形名		PUHV-P224M-A	PUHV-P280M-A	PUHV-P335M-A	PUHV-P450M-A	PUHV-P560M-A
圧力計		PAC-KA63PG				
防雪フード	吸込側	PAC-KB72SD	PAC-KB73SD	PAC-KB73SD	PAC-KB74SD	
	吹出側	PAC-KB82TD	PAC-KB83TD	PAC-KB83TD	PAC-KB84TD	
集中排水キット		PAC-KB92DPT	PAC-KAB93DPT	PAC-KAB93DPT	PAC-KAB94DPT	
後配管キット		PAC-KB62RPT	-	PAC-KB63RPT	-	
アクティブフィルタ	本体	PAC-KB50AAC	-	PAC-KB50AAC		
	取付部品	PAC-KB56FAC	-	PAC-KB56FAC	PAC-KB57FAC	

(3)取付可能部品併用組込可能組合せ表

標準用

...併用組込可能 x...併用組込不可 -...対象外

														備考		
ヒータ	蒸気・温水ヒータ		x	x											-	
	補助ヒータ	x		x											-	
加湿器 1	透湿膜加湿器	x	x			x	x	x							-	冷房加湿はできません
	蒸気スプレー加湿器					x	x	x								"
	水スプレー加湿器					x	x	x								"
	ペーパーパン加湿器					x	x	x								"
風路	吸込ダクトフランジ															-
	プレナム											2	x		-	
	外気取入フランジ												x		-	
フィルタ	フィルドフィルタ															-
	中、高性能フィルタ								2				x		-	
	HEPAフィルタユニット								x	x			x		-	
他	右配管部品（加湿器組込）	-	-	-					-	-	-	-	-	-	-	16, 20馬力のみ 3

- 加湿器は暖房運転で加湿してください。冷房運転での加湿はできません。
- 8, 10馬力はx、16, 20馬力は となります。
- 16, 20馬力に 、 、 加湿器を組込んで右配管接続する場合は、 右配管部品が必要です。
- 上表に記載のない別売部品については、基本的に併用組込み可能です。

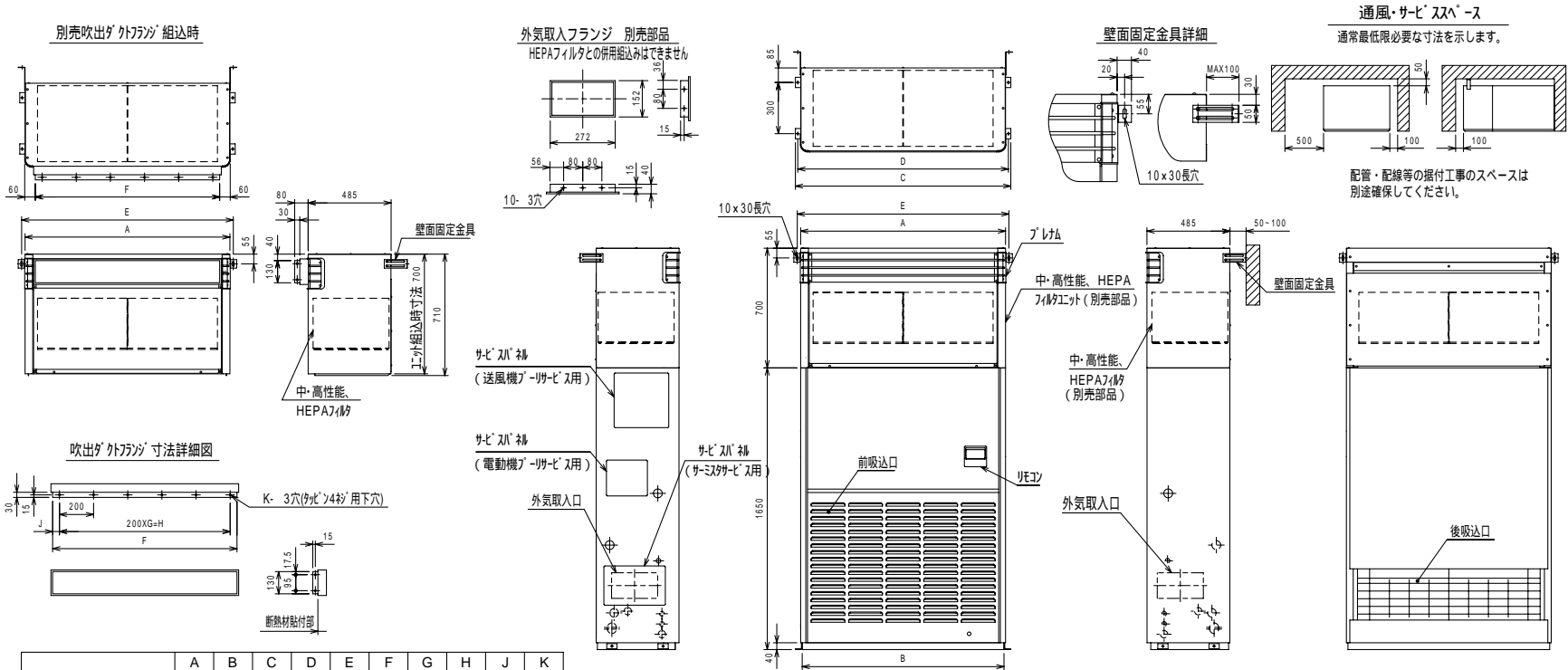
オールフレッシュ用

...併用組込可能 x...併用組込不可 -...対象外

														備考		
ヒータ	蒸気・温水ヒータ			x												
	補助ヒータ	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	組込みできません
加湿器 1	透湿膜加湿器	x		-		x	x	x								冷房加湿はできません
	蒸気スプレー加湿器			-		x	x	x								"
	水スプレー加湿器			-		x	x	x								"
	ペーパーパン加湿器			-		x	x	x								"
風路	吸込ダクトフランジ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	標準組込み済
	プレナム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	組込みできません
	外気取入フランジ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	"
フィルタ	フィルドフィルタ															-
	中、高性能フィルタ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	組込みできません
	HEPAフィルタユニット	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	"
他	右配管部品（加湿器組込）	-	-	-					-	-	-	-	-	-	-	16, 20馬力のみ 2

- 加湿器は暖房運転で加湿してください。冷房運転での加湿はできません。
- 16, 20馬力に 、 、 加湿器を組込んで右配管接続する場合は、 右配管部品が必要です。
- 上表に記載の無い別売部品については、基本的に併用組込み可能です。

2. 取付部品仕様概要  
 (1) 中・高性能、HEPAフィルタ  
 P224・P280形



	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K
PFAV-P224M-A	980	962	1042	1014	1020	860	4	800	30	14
PFAV-P280M-A	1200	1182	1262	1234	1240	1080	5	1000	40	16

中・高性能フィルタ

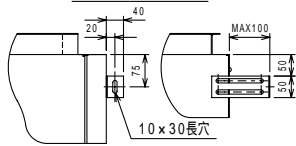
項目	形名	PFAV-P224M-A	PFAV-P280M-A
別売フィルタユニット形名		PAC-CF72TB	PAC-CF73TB
外装色		マンセル5Y 8/1	
外形寸法	高さ mm	710 < 製品組込時700 >	
	幅 mm	980	1200
	奥行 mm	485	
エアフィルタ	形名	PAC-CF62AF	PAC-CF92AF
	集塵効率 %	65	90
断熱材	断熱材	グラスウール + ガラスクロス + 発散防止コーティング	
	製品質量<フィルタ取外時> kg	49 < 40 >	57 < 47 >
エアフィルタ質量	kg	4.5 × 2	5.0 × 2
別売吹出ダクトフランジ 形名		PAC-TS05FD	PAC-TS08FD

HEPAフィルタ

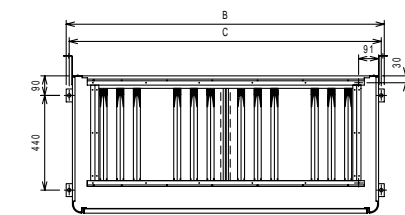
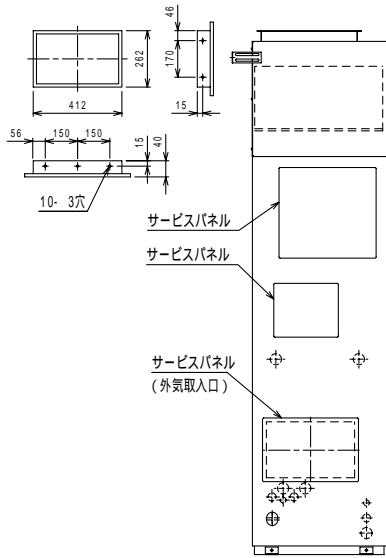
項目	形名	PFAV-P224M-A	PFAV-P280M-A
別売フィルタユニット形名		PAC-CF42CLB	PAC-CF43CLB
外装色		マンセル5Y 8/1	
外形寸法	高さ mm	710 < 製品組込時700 >	
	幅 mm	980	1200
	奥行 mm	485	
エアフィルタ	形名	PAC-CF32CLF	PAC-CF33CLF
	集塵効率 %	D.O.P. < 0.3 μ > 99.97以上	
断熱材	断熱材	グラスウール + ガラスクロス + 発散防止コーティング	
	製品質量<フィルタ取外時> kg	56 < 40 >	67 < 47 >
エアフィルタ質量	kg	8.0 × 2	10.0 × 2
別売吹出ダクトフランジ 形名		PAC-TS05FD	PAC-TS08FD



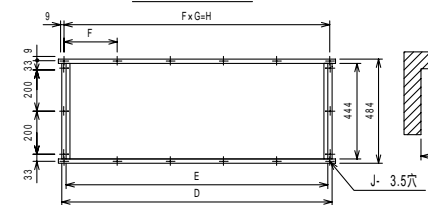
壁面固定金具詳細



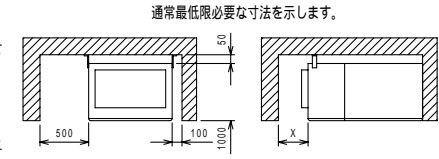
外気取入フランジ 別売部品



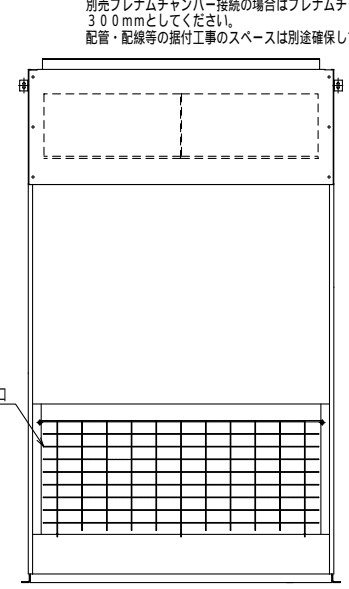
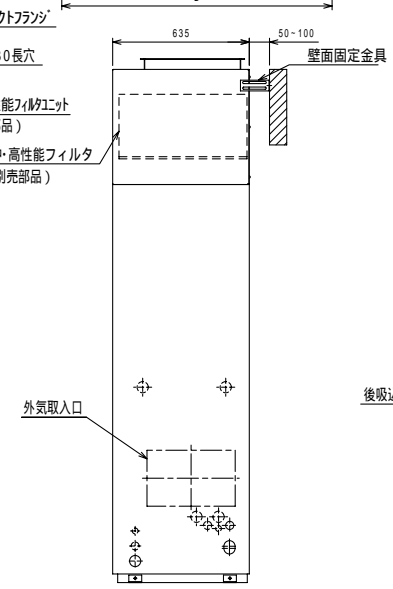
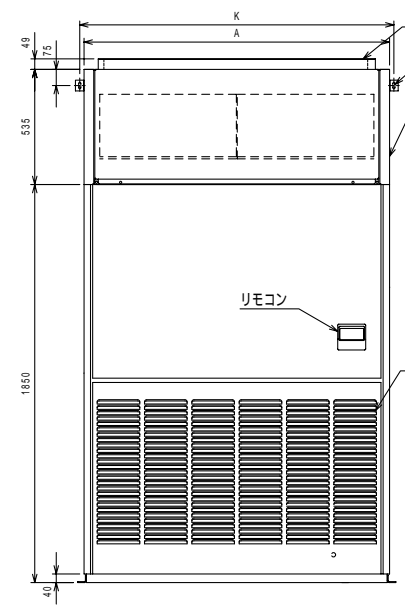
吹出ダクトフランジ



通風・サービススペース



通常最低限必要な寸法を示します。  
X寸法は、ダクト接続の場合はダクトスペース+300mm、別売プレナムチャンパー接続の場合はプレナムチャンパー+300mmとしてください。  
配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。



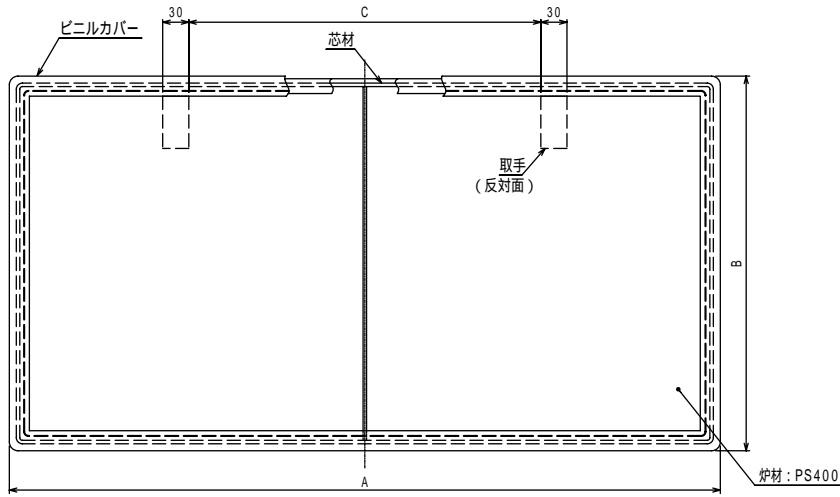
項目	形名	PFAV-P450M-A		PFAV-P560M-A	
別売フィルタユニット形名		PAC-CF74TB		PAC-CF75TB	
外装色		マンセル5Y 8/1			
外形寸法	高さ mm	594 < 製品組込時584 >			
	幅 mm	1200		1420	
	奥行 mm	635			
エアフィルタ	形名	PAC-CF64AF	PAC-CF94AF	PAC-CF65AF	PAC-CF95AF
	集塵効率 %	65	90	65	90
断熱材		グラスウール+発散防止コーティング			
製品質量<フィルタ取外時> kg		56 < 44 >		70 < 52 >	
エアフィルタ質量 kg		6.0 x 2		9.0 x 2	

	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K
PFAV-P450M-A	1200	1258	1230	1046	1006	257	4	1028	16	1240
PFAV-P560M-A	1420	1478	1450	1255	1215	247	5	1235	18	1460

P450・P560形

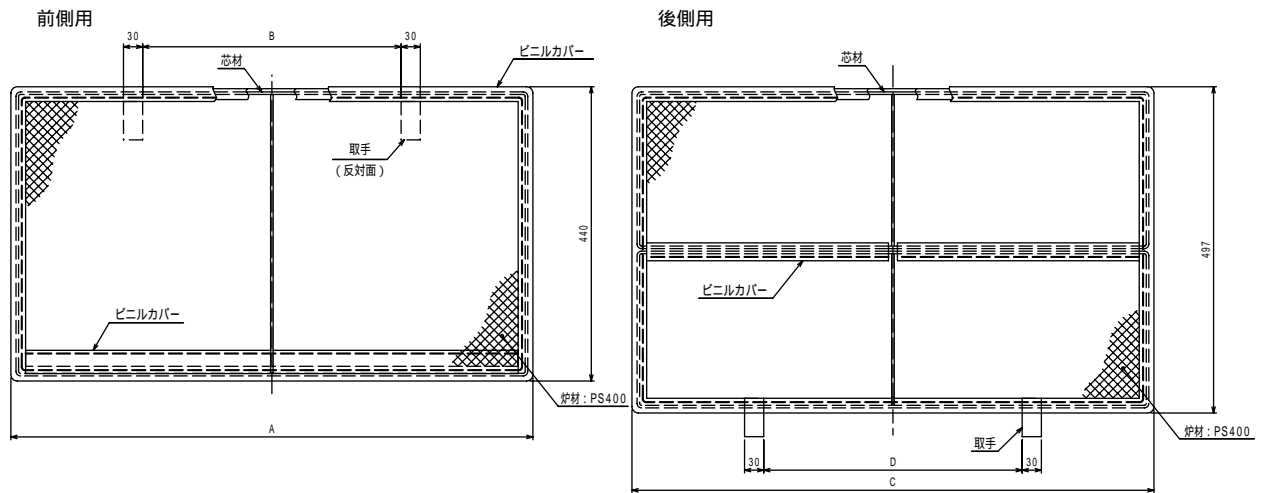
## (2) フィレドンフィルタ

P224・P280・P265-F・P335-F形



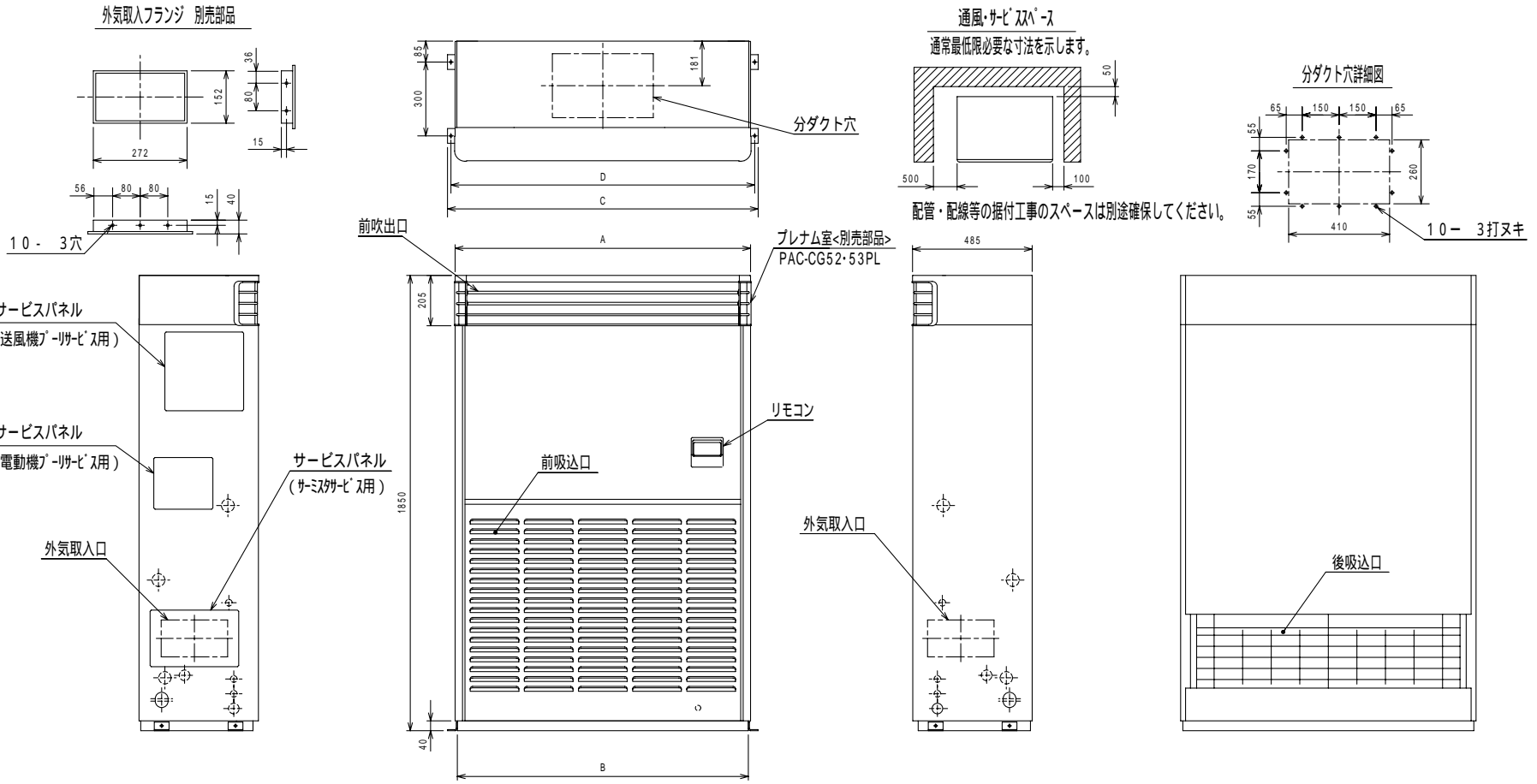
形名	A	B	C	適用機種
PAC-CJ72FF	836	614	400	PFAV-P224M-A, PFAV-P265M-A-F
PAC-CJ73FF	1056	614	600	PFAV-P280M-A, PFAV-P335M-A-F

P450・P560・P530-F・P670-F形



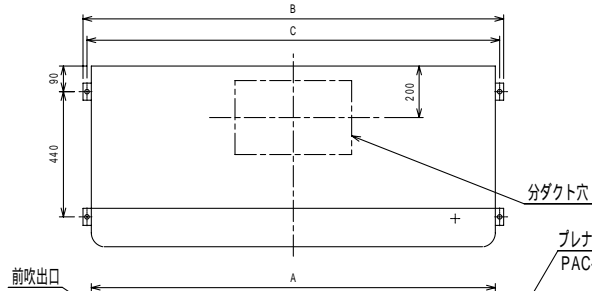
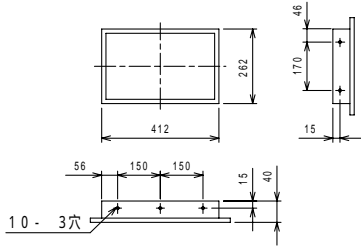
形名	A	B	C	D	適用機種
PAC-CJ74FF	1060	600	1015	650	PFAV-P450M-A, PFAV-P530M-A-F
PAC-CJ75FF	1280	800	1235	870	PFAV-P560M-A, PFAV-P670M-A-F

(3) プレナム オールフレッシュ用は組込みできません  
P224・P280形

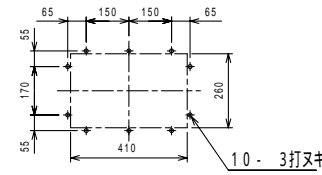


	A	B	C	D
PFAV-P224M-A	980	962	1042	1014
PFAV-P280M-A	1200	1182	1262	1234

外気取入フランジ 別売部品

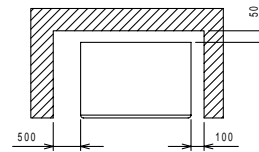


分ダクト穴詳細図



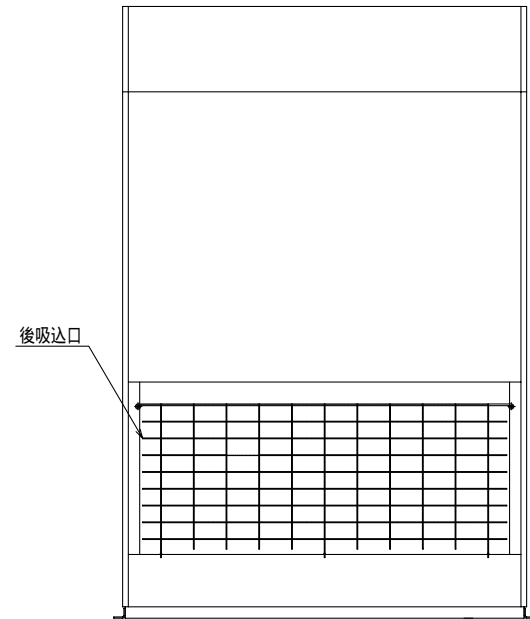
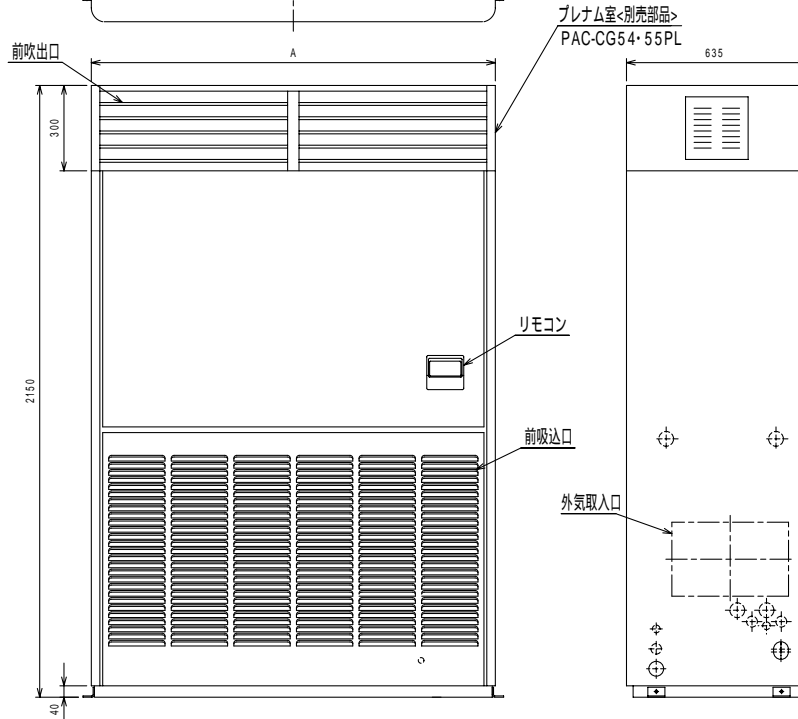
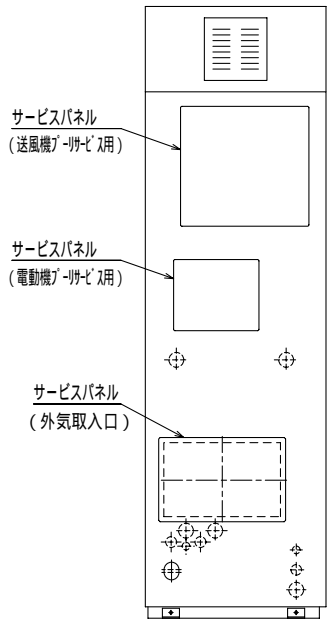
通風・サービススペース

通常最低限必要な寸法を示します。



配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。

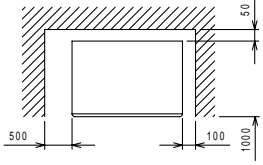
252



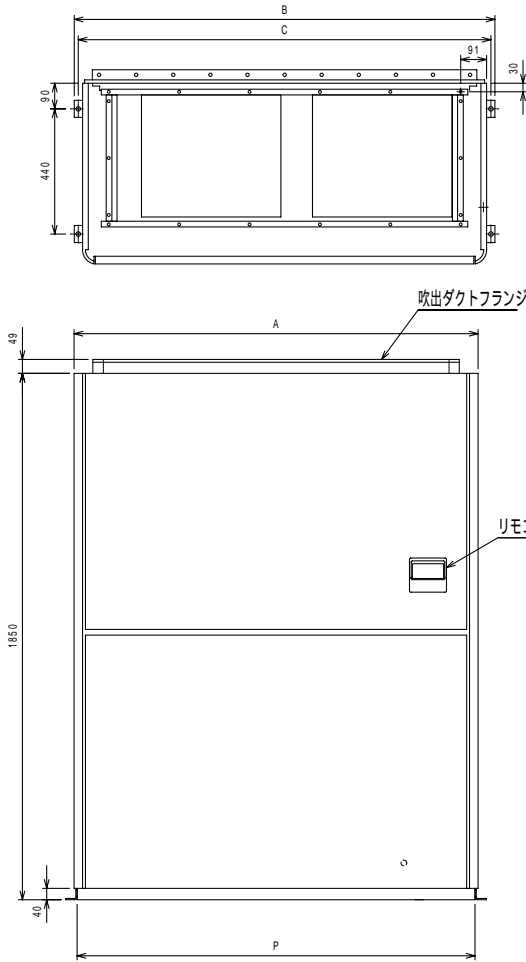
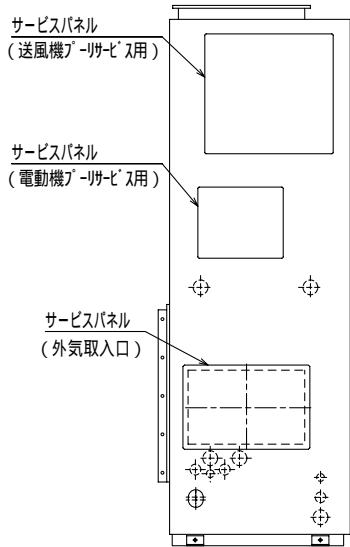
	A	B	C
PFAV-P450M-A	1200	1258	1230
PFAV-P560M-A	1420	1478	1450



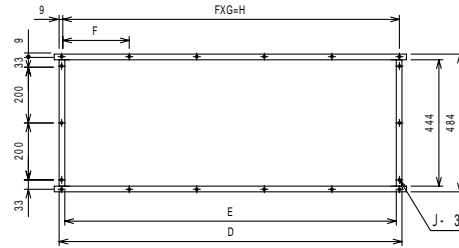
通風・サービススペース  
通常最低限必要な寸法を示します。



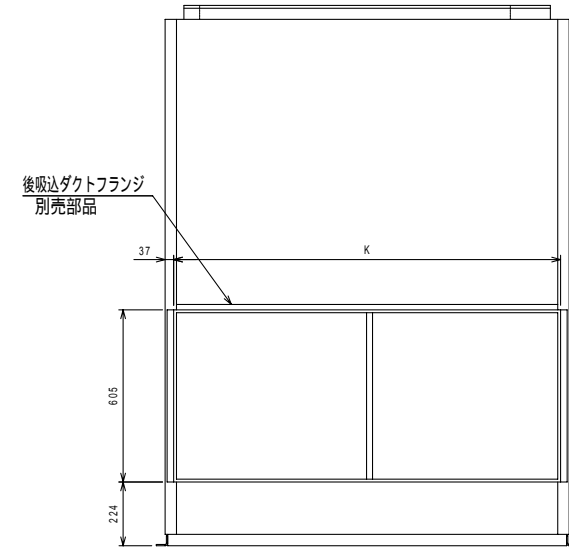
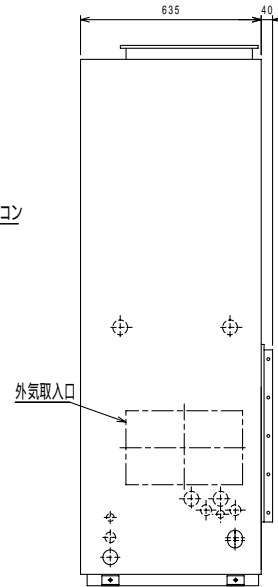
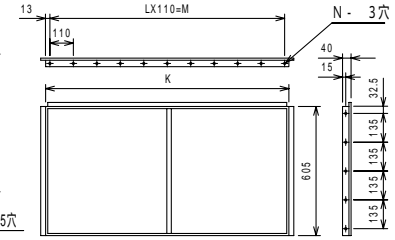
配管・配線等の据付工事のスペースは別途確保してください。



吹出ダクトフランジ



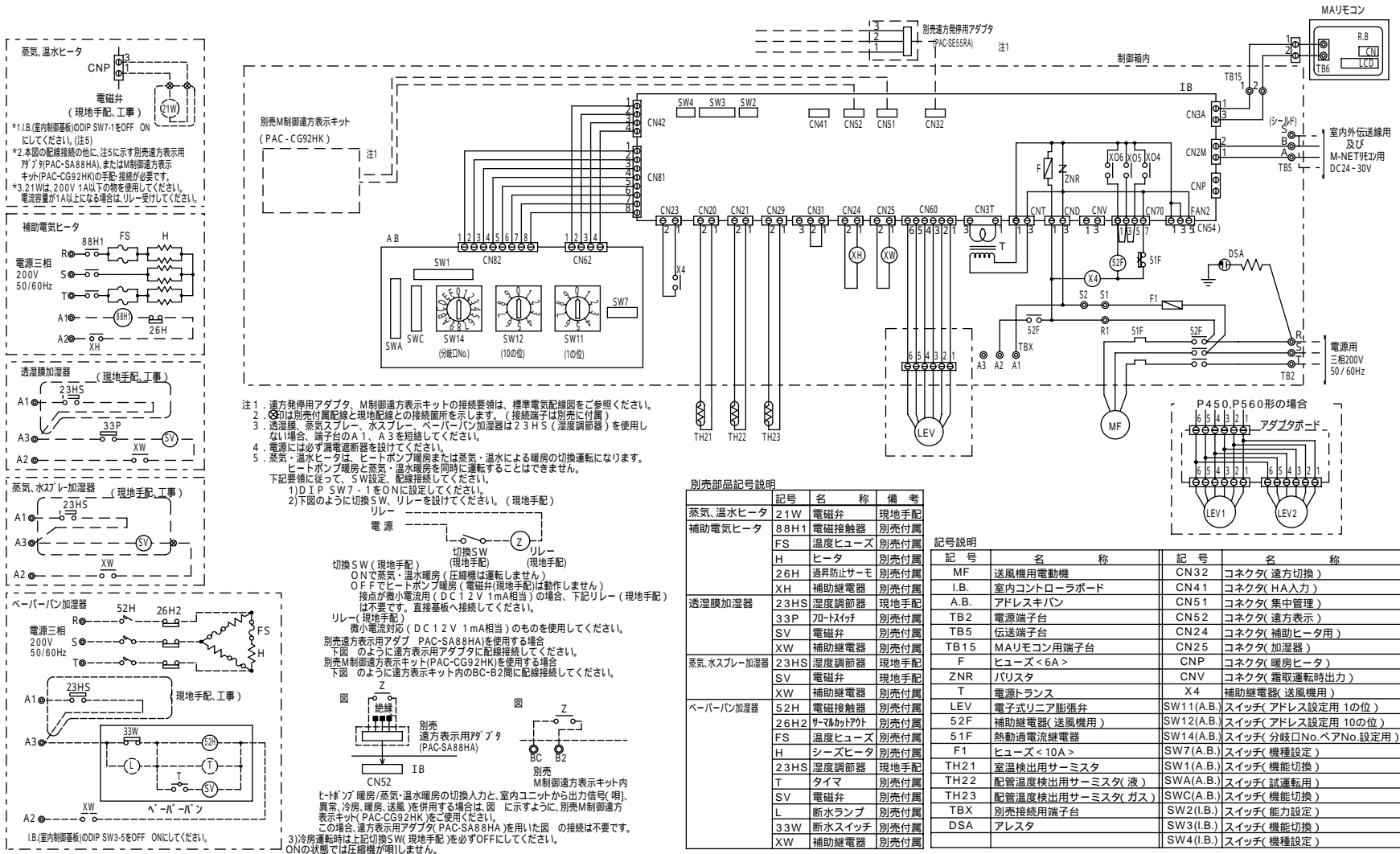
後吸込ダクトフランジ 別売部品



	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N	P
PFAV-P450M-A	1200	1258	1230	1046	1006	257	4	1028	16	1126	10	1100	32	1178
PFAV-P560M-A	1420	1478	1450	1255	1215	247	5	1235	18	1346	12	1320	36	1398

### 3. 取付部品電気配線図

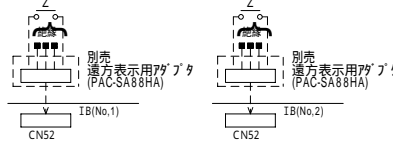
P224・P280・P450・P560形



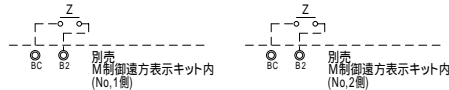
- 注1 遠方発用アダプタ M制御遠方表示キットの接続要領は、標準電気配線図をご参照ください。  
 注2 別売別付配線と現地配線との接続箇所を示します。(接続点は別冊に付属)  
 注3 蒸気スプレー、水スプレー、ペーパーハン加湿器は23HS(湿度調節器)を使用しない場合、端子台のA1、A3を接続してください。  
 注4 電源には必ず漏電遮断器を付けてください。  
 注5 蒸気・温水ヒータはヒートポンプ暖房または蒸気・温水による暖房の切替運転になります。ヒートポンプ暖房と蒸気・温水暖房を同時に運転することはできません。下記要領に従って、SW設定、配線接続してください。

- 1) DIP SW7-1をONに設定してください。(No.1,2室内制御基板)  
 2) 右のように切替SW、リレーを設けてください。(現地手配)  
 No.1 No.2室内制御基板への切替入力は、必ず同期させてください。また、同一接点ではなく、個別に切替入力してください。  
 切替SW(現地手配)  
 ONで蒸気・温水暖房(圧縮機は運転しません)  
 OFFでヒートポンプ暖房(電磁弁(現地手配)は動作しません)  
 リレー(現地手配)  
 微小電流対応(DC1.2V 1mA相当)のものを使用してください。

別売遠方表示用アダプタ(PAC-SA88HA)を使用する場合  
 下図のように遠方表示用アダプタに配線接続してください。(No.1, No.2)

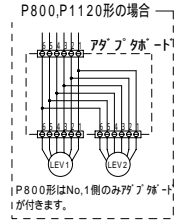
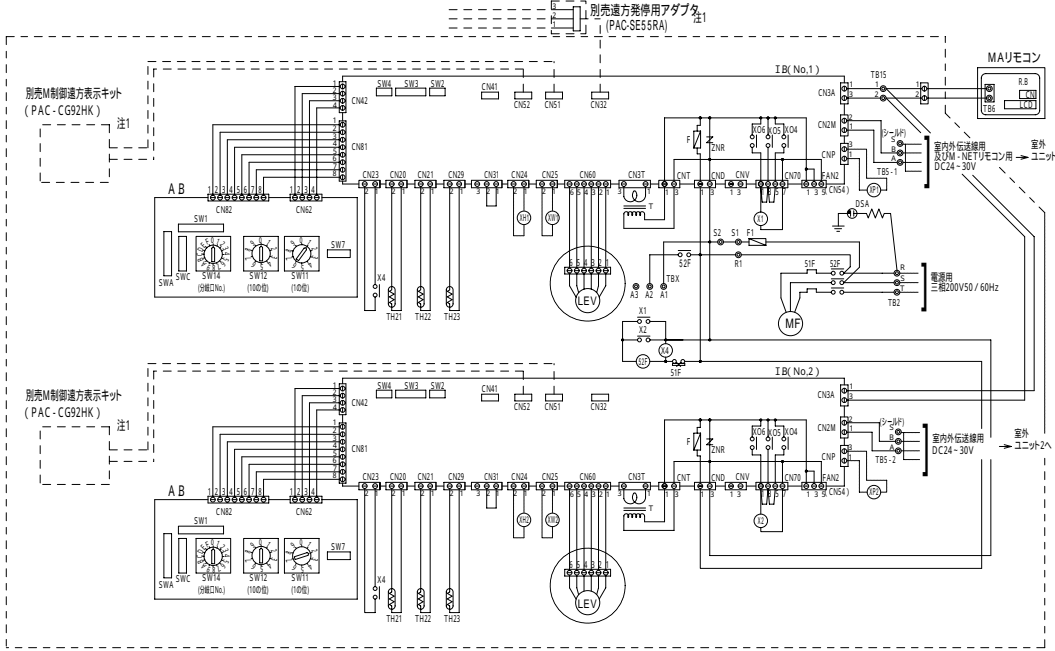
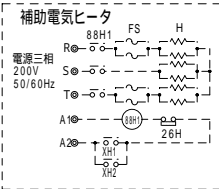
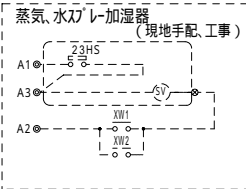
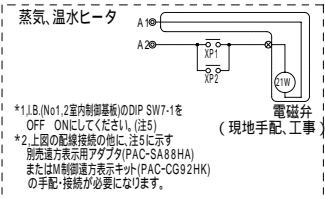
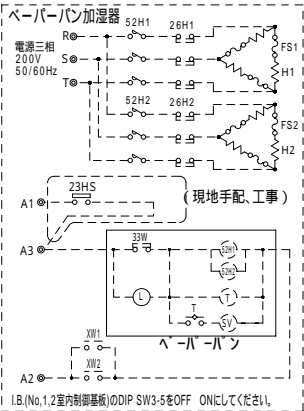


別売M制御遠方表示キット(PAC-CG92HK)を使用する場合  
 下図のように遠方表示キット内のBC-B2間に配線接続してください。(No.1, No.2)



ヒートポンプ暖房/蒸気・温水暖房の切替入力と、室内ユニットから出力信号(運転、異常、冷房、暖房、送風)を併用する場合は、上図に示すように、別売M制御遠方表示キット(PAC-CG92HK)をご使用ください。この場合、遠方表示用アダプタ(PAC-SA88HA)を用いた接続は不要です。

- 3) 冷房運転時は上記切替SW(現地手配)を必ずOFFにしてください。  
 ONの状態では圧縮機が運転しません。  
 P1120形は、ペーパーハン加湿器、蒸気・水スプレー加湿器、蒸気・温水ヒータ、電気ヒータの組込は受注対応でのみ可能となります。別売設定はされていません。



別売部品記号説明

記号	名	備 考
XP1.2	補助線電器	別売付属
21W	電磁弁	現地手配
88H1	電磁接触器	別売付属
FS	温度ヒューズ	別売付属
H	ヒータ	別売付属
26H	過昇防止サーミスタ	別売付属
XH1.2	補助線電器	別売付属
23HS	湿度調節器	現地手配
SV	電磁弁	現地手配
5.1F	補助線電器(送風機用)	別売付属
XW1.2	補助線電器	別売付属
2H1.2	電磁接触器	別売付属
26H1.2	サーミスタ	別売付属
FS1.2	温度ヒューズ	別売付属
H1.2	ヒータ	別売付属
23HS	湿度調節器	現地手配
XW1.2	補助線電器	別売付属
SV	電磁弁	別売付属
L	新水ランプ	別売付属
33W	新水スイッチ	別売付属
XW1.2	補助線電器	別売付属

記号説明

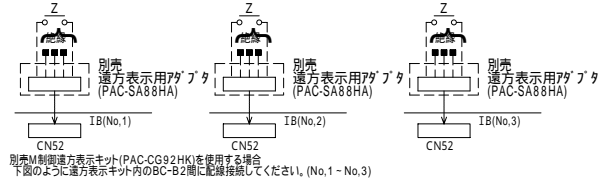
記号	名	記号	名
MF	送風機用電動機	CN32	コネクタ(遠方切替)
IB	室内コントロールボード	CN41	コネクタ(HA入力)
A, B	アドレステルパソ	CN51	コネクタ(集中線)
TB2	電磁端子台	CN52	コネクタ(遠方表示)
TB5-1,2	伝送端子台(No.1,2)	CN24	コネクタ(補助ヒータ用)
TB15	MAUモコン用端子台	CN25	コネクタ(加湿器)
F	ヒューズ<6A>	CNP	コネクタ(電源ヒータ)
ZNR	入力コネクタ	CNV	コネクタ(運転指示出力)
T	電源トランス	SW1.1(A,B)	スイッチ(アドレステルパソ10位)
LEV	電子リレー駆動弁	SW1.2(A,B)	スイッチ(電源ヒータ)
5.2F	補助線電器(送風機用)	SW1.4(A,B)	スイッチ(分岐100ペナノ設定用)
5.1F	補助線電器(電磁弁)	SW7(A,B)	スイッチ(機種設定)
F1	ヒューズ<10A>	SW11(A,B)	スイッチ(機能切替)
TH2.1	室温検出サーミスタ	SWA(A,B)	スイッチ(送風機用)
TH2.2	配管温度検出サーミスタ	SWC(A,B)	スイッチ(機能切替)
TH2.3	配管温度検出サーミスタ(ガス)	SW2(B)	スイッチ(能力設定)
TB-X	伝送端子台	SW10(B)	スイッチ(機能切替)
DSA	アレスタ	SW4(B)	スイッチ(機種設定)
X1.2.4	補助線電器(送風機用)	XA-XE	補助線電器
		TB2.1.2.2.3	入出力用端子台



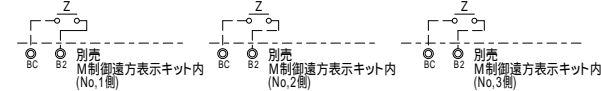
1. 遠方制御用アダプタ、M制御遠方表示キットの接続要領は、標準電気配線図をご参照ください。
2. ※別売別売付配線と現地配線との接続箇所を示します。(接続箇所は別売に付属)
3. 蒸気スプレー、水スプレー、ペーパーバーン加湿器は23HS(湿度調節器)を使用しない場合、端子台のA1、A3を接続してください。
4. 電線には必ず漏電遮断器を設けてください。
5. 蒸気・温水ヒータは、ヒートポンプ暖房または蒸気・温水による暖房の切替運転になります。

下記要領に従って、SW設定、配線接続してください。

1) DIP SW7-1をONに設定してください。(No.1-3室内制御基板)  
 2) 右図のように切替SW、リレーを接続してください。(現地手配)  
 No.1-3室内制御基板への切替入力は、必ず同期させてください。リレーも、同一接点ではなく、個別に切替入力してください。



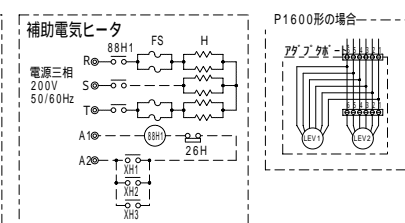
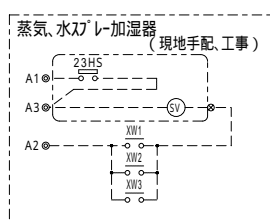
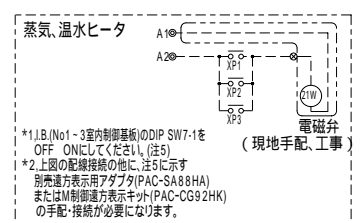
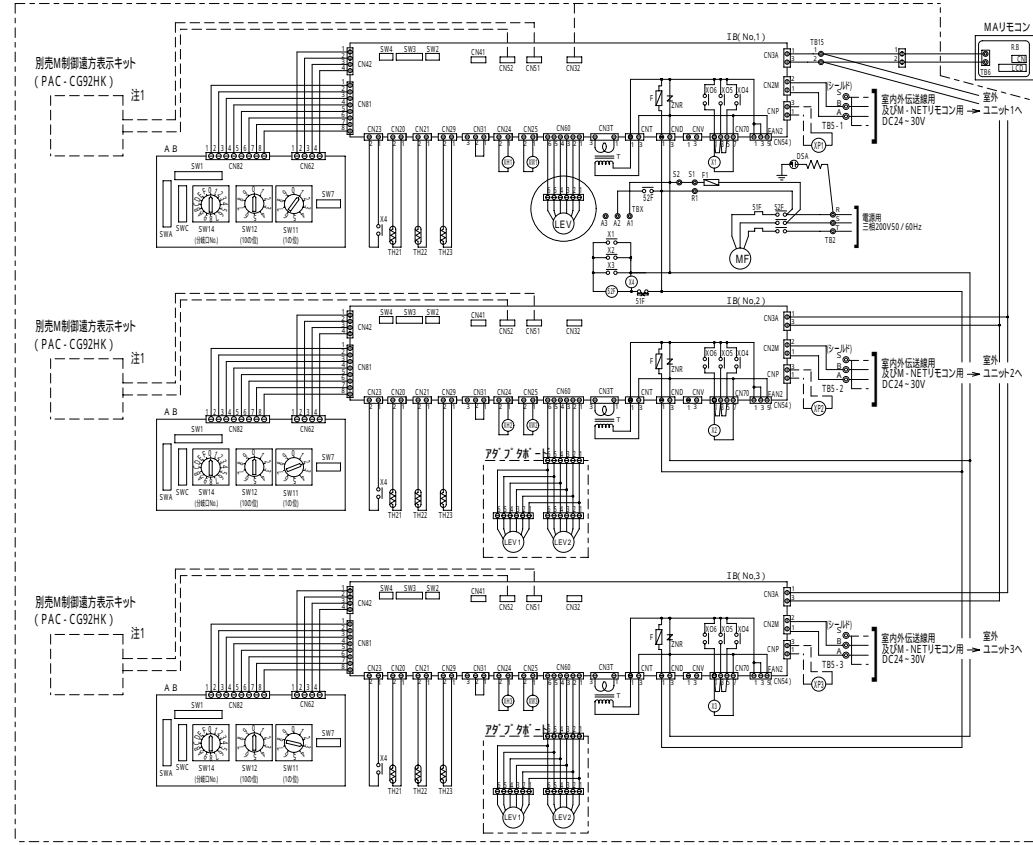
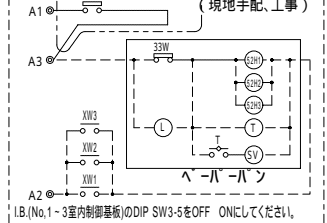
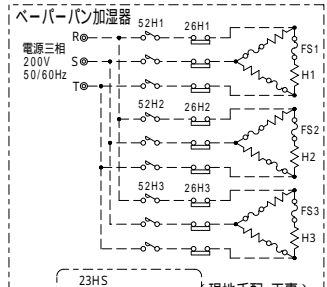
別売M制御遠方表示キット(PAC-CG92HK)を使用する場合、  
 下図のように遠方表示キット内のBC-B2間に配線接続してください。(No.1-No.3)



ヒートポンプ暖房/蒸気・温水暖房の切替入力と、室内ユニットから出力信号(運転、異常、冷房、暖房、送風)を併用する場合は、上記の図のように別売M制御遠方表示キット(PAC-CG92HK)をご使用ください。  
 この場合、遠方表示用アダプタ(PAC-SA88HA)を使用した際の接続は不要です。

3) 冷房運転時は上記切替SW(現地手配)を必ずOFFにしてください。  
 ONの状態では圧縮機が運転しません。

記号	名称	別売部品記号	名称
MF	湿度検出電線	XP1.2.3	補助電線
IB	室内コントロールボード	21W	電磁弁
A,B	アドンスキパン	88H1	電磁接触器
TB2	集塵フィルター	FS	加湿ヒューズ
TB5-1,2,3	(No.1-3室内制御基板)	H	ヒータ
TB15	MAUモコン用端子台	26H	過電流防止サーモ
F	フューズ<6A>	XH1.2.3	補助電線
ZNR	圧力リレー	23HS	湿度調節器
F	ファンモーター	SV	電磁弁
LEV	電子リレー駆動弁	XW1.2.3	補助電線
52F	補助電線(送風機用)	52H1.2.3	電磁接触器
51F	補助電線(加湿器用)	26H1.2.3	電磁接触器
TH1	温度検出用サーモスタ	FS1.2.3	加湿ヒューズ
TH21	室温検出用サーモスタ	H1.2.3	ヒータ
TH22	配管温度検出用サーモスタ(減)	23HS	湿度調節器
TH23	配管温度検出用サーモスタ(加)	T	タイマ
TBX	補助電線用端子台	SV	電磁弁
DSA	アレスタ	33W	断水スイッチ
X1.2,3,4	補助電線(送風機用)	XW1.2.3	補助電線
CNS2	コネクタ(集塵機用)		
CN41	コネクタ(HA入力)		
CN51	コネクタ(集塵機用)		
CNS2	コネクタ(遠方表示)		
CN24	コネクタ(加湿器用)		
CN25	コネクタ(加湿器)		
CNP	コネクタ(加湿器)		
CNV	コネクタ(加湿器)		
SW11(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW12(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW13(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW14(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW15(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW16(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW17(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW18(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW19(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW20(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW21(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW22(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW23(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
SW24(A,B)	スイッチ(加湿器用)		
XA-XE	補助電線		
TB21,22,23	補助電線		



\*1 IB(No.1-3室内制御基板)のDIP SW7-1をOFF ONにしてください。(注5)  
 \*2 上記の配線接続の他に、注5に示す別売遠方表示用アダプタ(PAC-SA88HA)またはM制御遠方表示キット(PAC-CG92HK)の手配・接続が必要になります。

## 4.取付部品データ

### (1)蒸気・温水ヒータ

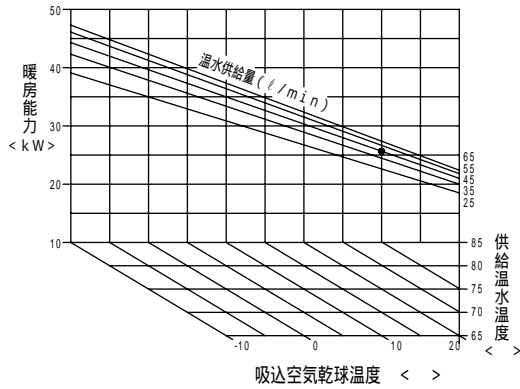
#### 温水加熱器能力線図

標準用

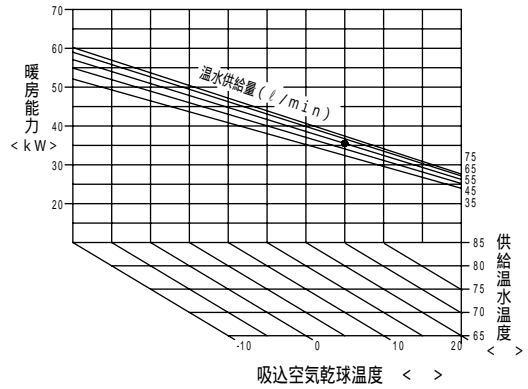
使用上のご注意 < 蒸気・温水加熱器 >

1. 暖房プルアップ時 (又は常時) 吸い込み空気が0 以下になる場合で温水・蒸気を止めると凍結する恐れがありますので、適切な凍結防止処置を施してください。(温水の強制通水, 蒸気トラップの最小作動圧力差を下げる。等)
2. 冷房中や厳冬期で温水・蒸気加熱器をご使用にならない場合にも凍結する恐れがありますので必ず水抜きを実施してください。

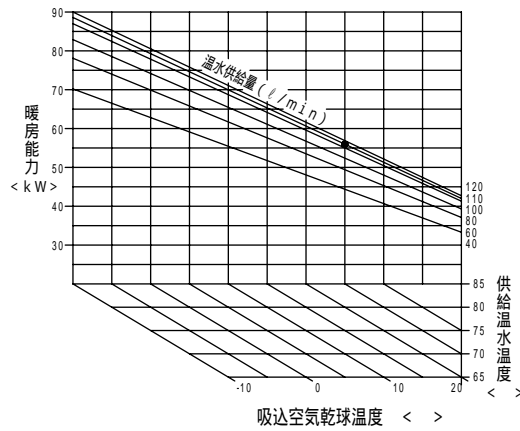
P224形



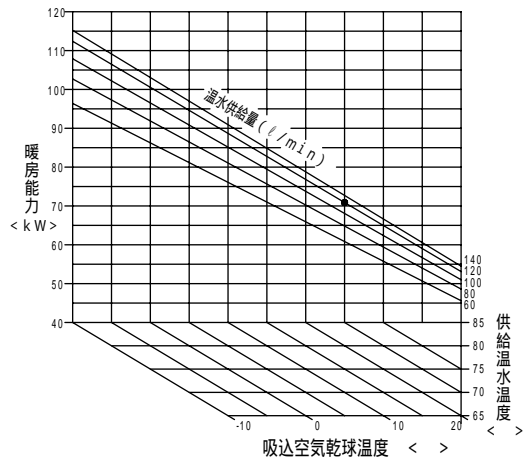
P280形



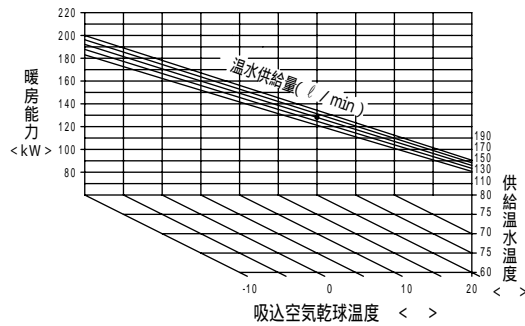
P450形



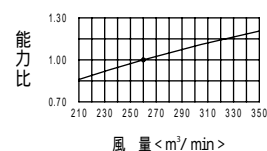
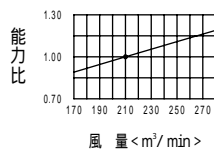
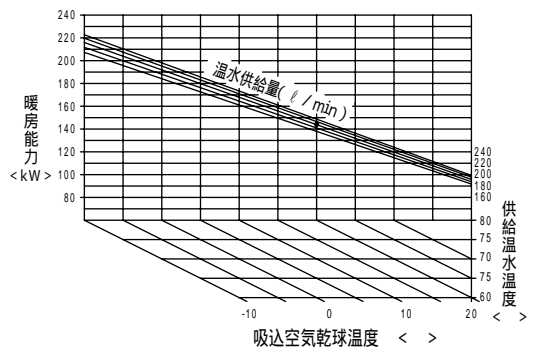
P560形



P670形

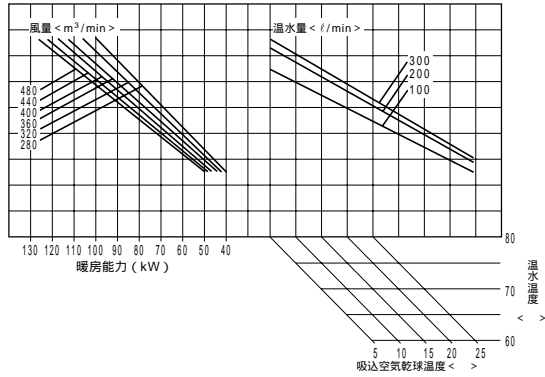


P800形



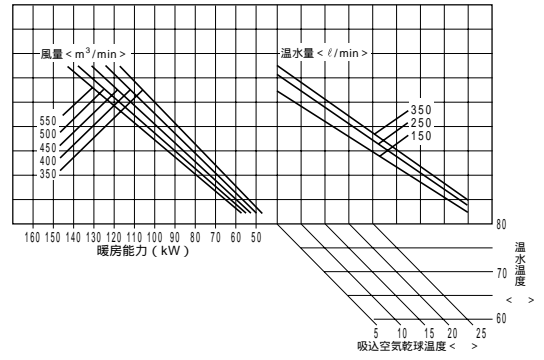
### P1120形

温水加熱器能力線図（1列）

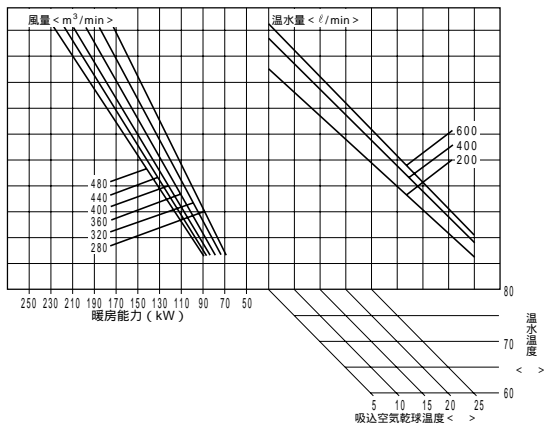


### P1400形

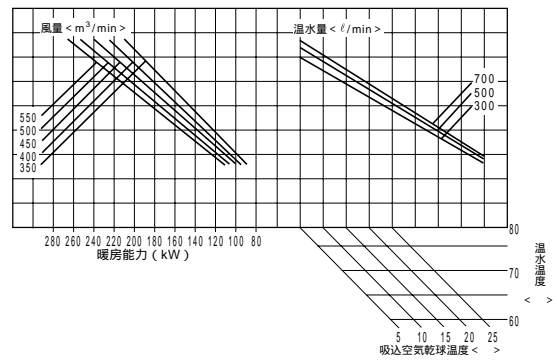
温水加熱器能力線図（1列）



温水加熱器能力線図（2列）

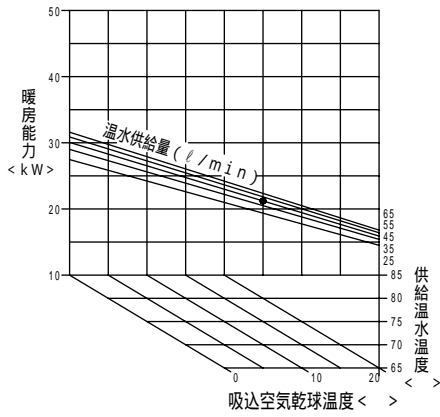


温水加熱器能力線図（2列）

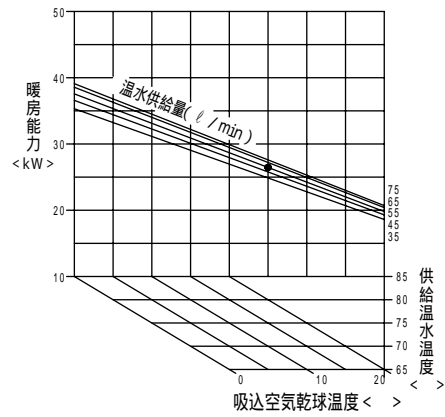


# オールフレッシュ用

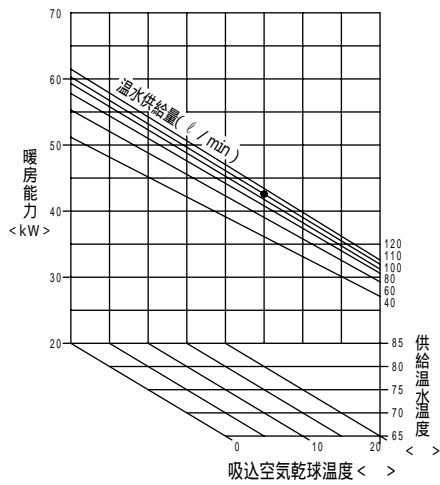
P265形



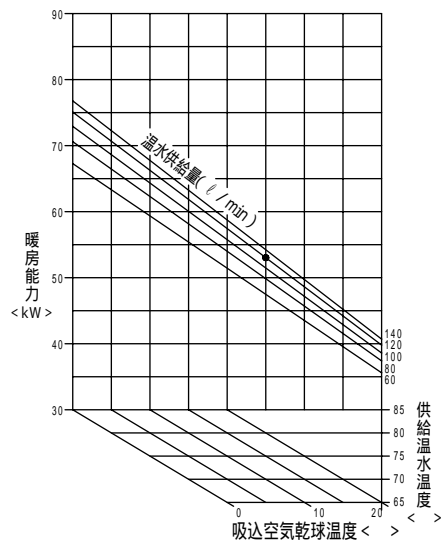
P335形



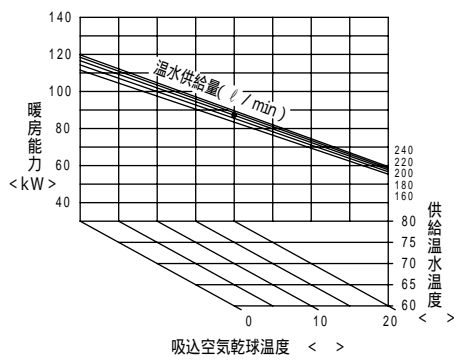
P530形



P670形



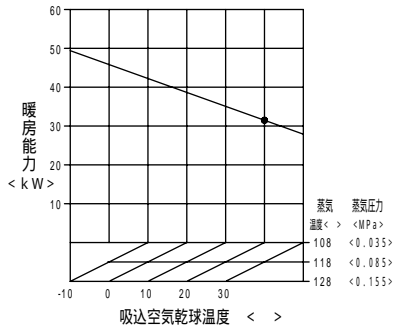
P1000形



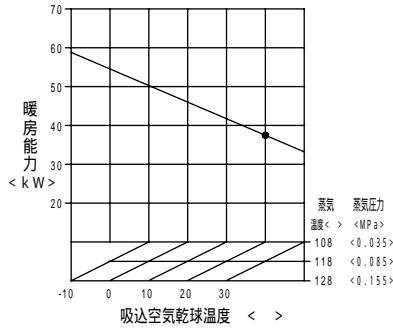
# 蒸氣加熱器能力線圖

標準用

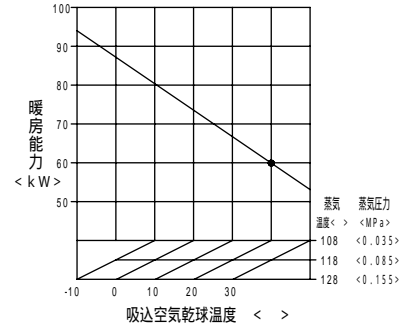
P 224形



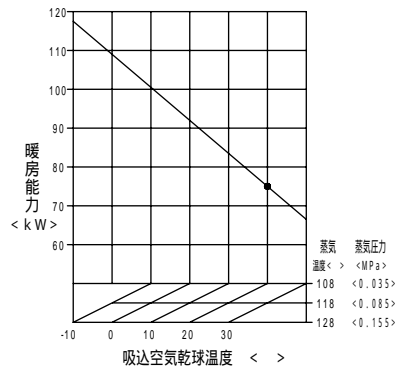
P 280形



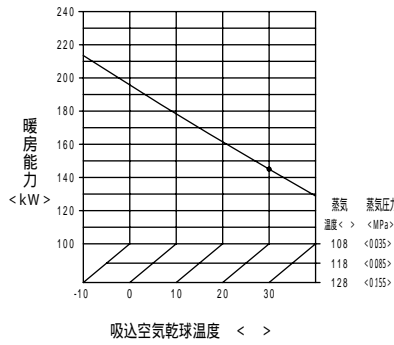
P 450形



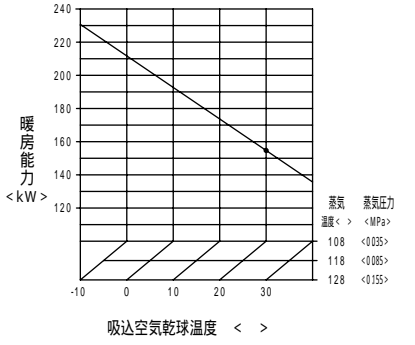
P 560形



P 670形

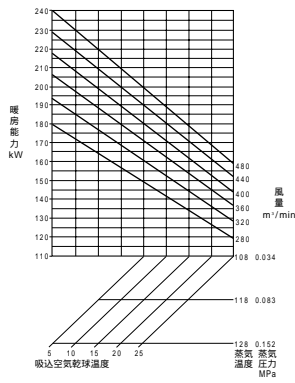


P 800形



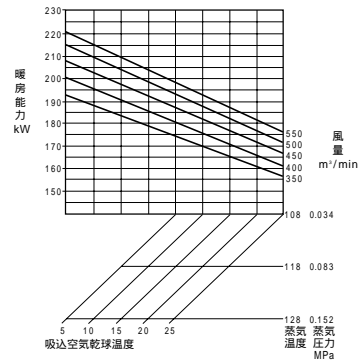
P 1120形

蒸氣加熱器能力線圖 ( 1列 )

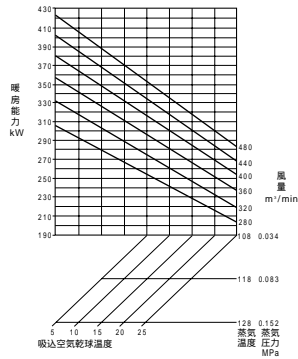


P 1400形

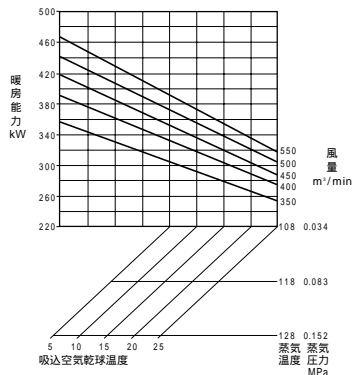
蒸氣加熱器能力線圖 ( 1列 )



蒸氣加熱器能力線圖 ( 2列 )

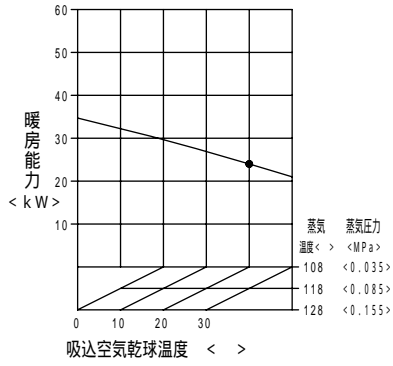


蒸氣加熱器能力線圖 ( 2列 )

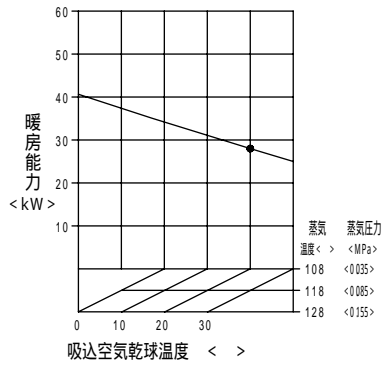


オールフレッシュ用

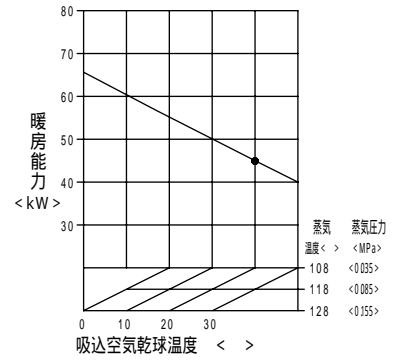
P265形



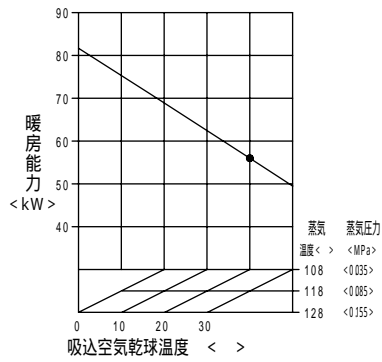
P335形



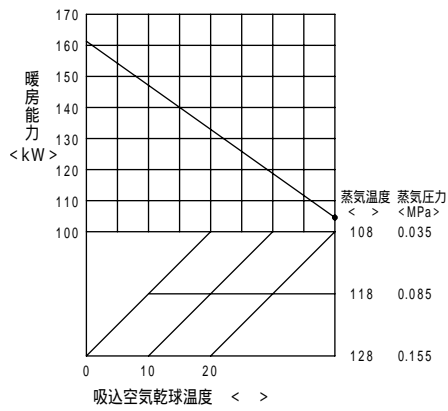
P530形



P670形

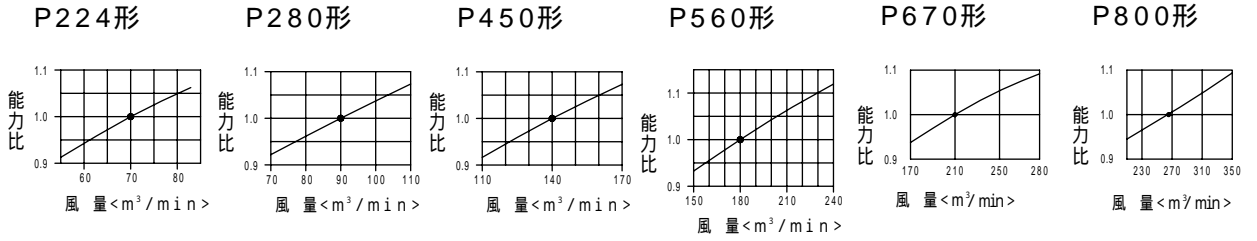


P1000形

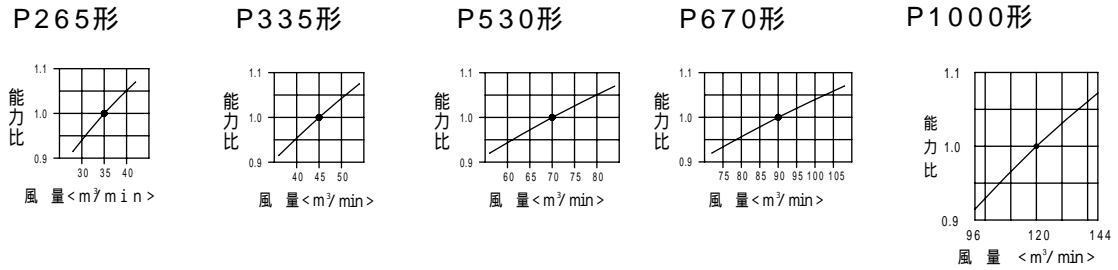


## 風量補正線図 (温水・蒸気加湿器能力)

### 標準用

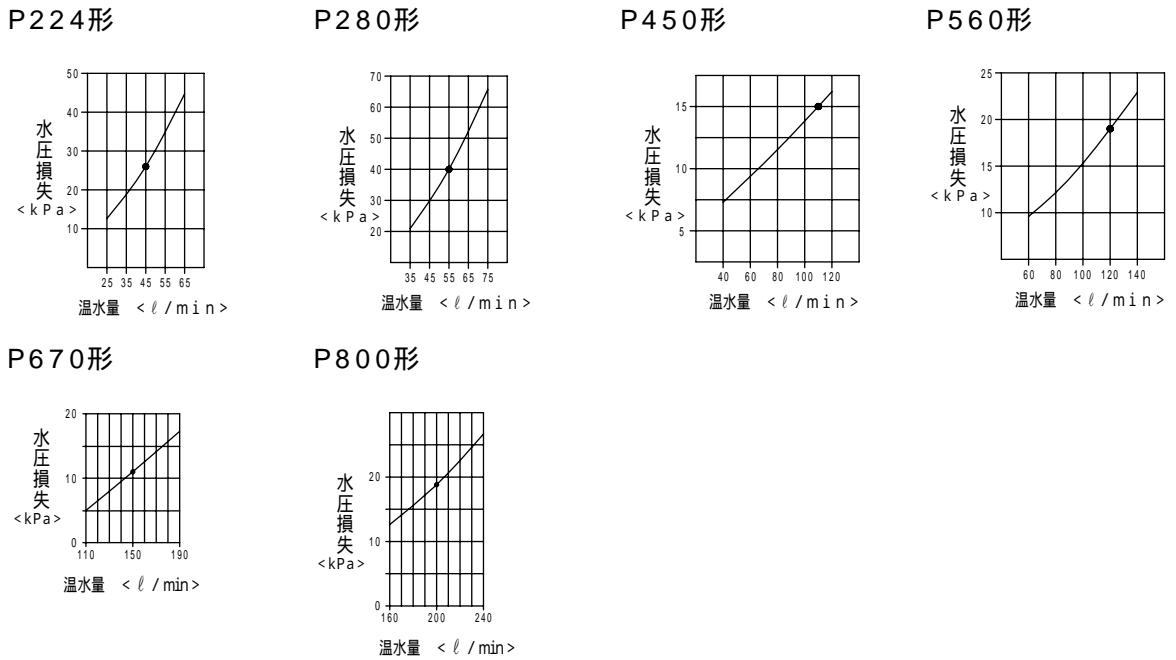


### オールフレッシュ用

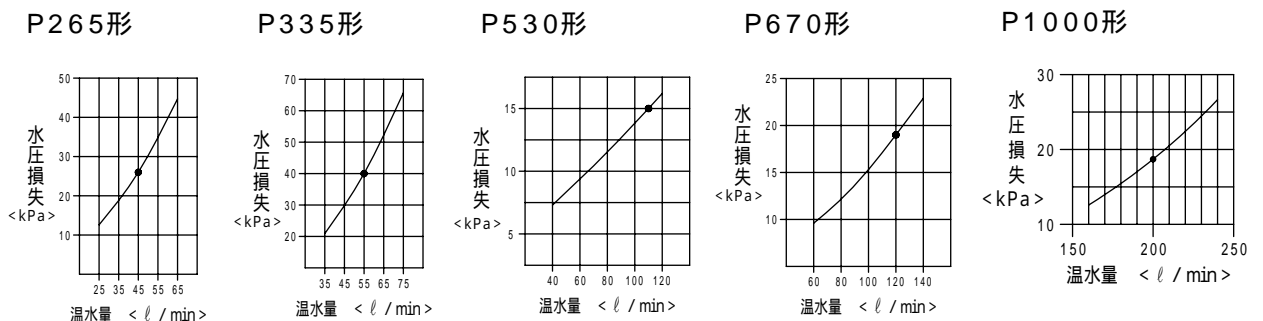


## 水圧損失線図 (温水加湿器)

### 標準用



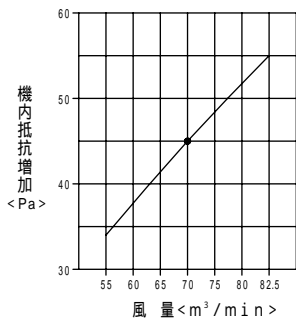
### オールフレッシュ用



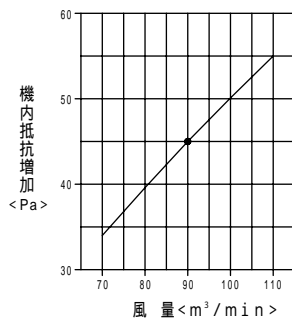
温水・蒸気加熱器機内抵抗線図

標準用

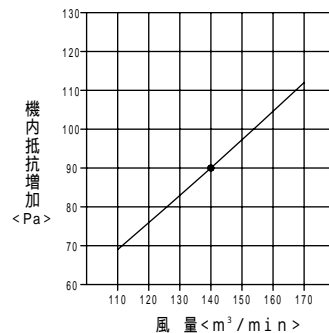
P224形



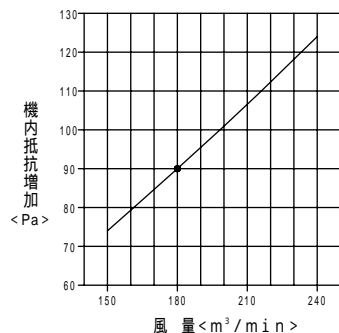
P280形



P450形

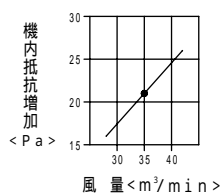


P560形

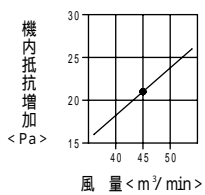


オールフレッシュ用

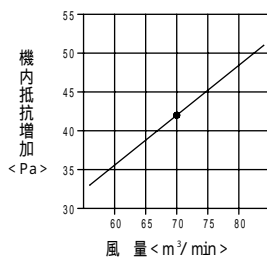
P265形



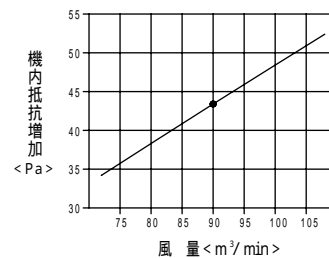
P335形



P530形



P670形



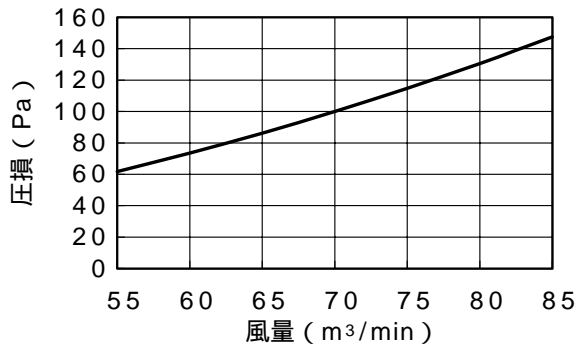


(2)透湿膜加湿器

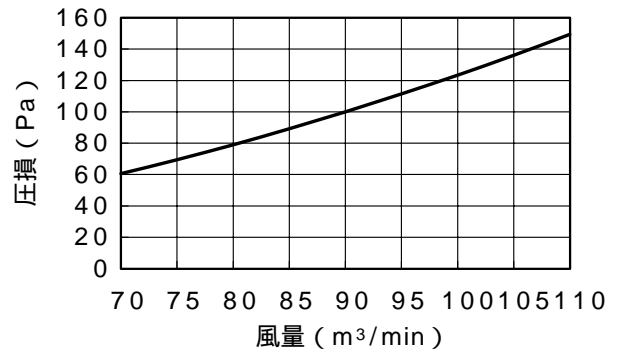
透湿膜加湿器機内抵抗線図

標準用

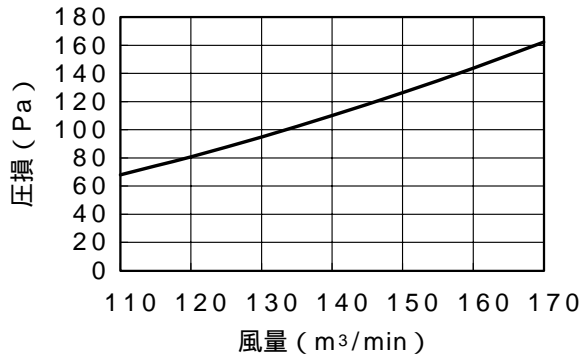
P224形



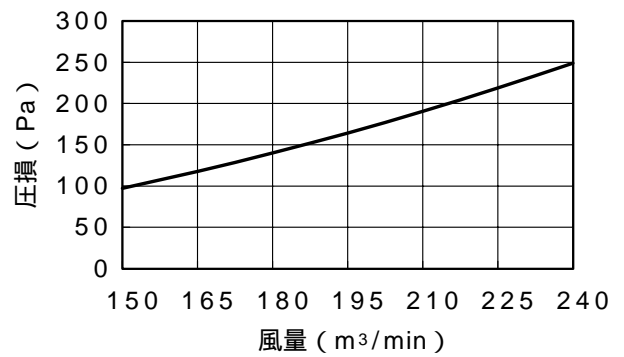
P280形



P450形

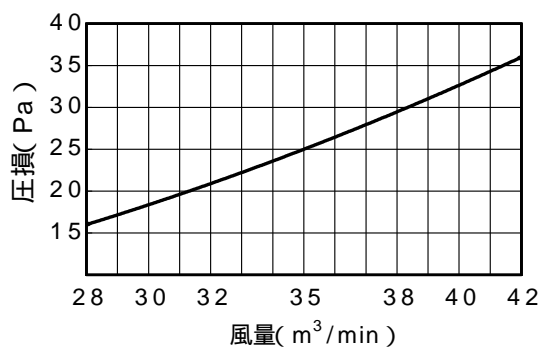


P560形

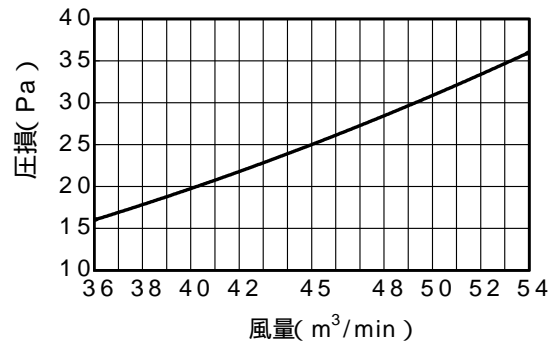


オールフレッシュ用

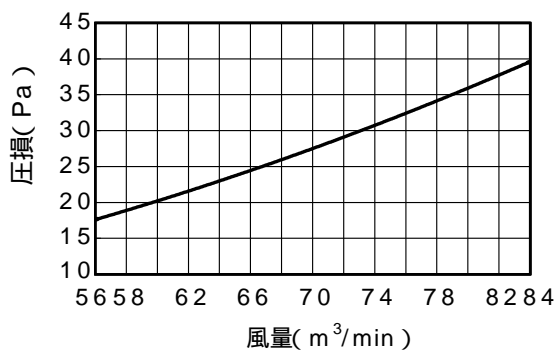
P265形



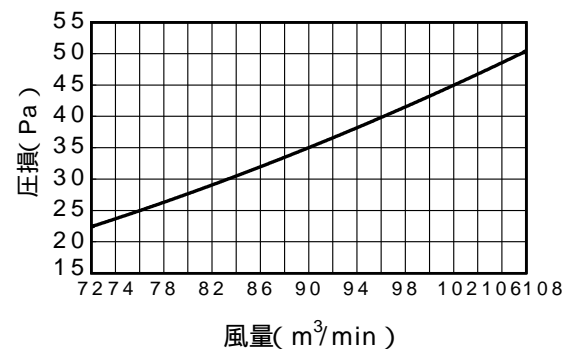
P335形



P530形



P670形

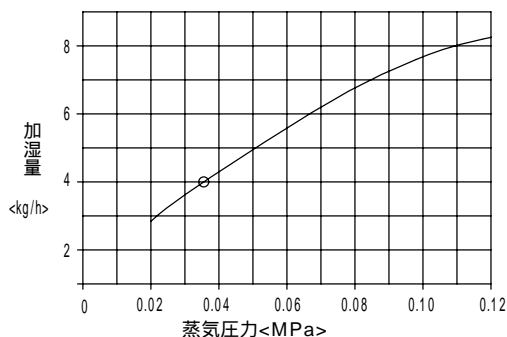


### (3)蒸気・水スプレー式加湿器

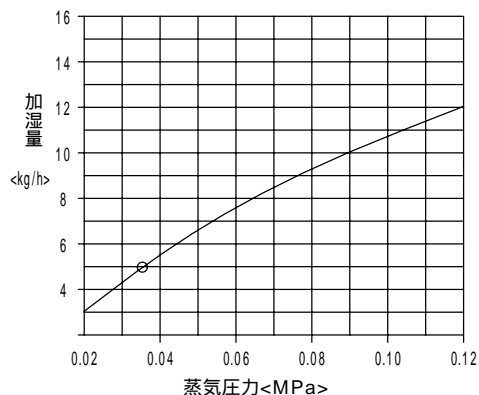
#### 蒸気スプレー式加湿器能力線図

標準・オールフレッシュ用

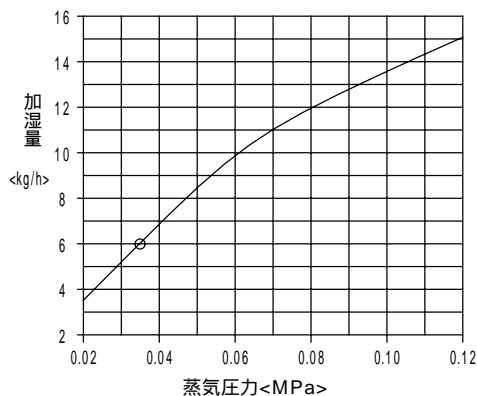
P224・P265-F形



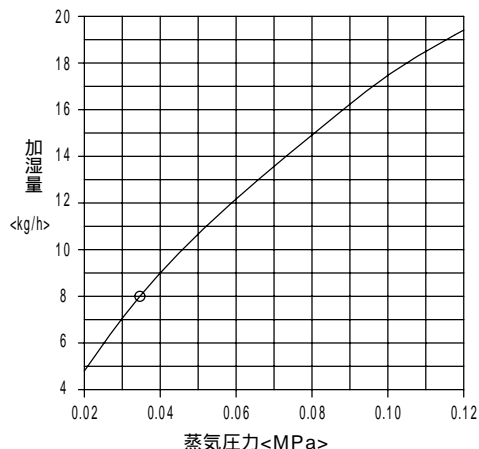
P280・P335-F形



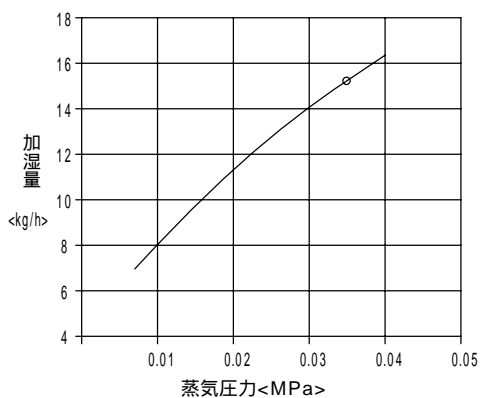
P450・P530-F形



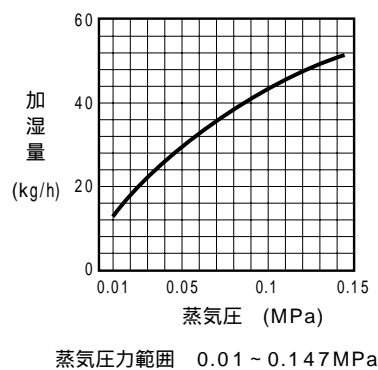
P560・P670-F形



P670・P800・P1000-F形



P1120・P1400・P1250-F・P1600-F形



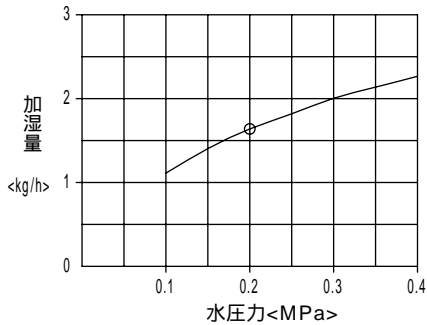
#### 使用上の注意

1. 図は次の電磁弁と組合せた時の性能です。本体には電磁弁が附属されていないので蒸気を調節してください。<塞止弁にしてもよい> 組合せ電磁弁口径 (P224・P265-F: 7、P280～560・P335～P670-F: 10)
2. 必要以上の圧力、流量で使用しますと機外への水洩れが発生することがあります。必ず電磁弁<または塞止弁>を使用してください。
3. 蒸気圧力は0.02～0.12MPa (P670・P800・P1000-F形の場合は0.007～0.04MPa)の範囲で使用してください。
4. (P450・P560・P530-F・P670-F形の場合のみ)  
製品本体冷媒配管を右配管取出しにする場合は別途、別売右配管部品をお買い求めください。
5. サーモ停止時には加湿器をOFFするように製品本体制御基板のDIPSW1-6をOFFの設定(出荷時の設定通り)でご使用ください。サーモ停止時にも加湿器をONする設定で使用した場合、条件(風量・蒸気圧・サーモ停止時間等)によっては加湿器からの蒸気が結露し、機外に霧が飛び出る場合があります。
6. 加湿器は暖房モードでご使用ください。冷房加湿はできません。冷房専用機種の場合は、別売ヒータと同時組み込みしてください。

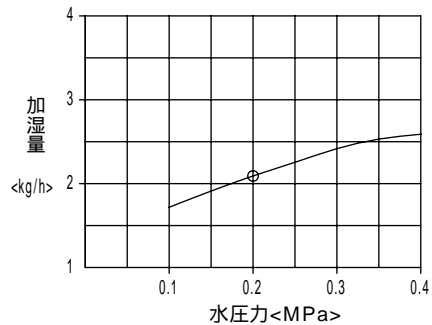
## 水スプレー式加湿器能力線図

標準・オールフレッシュ用

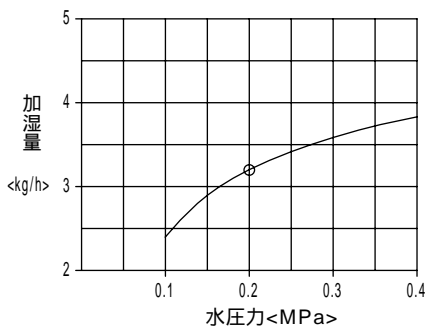
P224・P265-F形



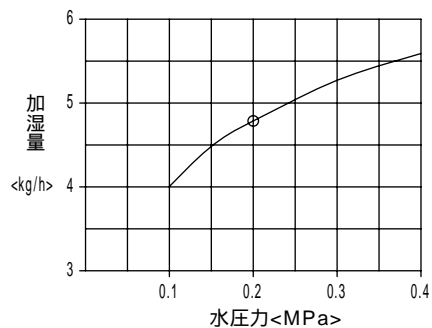
P280・P335-F形



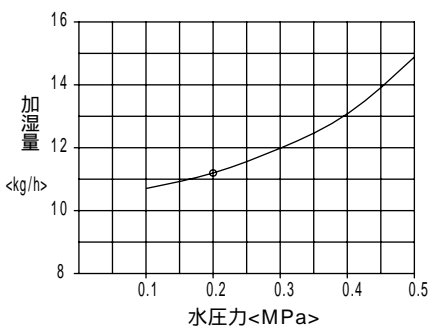
P450・P530-F形



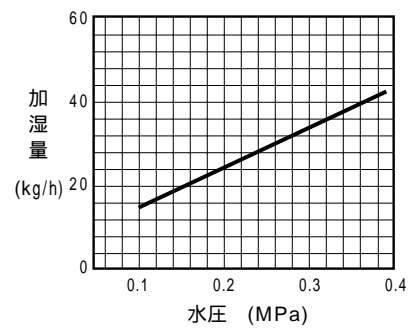
P560・P670-F形



P670・P800・P1000-F形



P1120・P1400・P1250-F・P1600-F形



水圧範囲 0.098 ~ 0.39MPa

### 使用上の注意

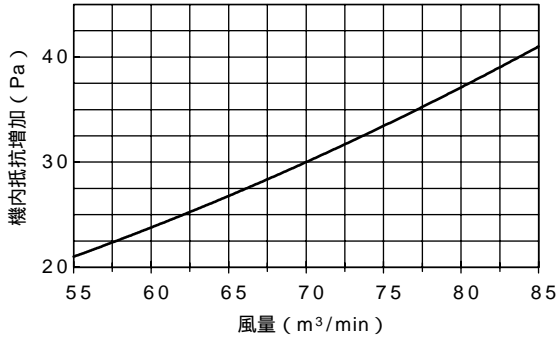
1. 供給水としては60以下、水圧0.1～0.4MPa (P670・P800・P1000-F形の場合は0.1～0.5MPa) の範囲で使用してください。
2. 必要以上の圧力、流量で使用しますと、機外への水洩れが発生することがあります。
3. 2倍形<ヘッダ-本数2本>の場合は上記線図の数値を2倍して能力を算出してください。
4. (P450・P560・P530-F・P670-F形の場合のみ)  
製品本体冷媒配管を右配管取出しにする場合は別途、別売右配管部品をお買い求めください。
5. 加湿器は暖房モードでご使用ください。冷房加湿はできません。冷房専用機種の場合は、別売ヒータと同時組み込みしてください。

(4) フィレドンフィルタ

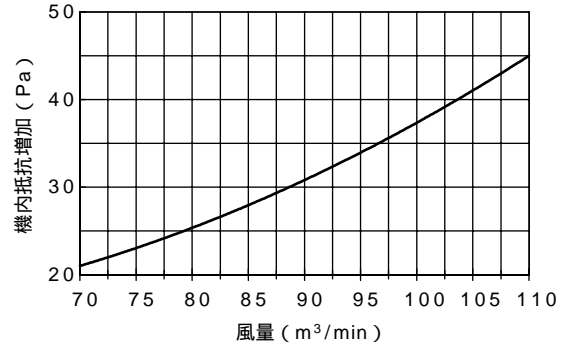
フィレドンフィルタ機内抵抗線図

標準用

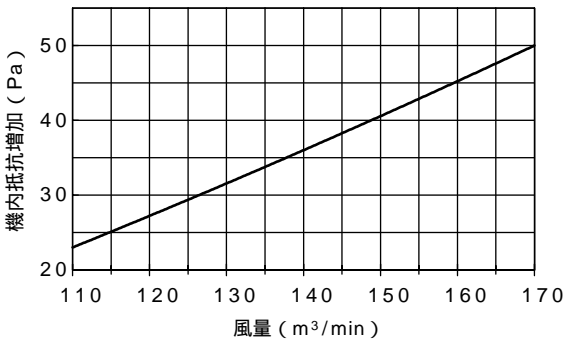
P224形



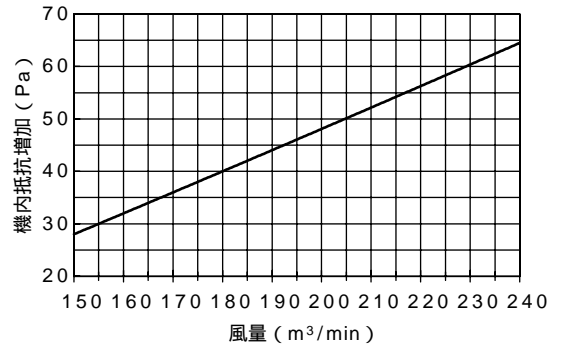
P280形



P450形

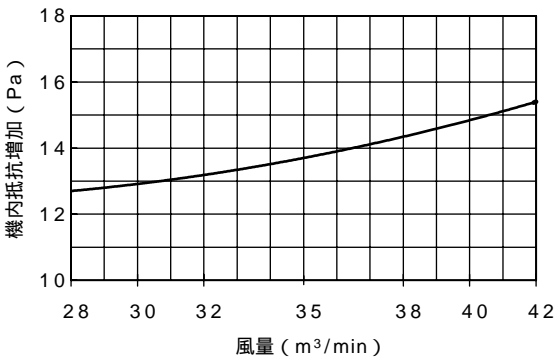


P560形

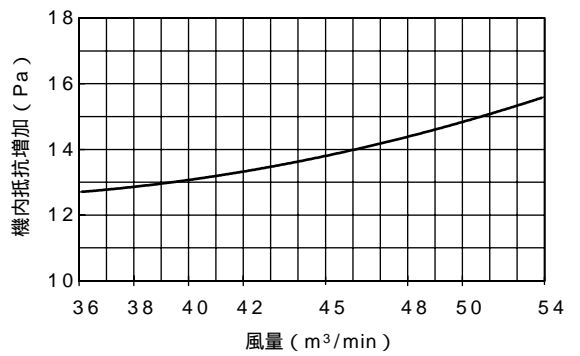


オールフレッシュ用

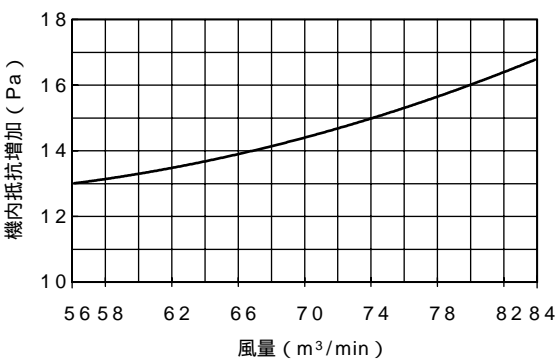
P265形



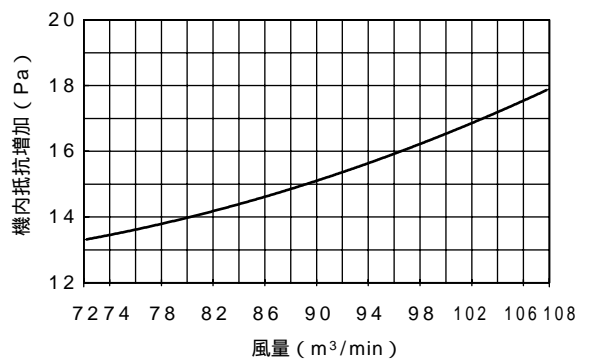
P335形



P530形



P670形



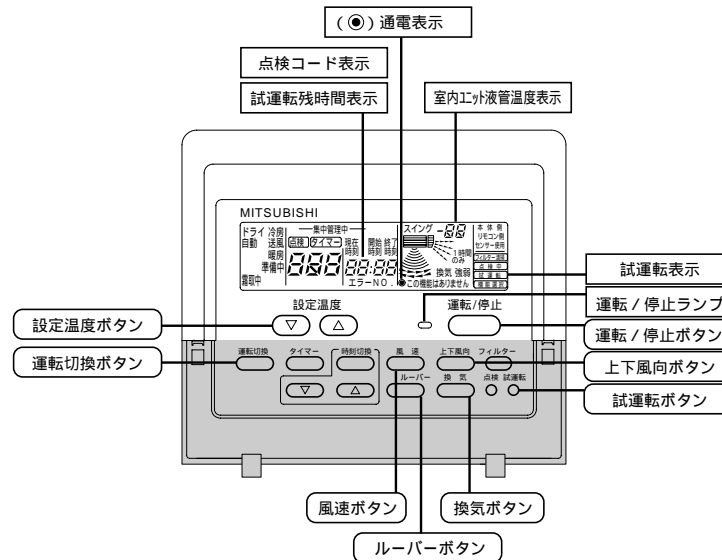
# 試運転

## 1. 試運転前の確認事項

- 室内・室外ユニット据付、配管、配線作業終了後、冷媒漏れ、電源、伝送線のゆるみ、極性間違いがないか今一度確認してください。
- 電源端子台と大地間をDC500Vメガーで計って1.0MΩ以上であることを確認します。1.0MΩ未満の場合は運転しないでください。

MAリモコン用・伝送線用端子台の絶縁抵抗測定は絶対にしないでください。

## 2. 試運転方法



操 作 手 順	
12時間以上前に、元電源を入れる	
三相電源の相順を確認してください。 逆相の場合、送風機が逆回転し異常の原因となります。	
<b>試運転</b> ボタンを2度押す	→ <b>試運転</b> の液晶表示 全冷媒回路が試運転します。 (1冷媒回路毎に試運転をされる場合は、試運転させない室内基板のアドレス基板の上のスライドSWAを「3」に設定してください。)
<b>運転切換</b> ボタンを押す	→ 風が吹き出すことを確認
<b>運転切換</b> ボタンを押して冷房（または暖房）運転に切り換える	→ 冷風（または温風）が吹き出すことを確認
室外ユニットファンの運転を確認	
<b>運転/停止</b> ボタンを押して試運転解除する	→ 停止 1冷媒回路毎に試運転させた場合は、各アドレス基板のスライドSWAを「1」に戻してください。 スライドSWAを「1」に戻さずに運転された場合、室外ユニットが運転しません。
確認後は、必ず元電源を切ってください	

リモコンに点検コードが表示された場合、または正常に作動しない場合は、室外ユニット側の据付工事説明書、または技術資料を参照願います。

試運転は2時間の切タイマーが作動し、2時間後に自動的に停止します。

試運転中、時刻表示部には試運転残時間を表示します。

試運転中、室内ユニットの液管温度をリモコンの室温表示部に表示します。

風向ボタンを押した時、機種により“この機能はありません”の表示がリモコンに表示されますが故障ではありません。

外部入力接続されている場合、外部入力信号にて運転操作を行って、試運転確認を実施してください。

### 3. 試運転不具合時の対応

異常停止時、リモコン表示部に4桁の点検表示が表れますので、不具合要因の点検をお願いいたします。

#### (1) 室内ユニット

点検表示	不具合内容	点検表示	不具合内容
2500	漏水異常	6602	送信エラー（伝送プロセッサハードウェア異常）
2502	ドレンポンプ異常	6603	送信エラー（伝送路BUSY）
2503	ドレンセンサ異常・フロートスイッチ作動	6606	送受信エラー（伝送プロセッサとの通信異常）
4109	ファン異常	6607	送受信エラー（ACK無しエラー）
5101	吸込センサ異常	6608	送受信エラー（応答フレーム無しエラー）
5102	配管センサ異常	7101	能力コードエラー
5103	ガス側配管センサ異常	7111	リモコンセンサ異常
6600	ユニットアドレス二重設定		

#### (2) 室外ユニット

点検表示	不具合内容	点検表示	不具合内容
0403	シリアル通信異常	5104	液面検知温度センサ異常（TH4）
1102	吐出温度異常	5105	配管温度センサ異常（TH5）
1111	低圧飽和温度異常（飽和温度センサ検知）	5106	外気温度センサ異常（TH6）
1112	低圧飽和温度異常（上側液面検知温度センサ検知）	5107	サブクールコイル液出口センサ異常（TH7）
1113	低圧飽和温度異常（下側液面検知温度センサ検知）	5108	サブクールコイルバイパス出口温度センサ異常（TH8）
1143	圧縮機シェル温異常	5109	サブクールコイルバイパス入口温度センサ異常（TH9a、TH9b）
1301	低圧圧力異常	5110	インバータ放熱板温度センサ異常（THHS）
1302	高圧圧力異常	5111	ファンコントローラ放熱板温度異常（THBOX）
1500	冷媒過充填	5112	圧縮機シェル温センサ異常
1505	真空運転保護	5201	高圧圧力センサ異常
4102	欠相異常	5301	I <sub>DC</sub> センサ/回路異常
4103	逆相/欠相異常	6600	ユニットアドレス二重設定
4108	過負荷保護（No.2Comp過電流）	6602	送信エラー（伝送プロセッサハードウェア異常）
4115	電源同期信号異常	6603	送信エラー（伝送路BUSY）
4121	高調波対策機器異常	6606	送受信エラー（伝送プロセッサとの通信異常）
4200	V <sub>DC</sub> センサ/回路異常	6607	送受信エラー（ACK無しエラー）
4220	インバータ母線電圧不足異常	6608	送受信エラー（応答フレーム無しエラー）
4230	インバータ放熱板過熱保護	7100	合計能力エラー
4240	過負荷保護	7101	能力コードエラー
4250	I <sub>PM</sub> /母線電圧異常	7102	接続台数エラー
4260	冷却ファン異常	7105	アドレス設定エラー
5101	吐出温度センサ異常（TH11、TH12）	7109	接続設定エラー
5102	低圧飽和温度センサ異常（TH2）	7110	接続情報未設定エラー
5103	液面検知温度センサ異常（TH3）	7130	組合せ異常

#### (3) M-NETリモコン

点検表示	不具合内容	点検表示	不具合内容
6101	“不能” 応答受信	6606	送受信エラー（伝送プロセッサとの通信異常）
6600	ユニットアドレス二重設定	6607	送受信エラー（ACK無しエラー）
6602	送信エラー（伝送プロセッサハードウェア異常）	6608	送受信エラー（応答フレーム無しエラー）
6603	送信エラー（伝送路BUSY）		

#### (4) MAリモコン

点検表示	不具合内容	点検表示	不具合内容
6831	MA通信受信異常（受信なし）	6833	MA通信受信異常（H/W異常）
6832	MA通信送信異常（スタービット検出異常）	6834	MA通信送信異常（同期回復異常）

## 4.リモコンの動作不具合と処置

### MAリモコンシステムの場合

不具合現象または点検コード	要 因	チェック方法と処理
リモコンに運転表示されるが、一部の室内ユニットが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内ユニットの電源が入っていない</li> <li>・同一グループ内の室内ユニット間の配線忘れ</li> <li>・スリム機種と同一グループ接続されている</li> <li>・室内ユニット制御基板のヒューズ切れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異常発生が以下のうちどれかを確認する。 システム全体 冷媒系統内全て 同一グループ内のみ 一台の室内ユニットのみ</li> </ul>
室内ユニット運転してもすぐリモコンが消える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内ユニット（親機）の電源が入っていない</li> <li>・システムコントローラとのグルーピング一致していない</li> <li>・室内ユニット（親機）制御基板のヒューズ切れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;システム全体の場合 及び冷媒系統内全ての場合&gt;</li> <li>・室外ユニットの自己診断LEDを確認する</li> <li>・左記項目のうち室外ユニットの関連している項目を確認する</li> </ul>
ロスナイとの連動登録が正常にできない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロスナイの電源が入っていない</li> <li>・異冷媒のロスナイで異冷媒の室外ユニットの電源が入っていない</li> <li>・室内ユニットに既にロスナイ（1台）登録されている</li> <li>・ロスナイのアドレスが異なっている</li> <li>・ロスナイのアドレスを設定していない</li> <li>・ロスナイが伝送線に接続されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;同一グループ内のみ 及び一台の室内ユニットのみ場合&gt;</li> <li>・左記項目のうち室内ユニットの関連している項目を確認する</li> </ul>
リモコンに通電表示（●）されていない（MAリモコン給電なし）	<p>室内ユニットは、室内外の立ち上げが正常に完了するまでリモコン給電されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室内ユニットの電源が入っていない</li> <li>・室外ユニットの電源が入っていない</li> <li>・リモコン接続台数（2台）オーバー又は、室内接続台数（16台）オーバー</li> <li>・室内ユニットのアドレスが“00”で、室外ユニットのアドレスが“00”以外となっている</li> <li>・室内外伝送線がTB7に接続されている</li> <li>・室内外伝送線にMAリモコンが接続されている</li> <li>・リモコン線のショート/断線</li> <li>・電源配線又は伝送線のショート/断線</li> <li>・室内ユニット制御基板のヒューズ切れ</li> </ul>	
リモコンの“HO”が消えない又は、“HO”を周期的に繰り返す（室外ユニットの電源投入後通常最大3分“HO”表示されます）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室外ユニットの電源が入っていない</li> <li>・伝送線用給電拡張ユニットの電源が入っていない</li> <li>・MAリモコン主従切換を従にしている</li> <li>・室内外伝送線にMAリモコンが接続されている</li> </ul>	
リモコンに通電表示（●）が表示されているが運転しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内ユニット（親機）の電源が入っていない</li> <li>・室内外伝送線がTB7に接続されている</li> <li>・室内外伝送線ショート又は断線・接触不良</li> <li>・室内ユニット（親機）制御基板のヒューズ切れ</li> </ul>	

M-NETリモコンシステムの場合

不具合現象または点検コード	要 因	チェック方法と処理
リモコンに運転表示されるが、一部の室内ユニットが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内ユニットの電源が入っていない</li> <li>・同一グループ内の室内ユニット又はリモコンのアドレスミス</li> <li>・異冷媒のグルーピングでリモコンで初期登録していない</li> <li>・室内ユニット制御基板のヒューズ切れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異常発生が以下のうちどれかを確認する。 システム全体 冷媒系統内全て 同一グループ内のみ 一台の室内ユニットのみ</li> </ul>
室内ユニット運転してもすぐリモコンが消える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内ユニットの電源が入っていない</li> <li>・室内ユニット制御基板のヒューズ切れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;システム全体の場合 及び冷媒系統内全ての場合&gt;</li> </ul>
ロスナイとの連動登録が正常にできない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロスナイの電源が入っていない</li> <li>・異冷媒のロスナイで異冷媒の室外ユニットの電源が入っていない</li> <li>・室内ユニットに既にロスナイ（1台）登録されている</li> <li>・ロスナイのアドレスが異なっている</li> <li>・ロスナイのアドレスを設定していない</li> <li>・ロスナイが伝送線に接続されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室外ユニットの自己診断LEDを確認する</li> <li>・左記項目のうち室外ユニットの関連している項目を確認する</li> <li>&lt;同一グループ内のみ 及び一台の室内ユニットのみ場合&gt;</li> <li>・左記項目のうち室内ユニットの関連している項目を確認する</li> </ul>
リモコンに通電表示（●）されていない (M-NETリモコン給電なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室外ユニットの電源が入っていない</li> <li>・冷媒系統内の室内ユニット又はリモコンの接続台数オーバー</li> <li>・MAリモコン線にM-NETリモコン接続</li> <li>・室内外伝送線のショート/断線</li> <li>・M-NETリモコン線のショート/断線</li> </ul>	
リモコンの“HO”が消えない 又は、“HO”を周期的に繰り返す (室外ユニットの電源投入後通常 最大3分“HO”表示されます)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝送線用給電拡張ユニットの電源が入っていない</li> <li>・室外ユニット“00”のままとなっている</li> <li>・室内ユニット又はリモコンのアドレス設定ミス</li> <li>・室内外伝送線にMAリモコンが接続されている</li> </ul>	
リモコンに通電表示（●）が表示されているが運転しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内外伝送線がTB7に接続されている</li> <li>・MAリモコン主従切換を従にしている</li> <li>・室内外伝送線ショート又は断線・接触不良</li> </ul>	



5.次の現象は故障（異常）ではありません。

現象	リモコン表示	原因
暖房運転中ファンが停止する。	霜 取 中	霜取運転中はファンが停止します。
運転停止してもファンが停止しない。	消 灯	補助電気ヒータON時は停止後1分間余熱排除としてファンを運転します。
運転SW“ON”しても風速が設定値にならない。	暖房準備中	SW“ON”後5分間または配管温度35℃迄微風、その後2分間弱風の後設定値になります。 (ホットアジャスト制御)
運転しても室外ユニットが運転しない。	通常表示	室外ユニットが冷え込んで冷媒が寝込んでいる場合は、最長35分間、圧縮機を暖めるウォーミングアップ運転を行います。 この間は送風運転となります。
元電源をONしたとき約2分間室内ユニットリモコンに右のような表示をする。	“HO”点滅表示	システムの立上げをしています。 HOの点滅表示が消えた後にリモコンの操作をしてください。
<複数の室内ユニットをグループ運転している場合> 冷(暖)房運転しても室内ユニットが運転しない。	“冷(暖)房” 通常表示	他の室内ユニットが暖(冷)房運転をしている場合は冷(暖)房運転はできません。